Canon

Business Inkjet

WG7350F / WG7350FM

オンラインマニュアル

WGMP1-0001-02 2018-12 ja

Copyright CANON INC. 2018

もくじ

セットアップ 3

お使いになるために必要な作業 4

不正アクセス防止対策について 6

設定ナビでセットアップする 8

日付／時刻を設定する 13

ネットワーク環境を設定する 15

有線 LAN か無線 LAN かを選択する 17

有線 LAN に接続する 18

無線 LAN に接続する 19

WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式） 21

WPS PIN コード方式で設定する 23

無線 LAN ルーターを選んで設定する 25

すべて入力して設定する 28

SSID やネットワークキーを確認する 31

IP アドレスを設定する 32

IPv4 アドレスを設定する 33

IPv6 アドレスを設定する 36

ネットワークの設定を確認する 39

パソコンとの通信設定をする 41

印刷プロトコルや Web サービスの設定をする 42

印刷ポートの設定をする 45

プリントサーバーを設定する 49

使用するネットワーク環境に合わせる 52

Ethernet の設定をする 53

送信パケットの最大サイズを変更する 55

ネットワーク接続時の待機時間を設定する 56

DNS の設定をする 57

SMB の設定をする 61

WINS の設定をする 63

LDAP サーバーを登録する 65

SNMP で監視／制御する 70

その他のネットワーク設定をする 74

ドライバーをインストールする 79

ファクスの設定をする 80

ファクスの用途を確認する 81

ファクス番号とユーザー略称を登録する 82

受信モードを設定する 83

電話回線に接続する 84

スキャンの設定をする 86

スキャナーとして使うための準備をする 87

E メール送信／I ファクス送受信設定の流れ 88

E メール／I ファクスの通信設定をする 89

共有フォルダーへの保存設定の流れ 93

FTP サーバーへの保存設定の流れ 94

基本操作 97

各部の名称とはたらき 100
本体前面 101
USB メモリーを差し込む 103
本体背面 105
本体内部 106
フィーダー 107
手差しトレイ 109
給紙カセット 110
操作パネル 112
電源を入れる 114
電源を切る 115
決まった時刻に電源を切る 116
操作パネルを使う 118
おもな画面 119
ホーム画面 120
＜状況確認＞画面 123
メッセージ表示 125
おもな操作方法 126
文字を入力する 129
ログインする 131
原稿をセットする 133
用紙をセットする 137
用紙の基本的なセット方法 139
封筒をセットする 145
はがきをセットする 152
ロゴなどが印刷された用紙をセットする 154
用紙サイズと種類を設定する 157
給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する 158
手差しトレイの用紙サイズと種類を設定する 161
手差しトレイでよく使う用紙サイズと種類を登録する 164
定形外サイズの用紙を登録する（ユーザー設定用紙） 167
手差しトレイの用紙サイズを絞り込んで表示する 168
機能ごとに適切な給紙部を自動選択させる 169
用紙カセットの自動検知サイズを設定する 170
A5/STMT 用紙を区別する 171
A4/LTR 用紙を区別する 172
B5/16K/EXEC 用紙を区別する 173
ディスプレーをカスタマイズする 174
ホーム画面をカスタマイズする 175
よく使う設定を登録する 178
機能の初期値を変更する 180
音を設定する 182

スリープモードにする 184
宛先を登録する 186
アドレス帳に宛先を登録する 188
アドレス帳にグループを登録する 191
アドレス帳に登録した宛先を編集する 193

コピーする 195

コピーの基本画面について 197
コピーの基本操作 199
コピーを中止する 205
コピー状況や履歴を確認する 206
コピー品質を高める／調整する 208
原稿の種類に合わせてコピーする 209
鮮明にコピーする（シャープネス） 210
原稿の影を消してコピーする（枠消し） 211
コピーの便利な機能 213
原稿を 1 ページにまとめる（ページ集約） 214
見開き原稿を 2 ページにしてコピーする 215
サイズの異なる原稿をまとめてコピーする（原稿サイズ混載） 216
ソート／グループで仕上げる 217
ID カードをコピーする 218

ファクスする 220

ファクスの基本画面について 223
ファクス送信の基本操作 224
ファクス送信を中止する 232
ファクスを受信する 233
送信時の便利な機能 236
過去の設定を呼び出して送信する（送信履歴） 237
通話してから送信する（手動送信） 240
送信原稿の控えを保存する 242
いろいろな受信方法 243
受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信） 244
受信した文書を自動転送する 246
送受信状況や履歴を確認する 248
パソコンからファクスを送信する（PC ファクス） 250
PC ファクスを送信する 251
インターネットファクスを使う（I ファクス） 253
I ファクスを送信する 254
I ファクスを受信する 261

プリントする 263

パソコンから印刷する 264
印刷を中止する 266

印刷状況や履歴を確認する 269
いろいろな印刷方法 271
暗証番号を入力して印刷する（セキュアプリント） 272
セキュアプリントをする 273
USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント） 276

スキャンする 285

スキャンの基本画面について 287
スキャンの基本操作 290
スキャンしてパソコンに保存する 291
USB メモリーにファイルを保存する 293
E メール送信する／サーバーなどにファイルを保存する 297
送信を中止する 306
スキャンの状況や履歴を確認する 307
きれいにスキャンする 309
画質を調整する 310
濃度を調整する 311
鮮明にスキャンする（シャープネス） 312
サイズの異なる原稿をまとめてスキャンする（原稿サイズ混載） 314
スキャンの便利な機能 315
電子ファイルの安全性を高める 316
ファイルサイズと画質のバランスを調節する（データサイズ） 319
過去の設定を呼び出して送信／保存する（送信履歴） 320
E メールの設定をする 323
パソコンを使ってスキャンする（リモートスキャン） 326
アプリケーションから原稿を読み込む 327
ScanGear WG を使う 329
WSD を使う 330
WSD を使って原稿を読み込む（WSD スキャン） 332

モバイル機器と連携する 336

モバイル機器と接続する 337
無線 LAN ルーターを介して接続する（LAN 接続） 338
ダイレクト接続する（アクセスポイントモード） 340
アプリを使って本機を活用する 343
デフォルト印刷サービスで印刷する（Android） 344
本機を遠隔管理する 345

本機を管理する 348

アクセス権限を設定する 350
システム管理部門 ID と暗証番号を設定する 351
部門別 ID 管理を行う 353
リモート UI の暗証番号を設定する 359
LDAP サーバーで認証を行う 361

ネットワークセキュリティーを設定する 365
ファイアウォールで通信制限する 367
IP アドレスでファイアウォールを設定する 368
MAC アドレスでファイアウォールを設定する 371
ポート番号を変更する 374
プロキシーを設定する 376
TLS 用の鍵と証明書を設定する 378
ネットワーク通信用の鍵と証明書を生成する 381
鍵と証明書署名要求（CSR）を生成する 384
ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する 387
IPSec の設定をする 389
IEEE 802.1X 認証の設定をする 396
機能を制限する 400
宛先操作／送信機能を制限する 402
アドレス帳の使用を制限する 403
指定できる宛先を制限する 405
ファクスの宛先操作／送信機能を制限する 407
パソコンからの印刷を制限する 409
USB の使用を制限する 410
HTTP 通信を無効にする 412
リモート UI を無効にする 413
文書のセキュリティーを高める 414
機器署名用の鍵と証明書を生成する 415
パソコンから本機を管理する（リモート UI） 416
リモート UI を起動する 417
状況や履歴を確認する 420
本機の設定を変更する 425
リモート UI から宛先を登録する 428
設定データをインポート／エクスポートする 432
ファームウェアをアップデートする 435
設定を初期化する 437

設定メニュー一覧 440

＜環境設定＞ 441
＜表示設定＞ 442
＜英語キーボードの配列＞ 445
＜タイマー / 電力設定＞ 446
＜ネットワーク＞ 450
＜外部インターフェイス＞ 464
＜アクセシビリティー＞ 465
＜調整 / メンテナンス＞ 466
＜画質調整＞ 467
＜メンテナンス＞ 475
＜ファンクション設定＞ 478
＜共通＞ 479

＜コピー＞ 486
＜プリンター＞ 489
＜送信＞ 508
＜受信 / 転送＞ 521
＜ファイル保存 / 利用＞ 528
＜セキュアプリント＞ 535
＜宛先設定＞ 536
＜管理設定＞ 537
＜ユーザー管理＞ 538
＜デバイス管理＞ 539
＜リモート UI 設定 / ファームウェア更新＞ 541
＜データ管理＞ 543
＜セキュリティー設定＞ 545

メンテナンス 549

日常のお手入れ 551
本体外部を清掃する 552
原稿台ガラスを清掃する 553
フィーダーを清掃する 555
本体内部を清掃する 560
搬送路を清掃する 561
センサー部を清掃する 565
プリントヘッドをクリーニングする 568
インクタンクを交換する 570
メンテナンスカートリッジを交換する 574
プリントヘッドを交換する 578
ADF メンテナンスキットを交換する 587
残量や使用状況を確認する 591
本機を輸送する 593
キャスターを用いて水平な状態を維持したまま移動する場合 595
輸送中に傾く可能性がある場合（輸送後に 6 か月以上長期保管しないとき） 597
輸送中に傾く可能性がある場合（輸送後に 6 か月以上長期保管するとき） 606
本機を再設置する 615
本機を廃棄する 618
印刷品質を調整する 624
プリントヘッドを診断する 626
ノズルの状態をチェックする 632
カラーコピーの文字色の再現性を調整する 635
色ムラを補正する 637
すべての用紙の色ムラを補正する 638
用紙別に色ムラを補正する 641
目視による補正 644
用紙のこすれを改善する 646
プリントヘッドの位置を調整する 647

濃度やインクが乾燥する時間を調整する 650
印刷後の用紙の反りを調整する 652
余白を調整する 654
排紙時の用紙のたわみを改善する 657
白スジを補正する 658
印刷ページ数を確認する 661
レポートやリストを印刷する 662
保守サービスについて 666
消耗品 667

よくあるご質問 670

はじめに確認してください 672
設定のトラブル 673
コピー／印刷（プリント）のトラブル 677
ファクス／電話のトラブル 680
正しく印刷できない 682
きれいに印刷できない 683
用紙がしわになったり、カールしたりする 693
用紙が正しく送られない 695
メッセージや#で始まる番号（エラーコード）が表示される 697
メッセージごとの対処方法 698
エラーコードごとの対処方法 717
紙がつまったら 726
フィーダーに原稿がつまった 728
本体内部に用紙がつまった 731
給紙部に用紙がつまった 736
トラブルが解決しないときは 740

付録 742

第三者のソフトウェアについて 744
活用術 745
節約してエコロジー 746
効率アップの使いこなし術 748
紙の文書をスッキリ電子化 750
まだあるこんな使い方 752
おもな仕様 754
基本仕様／コピー機能 755
両面同時自動原稿送り装置の仕様（標準装備） 758
2 段カセットペディスタル・CF10 の仕様（オプション） 759
LIPS LX プリンター機能の仕様（標準装備） 760
プルスキャン機能の仕様（標準装備） 761
プッシュスキャン機能の仕様（標準装備） 762
スーパー G3FAX 機能の仕様（標準装備） 764
インターネット FAX 送受信機能（標準装備） 766

無線 LAN の仕様（標準装備） 767
用紙について 768
オプションについて 773
オプション機器について 774
マニュアルの種類と内容 775
オンラインマニュアルの使いかた 776
オンラインマニュアルの画面構成 777
オンラインマニュアルの読みかた 781
Windows の基本操作 782
おことわり 791

ドライバー 795

Windows 796
macOS 797

セットアップ

セットアップ 3

お使いになるために必要な作業 4

不正アクセス防止対策について 6

設定ナビでセットアップする 8

日付／時刻を設定する 13

ネットワーク環境を設定する 15

有線 LAN か無線 LAN かを選択する 17

有線 LAN に接続する 18

無線 LAN に接続する 19

WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式） 21

WPS PIN コード方式で設定する 23

無線 LAN ルーターを選んで設定する 25

すべて入力して設定する 28

SSID やネットワークキーを確認する 31

IP アドレスを設定する 32

IPv4 アドレスを設定する 33

IPv6 アドレスを設定する 36

ネットワークの設定を確認する 39

パソコンとの通信設定をする 41

印刷プロトコルや Web サービスの設定をする 42

印刷ポートの設定をする 45

プリントサーバーを設定する 49

使用するネットワーク環境に合わせる 52

Ethernet の設定をする 53

送信パケットの最大サイズを変更する 55

ネットワーク接続時の待機時間を設定する 56

DNS の設定をする 57

SMB の設定をする 61

WINS の設定をする 63

LDAP サーバーを登録する 65

SNMP で監視／制御する 70

その他のネットワーク設定をする 74

ドライバーをインストールする 79

ファクスの設定をする 80

ファクスの用途を確認する 81

ファクス番号とユーザー略称を登録する 82

受信モードを設定する 83
電話回線に接続する 84
スキャンの設定をする 86
スキャナーとして使うための準備をする 87
E メール送信／I ファクス送受信設定の流れ 88
E メール／I ファクスの通信設定をする 89
共有フォルダーへの保存設定の流れ 93
FTP サーバーへの保存設定の流れ 94

セットアップ

23LX-000

本機の各機能をお使いいただく前に、あらかじめ使用環境の設定が必要です。はじめにセットアップ完了までの一連の流れをご確認いただき、その上で実際の設定を行ってください。 **お使いになるために必要な作業(P. 4)**

本機の初期設定を行う（設定ナビ）

- 日付／時刻やネットワークの設定など、本機を使うために必要な初期設定を画面の案内に従ってかんたんに設定することができます。 **設定ナビでセットアップする(P. 8)**

お使いになるために必要な作業

23LX-002

Step 1 ～ 5 の順で本機のセットアップを行います。リンクをクリックして該当するページを表示し、詳細を確認してください。また、本機を安全にお使いいただくために、 **不正アクセス防止対策について(P. 6)** もあわせて確認してください。

Step 1	**設定ナビでセットアップする(P. 8)**

Step 2	**ネットワーク環境を設定する(P. 15)**

- 設定ナビに含まれていないネットワークの設定を行います。また、設定ナビを使わない場合は、ここからネットワークの設定を行ってください。

Step 3	**ドライバーをインストールする(P. 79)**

Step 4	**ファクスの設定をする(P. 80)**

Step 5	**スキャンの設定をする(P. 86)**

便利な機能

リモート UI から設定する

- ネットワーク環境の設定が完了したら、パソコンからリモート UI を使って本機を効率的に設定できるようになります。 **リモート UI を起動する(P. 417)**

他機のデータをインポートして設定の手間を省く

- 同一機種であれば他のキヤノンプリンター／複合機に登録している設定データをパソコンに保存（エクスポート）して、その設定データを本機へ取り込む（インポート）ことができます。 **設定データをインポート／エクスポートする(P. 432)**

不正アクセス防止対策について

23LX-003

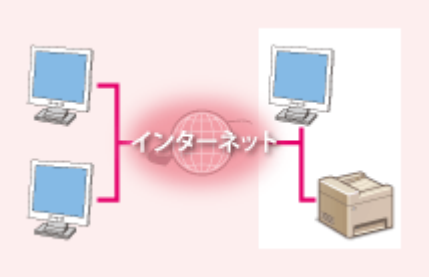
外部ネットワークからの不正アクセス防止対策について記載しています。本機や他のプリンター、複合機をネットワーク環境でお使いの方、管理者の方は、ご利用の前に必ずお読みください。近年のプリンターや複合機は、ネットワークに接続することでコンピューターから印刷やリモート操作をしたり、スキャンした原稿をインターネット経由で送信したりなど、さまざまな機能を利用できるようになっています。その反面、ネットワーク上では外部からの不正アクセスや盗聴による脅威にもさらされるため、情報漏えい等のセキュリティーリスクへの対策が不可欠です。以降では、ネットワーク環境でプリンターや複合機を使用する際に必ず行っていただきたい不正アクセス対策のポイントについて説明します。

外部からの不正アクセス対策のポイント

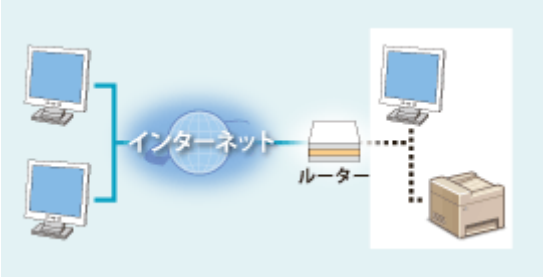
プライベート IP アドレスで運用する(P. 6)
ファイアウォールで通信を制限する(P. 7)
TLS 暗号化通信を設定する(P. 7)
複合機が持つ情報を暗証番号で管理する(P. 7)

プライベート IP アドレスで運用する

IP アドレスとは、ネットワーク上の機器に割り当てられる番号のことで、インターネット接続に使われる IP アドレスを「グローバル IP アドレス」、社内 LAN などのローカルエリアネットワークで使われる IP アドレスを「プライベート IP アドレス」と呼びます。プリンター、複合機に設定されている IP アドレスがグローバル IP アドレスの場合は、インターネット上の不特定多数のユーザーからアクセス可能な状態であり、外部からの不正アクセスによる情報漏えいなどのリスクも高まります。一方で、プライベート IP アドレスが設定されているプリンター、複合機なら、社内 LAN などのローカルエリアネットワーク上のユーザーからしかアクセスすることができません。



【グローバル IP アドレス】
外部からアクセス可



【プライベート IP アドレス】
ローカルエリア内でのみアクセス可

基本的には、プリンター、複合機の IP アドレスにはプライベート IP アドレスを設定して運用してください。プライベート IP アドレスには、以下のいずれかの範囲のアドレスが使用されます。お使いのプリンター、複合機に設定されている IP アドレスがプライベート IP アドレスかどうかを確認してください。

■プライベート IP アドレスの範囲

- 10.0.0.0 ～ 10.255.255.255
- 172.16.0.0 ～ 172.31.255.255
- 192.168.0.0 ～ 192.168.255.255

IP アドレスの確認手順については、 **IPv4 アドレスを設定する(P. 33)** を参照してください。

MEMO

- プリンター、複合機にグローバル IP アドレスが設定されていても、ファイアウォール等で外部からのアクセスを防御する環境を構築すれば、不正アクセスのリスクは軽減されます。プリンター、複合機にグローバル IP アドレスを設定して運用したいときは、ネットワーク管理者にご相談ください。

ファイアウォールで通信を制限する

ファイアウォールとは、外部ネットワークからの不正アクセスを防止し、ローカルエリア内のネットワークへの攻撃や侵入を防ぐシステムです。お使いのネットワーク環境で、特定の外部 IP アドレスからの通信を制限することで、危険と思われる外部からのアクセスをあらかじめ遮断できます。キヤノンのプリンター、複合機に搭載された機能でも IP アドレスのフィルタリングができます。IP アドレスのフィルタリングについては、**IP アドレスでファイアウォールを設定する(P. 368)** を参照してください。

TLS 暗号化通信を設定する

TLS 通信については **ネットワークセキュリティーを設定する(P. 365)** を、設定手順については **TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)** を参照してください。

複合機が持つ情報を暗証番号で管理する

万が一、悪意のある第三者から不正アクセスを受けたとしても、プリンター、複合機が持つさまざまな情報を暗証番号で保護しておけば、情報漏えいによるリスクを大幅に軽減できます。キヤノンのプリンター、複合機は、さまざまな情報を暗証番号で保護できるようになっています。

■各機能の暗証番号設定

- リモート UI の暗証番号設定
  詳細は、**リモート UI の暗証番号を設定する(P. 359)** を参照のうえ、設定してください。
- システム管理項目の暗証番号設定
  詳細は、**システム管理部門 ID と暗証番号を設定する(P. 351)** を参照のうえ、設定してください。
- アドレス帳の暗証番号
  設定詳細は、**アドレス帳の使用を制限する(P. 403)** を参照のうえ、設定してください。

上記は不正アクセス防止対策の一例です。その他の詳細は **本機を管理する(P. 348)** を参照のうえ、お使いの環境に合わせて必要な対策を行ってください。

設定ナビでセットアップする

23LX-004

初めて本機に電源を入れたとき（**電源を入れる(P. 114)**）、画面に沿って本機の初期設定を行う設定ナビが始まります。設定ナビは、次の順番で設定画面が表示されます。

MEMO

「設置・基本操作マニュアル」（**マニュアルの種類と内容(P. 775)**）を参照して、同梱品を確認してください。

Step 1　日付時刻を設定する

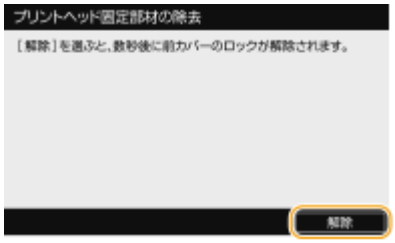
本機の日付と時刻を設定します。

1. 日付と時刻を入力し、<確定>を選ぶ
   - 入力する欄をタップし、日時を入力します。

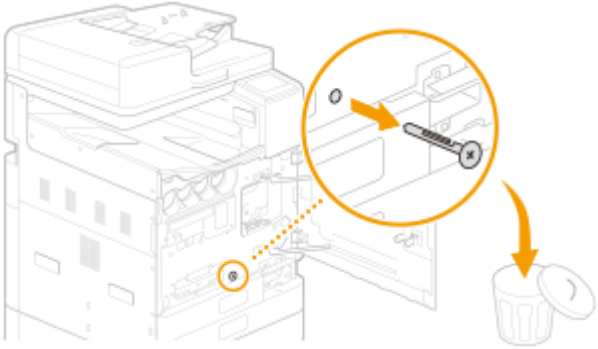
Step 2　出荷用固定部材などを取り外し、グリップカバーを装着する

本体内部にある出荷用固定部材やプリントヘッド固定部材を取り外し、グリップカバーを取り付けます。

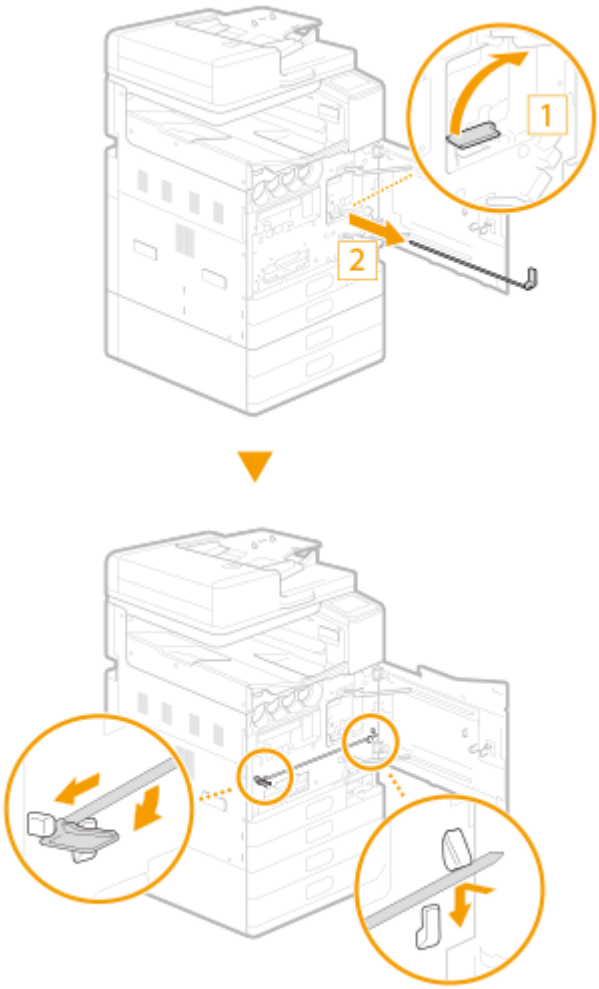
1. <解除>を選ぶ



2. <前カバーを開ける>が表示されたら、前カバーを開ける
3. 出荷用固定部材（オレンジ色）をまっすぐ引き抜き、<次へ>を選ぶ
   - 外した部材は捨ててください。



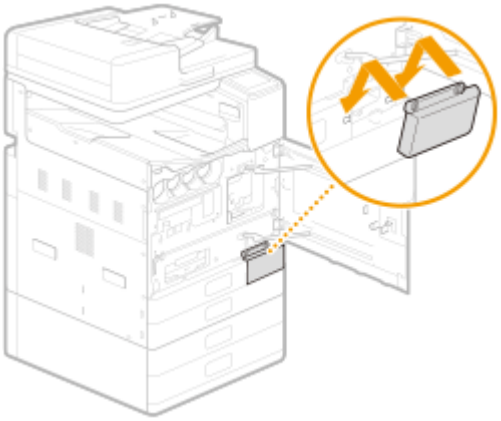
4. レバー（青色）を上げ、プリントヘッド固定部材をまっすぐ引き抜き、<次へ>を選ぶ
   - 引き抜いたプリントヘッド固定部材を格納します。



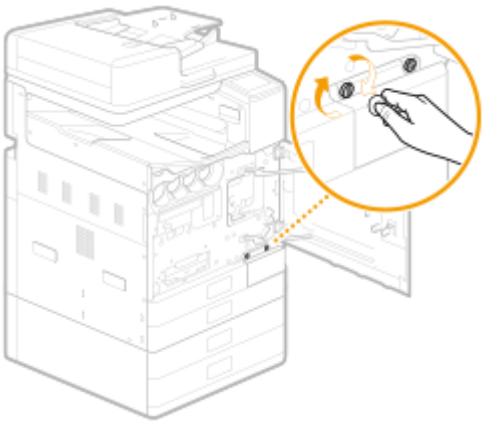
MEMO

- プリントヘッド固定部材は輸送の際に必要になります。捨てずに保管してください。

5 グリップカバーを取り付け、<次へ>を選ぶ



6 コインなどでねじを回して固定する

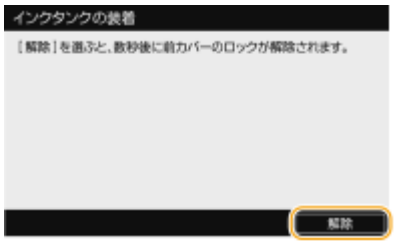


7 本体前カバーを閉める

Step 3 インクタンクを取り付ける

インクタンクを取り付けます。

1 ＜解除＞を選ぶ



2 ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける

3 インクタンクを取り付ける

- 取り付ける前に、インクタンクの色と本体差し込み口に表示されている色が、同じであることを確認してください。
- 本体の ▼ マークとインクタンクの ▲ マークを合わせて、インクタンクを奥に突き当たるまで押し込んでください。
- 時計回りにカチッと音がするまで回してください。
- 4 色すべてのインクタンクを取り付けてください。

4 本体前カバーを閉める

- インクの充填が開始されます。充填には約 40 ～ 70 分かかります。
- 充填中は電源を切らないでください。
- 電源オフなどで中断した場合、追加のインクタンクが必要になる場合があります。
- 充填中に給紙カセット 3、4 の余白調整まで行うことができます。

Step 4 本体情報の送信について確認する

本機に関する情報を提供していただく設定について、内容を確認してください。

1 内容を確認し、＜次へ＞を選ぶ

2 ＜同意する＞または＜同意しない＞を選ぶ

Step 5 アクセス保護対策を設定する

リモート UI へアクセスするための暗証番号を設定します。リモート UI はパソコンから本機の設定を変更できるため、暗証番号を設定することをおすすめします。

1 ＜はい＞を選ぶ

- ＜いいえ＞を選ぶと、暗証番号を設定せずに Step 6 へ進みます。より安全なセキュリティー確保のために、設定することをおすすめします。
- リモート UI のアクセス保護対策は、あとで設定することもできます（**リモート UI の暗証番号を設定する(P. 359)**）。

2 暗証番号を入力し、＜確定＞を選ぶ

3 同じ暗証番号を入力し、＜確定＞を選ぶ

MEMO

- 設定した暗証番号は忘れないようにしてください。

Step 6 無線 LAN を設定する

無線 LAN でネットワークに接続するための設定をします。

1 ＜はい＞を選ぶ

- ＜いいえ＞を選ぶと、無線 LAN を設定せずに Step 7 または Step 8 に進みます。有線 LAN または USB で接続するときは＜いいえ＞を選んでください。
- 設定ナビでは、IP アドレスが自動的に割り振られる DHCP 接続になります。固定 IP アドレスを使うなど、DHCP 以外で IP アドレス設定を行う場合は＜いいえ＞を選び、 設定ナビ終了後に **IP アドレスを設定する(P. 32)** を実施してください。

2 ＜ OK ＞を選ぶ

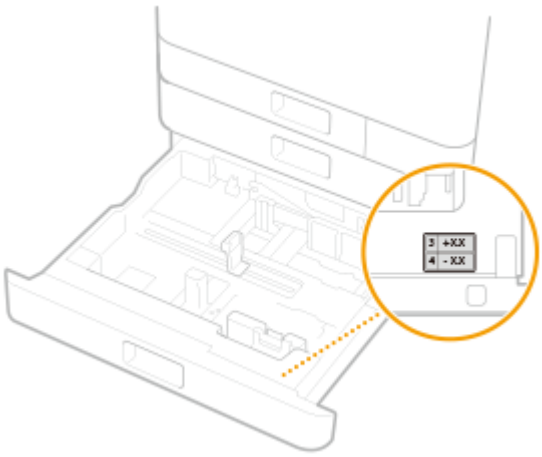
3 設定方式を選ぶ

- 無線 LAN の設定について詳しくは、 **無線 LAN に接続する(P. 19)** を参照してください。

Step 7 給紙カセット 3、4 の余白調整を行う（オプション）

オプションの 2 段カセットペディスタルを装着している場合は、余白調整値を入力します。

1 給紙カセット 3 を引き出し、余白調整値を確認する



2 ＜開始＞を選ぶ

3 ＜カセット 3 の左端余白＞と＜カセット 4 の左端余白＞を入力し、＜確定＞を選ぶ

- 入力する欄をタップし、値を入力します。

4 給紙カセットをゆっくりと本体に押し込む

Step 8 ノズルチェックパターンを印刷して確認する

ノズルチェックパターンを印刷し、印刷結果を見てプリントヘッドが適切な状態かどうかを確認します。印刷結果にスジやムラがある場合は、クリーニングを行います。

1 給紙カセットに用紙をセットする **給紙カセットに用紙をセットする(P. 139)**

- A3/11x17/LTR/A4 のいずれか（A3 または 11x17 を推奨）の普通紙を 10 枚以上セットしてください。

2 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜開始＞を選ぶ

➠ ノズルチェックパターン画像が印刷されます。

3 印刷されたパターンを確認し、＜ A ＞または＜ B ＞を選ぶ

- 印刷結果に問題がなければ、＜ A ＞を選び、ノズルチェックを完了します。
- 印刷結果にスジやムラがある場合は、＜ B ＞を選び、クリーニングを行います。
- プリントヘッドのクリーニングは、あとで行うこともできます。 **プリントヘッドをクリーニングする(P. 568)**

➠ 設置ナビが完了すると、ホーム画面が表示されます。

日付／時刻を設定する

23LX-005

本機の日付と時刻を設定します。設定した日時は、時刻を指定する機能の基準として使われますので正確にセットしてください。

タイムゾーンを設定する(P. 13)
現在日時を設定する(P. 13)

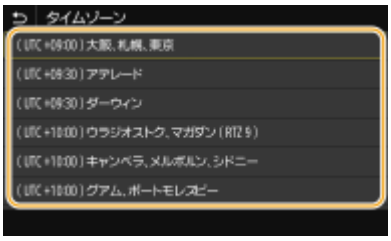
タイムゾーンを設定する

タイムゾーンを変更すると、それに合わせて＜現在日時の設定＞で設定した値も自動的に変更されます。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▸ ＜タイマー / 電力設定＞ ▸ ＜日付 / 時刻設定＞ ▸ ＜タイムゾーン＞の順に進む

3 タイムゾーンを選ぶ



MEMO

UTC とは

- UTC とは世界各地の基準となる協定世界時のことで、日本は UTC との間に ＋ 9 時間の時差があります。インターネットを介した通信では、正しく設定することが前提となっています。

現在日時を設定する

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▸ ＜タイマー / 電力設定＞ ▸ ＜現在日時の設定＞の順に進む

3 日付と時刻を入力する

- 入力する欄をタップし、日時を入力します。

4 ＜確定＞を選ぶ

ご注意

- ここでの設定を行う前に、まず＜タイムゾーン＞を設定してください。＜タイムゾーン＞をあとで設定すると、ここでの設定は自動的に変更されてしまいます。

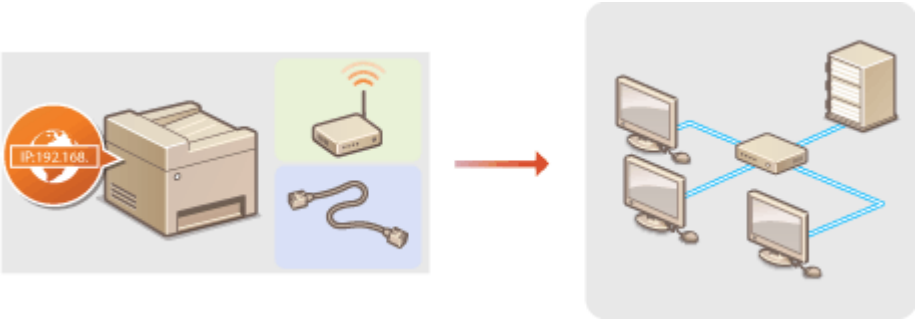
MEMO

- 日付と時刻の表示形式をそれぞれ変更することができます。
  ＜日付の形式＞(P. 447)
  ＜時刻の形式＞(P. 447)

ネットワーク環境を設定する

23LX-006

本機をネットワークに接続するには「無線 LAN による接続」と「有線 LAN による接続」の 2 つの方法があり、いずれの場合もネットワーク内で固有の IP アドレスを使用します。接続方法については、通信環境やお使いの機器に合わせてお選びください。設定する IP アドレスについては、お使いのプロバイダーやネットワーク管理者にお問い合わせください。



ご注意

- 十分なセキュリティー対策が行われていないネットワークに接続すると、個人情報などのデータが第三者に漏えいする恐れがあります。

MEMO

- 有線 LAN と無線 LAN は同時に使用できません。
- 無線 LAN を使用する場合は、LAN ケーブルを外して設定してください。
- 本機には LAN ケーブルやルーターは付属していません。別途ご用意ください。
- お使いのルーターが有線 LAN または無線 LAN のどちらに対応しているかわからない場合は、機器付属の取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。

■作業の前に確認してください

次の順序でネットワークへの接続作業を行います。

1

はじめに確認する

- パソコンとルーターは正しくつながっていますか？詳しくはそれぞれの機器に付属の取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。
- パソコン側のネットワーク設定は完了していますか？設定が正しく完了していないと、以降の手順を行ってもネットワークでお使いいただくことができません。

MEMO

- お使いの環境によっては、ネットワークの通信方式や Ethernet の種類の設定を変更する必要があります（ **Ethernet の設定をする(P. 53)** ）。詳しくは、プロバイダーやネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 本機の MAC アドレスを確認するとき
  有線 LAN の MAC アドレスを確認する(P. 39)
  無線 LAN の MAC アドレスや設定情報を確認する(P. 40)
- IEEE 802.1X を導入したネットワークに接続するとき
  IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

2

有線 LAN か無線 LAN かを選ぶ

有線 LAN か無線 LAN かを選択する(P. 17)

3

有線 LAN または無線 LAN に接続する

- 手順 2 で選んだ設定に応じて次のどちらかを選びます。
  有線 LAN に接続する(P. 18)
  無線 LAN に接続する(P. 19)

4

必要に応じて IP アドレスを設定する

- お買い上げ時、IP アドレスは自動取得するように設定されています。特定の IP アドレスを使用したいときは設定を変更してください。 **IP アドレスを設定する(P. 32)**

関連項目

パソコンとの通信設定をする(P. 41)
使用するネットワーク環境に合わせる(P. 52)

有線 LAN か無線 LAN かを選択する

23LX-007

本機とパソコンを無線 LAN で接続するのか、有線 LAN で接続するのかを決めたら、実際に操作パネルで設定します。なお、有線 LAN を無線 LAN、または無線 LAN を有線 LAN に設定変更した場合は、すでにインストールされているドライバーを一度アンインストールしてからインストールしなおす必要がありますのでご注意ください。詳しくは、ドライバーのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

2 ＜環境設定＞ ▸ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 ＜有線 / 無線 LAN 選択＞を選ぶ

4 ＜有線 LAN ＞または＜無線 LAN ＞を選ぶ

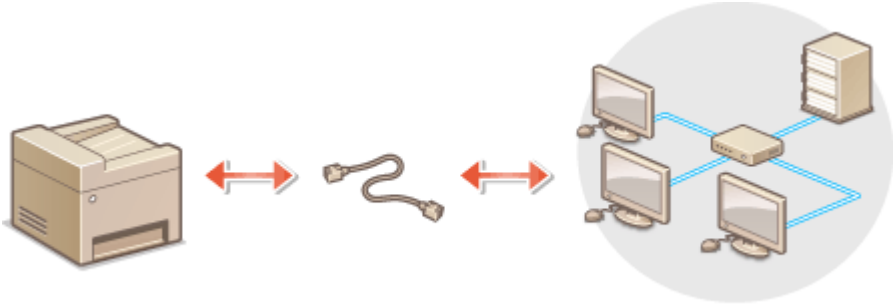
関連項目

ネットワーク環境を設定する(P. 15)
有線 LAN に接続する(P. 18)
無線 LAN に接続する(P. 19)

有線 LAN に接続する

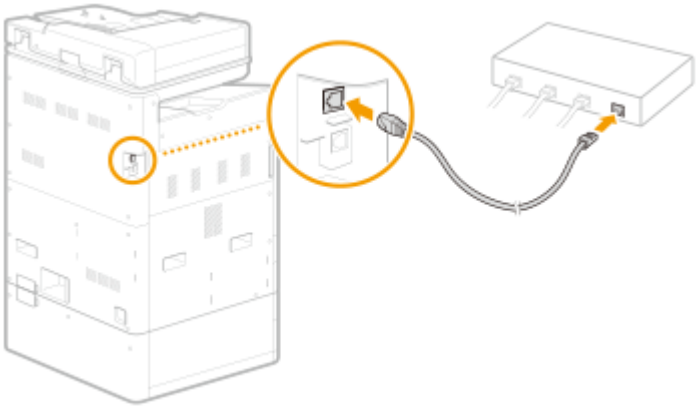
23LX-008

ルーターを介して本機とパソコンを接続します。接続には LAN ケーブルを使用します。



1 LAN ケーブルを接続する

- LAN ケーブルを使って、本機をルーターに接続します。
- コネクタがきちんと差込口に収まるよう、カチッと音がするまで押し込んでください。



2 そのまま数分間待つ

➠ IP アドレスが自動的に設定されます。

MEMO

- IP アドレスは手動でも設定できます。 **IP アドレスを設定する(P. 32)**

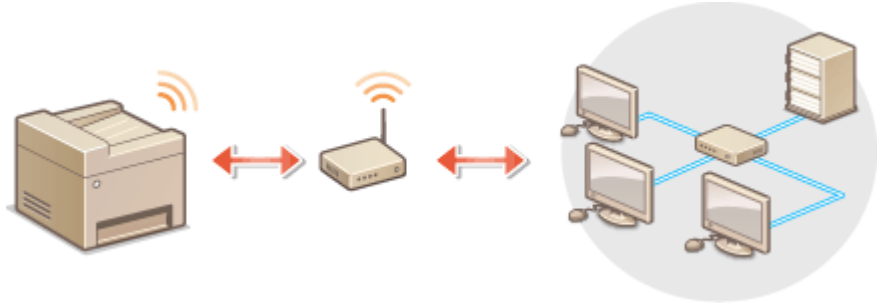
関連項目

ネットワーク環境を設定する(P. 15)

無線 LAN に接続する

23LX-009

無線 LAN ルーター（またはアクセスポイント）を介して、本機とパソコンを無線（電波）で接続します。無線 LAN ルーターが WPS／AOSS／らくらく無線スタートに対応している場合はボタン操作でかんたんに接続できます。これらの規格に対応していない場合や、認証や暗号化などの設定を詳しく指定したい場合は手動で設定します。パソコン側の接続はあらかじめ済ませておいてください。



WPS／AOSS／らくらく無線スタートで設定する(P. 19)
手動で設定する(P. 20)

ご注意

情報漏えいのリスクについて

- 無線通信に使用する電波は一定の範囲内であれば壁などの障害物を越えてしまうため、十分なセキュリティーで保護されていないネットワークに接続した場合は、お客様の個人情報などが第三者に漏えいする恐れがあります。本機を無線 LAN に接続するときは、お客様ご自身の判断と責任において使用してください。

無線 LAN のセキュリティー規格

- 本機の無線 LAN は、WEP、WPA-PSK、および WPA2-PSK に対応しています。お使いの無線 LAN ルーターが対応しているかどうかについては、機器付属の取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。

MEMO

無線 LAN 接続に必要な機器

- 本機に無線 LAN ルーターは付属していません。必要に応じて別途ご用意ください。

WPS／AOSS／らくらく無線スタートで設定する

お使いの無線 LAN ルーターが AOSS またはらくらく無線スタートに対応している場合は、プッシュボタン方式でかんたんに設定することができます。WPS に対応している場合は、プッシュボタン方式に加えて WPS PIN コード方式による設定も可能です。

■プッシュボタン方式

無線 LAN ルーターの外装箱に次のようなマークが記載されているか、または機器本体にこれらのボタンがあればプッシュボタン方式で設定できます。 **WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式）(P. 21)**

■WPS PIN コード方式

WPS 対応ルーターの中にはプッシュボタン方式に対応していないものがあり、この場合は PIN コードを入力して設定します。外装箱または取扱説明書の WPS PIN コードの記載を確認してください。 **WPS PIN コード方式で設定する(P. 23)**

MEMO

- 無線 LAN ルーターが WEP 認証を使用するように設定されている場合、WPS では接続できないことがあります。

手動で設定する

手動設定には、アクセスポイント選択方式と手動入力方式があります。どちらの場合もあらかじめ SSID やネットワークキーなどの必要情報を手元にご用意ください。 **SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)**

■アクセスポイント選択方式

手動設定でも、できるかぎりかんたんに設定を済ませたいときは、この方法で設定します。 **無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)**

■手動入力方式

認証や暗号化などのセキュリティー設定を詳しく指定したい場合は、SSID やネットワークキーを自分で入力して設定します。
すべて入力して設定する(P. 28)

関連項目

ネットワーク環境を設定する(P. 15)
有線 LAN か無線 LAN かを選択する(P. 17)

WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式）

23LX-00A

お使いの無線 LAN ルーターが、WPS／AOSS／らくらく無線スタートのプッシュボタン方式に対応している場合には、ボタン操作によってかんたんに設定できます。

ご注意

- 無線 LAN ルーターの操作方法は、機器によって異なります。必ずお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▸ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 ログインする(P. 131)

3 ＜無線 LAN 設定＞を選ぶ

- ＜無線 LAN を有効にしますか?＞と表示されたら、＜はい＞を選んでください。

4 メッセージを確認し、＜ OK ＞を選ぶ

5 ＜ WPS プッシュボタン方式＞、＜ AOSS ＞、または＜らくらく無線スタート＞を選ぶ

- お使いの無線 LAN ルーターが対応している機能を選んでください。

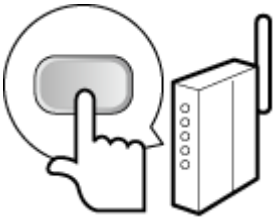
6 ＜はい＞を選ぶ

7 無線 LAN ルーターのボタンを押す

■WPS/AOSS の場合

WPS の場合は 2 分以内、AOSS の場合は 1 分 30 秒以内にボタンを押します。

- お使いの無線 LAN ルーターによっては、ボタンを 2 秒以上押す必要があります。必ずお使いの機器の取扱説明書で確認してください。



■らくらく無線スタートの場合

1 1 分以内にボタンを長押しし、無線 LAN ルーターの POWER ランプが緑色に点滅するのを待つ

➠ボタンを離すと、POWER ランプがオレンジ色の点滅に変わります。

2 30 秒以内に再びボタンを長押しし、POWER ランプがオレンジ色に点灯するのを待つ

MEMO

設定中にエラーメッセージが表示されたら

- ＜閉じる＞を選び、手順 5 からやりなおしてください。

8 ＜接続しました。＞が表示されるまで待つ

9 ＜閉じる＞を選ぶ

➠IP アドレスなどが自動的に設定されるまで、数分間お待ちください。

ご注意

電波の強度について

- 接続できる無線 LAN ルーターが複数存在する場合は、電波強度（RSSI）が最も強い機器に接続します。

MEMO

- IP アドレスは手動でも設定できます。 **IP アドレスを設定する(P. 32)**
- 無線 LAN 接続中は、ホーム画面や各機能の基本画面に Wi-Fi アイコンが表示されます。 **おもな画面(P. 119)**

MEMO

消費電力を抑えたいとき

- ＜パワーセーブモード＞を設定すると、無線 LAN ルーターが送信する信号に合わせて定期的に本機を節電状態にします。 **＜パワーセーブモード＞(P. 451)**

本機の IP アドレスが変更された場合

- DHCP 環境では本機の IP アドレスが自動的に変更される場合がありますが、本機とパソコンが同一のサブネットにあれば接続は維持されます。

関連項目

無線 LAN に接続する(P. 19)

WPS PIN コード方式で設定する

23LX-00C

お使いの無線 LAN ルーターが WPS の PIN コード方式に対応している場合は、本機で生成した PIN コードをパソコンなどを使って無線 LAN ルーターに登録します。

ご注意

- 無線 LAN ルーターの操作方法は、機器によって異なります。必ずお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

パソコンから

1 お使いの無線 LAN ルーターにパソコンなどからアクセスし、WPS PIN コードの設定画面を表示する

- 操作方法については、お使いの無線 LAN ルーターの取扱説明書をご覧ください。

操作パネルから

2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

3 ＜環境設定＞ ▸ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 ログインする(P. 131)

4 ＜無線 LAN 設定＞を選ぶ

- ＜無線 LAN を有効にしますか?＞と表示されたら、＜はい＞を選んでください。

5 メッセージを確認し、＜ OK ＞を選ぶ

6 ＜ WPS PIN コード方式＞を選ぶ

7 ＜はい＞を選ぶ

➠ 生成された PIN コードがディスプレーに表示されます。

パソコンから

8 生成された PIN コードを無線 LAN ルーターに登録する

- 手順 1 の WPS PIN コードの設定画面を使って登録します。
- PIN コードは手順 7 で＜はい＞を選んでから 10 分以内に登録してください。

MEMO

設定中にエラーメッセージが表示されたら

- ＜閉じる＞を選び、手順 6 からやりなおしてください。

操作パネルから

9 ＜接続しました。＞が表示されるまで待つ

10 ＜閉じる＞を選ぶ

➠ IP アドレスなどが自動的に設定されるまで、数分間お待ちください。

ご注意

電波の強度について

- 接続できる無線 LAN ルーターが複数存在する場合は、電波強度（RSSI）が最も強い機器に接続します。

MEMO

- IP アドレスは手動でも設定できます。 **IP アドレスを設定する(P. 32)**
- 無線 LAN 接続中は、ホーム画面や各機能の基本画面に Wi-Fi アイコンが表示されます。 **おもな画面(P. 119)**

MEMO

消費電力を抑えたいとき

- ＜パワーセーブモード＞を設定すると、無線 LAN ルーターが送信する信号に合わせて定期的に本機を節電状態にします。 **＜パワーセーブモード＞(P. 451)**

本機の IP アドレスが変更された場合

- DHCP 環境では本機の IP アドレスが自動的に変更される場合がありますが、本機とパソコンが同一のサブネットにあれば接続は維持されます。

関連項目

無線 LAN に接続する(P. 19)

無線 LAN ルーターを選んで設定する

23LX-00E

接続可能な無線 LAN ルーター（またはアクセスポイント）を本機のディスプレーから選びます。ネットワークキーには WEP キーまたは PSK を入力して設定します。SSID やネットワークキーなどの必要情報はあらかじめ確認のうえ、メモしておいてください（ **SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)** ）。

MEMO

セキュリティー設定について

- 無線 LAN ルーターを選んで設定すると、WEP の認証方式は＜オープンシステム＞に、WPA/WPA2 の暗号化方式は＜自動＞（AES-CCMP または TKIP）に設定されます。WEP の認証方式に＜共有キー＞を選びたい場合や、WPA/WPA2 の暗号化方式に＜ AES - CCMP ＞を指定したい場合は、＜詳細入力＞で設定してください。 **すべて入力して設定する(P. 28)**

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▸ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 ＜無線 LAN 設定＞を選ぶ

- ＜無線 LAN を有効にしますか?＞と表示されたら、＜はい＞を選んでください。

4 メッセージを確認し、＜ OK ＞を選ぶ

5 ＜ SSID 設定＞を選ぶ

6 ＜アクセスポイント選択＞を選ぶ

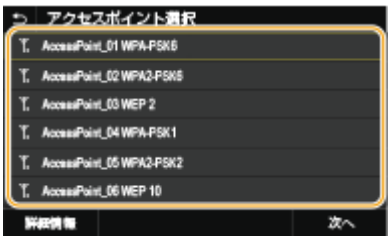
➠ 接続可能な無線 LAN ルーターが探索されます。

MEMO

- アクセスポイントが見つからないメッセージが表示されたとき **メッセージごとの対処方法(P. 698)**

7 目的の無線 LAN ルーターを選ぶ

- メモしておいた SSID と一致する機器を選んで、＜次へ＞を選ぶ



MEMO

セキュリティー設定の詳細を確認するには

- 無線 LAN ルーターを選択し、＜詳細情報＞を選びます。元の画面に戻るときは、 を押します。

接続したい無線 LAN ルーターが見つからないとき

- ネットワークに接続できる状態か、確認してください。 **設定のトラブル(P. 673)**

8 メモしておいたネットワークキーを入力する

- ネットワークキーを入力し、＜確定＞を選びます。
- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

9 ＜はい＞を選ぶ

MEMO

設定中にエラーメッセージが表示されたら

- ＜閉じる＞を選び、ネットワークキーが正しいか確認したあと、手順 5 からやりなおしてください。

10 ＜接続しました。＞が表示されるまで待つ

11 ＜閉じる＞を選ぶ

➠ IP アドレスなどが自動的に設定されるまで、数分間お待ちください。

ご注意

電波の強度について

- 接続できる無線 LAN ルーターが複数存在する場合は、電波強度（RSSI）が最も強い機器に接続します。

MEMO

- IP アドレスは手動でも設定できます。 **IP アドレスを設定する(P. 32)**
- 無線 LAN 接続中は、ホーム画面や各機能の基本画面に Wi-Fi アイコンが表示されます。 **おもな画面(P. 119)**

MEMO

消費電力を抑えたいとき

- ＜パワーセーブモード＞を設定すると、無線 LAN ルーターが送信する信号に合わせて定期的に本機を節電状態にします。 **＜パワーセーブモード＞(P. 451)**

本機の IP アドレスが変更された場合

- DHCP 環境では本機の IP アドレスが自動的に変更される場合がありますが、本機とパソコンが同一のサブネットにあれば接続は維持されます。

関連項目

無線 LAN に接続する(P. 19)

すべて入力して設定する

23LX-00F

セキュリティーの設定などを詳しく指定したい場合や、他の方法で接続できない場合は、無線 LAN 接続の設定をすべて手動入力で行います。SSID やネットワークキー、セキュリティー規格や認証／暗号化方式などの必要な情報は、あらかじめ確認／メモしておいてください（ **SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)** ）。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 ＜無線 LAN 設定＞を選ぶ

- ＜無線 LAN を有効にしますか?＞と表示されたら、＜はい＞を選んでください。

4 メッセージを確認し、＜ OK ＞を選ぶ

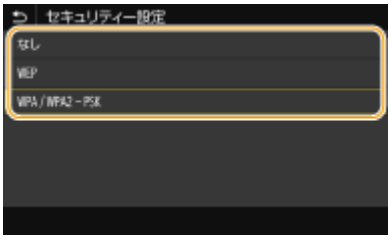
5 ＜ SSID 設定＞ ▶ ＜詳細入力＞の順に進む

6 メモしておいた SSID を入力する

- SSID を入力し、＜確定＞を選びます。
- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

7 メモしておいた情報をもとにセキュリティーの設定をする

- セキュリティーの設定をしないときは＜なし＞を選びます。



■WEP を使用する

1 ＜ WEP ＞を選ぶ

2 認証方式を選ぶ

＜オープンシステム＞

一般に「オープン認証」と呼ばれる認証方式です。

＜共有キー＞

パスワードとして WEP キーを使用する認証方式です。

MEMO

＜オープンシステム＞を選んだ場合

- 無線 LAN ルーターが共有キー認証を使用している場合は接続時に認証エラーが生じますが、本機の設定は自動的に＜共有キー＞に変更され再接続が試みられます。

3 編集する WEP キーを選ぶ

- WEP キー（1～4）を選択し、＜編集＞を選びます。
- WEP キーは 4 つまで設定できます。

4 確認／メモしておいたネットワークキーを入力する

- ネットワークキーを入力し、＜確定＞を選びます。

5 使用する WEP キーを選ぶ

- 編集した WEP キーを選択し、＜登録＞を選びます。

■WPA-PSK または WPA2-PSK を使用する

1 ＜ WPA / WPA2 - PSK ＞を選ぶ

2 暗号化方式を選ぶ

＜自動＞

接続する無線 LAN ルーターに合わせて、自動的に AES-CCMP または TKIP を設定します。

＜ AES - CCMP ＞

暗号化方式に AES-CCMP を指定するときに選びます。

3 メモしておいたネットワークキーを入力する

- ネットワークキーを入力し、＜確定＞を選びます。

8 ＜はい＞を選ぶ

MEMO

設定中にエラーメッセージが表示されたら

- ＜閉じる＞を選び、設定した内容が正しいか確認したあと、手順 5 からやりなおしてください。

9 ＜接続しました。＞が表示されるまで待つ

10 ＜閉じる＞を選ぶ

➠ IP アドレスなどが自動的に設定されるまで、数分間お待ちください。

ご注意

電波の強度について

- 接続できる無線 LAN ルーターが複数存在する場合は、電波強度（RSSI）が最も強い機器に接続します。

MEMO

- IP アドレスは手動でも設定できます。 **IP アドレスを設定する(P. 32)**
- 無線 LAN 接続中は、ホーム画面や各機能の基本画面に Wi-Fi アイコンが表示されます。 **おもな画面(P. 119)**

MEMO

消費電力を抑えたいとき

- ＜パワーセーブモード＞を設定すると、無線 LAN ルーターが送信する信号に合わせて定期的に本機を節電状態にします。 **＜パワーセーブモード＞(P. 451)**

本機の IP アドレスが変更された場合

- DHCP 環境では本機の IP アドレスが自動的に変更される場合がありますが、本機とパソコンが同一のサブネットにあれば接続は維持されます。

関連項目

無線 LAN に接続する(P. 19)

SSID やネットワークキーを確認する

23LX-0E4

手動設定では、無線 LAN ルーターの SSID やネットワークキーなどを指定する必要があります。SSID やネットワークキーは無線 LAN ルーターに表記されている場合がありますので、あらかじめ確認／メモしておいてください。詳しくは、各機器の取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。

SSID	無線 LAN のネットワークを識別するための名前です。「アクセスポイント名」や「ネットワーク名」などと表記されることもあります。
ネットワークキー	データの暗号化に使用されるキーワード、またはネットワークの認証時に使用されるパスワードです。「暗号化キー」、「WEP キー」、「WPA/WPA2 パスフレーズ」、「PSK」、「事前共有キー」などと表記されることもあります。
セキュリティー規格（認証／暗号化）	手動入力方式では、セキュリティー規格や認証／暗号化などの方法を指定する必要があります。次のような情報を確認してください。 ● セキュリティー規格（WEP/WPA-PSK/WPA2-PSK） ● 認証方式（オープンシステム／共有キー） ● 暗号化方式（TKIP/AES-CCMP）

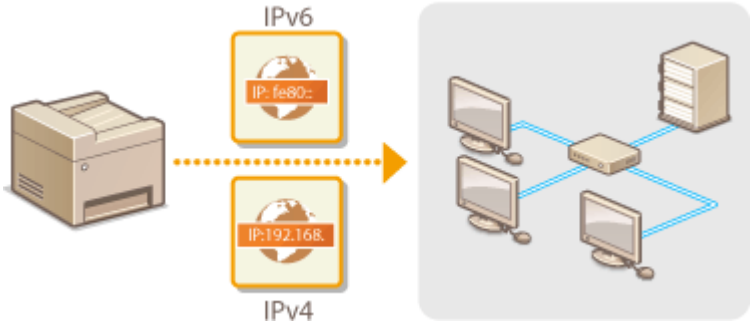
関連項目

無線 LAN に接続する(P. 19)
無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)
すべて入力して設定する(P. 28)

IP アドレスを設定する

23LX-00J

本機をネットワークに接続するには、そのネットワーク内で固有の IP アドレスが必要です。IP アドレスには「IPv4」と「IPv6」という 2 つのバージョンがありますので、お使いの環境に合わせて設定してください。なお、IPv6 アドレスを使うためには、IPv4 アドレスが適切に設定されている必要があります。



IPv4 アドレスを設定する(P. 33)
IPv6 アドレスを設定する(P. 36)

IPv4 アドレスを設定する

23LX-00K

IPv4 アドレスの設定方法には、DHCP などを使って自動で割り当てる方法と、自分で入力する方法がありますのでいずれかを選択してください。有線 LAN に接続するときは、作業を始める前にまず LAN ケーブルのコネクタが差込口にしっかり差し込まれているか再確認してください（**有線 LAN に接続する(P. 18)**）。また、必要に応じて接続テストを行ってください。

IPv4 アドレスを設定する(P. 33)
接続テストをする(P. 34)

IPv4 アドレスを設定する

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▸ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 ＜ TCP / IP 設定＞ ▸ ＜ IPv4 設定＞ ▸ ＜ IP アドレス設定＞の順に進む

4 IP アドレスを設定する

＜自動取得設定＞
DHCP によって IP アドレスを自動的に割り当てるときに選びます。＜ ON ＞と表示されているときは、自動割り当てが行われています。

＜手動取得＞
IP アドレスを自分で入力して設定するときに選びます。自動取得が＜ OFF ＞のときだけ設定できます。

＜設定確認＞
現在の IP アドレス設定を確認できます。

■自動的に割り当てる

1. ＜自動取得設定＞を選ぶ
2. ＜自動取得＞で＜ ON ＞を選ぶ
3. ＜プロトコル選択＞で＜ DHCP ＞を選ぶ

MEMO

IP アドレスの自動割り当てに DHCP を使わないとき

- ＜ OFF ＞を選びます。DHCP を使用できないときに設定すると、本機はネットワーク内でサービスが提供されているか確認しつづけるので、無駄な通信が発生します。

4 ＜ Auto IP ＞が＜ ON ＞になっているか確認する

- ＜ OFF ＞のときは、＜ ON ＞に変更します。

5 ＜確定＞を選ぶ

MEMO

- Auto IP が有効でも、DHCP で取得された IP アドレスが優先されます。

■自分で入力して設定する

1 ＜自動取得設定＞を選んだあと、＜自動取得＞で＜ OFF ＞ ▶ ＜確定＞を選ぶ

2 ＜手動取得＞を選ぶ

3 ＜ IP アドレス＞、＜サブネットマスク＞、＜ゲートウェイアドレス＞を入力し、＜確定＞を選ぶ

5 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

正しく設定できたか確認するには

- パソコンでリモート UI のログイン画面を表示できるか確認してください（ **リモート UI を起動する(P. 417)** ）。パソコンが使えないときは、本機の操作パネルから確認することもできます（ **接続テストをする(P. 34)** ）。

プリンタードライバーをインストールしたあとに IP アドレスを変更したとき

- MFNP ポートを使用している場合は、本機とパソコンが同一のサブネットにあれば接続は維持されますので、新しいポートを追加する必要はありません。標準 TCP/IP ポートを使用している場合は、新しいポートを追加する必要があります。 **印刷ポートの設定をする(P. 45)**

*使用しているポートがどちらなのかがわからないときは、 **プリンターポートの確認方法(P. 787)** を参照してください。

接続テストをする

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 ＜TCP / IP 設定＞ ▶ ＜IPv4 設定＞ ▶ ＜PING コマンド＞の順に進む

4 ネットワーク内の他の機器の IPv4 アドレスを入力し、＜確定＞を選ぶ

➠ 正しく接続されているときは、＜ホストから応答がありました。＞と表示されます。

関連項目

IPv6 アドレスを設定する(P. 36)
ネットワークの設定を確認する(P. 39)
WINS の設定をする(P. 63)

IPv6 アドレスを設定する

23LX-00L

IPv6 アドレスはリモート UI を使って設定します。IPv6 アドレスを使うためには、IPv4 アドレスが適切に設定されている必要がありますのであらかじめ確認しておいてください（**IPv4 の設定を確認する(P. 39)**）。また、IPv6 環境ではスキャナードライバーや WG Scan Utility によるスキャンはできませんのでご注意ください。IPv6 は、次のような複数のアドレスを登録できます。

種類	解説
リンクローカルアドレス	同一リンク内でのみ使用できるアドレスです（ルーターを超える範囲の通信には使用できません）。IPv6 アドレスを使用するときは自動的に設定されます。
手動アドレス	手動で入力するアドレスです。プレフィックス長およびデフォルトルーターアドレスを指定します。
ステートレスアドレス	ルーターから通知されるプレフィックスと本機の MAC アドレスから自動生成されるアドレスです。本機の再起動（または電源 ON）時に破棄されます。
ステートフルアドレス	DHCPv6 を使って DHCP サーバーから取得します。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

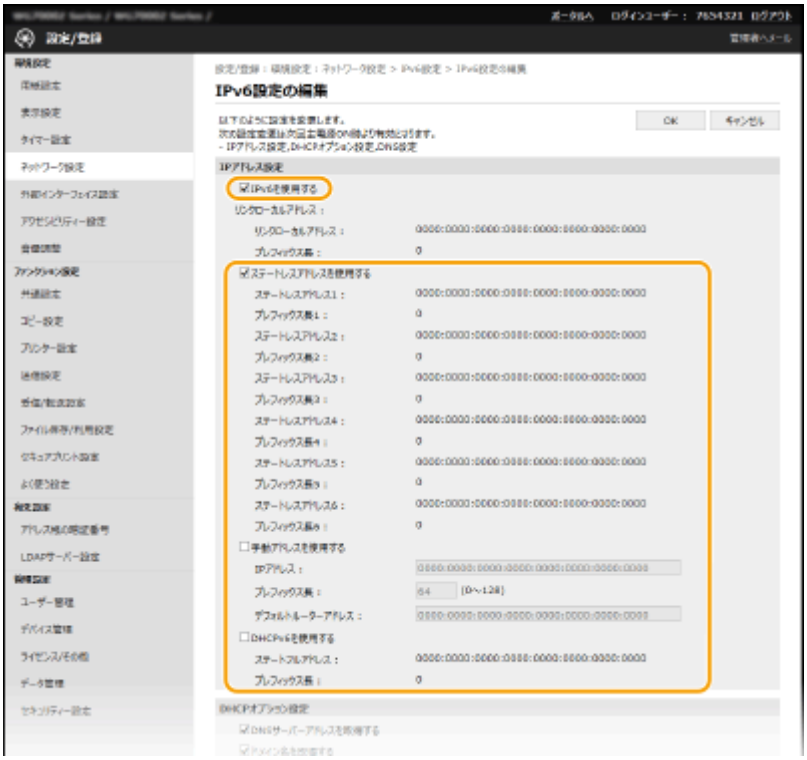
1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［ネットワーク設定］▶［IPv6 設定］の順に進む**

4 **［編集］をクリックする**

5 **［IPv6 を使用する］にチェックマークを付け、必要な設定をする**



[IPv6 を使用する]
本機で IPv6 を使用するときはチェックマークを付けます。使用しない場合はチェックマークを外してください。

[ステートレスアドレスを使用する]
ステートレスアドレスを使用するときはチェックマークを付けます。使用しない場合はチェックマークを外してください。

[手動アドレスを使用する]
アドレスを入力して設定するときはチェックマークを付け、[IP アドレス]、[プレフィックス長]、[デフォルトルーターアドレス] を入力します。

[IP アドレス]
IPv6 アドレスを入力します。「ff」で始まるアドレス（マルチキャストアドレス）は入力できません。

[プレフィックス長]
ネットワークアドレス部の長さを入力します。

[デフォルトルーターアドレス]
必要に応じてデフォルトルーターをアドレスで指定します。「ff」で始まるアドレス（マルチキャストアドレス）は入力できません。

[DHCPv6 を使用する]
ステートフルアドレスを使用するときはチェックマークを付けます。使用しない場合はチェックマークを外してください。

6 [OK] をクリックする

7 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

正しく設定できたか確認するには

- 本機の IPv6 アドレスを使ってリモート UI のログイン画面を表示できるか確認してください。 **リモート UI を起動する(P. 417)**

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から IPv6 設定を行うこともできます。 **＜ IPv6 設定＞(P. 454)**

プリンタードライバーをインストールしたあとに IP アドレスを変更したとき

- 新しいポートを追加する必要があります。 **印刷ポートの設定をする(P. 45)**

関連項目

IPv4 アドレスを設定する(P. 33)
ネットワークの設定を確認する(P. 39)

ネットワークの設定を確認する

23LX-00R

IPv4 の設定を確認する(P. 39)
IPv6 の設定を確認する(P. 39)
有線 LAN の MAC アドレスを確認する(P. 39)
無線 LAN の MAC アドレスや設定情報を確認する(P. 40)

MEMO

- IP アドレスが「0.0.0.0」と表示されるときは、適切にアドレス設定されていません。
- IP アドレスが正しく設定されていても、本機をスイッチングハブなどに接続しているとネットワークに接続されないことがあります。この場合は、本機の通信開始のタイミングを遅らせて接続しなおしてください。 **ネットワーク接続時の待機時間を設定する(P. 56)**
- ネットワークの設定情報は一覧形式で印刷できます。 **ユーザーデータリスト／システム管理者データリスト(P. 664)**

IPv4 の設定を確認する

<状況確認> ▶ <ネットワーク情報> ▶ < IPv4 > ▶ 確認したい項目を選択 ▶ 設定を確認

IPv6 の設定を確認する

<状況確認> ▶ <ネットワーク情報> ▶ < IPv6 > ▶ 確認したい項目を選択 ▶ 設定を確認

有線 LAN の MAC アドレスを確認する

1 ホーム画面で、<メニュー>を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

2 <環境設定> ▶ <ネットワーク>の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 < Ethernet ドライバー設定>を選ぶ

➠ MAC アドレスが表示されます。

無線 LAN の MAC アドレスや設定情報を確認する

1 **ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

2 **＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞の順に進む**

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 **＜無線 LAN 設定＞を選ぶ**

- ＜無線 LAN を有効にしますか？＞と表示されたら、＜はい＞を選びます。

4 **メッセージを確認し、＜ OK ＞を選ぶ**

5 **＜接続情報＞を選ぶ**

6 **確認したい項目を選ぶ**

MEMO

セキュリティー情報を確認する

- WEP や WPA/WPA2-PSK の情報を確認するには、＜セキュリティー設定＞を選びます。

＜状況確認＞画面から確認する

- ＜無線 LAN 状態＞と＜最新のエラー情報＞を確認するだけであれば、＜状況確認＞からの操作も可能です。
  ＜状況確認＞ ▶ ＜ネットワーク情報＞ ▶ ＜ネットワーク接続方式＞ ▶ 確認したい項目を選択

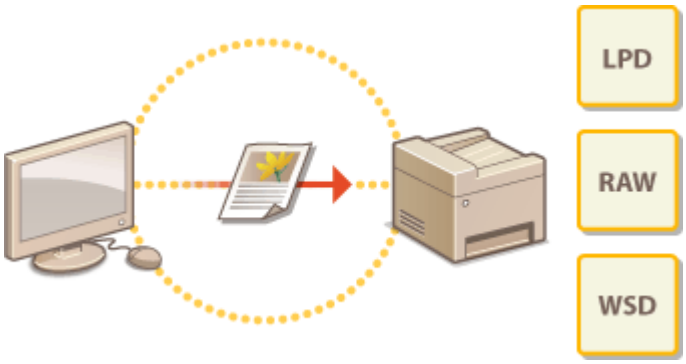
関連項目

無線 LAN に接続する(P. 19)
IPv4 アドレスを設定する(P. 33)
IPv6 アドレスを設定する(P. 36)
DNS の設定をする(P. 57)

パソコンとの通信設定をする

23LX-00S

ネットワークを介して本機をパソコンから使用する場合、プロトコルやポートの設定を行うことができます。また、ネットワーク内にプリントサーバーを設けることも可能です。ただし、基本的な準備作業はあらかじめ済ませておいてください。詳しくは、ドライバーのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。



印刷プロトコルや Web サービスの設定をする(P. 42)
印刷ポートの設定をする(P. 45)
プリントサーバーを設定する(P. 49)

MEMO

- ここで説明するプロトコルは、パソコンと本機の間で文書データをやりとりするための方法で、用途やネットワーク環境に応じて使い分けます。
- ポートとは、ネットワーク機器の間でデータを受け渡しするいわば出入口に相当する部分です。ネットワーク接続で通信できないときは、このポートの設定に原因がある場合があります。

印刷プロトコルや Web サービスの設定をする

23LX-00U

パソコンから文書を印刷するときに使用する印刷プロトコルの設定をします。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［ネットワーク設定］をクリックする

4 印刷プロトコルの設定をする

■LPD または RAW の設定をする

1 ［LPD 設定］または［RAW 設定］▶［編集］の順に進む

2 必要に応じて設定する

［LPD 印刷を使用する］
LPD を使用して印刷するときはチェックマークを付けます。使用しない場合はチェックマークを外してください。

［RAW 印刷を使用する］
RAW を使用して印刷するときはチェックマークを付けます。使用しない場合はチェックマークを外してください。

［受信タイムアウト］
印刷データの受信が中断された場合に、受信の再開を待つ時間を入力します。設定時間内に受信が再開されなかった場合、印刷はキャンセルされます。

3 ［OK］をクリックする

■WSD の設定をする

1 ［WSD 設定］▶［編集］の順に進む

2 必要に応じて設定する

［WSD 印刷を使用する］
WSD を使用して印刷するときはチェックマークを付けます。使用しない場合はチェックマークを外してください。

［WSD 参照を使用する］
WSD を使用してパソコンから本機の情報を取得するときはチェックマークを付けます。［WSD 印刷を使用する］にチェックマークが付いているときは必ずチェックマークが付きます。

［WSD スキャンを使用する］
WSD スキャンは、スキャナードライバーをインストールしていないパソコンにも文書をスキャンして取り込むことができます。WSD を使用してスキャンを行うときはチェックマークを付けます。

［PC スキャンを使用する］
WSD スキャンを操作パネルからの操作で行うときはチェックマークを付けます。［WSD スキャンを使用する］にチェックマークが付いているときだけチェックマークを付けることができます。スキャンするときはホーム画面で＜スキャン＞を選び、WSD で接続中のパソコンを保存先として指定します（**スキャンしてパソコンに保存する(P. 291)**）。

［マルチキャスト探索を使用する］
マルチキャストによる本機の探索に対して応答するときは、チェックマークを付けます。チェックマークを外すと、本機がスリープ中にマルチキャスト探索パケットを受信してもスリープ状態を維持します。

3 ［OK］をクリックする

5 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から、LPD、RAW、および WSD の設定を行うこともできます。

＜ LPD 設定＞(P. 456)
＜ RAW 設定＞(P. 457)
＜ WSD 設定＞(P. 457)

WSD ネットワークデバイスを追加する

- WSD ネットワークデバイスは、プリンターフォルダーから追加できます。プリンターフォルダーを開き（**プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)**）、［デバイスの追加］または［プリンターの追加］をクリックしたあと、画面の指示に従ってください。WSD ネットワークでドライバーをインストールする方法については、ドライバーのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。

ポート番号を変更するには

- 印刷プロトコルのポート番号は、本機側とパソコン側の設定を同じにする必要があります。
印刷ポートの設定をする(P. 45)
ポート番号を変更する(P. 374)

関連項目

印刷ポートの設定をする(P. 45)

印刷ポートの設定をする

23LX-00W

本機の IP アドレスが変更されたり、Windows のプリンターフォルダーでプリンターを追加したりすると、パソコンから文書を印刷しようとしてもエラーが発生して印刷できないことがあります。これは「パソコン側でプリンタードライバーに設定した印刷ポートの種類や番号が間違っている」など、印刷ポートの設定に問題がある場合に発生するトラブルです。このような場合は、パソコンから印刷ポートの設定を行ってください。

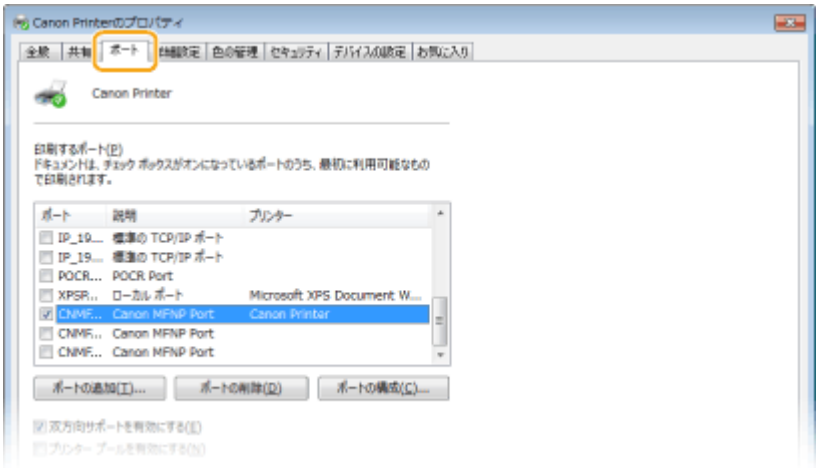
ご注意

- ここでの操作をするには、管理者のアカウントでパソコンにログオンしている必要があります。

1 **プリンターフォルダーを開く** **プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)**

2 **本機のドライバーのアイコンを右クリックし、［プリンターのプロパティ］または［プロパティ］をクリックする**

3 **［ポート］タブをクリックし、必要な設定をする**



■ポートを追加する

本機の IP アドレスを変更した場合や、ドライバーを Windows のプリンターフォルダーからインストールした際に正しいポートを選択しなかった場合などは、新しいポートを追加します。ポートには、「MFNP ポート」と「標準 TCP/IP ポート」の 2 つがあります。お使いの環境などに合わせて追加するポートの種類を選んでください。

MFNP ポート （IPv4 環境のみ）	本機の IP アドレスを自動検出することができるポートです。本機の IP アドレスを変更しても本機とパソコンが同一のサブネットにあれば接続は維持されます。そのため、IP アドレスを変更するたびに新しいポートを追加する必要はありません。IPv4 環境で本機をお使いの場合、通常はこちらを選んでください。 ご注意

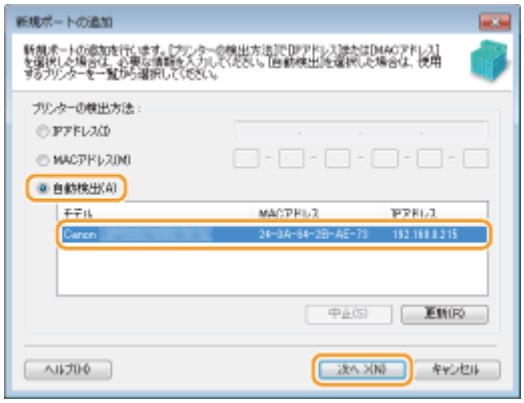
	● ドライバーを付属の CD-ROM からインストールした場合や、キヤノンホームページからダウンロードしてインストールした場合にのみ追加することができます。
標準 TCP/IP ポート	Windows に標準搭載されているポートです。本機の IP アドレスを変更したときは、その都度新しいポートを追加する必要があります。IPv6 環境で本機をお使いの場合や、MFNP ポートを追加できない場合に選びます。

MFNP ポートを追加する場合

1 **［ポートの追加］をクリックする**

2 **［利用可能なポートの種類］で［Canon MFNP Port］を選び、［新しいポート］をクリックする**

3 **［自動検出］を選び、本機が表示されたらそれを選択したあと、［次へ］をクリックする**



MEMO

本機が表示されないとき

- ［更新］をクリックします。それでも表示されないときは、［IP アドレス］または［MAC アドレス］を選び、本機の IP アドレスまたは MAC アドレス（**ネットワークの設定を確認する(P. 39)**）を入力してから［次へ］をクリックします。

4 **［追加］▶［完了］をクリックする**

5 **［閉じる］をクリックする**

標準 TCP/IP ポートを追加する場合

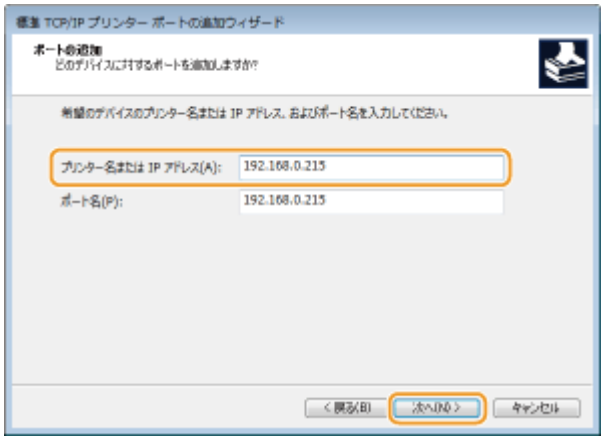
1 **［ポートの追加］をクリックする**

2 **［利用可能なポートの種類］で［Standard TCP/IP Port］を選び、［新しいポート］をクリックする**

3 **［次へ］をクリックする**

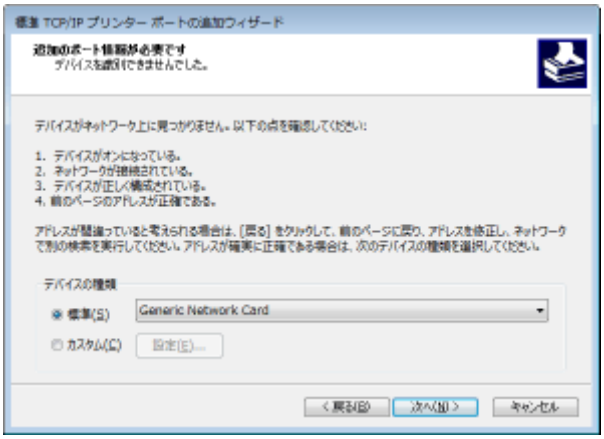
4 **本機の IP アドレスまたは DNS 名を入力し、［次へ］をクリックする**

- ［ポート名］は自動的に入力されます。必要に応じて変更してください。



MEMO

- 次の画面が表示されたときは、画面の指示に従ってください。



* ［デバイスの種類］を設定する場合は、［標準］の［Canon Network Printing Device with P9100］を選んでください。

5 **［完了］をクリックする**

6 **［閉じる］をクリックする**

■ポートの種類や番号を変更する

本機側で印刷プロトコル（LPD または RAW）の設定を変更した場合（**▶印刷プロトコルや Web サービスの設定をする(P. 42)**）やポート番号を変更した場合（**▶ポート番号を変更する(P. 374)**）は、パソコン側の設定も同じ内容に変更します。なお、WSD ポートの場合、この操作は不要です。

MFNP ポートの場合

1 **［ポートの構成］をクリックする**

2 **［プロトコル］で［RAW］または［LPR］を選び、［ポート番号］を変更する**

3 **［OK］をクリックする**

標準 TCP/IP ポートの場合

1 **［ポートの構成］をクリックする**

2 **［プロトコル］で［Raw］または［LPR］を選ぶ**

- ［Raw］を選んだときは［ポート番号］を変更します。
- ［LPR］を選んだときは［キュー名］に「lp」と入力します。

3 **［OK］をクリックする**

4 ［閉じる］をクリックする

関連項目

プリントサーバーを設定する(P. 49)

プリントサーバーを設定する

23LX-00X

プリントサーバーを設定すると、印刷を行うパソコンにかかる負荷を軽減できます。ネットワークを介して他のパソコンにもドライバーをインストールできるようになりますので、パソコンごとに CD-ROM からドライバーをインストールする手間も省けます。プリントサーバーにするパソコンをネットワーク内から選び、そのパソコンに対してプリンターの共有設定を行います。

ご注意

- ここでの操作をするには、管理者のアカウントでパソコンにログオンしている必要があります。
- プリントサーバーの OS とパソコンの OS が 32 ビット版と 64 ビット版とで異なる場合、ネットワークを介したドライバーのインストールができないことがあります。
- ドメイン環境でプリントサーバーを設定する場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

MEMO

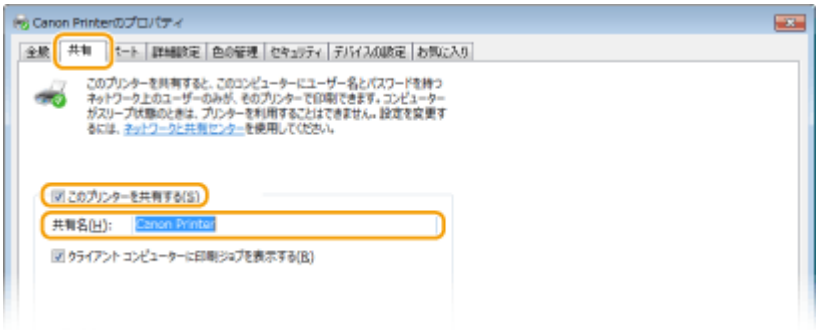
プリントサーバー利用時に部門別 ID 管理をするには

- ドライバーをインストールする際に、「Canon Driver Information Assist Service」を追加する必要があります。詳しくは、ドライバーのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。

1 **プリンターフォルダーを開く** **プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)**

2 **本機のプリンタードライバーのアイコンを右クリックし、［プリンターのプロパティ］または［プロパティ］をクリックする**

3 **［共有］タブをクリックし、［このプリンターを共有する］を選んだあと、共有名を入力する**



MEMO

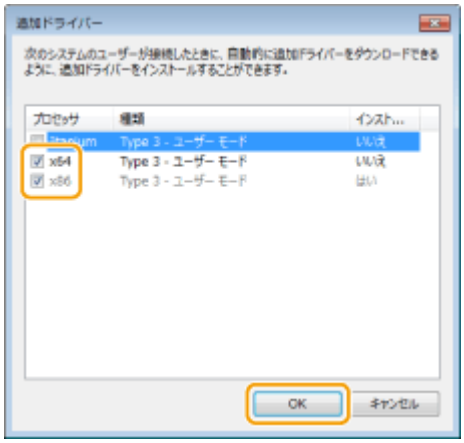
- ［共有オプションの変更］ボタンが表示されているときは、ボタンをクリックします。

4 **必要に応じて追加ドライバーをインストールする**

- この作業は、プリントサーバーとはプロセッサバージョン（32 ビット／64 ビット）が異なるパソコンに、プリントサーバーを介してプリンタードライバーをインストールしたいときに必要です。

1 ［追加ドライバー］をクリックする

2 追加ドライバーを選び、［OK］をクリックする



- 追加ドライバーはプリントサーバーの OS に応じて、次のように選択してください。

プリントサーバー	選択する追加ドライバー
32 ビット版 OS	［x64］にチェックマークを付けます。
64 ビット版 OS	［プロセッサ］が［x86］の項目にチェックマークを付けます。

MEMO

- 32 ビット版と 64 ビット版のどちらなのかがわからないときは、**プロセッサバージョンの確認方法 (P. 785)** を参照してください。

3 付属の CD-ROM をセットし、［参照］をクリックしてドライバーが収録されているフォルダーを指定したあと、［OK］をクリックする

- プリントサーバーが 32 ビット版 OS の場合は、CD-ROM 内の［intdrv］▶［LIPSLX］▶［x64］▶［Driver］フォルダーを指定します。
- プリントサーバーが 64 ビット版 OS の場合は、CD-ROM 内の［intdrv］▶［LIPSLX］▶［32bit］▶［Driver］フォルダーを指定します。

4 画面の指示に従って追加ドライバーをインストールする

5 ［OK］をクリックする

■プリントサーバーを介してパソコンにドライバーをインストールする

1 **プリントサーバーの共有プリンターを表示する** **プリントサーバー内の共有プリンターの表示方法(P. 783)**

2 **共有プリンターをダブルクリックする**

3 画面の指示に従ってドライバーをインストールする

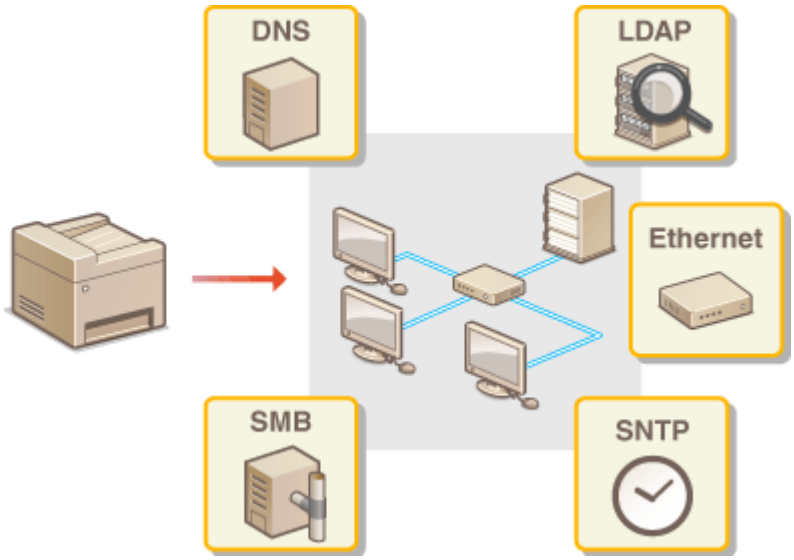
関連項目

パソコンから印刷する(P. 264)

使用するネットワーク環境に合わせる

23LX-00Y

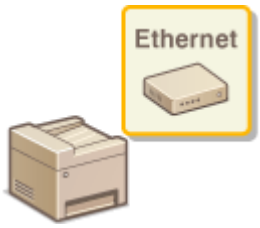
ネットワークの規模や形態は、目的用途によってさまざまです。本機はできるかぎり多くの環境に適合するよう、多様な技術を採り入れています。あらかじめネットワーク管理者にご相談のうえ、お使いの環境に合わせて必要な設定を行ってください。



Ethernet の設定をする(P. 53)
送信パケットの最大サイズを変更する(P. 55)
ネットワーク接続時の待機時間を設定する(P. 56)
DNS の設定をする(P. 57)
SMB の設定をする(P. 61)
WINS の設定をする(P. 63)
LDAP サーバーを登録する(P. 65)
SNMP で監視／制御する(P. 70)
その他のネットワーク設定をする(P. 74)

Ethernet の設定をする

23LX-010



Ethernet は LAN 内の通信方法を定めた規格です。本機では通信方式や Ethernet の種類を設定できます。通常は初期値のままで使用できますが、お使いの環境に合うよう、必要に応じて変更してください。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 ログインする(P. 131)

3 ＜ Ethernet ドライバー設定＞を選ぶ

4 自動または手動の設定をする

- 自動検出する設定にすると、使用できる Ethernet の通信方式や種類が検出されて自動的に設定されます。

■Ethernet の設定を自動検出する

＜自動検出＞で＜ ON ＞を選びます。

■Ethernet の設定を手動でする

1 ＜自動検出＞で＜ OFF ＞を選ぶ

2 ＜通信方式＞ ▶ 通信方式を選ぶ

＜半二重＞

送信／受信を交互に行います。接続するルーターが半二重通信を使うように設定されているときに選びます。

＜全二重＞

送信／受信を同時に行います。通常はこちらを選んでください。

3 ＜ Ethernet の種類＞ ▶ Ethernet の種類を選ぶ

4 ＜確定＞を選ぶ

5 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

関連項目

送信パケットの最大サイズを変更する(P. 55)
ネットワーク接続時の待機時間を設定する(P. 56)

送信パケットの最大サイズを変更する

23LX-011

Ethernet ネットワークで送信できるパケットの最大サイズは通常 1,500 バイトです。「パケット」とはデータの小さなまとまりのことで、データはいくつかのパケットに分割されて送信されます。送信パケットサイズはお使いの環境によって異なる場合がありますので、必要に応じて本機の設定を変更してください。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

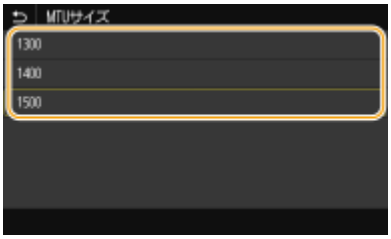
1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 ログインする(P. 131)

3 ＜ TCP / IP 設定＞ ▶ ＜ MTU サイズ＞の順に進む

4 パケットの最大サイズを選ぶ



5 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

関連項目

Ethernet の設定をする(P. 53)
ネットワーク接続時の待機時間を設定する(P. 56)

ネットワーク接続時の待機時間を設定する

23LX-012

スイッチングハブなどを数台つないでネットワークの冗長化を図った場合、パケットのループを回避するための仕組みが必要となります。そのためにはスイッチポートの役割決めが有効ですが、ネットワークに新しく機器を追加するなどの変更を行った直後はうまく通信できないことがあります。このようなネットワークに本機を接続するときは、通信開始までの待機時間を設定します。

1 **ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

2 **＜環境設定＞ ▸ ＜ネットワーク＞の順に進む**

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 **＜起動時の接続待機時間＞を選ぶ**

4 **ネットワークとの通信を開始するまでの待機時間を入力し、＜確定＞を選ぶ**

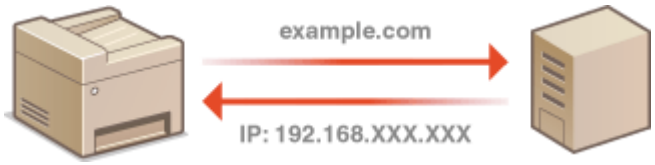
関連項目

Ethernet の設定をする(P. 53)
送信パケットの最大サイズを変更する(P. 55)

DNS の設定をする

23LX-013

DNS（Domain Name System）は、ホスト名（ドメイン名）と IP アドレスを対応させる名前解決サービスです。お使いのネットワークに応じて DNS や mDNS、DHCP オプションの設定を行います。IPv4 と IPv6 とで設定が分かれていますのでご注意ください。



MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［ネットワーク設定］をクリックする**

4 **DNS の設定をする**

■IPv4 の DNS を設定する

1. ［IPv4 設定］▶［編集］の順に進む
2. IPv4 の DNS を設定する

a [DHCP オプション設定]

[ホスト名を取得する]
DHCP サーバーからホスト名を取得する（オプション 12 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

[DNS の動的更新をする]
本機に代わって DHCP サーバーにホスト名の対応付けの情報を自動更新させる（オプション 81 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

[DNS サーバーアドレスを取得する]
DHCP サーバーから DNS サーバーアドレスを取得する（オプション 6 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

[ドメイン名を取得する]
DHCP サーバーからドメイン名を取得する（オプション 15 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

[WINS サーバーアドレスを取得する]
DHCP サーバーから WINS サーバーアドレスを取得する（オプション 44 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

[SMTP サーバーアドレスを取得する]
DHCP サーバーから SMTP サーバーアドレスを取得する（オプション 69 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

[POP サーバーアドレスを取得する]
DHCP サーバーから POP3 サーバーアドレスを取得する（オプション 70 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

b [DNS 設定]

[プライマリー DNS サーバーアドレス]
DNS サーバーの IP アドレスを入力します。

[セカンダリー DNS サーバーアドレス]
セカンダリー DNS サーバーがあるときは、その IP アドレスを入力します。

[ホスト名]

DNS サーバーに登録するホスト名を半角英数字で入力します。

［ドメイン名］
本機が属するドメイン名を半角英数字で入力します（入力例：「example.com」）。

［DNS の動的更新をする］
DHCP 環境などで、ホスト名と IP アドレスの対応付けが変更されたときに自動更新するにはチェックマークを付けます。更新間隔を変更するときは、［DNS の動的更新間隔］に時間単位で入力します。

c ［mDNS 設定］

［mDNS を使用する］
mDNS（multicast DNS）は DNS を使わずにホスト名を解決するプロトコルで、Bonjour などに採用されています。使用するときはチェックマークを付け、［mDNS 名］を入力します。

3 ［OK］をクリックする

■IPv6 の DNS を設定する

1 ［IPv6 設定］▶［編集］の順に進む

2 IPv6 の DNS を設定する

- ［IPv6 を使用する］にチェックマークが付いていないときは設定できません。 **IPv6 アドレスを設定する (P. 36)**

a ［DHCP オプション設定］

［DNS サーバーアドレスを取得する］
DHCP サーバーから DNS サーバーアドレスを取得する（オプション 23 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

［ドメイン名を取得する］
DHCP サーバーからドメイン名を取得する（オプション 24 を有効にする）ときはチェックマークを付けます。

b ［DNS 設定］

［プライマリー DNS サーバーアドレス］

DNS サーバーの IP アドレスを入力します。「ff」で始まるアドレス（マルチキャストアドレス）は入力できません。

［セカンダリー DNS サーバーアドレス］
セカンダリー DNS サーバーがあるときは、その IP アドレスを入力します。「ff」で始まるアドレス（マルチキャストアドレス）は入力できません。

［IPv4 と同じホスト名/ドメイン名を使用する］
IPv4 と同じ設定にするときはチェックマークを付けます。

［ホスト名］
DNS サーバーに登録するホスト名を半角英数字で入力します。

［ドメイン名］
本機が属するドメイン名を半角英数字で入力します（入力例：「example.com」）。

［DNS の動的更新をする］
DHCP 環境などで、ホスト名と IP アドレスの対応付けが変更されたときに自動更新するにはチェックマークを付けます。DNS サーバーに登録したいアドレスの種類を指定するときは、必要に応じて［手動アドレスを登録する］、［ステートフルアドレスを登録する］、または［ステートレスアドレスを登録する］にチェックマークを付けます。更新間隔を変更するときは、［DNS の動的更新間隔］に時間単位で入力します。

C ［mDNS 設定］

［mDNS を使用する］
mDNS（multicast DNS）は DNS を使わずにホスト名を解決するプロトコルで、Bonjour などに採用されています。使用するときはチェックマークを付けます。

［IPv4 と同じ mDNS 名を使用する］
IPv4 と同じ設定にするときはチェックマークを付けます。別に設定するときは、チェックマークを外して［mDNS 名］を入力します。

3 ［OK］をクリックする

5 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

操作パネルで設定するとき

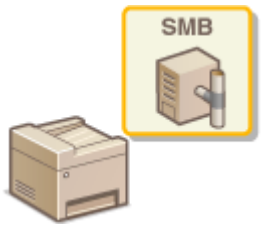
- ホーム画面の＜メニュー＞から DNS 設定を行うこともできます。 **＜ DNS 設定＞(P. 455)**

関連項目

IPv4 アドレスを設定する(P. 33)
IPv6 アドレスを設定する(P. 36)
ネットワークの設定を確認する(P. 39)

SMB の設定をする

23LX-014



SMB は、ネットワーク内の複数デバイス間でファイルやプリンターを共有するためのプロトコルで、本機ではスキャンした文書を共有フォルダーに保存するときなどに使用します。お使いのネットワーク環境によっては、NetBIOS 名とワークグループ名の設定が必要です。

NetBIOS 名

NetBIOS を使った Windows ネットワークで、接続されたパソコンやファイルサービスなどの各種ネットワークサービスを識別するための名前が NetBIOS 名です。パソコンの場合は通常、コンピューター名が NetBIOS 名になります。

ワークグループ名

Windows ネットワークでファイル共有などの基本的な機能を使用するために、複数のパソコンをグループ分けするための名前がワークグループ名です。どのワークグループに所属するのかを設定します。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［ネットワーク設定］▶［SMB 設定］の順に進む**

4 **［編集］をクリックする**

5 **必要な情報を入力する**

［NetBIOS 名］

本機の NetBIOS 名を半角英数字で入力します。

［ワークグループ名］
本機が所属するワークグループ名を半角英数字で入力します。

ご注意

- アスタリスク（*）で始まる NetBIOS 名やワークグループ名は WINS サーバーに登録することができません。

6 ［OK］をクリックする

7 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

関連項目

WINS の設定をする(P. 63)

WINS の設定をする

23LX-015

WINS は NetBIOS 名（SMB ネットワークでのコンピューター名やプリンター名）を IP アドレスに変換する名前解決サービスです。WINS を使用するには、WINS サーバーの指定が必要です。

ご注意

- WINS サーバーを本機に登録するには NetBIOS 名とワークグループ名を設定する必要があります。 **SMB の設定をする(P. 61)**
- IPv6 環境では使用できません。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、 **本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［ネットワーク設定］▶［WINS 設定］の順に進む**

4 **［編集］をクリックする**

5 **［WINS による名前解決する］にチェックマークを付け、必要な情報を入力する**

［WINS による名前解決する］
チェックマークを付けると WINS で名前解決を行います。WINS を使用しないときはチェックマークを外してください。

［WINS サーバーアドレス］

WINS サーバーの IP アドレス（IPv4）を入力します。

ご注意

- DHCP サーバーから WINS サーバーの IP アドレスを取得したときは、DHCP サーバーから取得した IP アドレスが優先されます。

6 ［OK］をクリックする

7 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から WINS 設定を行うこともできます。 **＜ WINS 設定＞(P. 456)**

関連項目

IPv4 アドレスを設定する(P. 33)

LDAP サーバーを登録する

23LX-016

LDAP サーバーが導入されている環境では、サーバーに登録されているファクス番号や E メールアドレスを本機から検索して宛先指定したり、本機のアドレス帳に登録したりできます。また、送信機能の認証設定（**LDAP サーバーで認証を行う(P. 361)**）が有効になっている場合には、認証に使用するサーバーを登録する必要があります。LDAP サーバーは認証用と検索用にそれぞれ最大 5 つまで登録できます。なお、登録はリモート UI を使って行います。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［LDAP サーバー設定］をクリックする

4 ［LDAP サーバー(検索用)］または［LDAP サーバー(認証用)］の［新規登録］をクリックする

- LDAP サーバーの登録は検索用と認証用とで分かれています。宛先検索に使用するサーバーは検索用に、送信認証に使用するサーバーは認証用に登録してください。

MEMO

登録済みのサーバー情報を編集するには

- ［サーバー名］の一覧でリンク箇所をクリックします。

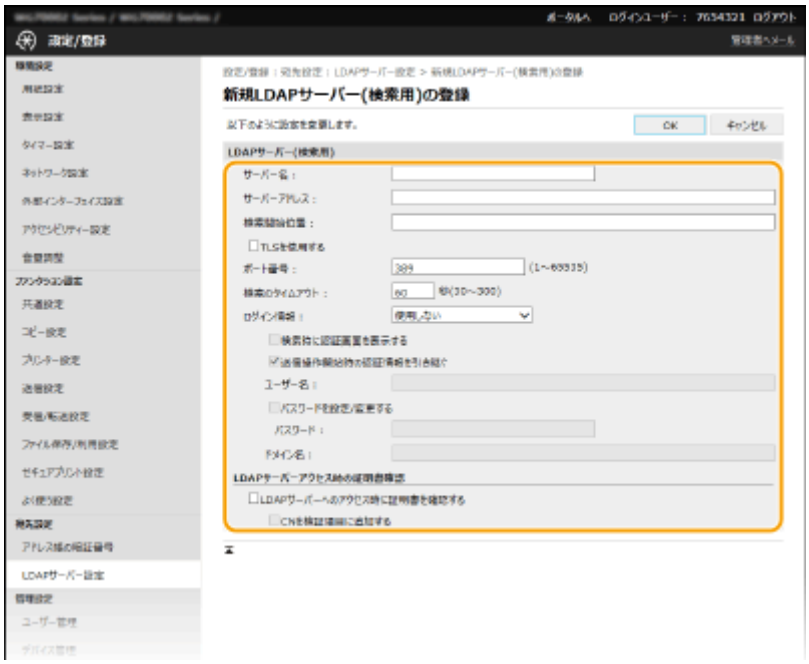
登録済みのサーバーを削除するには

- 削除したいサーバーの右側にある［削除］▶［OK］をクリックします。

5 LDAP サーバーを登録する

■検索用のサーバーを登録する

ファクスや E メールの宛先を検索するときに使用するサーバーを登録します。



[サーバー名]
LDAP サーバーに付ける名称を入力します。

[サーバーアドレス]
LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を半角英数字で入力します（入力例：「ldap.example.com」）。

ご注意

[サーバーアドレス] と DNS について

- 本機から LDAP サーバーに宛先検索を行った際にエラーが発生しないよう、次のことにご留意ください。
  - ホスト名を入力する場合は、DNS サーバーが利用できることを確認してください。
  - IP アドレスを入力する場合は、利用できる DNS サーバーが正引きだけに対応しているか確認してください。DNS サーバーが正引きだけに対応しているときは、[ログイン情報] で [使用しない] または [使用する] を選んでください。[使用する(セキュリティー認証)] を選ぶときは、DNS サーバーが逆引きに対応していることを確認してください。

[検索開始位置]
ディレクトリー情報ツリー（DIT）のどこから検索を始めるかを指定します。省略した場合は自動で任意の位置から検索を開始します。

- 入力するときは、「DC=」に Active Directory のドメイン名のドット「.」で区切られた文字列（ホスト名）を追加したものを、先頭から順にカンマ「,」で区切ります。たとえばドメイン名が「john.example.com」のときは、「DC=john,DC=example,DC=com」のように入力します。

[TLS を使用する]
LDAP サーバーとの通信を TLS で暗号化するときはチェックマークを付けます。

MEMO

- [ログイン情報] で [使用する] または [使用する(セキュリティー認証)] を選んだ場合に有効となります。

[ポート番号]
LDAP サーバーとの通信で使用するポート番号を入力します。

[検索のタイムアウト]
最長何秒間検索を続けるかを指定します。

[ログイン情報]
LDAP サーバーの認証の種類に応じて［使用しない］、［使用する］または［使用する(セキュリティー認証)］を選びます。［使用する］または［使用する(セキュリティー認証)］を選ぶときは、認証するユーザー名やパスワードの設定を行います。

［使用しない］	ログイン情報を使った認証をしないときに選びます。
［使用する］	ログイン情報を使って認証するときに選びます。
［使用する(セキュリティー認証)］	認証パスワードに kerberos プロトコルで取得したデータを使います。本機と LDAP サーバーの時刻を同期させる必要があります。

[検索時に認証画面を表示する]
検索実行時にユーザー名とパスワードの入力を要求させるときはチェックマークを付けます。ただし、ファクスやスキャン機能を使うときに認証した場合は、その認証情報を使って認証します。チェックマークを外すと、［ユーザー名］と［パスワード］の入力内容を使って認証します。

[送信操作開始時の認証情報を引き継ぐ]
ファクスやスキャン機能を使うときに認証した場合、検索時にその認証情報を使用するかどうかを設定します。［検索時に認証画面を表示する］にチェックマークが付いているときは必ず有効となり、チェックマークが付いていないときは無効となります。

[ユーザー名]
LDAP サーバーに登録された本機のユーザー名を入力します。

- ［ログイン情報］で［使用する］を選んだときは、「(Windows のドメイン名) \ (Windows のユーザー名)」の形式で入力します（入力例：「example\user1」)。
- ［使用する(セキュリティー認証)］の場合は、Windows のユーザー名をそのまま入力します（入力例：「user1」)。

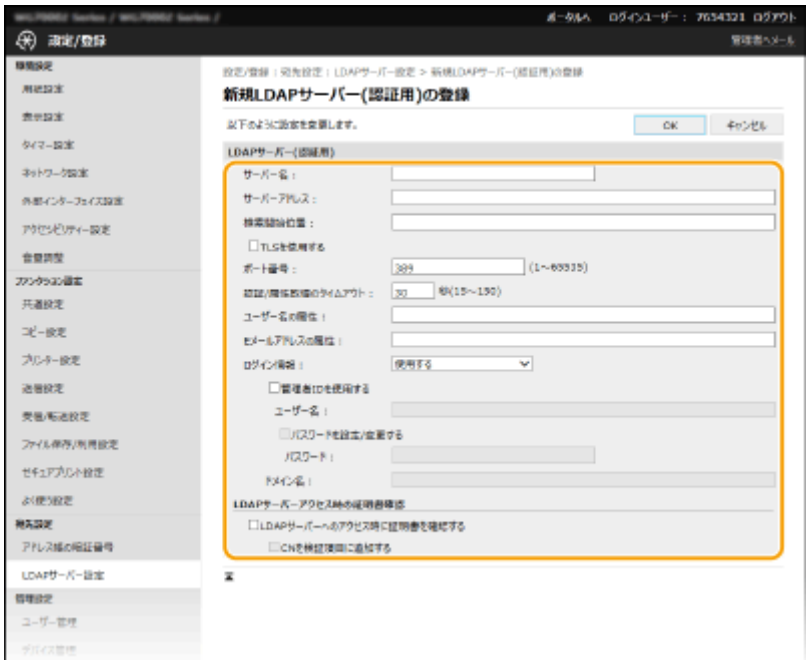
[パスワードを設定/変更する]
パスワードを指定するときはチェックマークを付け、［パスワード］に半角英数字で入力します。

[ドメイン名]
［ログイン情報］で［使用する(セキュリティー認証)］を選んだ場合に、Active Directory のディレクトリーツリー名を半角英数字で入力します（入力例：「example.com」)。

[LDAP サーバーへのアクセス時に証明書を確認する]
LDAP サーバーとの通信を TLS で暗号化するときに証明書を検証する場合はチェックマークを付けます。必要に応じて［CN を検証項目に追加する］にもチェックマークを付けます。

■認証用のサーバーを登録する

ファクスやスキャン機能の使用を制限している場合に、認証に使用するサーバーを登録します。



[サーバー名]
LDAP サーバーに付ける名称を入力します。

[サーバーアドレス]
LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を半角英数字で入力します（入力例：「ldap.example.com」）。

ご注意

[サーバーアドレス] と DNS について

- 本機から LDAP サーバーに宛先検索を行った際にエラーが発生しないよう、次のことにご留意ください。
  - ホスト名を入力する場合は、DNS サーバーが利用できることを確認してください。
  - IP アドレスを入力する場合は、利用できる DNS サーバーが正引きだけに対応しているか確認してください。DNS サーバーが正引きだけに対応しているときは、[ログイン情報] で [使用する] を選んでください。[使用する(セキュリティー認証)] を選ぶときは、DNS サーバーが逆引きに対応していることを確認してください。

[検索開始位置]
ディレクトリー情報ツリー（DIT）のどこから検索を始めるかを指定します。省略した場合は自動で任意の位置から検索を開始します。

- 入力するときは、「DC=」に Active Directory のドメイン名のドット「.」で区切られた文字列（ホスト名）を追加したものを、先頭から順にカンマ「,」で区切ります。たとえばドメイン名が「john.example.com」のときは、「DC=john,DC=example,DC=com」のように入力します。

[TLS を使用する]
LDAP サーバーとの通信を TLS で暗号化するときはチェックマークを付けます。

MEMO

- [ログイン情報] で [使用する] を選んだ場合にのみ有効となります。

[ポート番号]
LDAP サーバーとの通信で使用するポート番号を入力します。

[認証/属性取得のタイムアウト]
認証や属性取得を最長何秒続けるかを指定します。

[ユーザー名の属性]
認証時に入力されたユーザー名との比較に使われる属性名を半角英数字で入力します（入力例：「sAMAccountName」）。

MEMO

- ［ログイン情報］で［使用する(セキュリティー認証)］を選んだときは入力不要です。

[E メールアドレスの属性]
認証サーバーから E メールアドレスを取得するときに使われる属性名を半角英数字で入力します（入力例：「mail」）。

[ログイン情報]
LDAP サーバーの認証の種類に応じて［使用する］または［使用する(セキュリティー認証)］を選びます。

［使用する］	管理者 ID を使って認証するときに選びます。
［使用する(セキュリティー認証)］	認証パスワードに kerberos プロトコルで取得したデータを使います。本機と LDAP サーバーの時刻を同期させる必要があります。

[管理者 ID を使用する]
［ログイン情報］で［使用する］を選んだ場合に、管理者 ID を使って認証するかどうかを設定します。管理者 ID を使用するときはチェックマークを付け、認証するユーザー名やパスワードの設定を行います。チェックマークを外すと、anonymous（ユーザー名なし）でのログインとなります。

[ユーザー名]
LDAP サーバーに登録された本機のユーザー名を「(Windows のドメイン名) \ (Windows のユーザー名)」の形式で入力します（入力例：「example\user1」）。

[パスワードを設定/変更する]
パスワードを指定するときはチェックマークを付け、［パスワード］に半角英数字で入力します。

[ドメイン名]
［ログイン情報］で［使用する(セキュリティー認証)］を選んだ場合に、Active Directory のディレクトリーツリー名を半角英数字で入力します（入力例：「example.com」）。

[LDAP サーバーへのアクセス時に証明書を確認する]
LDAP サーバーとの通信を TLS で暗号化するときに証明書を検証する場合はチェックマークを付けます。必要に応じて［CN を検証項目に追加する］にもチェックマークを付けます。

6 ［OK］をクリックする

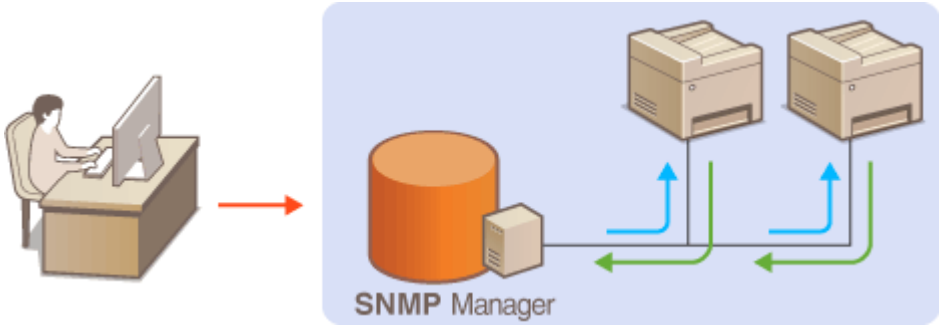
関連項目

- SNTP の設定をする(P. 74)
- ファクス送信の基本操作(P. 224)
- スキャンの基本操作(P. 290)
- LDAP サーバーで認証を行う(P. 361)

SNMP で監視／制御する

23LX-017

Simple Network Management Protocol（SNMP）は、MIB と呼ばれる管理情報データベースをもとに、ネットワーク上の通信機器を監視・制御するためのプロトコルです。本機は SNMPv1 と、セキュリティー機能が強化された SNMPv3 に対応しており、印刷するときやリモート UI を使用するときなどにパソコンから本機の状況を確認できます。SNMPv1 と SNMPv3 はいずれか一方を使用することも、両方を併用することもできます。使用目的や環境に合わせてそれぞれの設定を行ってください。



SNMPv1

SNMPv1 はコミュニティー名と呼ばれる情報で通信範囲を決定しますが、コミュニティー名は平文でネットワークに流されるため、セキュリティー面では脆弱です。安全性を確保したい場合は SNMPv1 を無効にし、SNMPv3 を利用してください。

SNMPv3

SNMPv3 を使用すると、強固なセキュリティー機能を持つネットワーク機器管理を実現できます。設定はリモート UI から行います。あらかじめ TLS を有効にしておいてください（**TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)**）。

MEMO

- 本機の SNMP は、Trap 通知には対応していません。
- SNMP のポート番号を変更するとき **ポート番号を変更する(P. 374)**
- SNMP 管理ソフトウェアが利用できる場合は、これをインストールしたパソコンから本機の設定や監視、制御ができます。詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［ネットワーク設定］▸［SNMP 設定］の順に進む**

4 **［編集］をクリックする**

5 SNMPv1 の設定をする

- SNMPv1 設定を変更しないときは、次の手順に進みます。

[SNMPv1 を使用する]
SNMPv1 を使用するときはチェックマークを付けます。このチェックマークが付いていないと SNMPv1 の他の項目は設定できません。

[コミュニティー名 1 を使用する] ／ [コミュニティー名 2 を使用する]
コミュニティー名を指定するときはチェックマークを付けます。指定しないときはチェックマークを外してください。

[コミュニティー名]
コミュニティー名を半角英数字で入力します。

[MIB アクセス権限]
それぞれのコミュニティーについて、MIB のアクセス権限を［読込/書込］または［読込のみ］から選びます。

［読込/書込］	MIB のオブジェクトへの読み込みと書き込みの両方を許可します。
［読込のみ］	MIB のオブジェクトへの読み込みだけを許可します。

[専用コミュニティーを使用する]
専用コミュニティーは imageWARE Enterprise Management Console など、キヤノンのソフトウェアを使用する管理者用に用意されたコミュニティーです。専用コミュニティーを使用するときはチェックマークを付け、［MIB アクセス権限］を指定します。使用しないときはチェックマークを外してください。

6 SNMPv3 の設定をする

- SNMPv3 設定を変更しないときは、次の手順に進みます。

[SNMPv3 を使用する]
SNMPv3 を使用するときはチェックマークを付けます。このチェックマークが付いていないと SNMPv3 の他の項目は設定できません。

[このユーザーを有効にする]
[ユーザー設定 1] ／ [ユーザー設定 2] ／ [ユーザー設定 3] を有効にするときはチェックマークを付けます。無効にするときはチェックマークを外してください。

[ユーザー名]
ユーザー名を半角英数字で入力します。

[MIB アクセス権限]
MIB のアクセス権限を、[読込/書込] または [読込のみ] から選びます。

[読込/書込]	MIB のオブジェクトへの読み込みと書き込みの両方を許可します。
[読込のみ]	MIB のオブジェクトへの読み込みだけを許可します。

[セキュリティー設定]
認証と暗号化の有無の組み合わせを、[認証あり/暗号化あり]、[認証あり/暗号化なし] または [認証なし/暗号化なし] から選びます。

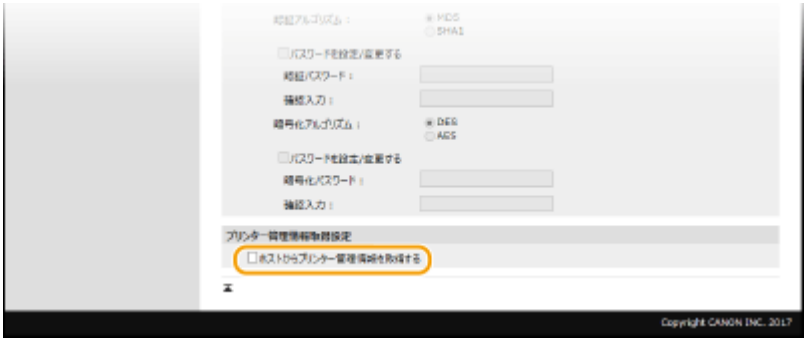
[認証アルゴリズム]
[セキュリティー設定] で [認証あり/暗号化あり] または [認証あり/暗号化なし] を選んだ場合に、お使いの環境に応じた認証アルゴリズムを選択します。

[暗号化アルゴリズム]
[セキュリティー設定] で [認証あり/暗号化あり] を選んだ場合に、お使いの環境に応じた暗号化アルゴリズムを選択します。

[パスワードを設定/変更する]
パスワードを設定または変更するときはチェックマークを付け、[認証パスワード] または [暗号化パスワード] と [確認入力] の両方に同じパスワードを半角英数字で入力します。使用するアルゴリズム（認証／暗号化）ごとに設定します。

7 プリンター管理情報取得の設定をする

- SNMP を使ってネットワーク上のパソコンから、印刷プロトコルやポートなどのプリンター管理情報を定期的に取得できます。



［ホストからプリンター管理情報を取得する］

SNMP を使って本機のプリンター管理情報を監視するときはチェックマークを付けます。監視しない場合はチェックマークを外してください。

8 ［OK］をクリックする

9 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

SNMPv1 を使用しないとき

- プリンタードライバーによる本機からの情報取得など、一部の機能が使用できなくなります。

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から SNMP 設定を有効／無効に切り替えることもできます。 **＜ SNMP 設定＞ (P. 459)**

SNMPv1 と SNMPv3 を併用するとき

- SNMPv1 の MIB アクセス権限を［読込のみ］に設定することをおすすめします。MIB へのアクセス権限は SNMPv1 と SNMPv3 で別々に設定できます（SNMPv3 ではさらにユーザーごとにも設定できます）が、SNMPv1 で［読込/書込］（フルアクセス権限）を設定すると本機のほぼすべての操作ができるため、SNMPv3 の特徴である強固なセキュリティー機能を生かすことができなくなります。

関連項目

TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)

その他のネットワーク設定をする

23LX-018

お使いのネットワーク環境に合わせて、以下の項目の設定をしてください。

FTP の PASV モードを設定する(P. 74)
SNTP の設定をする(P. 74)
デバイス管理システムから本機を監視する(P. 76)

FTP の PASV モードを設定する

PASV はファイル転送時に使用される FTP の通信モードの 1 つで、ファイアウォールを通過して FTP サーバーに接続するには PASV モードを使用する必要があります。あらかじめ FTP サーバー側で PASV モードが設定されているか確認しておいてください。

ご注意

- FTP の PASV モードを設定するかどうかは、お使いのネットワーク環境や送信先の FTP サーバーの設定によって異なります。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ TCP / IP 設定＞ ▶ ＜ FTP の PASV モードを使用＞ ▶ ＜ ON ＞ ▶ 本機を再起動

SNTP の設定をする

SNTP はネットワーク上のタイムサーバーを基準にして時刻を調整するためのプロトコルです。SNTP を使うと一定間隔でタイムサーバーを確認するので、常に正確な時刻を保つことができます。協定世界時（UTC）を基準に動作するので、時差（タイムゾーン）をあらかじめ設定しておいてください（ **日付／時刻を設定する(P. 13)** ）。SNTP の設定はリモート UI を使って行います。

MEMO

- NTP サーバー（NTPv3）と SNTP サーバー（SNTPv3 および v4）の両方に対応しています。
- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、 **本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 ［ネットワーク設定］▶［SNTP 設定］の順に進む

4 ［編集］をクリックする

5 ［SNTP を使用する］にチェックマークを付け、必要な情報を入力する

［SNTP を使用する］
チェックマークを付けると SNTP を使用して時刻調整を行います。使用しないときはチェックマークを外してください。

［NTP サーバー名］
NTP または SNTP サーバーの IP アドレスを入力します。DNS サーバーを利用できるときは、IP アドレスの代わりにホスト名（または FQDN）を半角英数字で入力することもできます（入力例：「ntp.example.com」）。

［ポーリング間隔］
何時間おきに時刻を調整するかを入力します。

6 ［OK］をクリックする

7 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

NTP/SNTP サーバーと通信できるか確認するには

- 登録したサーバーとの通信状況を確認するときは、［設定/登録］▶［ネットワーク設定］▶［SNTP 設定］の［NTP サーバー確認］をクリックします。正しく接続されているときは下の画面のように表示されます（ただし、このときは通信状況を確認するだけで、時刻合わせは行いません）。

デバイス管理システムから本機を監視する

imageWARE Enterprise Management Console などのデバイス管理ソフトウェア*を導入した環境では、サーバーを介してネットワーク上の機器の設定情報、障害情報など、さまざまな情報を収集・管理できます。このような環境に本機を接続すると、imageWARE Enterprise Management Console は情報を収集するために Service Location Protocol（SLP）などのプロトコルを使って本機を探索し、電源状態についての情報などを収集します。このとき使用される SLP 通信の設定は、リモート UI を使って行います。また、imageWARE Enterprise Management Console のプラグインに対する通信の設定についても説明します。

*imageWARE Enterprise Management Console についての詳細は、お近くのキヤノン販売店にお問い合わせください。

MEMO

imageWARE Enterprise Management Console のプラグインを使うには

- 専用ポート設定と SNMP 設定を有効にする必要があります。SNMP 設定は、SNMPv1 および SNMPv3 の両方とも［MIB アクセス権限］を［読込/書込］に設定してください。
  ＜専用ポートを使用＞(P. 460)
  SNMP で監視／制御する(P. 70)

リモート UI の操作について

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

■デバイス管理ソフトウェアとの SLP 通信を設定する

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 ［ネットワーク設定］をクリックする

4 SLP の設定をする

■デバイス探索の設定をする

1 ［マルチキャスト探索設定］▶［編集］の順に進む

2 ［探索応答する］にチェックマークを付け、必要な情報を入力する

［探索応答する］
チェックマークを付けるとデバイス管理ソフトウェアからの探索パケットに応答し、管理下に入ります。

MEMO

- 探索応答で使用するポート番号を変更するには **ポート番号を変更する(P. 374)**

［スコープ名］
本機を特定のスコープに所属させる場合は、スコープ名を半角英数字で入力します。

3 ［OK］をクリックする

■電源状態の通知設定をする

1 ［スリープ通知設定］▶［編集］の順に進む

2 ［通知する］にチェックマークを付け、必要な情報を入力する

［通知する］
チェックマークを付けると本機の電源状態がデバイス管理ソフトウェアに通知されます。節電状態中における無駄な通信の削減や、総消費電力の抑制などの効果が期待できます。

［ポート番号］
管理ソフトウェアとの SLP 通信で使用するポート番号を入力します。

［通過させるルーター数］
SLP 通信パケットが最大で何台のルーターを通過できるかを指定します。

［通知間隔］
何秒おきに本機の電源状態を通知するかを入力します。

3 ［OK］をクリックする

5 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

■プラグインとの通信を設定する

imageWARE Enterprise Management Console のプラグインと通信できるように設定します。プラグインを使うと、本機の設定値を imageWARE Enterprise Management Console から管理できます。

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜デバイス設定値管理＞ ▶ ＜ ON ＞ ▶ 🏠

ドライバーをインストールする

23LX-019

各種ドライバー、関連ソフトウェアなどをパソコンにインストールします。

1 インストールする前に準備する

- あらかじめオプション機器を本体に装着しておいてください。 **オプション機器について(P. 774)**
- パソコンに CD-ROM をセットしてください。
- ドライバーやソフトウェアをダウンロードする場合は、キヤノンホームページ（canon.jp）からお使いになるドライバーやソフトウェアをダウンロードしてください。

MEMO

- ドライバーやソフトウェアの最新版は、キヤノンホームページに随時掲載されます。動作環境などをご確認の上、必要に応じてダウンロードしてください。
- お使いの機種や環境によっては、一部の機能をお使いいただけないことがあります。
- OS によっては一部対応していないドライバーもあります。最新の OS の対応状況については、キヤノンホームページでご確認ください。

2 インストールを実行する

- インストール方法について詳しくは、お使いになるドライバーやソフトウェアのマニュアルを参照してください。 **ドライバー(P. 795)**

ご注意

- ［ファイアウォール設定］で送受信を許可されていない IP アドレスの場合、ドライバーをインストールできません。詳しくは、 **IP アドレスでファイアウォールを設定する(P. 368)** を参照してください。
- ドライバーをインストールしたパソコンの IP アドレスが［ファイアウォール設定］で送受信を許可されなくなった場合、そのパソコンから印刷またはファクス送信は行えません。

ファクスの設定をする

23LX-01A

Step 1 ～ 4 の順でファクス設定を行います。はじめに用途に合ったファクスの受信方法を確認し、そのあとは画面の指示に従って登録と設定をします。下のリンクをクリックして該当するページに飛び、詳細を確認してください。

Step 1	ファクスの用途を確認する(P. 81)

Step 2	ファクス番号とユーザー略称を登録する(P. 82)

Step 3	受信モードを設定する(P. 83)

Step 4	電話回線に接続する(P. 84)

ファクスの用途を確認する

23LX-01C

ファクスの受信方法には次の 4 つがあります。ファクスの設定をする前に、用途に合った受信モードを確認してください。

用途	受信モード	
ファクスしか使わない／ 通話はしない	**＜自動受信＞** ファクス受信専用ですので通話はできません。電話機やオプションのハンドセットは接続しません。	
おもに通話する／ファクスはほとんど使わない	**＜手動受信＞** 電話機またはオプションのハンドセットを接続して使います。おもに通話するときの設定ですが、相手がファクスの場合でも手動で受信可能です。	
ファクスも電話も使う	留守番電話機を使う	**＜留守 TEL 接続＞** 留守番電話機を接続します。不在のときにかかってきた電話は、留守番電話に録音します。また、ファクスの場合は自動的に受信します。
	一般の電話機またはオプションのハンドセットを使う	**＜ FAX / TEL 切替＞** 電話機またはオプションのハンドセットを接続します。ファクスの場合は自動的に受信し、電話がかかってきたときは呼び出し音が鳴ります。

MEMO

- 接続する電話機の種類によっては、発信や着信が正常にできないことがあります。

» **続いて、 ▶ファクス番号とユーザー略称を登録する(P. 82) に進む**

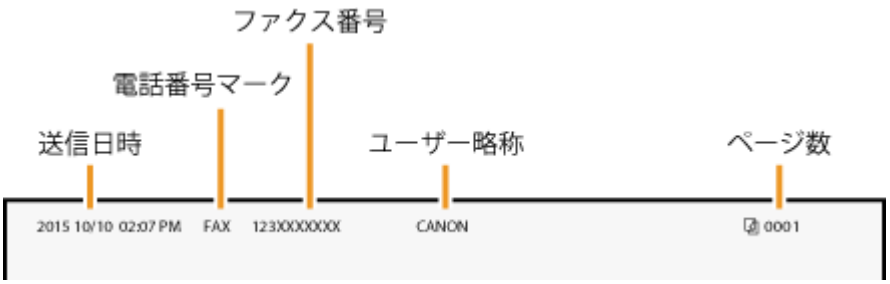
関連項目

▶ファクスを受信する(P. 233)

ファクス番号とユーザー略称を登録する

23LX-01E

発信元のファクス番号とユーザー略称を登録します。これらの情報は、相手がファクスを受信したときに、出力紙の上部に印刷されます。



1 **ホーム画面で、<メニュー>を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

2 **<ファンクション設定> ▸ <共通> ▸ <ファクス設定ナビ>の順に進む**

3 **<設定する>を選ぶ**

4 **<次へ>を選ぶ**

5 **ファクス番号を入力し、<確定>を選ぶ**

6 **<次へ>を選ぶ**

7 **ユーザー略称（名前や会社名など）を入力し、<確定>を選ぶ**

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

➠ ユーザー略称の登録が終わると、受信モードを設定する画面が表示されます。

» **続いて、** **受信モードを設定する(P. 83)** **に進む**

関連項目

ファクスを受信する(P. 233)

受信モードを設定する

23LX-01F

あらかじめ **ファクスの用途を確認する(P. 81)** で確認した受信モードを、ここで設定します。

1 ＜次へ＞を選ぶ

2 受信モードを選ぶ

- 用途に応じて、＜はい＞または＜いいえ＞を選んで受信モードを選択します。

■＜自動受信＞にする場合

＜いいえ＞を選ぶ

■＜留守 TEL 接続＞にする場合

＜はい＞ ▶ ＜はい＞の順に進む

■＜ FAX / TEL 切替＞にする場合

＜はい＞ ▶ ＜いいえ＞ ▶ ＜はい＞の順に進む

■＜手動受信＞にする場合

＜はい＞ ▶ ＜いいえ＞ ▶ ＜いいえ＞の順に進む

3 ＜確定＞を選ぶ

➠ 受信モードの設定が終わると、電話回線の接続方法が表示されます。

» **続いて、 電話回線に接続する(P. 84) に進む**

関連項目

ファクスを受信する(P. 233)

電話回線に接続する

23LX-01H

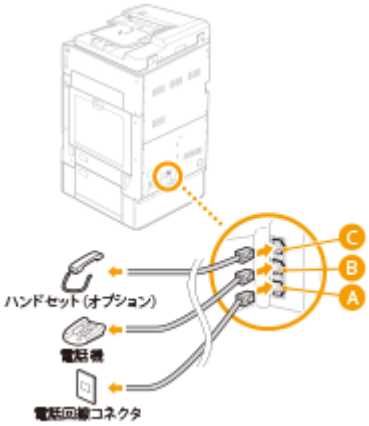
本機を電話回線に接続します。

ご注意

- 本機は NTT のアナログ回線に準拠しており、一般の加入電話回線のみに接続できます。ビジネスホンなどを接続している専用回線に接続すると故障の原因となる場合があります。必ず回線を確認してから接続してください。また、光回線（ひかり電話）や ADSL に接続する場合は、光回線や IP 電話の事業者にお問い合わせください。

1 本機を電話回線に接続する

- 付属の電話コードを使って、電話回線端子（A）と壁側の電話回線コネクタを接続します。
- 電話機や留守番電話機を使いたい場合は、外付け電話機用端子（B）に接続します。
- オプションのハンドセットを使いたい場合は、ハンドセット用端子（C）に接続します。



MEMO

- ファクス機能付きの電話機を接続する場合は、電話機側のファクス自動受信設定を無効にしてください。

2 接続が終わったら、＜終了＞を選ぶ

3 ＜はい＞を選ぶ

電話回線の種類が自動で設定されないとき

本機を構内交換機（PBX）に接続したり、ホームテレホンやビジネスホンが接続されている回線に接続したりすると、電話回線種類が自動的に設定されないことがあります。このときは、次のようにして設定してください。なお、電話回線の種類がわからないときは、ご利用の電話会社にお問い合わせください。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <回線設定> ▶ <回線種類の選択> ▶ 電話回線の種類を選択 ▶ 🏠

関連項目

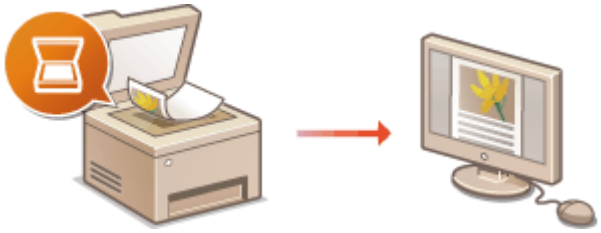
ファクス送信の基本操作(P. 224)
ファクスを受信する(P. 233)

スキャンの設定をする

23LX-0E5

スキャンした原稿をパソコンを介さず直接 E メールや I ファクスで送信したり、共有フォルダーや FTP サーバーに保存したりする場合、ネットワークの設定が必要です。使用目的やネットワーク環境に応じて、必要な設定を行ってください。

パソコンへの保存

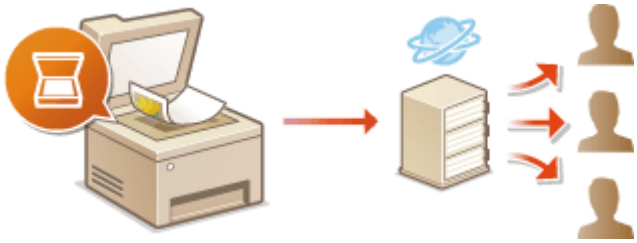


スキャナーとして使うための準備をする(P. 87)

E メール送信または I ファクス送信

E メール送信／I ファクス送受信設定の流れ(P. 88)

共有フォルダーへの保存



共有フォルダーへの保存設定の流れ(P. 93)

FTP サーバーへの保存

FTP サーバーへの保存設定の流れ(P. 94)

関連項目

プルスキャン機能の仕様（標準装備）(P. 761)
インターネット FAX 送受信機能（標準装備）(P. 766)
プッシュスキャン機能の仕様（標準装備）(P. 762)

スキャナーとして使うための準備をする

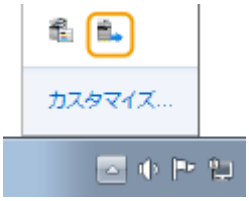
23LX-01K

本機をスキャナーとして使うには、パソコンにソフトウェアをインストールするなどのいくつかの準備が必要です。詳しくは、ドライバーのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。また、Windows で本機とパソコンを無線 LAN または有線 LAN で接続する場合は、以下の手順で「WG Network Scanner Selector」に本機を登録する必要があります。なお、USB で接続している場合は登録不要です。

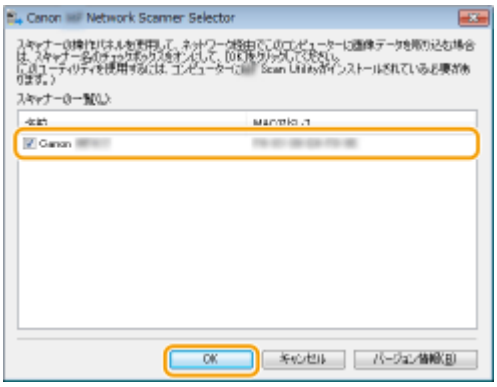
ご注意

- IPv6 環境で本機とパソコンを接続してスキャン機能を使うことはできません。IPv4 環境または USB 接続でご使用ください。

1 タスクトレイに表示されている をクリックする



2 本機にチェックマークを付けて、［OK］をクリックする



E メール送信／I ファクス送受信設定の流れ

23LX-0E6

設定の順序を確認し、必要に応じて詳細な手順を参照してください。

1

本機とパソコンが正しく接続されているか確認する

無線 LAN に接続する(P. 19)
有線 LAN に接続する(P. 18)

2

次の情報が手元にあるか確認する

- 本機の IP アドレス **ネットワークの設定を確認する(P. 39)**
- 宛先として登録する E メールアドレス
- メールサーバーの設定情報（SMTP サーバー名、ポート番号、認証の有無、認証に使うユーザー名やパスワードなど）

MEMO

- メールサーバーの設定については、プロバイダーやネットワーク管理者にお問い合わせください。

3

設定を行う

- E メール／I ファクスの通信設定 **E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)**

E メール／I ファクスの通信設定をする

23LX-01S

I ファクスを本機で送受信する場合や、E メール／I ファクスの送信前の POP 認証や通信の暗号化など、送受信の詳細な設定を行うときはリモート UI を使います。必要な設定内容については、プロバイダーやネットワーク管理者にお問い合わせください。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［送信設定］▶［ネットワーク設定-E メール/I ファクス設定］の順に進む**

4 **［編集］をクリックする**

5 **必要な情報を入力する**

［SMTP サーバー］
E メールや I ファクスを送信するための SMTP サーバーの名称（または IP アドレス）を半角英数字で入力します。

［E メールアドレス］
使用する E メールアドレスを半角英数字で入力します。

［POP サーバー］
I ファクスを受信したり、送信前の POP 認証を使用したりするときは、POP3 サーバーの名称（または IP アドレス）を半角英数字で入力します。

［ユーザー名］
POP3 サーバーを使用するときは、指定メールアカウントのユーザー名を半角英数字で入力します。

［パスワードを設定/変更する］

POP3 サーバーを使用する場合にパスワードを設定または変更するときは、チェックマークを付け、［パスワード］に半角英数字で入力します。

■I ファクスの受信に必要な設定をする

［POP 受信する］
I ファクスを受信するときはチェックマークを付けます。

［POP 発行間隔］
POP3 サーバーへ自動的に接続する間隔を分単位で設定します。サーバーに I ファクス文書があれば、自動受信して印刷します。

MEMO

自動受信を行わないようにする

- ［POP 発行間隔］を［0］に設定します。［0］に設定したときは手動で I ファクスを受信してください。 **I ファクスを手動で受信する(P. 261)**

■送信前の POP 認証を設定する

送信前の POP 認証（POP before SMTP）とは、E メールや I ファクスの送信前に POP3 サーバー（受信メールサーバー）によるユーザー確認を行うことで、第三者による不正な送信を防止する機能です。

［送信前の POP 認証する］
E メールや I ファクスの送信前に POP3 サーバーを使って認証をするときはチェックマークを付けます。

［APOP 認証する］
認証時にパスワードを暗号化する APOP 認証を使うときはチェックマークを付けます。

■SMTP 認証を設定する

SMTP 認証（SMTP AUTH）を設定すると、E メールや I ファクスの送信時にユーザー名とパスワードによるユーザー確認を行います。

［SMTP 認証(SMTP AUTH)する］

SMTP 認証を使用するときはチェックマークを付け、指定アカウントの［ユーザー名］を半角英数字で入力します。

［パスワードを設定/変更する］

パスワードを指定するときはチェックマークを付け、［パスワード］を半角英数字で入力します。

■暗号化通信を設定する

SMTP サーバーや POP3 サーバーとの通信の暗号化を設定します。

［SMTP で TLS を使用する］

SMTP サーバーとの通信を TLS で暗号化するときはチェックマークを付けます。必要に応じて［証明書を検証する］や［CN を検証項目に追加する］にもチェックマークを付けます。

［POP で TLS を使用する］

POP3 サーバーとの通信を TLS で暗号化するときはチェックマークを付けます。必要に応じて［証明書を検証する］や［CN を検証項目に追加する］にもチェックマークを付けます。

6 ［OK］をクリックする

7 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

ご注意

- お使いの環境によっては SMTP や POP3 のポート設定に変更が必要な場合があります（ **ポート番号を変更する(P. 374)** ）。詳しくは、プロバイダーやネットワーク管理者にお問い合わせください。

関連項目

E メール送信／I ファクス送受信設定の流れ(P. 88)
E メールの設定をする(P. 323)
スキャンの基本操作(P. 290)
インターネットファクスを使う（I ファクス）(P. 253)

共有フォルダーへの保存設定の流れ

23LX-0E7

設定の順序を確認し、必要に応じて詳細な手順を参照してください。

1

本機とパソコンが正しく接続されているか確認する

無線 LAN に接続する(P. 19)
有線 LAN に接続する(P. 18)

2

本機と共有フォルダーの情報が手元にあるか確認する

- 本機の IP アドレス **ネットワークの設定を確認する(P. 39)**
- 共有フォルダーのあるパソコンのコンピューター名 **コンピューター名の確認方法(P. 786)**
- 共有フォルダーへのパスやフォルダー名（アクセス制限が設定されているときは、設定したユーザー名とパスワードも必要）

3

設定を行う

ネットワーク環境を設定する(P. 15)
使用するネットワーク環境に合わせる(P. 52)
SMB の設定をする(P. 61)

FTP サーバーへの保存設定の流れ

23LX-01X

設定の順序を確認し、必要に応じて詳細な手順を参照してください。

1

本機とパソコンが正しく接続されているか確認する

無線 LAN に接続する(P. 19)
有線 LAN に接続する(P. 18)

2

本機と FTP サーバーの情報が手元にあるか確認する

- 本機の IP アドレス **ネットワークの設定を確認する(P. 39)**
- FTP サーバー名
- FTP サーバーへのパスやフォルダー名
- ユーザー名、パスワード（設定されているときのみ）

MEMO

- FTP サーバーへのパスやフォルダー名、ユーザー名、パスワードについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- FTP のポート番号を変更するとき **ポート番号を変更する(P. 374)**

3

PASV モードを使用する必要がないか確認する

- 本機と FTP サーバーの間にファイアウォールが設けられている場合、PASV モードの設定が必要です。 **FTP の PASV モードを設定する(P. 74)**

MEMO

- ＜ HTTP を使用＞や＜リモート UI を使用＞が＜ ON ＞に設定されていることも確認してください。
  HTTP 通信を無効にする(P. 412)
  リモート UI を無効にする(P. 413)

4

FTP サーバーの宛先を登録する **リモート UI から宛先を登録する(P. 428)**

基本操作

基本操作 97

各部の名称とはたらき 100

本体前面 101

USB メモリーを差し込む 103

本体背面 105

本体内部 106

フィーダー 107

手差しトレイ 109

給紙カセット 110

操作パネル 112

電源を入れる 114

電源を切る 115

決まった時刻に電源を切る 116

操作パネルを使う 118

おもな画面 119

ホーム画面 120

＜状況確認＞画面 123

メッセージ表示 125

おもな操作方法 126

文字を入力する 129

ログインする 131

原稿をセットする 133

用紙をセットする 137

用紙の基本的なセット方法 139

封筒をセットする 145

はがきをセットする 152

ロゴなどが印刷された用紙をセットする 154

用紙サイズと種類を設定する 157

給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する 158

手差しトレイの用紙サイズと種類を設定する 161

手差しトレイでよく使う用紙サイズと種類を登録する 164

定形外サイズの用紙を登録する（ユーザー設定用紙） 167

手差しトレイの用紙サイズを絞り込んで表示する 168

機能ごとに適切な給紙部を自動選択させる 169

用紙カセットの自動検知サイズを設定する 170

A5/STMT 用紙を区別する 171
A4/LTR 用紙を区別する 172
B5/16K/EXEC 用紙を区別する 173
ディスプレーをカスタマイズする 174
ホーム画面をカスタマイズする 175
よく使う設定を登録する 178
機能の初期値を変更する 180
音を設定する 182
スリープモードにする 184
宛先を登録する 186
アドレス帳に宛先を登録する 188
アドレス帳にグループを登録する 191
アドレス帳に登録した宛先を編集する 193

基本操作

23LX-01Y

操作パネルの使いかたや用紙のセット方法など、本機の各機能をお使いになるうえで共通する基本的なことがらについて説明しています。

■各部の名称とはたらき

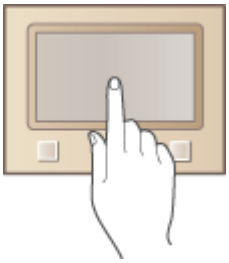
本体の外観と内部について、各部の名前とそのはたらきをご紹介しています。また、操作パネルの各キーの使いかたや、ディスプレーに表示される画面についても説明しています。 **各部の名称とはたらき(P. 100)**

■電源を入れる

電源の入れかたや切りかたについて説明します。 **電源を入れる(P. 114)**

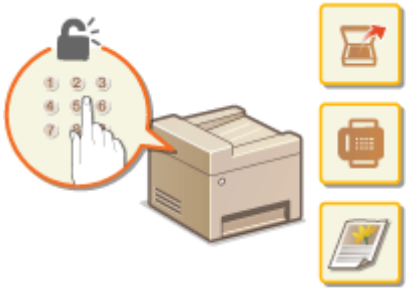
■操作パネルを使う

項目を選ぶときや設定値を調整するときなどの使いかたについて説明しています。また、文字や数字の入力方法についても説明します。 **操作パネルを使う(P. 118)**



■ログインする

暗証番号の入力画面が表示されたときの操作方法について説明しています。 **ログインする(P. 131)**

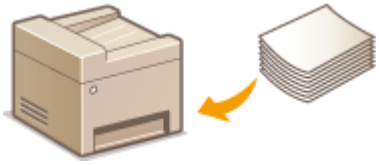


■原稿をセットする

原稿台ガラスやフィーダーに原稿をセットする方法について説明しています。 **原稿をセットする(P. 133)**

■用紙をセットする

給紙カセットや手差しトレイに用紙をセットする方法について説明しています。 **用紙をセットする(P. 137)**



■ディスプレーをカスタマイズする

ディスプレーに表示される画面をより使いやすくするために、ボタンを並べ替えたり、ショートカットボタンを作成したりする方法を説明します。 **ディスプレーをカスタマイズする(P. 174)**

■機能の初期値を変更する

機能を呼び出したときに最初に表示される設定値を変更する方法について説明しています。 **機能の初期値を変更する(P. 180)**

■音を設定する

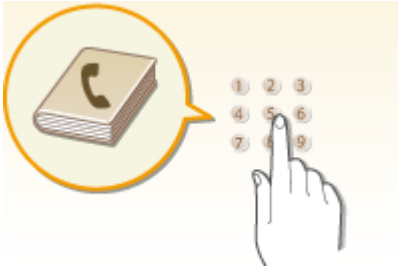
ファクス送受信の完了音や操作エラー時の警告音など、各種音量の内容と設定方法について説明しています。 **音を設定する(P. 182)**

■スリープモードにする

スリープモード（節電状態）にする方法について説明しています。 **スリープモードにする(P. 184)**

■宛先を登録する

ファクスやスキャンの送信宛先を登録する方法について説明しています。 **宛先を登録する(P. 186)**



各部の名称とはたらき

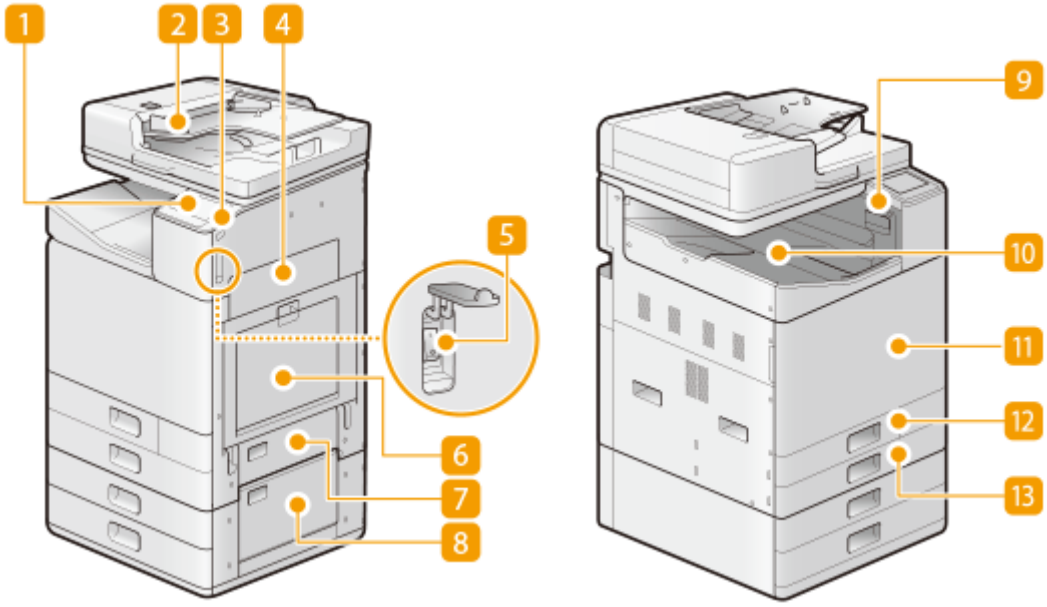
23LX-020

基本操作に関わる各部について本体外観、前面、背面、内部とそれぞれの部位ごとに名称とはたらきをご紹介します。また、用紙のセットやインクタンク交換など、基本操作に関わる各部について個別に取り上げているほか、操作パネルのキーやディスプレーの表示についても説明しています。円滑に操作していただく一助としてご活用ください。

本体前面(P. 101)
本体背面(P. 105)
本体内部(P. 106)
フィーダー(P. 107)
手差しトレイ(P. 109)
給紙カセット(P. 110)
操作パネル(P. 112)

本体前面

23LX-0E8



1 操作パネル

ホームキー、ストップキー、各種ランプ、ディスプレーなどが配置されており、操作／設定はすべてこの操作パネルから行います。

操作パネル(P. 112)
おもな画面(P. 119)

2 フィーダー（原稿送り装置）

ここに原稿をセットして操作すると、原稿が自動的に読み込まれます。2 枚以上の原稿を連続して読み込むこともできます。 **フィーダー(P. 107)**

3 USB ポート（USB 機器用）

市販の USB メモリーを接続します。USB メモリー接続時は、メモリー内のデータを印刷したり、読み込んだ原稿を保存したりすることができます。

USB メモリーを差し込む(P. 103)
USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）(P. 276)
USB メモリーにファイルを保存する(P. 293)

4 本体右カバー

用紙がつまったときに、このカバーを開いて用紙を取り除きます。 **本体内部に用紙がつまった(P. 731)**

5 電源スイッチ

電源を入れたり、切ったりします。本機を再起動するには、電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

電源を入れる(P. 114)
電源を切る(P. 115)

6 手差しトレイ

給紙カセットにセットされていない用紙を一時的に使うときなどは、ここにセットします。

手差しトレイ(P. 109)
手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)

7 標準カセットのサイドカバー

用紙がつまったときに、このカバーを開いて用紙を取り除きます。 **給紙部に用紙がつまった(P. 736)**

8 2段カセットペディスタルのサイドカバー

用紙がつまったときに、このカバーを開いて用紙を取り除きます。 **給紙部に用紙がつまった(P. 736)**

9 ガラス清掃シート保管 BOX

ガラス清掃シートを収納するボックスです。

10 排紙トレイ

印刷が終わると、用紙はここに排紙されます。

11 本体前カバー

インクタンクやメンテナンスカートリッジ、プリントヘッドを交換するときに、このカバーを開けます。

- 前カバーは、通常ロックされているので無理に開けないでください。

インクタンクを交換する(P. 570)
メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)
プリントヘッドを交換する(P. 578)

12 給紙カセット 1

よく使う用紙は、ここにセットします。 **給紙カセット(P. 110)**

13 給紙カセット 2

よく使う用紙は、ここにセットします。A3 サイズなど、給紙カセット 1 にセットできないサイズの用紙もセットできます。 **給紙カセット(P. 110)**

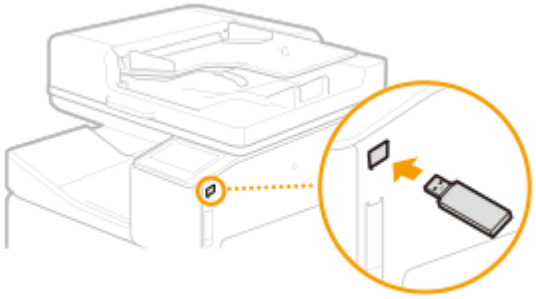
MEMO

- オプション装着時の本製品の構成については、 **オプションについて(P. 773)** を参照してください。

USB メモリーを差し込む

23LX-022

本体右側面にある USB ポートに USB メモリーを差し込みます。USB メモリー内のデータを直接印刷したり、読み込んだ原稿を直接 USB メモリーに保存したりすることができます。



ご注意

USB メモリーを使う前に確認してください

- USB メモリーの対応フォーマットは FAT16 および FAT32 です。
- ＜スキャン機能を使用＞と＜プリント機能を使用＞を＜ ON ＞に設定してください。 **＜メモリーメディア設定＞ (P. 534)**

次のような機器や使用のしかたはサポートしていません

- セキュリティー機能付きの USB メモリー
- USB 規格に準拠していない USB メモリー
- USB 接続のメモリーカードリーダー
- USB ハブ経由での USB メモリーの使用

USB メモリーの取り扱いについて

- USB メモリーを挿入する前に、USB メモリーが正しい向きになっているか確認してください。間違った向きで差し込もうとすると、USB メモリーと本体が故障する原因になります。
- データの読み込み／書き込み中は、USB メモリーを抜いたり、衝撃や振動を与えたりしないでください。また、処理中に電源を切らないでください。
- USB メモリーによっては正しくデータを保存できない場合があります。
- ご使用の USB メモリーが本製品の USB メモリー接続部に取り付けられない場合は、USB メモリー用延長ケーブルが必要なことがあります。電器店にてお買い求めください。

■USB メモリーを取り外す

ご注意

- USB メモリーを取り外すときは、必ず手順に従って行ってください。手順以外の方法で USB メモリーを取り外した場合、USB メモリーと本体が故障する原因になります。

1 ＜状況確認＞を選ぶ

2 ＜ﾒﾃﾞｨｱ取り外し＞を選ぶ

➠ ＜メモリーメディアを取り外すことができます。＞と表示されるまでお待ちください。

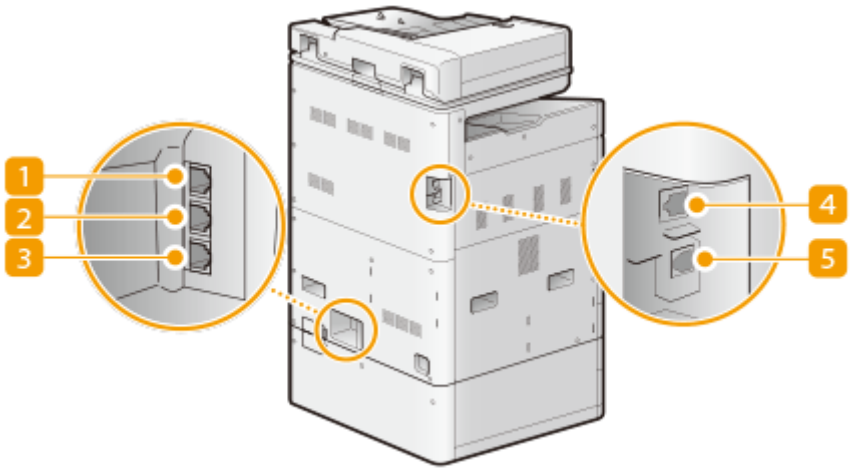
3 USB メモリーを取り外す

関連項目

USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）(P. 276)
USB メモリーにファイルを保存する(P. 293)

本体背面

23LX-0E9



1 ハンドセット接続端子（HAND SET）

オプションのハンドセットを接続します。 ▶**電話回線に接続する(P. 84)**

2 外付け電話機用端子（EXT.）

電話機を接続します。 ▶**電話回線に接続する(P. 84)**

3 電話回線端子（LINE 1）

電話回線に接続します。 ▶**電話回線に接続する(P. 84)**

4 LAN ポート

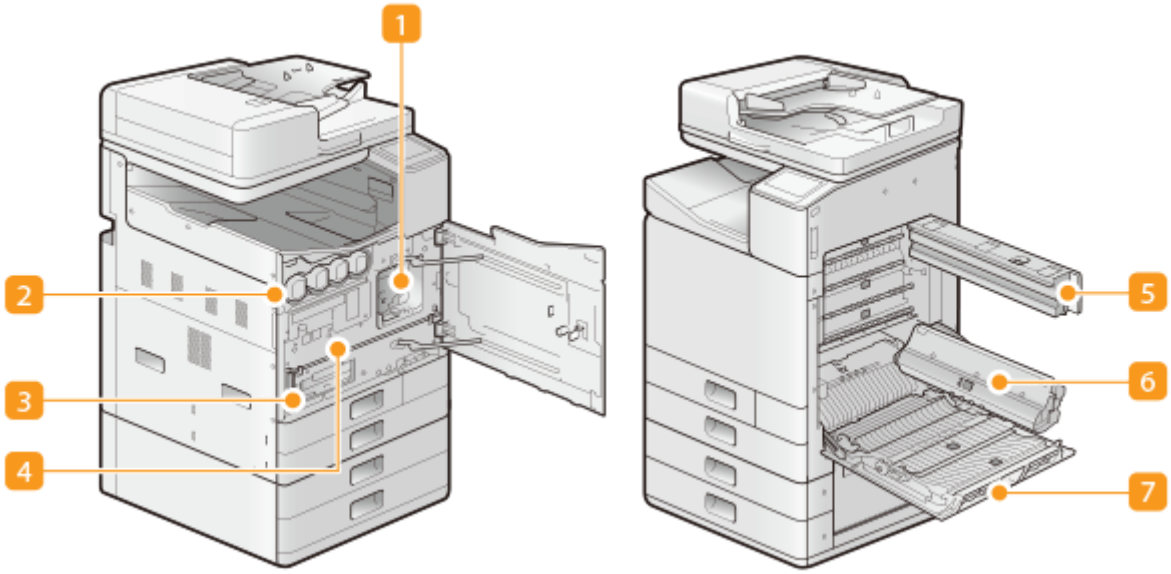
市販の LAN ケーブルを使って有線 LAN ルーターやハブなどに接続します。 ▶**有線 LAN に接続する(P. 18)**

5 USB ポート（パソコン接続用）

市販の USB ケーブルを使ってパソコンに接続します。

本体内部

23LX-0EA



1 プリントヘッド

プリントする用紙にインクを吐出します。プリントヘッドが寿命に達したときは交換します。 **プリントヘッドを交換する(P. 578)**

2 インクタンク

インクタンクをセットします。各スロットに左から右に向かって、BK（ブラック）、C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）の各インクタンクをセットします。 **インクタンクを交換する(P. 570)**

3 メンテナンスカートリッジ

ヘッドクリーニングなど、メンテナンスで使用したインクを吸収します。メンテナンスカートリッジがいっぱいになったら交換します。 **メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)**

4 プリントヘッド固定部材

本機を輸送するときに使用します。 **本機を輸送する(P. 593)**

5 搬送ユニットカバー 1

本体に用紙がつまったときは、ここを確認します。 **本体内部に用紙がつまった(P. 731)**

6 搬送ガイドボックス

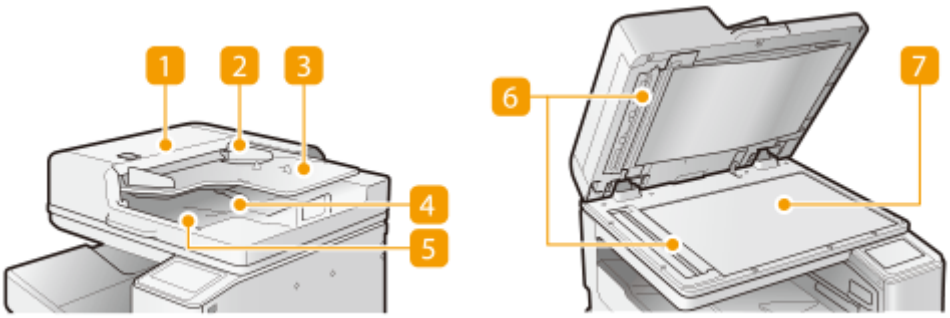
印字するためにプリントヘッドの前に用紙を搬送するガイドです。本体に用紙がつまったときは、ここを確認します。 **本体内部に用紙がつまった(P. 731)**

7 搬送ユニットカバー 2

本体に用紙がつまったときは、ここを確認します。 **本体内部に用紙がつまった(P. 731)**

フィーダー

23LX-0EC



1 フィーダーカバー

フィーダーにつまった原稿を取り除くときにこのカバーを開けます。 **フィーダーに原稿がつまった(P. 728)**

2 原稿ガイド

原稿の幅に合わせ、このガイドを調節します。

3 原稿給紙トレイ

ここに原稿をセットして操作すると、原稿が自動的に読み込まれます。2 枚以上の原稿を連続して読み込むこともできます。 **原稿をセットする(P. 133)**

- 読み取る面を上向きにセットしてください。

4 原稿ストッパー

原稿がきれいに排紙されるよう調節するためのストッパーです。

5 原稿排紙トレイ

読み込まれた原稿がここに排紙されます。

6 フィーダー原稿読み取りエリア

フィーダーにセットした原稿は、この部分で読み込まれます。

7 原稿台ガラス

書籍や厚紙／薄紙の原稿など、フィーダーにセットできない原稿をセットします。 **原稿をセットする(P. 133)**

- 読み取る面を下向きにセットしてください。

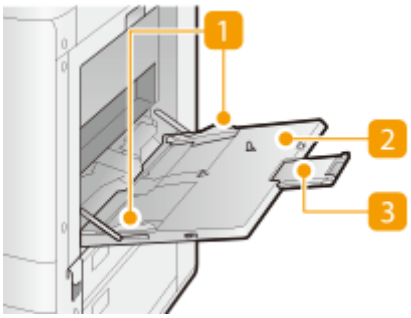
ご注意

- 原稿排紙部には物を置かないでください。原稿損傷の原因となります。

- 快適なプリント結果を得るために、フィーダーや原稿台ガラスを定期的に清掃してください。 **日常のお手入れ (P. 551)**

手差しトレイ

23LX-0EE



1 用紙ガイド

セットした用紙がまっすぐ引き込まれるように、用紙の幅にぴったり合わせます。

2 用紙トレイ

用紙をセットするときに開きます。

- 印刷面が下になるように横向きにセットしてください。

3 延長トレイ

大きなサイズの用紙をセットするときに引き出します。

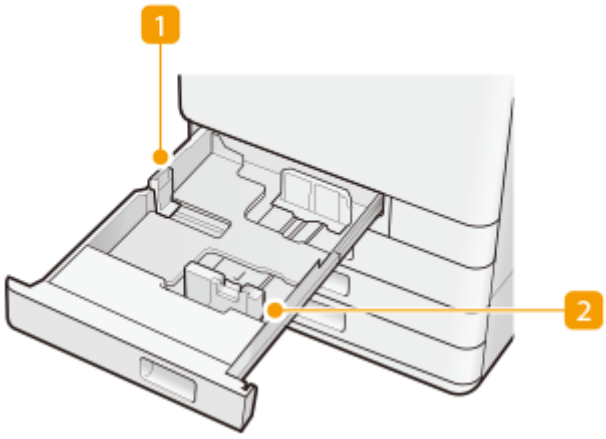
関連項目

手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)
封筒をセットする(P. 145)
はがきをセットする(P. 152)

給紙カセット

23LX-0EF

給紙カセット 1



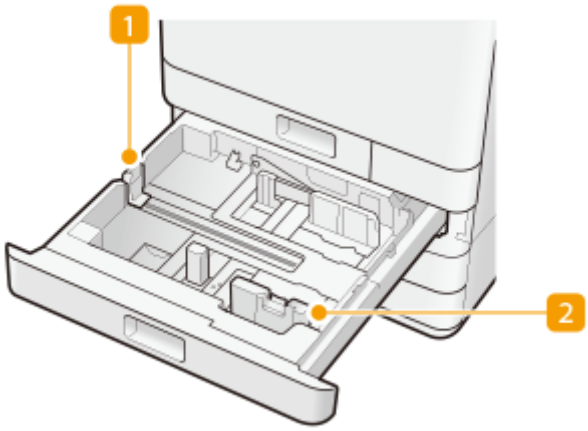
1 用紙ガイド（左側ガイド）

左側ガイドの上部をつまみながらスライドさせて、用紙ガイドを移動します。

2 用紙ガイド（前側ガイド）

前側ガイドの上部をつまみながらスライドさせて、用紙ガイドを移動します。

給紙カセット 2



1 用紙ガイド（左側ガイド）

左側ガイドの上部をつまみながらスライドさせて、用紙ガイドを移動します。

2 用紙ガイド（前側ガイド）

前側ガイドの上部をつまみながらスライドさせて、用紙ガイドを移動します。

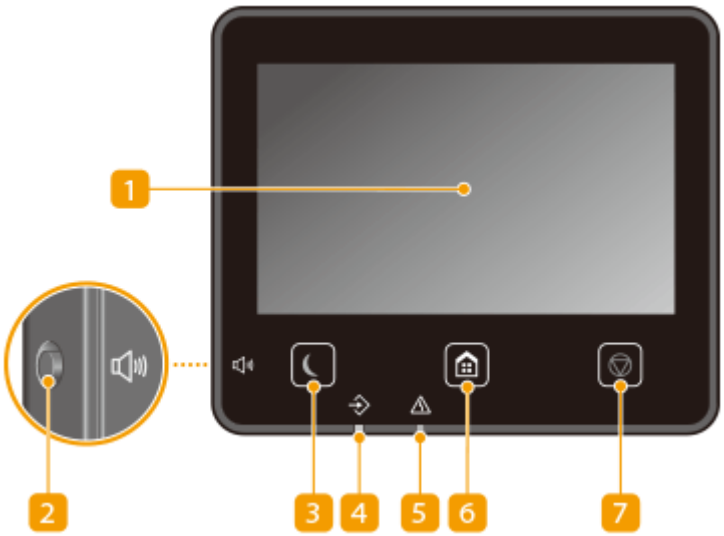
関連項目

給紙カセットに用紙をセットする(P. 139)

オプション機器について(P. 774)

操作パネル

23LX-0EH



1 ディスプレー

本機の動作状況、エラー状況などが表示されます。また、タッチパネルになっているので、設定を行うときは画面に直接触れて操作します。

おもな画面(P. 119)
おもな操作方法(P. 126)

2 音量キー

音量を調整するときに押します。 **音を設定する(P. 182)**

3 節電キー

スリープモード（節電状態）にします。スリープモード中はキーが黄緑色に点灯し、キーを再度押すとスリープモードが解除されます。 **スリープモードにする(P. 184)**

4 データランプ

通信中、印刷中など、何らかの動作を行っているときに点滅します。処理待ちの文書があるときには点灯します。

5 エラーランプ

紙づまりなどのエラーが発生したときに点滅または点灯します。

6 ホームキー

コピーやスキャンなどの各機能や設定メニューの入口となるホーム画面を表示するときに押します。

ホーム画面(P. 120)
ホーム画面をカスタマイズする(P. 175)

7 ストップキー

印刷などの動作を中止します。

関連項目

おもな操作方法(P. 126)

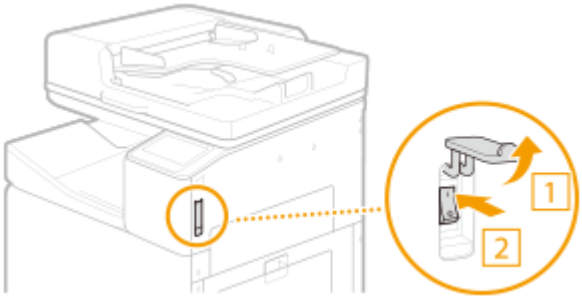
電源を入れる

23LX-0EJ

電源の入れかたについて説明します。

1 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていることを確認する

2 電源スイッチカバーを開け、電源スイッチを「 | 」側へ倒す



3 電源スイッチカバーを閉める

➠ ディスプレーに起動画面が表示されます。 **操作パネル(P. 112)**

MEMO

- 電源を入れたあと、最初に表示される画面を選択できます。 **<起動 / 復帰後に表示する画面>(P. 442)**
- 電源を入れた直後は、タッチパネルディスプレーや操作パネルのキーの反応が遅くなる場合があります。
- Mac が USB ケーブルで本機に接続されているとき、本機の電源を入れるとパソコンも同時に起動することがあります。このような場合は、USB ケーブルを取り外してから本機の電源を入れてください。なお、USB ハブを使用して接続すると、この問題が解決されることがあります。

関連項目

電源を切る(P. 115)

電源を切る

23LX-0EK

電源の切りかたについて説明します。

ご注意

電源を切る前に本機の動作状況を確認してください

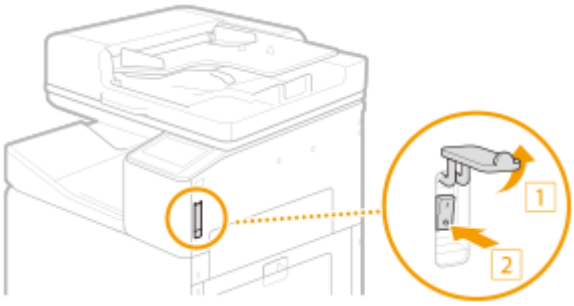
- ファクス／I ファクス機能を使用しているときは、電源を切らないでください。送受信ができなくなります。
- 原稿読み込み時や出力時に電源を切ると、紙づまりの原因になることがあります。
- メンテナンス処理中など、本体が動作しているときは電源を切らないでください。次に電源を入れたときに、インクを余分に消費することがあります。

電源プラグを抜くときは

- 電源が切れるまでに、しばらく時間がかかることがあります。ディスプレーと各ランプが消灯するまで電源プラグを抜かないでください。

1 電源スイッチカバーを開け、電源スイッチを「⏻」側へ倒す

- ディスプレーと各ランプが消灯していることを確認してください。



2 電源スイッチカバーを閉める

MEMO

- 本機に再び電源を入れるときは、電源が切れたあと、10 秒以上待ってください。
- 曜日ごとに時刻を指定して、自動的に電源が切れるように設定できます。 **決まった時刻に電源を切る(P. 116)**

関連項目

電源を入れる(P. 114)

決まった時刻に電源を切る

23LX-02C

曜日ごとに、指定した時刻に電源が切れるように設定することができます。電源の切り忘れによる無駄な電力消費を抑えることができます。お買い上げ時は、無効に設定されています。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［タイマー設定］▶［編集］の順に進む**

4 **［オートシャットダウン時刻を設定する］にチェックマークを付け、電源を切る時刻を設定する**

［オートシャットダウン時刻を設定する］
チェックマークを付けると、電源を切る時刻を曜日ごとに設定できるようになります。

［日曜日］～［土曜日］
電源を切りたい時刻を入力します。時刻を空欄にすると、その曜日の設定はされません。

5 **［OK］をクリックする**

MEMO

指定した時刻に電源が切られない場合*

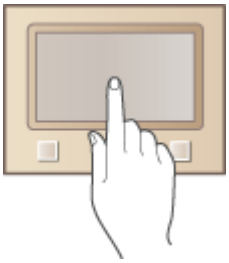
- データランプが点灯または点滅している
- メニュー画面やカウンター確認画面が表示されている
- 設定のインポート／エクスポート中
- ファームウェアの更新中
- メンテナンス中

*指定した時刻に電源を切ることができなかったときは、1 分ごとに最大 60 回まで再試行します。それでも電源を切ることができなかった場合、その日は自動的に電源が切られません。

操作パネルを使う

23LX-02E

操作パネルのディスプレーやキーを使って、本機の設定や各機能の操作をすることができます。ここでは、ディスプレーやキーの基本的な使いかたを説明しています。



おもな画面(P. 119)
おもな操作方法(P. 126)
文字を入力する(P. 129)

便利な機能

- ディスプレーの明暗を反転させたい **＜画面色反転＞(P. 465)**
- ディスプレーの明るさを調整したい **＜輝度調整＞(P. 465)**

関連項目

操作パネル(P. 112)

おもな画面

23LX-02F

ディスプレーには、コピーやスキャンなど各機能の操作を始めるためのホーム画面や設定画面が表示されます。また、エラーメッセージや動作状況などの情報もディスプレーから確認できます。タッチパネルになっているので、操作はディスプレーに直接触れて行います。

ホーム画面(P. 120)
＜状況確認＞画面(P. 123)
メッセージ表示(P. 125)

MEMO

- よく使う機能を使いやすくするためにボタンを並べ替えたりしてホーム画面をカスタマイズすることができます。
ディスプレーをカスタマイズする(P. 174)

操作方法を確認するには

- 画面によっては、＜？＞ボタンで機能や操作の説明を表示させることができます。

ホーム画面

23LX-0EL

電源を入れたときや、 を押したときは、ホーム画面が表示されます。この画面から各機能の設定や登録を行います。

1 ページ切り替え

ホーム画面のページを切り替えるときに使います。左右にフリックしてもページを切り替えることができます。

2 <カウンター確認>

これまでの総印刷枚数をカラー／白黒別に表示します。 **印刷ページ数を確認する(P. 661)**

3 <ログアウト>

ログアウトするときに使います。

4 <状況確認>

印刷状況、使用履歴、IP アドレスなどのネットワーク設定の情報などを確認できます。また、用紙やインクの残量確認、エラー発生状況なども確認できます。 **<状況確認>画面(P. 123)**

5 Wi-Fi アイコン

無線 LAN に接続しているときに表示されます。

6 <コピー>

コピーするときは、このボタンから始めます。 **コピーする(P. 195)**

7 <ファクス>

本機からファクス送信するときに使います。 **ファクスする(P. 220)**

8 <スキャン>

原稿をスキャンして電子ファイルに変換します。スキャンしたファイルは PC に保存したり、E メールなどで送信したりすることができます。 **スキャンする(P. 285)**

9 <メモリーメディアプリント>

USB メモリー内のファイルを印刷します。 **USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）(P. 276)**

10 ＜セキュアプリント＞

セキュア文書を印刷するときに使います。 **暗証番号を入力して印刷する（セキュアプリント）(P. 272)**

11 ＜メニュー＞

＜ファンクション設定＞や＜環境設定＞など、本機で行う設定の多くはこのボタンから始めます。 **設定メニュー一覧(P. 440)**

12 ＜アドレス帳＞

ファクスや E メールなどの宛先を登録／編集するときに使います。登録した宛先を呼び出してから送信することもできます。 **宛先を登録する(P. 186)**

13 ＜用紙設定＞

給紙カセットや手差しトレイにセットした用紙のサイズや種類を設定するときに使います。 **用紙サイズと種類を設定する(P. 157)**

14 ＜モバイルポータル＞

モバイル機器と接続するときに使います。 **モバイル機器と接続する(P. 337)**

15 ＜ホーム画面設定＞

ホーム画面のボタンの表示順を変更することができます。 **ホーム画面をカスタマイズする(P. 175)**

16 ＜ファームウェア更新＞

本機のファームウェアを最新のものに更新することができます。 **ファームウェアをアップデートする(P. 435)**

17 ＜ ID カードコピー＞

運転免許証や健康保険証など、カード類の表裏を 1 枚の用紙に割り付けてコピーできます。 **ID カードをコピーする(P. 218)**

18 ＜操作ガイド＞

基本的な操作方法やトラブルの解決方法を確認できます。

19 ショートカットボタン

コピー／ファクス／スキャンで登録した、「よく使う設定」を呼び出します。 **ホーム画面にボタンを追加する(P. 175)**

関連項目

ホーム画面をカスタマイズする(P. 175)

＜状況確認＞画面

23LX-02J

＜状況確認＞を選ぶと、文書の状況だけでなく、インク残量などの本体の状況や、IP アドレスなどのネットワーク設定の情報も確認できる画面が表示されます。

1 ＜エラー情報 / お知らせ＞

本機に何らかのエラーが発生しているときに、エラーの内容が表示されます。 **メッセージごとの対処方法 (P. 698)**

2 ＜デバイス情報＞

用紙やインク残量などの本機の状況を確認できます。

＜給紙情報＞

給紙部ごとに用紙の残量を表示します。

＜消耗品情報＞

本機に取り付けられている消耗品の型番、インク残量、メンテナンスカートリッジ使用量を表示します。

＜ｾｷｭｱﾌﾟﾘﾝﾄﾒﾓﾘｰ使用量＞

セキュアプリントの文書データ保存用に割り当てられたメモリーが、現在どれくらい使用されているかを表示します。 **暗証番号を入力して印刷する（セキュアプリント）(P. 272)**

＜バージョン情報＞

ファームウェアのバージョン情報を表示します。

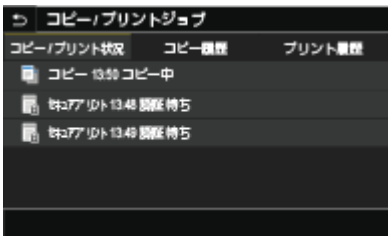
＜シリアル No.＞

シリアルナンバーを表示します。

＜プリントヘッド情報＞
プリントヘッドの使用状況を表示します。また、本機を輸送するときやプリントヘッドを交換するときに必要となるインクタンクとメンテナンスカートリッジの数に関する情報を表示します。

3 コピー／印刷／送受信文書の状況や履歴

選んだ項目に応じて、現在の状況を表示します。以下の画面は、＜コピー / プリントジョブ＞の表示例です。



4 ＜ネットワーク情報＞

IP アドレスなどのネットワークの設定内容や、無線 LAN の通信状況が良好であるかどうかなどを確認できます。 **ネットワークの設定を確認する(P. 39)**

5 ＜ﾒﾃﾞｨｱ取り外し＞

USB メモリーを安全に取り外すときに使用します。USB メモリーが接続されている場合のみ表示されます。 **USB メモリーを取り外す(P. 103)**

メッセージ表示

23LX-02K

用紙やインクがなくなったときなどに、画面にメッセージが表示されます。 **メッセージごとの対処方法(P. 698)**

エラーが発生したとき

エラー発生時に対処方法が表示されることがあります。画面の指示に従って操作を進めてください。以下の画面は、紙づまりが発生したときの表示例です。

おもな操作方法

23LX-02L

ディスプレーはタッチパネルになっています。指先で画面に直接触れて操作ができます。

ご注意

以下の操作は行わない

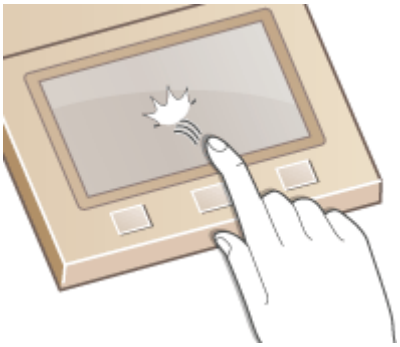
- ディスプレーが誤動作したり、破損したりすることがあります。
  - 指で強く押す
  - 先のとがったもの（爪／ボールペン／鉛筆など）で押す
  - 濡れた手や汚れた手で操作する
  - ディスプレーの上に何かのせたまま操作する

MEMO

- タッチパネルディスプレーに貼られているフィルムは、ご使用の前にはがしてください。

タップ

画面に指先で軽く触れてから、すぐに離す操作です。項目を選んだり、決定したりするときに使います。



フリック

画面に触れた指先を払います。フリックの結果は、画面によって異なります。たとえば、ホーム画面ではフリックした方向に 1 ページ移動します。

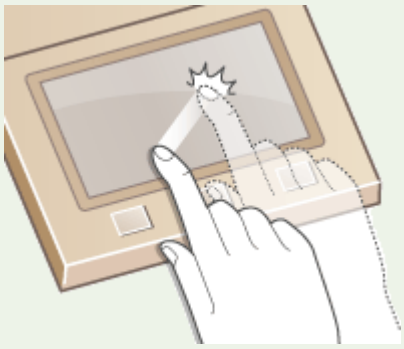
■項目を選ぶ

項目名やボタンをタップして選択してください。

MEMO

間違って選んだときは

- 指先をずらして離すと、選択がキャンセルされます。



前の画面に戻るときは

- をタップすると前の画面に戻ります。

■画面をスクロールする

画面にスクロールバーが表示された場合は、画面に表示しきれない情報がまだあることを示しています。この場合、画面をフリックすると、フリックした方向に画面がスクロールします。なお、画面に触れていないとスクロールバーは非表示になります。

■設定値を変更する

＜＋＞／＜－＞をタップして目盛を調整します。スライダーを左右にフリックしても調整可能です。

便利な機能

- 表示言語の切り替えなど、画面表示に関する各種設定を変更したい **<表示設定>(P. 442)**
- 本機を一定時間操作しなかったときに自動的に表示される画面を変更したい **<オートクリア後の機能>(P. 448)**
- 画面の明るさなど操作性に関する各種設定を変更したい **<アクセシビリティー>(P. 465)**

文字を入力する

23LX-02R

文字や数字を入力するときは画面に表示されたキーボードを使います。数字のみを入力する画面ではテンキーが表示されます。なお、操作パネルではカタカナしか入力できません。アドレス帳に宛先を登録するときなどに漢字やひらがなを使いたい場合はリモート UI から登録してください。 **リモート UI から宛先を登録する(P. 428)**

文字の種類を切り替える

＜カナ＞、＜ a ＞（英字）、＜ 1 / #＞（数字／記号）から入力する文字の種類を選びます。＜カナ＞が表示されない画面では、カタカナを入力できません。

MEMO

- 英字の大文字を入力するには、 をタップします。

キーボードのページを切り替える

キーボードが複数のページに分かれているときは、 または をタップしてページを切り替えます。

文字を削除する

 をタップするごとに 1 文字ずつ削除されます。 に触れたまま長く押し続けると、文字を連続して削除できます。

カーソルを移動する（スペースを入力する）

 または をタップします。文字の最後にカーソルを合わせて をタップすると、スペースが入力されます。

テンキーが表示されたとき

数値のみを入力するときは、画面にテンキーが表示されます。テンキーの数字をタップして入力します。

MEMO

数値の入力可能範囲について

- 入力欄に表示されている（　）内の数値が入力範囲です。

テンキー以外のボタンが表示されたとき

- ＜＋＞／＜－＞や ◀／▶ が表示されたときは、ボタンをタップして数値の増減やカーソルの移動をすることができます。

ログインする

23LX-02S

部門別 ID 管理を設定している場合や、システム管理部門 ID を設定している場合にログイン操作が必要となります。また、ファクスやスキャン機能の使用を制限している場合にもログイン操作が必要になります（認証送信）。

部門別 ID 管理のログイン(P. 131)
認証送信のログイン(P. 132)

MEMO

- 本機のシステム管理部門 ID とシステム管理暗証番号は工場出荷時に「7654321」に設定されています。より安全なセキュリティーのため、変更することをおすすめします。

部門別 ID 管理のログイン

ログイン画面が表示されたら、以下の手順で部門 ID と暗証番号を入力してください。

1 部門 ID を入力する

1. ＜部門 ID ＞または＜システム管理部門 ID ＞を選ぶ
2. ID を入力する
   - 暗証番号が設定されていない場合は、手順 3 に進んでください。

2 暗証番号を入力する

1. ＜暗証番号＞を選ぶ
2. 暗証番号を入力する

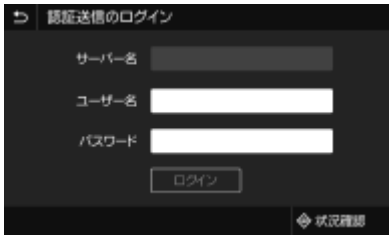
3 ＜ログイン＞を選ぶ

➠ ログイン画面からホーム画面に切り替わります。

- 使用後は＜ログアウト＞を選び、部門 ID のログイン画面を表示させておきます。

認証送信のログイン

送信機能の認証設定（**LDAP サーバーで認証を行う(P. 361)**）が有効になっていると、ファクスやスキャン機能を使うときに認証送信のログイン画面が表示されます。



1 ユーザー名を入力する

1 ＜ユーザー名＞を選ぶ

2 ユーザー名を入力する

- 文字の入力方法については、**文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

2 パスワードを入力する

1 ＜パスワード＞を選ぶ

2 パスワードを入力する

3 ＜サーバー名＞を選び、認証に使用するサーバーを選ぶ

- ユーザー名とパスワードが登録されている LDAP 認証サーバーを選びます。

4 ＜ログイン＞を選ぶ

➠ ログイン画面からファクスやスキャンの画面に切り替わります。

- 使用後は＜ログアウト＞を選び、ログアウトしておきます。

MEMO

＜ログアウト選択＞画面が表示された場合

- 認証送信と部門別 ID 管理の両方にログインしている場合、どこまでログアウトするか選択する画面が表示されます。認証送信（ファクスやスキャン機能）のみログアウトして、同じ部門 ID の操作を続ける場合は、＜認証送信のみログアウト＞を選んでください。それ以外の場合は、＜全ての認証をログアウト＞を選びます。

関連項目

部門別 ID 管理を行う(P. 353)
システム管理部門 ID と暗証番号を設定する(P. 351)

原稿をセットする

23LX-0ER

原稿は原稿台ガラスまたはフィーダーにセットします。原稿台ガラスは、書籍のようにとじてあったり、厚みがあったりで、フィーダーにセットできない原稿をセットするときに使います。フィーダーは、2 枚以上の原稿をまとめてセットして連続して読み込むことができます。セットできるサイズなどについては、**両面同時自動原稿送り装置の仕様（標準装備）(P. 758)**を参照してください。

原稿台ガラスにセットする(P. 134)
フィーダーにセットする(P. 135)

ご注意

乾いた用紙を使用する

- 原稿にインク、修正液、のりなどが付いているときは、完全に乾かしてからセットしてください。

紙づまりを防ぐには

- 次のような原稿は使用しないでください。フィーダー内の紙づまりの原因となります。
  - しわや折り目がある原稿
  - カーボン紙
  - カールした紙や巻いた紙
  - コート紙
  - 破れた原稿
  - 大きなとじ穴などが開いた原稿
  - 薄質半透明紙や薄紙
  - ホチキスの針、またはクリップが付いた紙
  - 熱転写プリンターで印刷された紙
  - OHP フィルム
  - 付箋が付いた原稿
  - のりで貼り合わせた原稿
  - クリアファイルに入れた原稿

MEMO

原稿をより精密に読み込むには

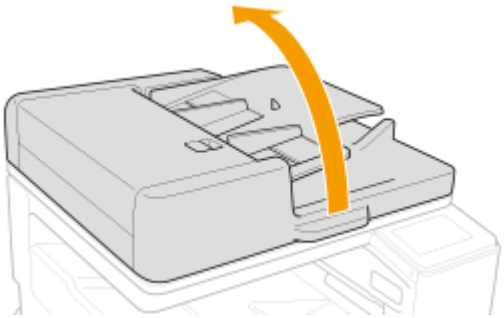
- フィーダーにセットした原稿は搬送されながら読み込まれますが、原稿台ガラスにセットした場合は静止した状態で読み込みが行われます。精度の高い読み込みが必要な場合は、原稿台ガラスを使うことをおすすめします。

トレーシングペーパーや OHP フィルムなどを読み込むには

- トレーシングペーパーや OHP フィルムなどの透過原稿を読み込む場合は、原稿台ガラスにセットしたあと、原稿の上に白紙を重ねてください。

原稿台ガラスにセットする

1 フィーダーを開ける

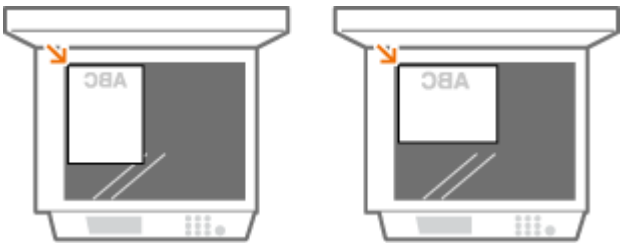


2 読み込む面を下にして、原稿を原稿台ガラスの上に置く

- 原稿の角を原稿台ガラスの左上隅に合わせます。

MEMO

- 両面コピーするときは、図のように自分から見て原稿の上下が正しい位置になるようにセットしてください。



3 フィーダーをゆっくり閉める

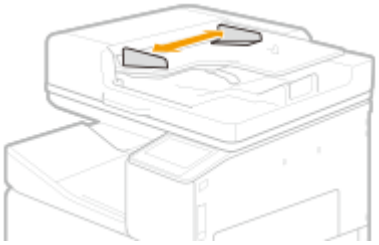
➠ 原稿を読み込む準備ができました。

- 読み込みが完了したら、原稿台ガラスから原稿を取り出してください。

フィーダーにセットする

1 原稿ガイドを広げる

- 原稿ガイドの幅を原稿の幅より少し広めにセットします。

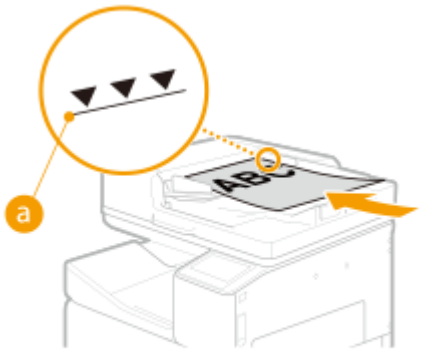


2 原稿をさばいて、端をそろえる

- 少量ずつよくさばき、平らな場所で軽く数回たたいて端をそろえます。

3 読み込む面を上にして、原稿をセットする

- 原稿は積載制限マーク（a）を越えないようにしてください。



ご注意

- 積載制限マークを超える原稿をセットした場合、読み込まれなかったり、紙づまりの原因になったりします。

- 折られている原稿をセットする場合は、原稿の折り部分を修正してからフィーダーにセットしてください。原稿が折られた状態だと、原稿サイズが正しく検知されずにエラー画面が表示される場合があります。
- 薄い原稿は、高温多湿の使用環境ではしわになることがあります。

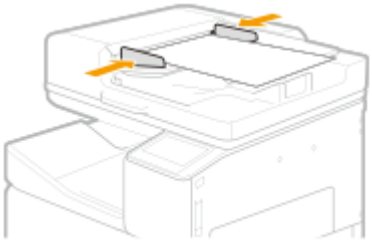
MEMO

- 両面コピーするときは、図のように自分から見て原稿の上下が正しい位置になるようにセットしてください。

- サイズの異なる原稿を一度にセットして読み込むことができます。
  サイズの異なる原稿をまとめてコピーする（原稿サイズ混載）(P. 216)
  サイズの異なる原稿をまとめてスキャンする（原稿サイズ混載）(P. 314)

4 原稿ガイドを原稿に合わせる

- 原稿ガイドを原稿の幅にぴったり合わせます。



➠ 原稿を読み込む準備ができました。

ご注意

原稿ガイドを原稿の幅にぴったり合わせる

- ガイドの合わせかたがゆるすぎたり、きつすぎたりすると、原稿が正しく送られなかったり、紙づまりの原因になったりします。

原稿を読み込んでいるとき

- 原稿を追加したり、抜いたりしないでください。

原稿を読み込み終わったら

- 紙づまりを防ぐために、原稿排紙トレイに排紙された原稿を取り除いてください。

薄紙原稿をセットする場合は

- セットするときは押し込みすぎないようにしてください。原稿が正しく送られなかったり、紙づまりの原因になったりします。

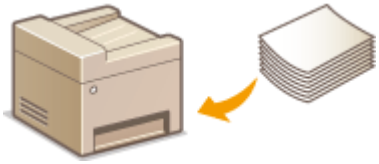
同じ原稿を繰り返して読み込む場合は

- 同じ原稿を繰り返して読み込む場合の使用頻度は、5 回程度（紙質により回数は異なります。）を目安にしてください。使用頻度が多くなると、原稿が折れたり、しわになったりして、原稿が送りにくくなることがあります。

用紙をセットする

23LX-02W

用紙は給紙カセットと手差しトレイにセットできます。給紙カセットには、普段よく使う用紙をセットしてください。まとまった枚数をセットできるので便利です。給紙カセットにセットされていない用紙を一時的に使うときは手差しトレイにセットしてください。使用できる用紙のサイズと種類については、**用紙について(P. 768)** を参照してください。



用紙について

用紙についての注意事項(P. 137)
本機で印刷した用紙の保管について(P. 138)

用紙のセット方法

給紙カセットに用紙をセットする(P. 139)
手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)
封筒をセットする(P. 145)
はがきをセットする(P. 152)
ロゴなどが印刷された用紙をセットする(P. 154)

セットした用紙の設定

用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

用紙についての注意事項

ご注意

次の用紙は使用しない

- きれいに印刷できないだけでなく、紙づまりや故障の原因になります。
  - 写真を貼り合わせたものや厚手のはがき
  - 折れている／反りのある／しわが付いている用紙
  - 濡れている用紙
  - 薄すぎる用紙（坪量 52 g/m^2 未満）
  - 厚すぎる用紙（キヤノン純正紙以外で坪量 250 g/m^2 を超えるもの）
  - はがきより薄い紙、普通紙やメモ用紙を裁断した用紙（A5 サイズより小さい用紙に印刷する場合）
  - 絵はがき
  - 一度折り曲げた往復はがき
  - 写真付きはがきやステッカーを貼ったはがき
  - ふたが二重になっている封筒
  - ふたがシールになっている長形封筒

- 型押しやコーティングなどの加工された封筒
- ふた部分の乾燥糊が湿って、粘着性が出てしまった封筒
- 長方形または正方形以外の形状の用紙
- ホチキスや粘着剤などでとじている用紙
- ラベルシールなど裏面に粘着剤が付いている用紙
- 表面にラメなどが付いている用紙
- OHP フィルム
- 第 2 原図
- コート紙（キヤノン純正紙：高品位専用紙 <HR-101S>は使用可能）
- パンチ済み紙
- 光沢紙

用紙を使うときは

- 用紙は本機が設置されている環境に十分慣らしてからご使用ください。異なる温度／湿度に保管されていた用紙を使用すると、紙づまりや印字不良が起こる場合があります。
- すべての用紙は、こすったり、傷を付けたりしないように丁寧に扱ってください。
- できるだけ用紙の端を持ち、印刷面に触れないようにしてください。手に付いた汗や油分が印刷面に付くと、印刷品質が低下する場合があります。

用紙の保管方法

- 用紙は開封後すぐにお使いになることをおすすめします。用紙が残った場合は、入っていた包装紙に再度包み、平らな場所に保管してください。
- 湿気や乾燥を防ぐため、使用するまでは包装したままにしておいてください。
- 用紙が丸まったり折り目が付いたりするような置きかたをしないでください。
- 用紙を立てて保管したり、多く積み重ねたりしないでください。
- 反りを防ぐため、使用しない用紙は用紙が入っていたパッケージに入れ、水平に置いて保管してください。また、高温・多湿・直射日光を避けて保管してください。

本機で印刷した用紙の保管について

本機で印刷した用紙の取り扱いや保管には、次のことに気を付けてください。

■印刷した用紙の保管方法

- 印刷後は、インクが十分に乾いてから取り扱ってください。また乾いたあとも、できるだけ印刷した面に触れないよう丁寧に扱ってください。顔料インクの特性上、こすったり、引っかいたりすると、インクがはがれる場合があります。
- 平らな場所に保管してください。
- 長期間（2 年以上）保管するときはバインダーなどに入れて保管してください。
- 長期間保管すると、用紙の変色によりプリントが変色したように見えることがあります。
- 高温/高湿の場所には保管しないでください。

関連項目

定形外サイズの用紙を登録する（ユーザー設定用紙）(P. 167)

用紙の基本的なセット方法

23LX-0ES

普通紙や再生紙などをはじめ、用紙の汎用的なセット方法を説明します。普段よく使う種類やサイズの用紙は、給紙カセットにセットしてください。給紙カセットにセットされていない用紙を一時的に使うときは、手差しトレイにセットしてください。

給紙カセットに用紙をセットする(P. 139)
手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)

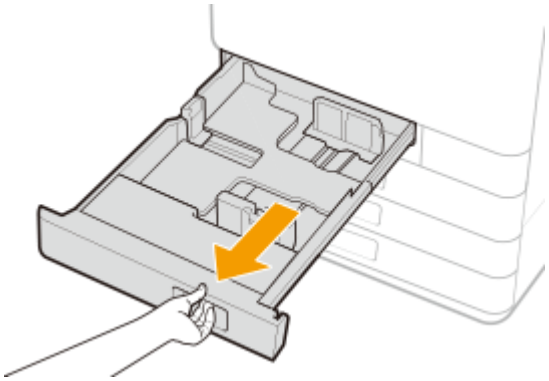
MEMO

- オプションの 2 段カセットペディスタルについては、給紙カセット 2 の手順で用紙をセットしてください。

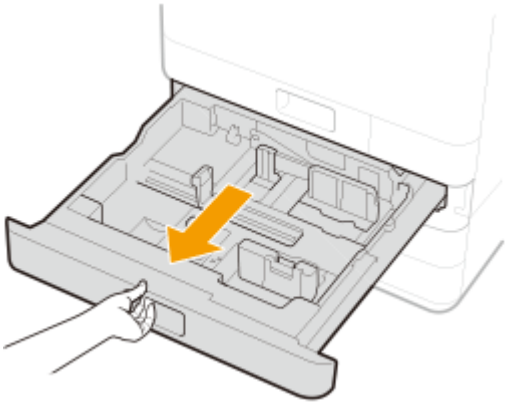
給紙カセットに用紙をセットする

1 給紙カセットの取っ手を持ち、止まる位置まで手前に引き出す

給紙カセット 1



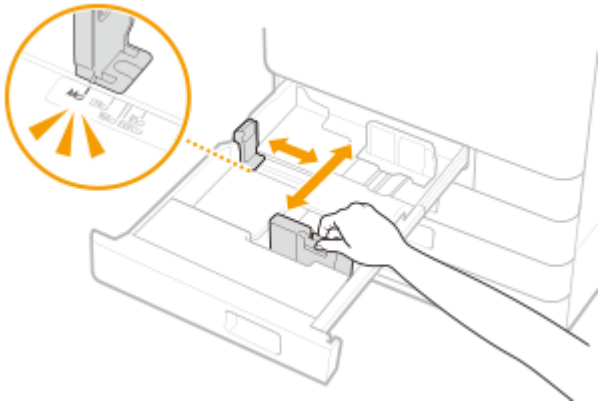
給紙カセット 2



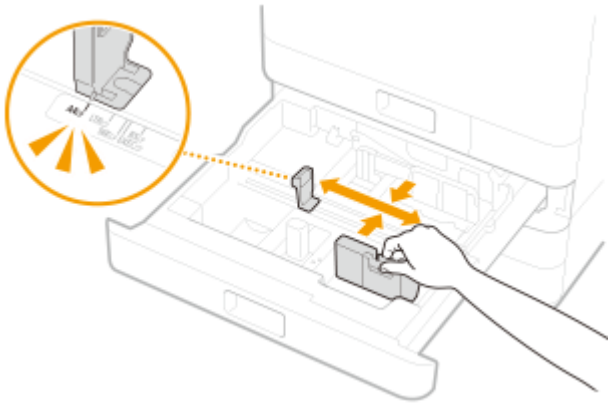
2 用紙ガイドをセットする用紙サイズに合わせる

- 左側ガイドと前側ガイドの上部をつまみながらスライドさせ、セットする用紙サイズの指標に合わせます。

給紙カセット 1



給紙カセット 2



ご注意

- ガイドは、カチッと音がする位置までスライドさせます。左側ガイドと前側ガイドを正しくあわせないと、用紙サイズがタッチパネルディスプレーに正しく表示されません。また、紙づまりやプリントの汚れ、本製品内部の汚れの原因になりますので、用紙サイズの指標に必ず正しくあわせてください。

MEMO

用紙サイズの指標について

- 給紙カセットの用紙サイズの指標に記載されている略号は、次の用紙サイズを表わします。
  - LGL：リーガル
  - LTR：レター
  - EXEC：エグゼクティブ
  - STMT：ステイトメント
- セットできる用紙サイズについては、 **用紙について(P. 768)** を参照してください。

3 用紙をセットする

- 用紙をよくさばいて、平らな場所で用紙の端をそろえてからセットしてください。

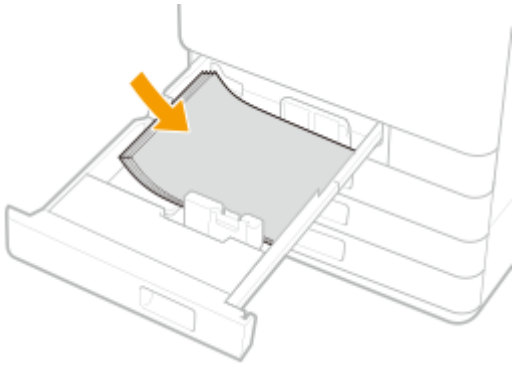
ご注意

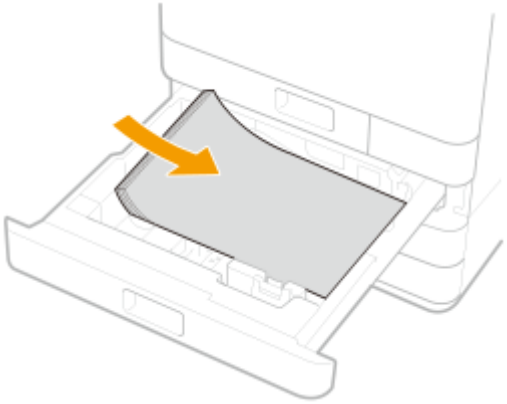
- 用紙の四辺をしっかりとさばいてください。

1 セットする用紙のサイズと給紙カセットの用紙サイズ設定があっているかどうかを確認する

2 印刷面を上にし、用紙の端を給紙カセットの側面に突き当ててセットする

給紙カセット 1　　給紙カセット 2

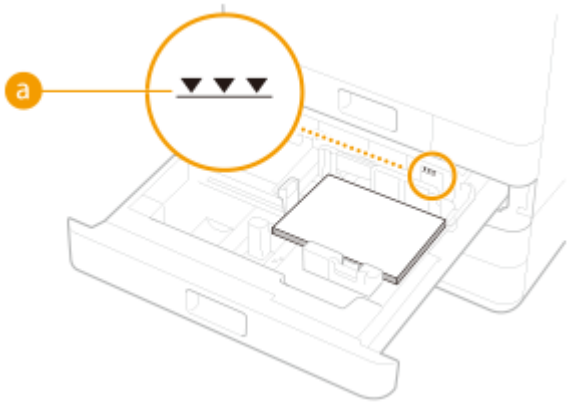




ご注意

積載制限マークを超えないようにセットする

- 用紙は積載制限マーク（a）の線を超えないようにセットしてください。紙づまりの原因になります。



ご注意

積載制限マークを超えないようにセットする

- 用紙は積載制限マークの線を超えないようにセットしてください。給紙不良の原因になります。
  封筒以外の用紙：
  封筒：

MEMO

- ロゴマーク付きの用紙をセットするときは、用紙の向きに注意してください。 **ロゴなどが印刷された用紙をセットする(P. 154)**
- 封筒をセットするときは、封筒をセットする前の準備や向きに注意してください。 **封筒をセットする(P. 145)**
- 給紙カセットにセットできる用紙については、 **用紙について(P. 768)** を参照してください。
- 用紙の梱包紙に給紙面についての指示が書かれているときは、指示に従って用紙をセットしてください。

- 用紙の裁断面の状態によっては、プリントするときに重なって通紙されたり紙づまりが生じる場合があります。用紙の向きを変えてセットしなおすことで、裁断面の影響を軽減できることがあります。
- 用紙切れでプリント動作が中断されたときは、用紙を補給してください。用紙補給後、プリント動作が再開されます。

4 給紙カセットをゆっくりと本体に押し込む

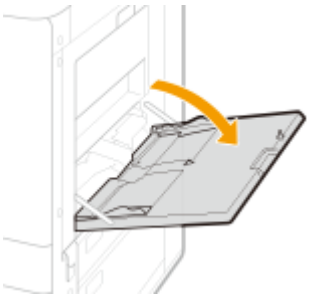
ご注意

用紙のサイズや種類を変更したとき

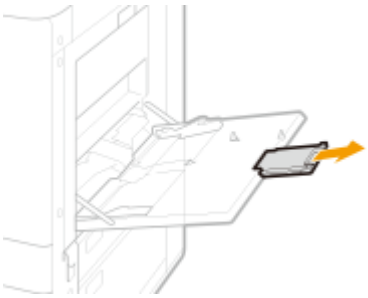
- 用紙種類を変更したときは、設定も必ず変更してください。変更せずにお使いになると正しく印刷されません。 **給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する(P. 158)**

手差しトレイに用紙をセットする

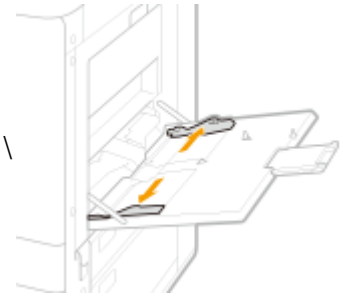
1 手差しトレイを開ける



- 大きなサイズの用紙をセットするときは、延長トレイを引き出してください。



2 セットする用紙サイズに合わせて用紙ガイドを調節する



3 用紙を奥に突き当たるまで差し込む

- 用紙をよくさばいて、平らな場所で用紙の端をそろえてからセットしてください。

ご注意

- 用紙の四辺をしっかりとさばいてください。

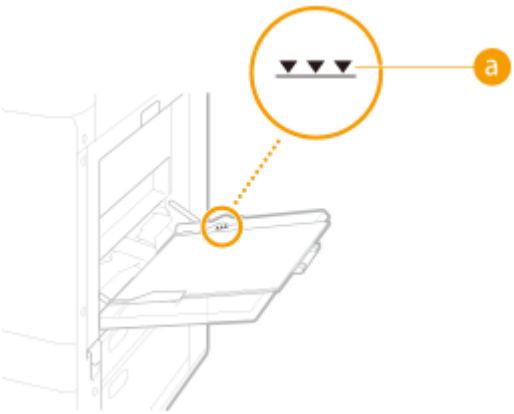
- 印刷面を下にしてセットします。

➠ 奥まで差し込むと、用紙サイズと種類を設定する画面が表示されます。

ご注意

積載制限マークを超えないようにセットする

- 用紙は積載制限マーク（a）の線を超えないようにセットしてください。紙づまりの原因になります。

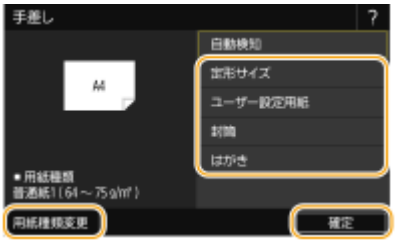


MEMO

- 封筒・はがきやロゴマーク付きの用紙をセットするときは、封筒・はがきや用紙の向きに注意してください。

▶封筒をセットする(P. 145)
▶はがきをセットする(P. 152)
▶ロゴなどが印刷された用紙をセットする(P. 154)

4 用紙サイズや種類を確認して＜確定＞を選ぶ



- 定形外サイズの用紙をセットしたときや、セットした用紙とサイズや種類が異なるときは、▶**手差しトレイの用紙サイズと種類を設定する(P. 161)** を参照してください。

ご注意

- プリンタードライバーで指定した用紙のサイズや種類と、手差しトレイにセットした用紙のサイズや種類が一致しない場合、紙づまりや印刷不良が発生する可能性があります。
- 用紙を手差しトレイにセットしても用紙が認識されない場合、用紙の四隅が 2.5 mm（0.1 インチ）以下になるように反りを修正してから、再度セットして下さい。
- 用紙設定で用紙が検知されたことを確認して下さい。

用紙が認識されない場合

用紙が認識された場合

関連項目

▶**用紙について(P. 768)**

封筒をセットする

23LX-0EU

封筒は給紙カセットまたは手差しトレイにセットします。セットする前にカールを取るなどの準備を行うほか、セットする面や向きにも注意してください。

封筒をセットする前に(P. 145)
給紙カセット１に封筒をセットする（ファームウェア Main Controller バージョン：Ver.02.49 以前）(P. 146)
手差しトレイに封筒をセットする（ファームウェア Main Controller バージョン：Ver.02.49 以前）(P. 149)

MEMO

- ここでは、封筒をセットする前に行う準備と、セットする際の正しい向きについて説明しています。封筒を給紙カセットや手差しトレイにセットするときの全体的な手順については、**用紙の基本的なセット方法(P. 139)** を参照してください。

封筒をセットする前に

セットする前に、次の手順で封筒を整えてください。
お使いのファームウェアバージョンを確認してください。 **ファームウェアのバージョンを確認する(P. 436)**

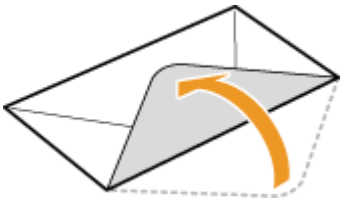
ご注意

- 封筒の種類や保存環境によっては、しわが発生する場合があります。

1 封筒のふたの状態を確認します。

ファームウェア(Main Controller)バージョン：Ver.02.49 以前

- 洋形長 3 号、洋形 4 号、洋形 6 号、Monarch、COM10、DL、ISO-C5 のときはふたを閉じてください。

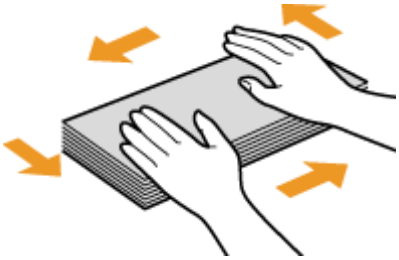


- 長形 3 号、長形 4 号、角形 2 号は、ふたを閉じないでください。

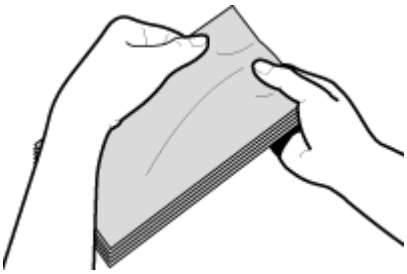
ファームウェア(Main Controller)バージョン：Ver.02.50 以降

- 洋形長 3 号、洋形 4 号、洋形 6 号、Monarch、COM10、DL、ISO-C5 のときはふたを開いた状態でも閉じた状態でもセットできます。
- 長形 3 号、長形 4 号、角形 2 号は、ふたを閉じないでください。

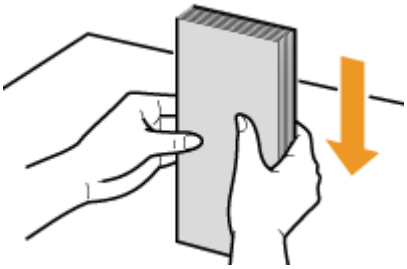
2 上から押して空気を抜き、四辺の折り目をしっかり付けたあと、平らにならす



3 **四隅の固い部分をほぐすようにしてカールを取る**

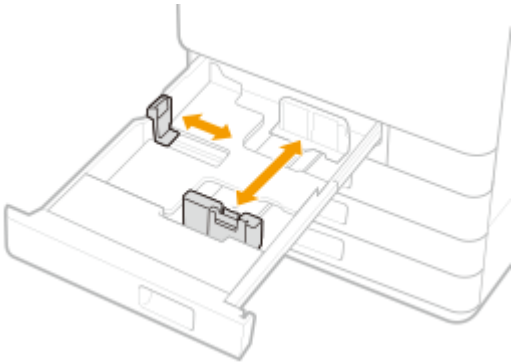


4 **平らな場所でそろえる**



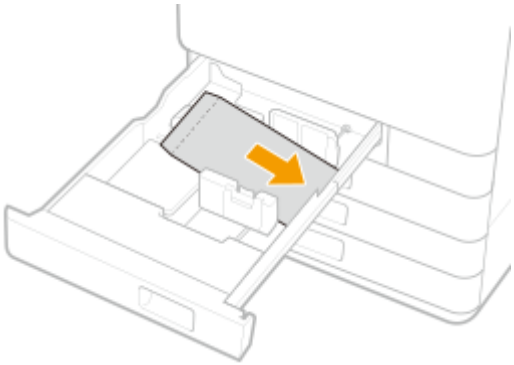
給紙カセット１に封筒をセットする（ファームウェア Main Controller バージョン：Ver.02.49 以前）

1 **用紙ガイドの位置を調節する**



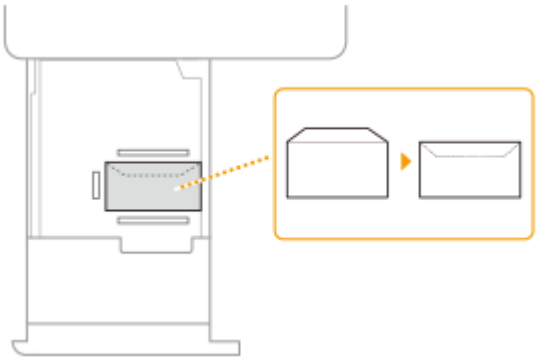
2 **封筒をセットする**

封筒のオモテ面（貼り合わせがない面）を上にして、次の図のようにセットします。



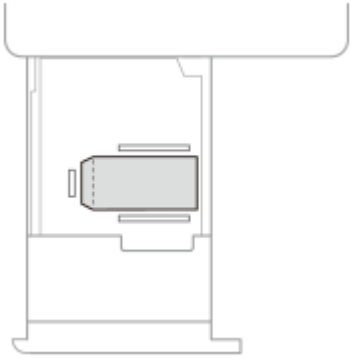
洋形長 3 号、洋形 4 号、洋形 6 号、Monarch、COM10 No.10、DL、ISO-C5 の場合

封筒のふたを閉じて、ふたが奥側になるようにセットします。



長形 3 号、長形 4 号の場合

封筒のふたが左側になるようにセットします。

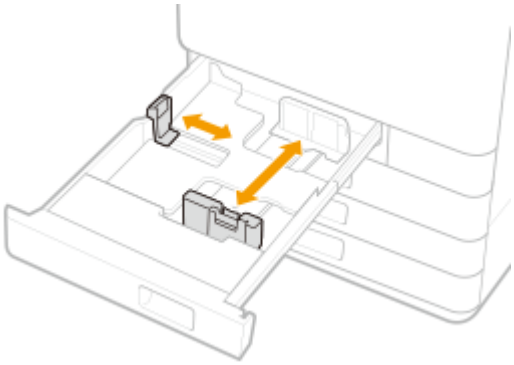


ご注意

- 用紙ガイドが封筒に強く突き当てすぎていないか注意してください。
  強く突き当てすぎるとうまく給紙されない場合があります。
- 給紙カセットから給紙されない場合は、手差しトレイから給紙してみてください。
- 封筒は給紙カセット 2、3、4 にはセットできません。

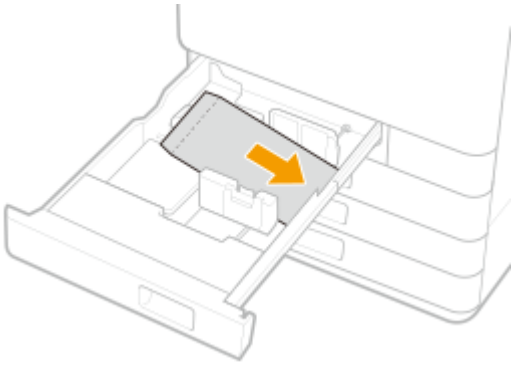
給紙カセット 1 に封筒をセットする（ファームウェア Main Controller バージョン：Ver.02.50 以降）

1 用紙ガイドの位置を調節する



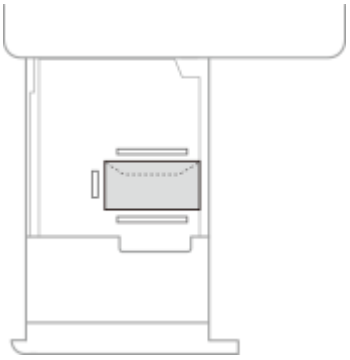
2 封筒をセットする

封筒のオモテ面（貼り合わせがない面）を上にして、次の図のようにセットします。

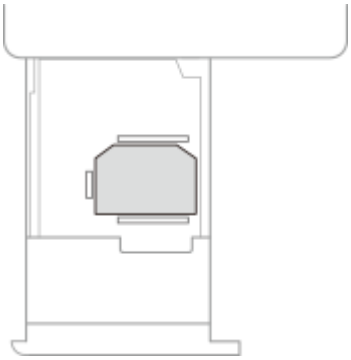


洋形長 3 号、洋形 4 号、洋形 6 号、Monarch、COM10 No.10、DL、ISO-C5 の場合

- 封筒のふたが閉じている場合は、ふたが奥側になるようにセットします。

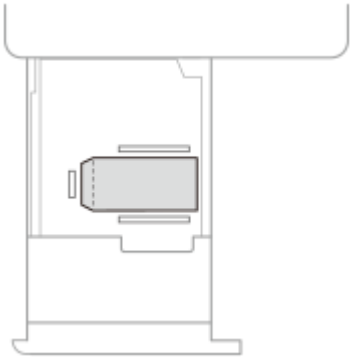


- 封筒のふたが開いている場合は、ふたを閉じないで、ふたが奥側になるようにセットします。
  ふたが 50mm を超えるものは非対応です。ふたを閉じてセットしてください。



長形 3 号、長形 4 号の場合

封筒のふたが左側になるようにセットします。



ご注意

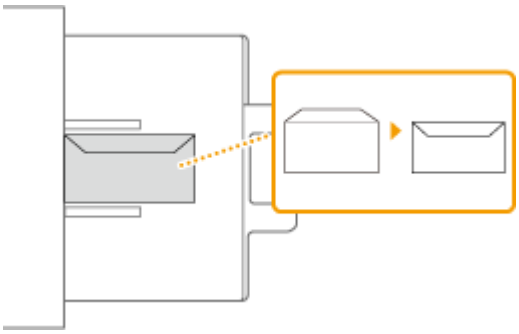
- 用紙ガイドが封筒に強く突き当てすぎていないか注意してください。
  強く突き当てすぎるとうまく給紙されない場合があります。
- 給紙カセットから給紙されない場合は、手差しトレイから給紙してみてください。
- 封筒は給紙カセット 2、3、4 にはセットできません。

手差しトレイに封筒をセットする（ファームウェア Main Controller バージョン：Ver.02.49 以前）

封筒のオモテ面（貼り合わせがない面）を下にして、次の図のようにセットします。

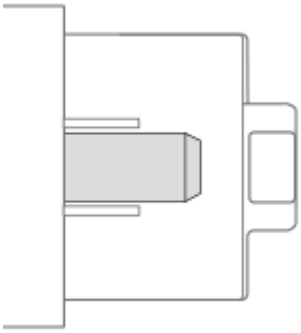
洋形長 3 号、洋形 4 号、洋形 6 号、Monarch、COM10 No.10、DL、ISO-C5 の場合

封筒のふたを閉じて、ふたが奥側になるようにセットします。



長形 3 号、角形 2 号の場合

封筒のふたが右側になるようにセットします。



ご注意

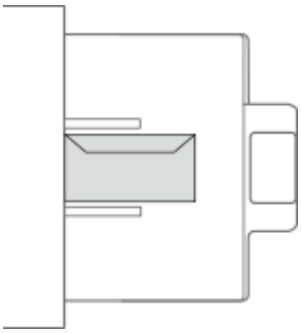
- 手順どおり封筒を整えても正しく給紙されない場合は、積載枚数を半分以下にセットしてください。
  それでも正しく給紙されない場合は、手差しトレイに複数枚セットせずに、１枚ずつセットしてください。

手差しトレイに封筒をセットする（ファームウェア Main Controller バージョン：Ver.02.50 以降）

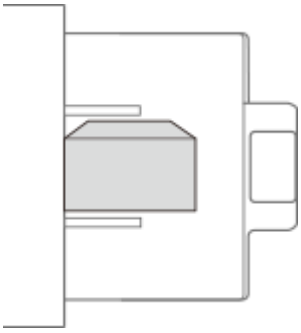
封筒のオモテ面（貼り合わせがない面）を下にして、次の図のようにセットします。

洋形長 3 号、洋形 4 号、洋形 6 号、Monarch、COM10 No.10、DL、ISO-C5 の場合

- 封筒のふたが閉じている場合は、ふたが奥側になるようにセットします。

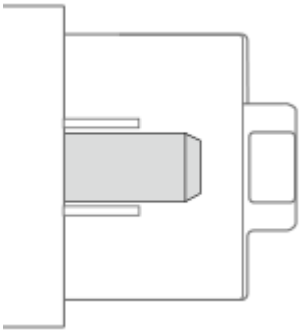


- 封筒のふたが開いている場合は、ふたを閉じないで、ふたが奥側になるようにセットします。
  ふたが 50mm を超えるものは非対応です。ふたを閉じてセットしてください。



長形 3 号、角形 2 号の場合

封筒のふたが右側になるようにセットします。



ご注意

- 手順どおり封筒を整えても正しく給紙されない場合は、積載枚数を半分以下にセットしてください。
  それでも正しく給紙されない場合は、手差しトレイに複数枚セットせずに、１枚ずつセットしてください。

はがきをセットする

23LX-0EW

はがきは手差しトレイにセットします。セットする前にカールを取るなどの準備を行うほか、セットする面や向きにも注意してください。

ご注意

- はがきの自動両面印刷はできません。両面印刷するときは、まず片面を印刷してから反対面を印刷してください。
- はがきはカールを 2.5 mm（0.1 インチ）以下になるように取ってからセットしてください。カールしたままでは、斜めに印刷されたり、画像がゆがんで印刷されたりすることがあります。

MEMO

- ここでは、はがきをセットする際の正しい向きについて説明しています。はがきを手差しトレイにセットするときの全体的な手順については、**手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)** を参照してください。

印刷面を下にして、次の図のようにセットします。

はがき

はがきの上端が左側になるようにセットします。

宛名面プリント／コピー時

通信面プリント／コピー時

往復はがき

はがきを広げた状態で、上端が奥側になるようにセットします。

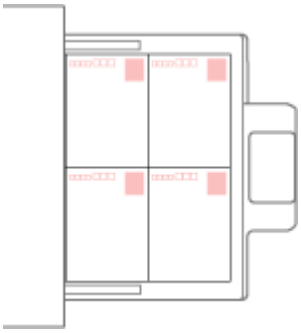
往信はがき（宛名面）と返信はがき（通信面）プリント／コピー時

返信はがき（宛名面）と往信はがき（通信面）プリント／コピー時

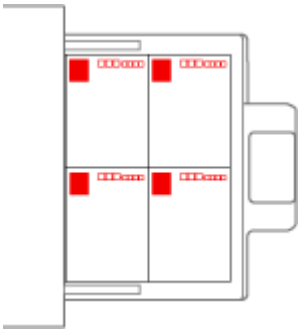
4 面はがき

はがきの上端が奥側になるようにセットします。

宛名面プリント／コピー時



通信面プリント／コピー時



ご注意

- 手順どおりはがきを整えても正しく給紙されない場合は、手差しトレイに複数枚セットせずに、1 枚ずつセットしてください。

ロゴなどが印刷された用紙をセットする

23LX-0EX

ロゴマークなどが印刷されている用紙をセットするときは、給紙カセット、手差しトレイともに、用紙の向きに注意する必要があります。ロゴマークなどがある面に正しく文書をプリントするために、レイアウトやプリントのしかたに応じて用紙をセットしてください。

給紙カセットにロゴ入り用紙をセットする(P. 155)
手差しトレイにロゴ入り用紙をセットする(P. 155)

ご注意

コピーする場合は原稿の向きにも注意してください

- フィーダーは文書が見える状態で、原稿台ガラスは文書をふせた状態で、次の図のようにセットします。

フィーダー（タテ向き A4、B5、A5 原稿）

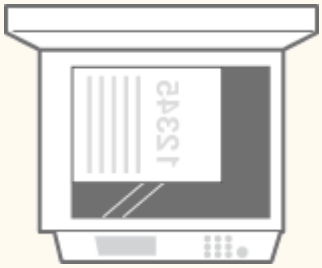
原稿台ガラス（タテ向き A4、B5、A5 原稿）

フィーダー（ヨコ向き A4、B5、A5 原稿）

原稿台ガラス（ヨコ向き A4、B5、A5 原稿）

フィーダー（タテ向き A3、B4 原稿）

原稿台ガラス（タテ向き A3、B4 原稿）



フィーダー（ヨコ向き A3、B4 原稿）

原稿台ガラス（ヨコ向き A3、B4 原稿）

MEMO

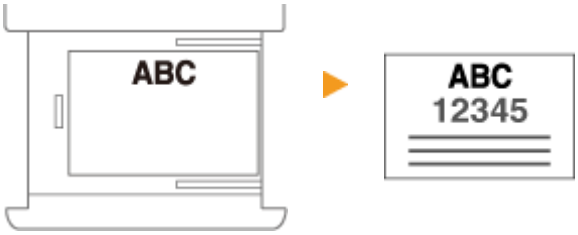
- ここでは、ロゴマークなどが印刷された用紙をセットするときの正しい向きについて説明しています。用紙を給紙カセットや手差しトレイにセットするときの全体的な手順については、**用紙の基本的なセット方法(P. 139)** を参照してください。

給紙カセットにロゴ入り用紙をセットする

ロゴの面（印刷面）を上にして、次の図のようにセットします。

タテ向きの用紙　　印刷結果

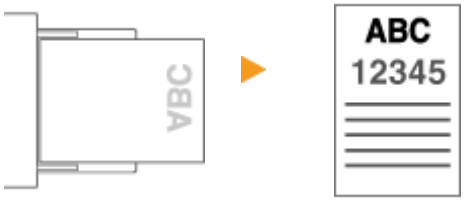
ヨコ向きの用紙　　印刷結果

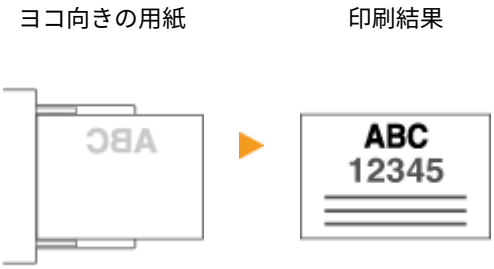


手差しトレイにロゴ入り用紙をセットする

ロゴの面（印刷面）を下にして、次の図のようにセットします。

タテ向きの用紙　　印刷結果




ヨコ向きの用紙
印刷結果
ABC
ABC
12345

用紙サイズと種類を設定する

23LX-032

セットした用紙に合わせて用紙サイズと種類を設定する必要があります。今までセットされていた用紙と異なる用紙をセットした場合も、忘れずに設定を変更してください。

- 給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する(P. 158)
- 手差しトレイの用紙サイズと種類を設定する(P. 161)
- 手差しトレイでよく使う用紙サイズと種類を登録する(P. 164)
- 定形外サイズの用紙を登録する（ユーザー設定用紙）(P. 167)
- 手差しトレイの用紙サイズを絞り込んで表示する(P. 168)
- 機能ごとに適切な給紙部を自動選択させる(P. 169)
- 用紙カセットの自動検知サイズを設定する(P. 170)
- A5/STMT 用紙を区別する(P. 171)
- A4/LTR 用紙を区別する(P. 172)
- B5/16K/EXEC 用紙を区別する(P. 173)

ご注意

- セットした用紙と設定が一致していないと、正しく印刷できないだけでなく、紙づまりや印刷不良の原因となります。

給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する

23LX-0EY

1 ホーム画面で、＜用紙設定＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 設定する給紙カセットの用紙サイズと種類を確認する

- 定形サイズの用紙をセットした場合は、用紙サイズが自動認識されます。用紙サイズと種類が正しければ、以降の操作は不要です。
- 3、4 は、オプションの２段カセットペディスタルを装着している場合に表示されます。

MEMO

- セットした用紙と異なる用紙サイズが表示された場合は、用紙が正しくセットされていない可能性があります。用紙をセットしなおしてください。

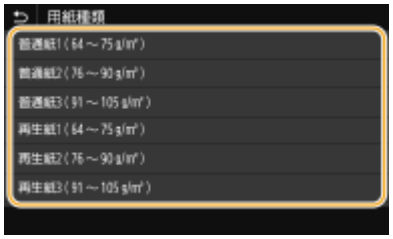
3 設定する給紙カセットを選ぶ

4 設定する

■定形サイズの用紙種類を設定する

1 ＜自動＞を選ぶ

2 用紙種類を選ぶ



■定形サイズ以外の用紙を設定する

1 ＜ユーザー設定用紙＞を選ぶ

2 ＜X＞辺と＜Y＞辺の長さを設定する

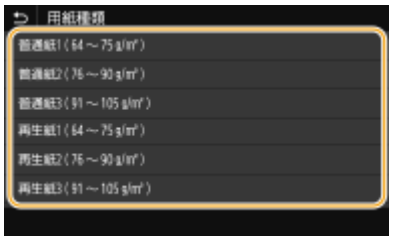
- ＜X＞または＜Y＞を選び、それぞれの辺の長さを入力します。

MEMO

- よく使う用紙サイズを＜S1＞～＜S3＞ボタンに登録しておけば、ワンタッチで呼び出すことができます。
定形外サイズの用紙を登録する（ユーザー設定用紙）(P. 167)

3 ＜確定＞を選ぶ

4 用紙種類を選ぶ



■封筒を設定する

MEMO

- 封筒は給紙カセット2、3、4にはセットできません。

1 ＜封筒＞を選ぶ

2 封筒サイズを選ぶ

3 ＜確定＞を選ぶ

関連項目

給紙カセットに用紙をセットする(P. 139)
手差しトレイの用紙サイズを絞り込んで表示する(P. 168)

用紙について(P. 768)

手差しトレイの用紙サイズと種類を設定する

23LX-0F0

手差しトレイに用紙をセットすると、以下の画面が表示されますので、用紙に合わせて用紙サイズと種類を設定してください。

MEMO

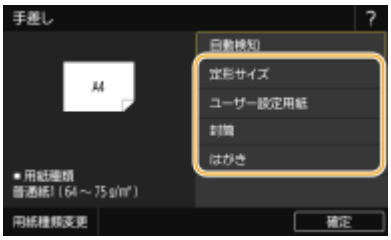
用紙をセットしても上の画面が表示されないときは

- 常に同じ用紙を手差しトレイにセットするのであれば、その用紙のサイズや種類をあらかじめ登録しておいて操作を省くことができます。ただし、この登録が行われていると上の画面が表示されません。表示させるときは、**手差しトレイでよく使う用紙サイズと種類を登録する(P. 164)** で＜用紙セット時に指定＞を選びます。

用紙種類の変更のみ行うときは

- 用紙種類のみ変更するときは、手順 2 以降の操作を行ってください。

1 用紙のサイズを選ぶ

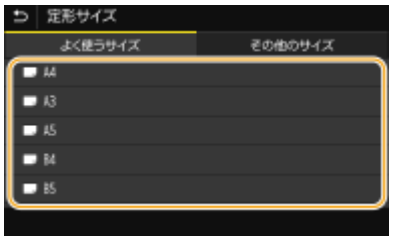


■定形サイズの用紙を設定する

1 ＜定形サイズ＞を選ぶ

2 ＜よく使うサイズ＞タブで、用紙のサイズを選ぶ

- セットした用紙サイズが表示されていないときは、＜その他のサイズ＞タブを選びます。



■定形サイズ以外の用紙を設定する

1 ＜ユーザー設定用紙＞を選ぶ

2 ＜Ｘ＞辺と＜Ｙ＞辺の長さを設定する

- ＜Ｘ＞または＜Ｙ＞を選び、それぞれの辺の長さを入力します。

MEMO

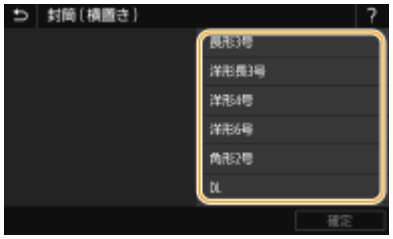
- よく使う用紙サイズを＜S1＞～＜S3＞ボタンに登録しておけば、ワンタッチで呼び出すことができます。
定形外サイズの用紙を登録する（ユーザー設定用紙）(P. 167)

3 ＜確定＞を選ぶ

■封筒を設定する

1 ＜封筒＞を選ぶ

2 封筒の種類を選ぶ

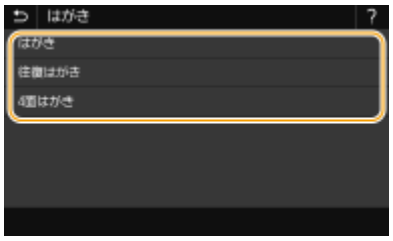


3 ＜確定＞を選ぶ

■はがきを設定する

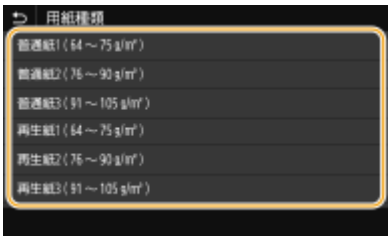
1 ＜はがき＞を選ぶ

2 はがきの種類を選ぶ



2 ＜用紙種類変更＞を選ぶ

3 用紙種類を選ぶ



4 ＜確定＞を選ぶ

関連項目

- 手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)
- 手差しトレイの用紙サイズを絞り込んで表示する(P. 168)
- 用紙について(P. 768)

手差しトレイでよく使う用紙サイズと種類を登録する

23LX-0F1

いつも同じ用紙を手差しトレイにセットするのであれば、その用紙のサイズや種類をあらかじめ登録しておきます。こうすることで、用紙セットのたびに設定する手間を省くことができて便利です。

MEMO

- ここでの設定を行うと、通常、用紙をセットしたときに現れるサイズ／種類の選択画面が表示されなくなります。その状態のまま、設定と異なるサイズや種類の用紙をセットすると正しく印刷できないことがあります。この場合は、手順 3 で＜用紙セット時に指定＞を選んでから、用紙をセットしてください。

1 ホーム画面で、＜用紙設定＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 手差しトレイを選ぶ

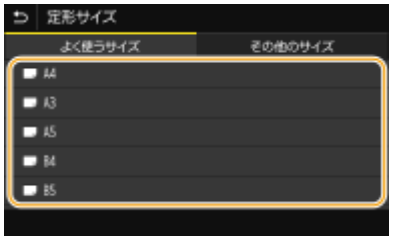
3 用紙を設定する

■定形サイズの用紙を設定する

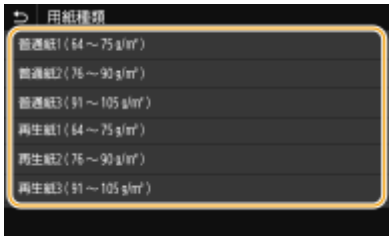
1 ＜定形サイズ＞を選ぶ

2 ＜よく使うサイズ＞タブで、用紙のサイズを選ぶ

- セットした用紙サイズが表示されていないときは、＜その他のサイズ＞タブを選びます。



3 用紙種類を選ぶ



■定形サイズ以外の用紙を設定する

1 ＜ユーザー設定用紙＞を選ぶ

2 ＜Ｘ＞辺と＜Ｙ＞辺の長さを設定する

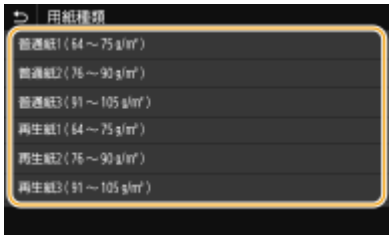
- ＜Ｘ＞または＜Ｙ＞を選び、それぞれの辺の長さを入力します。

MEMO

- よく使う用紙サイズを＜S1＞～＜S3＞ボタンに登録しておけば、ワンタッチで呼び出すことができます。
定形外サイズの用紙を登録する（ユーザー設定用紙）(P. 167)

3 ＜確定＞を選ぶ

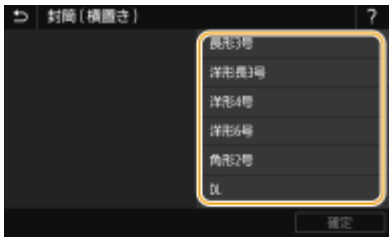
4 用紙種類を選ぶ



■封筒を設定する

1 ＜封筒＞を選ぶ

2 封筒の種類を選ぶ

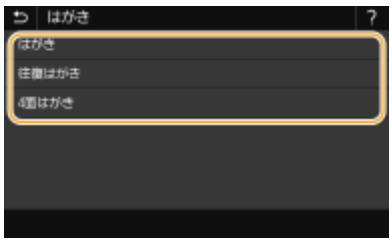


3 ＜確定＞を選ぶ

■はがきを設定する

1 ＜はがき＞を選ぶ

2 はがきの種類を選ぶ



関連項目

- 手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)
- 手差しトレイの用紙サイズを絞り込んで表示する(P. 168)
- 用紙について(P. 768)

定形外サイズの用紙を登録する（ユーザー設定用紙）

23LX-036

定形サイズ以外の用紙で、よく使うサイズを 3 種類まで登録できます。

1 ホーム画面で、＜用紙設定＞を選ぶ ▶ホーム画面(P. 120)

2 ＜ユーザー設定用紙登録＞を選ぶ

3 登録番号を選ぶ

MEMO

設定内容を削除するには

- ＜削除＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。

4 ＜ X ＞辺と＜ Y ＞辺の長さを設定する

- ＜ X ＞または＜ Y ＞を選び、それぞれの辺の長さを入力します。

5 ＜確定＞を選ぶ

登録したユーザー設定用紙に設定する

ここで登録した用紙は、給紙カセットや手差しトレイの用紙サイズ選択画面で＜ユーザー設定用紙＞を選んだときに呼び出すことができます。

関連項目

▶用紙の基本的なセット方法(P. 139)

手差しトレイの用紙サイズを絞り込んで表示する

23LX-0F2

よく使う用紙サイズだけを用紙サイズ設定の選択画面の＜よく使うサイズ＞タブに表示させることができます。

1 ホーム画面で、＜用紙設定＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜よく使う用紙サイズの選択＞を選ぶ

3 ＜手差し＞を選ぶ

4 表示させない用紙サイズのチェックマークを外す

- よく使う用紙サイズだけにチェックマークが付いている状態にします。

MEMO

- チェックマークを外した用紙サイズは、用紙サイズ設定の選択画面で＜その他のサイズ＞タブを選ぶと表示されます。

5 ＜確定＞を選ぶ

関連項目

手差しトレイの用紙サイズと種類を設定する(P. 161)
手差しトレイでよく使う用紙サイズと種類を登録する(P. 164)

機能ごとに適切な給紙部を自動選択させる

23LX-0F3

各給紙部を自動用紙選択の対象にするかどうかを設定します。＜ ON ＞にしておくと、文書サイズにあった用紙がセットされている給紙部を本機が自動的に選択します。また、用紙がなくなったときに、他の給紙部に同じ用紙がセットされていれば、自動的にそちらに切り替えて印刷されます。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜共通＞ ▶ ＜給紙動作＞の順に進む

3 ＜給紙箇所の自動選択＞を選ぶ

4 設定対象の機能を選ぶ

- レポート／リストの印刷、メモリーメディアプリントなどの機能を設定の対象とするときは＜その他＞を選びます。

5 自動選択の対象とする給紙部で＜ ON ＞を選ぶ

- ＜カセット 3 ＞と＜カセット 4 ＞は、オプションの 2 段カセットペディスタルを装着している場合に表示されます。

MEMO

- 給紙カセットのいずれかを必ず＜ ON ＞に設定してください。すべて＜ OFF ＞を選んだ場合は、設定を完了できません。

6 ＜確定＞を選ぶ

用紙カセットの自動検知サイズを設定する

23LX-0F4

各給紙部に対して、自動で検知できる用紙のサイズを登録します。給紙箇所ごとに、給紙する用紙のサイズが決まっているときに便利です。また、手差しトレイの自動検知サイズも設定できます。

ご注意

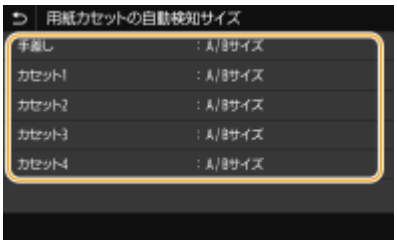
- 用紙のサイズは必ず正しく登録してください。正しく登録しないと紙づまりの原因になることがあります。

1 ホーム画面で、＜用紙設定＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

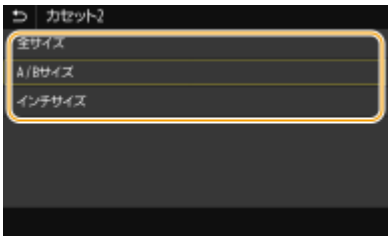
2 ＜用紙カセットの自動検知サイズ＞を選ぶ

3 サイズを変更する給紙箇所を選ぶ

- ＜カセット 3 ＞と＜カセット 4 ＞は、オプションの 2 段カセットペディスタルを装着している場合に表示されます。



4 自動検知させたいサイズを選ぶ



A5/STMT 用紙を区別する

23LX-0F5

A5 サイズ用紙、または STMT サイズ用紙を給紙カセットにセットするときに、どちらのサイズで動作させるかを設定することができます。

ご注意

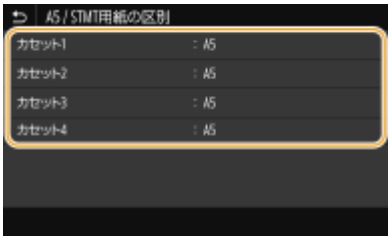
本項目は、＜用紙カセットの自動検知サイズ＞で＜全サイズ＞（**用紙カセットの自動検知サイズを設定する(P. 170)**）および＜用紙サイズ＞で＜自動＞（**給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する(P. 158)**）を選択している場合に設定が有効になります。

1 ホーム画面で、＜用紙設定＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

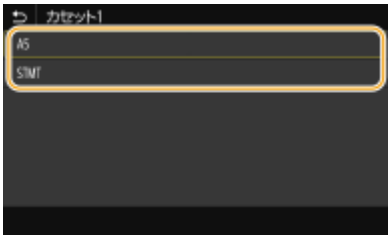
2 ＜ A5 / STMT 用紙の区別＞を選ぶ

3 自動検知させたい給紙部を選ぶ

- ＜カセット 3 ＞と＜カセット 4 ＞は、オプションの 2 段カセットペディスタルを装着している場合に表示されます。



4 用紙サイズを選ぶ



5 メッセージを確認し、＜閉じる＞を選ぶ

A4/LTR 用紙を区別する

23LX-0KJ

A4 サイズ用紙、または LTR サイズ用紙を給紙カセット 1 にセットするときに、どちらのサイズで動作させるかを設定することができます。

ご注意

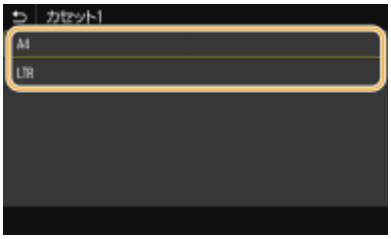
本項目は、＜用紙カセットの自動検知サイズ＞で＜全サイズ＞（**用紙カセットの自動検知サイズを設定する(P. 170)**）および＜用紙サイズ＞で＜自動＞（**給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する(P. 158)**）を選択している場合に設定が有効になります。

1 **ホーム画面で、＜用紙設定＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

2 **＜ A4/LTR 用紙の区別＞を選ぶ**

3 **＜カセット 1 ＞を選ぶ**

4 **用紙サイズを選ぶ**



5 **メッセージを確認し、＜閉じる＞を選ぶ**

B5/16K/EXEC 用紙を区別する

23LX-0KK

B5 サイズ用紙、16K サイズ用紙、または EXEC サイズ用紙を給紙カセットにセットするときに、どのサイズで動作させるかを設定することができます。

ご注意

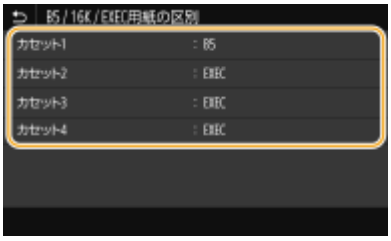
本項目は、＜用紙カセットの自動検知サイズ＞で＜全サイズ＞（**用紙カセットの自動検知サイズを設定する(P. 170)**）および＜用紙サイズ＞で＜自動＞（**給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する(P. 158)**）を選択している場合に設定が有効になります。

1 ホーム画面で、＜用紙設定＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

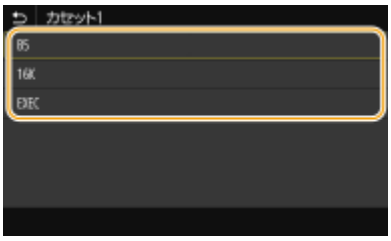
2 ＜ B5/16K/EXEC 用紙の区別＞を選ぶ

3 自動検知させたい給紙部を選ぶ

- ＜カセット 3 ＞と＜カセット 4 ＞は、オプションの 2 段カセットペディスタルを装着している場合に表示されます。



4 用紙サイズを選ぶ



5 メッセージを確認し、＜閉じる＞を選ぶ

ディスプレーをカスタマイズする

23LX-039

ホーム画面をより使いやすくするためにカスタマイズすることができます。また、各機能の基本画面によく使う設定を登録しておけば、効率よく作業することができます。

ホーム画面のカスタマイズ

表示されているボタンを並べ替えるだけでなく、ショートカットボタンを追加して、機能をすぐに選べる画面にカスタマイズすることができます。 **ホーム画面をカスタマイズする(P. 175)**

「よく使う設定」の登録

各機能で毎回同じ設定をすぐに呼び出せるように、よく使う設定として登録することができます。登録した設定は、ショートカットボタンとしてホーム画面に追加することもできます。 **よく使う設定を登録する(P. 178)**

ホーム画面をカスタマイズする

23LX-03A

ホーム画面は、よく使う設定をショートカットボタンとして追加したり、利用しやすいように表示順を変更したりしてカスタマイズすることができます。

ホーム画面にボタンを追加する(P. 175)
ボタンの表示順を変更する(P. 176)

ホーム画面にボタンを追加する

コピー、ファクス、スキャンの各機能でよく使う設定をショートカットボタンとしてホーム画面に追加できます。たとえば、「両面原稿をスキャンし、高圧縮 PDF にして E メールで送信する」といった一連の設定手順を、1 つのボタンとしてホーム画面に配置できるので、よりすばやく効率的に操作を実行することができます。

MEMO

- ショートカットボタンとして追加する設定内容は、あらかじめよく使う設定として登録しておく必要があります。
  よく使う設定を登録する(P. 178)

1 ホーム画面で、<ホーム画面設定>を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

2 <表示ボタンの選択>を選ぶ

3 どの機能のよく使う設定をボタンとして追加したいかを選ぶ

4 ボタンとして追加したい設定にチェックマークを付け、<確定>を選ぶ

MEMO

登録済みのボタンを削除するには

- 削除したいボタンに対応する設定に付いているチェックマークを外し、＜確定＞を選びます。登録済みのボタンを削除すると、これまでホーム画面でボタンが表示されていた箇所は空白になりますので、必要に応じて空白を削除してください。

5 メッセージを確認し、＜ OK ＞を選ぶ

➠ 新たにチェックマークを付けた設定のボタンがホーム画面に追加されます。

MEMO

- ホーム画面がいっぱいでボタンを追加できない場合は、すでに登録済みのボタンや空白を＜ホーム画面設定＞で削除してください。

ボタンの表示順を変更する

ボタンをより使いやすくするために、よく使う機能から順に並べたり、各機能のボタンとよく使う設定のショートカットボタンをまとめて並べたりするなど、ボタンの表示順を自由に変更することができます。ボタンの代わりに空白（スペース）を挿入して、ホーム画面を見やすくすることもできます。

1 ホーム画面で、＜ホーム画面設定＞を選ぶ ▶ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 ▶ログインする(P. 131)

2 ＜表示順番の設定＞を選ぶ

3 移動させたいボタンを選ぶ

- 選んだボタンは反転表示されます。この状態でもう一度タップすると選択が解除されます。

4 ＜左へ＞または＜右へ＞を選ぶ

- タップした回数分だけボタンが移動されます。
- ロングタッチするとボタンを連続的に移動させることができます。

■空白を挿入するには

- ＜空白挿入＞を選ぶと、選択しているボタンの左に空白が挿入されます。
- 最後尾のボタンを選択している場合は、＜右へ＞を選んでも空白が挿入されます。

MEMO

空白を削除するには

- 削除したい空白を選択し、＜空白削除＞を選びます。

5 ＜確定＞を選ぶ

関連項目

おもな操作方法(P. 126)

よく使う設定を登録する

23LX-03C

コピー、ファクス、スキャンで毎回同じ設定を使う場合や、複雑な設定を控えておきたい場合は、設定内容を「よく使う設定」として登録しておくと、すぐに呼び出すことができて便利です。また、登録した設定はホーム画面にショートカットボタンとして表示させることもできます。ここでは、よく使う設定の登録／呼び出し方法をコピーを例に説明します。

設定を登録する(P. 178)
登録した設定を呼び出す(P. 179)

MEMO

- ファクスやスキャンでは、よく使う設定に宛先も登録できますが、登録後に変更することはできません。宛先を変更したい場合は、いったん設定を削除してから登録しなおしてください。

設定を登録する

1 ホーム画面で、＜コピー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 登録したい内容に設定値を変更する コピーの基本操作(P. 199)

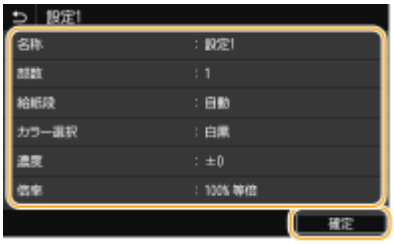
3 ＜その他の設定＞ ▶ ＜よく使う設定＞の順に進む

4 未登録の設定を選択し、＜登録＞を選ぶ

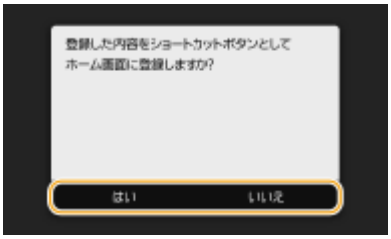
- 登録内容を変更するときは、登録済みの設定を選択して＜編集＞を選びます。

5 登録する設定内容を確認し、＜確定＞を選ぶ

- 登録する設定値を変更したいときは、設定項目を選びます。
- ＜名称＞を選ぶと、設定の名前を変更できます。文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。



6 ショートカットボタンとして登録するかどうかを選ぶ



- ＜はい＞を選んだときは、メッセージが表示されます。内容を確認し、＜ OK ＞を選ぶと、登録した設定のボタンがホーム画面に追加されます。

MEMO

- ホーム画面がいっぱいでショートカットボタンを追加できない場合は、すでに登録済みのボタンや空白を＜ホーム画面設定＞で削除してください。 **ホーム画面をカスタマイズする(P. 175)**

MEMO

- 登録した設定は、電源を切っても保存されます。
- 登録した設定を削除するときは、＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜よく使う設定＞ ▶ 設定を選び、＜削除＞を選択 ▶ ＜はい＞の順に選びます。

登録した設定を呼び出す

よく使う設定の中から目的に応じたものを選ぶだけです。

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜よく使う設定＞ ▶ 呼び出したい設定を選び、＜確定＞を選択

MEMO

- 設定を呼び出したあと、必要に応じてコピー設定を変更することもできます。

関連項目

コピーの基本操作(P. 199)
ファクス送信の基本操作(P. 224)
スキャンの基本操作(P. 290)

機能の初期値を変更する

23LX-03E

電源を入れたときや、<リセット>を選んだときに表示される設定値を初期値といいます。この初期値を、ひんぱんに使用する操作内容に合わせて変更しておけば、作業するたびに同じ設定をする手間が省けます。

■コピー

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <コピー> ▶ <デフォルト設定の変更 (コピー)> ▶ 設定項目を選択 ▶ 選択した項目の初期値を変更 ▶ <確定> ▶ 🏠

■ファクス

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <デフォルト設定の変更 (ファクス)> ▶ 設定項目を選択 ▶ 選択した項目の初期値を変更 ▶ <確定> ▶ 🏠

■USB メモリー

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <ファイル保存 / 利用> ▶ <共通設定> ▶ <スキャンして保存設定> ▶ < USB メモリー設定> ▶ <デフォルト設定の変更 (USB メモリー)> ▶ 設定項目を選択 ▶ 選択した項目の初期値を変更 ▶ <確定> ▶ 🏠

■メモリーメディアプリント

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <ファイル保存 / 利用> ▶ <共通設定> ▶ <保存ファイルの利用設定> ▶ <デフォルト設定の変更 (メモリーメディアプリント)> ▶ 設定項目を選択 ▶ 選択した項目の初期値を変更 ▶ <確定> ▶ 🏠

■E メール

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <スキャンして送信設定> ▶ < E メール設定> ▶ <デフォルト設定の変更 (E メール)> ▶ 設定項目を選択 ▶ 選択した項目の初期値を変更 ▶ <確定> ▶ 🏠

■I ファクス

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <スキャンして送信設定> ▶ <I ファクス設定> ▶ <デフォルト設定の変更 (I ファクス)> ▶ 設定項目を選択 ▶ 選択した項目の初期値を変更 ▶ <確定> ▶ 🏠

■共有フォルダー／FTP サーバー

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <スキャンして送信設定> ▶ <ファイル設定> ▶ <デフォルト設定の変更 (ファイル)> ▶ 設定項目を選択 ▶ 選択した項目の初期値を変更 ▶ <確定> ▶ 🏠

- 各設定画面で<初期化>を選ぶと、お買い上げ時の設定に戻すことができます。

関連項目

コピーの基本操作(P. 199)
ファクス送信の基本操作(P. 224)
USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）(P. 276)
スキャンの基本操作(P. 290)

音を設定する

23LX-03F

ファクス送受信の完了時、紙づまり時、操作エラー時など、本機はさまざまな状況に応じて確認音や警告音を発します。これらの音について、個別に設定できます。

■通信音量を調整する

1 （ ）を押す

2 音量を調整し、＜確定＞を選ぶ

- カーソルを左端に合わせると、音は鳴りません。

■他の音量を調整する

1 （ ）を押す

- ファクス非搭載機種の場合は、手順 3 に進みます。

2 ＜他の音量設定＞を選ぶ

3 設定項目を選ぶ

設定項目	概要	操作
＜送信終了音＞	ファクス送信終了を知らせる音	手順 4 へ
＜受信終了音＞	ファクス受信終了を知らせる音	
＜読取終了音＞	ファクス原稿読み取り終了を知らせる音	
＜入力音＞	操作パネルのキーやディスプレーのボタンを押したときに発する確認音	＜ ON ＞（鳴らす）／＜ OFF ＞（鳴らさない）を選ぶ
＜入力無効音＞	設定範囲外の数値を入力したときなど、無効なキー操作を行ったときに発する音	

設定項目	概要	操作
＜補給予告音＞	インクの残量やメンテナンスカートリッジの空き容量がなくなったことを知らせる音	
＜警告音＞	紙づまりや誤操作など、本機のトラブルを知らせる音	
＜前カバーロックエラー警告音＞	前カバーのロックが解除されていないときに空けようとしたときに発する音	
＜ジョブ終了音＞	コピーやスキャンなどで、本体内部の処理が終了したことを知らせる音	
＜節電移行音＞	節電に移行または節電からの復帰を知らせる音	
＜フィーダー原稿検知音＞	フィーダーに原稿をセットしたときに発する確認音	

4 音量を調整し、＜確定＞を選ぶ

- カーソルを左端に合わせると、音は鳴りません。

■エラー時のみに終了音を鳴らす

＜エラー時のみ鳴らす＞で＜ ON ＞を選んでから＜確定＞を選びます。

スリープモードにする

23LX-03H

スリープモードは、本体内部の動作を一部休止して消費電力量を抑える機能です。たとえば、昼休みなどで本機をしばらく使わない場合、操作パネルの を押してください。これだけの操作で、かんたんに節電できます。

MEMO

状態を確認するには

- スリープモード時は、 が緑色に点灯します。

スリープモードにならない場合

- 本機で何らかの操作をしている
- データランプが点灯または点滅している
- 調整中やクリーニング中など、本機が動作中
- 紙づまりが発生している
- 外付け電話機、またはオプションのハンドセットの受話器が外れている
- ファクスの着信時に呼び出し音を鳴らさない設定にしている
- メニュー画面が表示されている
- USB メモリーまたはパソコンへの読み込み待機中
- エラーメッセージが表示されている（例外もあり、スリープモードになることもあります。）
- 本機が LDAP サーバーなどと通信中
- ダイレクト接続の SSID/ネットワークキー表示画面が表示されている
- 設定のインポート／エクスポート中

オートスリープ移行時間を変更する

一定時間何の操作も行わないと自動的にスリープモードに移行する機能をオートスリープといいます。効果的な節電のためにお買い上げ時の設定でお使いになることをおすすめしますが、移行時間を変更する場合は以下の手順で行ってください。

<メニュー> ▶ <環境設定> ▶ <タイマー / 電力設定> ▶ <オートスリープ> ▶ オートスリープへの移行時間を設定 ▶ <確定> ▶ 🏠

指定した時刻にスリープモードを切り替える

決まった時刻になるとスリープモードになるように設定することができます。また逆に、指定した時刻になるとスリープモードが解除されるように設定することもできます。

<メニュー> ▶ <環境設定> ▶ <タイマー / 電力設定> ▶ <オートスリープ時刻の設定>または<スリープ復帰時刻の設定>を選択 ▶ <オートスリープ時刻を指定する>または<スリープ復帰時刻を指定する>で< ON >を選び、時刻を入力 ▶ <確定> ▶ 🏠

スリープモードを解除するとき

のほか、操作パネルのいずれかのキーを押すと解除されます。（音量キーを除く）

MEMO

- ディスプレーをタップしても解除されます。
- 外付け電話機やオプションのハンドセットを接続している場合は、受話器を外しても解除されます。

宛先を登録する

23LX-03J

ファクスやスキャンで使う宛先は、あらかじめアドレス帳に登録しておくとかんたんに呼び出せます（**アドレス帳に宛先を登録する(P. 188)**）。登録した宛先は、一覧から選んだり、頭文字から検索したりすることができます。また、宛先に付けられる 3 桁の番号（短縮番号）を入力してダイレクトに呼び出すことも可能です。さらに、以下のような機能を使えば、よりスピーディーに宛先指定することもできます。

■ベストメンバー

アドレス帳に多くの宛先を登録すると、目的の宛先を探し出しにくくなります。そこで、よく使う宛先はベストメンバーに登録しましょう。アドレス帳の＜★＞から呼び出せるようになります。

■グループダイヤル

すでに登録した宛先の中からいくつかを選んでグループとして登録することができます。1 回の操作で複数の宛先に送信できるので便利です。なお、ベストメンバーとしてグループを登録することも可能です。**アドレス帳にグループを登録する(P. 191)**

■インデックス

登録した宛先は、頭文字やアドレスの種類によってインデックスに分類されます。インデックスを切り替えることで、宛先をすばやく検索できます。＜＜／＞＞をタップするか、インデックスを左右にフリックすると、表示を切り替えることができます。

＜全て＞
アドレス帳に登録されているすべての宛先が表示されます。

＜★＞
ベストメンバーとして登録されている宛先だけが表示されます。

＜あ＞～＜ YZ ＞
選択したインデックスに表示されている頭文字の宛先だけが表示されます。

＜ ＞
ファクス送信用の宛先だけが表示されます。

＜ ＞
E メール送信用の宛先だけが表示されます。

< >

I ファクス送信用の宛先だけが表示されます。

< >

共有フォルダーや FTP サーバー用の宛先だけが表示されます。宛先の登録はパソコンから行います。

リモート UI から宛先を登録する(P. 428)

< >

グループダイヤルの宛先だけが表示されます。

MEMO

- スキャンで使用する共有フォルダーや FTP サーバーの宛先を登録するときや、宛先の名称を漢字やひらがなで登録したいときはパソコンから操作してください。
  リモート UI から宛先を登録する(P. 428)
- アドレス帳はパソコンにファイルとして保存できます（ただし、保存したファイルをパソコン上で編集することはできません）。また、保存したファイルを本機に読み込ませることもできます。 **設定データをインポート／エクスポートする(P. 432)**
- アドレス帳の宛先一覧表を印刷できます。 **アドレス帳リスト(P. 664)**
- オフィスに LDAP サーバーが設置されている場合、サーバー内のユーザー情報を検索してアドレス帳に登録できます。事前に LDAP サーバーに接続する設定を済ませておく必要があります。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

アドレス帳に宛先を登録する

23LX-03K

ここでは操作パネルから宛先を登録する方法を説明します。宛先の名称に漢字やひらがなを使いたい場合はリモート UI を使って登録してください。 **リモート UI から宛先を登録する(P. 428)**

1 ホーム画面で、＜アドレス帳＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

2 ＜新規登録＞を選ぶ

- 暗証番号の入力画面が表示されたら、アドレス帳の暗証番号を入力して＜確定＞を選びます。 **アドレス帳の使用を制限する(P. 403)**

3 登録するアドレスの種類を選ぶ

■LDAP サーバーから登録する

オフィスに LDAP サーバーが設置されている場合､サーバー内のユーザー情報を検索してアドレス帳に登録することができます。

MEMO

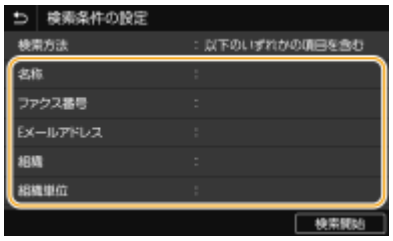
- LDAP サーバーから登録する場合は、事前に LDAP サーバーに接続する設定を済ませておく必要があります。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

1 ＜ LDAP サーバー＞を選ぶ

2 使用する LDAP サーバーを選ぶ

3 検索するユーザー情報の条件を選ぶ

- 名称、ファクス番号、E メールアドレス、組織、組織単位を検索条件にすることができます。

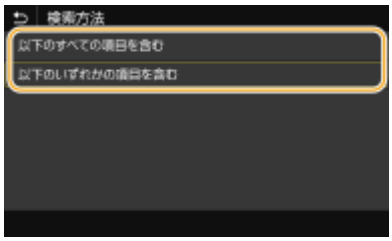


4 検索する文字列を入力し、＜確定＞を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。
- 検索条件を複数指定する場合は、手順 3 と 4 を繰り返します。

5 ＜検索方法＞を選ぶ

6 検索結果を表示する条件を選ぶ



＜以下のすべての項目を含む＞
手順 3 と 4 で指定したすべての条件を満たすユーザーだけを検索結果として表示します。

＜以下のいずれかの項目を含む＞
手順 3 と 4 で指定した条件のどれか 1 つでもあてはまるユーザー情報があれば、それらすべてのユーザーを検索結果として表示します。

7 ＜検索開始＞を選ぶ

➠ 指定した検索条件に合致したユーザーが表示されます。

MEMO

- ＜検索開始＞を選んだときに認証画面が表示された場合は、LDAP サーバーに登録されている本機のユーザー名とパスワードを入力し、＜確定＞を選んでください。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

8 アドレス帳に登録したいユーザーを選ぶ

9 ＜確定＞を選ぶ

➠ 選択したユーザーの LDAP サーバー上に登録されているユーザー名と、ファクス番号または E メールアドレスがアドレス帳に登録されます。

■履歴から登録する

送信の履歴がある場合は、＜送信の履歴＞を選んで登録することができます。

4 ＜名称＞を選ぶ

- ＜名称＞の設定は任意ですが、設定しておくと宛先を指定するときに頭文字で検索できるようになります。

5 名称を入力し、＜確定＞を選ぶ

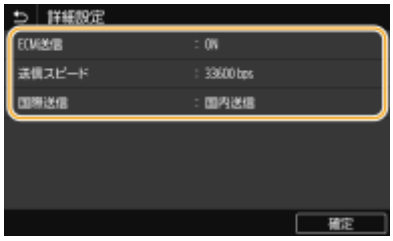
- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

6 ＜ファクス番号＞、＜ E メールアドレス＞、または＜ I ファクスアドレス＞を選ぶ

7 宛先を入力し、＜確定＞を選ぶ

■詳細な設定をする（ファクス登録時のみ）

＜詳細設定＞を選ぶと、以下のような画面が表示されます。



＜ECM 送信＞
＜ON＞にすると、送信中の画像にエラーが発生した場合、乱れた画像をそのまま送信しないようエラーチェックと修正を行います。

＜送信スピード＞
電話回線の状態が悪いときなど、送信が始まるまでに時間がかかる場合に、通信開始速度を下げて調整します。

＜国際送信＞
海外のファクス番号を登録する場合、通信状態に合わせて＜国際送信(1)＞～＜国際送信(3)＞の順に設定します。

MEMO

- ＜ECM 送信＞および＜送信スピード＞は、＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜送信＞ ▶ ＜ファクス設定＞からも設定できますが、アドレス帳に登録されている宛先は、＜アドレス帳＞での設定が有効になります。

8 ＜登録先＞を選ぶ

9 ＜ベストメンバー＞または＜短縮ダイヤル＞を選ぶ

- ＜短縮ダイヤル＞を選んだときは、登録先の番号を選択するか、＜テンキー入力＞を選んで登録先の番号を入力します。

10 ＜確定＞を選ぶ

MEMO

- アドレス帳に登録した宛先をグループにまとめ、ひとつの宛先として登録することができます。詳しくは、**アドレス帳にグループを登録する(P. 191)** を参照してください。
- アドレス帳に登録した宛先の内容を変更したり削除したりするには、**アドレス帳に登録した宛先を編集する(P. 193)** を参照してください。

アドレス帳にグループを登録する

23LX-03L

すでに登録した宛先の中からいくつかを選んでグループとして登録することができます。ここでは操作パネルからグループを登録する方法を説明します。グループの名称に漢字やひらがなを使いたい場合はリモート UI を使って登録してください。
リモート UI から宛先を登録する(P. 428)

MEMO

- 1 つのグループには、アドレスの種類が同じ宛先のみ登録できます。
- 共有フォルダーや FTP サーバーの宛先をグループに登録することはできません。

1 ホーム画面で、<アドレス帳>を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

2 <新規登録> ▸ <グループ>の順に進む

- 暗証番号の入力画面が表示されたら、アドレス帳の暗証番号を入力して<確定>を選びます。 **アドレス帳の使用を制限する(P. 403)**

3 <名称>を選ぶ

- <名称>の設定は任意ですが、設定しておくと宛先を指定するときに頭文字で検索できるようになります。

4 名称を入力し、<確定>を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

5 <宛先>を選ぶ

6 <追加>を選ぶ

7 登録したい宛先のあるインデックスを選ぶ **インデックス(P. 186)**

8 宛先を選び、<確定>を選ぶ

9 手順 6〜8 を繰り返して登録する宛先をすべて選び、＜確定＞を選ぶ

MEMO

宛先の内容を確認するには

- 確認したい宛先を選択し、＜詳細情報＞を選びます。

グループから宛先を外すには

- グループから外したい宛先を選択し、＜削除＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。

10 ＜登録先＞を選ぶ

11 ＜ベストメンバー＞または＜短縮ダイヤル＞を選ぶ

- ＜短縮ダイヤル＞を選んだときは、登録先の番号を選択するか、＜テンキー入力＞を選んで登録先の番号を入力します。

12 ＜確定＞を選ぶ

アドレス帳に登録した宛先を編集する

23LX-03R

いったん登録したファクス番号や名称を変更する、ファクス番号として登録した宛先を E メール用に種類変更する、短縮番号を変更する、グループの宛先を追加／解除する、というような設定内容の変更ができます。また、宛先やグループを削除することもできます。

MEMO

- アドレス帳から宛先を削除すると、よく使う設定からも宛先が削除されます。 **よく使う設定を登録する(P. 178)**

1 ホーム画面で、＜アドレス帳＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 変更したい宛先のあるインデックスを選ぶ インデックス(P. 186)

3 宛先を選択し、＜編集＞を選ぶ

- ＜詳細情報＞を選ぶと、宛先の内容を確認できます。
- 削除する場合は、＜削除＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。
- 暗証番号の入力画面が表示されたら、アドレス帳の暗証番号を入力して＜確定＞を選びます。 **アドレス帳の使用を制限する(P. 403)**

4 必要に応じて項目を編集したあと、＜確定＞を選ぶ

コピーする

コピーする 195
コピーの基本画面について 197
コピーの基本操作 199
コピーを中止する 205
コピー状況や履歴を確認する 206
コピー品質を高める／調整する 208
原稿の種類に合わせてコピーする 209
鮮明にコピーする（シャープネス） 210
原稿の影を消してコピーする（枠消し） 211
コピーの便利な機能 213
原稿を 1 ページにまとめる（ページ集約） 214
見開き原稿を 2 ページにしてコピーする 215
サイズの異なる原稿をまとめてコピーする（原稿サイズ混載） 216
ソート／グループで仕上げる 217
ID カードをコピーする 218

コピーする

23LX-0F6

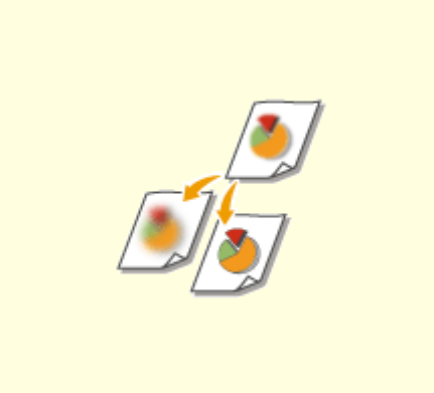
基本的なコピーの使いかたのほかに、色味の調整方法や ID カードコピーなど、さまざまな場面で役立つコピーの機能を紹介しています。

■基本操作をご紹介

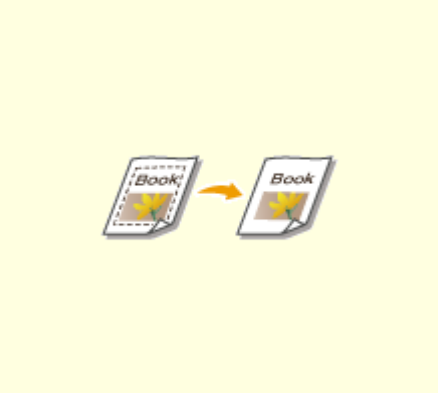
- コピーの基本画面について(P. 197)
- コピーの基本操作(P. 199)
- コピーを中止する(P. 205)
- コピー状況や履歴を確認する(P. 206)

■品質を高める コピー品質を高める／調整する(P. 208)

原稿の種類に合わせてコピーする(P. 209)



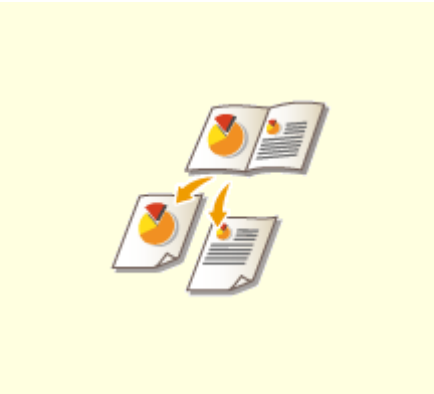
鮮明にコピーする（シャープネス）(P. 210)



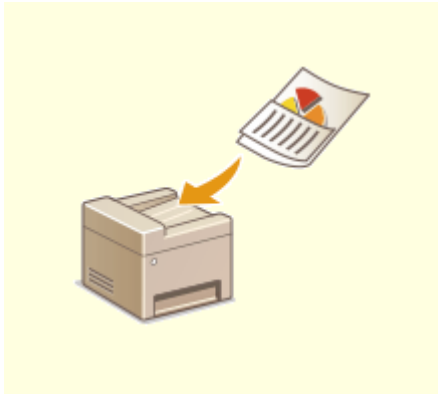
原稿の影を消してコピーする（枠消し）(P. 211)

■便利なコピー機能を使いこなす コピーの便利な機能(P. 213)

原稿を 1 ページにまとめる（ページ集約）(P. 214)



見開き原稿を 2 ページにしてコピーする(P. 215)



サイズの異なる原稿をまとめてコピーする（原稿サイズ混載）(P. 216)

ソート／グループで仕上げる(P. 217)

ID カードをコピーする(P. 218)

コピーの基本画面について

23LX-0F7

ホーム画面の＜コピー＞を選ぶと、コピーの基本画面が表示されます。

1 現在の設定状況と設定ボタン

倍率、コピーする用紙、部数などの設定状況が表示されます。正しくコピーするために、必ずここの設定内容を確認してください。設定を変更するときは、それぞれの設定を選んでください。 **コピーの基本操作(P. 199)**

2 ＜両面＞

原稿と出力紙の片面／両面の組み合わせを選ぶことができます。詳細な設定は、＜その他の設定＞から行います。
コピーの基本操作(P. 199)

	原稿の片面を読み込み、片面に印刷します。
	原稿の片面を読み込み、両面に印刷します。
	原稿の両面を読み込み、両面に印刷します。
	原稿の両面を読み込み、片面に印刷します。

3 ＜ページ集約＞

複数ページの原稿を 1 枚の用紙の同じ面に並べるページ集約のパターンを選ぶことができます。詳細な設定は、＜その他の設定＞から行います。 **原稿を 1 ページにまとめる（ページ集約）(P. 214)**

	ページ集約しません。
	2 ページ分の原稿を 1 枚の用紙に印刷します。
	4 ページ分の原稿を 1 枚の用紙に印刷します。

4 ＜その他の設定＞

コピーの基本画面に表示されない詳細な設定やよく使う設定を呼び出すことができます。

5 ＜リセット＞

設定した内容をまとめて初期状態に戻すことができます。

6 ＜スタート＞

コピーを開始するボタンです。

コピーの基本操作

23LX-0F8

原稿をコピーするときの基本的な操作手順を説明します。

1 原稿をセットする 原稿をセットする(P. 133)

2 ホーム画面で、<コピー>を選ぶ ホーム画面(P. 120)

3 コピーの基本画面で、<部数>を選ぶ コピーの基本画面について(P. 197)

4 必要なコピー枚数を入力し、<閉じる>を選ぶ

- 間違って入力したときは C で消します。

5 必要に応じてコピー設定をする

カラーコピー／白黒コピーを選ぶ
濃度を調整する
両面コピーする
拡大／縮小する
コピー用紙を選ぶ

カラーコピー／白黒コピーを選ぶ

コピーする原稿がカラーか白黒かを自動的に認識して、フルカラーモードと白黒モードを切り替える自動（カラー/ 白黒）機能があります。カラー原稿を白黒コピーすることでインクを節約するなど、用途に合わせてフルカラーモード、白黒モードを使い分けることができます。

<カラー選択> ▶ カラーの種類を選択 ▶ <閉じる>

<自動 (カラー / 白黒)>

原稿の色を自動で判別します。カラーページは 4 色（CMYK）でコピーし、白黒ページは黒（K）だけでコピーします。

<フルカラー>

原稿の色にかかわらず 4 色（CMYK）でコピーします。

＜白黒＞

原稿の色にかかわらず黒（K）だけでコピーします。

MEMO

- 黒に近い色の原稿、色の薄い原稿、カラー部分が少ない原稿は、＜自動 (カラー / 白黒)＞を設定しても白黒原稿と判別されることがあります。

濃度を調整する

原稿の文字や画像が薄い（濃い）場合に、濃度を調整します。たとえば、鉛筆で書かれた薄い文字を読みやすくすることができます。 **全体の濃度を調整する(P. 200)**

背景の濃度を調整します。下地に色の付いた原稿や、新聞のように紙が薄くウラ面の文字や画像が透けて見える原稿も、きれいにコピーすることができます。 **背景の濃度を調整する(P. 200)**

■全体の濃度を調整する

＜その他の設定＞ ▶ ＜濃度＞ ▶ 濃度を調整 ▶ ＜確定＞

■背景の濃度を調整する

＜その他の設定＞ ▶ ＜濃度＞ ▶ ＜背景調整＞ ▶ ＜調整＞ ▶ 背景の濃度を調整 ▶ ＜確定＞ ▶ ＜確定＞

MEMO

- 原稿の色によっては、背景以外の部分が影響を受ける場合があります。
- ＜色別調整＞を選ぶと、背景濃度を色別に調整することができます。

両面コピーする

2 枚の片面原稿を用紙のオモテとウラに両面コピーします。また、両面原稿をそのまま両面にコピーしたり、オモテとウラを別々に 2 枚にして片面コピーしたりすることもできます。

MEMO

- 用紙のサイズや種類によっては、＜両面＞を使用できない場合があります。 **用紙について(P. 768)**

＜その他の設定＞ ▶ ＜両面＞ ▶ 両面コピーの種類を選択 ▶ ＜確定＞

a 両面コピーの種類

図を参考に、両面コピーの種類を選びます。

＜片面 -> 両面＞　＜両面 -> 両面＞　＜両面 -> 片面＞

b ＜開き方設定＞

原稿の向きや開き方、仕上がりの開き方を設定します。

拡大／縮小する

＜ A5 -> A4 ＞などの定形サイズ変倍だけでなく、1 %刻みで任意の倍率を指定して拡大／縮小できます。

MEMO

- 倍率を設定したあとに＜ページ集約＞を設定すると、＜ページ集約＞の縮小率が優先されます。

＜倍率＞ ▶ 倍率項目を選択

a 定形サイズ変倍

設定したい倍率を選びます。

b テンキー

倍率は 25 ～ 400 %まで 1 %刻みで設定できます。

コピー用紙を選ぶ

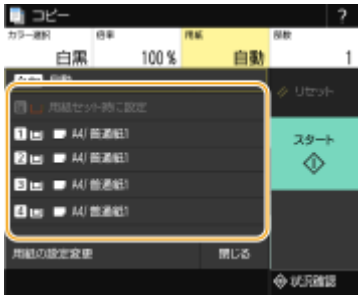
コピーの出力に使う用紙がセットされている給紙部を指定します。

MEMO

- 給紙部にセットした用紙のサイズと種類をあらかじめ設定しておく必要があります。

▶用紙サイズと種類を設定する(P. 157)
▶用紙をセットする(P. 137)

＜用紙＞ ▶ 給紙部を選択 ▶ ＜閉じる＞



Auto	セットされている原稿のサイズに応じて用紙を自動的に選択します。
	手差しトレイにセットした用紙にコピーします。
1、2	本体の給紙カセット（カセット 1、2）にセットした用紙にコピーします。
3、4	オプションの 2 段カセットペディスタル（カセット 3、4）にセットした用紙にコピーします。

MEMO

- その他のコピー設定については、▶**コピー品質を高める／調整する(P. 208)** や ▶**コピーの便利な機能(P. 213)** を参照してください。

6 ＜スタート＞を選ぶ

➠ コピーが開始されます。

- 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞ の順に選びます。 ▶**コピーを中止する(P. 205)**

■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

原稿が自動で読み込まれます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

両面コピーやページ集約コピーの場合、次の原稿をセットする画面が表示されます。

1 原稿台ガラスに次の原稿をセットし、＜次の原稿を読込＞を選ぶ

- 原稿ごとに＜濃度＞および＜原稿の種類＞を設定しなおすこともできます。

- すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。

2 **<プリント開始>を選ぶ**

MEMO

- ディスプレーに<給紙サイズと設定サイズが不一致>または<メモリーがいっぱいのため読み込みを中止します。プリントしますか？>と表示されたとき **メッセージごとの対処方法(P. 698)**

ご注意

余白なく用紙いっぱいに文字や画像がある原稿をコピーしたとき

- コピー画像の周囲が欠けることがあります。欠け幅については、**基本仕様／コピー機能(P. 755)** を参照してください。

便利な機能

- いつも同じ設定でコピーしたい **機能の初期値を変更する(P. 180)**
- 複数のコピー設定を組み合わせて登録し、必要なときに呼び出して使用したい **よく使う設定を登録する(P. 178)**

関連項目

コピー状況や履歴を確認する(P. 206)

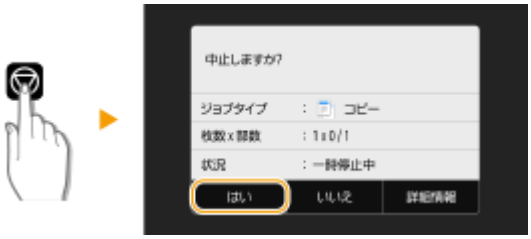
コピーを中止する

23LX-03X

<スタート>を選んだ直後にコピーを中止するときは、画面から<中止>を選ぶか、操作パネルの を押します。なお、コピー状況を確認してから中止することもできます。

■コピー中の画面で<中止>を選ぶ

■ で中止する



を押すと、文書の一覧画面が表示される場合

すでに原稿の読み込みは終了し、順番待ちをしている状態です。中止したいコピー文書を選択して<中止> ▶ <はい>の順に選びます。

■コピー状況を確認してから中止する

<状況確認> ▶ <コピー / プリントジョブ> ▶ <コピー / プリント状況>タブでコピー文書を選択 ▶ <中止> ▶ <はい>

関連項目

コピーの基本操作(P. 199)

コピー状況や履歴を確認する

23LX-03Y

現在のコピー状況やコピーした文書の履歴を確認できます。

ご注意

- <ジョブ履歴の表示>が< OFF >に設定されていると、コピー履歴は確認できません。 **<ジョブ履歴の表示> (P. 539)**

次のようなときに便利です

- 原稿を読み込んだあと、コピー文書がなかなか印刷されないので、順番待ちの状況を確認したい。
- コピーしたはずの文書が見当たらないので、エラーが起きていないか確認したい。

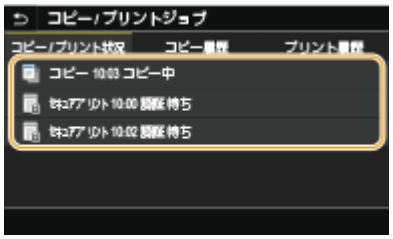
1 <状況確認>を選ぶ

2 <コピー / プリントジョブ>を選ぶ

3 コピー状況または履歴を確認する

■コピー状況を確認する

1 <コピー / プリント状況>タブで、状況を確認したい文書を選ぶ



➠ 文書の詳細情報が表示されます。

■コピー履歴を確認する

1 <コピー履歴>タブで、履歴の内容を確認したい文書を選ぶ

- 正しくコピーされた文書には< OK >と表示されます。< NG >と表示されている場合は、コピーを中止したか、エラーが発生したことを示しています。

➠ 文書の詳細情報が表示されます。

＜ NG ＞のときに 3 桁の数字が表示されている場合

- 3 桁の数字はエラーコードを表しています。 **エラーコードごとの対処方法(P. 717)** を参照してください。

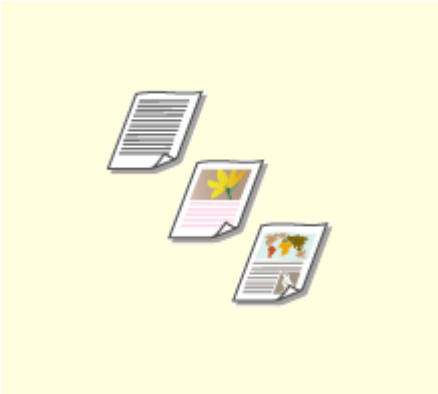
関連項目

コピーの基本操作(P. 199)
コピーを中止する(P. 205)

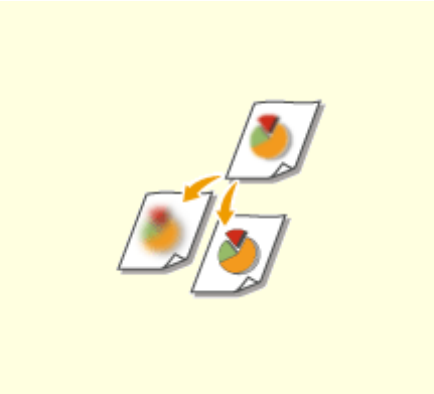
コピー品質を高める／調整する

23LX-040

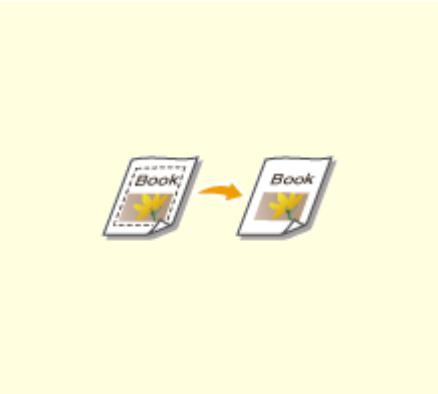
鮮やかさを調整したり、不要な影を消したりなど、きめ細やかな設定をすることでコピー品質を向上させることができます。



原稿の種類に合わせてコピーする (P. 209)



鮮明にコピーする（シャープネス）(P. 210)



原稿の影を消してコピーする（枠消し）(P. 211)

原稿の種類に合わせてコピーする

23LX-0F9

文字だけしかない論文、図表が多用されている企画書、雑誌から切り抜かれた写真など、原稿の種類に合わせて、コピーの画質を選ぶことができます。

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜原稿の種類＞ ▶ 原稿の種類を選択

＜文字 / 写真 / 地図＞	文字と写真が混在した原稿や、細かい線が使われている地図などをきれいにコピーします。
＜印刷写真＞	雑誌やパンフレットなどに掲載されている写真（網点で作られている写真）をきれいにコピーします。
＜文字＞	文字だけの文書をコピーするときに使います。

関連項目

コピーの基本操作(P. 199)

鮮明にコピーする（シャープネス）

23LX-042

原稿の画像のエッジ（周囲）をくっきりさせるように調整してコピーします。ぼやけた文字や線を鮮明にする場合はシャープネスを強くし、写真などの網点原稿をきれいにする場合は逆に弱くします。

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜シャープネス＞ ▶ シャープネスを調整 ▶ ＜確定＞

調整例：鉛筆で書かれた文字や線を鮮明にさせたいとき

調整例：雑誌の写真を見やすくしたいとき

関連項目

コピーの基本操作(P. 199)

原稿の影を消してコピーする（枠消し）

23LX-0FA

用紙より小さい原稿をコピーすると、原稿の周囲に黒い枠が現れることがあります。また、厚手の書籍を見開きコピーしたとき、本の周囲に黒い影が出てしまうことがあります。こうした枠や影を消してきれいにコピーすることができます。

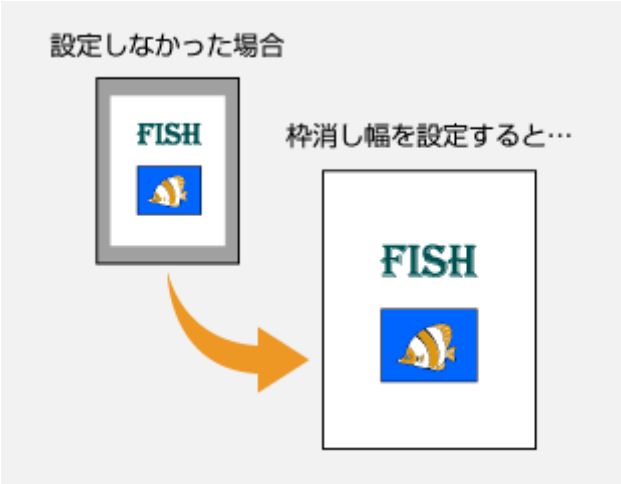
MEMO

- 設定した枠消し幅は、＜倍率＞に応じて増減します。
- ＜ページ集約＞と＜枠消し＞をいっしょに使うことはできません。

■原稿の枠線を消す

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜枠消し＞ ▶ ＜原稿枠消し＞ ▶ 枠消し幅を指定 ▶ ＜確定＞ ▶ ＜読取サイズ＞で原稿のサイズを選択

調整例：原稿の影や枠線を消したいとき



■本の影を消す

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜枠消し＞ ▶ ＜ブック枠消し＞ ▶ ＜センター＞または＜全周＞の枠消し幅を指定 ▶ ＜確定＞ ▶ ＜読取サイズ＞で本のサイズを選択

調整例：本の影や枠線を消したいとき

関連項目

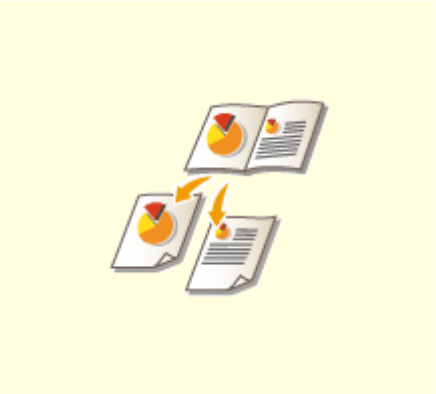
コピーの基本操作(P. 199)

コピーの便利な機能

23LX-0FC

数枚の原稿を 1 ページにまとめてコピーしたり、コピーが失敗しないよう仕上がりを確認したりすることで、用紙の無駄をなくすことができます。また、サイズ違いの原稿をまとめてコピーしたり、カード類の表面と裏面を 1 枚の用紙に並べてコピーする機能もあります。

原稿を 1 ページにまとめる（ページ集約）(P. 214)



見開き原稿を 2 ページにしてコピーする(P. 215)

サイズの異なる原稿をまとめてコピーする（原稿サイズ混載）(P. 216)

ソート／グループで仕上げる(P. 217)

ID カードをコピーする(P. 218)

原稿を 1 ページにまとめる（ページ集約）

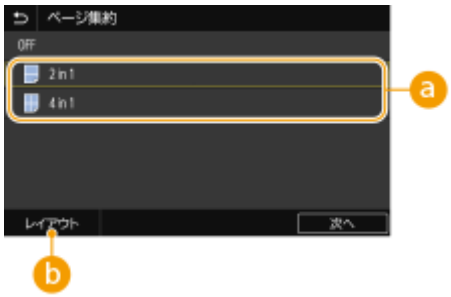
23LX-046

複数ページの原稿を縮小した状態で 1 枚の用紙の同じ面に並べることができます。もとのページ数よりも少ない用紙枚数でコピーできるので、用紙を節約することができます。

MEMO

- ページ集約は原稿を自動的に縮小してコピーします（このとき、縮小率が画面に数値表示されます）。コピー開始前であれば、自動表示された数値をさらに下げて、より縮小することもできます。このとき、数値を上げて拡大すると原稿の一部が欠落することがあります。
- ＜枠消し＞と＜ページ集約＞をいっしょに使うことはできません。
- 複数枚の原稿を縮小して 1 ページにコピーすると、コピーされた画像の周囲に余白ができることがあります。
- 原稿ごとにカラーモードを指定することはできません。

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜ページ集約＞ ▶ 集約するページ数を選び、＜次へ＞を選択 ▶ ＜読取サイズ＞で原稿のサイズを選択 ▶ ＜出力サイズ＞で、使いたい用紙がセットされている給紙部を選択



a 集約するページ数

用紙の片面に集約するページ数を選びます。たとえば、＜ 4 in 1 ＞は「1 枚の用紙に 4 ページの原稿を集約する」という意味です。

b ＜レイアウト＞

1 枚の用紙に複数の原稿をどのように割り付けるのかを設定します。

関連項目

コピーの基本操作(P. 199)

見開き原稿を 2 ページにしてコピーする

23LX-0FE

本や雑誌のような見開きの原稿を、左右のページに分割して 2 枚の用紙にコピーすることができます。

MEMO

- 見開き原稿をコピーするときは、原稿を原稿台ガラスにセットしてください。次の図のように原稿をふせた状態で、原稿の上部を原稿台ガラスの左上隅と上部に合わせて置いてください。

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜見開き -> 2 ページ＞ ▶ ＜ ON ＞で原稿の開き方を選択

関連項目

コピーの基本操作(P. 199)

サイズの異なる原稿をまとめてコピーする（原稿サイズ混載）

23LX-0FF

サイズの異なる原稿をフィーダーにセットして同時にコピーすることができます。用紙を選択したり、原稿をセットしなおしたりする手間を省くことができます。

ご注意

- 同時にコピーできる原稿サイズの組み合わせには制限があります。適切ではない組み合わせでコピーすると、原稿の破損や紙づまりの原因になることがあります。
- 紙の厚さや紙質が異なる原稿を同時にコピーしないようにしてください。原稿の破損や紙づまりの原因になることがあります。

MEMO

- 次の図のように、タテ方向の長さが同じ幅で、ヨコ方向の長さが異なるサイズの原稿を同時にコピー/読み込みすることができます。同じ幅の辺をそろえてフィーダーにセットしてください。

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜原稿サイズ混載＞ ▶ ＜ ON ＞

関連項目

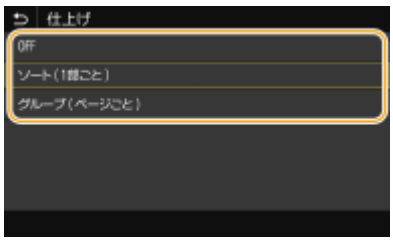
コピーの基本操作(P. 199)

ソート／グループで仕上げる

23LX-0FH

フィーダーから 2 部以上コピーするときは、ソートするかグループで出力するかを選ぶことができます。原稿と同じページ順になるように 1 部ずつ仕分けることを「ソート」といい、「1 ページ目を 10 枚、2 ページ目を 10 枚…」というように各ページ単位で仕分けることを「グループ」といいます。

＜コピー＞ ▶ ＜その他の設定＞ ▶ ＜仕上げ＞ ▶ ＜ソート (1 部ごと)＞または＜グループ (ページごと) ＞



＜ソート (1 部ごと)＞

原稿のページ順に、1 部ずつ仕分けてコピーされます。たとえば、5 ページの原稿を 3 部コピーすると、「12345」「12345」「12345」の順で排出されます。

＜グループ (ページごと) ＞

指定した部数だけページ単位で仕分けてコピーされます。たとえば、5 ページの原稿を 3 部コピーすると、「111」「222」「333」「444」「555」の順で排出されます。

ID カードをコピーする

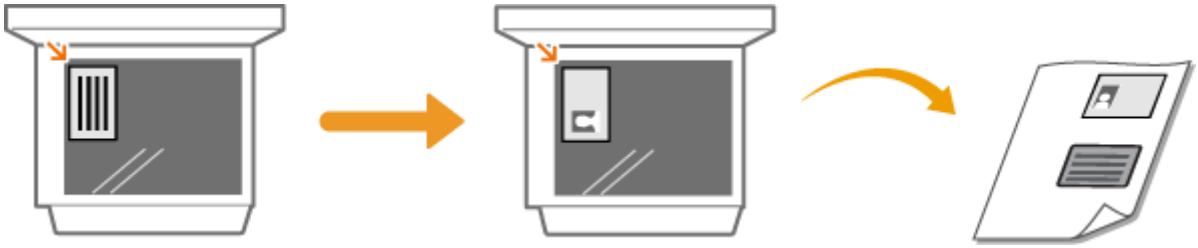
23LX-048

運転免許証や健康保険証など、カード類の表裏を 1 枚の用紙に割り付けて等倍コピーします。受付業務で身分証明を複写するときなどに便利です。

MEMO

- ＜倍率＞は 100 %に固定されます。
- 表と裏で別のカラーモードを指定することはできません。

原稿台ガラスにカードを置く ▶ ＜ ID カードコピー＞ ▶ ＜スタート＞ ▶ カードを裏返す ▶ ＜次の原稿を読込＞



関連項目

コピーの基本操作(P. 199)

ファクスする

ファクスする 220

ファクスの基本画面について 223

ファクス送信の基本操作 224

ファクス送信を中止する 232

ファクスを受信する 233

送信時の便利な機能 236

過去の設定を呼び出して送信する（送信履歴） 237

通話してから送信する（手動送信） 240

送信原稿の控えを保存する 242

いろいろな受信方法 243

受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信） 244

受信した文書を自動転送する 246

送受信状況や履歴を確認する 248

パソコンからファクスを送信する（PC ファクス） 250

PC ファクスを送信する 251

インターネットファクスを使う（I ファクス） 253

I ファクスを送信する 254

I ファクスを受信する 261

ファクスする

23LX-049

ファクスの設定方法や基本的な使いかた以外にも、パソコンの文書をそのまま送信できる PC ファクス、宛先をかんたんに指定できるアドレス帳、外出先でファクス受信したいときに便利な転送など、さまざまな用途に合わせた便利な機能を紹介しています。

MEMO

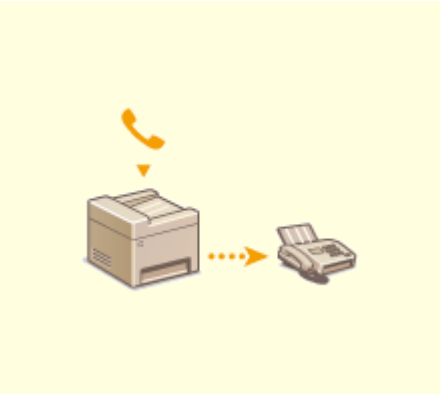
- ファクス機能を使うためには、あらかじめ設定や登録などの準備を済ませておく必要があります。 **ファクスの設定をする(P. 80)**
- アドレス帳を使う場合は、事前にアドレス帳への登録を行ってください。 **宛先を登録する(P. 186)**

■基本操作をご紹介

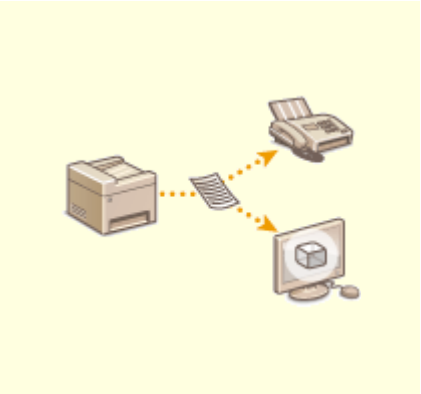
ファクスの基本画面について(P. 223)
ファクス送信の基本操作(P. 224)
ファクス送信を中止する(P. 232)
ファクスを受信する(P. 233)
送受信状況や履歴を確認する(P. 248)

■送信時の便利機能を使う **送信時の便利な機能(P. 236)**

過去の設定を呼び出して送信する（送信履歴）(P. 237)

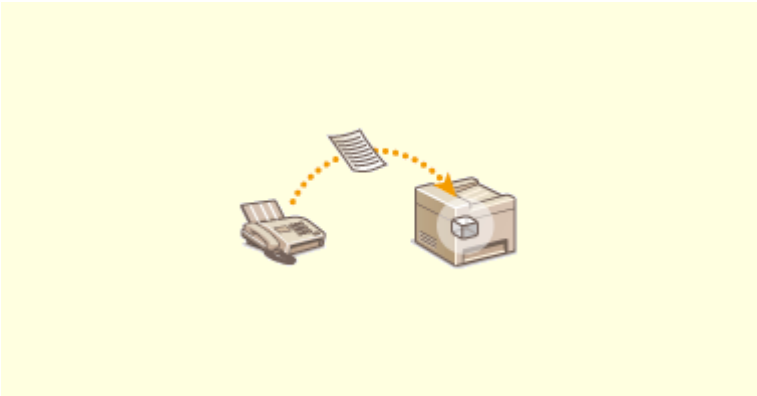


通話してから送信する（手動送信）(P. 240)



送信原稿の控えを保存する(P. 242)

■用途に応じた受信方法 いろいろな受信方法(P. 243)



受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信）(P. 244)

■受信したすべての文書を転送する

受信した文書を自動転送する(P. 246)

■パソコンからダイレクトにファクス送信

パソコンからファクスを送信する（PC ファクス）(P. 250)

■インターネット経由でファクスを送受信

インターネットファクスを使う（I ファクス）(P. 253)

ファクスの基本画面について

23LX-04A

ホーム画面の＜ファクス＞を選ぶと、ファクスの基本画面が表示されます。

1 ＜テンキー＞タブ

宛先を直接入力するときは、このタブを選びます。

2 ＜宛先指定＞タブ

LDAP サーバーの検索、短縮ダイヤルの入力、送信の履歴による宛先指定は、このタブから行います。

ファクス送信の基本操作(P. 224)
過去の設定を呼び出して送信する（送信履歴）(P. 237)

3 ＜送受信設定＞タブ

原稿を読み取るときの設定は、このタブから行います。本機の受信モード（**ファクスの用途を確認する(P. 81)**）を変更することもできます。

4 ＜宛先確認＞

指定した宛先の名前やファクス番号、件数を確認したり、変更したりすることができます。

5 ＜アドレス帳＞

アドレス帳に登録されている宛先を指定します。

6 ＜リセット＞

設定した内容をまとめて初期状態に戻すことができます。

7 ＜スタート＞

ファクスを開始するボタンです。

ファクス送信の基本操作

23LX-04C

原稿をファクスするときの基本的な操作手順を説明します。

MEMO

- ファクス機能を使うためには、あらかじめ設定や登録などの準備を済ませておく必要があります。 **ファクスの設定をする(P. 80)**

1 原稿をセットする 原稿をセットする(P. 133)

2 ホーム画面で、<ファクス>を選ぶ ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

3 ファクスの基本画面で、<リセット>を選ぶ ファクスの基本画面について(P. 223)

- 前に使った人の宛先設定が残っていると誤送信の原因になりますので、設定内容をリセットしてから操作します。

4 宛先を指定する

アドレス帳から指定する
短縮番号で指定する
宛先を直接入力する
LDAP サーバー内の宛先を指定する

アドレス帳から指定する

アドレス帳に登録した宛先を一覧表示から選んで指定します。宛先名称を登録した場合は、頭文字で検索することもできます。

MEMO

- アドレス帳を使うためには、あらかじめ登録が必要です。 **宛先を登録する(P. 186)**

1 <アドレス帳>を選ぶ

2 インデックスを選ぶ ▶インデックス(P. 186)

3 指定したい宛先にチェックマークを付け、＜確定＞を選ぶ

便利な機能

- ホーム画面の＜アドレス帳＞から宛先を選ぶと、選んだ宛先が指定された状態でファクスの基本画面を表示することができます。

短縮番号で指定する

アドレス帳の宛先には 3 桁の番号（短縮番号）が設定されています。短縮番号を入力するだけで宛先を指定することができます。

MEMO

- 短縮番号を使うためには、あらかじめアドレス帳への登録が必要です。 ▶宛先を登録する(P. 186)

1 ＜宛先指定＞タブで、＜短縮ダイヤル＞を選ぶ

2 3 桁の短縮番号を入力する

- 間違って入力したときは C で消します。

MEMO

確認画面が表示された場合

- ＜短縮ダイヤル送信の確認＞が＜ ON ＞に設定されていると、短縮番号に登録されている宛先と宛先名の確認画面が表示されます（登録されている宛先がグループダイヤルの場合は、グループ名と宛先の件数が表示されます）。宛先内容を確認し、問題なければ＜ OK ＞を選びます。他の宛先に指定しなおす場合は＜キャンセル＞を選んだあと、3 桁の短縮番号を入力しなおします。 **アドレス帳に登録した宛先を表示する(P. 405)**

宛先を直接入力する

アドレス帳に登録されていない宛先は、直接入力して指定します。

1 ＜テンキー＞タブで、ファクス番号を入力する

- 間違って入力したときは ⌫ で消します。

MEMO

宛先を追加するとき

- 2 件目以降の宛先を入力する場合は、＜次の宛先＞を選びます。

確認画面が表示された場合

- ＜ファクス番号の確認入力＞が＜ ON ＞に設定されていると、宛先確認のため入力画面が再度表示されます（ **送信前にファクス番号を確認する(P. 407)** ）。もう一度、宛先を入力してください。

海外にファクスを送信するには

- 国際アクセス番号、国番号、ファクス番号の順に入力してください。海外の宛先にうまくつながらないときは、＜ポーズ＞を選んで番号と番号の間にポーズを入れてください。

LDAP サーバー内の宛先を指定する

オフィスに LDAP サーバーがあればサーバー内に登録されているユーザー情報を宛先として使うことができます。本機から LDAP サーバーにアクセスしてユーザー情報を検索して指定します。

MEMO

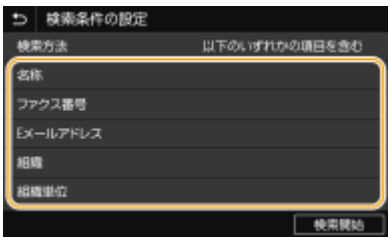
- あらかじめ LDAP サーバーとの接続について設定しておく必要があります。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

1 ＜宛先指定＞タブで、＜ LDAP サーバー＞を選ぶ

2 使用する LDAP サーバーを選ぶ

3 検索するユーザー情報の条件を選ぶ

- 名称、ファクス番号、E メールアドレス、組織、組織単位を検索条件にすることができます。

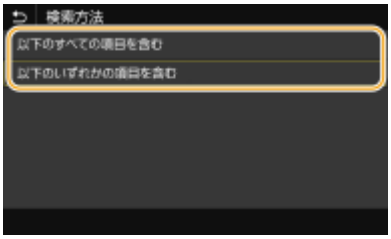


4 検索する文字列を入力し、＜確定＞を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。
- 検索条件を複数指定する場合は、手順 3 と 4 を繰り返します。

5 ＜検索方法＞を選ぶ

6 検索結果を表示する条件を選ぶ



＜以下のすべての項目を含む＞
手順 3 と 4 で指定したすべての条件を満たすユーザーだけを検索結果として表示します。

＜以下のいずれかの項目を含む＞
手順 3 と 4 で指定した条件のどれか 1 つでもあてはまるユーザー情報があれば、それらすべてのユーザーを検索結果として表示します。

7 ＜検索開始＞を選ぶ

➠ 指定した検索条件に合致したユーザーが表示されます。

MEMO

- ＜検索開始＞を選んだときに認証画面が表示された場合は、LDAP サーバーに登録されている本機のユーザー名とパスワードを入力し、＜確定＞を選んでください。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

8 宛先にしたいユーザーにチェックマークを付け、＜確定＞を選ぶ

MEMO

宛先を追加する

- ファクスを一斉に複数の宛先へ送信（同報送信）するときは、宛先の指定を繰り返します。
- 過去に指定した宛先を呼び出すこともできます。 **過去の設定を呼び出して送信する（送信履歴）(P. 237)**

■宛先から外す

複数の宛先を指定した場合、送信をとりやめたい相手先を宛先から外すことができます。

1 **＜宛先確認＞を選ぶ**

2 **外したい宛先にチェックマークを付け、＜宛先から解除＞を選ぶ**

- グループダイヤルにチェックマークを付けたときは、＜詳細情報＞ ▶ ＜宛先＞の順に選ぶと、グループ内に登録されている宛先を表示して確認できます。

3 **＜はい＞を選ぶ**

5 必要に応じて原稿の読み込み設定をする

画質を調整する

原稿の両面を読み込む

画質を調整する

原稿の内容に合わせて解像度を選ぶことができます。高い解像度を選ぶほどくっきりとした画像になりますが、その分送信時間が長くなることがあります。 **解像度を選ぶ (P. 228)**

原稿の文字や画像が薄い（濃い）場合に、濃度を調整できます。 **濃度を調整する (P. 229)**

原稿の画像のエッジ（周囲）をくっきりさせるように調整することができます。ぼやけた文字や線を鮮明にする場合はシャープネスを強くし、写真などの網点原稿をきれいにする場合は逆に弱くします。 **鮮明にする（シャープネス）(P. 229)**

■解像度を選ぶ

＜送受信設定＞タブで＜解像度＞を選択 ▶ 解像度を選択

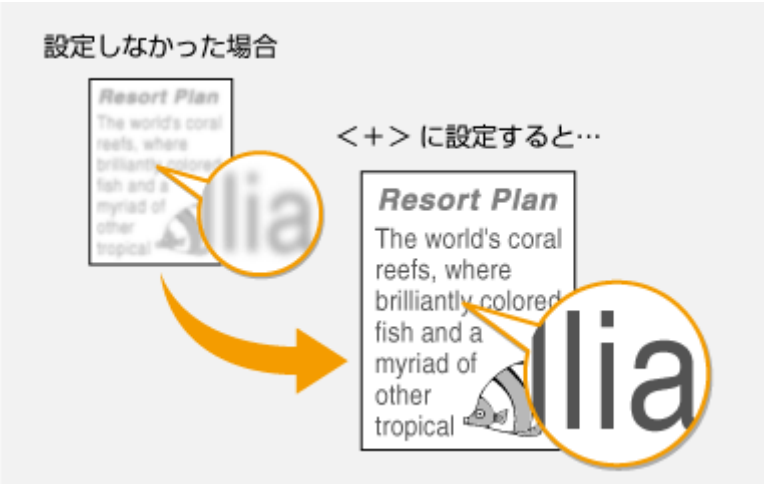
■濃度を調整する

<送受信設定>タブで<濃度>を選択 ▶ 濃度を調整 ▶ <確定>

■鮮明にする（シャープネス）

<送受信設定>タブで<シャープネス>を選択 ▶ シャープネスを調整 ▶ <確定>

調整例：鉛筆で書かれた薄い文字をくっきりさせたいとき



調整例：雑誌の写真を見やすくしたいとき

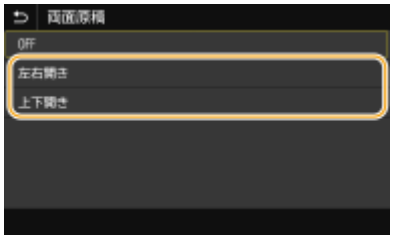
原稿の両面を読み込む

フィーダーにセットした原稿のオモテとウラを自動的に読み込みます。

ご注意

- 原稿台ガラスにセットした原稿や手動送信時の原稿の両面を自動的に読み込むことはできません。

<＞送受信設定＞タブで＜両面原稿＞を選択 ▶ ＜左右開き＞または＜上下開き＞を選択



＜左右開き＞
原稿のオモテ面とウラ面の上下位置関係が同じ場合に選びます。

＜上下開き＞
原稿のオモテ面とウラ面の上下位置関係が逆の場合に選びます。

6 ＜スタート＞を選ぶ

- ＜送信宛先の確認＞画面が表示されたときは、宛先が間違っていないかを確認してから＜スキャン開始＞を選んでください。

➠ 原稿の読み込みが開始されます。

- 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞ の順に選びます。 **ファクス送信を中止する(P. 232)**

■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

読み込みが完了すると、ファクスが送信されます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

読み込みが完了したら、次の操作を行います。

1 原稿のサイズを選ぶ

- 原稿が 1 枚のときは手順 3 に進みます。

2 原稿台ガラスに次の原稿をセットし、<次の読込>を選ぶ

- すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。

3 <送信開始>を選ぶ

➠ ファクスが送信されます。

便利な機能

- いつも同じ設定で送信したい **機能の初期値を変更する(P. 180)**
- 複数のファクス設定を組み合わせて登録し、必要なときに呼び出して使用したい **よく使う設定を登録する(P. 178)**
- 受話器が外れているときは警告音を鳴らしたい **<オフフックアラーム>(P. 516)**

関連項目

ファクス送信を中止する(P. 232)
送信時の便利な機能(P. 236)
送受信状況や履歴を確認する(P. 248)

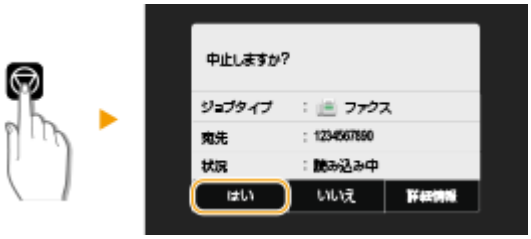
ファクス送信を中止する

23LX-04E

<スタート>を選んだ直後に送信を中止するときは、画面から<中止>を選ぶか、操作パネルの を押します。なお、送信状況を確認してから中止することもできます。

■送信中の画面で<中止>を選ぶ

■ で中止する



を押すと、文書の一覧画面が表示される場合

すでに原稿の読み込みは終了し、順番待ちで待機している状態です。中止したい文書を選択して<中止> ▶ <はい>の順に選びます。

■送信状況を確認してから中止する

<状況確認> ▶ <送信ジョブ> ▶ <送信状況>タブで文書を選択 ▶ <中止> ▶ <はい>

関連項目

- ファクス送信の基本操作(P. 224)
- 送受信状況や履歴を確認する(P. 248)

ファクスを受信する

23LX-0FJ

ファクスの受信方法とその設定操作について説明します。受信設定をする前にあらかじめファクス機能を使うための準備をしておく必要があります。 **ファクスの設定をする(P. 80)**

■ファクスの受信方法

次の 4 つの受信方法があります。目的に合った方法を選び、 **受信設定をする(P. 234)** で設定してください。

＜自動受信＞	**ファクス受信専用** 自動的に受信します。相手から電話がかかってきても通話はできません。
＜ FAX / TEL 切替＞	**相手がファクスのとき** 自動的に受信します。 **相手が電話のとき** 呼び出し音が鳴ります。受話器を取って通話してください。 MEMO ● 一般電話機またはオプションのハンドセットを接続してください。
＜手動受信＞	**相手がファクスのとき** 呼び出し音が鳴ります。受話器を取り、「ピー」という音を確認したら、 ▶ ＜ファクス＞ ▶ ＜受信ｽﾀｰﾄ＞の順に選びます。ファクスを受信できます。 **相手が電話のとき** 呼び出し音が鳴ります。受話器を取って通話します。 MEMO ● 一般電話機またはオプションのハンドセットを接続してください。 ● 呼び出し音が一定時間鳴ったあと、ファクスを自動受信するように設定しておくことができます。 **＜自動受信切替＞(P. 525)**
＜留守 TEL 接続＞	**相手がファクスのとき** 何回か呼び出し音が鳴って自動的に受信します。 **相手が電話のとき** 留守番電話の留守録音が起動し、相手の伝言が録音されます。留守録音の起動前に受話器を取れば通話できます。

	MEMO ● 留守番電話機を接続してください。 ● 呼び出し音が 1 ～ 2 回鳴ったあとで留守録音が起動するように設定してください。 ● 留守番メッセージを録音する際は、最初の 4 秒間程度を無音状態にするか、もしくは全体の長さを 20 秒以内にすることをおすすめします。

MEMO

- 接続する電話機の種類によっては、発信や着信が正常にできないことがあります。
- ファクス機能付きの電話機を接続する場合は、電話機側のファクス自動受信設定を無効にしてください。
- 受話器を取り「ピー」という音が聞こえたら、相手はファクスです。電話機から所定の ID 番号を指定するとそのままファクスを受信できます。 **電話機のダイヤル操作でファクスを受信する（リモート受信）(P. 235)**

■受信設定をする

1 ホーム画面で、＜ファクス＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

2 ファクスの基本画面の＜送受信設定＞タブで、＜受信モード＞を選ぶ ファクスの基本画面について(P. 223)

3 受信方法を選ぶ

■＜ FAX / TEL 切替＞を選んだ場合

次の 4 つの設定項目を必要に応じて指定します。設定が完了したら＜確定＞を選びます。

＜呼出開始時間＞
着信後、相手がファクスか電話かの判定時間を指定します。

＜呼出時間＞
相手が電話の場合、何秒間呼び出し音が鳴るかを指定します。

＜音声応答＞
＜ ON ＞にすると相手に応答メッセージが流れます。状況に応じて以下のメッセージが流れます。

- 呼び出し中

「ただいま電話を呼び出しております。そのまましばらくお待ちください。ファクシミリの方は送信してください。」

- 受話器を取らなかったとき（<呼出後の動作>が<終了>の場合）
「呼び出しましたが近くにおりません。申し訳ございませんが後ほどおかけなおしください。」
- 受話器を取らなかったとき（<呼出後の動作>が<受信>の場合）
「呼び出しましたが近くにおりません。ファクシミリをご利用の方は送信してください。」

<呼出後の動作>
呼び出し音が鳴っている間に受話器を取らなかったときの動作を設定します。<終了>にすると通信を切断し、<受信>にするとファクスを受信します。

便利な機能

- 受信した文書を用紙の両面に印刷したい **<両面記録>(P. 522)**
- 文書の下部に受信時刻などの情報を付けて印刷したい **<受信情報記録>(P. 526)**

■電話機のダイヤル操作でファクスを受信する（リモート受信）

受話器を取って相手がファクスだったときは、電話機から所定の ID 番号をダイヤルするとそのままファクスを受信できます。わざわざ本機のそばまで行って受信操作をする必要がありません。

MEMO

- 本機に直接接続していない電話機ではリモート受信できません。

1 呼び出し音が鳴ったら、電話機の受話器を取る

2 「ピー」音が聞こえたら電話機から ID 番号を入力する

- ID 番号の設定については、 **<リモート受信>(P. 524)** を参照してください。

3 受話器を置く

関連項目

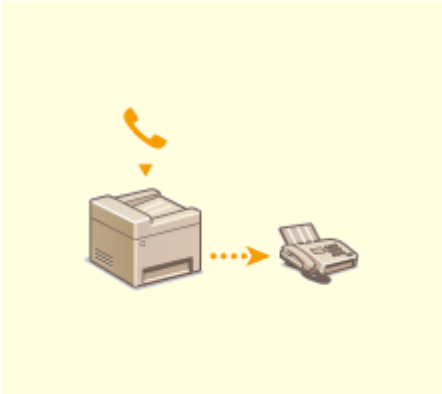
送受信状況や履歴を確認する(P. 248)
いろいろな受信方法(P. 243)

送信時の便利な機能

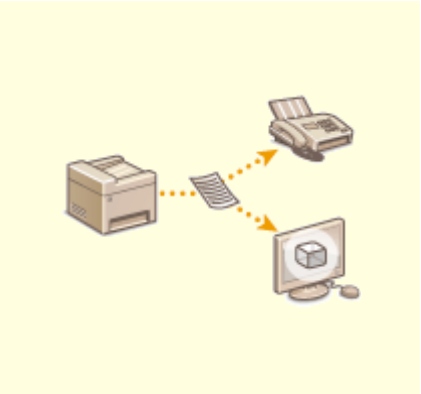
23LX-04H

過去に指定した宛先に再び送信する方法や、電話をかけたときに送信する方法、ファクス文書の控えを保存しておく方法を説明します。

過去の設定を呼び出して送信する（送信履歴）(P. 237)



通話してから送信する（手動送信）(P. 240)



送信原稿の控えを保存する(P. 242)

過去の設定を呼び出して送信する（送信履歴）

23LX-04J

過去に指定した宛先をさかのぼって指定できます。そのときに使った濃度などのファクス設定も同時に呼び出されます。

ご注意

- ＜履歴からの再送信を制限＞が＜ ON ＞に設定されていると、この機能を使うことはできません。 **履歴からの送信を制限する(P. 405)**
- 電源を切ったり＜新規宛先の制限＞を＜ ON ＞に設定したりすると過去に指定した宛先は消去されますので、この機能を使うことはできません。 **新規宛先の入力を制限する(P. 405)**
- 手動送信時に指定した宛先は記憶されませんので、履歴には残りません。 **通話してから送信する（手動送信）(P. 240)**

MEMO

- この機能を使って宛先を指定すると、指定済みの宛先はすべて消去されます。

1 原稿をセットする 原稿をセットする(P. 133)

2 ホーム画面で、＜ファクス＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

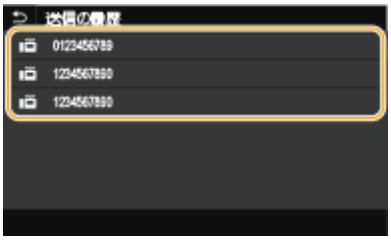
- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

3 ファクスの基本画面で、＜リセット＞を選ぶ ファクスの基本画面について(P. 223)

- 前に使った人の宛先設定が残っていると誤送信の原因になりますので、設定内容をリセットしてから操作します。

4 ＜宛先指定＞タブで、＜送信の履歴＞を選ぶ

5 宛先を選ぶ



➠ 選んだ宛先とそのとき使ったファクス設定が指定されます。設定内容を変更して送信することもできます。

■宛先から外す

複数の宛先に送信した履歴の場合、送信をとりやめたい相手先を宛先から外すことができます。

1 **＜宛先確認＞を選ぶ**

2 **外したい宛先にチェックマークを付け、＜宛先から解除＞を選ぶ**

MEMO

- グループダイヤルにチェックマークを付けたときは、＜詳細情報＞ ▶ ＜宛先＞の順に選ぶと、グループ内に登録されている宛先を表示して確認できます。

3 **＜はい＞を選ぶ**

6 必要に応じて原稿の読み込み設定をする ▶ファクス送信の基本操作(P. 224)

7 ＜スタート＞を選ぶ

- ＜送信宛先の確認＞画面が表示されたときは、宛先が間違っていないかを確認してから＜スキャン開始＞を選んでください。

➠ 原稿の読み込みが開始されます。

- 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞ の順に選びます。 ▶**ファクス送信を中止する(P. 232)**

■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

読み込みが完了すると、ファクスが送信されます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

読み込みが完了したら、次の操作を行います。

1 原稿のサイズを選ぶ

- 原稿が 1 枚のときは手順 3 に進みます。

2 原稿台ガラスに次の原稿をセットし、＜次の読込＞を選ぶ

- すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。

3 ＜送信開始＞を選ぶ

➠ ファクスが送信されます。

関連項目

ファクス送信の基本操作(P. 224)

通話してから送信する（手動送信）

23LX-04K

電話で通話をしたあと、続けてそのままファクス送信できます。相手が受信操作をすると、「ピー」という音が聞こえますので＜スタート＞を選んでファクス送信します。

MEMO

- あらかじめ本機に電話機またはオプションのハンドセットを接続しておく必要があります。

1 原稿をセットする 原稿をセットする(P. 133)

- 両面原稿の読み込みはできません。
- 原稿台ガラスにセットした場合は 1 ページしか送信できません。

2 ホーム画面で、＜ファクス＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 認証送信のログイン(P. 132)

3 ファクスの基本画面で、＜リセット＞を選ぶ ファクスの基本画面について(P. 223)

- 前に使った人の宛先設定が残っていると誤送信の原因になりますので、設定内容をリセットしてから操作します。

4 必要に応じて原稿の読み込み設定をする ファクス送信の基本操作(P. 224)

5 相手先に電話をかける

6 通話のあと、受信操作をしてもらう

- 「ピー」という音が聞こえたら手順 7 に進みます。

7 ＜スタート＞を選ぶ

- 原稿台ガラスに原稿をセットしたときは、原稿のサイズを選びます。

  ➠ 原稿の読み込みが開始されます。

  - 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。 ファクス送信を中止する(P. 232)

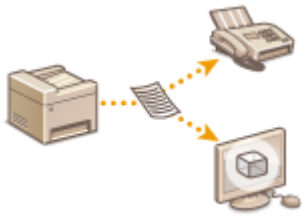
8 受話器を置く

関連項目

ファクス送信の基本操作(P. 224)
ファクス送信を中止する(P. 232)
送受信状況や履歴を確認する(P. 248)

送信原稿の控えを保存する

23LX-04L



送信時に指定した宛先とは別に、ファクス送信した文書をあらかじめ指定した保管先に送信することができます。送信内容も履歴として残したいときなどに便利です。保管先には、ファクス番号、E メールアドレス、パソコンの共有フォルダー、FTP サーバー、I ファクスを指定できます。

MEMO

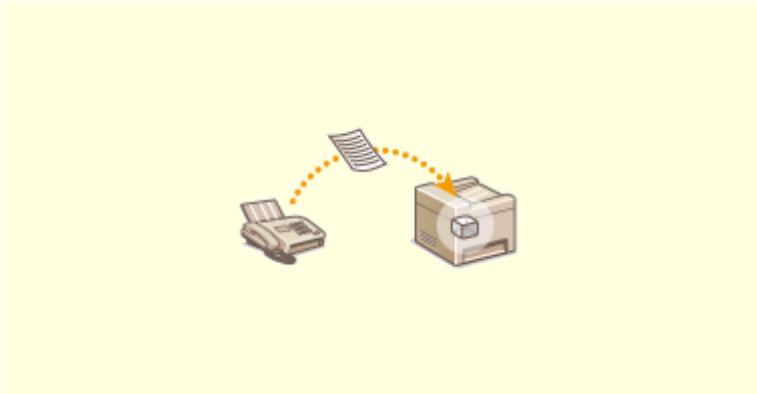
- 指定できる保管先はアドレス帳の宛先にかぎります。アドレス帳を使うためには、あらかじめ登録が必要です。 **宛先を登録する(P. 186)**

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <送信文書アーカイブ> ▶ < ON >を選び、<アーカイブアドレス>を選択 ▶ アドレス帳で保管先にチェックマークを付けて<確定>を選択 ▶ <確定> ▶ 🏠

いろいろな受信方法

23LX-04R

受信した文書をすぐに印刷せずに本機にいったん保存しておくことができます。文書の内容を確認したうえで必要な文書だけを印刷すれば、用紙の無駄を削減できます。



受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信）(P. 244)

受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信）

23LX-04S

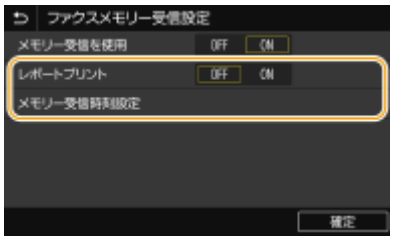
受信したファクス文書をすぐに印刷せず、いったん本機のメモリーに保存して好きなときに印刷できます。機密文書などを都合のよいときに印刷することで、関係者以外の目に触れないようにすることが可能です。

メモリーに保存する(P. 244)
メモリー内の文書を印刷する(P. 244)
メモリー内の文書を確認／転送／削除する(P. 245)

メモリーに保存する

受信文書をメモリーに保存するには＜メモリー受信を使用＞を＜ ON ＞にします。指定した時間帯だけメモリー受信させることもできます。

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜共通設定＞ ▶ ＜受信トレイ設定＞ ▶ ＜ファクスメモリー受信設定＞ ▶ ＜メモリー受信を使用＞で＜ ON ＞を選択 ▶ 各設定項目を指定 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠



＜レポートプリント＞
メモリー受信するたびに受信結果レポートを印刷するように設定できます。設定する場合は、＜ ON ＞を選びます。なお、この機能を使うためには＜受信結果レポート＞を＜ ON ＞に設定しておく必要があります。 **受信結果レポート(P. 664)**

＜メモリー受信時刻設定＞
特定の時間帯だけメモリー受信する場合に時刻を設定します。時刻設定しないと、常時メモリー受信状態となります。

メモリー内の文書を印刷する

メモリー受信した文書を印刷するときは、＜メモリー受信を使用＞を＜ OFF ＞にします。この操作をすると、メモリーに保存されていた文書がすべて印刷されます。

MEMO

- 特定の文書だけを選んで印刷することはできません。
- メモリー受信機能の終了時刻を設定した場合は、指定した時刻になると自動的に印刷されます。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <受信 / 転送> ▶ <共通設定> ▶ <受信トレイ設定> ▶ <ファクスメモリー受信設定> ▶ <メモリー受信を使用>で< OFF >を選択 ▶ <確定> ▶ 🏠

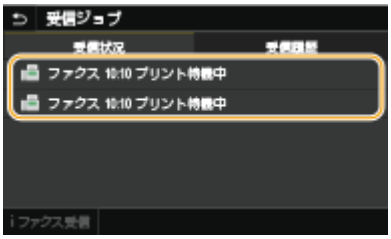
メモリー内の文書を確認／転送／削除する

相手先のファクス番号や、ページ数など、メモリーに保存されている文書の概要を確認することができます。メモリー内の文書を選んで転送したり、不要な文書があれば削除したりすることもできます。

1 <状況確認>を選ぶ

2 <受信ジョブ>を選ぶ

3 <受信状況>タブで、確認／転送／削除したい文書を選ぶ



➠ 文書の詳細情報が表示されます。

- 転送する場合は、<転送>を選んで宛先を指定します。
- 削除する場合は、<削除> ▶ <はい>の順に選びます。

関連項目

ファクスを受信する(P. 233)
送受信状況や履歴を確認する(P. 248)

受信した文書を自動転送する

23LX-04U

受信したすべての文書をあらかじめ指定した宛先に転送します。不在時でも外出先で情報をキャッチしたいという場合に便利です。

自動的に転送されるように設定する(P. 246)
転送文書を印刷する(P. 246)
転送に失敗した文書を印刷／再送信／削除する(P. 246)

自動的に転送されるように設定する

転送機能を有効にしている間、受信する文書はすべて自動的に転送されます。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <受信 / 転送> ▶ <ファクス設定> ▶ <転送設定> ▶ <転送機能設定> ▶ <転送機能を使用>で< ON >を選択 ▶ <転送先> ▶ アドレス帳で転送先にチェックマークを付けて<確定>を選択 ▶ <確定> ▶ 🏠

転送文書を印刷する

転送する文書の内容を手元でも確認したい場合は、転送と同時に文書が印刷されるように設定しておきます。エラー終了した場合にかぎって文書を印刷するように設定することもできます。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <受信 / 転送> ▶ <ファクス設定> ▶ <転送設定> ▶ <画像をプリント> ▶ < ON >または<エラー時のみ>を選択 ▶ 🏠

転送に失敗した文書を印刷／再送信／削除する

エラー終了した転送文書をメモリーに残しておいてあとから必要に応じて印刷したり、再送信したりすることができます。削除することもできます。

■エラー終了した転送文書をメモリーに残す

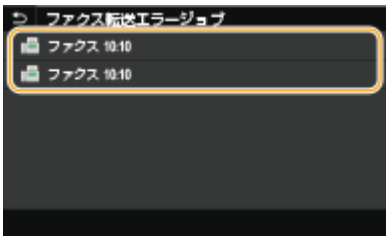
<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <受信 / 転送> ▶ <ファクス設定> ▶ <転送設定> ▶ <画像をメモリーに保存> ▶ <エラー時のみ> ▶ 🏠

■メモリーに残したエラー文書を印刷／再送信／削除する

1 **<状況確認>を選ぶ**

2 ＜ファクス転送エラージョブ＞を選ぶ

3 印刷／再送信／削除したい文書を選ぶ



➠文書の詳細情報が表示されます。

- 印刷する場合は、＜プリント＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。
- 再送信する場合は、＜転送＞を選び、宛先にチェックマークを付けて＜確定＞を選びます。
- 削除する場合は、＜削除＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。

関連項目

ファクスを受信する(P. 233)
送受信状況や履歴を確認する(P. 248)

送受信状況や履歴を確認する

23LX-04W

ファクスやＩファクスの送受信状況や通信履歴を送受信別に確認できます。

ご注意

- ＜ジョブ履歴の表示＞が＜ OFF ＞に設定されていると、通信履歴は確認できません。 **＜ジョブ履歴の表示＞ (P. 539)**

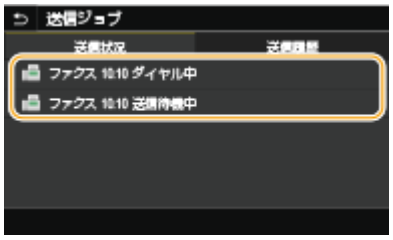
1 ＜状況確認＞を選ぶ

2 ＜送信ジョブ＞または＜受信ジョブ＞を選ぶ

3 送受信状況または通信履歴を確認する

■送受信状況を確認する

1 ＜送信状況＞または＜受信状況＞タブで、状況を確認したい文書を選ぶ



➠ 文書の詳細情報が表示されます。

- 文書の宛先が複数指定されている場合は宛先の件数が表示されます。複数指定の宛先を確認するときは＜宛先＞を選んでください。

■通信履歴を確認する

1 ＜送信履歴＞または＜受信履歴＞タブで、履歴の内容を確認したい文書を選ぶ

- 正しく送受信された文書には＜ OK ＞と表示されます。＜ NG ＞と表示されている場合は、送受信を中止したか、エラーが発生したことを示しています。

➠ 文書の詳細情報が表示されます。

MEMO

＜ NG ＞のときに 3 桁の数字が表示されている場合

- 3 桁の数字はエラーコードを表しています。 **エラーコードごとの対処方法(P. 717)** を参照してください。

関連項目

ファクス送信の基本操作(P. 224)
ファクス送信を中止する(P. 232)
ファクスを受信する(P. 233)
I ファクスを送信する(P. 254)
I ファクスを受信する(P. 261)
レポートやリストを印刷する(P. 662)

パソコンからファクスを送信する（PC ファクス）

23LX-04X

パソコンのアプリケーションで作成した文書を、印刷するのと同じ要領でファクスすることができます。送信する文書をいったん印刷する必要がないため、用紙のムダを省くことができます。ただし、ファクスの基本設定（**ファクスの設定をする(P. 80)**）と、パソコンへのファクスドライバーのインストールが必要です。ファクスドライバーのインストールについては、ドライバーのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。

PC ファクスを送信する(P. 251)

MEMO

- 各ページに掲載されているファクスドライバーの画面は、OS、ファクスドライバーのバージョンによってはお使いのものと異なる場合があります。

ファクスドライバーのヘルプについて

- ファクスドライバー画面の［ヘルプ］をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。よく使う設定の登録機能など、オンラインマニュアルに記載されていない機能の説明や設定方法については、ヘルプを参照してください。

PC ファクスを送信する

23LX-04Y

ご注意

- 本体側で＜ﾌｧｸｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰから送信許可＞が＜ OFF ＞に設定されていると、パソコンからファクスを送信できません。
パソコンからのファクス送信を制限する(P. 407)
- 本機で部門別 ID 管理が設定されているときはファクスドライバー側の設定も有効にしておく必要があります。詳細については、ファクスドライバー画面の［ヘルプ］をクリックして、ヘルプを参照してください。**部門別 ID 管理を行う(P. 353)**

1 アプリケーションで文書を開いて、印刷画面を表示させる

- 印刷画面の表示方法はアプリケーションによって異なります。各アプリケーションの取扱説明書を参照してください。

2 本機のファクスドライバーを選び、［印刷］をクリックする

3 宛先を指定する

■送信したい宛先が 1 件だけの場合

1 ［宛先入力］タブをクリックする

2 通信モードやファクス番号（または URI）を設定する

■一度に複数の宛先に送信したい場合

1 ［宛先選択］タブをクリックする

2 ［宛先の追加］をクリックする

3 通信モードやファクス番号（または URI）を設定し、［OK］をクリックする

4 同時に送信したい宛先について、手順 2 と 3 を繰り返す

- 手順 3 で［次の宛先を追加］をクリックしても宛先を追加できます。

- 外線番号が必要な場合は［詳細設定］▶［G3/G4/IP ファクス番号に外線接続番号を付ける］にチェックマークを付け外線接続番号に番号を入力します。番号はファクス番号の先頭に付加されてダイヤルされます。
- アドレス帳を使って宛先をかんたんに指定することもできます。
- ［送信イメージを保存する］にチェックマークを付けると送信文書の画像を履歴として保存し、送信時の宛先やページ数などの詳細情報を確認できるようになります。詳細については、ファクスドライバー画面の［ヘルプ］をクリックして、ヘルプを参照してください。

MEMO

- ［ファクス番号の確認入力］または［URI の確認入力］が入力可能な状態のときは、これらの欄にも番号を入力してください。確認入力をするかどうかはファクスドライバー画面で設定を変更できます。詳細については、ファクスドライバー画面の［ヘルプ］をクリックして、ヘルプを参照してください。

4 ［送信］をクリックして送信する

インターネットファクスを使う（I ファクス）

23LX-050

インターネットファクス（I ファクス）は、インターネットを経由してファクスを送受信する機能です。原稿は、TIFF 形式の画像ファイルとして E メールに添付して送信されます。電話回線を使わないため、遠隔地へ送信するときや文書の枚数が多いときでも、通信費を気にせずにファクスを送ることができます。メールサーバーの設定を指定するなど、あらかじめいくつかの準備が必要です。 **E メール送信／I ファクス送受信設定の流れ(P. 88)**

I ファクスを送信する(P. 254)
I ファクスを受信する(P. 261)

I ファクスを送信する

23LX-051

宛先としてファクス番号の代わりに E メールアドレスを指定し、他の I ファクス対応機器やパソコンにファクスを送信します。パソコン宛に送信した場合は、E メールの添付ファイルとして TIFF 形式で送信されます。また、パソコンで E メールを送信するときと同様に、複数の宛先や Cc、Bcc の宛先を指定することもできます。

1 原稿をセットする **原稿をセットする(P. 133)**

2 ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

3 スキャンの基本画面で、＜ I ファクス＞を選ぶ **スキャンの基本画面について(P. 287)**

4 宛先を指定する

- アドレス帳から指定する
- 短縮番号で指定する
- 宛先を直接入力する
- LDAP サーバー内の宛先を指定する

アドレス帳から指定する

アドレス帳に登録した宛先を一覧表示から選んで指定します。宛先名称を登録した場合は、頭文字で検索することもできます。

MEMO

- アドレス帳を使うためには、あらかじめ登録が必要です。 **宛先を登録する(P. 186)**

1 ＜宛先指定＞タブで、＜アドレス帳＞を選ぶ

2 ＜ To ＞を選ぶ

3 インデックスを選ぶ **インデックス(P. 186)**

4 指定したい宛先にチェックマークを付け、＜確定＞を選ぶ

便利な機能

- ホーム画面の＜アドレス帳＞から宛先を選ぶと、選んだ宛先が指定された状態で I ファクス送信の基本画面を表示することができます。

短縮番号で指定する

アドレス帳の宛先には 3 桁の番号（短縮番号）が設定されています。短縮番号を入力するだけで宛先を指定することができます。

MEMO

- 短縮番号を使うためには、あらかじめアドレス帳への登録が必要です。 **宛先を登録する(P. 186)**

1 ＜宛先指定＞タブで、＜短縮ダイヤル＞を選ぶ

2 ＜ To ＞を選ぶ

3 3 桁の短縮番号を入力する

- 間違って入力したときは C で消します。

MEMO

確認画面が表示された場合

- ＜短縮ダイヤル送信の確認＞が＜ ON ＞に設定されていると、短縮番号に登録されている宛先と宛先名の確認画面が表示されます（登録されている宛先がグループダイヤルの場合は、グループ名と宛先の件数が表示されます）。宛先内容を確認し、問題なければ＜ OK ＞を選びます。他の宛先に指定しなおす場合は＜キャンセル＞を選んだあと、3 桁の短縮番号を入力しなおします。 **アドレス帳に登録した宛先を表示する(P. 405)**

宛先を直接入力する

アドレス帳に登録されていない宛先は、直接入力して指定します。

1 ＜宛先指定＞タブで＜キーボード入力＞を選ぶ

2 I ファクスアドレスを入力し、＜確定＞を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

LDAP サーバー内の宛先を指定する

オフィスに LDAP サーバーがあればサーバー内に登録されているユーザー情報を宛先として使うことができます。本機から LDAP サーバーにアクセスしてユーザー情報を検索して指定します。

MEMO

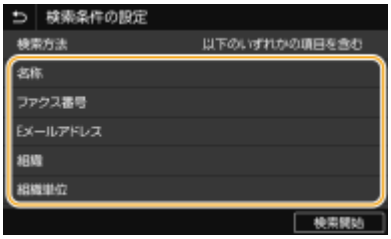
- あらかじめ LDAP サーバーとの接続について設定しておく必要があります。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

1 ＜宛先指定＞タブで、＜ LDAP サーバー＞を選ぶ

2 使用する LDAP サーバーを選ぶ

3 検索するユーザー情報の条件を選ぶ

- 名称、ファクス番号、E メールアドレス、組織、組織単位を検索条件にすることができます。

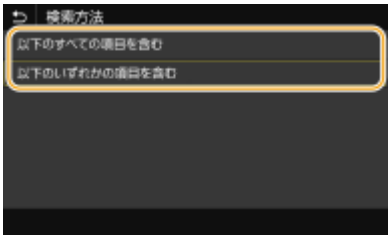


4 検索する文字列を入力し、＜確定＞を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。
- 検索条件を複数指定する場合は、手順 3 と 4 を繰り返します。

5 ＜検索方法＞を選ぶ

6 検索結果を表示する条件を選ぶ



＜以下のすべての項目を含む＞
手順 3 と 4 で指定したすべての条件を満たすユーザーだけを検索結果として表示します。

＜以下のいずれかの項目を含む＞
手順 3 と 4 で指定した条件のどれか 1 つでもあてはまるユーザー情報があれば、それらすべてのユーザーを検索結果として表示します。

7 ＜検索開始＞を選ぶ

➠ 指定した検索条件に合致したユーザーが表示されます。

MEMO

- ＜検索開始＞を選んだときに認証画面が表示された場合は、LDAP サーバーに登録されている本機のユーザー名とパスワードを入力し、＜確定＞を選んでください。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

8 宛先にしたいユーザーにチェックマークを付け、＜確定＞を選ぶ

MEMO

すでに宛先が指定された画面が表示されたとき

- 送信時の宛先が自分の E メールアドレスに限定されています。自分以外の宛先に送信するには、送信機能の認証設定で E メールの送信を制限しないように設定する必要があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。 **LDAP サーバーで認証を行う(P. 361)**

送信履歴から宛先を指定する

- 過去に指定した宛先を呼び出すこともできます。 **過去の設定を呼び出して送信／保存する（送信履歴）(P. 320)**

5 必要に応じて 2 件目以降の宛先、Cc、Bcc の宛先を指定する

- ＜宛先指定＞タブで、宛先の指定方法を選択したあと、宛先を指定します。

- ＜ LDAP サーバー＞と＜自分の宛先＞から選択した場合は、＜ To ＞の宛先として指定されます。
- ＜ Cc ＞と＜ Bcc ＞の宛先は、＜アドレス帳＞または＜短縮ダイヤル＞からのみ指定できます。

■宛先から外す

複数の宛先を指定した場合、送信をとりやめたい相手先を宛先から外すことができます。

1 ＜宛先確認＞を選ぶ

2 外したい宛先にチェックマークを付け、＜宛先から解除＞を選ぶ

- グループにチェックマークを付けたときは、＜詳細情報＞ ▶ ＜宛先＞の順に選ぶと、グループ内に登録されている宛先を表示して確認できます。

3 ＜はい＞を選ぶ

6 必要に応じて原稿の読み込み設定をする

- 各設定の詳細については、 **E メール送信する／サーバーなどにファイルを保存する(P. 297)** や **きれいにスキャンする(P. 309)** を参照してください。

7 必要に応じて E メールの件名、本文、返信先を設定する

■件名／本文を設定する

1 **＜送信設定＞タブで、＜件名 / 本文＞を選ぶ**

2 **＜件名＞を選ぶ**

3 **件名を入力し、＜確定＞を選ぶ**

4 **＜本文＞を選ぶ**

5 **本文を入力し、＜確定＞を選ぶ**

6 **＜確定＞を選ぶ**

■返信先を設定する

本機のメールアドレスと異なるアドレスをメールの返信先として相手に通知したい場合に設定します。返信先はアドレス帳に登録されている宛先の中から選んで指定します。アドレス帳に宛先を登録していない場合は、**宛先を登録する(P. 186)** を参照してください。

1 **＜送信設定＞タブで、＜返信先＞を選ぶ**

2 **＜アドレス帳から指定＞を選ぶ**

3 **返信先にしたい宛先にチェックマークを付け、＜確定＞を選ぶ**

MEMO

- 返信先には E メール送信用の宛先のみ指定できます。

8 ＜スタート＞を選ぶ

- ＜送信宛先の確認＞画面が表示されたときは、宛先が間違っていないかを確認してから＜スキャン開始＞を選んでください。

➠ 原稿の読み込みが開始されます。

- 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。**ファクス送信を中止する(P. 232)**

■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

読み込みが完了すると、I ファクスが送信されます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

読み込みが完了したら、次の操作を行います。

1 **原稿が複数枚あるときは次の原稿をセットし、＜次の読込＞を選ぶ**

- すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。
- 原稿が 1 枚のときは次の手順に進みます。

2 **＜送信開始＞を選ぶ**

➠ I ファクスが送信されます。

MEMO

＜ SMTP 認証＞画面が表示されたときは

- ユーザー名とパスワードを入力し、＜確定＞を選びます。

送信エラーが発生した場合

送信エラー発生時には本機で設定した E メールアドレスに通知メールが届くことがあり、放置するとメールサーバーによってはメールボックスの容量が不足する恐れがあります。定期的にメールボックスをクリアすることをおすすめします。

■メールボックスをクリアするには

ご注意

- メールボックスをクリアすると、サーバー上の受信トレイにあるメールがすべて削除されます。普段お使いの E メールアドレスと同じアドレスを指定しているような場合は、必要なメールが削除されないように注意してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［送信設定］▶［ネットワーク設定-E メール/I ファクス設定］の順に進む**

4 **［メールボックスのクリア］にある［クリア］をクリックする**

5 **メッセージを確認し、［OK］をクリックする**

➠ メールボックスからメールが削除されます。

便利な機能

- いつも同じ設定で送信したい **機能の初期値を変更する(P. 180)**
- 複数の I ファクス設定を組み合わせて登録し、必要なときに呼び出して使用したい **よく使う設定を登録する(P. 178)**
- I ファクスの差出人名を指定したい **＜ユーザー略称の登録＞(P. 509)**

関連項目

送受信状況や履歴を確認する(P. 248)

I ファクスを受信する

23LX-0FK

■I ファクスが届いたときは

I ファクスが届くと、操作パネルのデータランプが緑色に点滅します。受信が完了すると自動的に文書が印刷され、ランプが消灯します。

MEMO

- 受信を中止するには、<状況確認> ▶ <受信ジョブ> ▶ <受信状況>タブで文書を選択 ▶ <削除> ▶ <はい>の順に選びます。

■I ファクスを手動で受信する

I ファクスを自動受信する前にサーバーへ接続したい場合や、自動受信を行わないように設定している場合は、以下の方法で手動受信してください。サーバーに文書があったときは印刷が開始されます。

<状況確認> ▶ <受信ジョブ> ▶ < I ファクス受信>

■出力紙について

届いた I ファクスは、受信文書のサイズにかかわらず、<受信プリントサイズ>で指定したサイズの用紙に印刷されます。 **<受信プリントサイズ>(P. 522)**

MEMO

- <受信プリントサイズ>で指定したサイズの用紙が給紙カセットにセットされていないときは、<用紙なし>のエラーメッセージが表示されます。 **メッセージごとの対処方法(P. 698)**

便利な機能

- 受信した文書を用紙の両面に印刷したい **<両面記録>(P. 521)**

関連項目

送受信状況や履歴を確認する(P. 248)

プリントする

プリントする 263
パソコンから印刷する 264
印刷を中止する 266
印刷状況や履歴を確認する 269
いろいろな印刷方法 271
暗証番号を入力して印刷する（セキュアプリント） 272
セキュアプリントをする 273
USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント） 276

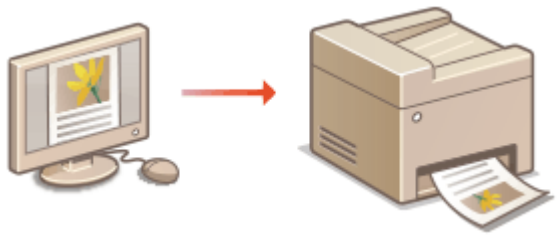
プリントする

23LX-053

パソコンで作成した文書を印刷する、USB メモリーに保存した画像を印刷するなど、さまざまな目的で本機をプリンターとして使うことができます。

■パソコンから印刷する

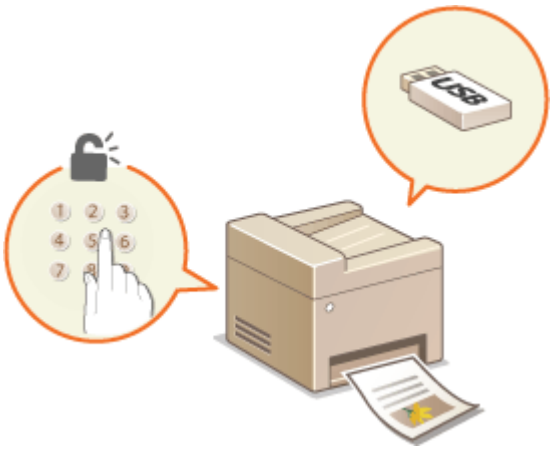
パソコンで作成した文書を、プリンタードライバーを使って印刷できます。



パソコンから印刷する(P. 264)

■印刷時の便利な機能

印刷データに暗証番号を付けてセキュリティーを向上させたり、USB メモリー内のファイルを直接印刷したりすることができます。



いろいろな印刷方法(P. 271)

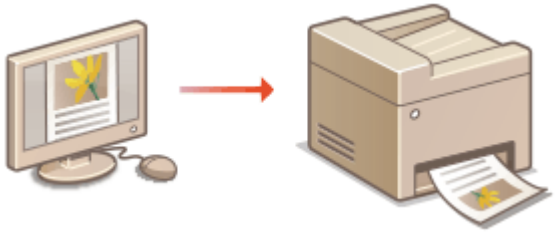
モバイル機器から印刷する

- スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器を本機と連携させることで、手軽に写真やウェブページを印刷できます。
  モバイル機器と連携する(P. 336)

パソコンから印刷する

23LX-054

アプリケーションで作成した文書を、パソコンのプリンタードライバーを使って印刷します。プリンタードライバーには、拡大／縮小や両面印刷などの設定が用意されていますので、さまざまな形で印刷できます。これらの機能を使うには、パソコンにプリンタードライバーをインストールするなどのいくつかの準備が必要です。詳しくは、ドライバーのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。



プリンタードライバーのヘルプについて(P. 264)
オプション品を使うときは(P. 264)
印刷の基本操作(P. 264)

プリンタードライバーのヘルプについて

プリンタードライバー画面の［ヘルプ］をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。オンラインマニュアルに記載されていない項目の詳しい説明については、ヘルプを参照してください。

オプション品を使うときは

オプションの２段カセットペディスタルを装着している場合は、プリンタードライバーであらかじめ以下の設定が必要な場合があります。

ご注意

- ここでの操作をするには、管理者のアカウントでパソコンにログオンしている必要があります。

プリンターフォルダーを開く（**プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)**）▶ 本機のプリンタードライバーのアイコンを右クリック ▶ ［プリンターのプロパティ］または［プロパティ］▶ ［デバイスの設定］タブ ▶ ［給紙部の設定］▶ ［オプションカセット］▶ ［２段カセットペディスタル］を選択 ▶ ［OK］

印刷の基本操作

プリンタードライバーを使って、パソコン上の文書を本機で印刷する方法を説明します。

MEMO

本体の用紙設定について

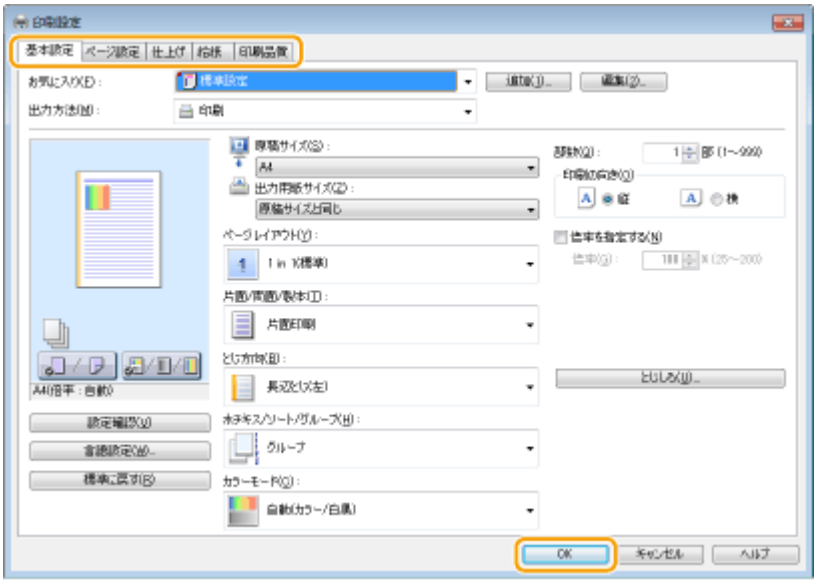
- 通常は各給紙部にセットした用紙サイズと種類を、あらかじめ操作パネルで設定しておく必要があります。

1 アプリケーションで文書を開いて、印刷画面を表示させる

2 本機のプリンタードライバーを選び、［詳細設定］または［プロパティ］をクリックする

3 必要に応じて印刷設定をし、［OK］をクリックする

- 設定内容に応じて、タブを切り替えてください。



4 ［印刷］または［OK］をクリックする

➠ 印刷が開始されます。

- 中止したいときは、**印刷を中止する(P. 266)** を参照してください。

関連項目

印刷状況や履歴を確認する(P. 269)

印刷を中止する

23LX-055

パソコンから印刷を中止する方法と、本機の操作パネルから中止する方法があります。

パソコンから(P. 266)
操作パネルから(P. 267)

パソコンから

デスクトップのタスクトレイに表示されているプリンターアイコンから印刷を中止できます。

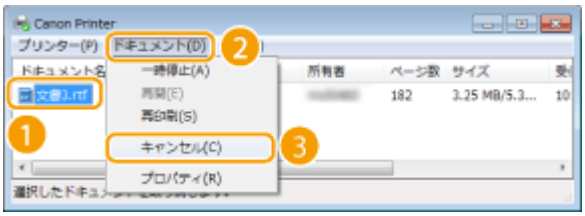
1 プリンターアイコンをダブルクリックする

MEMO

プリンターアイコンが表示されていないとき

- プリンターフォルダーを開き（**プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)**）、本機のプリンタードライバーのアイコンを右クリックして［印刷ジョブの表示］をクリックします（または、本機のアイコンをダブルクリックします）。

2 中止したい文書を選んで、［ドキュメント］▶［キャンセル］をクリックする



3 ［はい］をクリックする

➠ 選択した文書が中止されます。

MEMO

- 中止操作をしても、数ページ印刷されることがあります。

便利な機能

リモート UI から中止する

- リモート UI の［ジョブ状況］ページから印刷を中止することができます。 **印刷文書の状況を確認する(P. 420)**

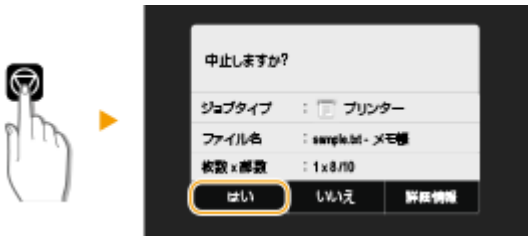
アプリケーションから中止する

- アプリケーションによっては、印刷中に次のような画面が表示されます。［キャンセル］をクリックして印刷を中止することができます。

操作パネルから

または<状況確認>で中止します。

■ で中止する



を押すと、文書の一覧画面が表示される場合

印刷を中止したい文書を選択して<中止> ▶ <はい>の順に選びます。

■印刷状況を確認してから中止する

<状況確認> ▶ <コピー / プリントジョブ> ▶ <コピー / プリント状況>タブで文書を選択 ▶ <中止> ▶ <はい>

MEMO

- 中止操作をしても、数ページ印刷されることがあります。

関連項目

印刷の基本操作(P. 264)
印刷状況や履歴を確認する(P. 269)

印刷状況や履歴を確認する

23LX-056

現在の印刷状況や印刷した文書の履歴を確認できます。

ご注意

- <ジョブ履歴の表示>が< OFF >に設定されていると、印刷履歴は確認できません。 **<ジョブ履歴の表示> (P. 539)**

次のようなときに便利です

- 文書がなかなか印刷されないので、順番待ちの状況を確認したい。
- 印刷したはずの文書が見当たらないので、エラーが起きていないか確認したい。

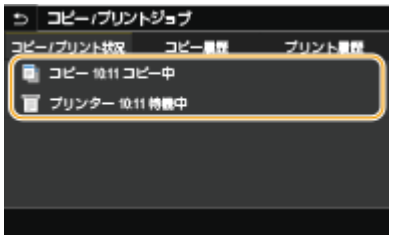
1 <状況確認>を選ぶ

2 <コピー / プリントジョブ>を選ぶ

3 印刷状況または履歴を確認する

■印刷状況を確認する

1 <コピー / プリント状況>タブで、状況を確認したい文書を選ぶ

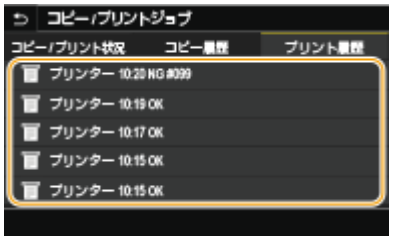


➠ 文書の詳細情報が表示されます。

■印刷履歴を確認する

1 <プリント履歴>タブで、履歴の内容を確認したい文書を選ぶ

- 正しく印刷された文書には< OK >と表示されます。< NG >と表示されている場合は、印刷を中止したか、エラーが発生したことを示しています。



➠ 文書の詳細情報が表示されます。

- 文書名やユーザー名は、使われている文字によっては正しく表示されない場合があります。

MEMO

＜ NG ＞のときに 3 桁の数字が表示されている場合

- 3 桁の数字はエラーコードを表しています。 **エラーコードごとの対処方法(P. 717)** を参照してください。

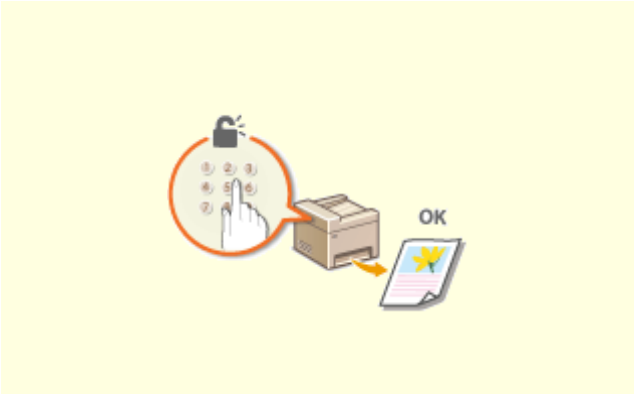
関連項目

印刷の基本操作(P. 264)
印刷を中止する(P. 266)

いろいろな印刷方法

23LX-057

暗証番号を付けて印刷する方法と、プリンタードライバーを使わずに USB メモリーのファイルを印刷する方法を説明します。



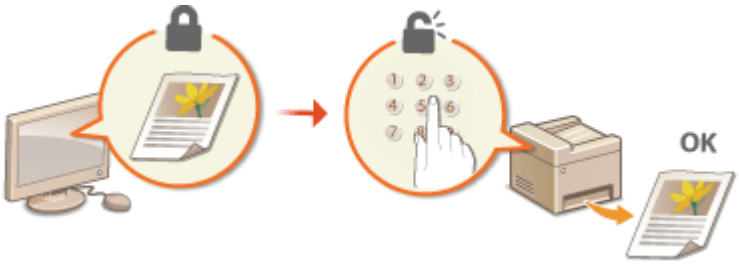
暗証番号を入力して印刷する（セキュアプリント）(P. 272)

USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）(P. 276)

暗証番号を入力して印刷する（セキュアプリント）

23LX-058

アプリケーションから文書を印刷するとき暗証番号を付けて印刷操作をすると、その文書はすぐには印刷されずいったん本機のメモリーにとどまります。暗証番号を知っている人が本体の操作パネルからその番号を入力しないかぎり、文書は印刷されません。これをセキュアプリントといい、暗証番号を付けた文書のことをセキュア文書といいます。セキュアプリントを使うと、機密性の高い文書を印刷したまま放置するといったリスクを防止できます。



セキュアプリントをする(P. 273)

セキュアプリントをする

23LX-059

アプリケーションで作成した文書をセキュア文書として印刷する操作について説明します。前半は、セキュア文書の印刷データをパソコンから本機に送る操作です。後半は、本機からセキュア文書を取り出す操作です。

- セキュア文書の印刷データをパソコンから本機に送る(P. 273)
- セキュア文書を本機から取り出す(P. 274)
- セキュア文書の保存時間を変更する(P. 275)

セキュア文書の印刷データをパソコンから本機に送る

1 アプリケーションで文書を開いて、印刷画面を表示させる

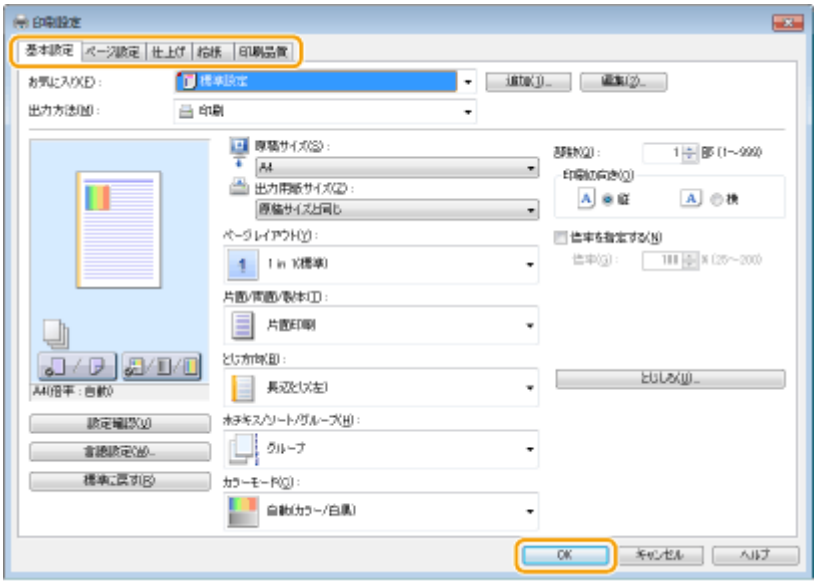
2 本機のプリンタードライバーを選び、［詳細設定］または［プロパティ］をクリックする

3 ［出力方法］で［セキュアプリント］を選ぶ

➠［情報］ポップアップ画面が表示されます。メッセージを確認し、［はい］または［いいえ］をクリックしてください。

4 必要に応じて印刷設定をして、［OK］をクリックする

- 設定内容に応じて、タブを切り替えてください。



5 ［印刷］または［OK］をクリックする

➠セキュア文書の印刷データが本機に送られ、印刷待ち文書としてメモリーに保存されます。

セキュア文書を本機から取り出す

本機に送ったセキュア文書を印刷します。セキュア文書は設定されている保存時間（**セキュア文書の保存時間を変更する(P. 275)**）を経過すると自動的に消去され印刷できなくなります。

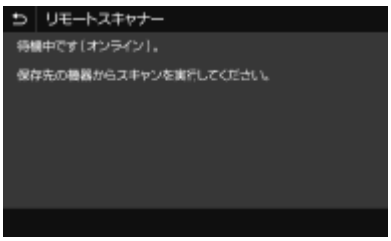
MEMO

- セキュア文書を印刷せず放置しておくと、メモリーが占有されたままとなり、通常の印刷ができなくなることがあります。早めに印刷してください。
- セキュア文書がどのくらいメモリーに保存されているのか使用量を確認できます。
  <状況確認> ▶ <デバイス情報> ▶ <ｾｷｭｱﾌﾟﾘﾝﾄﾒﾓﾘｰ使用量>

1 ホーム画面で、<セキュアプリント>を選ぶ ホーム画面(P. 120)

MEMO

- 以下のような<リモートスキャナー>画面が表示されていると操作を続行できません。このときは ⮌ で画面を消してから<セキュアプリント>を選びます。



2 印刷するセキュア文書にチェックマークを付けて、<スタート>を選ぶ

- 同じ暗証番号の文書は複数選ぶことができます。

MEMO

ユーザーを選択する画面が表示されたときは

- 複数ユーザーのセキュア文書がメモリーに保存されている場合は、ファイルを選択する画面の前に、ユーザーを選択する画面が表示されます。自分のユーザー名を選びます。

セキュア文書を削除するとき

- 複数の文書をまとめて削除することができます。削除するセキュア文書にチェックマークを付けて、<削除> ▶ <はい>の順に選びます。

3 暗証番号を入力し、<確定>を選ぶ

- 手順 2 で暗証番号が異なる複数の文書を選んでいた場合は、メッセージが表示されます。手順 2 でもう一度セキュア文書を選びます。

➠ 印刷が開始されます。

- 中止したいときは、<中止> ▶ <はい>の順に選びます。

セキュア文書の保存時間を変更する

セキュア文書データを本機に送信してから消去されるまでの保存期間を一定の範囲内で変更できます。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜ファンクション設定＞を選ぶ

3 ＜セキュアプリント＞を選ぶ

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 ログインする(P. 131)

4 ＜セキュアプリント消去時間＞を選ぶ

MEMO

＜セキュアプリント消去時間＞が選べないとき

- ＜セキュアプリントを使用＞を＜ ON ＞に設定してください。

セキュアプリントを使えないようにするとき

- ＜セキュアプリントを使用＞を＜ OFF ＞に設定したあと、本機を再起動します。

5 セキュア文書がメモリーに保存される時間を設定し、＜確定＞を選ぶ

- ここで設定した時間が経過するまで印刷しないでいると、セキュア文書は消去されます。

6 ＜確定＞を選ぶ

7 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

関連項目

印刷状況や履歴を確認する(P. 269)
パソコンからの印刷を制限する(P. 409)

USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）

23LX-05A

USB メモリーを本機に接続して、パソコンを介さずにファイルを直接印刷できます。使用できる USB メモリーや、USB メモリーの差し込み／取り外し方法については、 **USB メモリーを差し込む(P. 103)** を参照してください。

1 ホーム画面で、<ﾒﾓﾘｰﾒﾃﾞｨｱﾌﾟﾘﾝﾄ>を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 印刷したいファイルにチェックマークを付ける

- 複数のファイルを選択できます。

- 選択を解除するには、選択済み（✔）のファイルを再度選びます。
- フォルダーを選ぶと、その内容が表示されます。1 つ上の階層に移動するときは ⮌ をタップします。

MEMO

- 第 5 階層より深い階層のフォルダーやファイルは表示されません。
- 別のフォルダーへ移動すると、ファイルの選択は解除されます。

■ファイルを全選択する

1 <全選択> を選ぶ
- すべての選択を解除するには、<選択解除>を選びます。

2 ファイルの種類が混在している場合は、< JPEG / TIFF ファイル>または< PDF ファイル>を選ぶ

■ファイルの表示方法を変更する

ファイルの表示方法を「プレビュー表示」／「詳細表示」から選ぶことができます。

プレビュー表示　　**詳細表示**

MEMO

- PDF ファイルの場合、ファイルの中身は確認できません。
- ＜メモリーメディアプリント＞画面を表示するときのファイルの表示方法を設定することができます。 **＜表示方法のデフォルト設定＞(P. 533)**

■ファイルの表示順序を変更する

USB メモリー内のファイルの表示順序を変更できます。

MEMO

- ＜名称昇順＞、＜日付 / 時刻昇順＞などのように、常に同じ基準でファイルを表示するように設定することができます。 **＜ﾌｧｲﾙｿｰﾄのﾃﾞﾌｫﾙﾄ設定＞(P. 533)**

1 ＜ソート＞を選ぶ

2 表示順序の基準を選ぶ

MEMO

- ＜日付 / 時刻昇順＞と＜日付 / 時刻降順＞では、ファイルの最終更新日時が基準となります。

3 ＜確定＞を選ぶ

4 必要に応じて印刷設定をする

- ＜リセット＞を選ぶと、すべての印刷設定を初期値に戻すことができます。

＜用紙＞

印刷に使う用紙がセットされている給紙部を選択します。

	手差しトレイにセットした用紙に印刷します。
1、2	本体の給紙カセット（カセット 1、2）にセットした用紙に印刷します。
3、4	オプションの 2 段カセットペディスタル（カセット 3、4）にセットした用紙に印刷します。

MEMO

- 他の印刷設定をするときは、<閉じる>を選びます。

<明るさ>

画像の明るさを調節します。

MEMO

- 他の印刷設定をするときは、<閉じる>を選びます。

<部数>

印刷する部数を入力します。

MEMO

- 他の印刷設定をするときは、<閉じる>を選びます。

<両面>

片面印刷か両面印刷かを選びます。

	片面に印刷します。
	用紙をとじたとき、左右開きとなるように両面に印刷します。
	用紙をとじたとき、上下開きとなるように両面に印刷します。

MEMO

- 用紙サイズや種類によっては両面印刷できないことがあります。 **用紙について(P. 768)**

<ページ集約>

- TIFF ファイルの場合、<ページ集約>はできません。

複数ページの画像を 1 枚の用紙の同じ面に並べるページ集約のパターンを選びます。

	ページ集約しません。
	2 ページ分の画像を 1 枚の用紙に印刷します。
	4 ページ分の画像を 1 枚の用紙に印刷します。
(PDF ファイルのみ)	8 ページ分の画像を 1 枚の用紙に印刷します。

MEMO

- PDF ファイルの場合は、＜ PDF 詳細設定＞の＜ページ集約＞で、9 ページ分または 16 ページ分の画像を 1 枚の用紙に印刷することもできます。

＜ JPEG / TIFF 詳細設定＞

JPEG/TIFF 画像の印刷設定を変更できます。

＜両面＞

用紙の両面に印刷します。とじ位置を選択します。

＜ページ集約＞（JPEG ファイルのみ）

複数ページの画像を 1 枚の用紙の同じ面に並べて印刷します。用紙 1 枚に印刷するページ数を選択します。たとえば、＜ 4 in 1 ＞とは「1 枚の用紙に 4 ページを収める」という意味です。

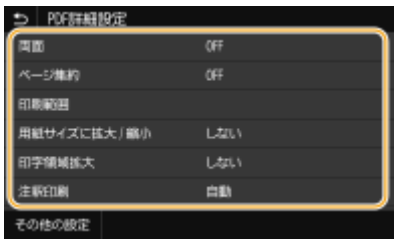
＜原稿の種類＞

画像の内容に応じて、原稿の種類を選びます。

＜写真を優先＞
写真のなめらかさを優先して印刷します。
＜文字を優先＞
文字の鮮明さを優先して印刷します。

＜ PDF 詳細設定＞

PDF の印刷設定を変更できます。



＜両面＞

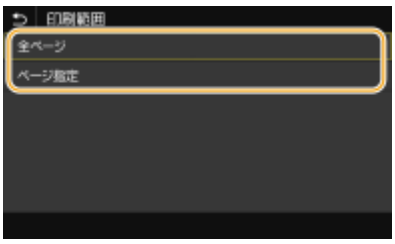
用紙の両面に印刷します。とじ位置を選択します。

＜ページ集約＞

複数ページの画像を 1 枚の用紙の同じ面に並べて印刷します。用紙 1 枚に印刷するページ数を選択します。たとえば、＜ 4 in 1 ＞とは「1 枚の用紙に 4 ページを収める」という意味です。

＜印刷範囲＞

印刷するページを指定します。



＜全ページ＞
すべてのページを印刷します。
＜ページ指定＞
印刷するページ範囲を指定します。＜開始ページ＞と＜終了ページ＞をそれぞれ入力し、＜確定＞を選びます。

ご注意

- 指定したページ範囲が PDF ファイルのページ数と 1 ページも重ならない場合は、印刷されません。

＜用紙サイズに拡大 / 縮小＞

用紙の印刷範囲に合わせて、拡大／縮小するかどうか設定をします。なお、原稿のタテヨコ比は固定されたまま拡大／縮小されます。

＜印字領域拡大＞

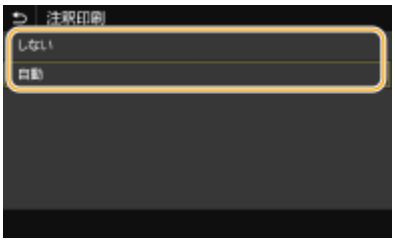
印刷範囲を用紙サイズいっぱいに広げて印刷するかどうかを設定します。

MEMO

- ＜する＞に設定すると、原稿によっては用紙の端が一部欠けて印刷されたり、用紙が部分的に汚れたりすることがあります。

＜注釈印刷＞

PDF ファイルの注釈を印刷します。



＜しない＞
注釈を印刷しません。

＜自動＞
PDF ファイル内で印刷指定された注釈のみ印刷します。

＜文書を開くパスワード＞

文書を開くためのパスワードを入力してパスワード保護された PDF ファイルを印刷できます。パスワードを入力し、＜確定＞を選びます。

＜その他の設定＞

＜テキストに純ブラックを使用＞

色情報が「R ＝ G ＝ B ＝ 0 %」、「C ＝ M ＝ Y ＝ 100 %」または「C ＝ M ＝ Y ＝ 0 %／K ＝ 100 %」の黒色の文字を、K（ブラック）のインク 1 色で印刷します。設定については、**＜テキストに純ブラックを使用＞(P. 499)** を参照してください。

＜ RGB 入力プロファイル＞

RGB データに対して、使用中のモニターに合わせて適切なプロファイルを選択します。設定については、**＜ RGB 入力プロファイル＞(P. 499)** を参照してください。

＜ CMYKｼﾐｭﾚｰｼｮﾝﾌﾟﾛﾌｧｲﾙ＞

CMYK データを印刷する際のシミュレーションターゲットを設定できます。このシミュレーションに従って、CMYK データをデバイス依存の CMYK カラーモデルに変換します。設定については、**＜ CMYKｼﾐｭﾚｰｼｮﾝﾌﾟﾛﾌｧｲﾙ＞(P. 500)** を参照してください。

＜ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙﾌﾟﾛﾌｧｲﾙを使用＞

グレーのデータを、本機のグレースケールプロファイルを使って CMYK のデータに変換するかどうかを設定します。設定については、**＜ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙﾌﾟﾛﾌｧｲﾙを使用＞(P. 501)** を参照してください。

＜出力プロファイル＞

印刷データに対して適切なプロファイルを選びます。設定については、**＜出力プロファイル＞(P. 501)** を参照してください。

＜マッチング方法＞

＜ RGB 入力プロファイル＞で色の調整を行うときに、どの要素を優先させるかを選びます。設定については、**＜マッチング方法＞(P. 502)** を参照してください。

＜グレースケール変換方式＞

カラーのデータをモノクロ印刷するときの方式を設定します。設定については、**＜グレースケール変換方式＞(P. 503)** を参照してください。

＜印字調整＞

＜インク節約モード＞

＜する＞を選ぶとインクを節約して印刷します。大量に印刷するときなど、レイアウトなどの仕上がりを事前に確認してから印刷したいときに設定します。設定については、**＜インク節約モード＞(P. 490)** を参照してください。

＜解像度＞

印刷データを処理するときの解像度を設定します。設定については、**＜解像度＞(P. 491)** を参照してください。

＜スーパースムーズ＞

文字や図形の輪郭をなめらかに印刷するように設定します。設定については、 **<スーパースムーズ>(P. 491)** を参照してください。

<文字鮮鋭化>

背景が黒の白抜き文字や白線を鮮明に印刷します。設定については、 **<文字鮮鋭化>(P. 491)** を参照してください。

<細線の濃度強調>

色の薄い細線や文字が見やすくなるように印刷します。グレーの線が途切れやすい場合に設定します。設定については、 **<細線の濃度強調>(P. 491)** を参照してください。

<太さ調整>

文字や細い線を太く印字するように設定します。設定については、 **<太さ調整>(P. 492)** を参照してください。

<ライン処理>

線を再現するときの処理方法を設定します。設定については、 **<ライン処理>(P. 492)** を参照してください。

5 <スタート>を選ぶ

➠ <白黒>を選ぶと白黒印刷、<カラー>を選ぶとカラー印刷が開始されます。

- 中止したいときは、<中止> ▶ <はい>の順に選びます。

便利な機能

- いつも同じ設定で印刷したい **メモリーメディアプリント(P. 180)**

関連項目

<ファイル保存 / 利用>(P. 528)

スキャンする

スキャンする 285

スキャンの基本画面について 287

スキャンの基本操作 290

スキャンしてパソコンに保存する 291

USB メモリーにファイルを保存する 293

E メール送信する／サーバーなどにファイルを保存する 297

送信を中止する 306

スキャンの状況や履歴を確認する 307

きれいにスキャンする 309

画質を調整する 310

濃度を調整する 311

鮮明にスキャンする（シャープネス） 312

サイズの異なる原稿をまとめてスキャンする（原稿サイズ混載） 314

スキャンの便利な機能 315

電子ファイルの安全性を高める 316

ファイルサイズと画質のバランスを調節する（データサイズ） 319

過去の設定を呼び出して送信／保存する（送信履歴） 320

E メールの設定をする 323

パソコンを使ってスキャンする（リモートスキャン） 326

アプリケーションから原稿を読み込む 327

ScanGear WG を使う 329

WSD を使う 330

WSD を使って原稿を読み込む（WSD スキャン） 332

スキャンする

23LX-05C

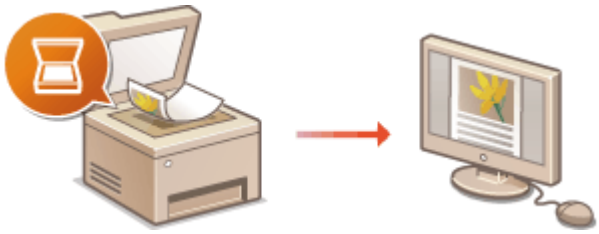
本体側の操作でスキャンする方法と、パソコン側の操作でスキャンする方法があります。いずれの場合も読み込んだ原稿はPDF などの電子ファイルに変換されます。かさばる紙文書をファイルにして整理する場合などにお使いください。

MEMO

- 本機をスキャナーとして使うには、あらかじめパソコンにソフトウェアをインストールするなどの準備が必要です。詳しくは、ドライバーやソフトウェアのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。また、ネットワークで接続する場合は、インストールしたソフトウェアに本機を登録する必要があります。**スキャナーとして使うための準備をする(P. 87)**
- 各ページに掲載されているスキャナードライバーやアプリケーションの画面は、OS、スキャナードライバー、アプリケーションのバージョンによってはお使いのものと異なる場合があります。

■基本操作をご紹介

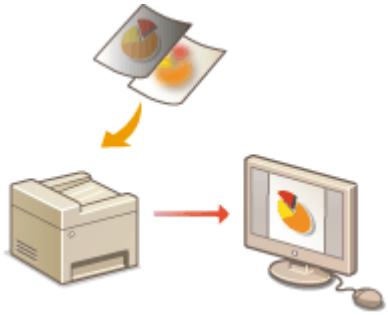
本機の操作パネルから操作して原稿を読み込み、パソコンに保存します。保存先を USB メモリーにしたり、E メールの添付ファイルとして送信したりすることもできます。



スキャンの基本画面について(P. 287)
スキャンの基本操作(P. 290)
送信を中止する(P. 306)
スキャンの状況や履歴を確認する(P. 307)

■品質を高める

「写真がぼやけてしまう」、「紙の色が濃すぎて文字が見えない」といった悩みを解決する方法を紹介します。



きれいにスキャンする(P. 309)

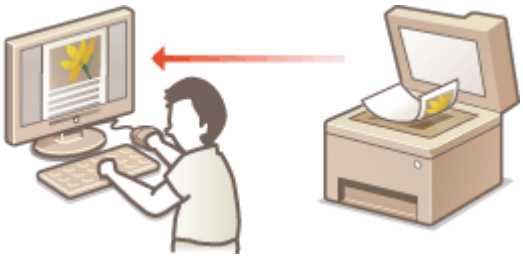
■効率よく、確実に

送信時の効率アップや便利な設定などを紹介します。

スキャンの便利な機能(P. 315)

■パソコンからスキャンする

パソコン側からの操作によって、本機にセットした原稿を読み込む方法です。読み込んだ原稿はパソコンに保存します。付属の WG Scan Utility を使う方法のほか、画像処理ソフトや文書作成ソフトなどのアプリケーションから読み込む方法があります。



パソコンを使ってスキャンする（リモートスキャン）(P. 326)

モバイル機器からスキャンする

- スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器を本機と連携させることで、本機にセットした原稿を手軽にスキャンできます。 **モバイル機器と連携する(P. 336)**

スキャンの基本画面について

23LX-05E

ホーム画面の＜スキャン＞を選ぶと、スキャンの基本画面が表示されます。

1 ＜ PC ＞

スキャンしたデータをパソコンに保存します。 **PC スキャンの基本画面(P. 287)**

2 ＜リモートスキャナー＞

パソコン側の操作でスキャンするときに、本機をオンライン状態にします。 **パソコンを使ってスキャンする（リモートスキャン）(P. 326)**

3 ＜ USB メモリー＞

スキャンしたデータを USB メモリーに保存します。 **USB スキャンの基本画面(P. 288)**

4 ＜ E メール＞

スキャンしたデータを E メール送信します。 **E メール送信／I ファクス送信／ファイル保存の基本画面(P. 288)**

5 ＜ I ファクス＞

スキャンしたデータを I ファクス送信します。 **E メール送信／I ファクス送信／ファイル保存の基本画面(P. 288)**

6 ＜ファイル＞

スキャンしたデータを共有フォルダーや FTP サーバーに保存します。 **E メール送信／I ファクス送信／ファイル保存の基本画面(P. 288)**

PC スキャンの基本画面

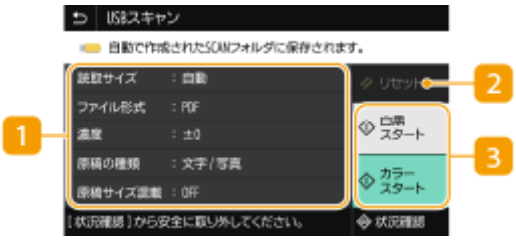
1 スキャンの種類

スキャンする設定を選びます。 **スキャンしてパソコンに保存する(P. 291)**

2 ＜スタート＞

スキャンを開始するボタンです。

USB スキャンの基本画面



1 送信設定

ここの設定で原稿を読み取ります。

2 ＜リセット＞

設定した内容をまとめて初期状態に戻すことができます。

3 ＜スタート＞

スキャンを開始するボタンです。＜白黒＞を選ぶと白黒スキャン、＜カラー＞を選ぶとカラースキャンが開始されます。

E メール送信／I ファクス送信／ファイル保存の基本画面

E メール送信

I ファクス送信

ファイル保存

1 ＜宛先指定＞タブ

アドレス帳、LDAP サーバーの検索、短縮ダイヤルの入力、送信の履歴による宛先指定は、このタブから行います。

E メール送信する／サーバーなどにファイルを保存する(P. 297)
過去の設定を呼び出して送信／保存する（送信履歴）(P. 320)

2 ＜送信設定＞タブ

原稿を読み取るときの設定は、このタブから行います。

3 ＜宛先確認＞

指定した宛先の名前やアドレス、件数を確認したり、変更したりすることができます。

4 ＜リセット＞

設定した内容をまとめて初期状態に戻すことができます。

5 ＜スタート＞

スキャンを開始するボタンです。＜白黒＞を選ぶと白黒スキャン、＜カラー＞を選ぶとカラースキャンが開始されます。

スキャンの基本操作

23LX-05F

原稿をスキャンするときの基本的な操作手順を説明します。

■スキャンする

スキャンしてパソコンに保存する(P. 291)

USB メモリーにファイルを保存する(P. 293)

E メール送信する／サーバーなどにファイルを保存する(P. 297)

■ジョブを操作する

送信を中止する(P. 306)
スキャンの状況や履歴を確認する(P. 307)

スキャンしてパソコンに保存する

23LX-05H

「原稿を読み込んでパソコンに保存する」という一連の作業を本機側だけで行うことができます。「読み込んだ原稿をどのパソコンに保存するか」、「カラーで読み込むか、白黒で読み込むか」、「読み込んだ原稿を PDF で保存するか、JPEG で保存するか」などを選びながらスキャンします。なお、ネットワーク接続されているパソコンを保存先にするときは、あらかじめパソコン側で本機を登録しておく必要があります（ **スキャナーとして使うための準備をする(P. 87)** ）。

1 原稿をセットする 原稿をセットする(P. 133)

2 ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

3 スキャンの基本画面で、＜ PC ＞を選ぶ スキャンの基本画面について(P. 287)

- 本機と USB 接続されているパソコンだけでお使いの場合は、手順 5 に進みます。

4 読み込んだ原稿を保存するパソコンを選ぶ

5 PC スキャン基本画面で、スキャンの種類を選ぶ PC スキャンの基本画面(P. 287)

- 表示されるスキャンの種類の設定内容は、WG Scan Utility で確認や変更ができます。詳細については、WG Scan Utility の［操作説明］をクリックしてヘルプを参照してください。

MEMO

- macOS をお使いの場合は、ドライバーやソフトウェアのマニュアルを参照してください（ **ドライバー(P. 795)** ）。

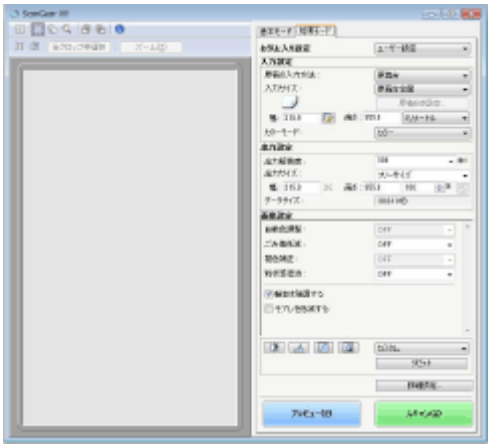
6 ＜スタート＞を選ぶ

➠ 原稿の読み込みが開始されます。

- 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞ の順に選びます。 **送信を中止する(P. 306)**

ご注意

- ScanGear WG が表示されていると、スキャンできません。画面を閉じてからスキャンしてください。



■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

読み込みが完了すると、パソコンの画面に保存先のフォルダーが表示されます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

読み込みが完了したら、次の操作を行います（ファイル形式が JPEG の場合を除く）。

1. 原稿が複数枚あるときは次の原稿をセットし、＜次の読込＞を選ぶ
   - すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。
   - 原稿が 1 枚のときは次の手順に進みます。
2. ＜終了＞を選ぶ

   ➠ パソコンの画面に保存先のフォルダーが表示されます。

MEMO

保存先のフォルダーについて

- お買い上げ時の設定では、読み込んだデータは［マイドキュメント］フォルダーに保存されます。日付を名称とするサブフォルダーが作成され、データはその中に保存されます。
- WG Scan Utility から保存先を変更できます。詳細については、WG Scan Utility の［操作説明］をクリックしてヘルプを参照してください。

USB メモリーにファイルを保存する

23LX-05J

原稿を読み込んで、USB メモリーに保存する方法を説明します。

MEMO

- USB メモリーに保存するときは、あらかじめ USB メモリーを差し込んでおいてください。使用できる USB メモリーや、USB メモリーの差し込み／取り外し方法については、 **USB メモリーを差し込む(P. 103)** を参照してください。

1 原稿をセットする 原稿をセットする(P. 133)

2 ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

3 スキャンの基本画面で、＜ USB メモリー＞を選ぶ スキャンの基本画面について(P. 287)

4 必要に応じて原稿の読み込み設定をする

原稿の読み取りサイズを設定する
ファイル形式を選ぶ
原稿の両面を読み込む

原稿の読み取りサイズを設定する

読み込む原稿のサイズを指定します。

＜読取サイズ＞ ▶ 原稿のサイズを選択

ファイル形式を選ぶ

読み込んだ原稿のファイル形式を PDF/JPEG/TIFF の中から選びます。PDF は、データサイズを小さくする高圧縮 PDF や、OCR（光学式文字認識）でスキャンしたテキストデータを含めることでテキスト検索を可能にした PDF 形式を選ぶこともできます。

＜ファイル形式＞ ▶ ファイル形式を選択

MEMO

- ＜ファイル形式＞で JPEG を選び、原稿台ガラスから原稿を読み込もうとすると 1 枚しか読み込むことができません。一度に複数枚の原稿を読み込みたい場合はフィーダーを使ってください。原稿は 1 枚ずつ別々のファイルとして保存されます。TIFF や PDF を選んだ場合は、原稿台ガラス／フィーダーのどちらからでも複数枚の原稿を読み込むことができます。このとき、1 つのファイルとして保存するか、1 ページずつ別々のファイルとして保存するかは、 **ページごとに PDF を分ける(P. 294)** または **ページごとに TIFF を分ける(P. 294)** で設定できます。
- ＜ PDF (高圧縮)＞や＜ PDF (高圧縮 / OCR)＞を選ぶと＜ PDF ＞や＜ PDF (OCR)＞よりも写真やイラストなどの画像がより圧縮され、データサイズが小さくなります。ただし、原稿の種類によっては画質が低くなったり、一度に読み込める原稿の枚数が少なくなったりすることがあります。
- ＜ PDF (高圧縮 / OCR)＞や＜ PDF (OCR)＞では、スキャン時に OCR で読み取った文字の向きによって、自動的に原稿の向きを検知するように設定できます。 **＜ OCR (文字認識) 設定＞(P. 484)**

■ページごとに PDF を分ける

複数ページの原稿を 1 つの PDF にするか、1 ページずつ別々の PDF にするかを設定します。PDF の形式ごとに設定できます。

＜ファイル形式＞ ▶ ＜ PDF 詳細設定＞ ▶ PDF の形式を選択 ▶ ＜ページごとに分割＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞

■ページごとに TIFF を分ける

複数ページの原稿を 1 つの TIFF にするか、1 ページずつ別々の TIFF にするかを設定します。

＜ファイル形式＞ ▶ ＜ TIFF 詳細設定＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択

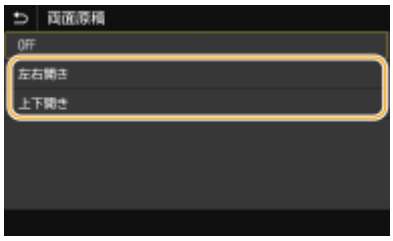
原稿の両面を読み込む

フィーダーにセットした原稿のオモテとウラを自動的に読み込みます。

ご注意

- 原稿台ガラスにセットした原稿の両面を自動的に読み込むことはできません。

<両面原稿> ▶ <左右開き>または<上下開き>を選択



<左右開き>
原稿のオモテ面とウラ面の上下位置関係が同じ場合に選びます。

<上下開き>
原稿のオモテ面とウラ面の上下位置関係が逆の場合に選びます。

MEMO

- その他の読み込み設定については、**きれいにスキャンする(P. 309)** や **ファイルサイズと画質のバランスを調節する（データサイズ）(P. 319)** を参照してください。

5 <スタート>を選ぶ

➠ 原稿の読み込みが開始されます。

- 中止したいときは、<中止> ▶ <はい>の順に選びます。 **送信を中止する(P. 306)**

■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

読み込みが完了すると、保存が実行されます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

読み込みが完了したら、次の操作を行います（ファイル形式が JPEG の場合を除く）。

1 原稿が複数枚あるときは次の原稿をセットし、<次の読込>を選ぶ

- すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。
- 原稿が 1 枚のときは次の手順に進みます。

2 ＜終了＞を選ぶ

➠ 保存が実行されます。

MEMO

- USB メモリーに新たなフォルダーが作成され、そこに読み込まれた原稿が保存されます。ファイル名は「SCAN + 4 桁の番号.拡張子」の形式で付けられます。

便利な機能

- いつも同じ設定でスキャンしたい **機能の初期値を変更する(P. 180)**
- 複数のスキャン設定を組み合わせて登録し、必要なときに呼び出して使用したい **よく使う設定を登録する(P. 178)**

E メール送信する／サーバーなどにファイルを保存する

23LX-05K

原稿を読み込んで、本機から直接 E メールに添付して送信したり、共有フォルダーや FTP サーバーに保存したりする方法を説明します。

MEMO

- 直接 E メール送信するには、あらかじめメールサーバーの設定を指定するなどの準備が必要です。 **E メール送信／I ファクス送受信設定の流れ(P. 88)**
- 共有フォルダーや FTP サーバーに保存するには、あらかじめ原稿の保存先を指定するなどの準備が必要です。
共有フォルダーへの保存設定の流れ(P. 93)
FTP サーバーへの保存設定の流れ(P. 94)

1 原稿をセットする 原稿をセットする(P. 133)

2 ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

3 スキャンの基本画面で、＜ E メール＞または＜ファイル＞を選ぶ スキャンの基本画面について(P. 287)

4 宛先を指定する

- アドレス帳から指定する
- 短縮番号で指定する
- 宛先を直接入力する（E メール送信）
- LDAP サーバー内の宛先を指定する

アドレス帳から指定する

アドレス帳に登録した宛先を一覧表示から選んで指定します。宛先名称を登録した場合は、頭文字で検索することもできます。

MEMO

- アドレス帳を使うためには、あらかじめ登録が必要です。 **宛先を登録する(P. 186)**

- 共有フォルダーや FTP サーバーの宛先の登録は、パソコンから行います。 **リモート UI から宛先を登録する(P. 428)**

1 **<宛先指定>タブで、<アドレス帳>を選ぶ**

2 **< To >を選ぶ**

3 **インデックスを選ぶ** **インデックス(P. 186)**

4 **指定したい宛先にチェックマークを付け、<確定>を選ぶ**

便利な機能

- ホーム画面の<アドレス帳>から宛先を選ぶと、選んだ宛先が指定された状態で E メール送信／ファイル保存の基本画面を表示することができます。

短縮番号で指定する

アドレス帳の宛先には 3 桁の番号（短縮番号）が設定されています。短縮番号を入力するだけで宛先を指定することができます。

MEMO

- 短縮番号を使うためには、あらかじめアドレス帳への登録が必要です。 **宛先を登録する(P. 186)**
- 共有フォルダーや FTP サーバーの宛先の登録は、パソコンから行います。 **リモート UI から宛先を登録する(P. 428)**

1 **<宛先指定>タブで、<短縮ダイヤル>を選ぶ**

2 **< To >を選ぶ**

3 3 桁の短縮番号を入力する

- 間違って入力したときは C で消します。

MEMO

確認画面が表示された場合

- ＜短縮ダイヤル送信の確認＞が＜ ON ＞に設定されていると、短縮番号に登録されている宛先と宛先名の確認画面が表示されます（登録されている宛先がグループダイヤルの場合は、グループ名と宛先の件数が表示されます）。宛先内容を確認し、問題なければ＜ OK ＞を選びます。他の宛先に指定しなおす場合は＜キャンセル＞を選んだあと、3 桁の短縮番号を入力しなおします。 **アドレス帳に登録した宛先を表示する(P. 405)**

宛先を直接入力する（E メール送信）

アドレス帳に登録されていない宛先は、直接入力して指定します。

1 ＜宛先指定＞タブで、＜キーボード入力＞を選ぶ

2 E メールアドレスを入力し、＜確定＞を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

LDAP サーバー内の宛先を指定する

オフィスに LDAP サーバーがあればサーバー内に登録されているユーザー情報を宛先として使うことができます。本機から LDAP サーバーにアクセスしてユーザー情報を検索して指定します。

MEMO

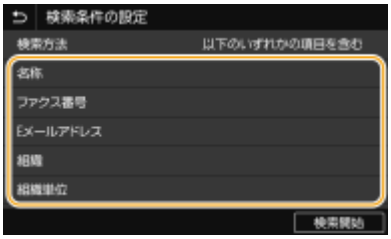
- あらかじめ LDAP サーバーとの接続について設定しておく必要があります。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

1 ＜宛先指定＞タブで、＜ LDAP サーバー＞を選ぶ

2 使用する LDAP サーバーを選ぶ

3 検索するユーザー情報の条件を選ぶ

- 名称、ファクス番号、E メールアドレス、組織、組織単位を検索条件にすることができます。

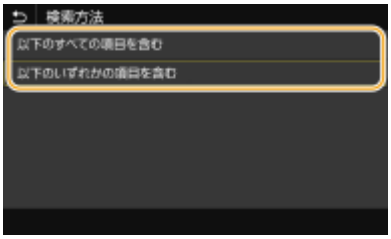


4 検索する文字列を入力し、＜確定＞を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。
- 検索条件を複数指定する場合は、手順 3 と 4 を繰り返します。

5 ＜検索方法＞を選ぶ

6 検索結果を表示する条件を選ぶ



＜以下のすべての項目を含む＞
手順 3 と 4 で指定したすべての条件を満たすユーザーだけを検索結果として表示します。

＜以下のいずれかの項目を含む＞
手順 3 と 4 で指定した条件のどれか 1 つでもあてはまるユーザー情報があれば、それらすべてのユーザーを検索結果として表示します。

7 ＜検索開始＞を選ぶ

➠ 指定した検索条件に合致したユーザーが表示されます。

MEMO

- ＜検索開始＞を選んだときに認証画面が表示された場合は、LDAP サーバーに登録されている本機のユーザー名とパスワードを入力し、＜確定＞を選んでください。 **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

8 宛先にしたいユーザーにチェックマークを付け、＜確定＞を選ぶ

MEMO

すでに宛先が指定された画面が表示されたとき

- 送信時の宛先が限定されています。他の宛先に送信するには、送信機能の認証設定で制限しないように設定する必要があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。 **LDAP サーバーで認証を行う(P. 361)**

送信履歴から宛先を指定する

- 過去に指定した宛先を呼び出すこともできます。 **過去の設定を呼び出して送信／保存する（送信履歴）(P. 320)**

共有フォルダーや FTP サーバーに保存するとき

- 指定できる宛先は 1 件だけです。

5 E メール送信の場合は、必要に応じて 2 件目以降の宛先、Cc、Bcc の宛先を指定する

- ＜宛先指定＞タブで、宛先の指定方法を選択したあと、宛先を指定します。

- ＜ LDAP サーバー＞と＜自分の宛先＞から選択した場合は、＜ To ＞の宛先として指定されます。
- ＜ Cc ＞と＜ Bcc ＞の宛先は、＜アドレス帳＞または＜短縮ダイヤル＞からのみ指定できます。

■宛先から外す

複数の宛先を指定した場合、送信をとりやめたい相手先を宛先から外すことができます。

1 ＜宛先確認＞を選ぶ

2 外したい宛先にチェックマークを付け、＜宛先から解除＞を選ぶ
   - グループを選んだときは、＜詳細情報＞ ▶ ＜宛先＞の順に選ぶと、グループ内に登録されている宛先を表示して確認できます。

3 ＜はい＞を選ぶ

6 必要に応じて原稿の読み込み設定をする

原稿の読み取りサイズを設定する
ファイル形式を選ぶ
原稿の両面を読み込む

原稿の読み取りサイズを設定する

読み込む原稿のサイズを指定します。

<送信設定>タブで<読取サイズ>を選択 ▶ 原稿のサイズを選択

ファイル形式を選ぶ

読み込んだ原稿のファイル形式を PDF/JPEG/TIFF の中から選びます。PDF は、データサイズを小さくする高圧縮 PDF や、OCR（光学式文字認識）でスキャンしたテキストデータを含めることでテキスト検索を可能にした PDF 形式を選ぶこともできます。

<送信設定>タブで<ファイル形式>を選択 ▶ ファイル形式を選択

MEMO

- <ファイル形式>で JPEG を選び、原稿台ガラスから原稿を読み込もうとすると 1 枚しか読み込むことができません。一度に複数枚の原稿を読み込みたい場合はフィーダーを使ってください。原稿は 1 枚ずつ別々のファイルとして保存されます。TIFF や PDF を選んだ場合は、原稿台ガラス／フィーダーのどちらからでも複数枚の原稿を読み込むことができます。このとき、1 つのファイルとして保存するか、1 ページずつ別々のファイルとして保存するかは、 **ページごとに PDF を分ける(P. 302)** または **ページごとに TIFF を分ける(P. 303)** で設定できます。
- < PDF (高圧縮)>や< PDF (高圧縮 / OCR)>を選ぶと< PDF >や< PDF (OCR)>よりも写真やイラストなどの画像がより圧縮され、データサイズが小さくなります。ただし、原稿の種類によっては画質が低くなったり、一度に読み込める原稿の枚数が少なくなったりすることがあります。
- < PDF (高圧縮 / OCR)>や< PDF (OCR)>では、スキャン時に OCR で読み取った文字の向きによって、自動的に原稿の向きを検知するように設定できます。 **< OCR (文字認識) 設定> (P. 484)**

■ページごとに PDF を分ける

複数ページの原稿を 1 つの PDF にするか、1 ページずつ別々の PDF にするかを設定します。PDF の形式ごとに設定できます。

<送信設定>タブで<ファイル形式>を選択 ▶ < PDF 詳細設定> ▶ PDF の形式を選択 ▶ <ページごとに分割> ▶ < OFF >または< ON >を選択 ▶ <確定>

■ページごとに TIFF を分ける

複数ページの原稿を 1 つの TIFF にするか、1 ページずつ別々の TIFF にするかを設定します。

<送信設定>タブで<ファイル形式>を選択 ▶ < TIFF 詳細設定> ▶ <ページごとに分割> ▶ < OFF >または< ON >を選択

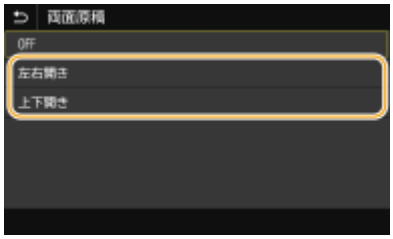
原稿の両面を読み込む

フィーダーにセットした原稿のオモテとウラを自動的に読み込みます。

ご注意

- 原稿台ガラスにセットした原稿の両面を自動的に読み込むことはできません。

<送信設定>タブで<両面原稿>を選択 ▶ <左右開き>または<上下開き>を選択



<左右開き>
原稿のオモテ面とウラ面の上下位置関係が同じ場合に選びます。

<上下開き>
原稿のオモテ面とウラ面の上下位置関係が逆の場合に選びます。

MEMO

- その他の読み込み設定については、**きれいにスキャンする(P. 309)** や **ファイルサイズと画質のバランスを調節する（データサイズ）(P. 319)** を参照してください。
- E メール送信の場合は、件名、本文、返信先、重要度を設定することができます。 **E メールの設定をする(P. 323)**

7 ＜スタート＞を選ぶ

- ＜送信宛先の確認＞画面が表示されたときは、宛先が間違っていないかを確認してから＜スキャン開始＞を選んでください。

➠ 原稿の読み込みが開始されます。

- 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。 **送信を中止する(P. 306)**

■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

読み込みが完了すると、送信／保存が実行されます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

読み込みが完了したら、次の操作を行います（ファイル形式が JPEG の場合を除く）。

1 原稿が複数枚あるときは次の原稿をセットし、＜次の読込＞を選ぶ

- すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。
- 原稿が 1 枚のときは次の手順に進みます。

2 ＜送信開始＞を選ぶ

➠ 送信／保存が実行されます。

MEMO

＜ファイル認証＞画面または＜ SMTP 認証＞画面が表示されたときは

- ユーザー名とパスワードを入力し、＜確定＞を選びます。

送信原稿のファイル名

- 「通信管理番号（4 桁）_送信日時_文書番号（3 桁）.拡張子」の形式でファイル名が付けられます。

E メール送信時にエラーが発生した場合

送信エラー発生時には本機で設定した E メールアドレスに通知メールが届くことがあり、放置するとメールサーバーによってはメールボックスの容量が不足する恐れがあります。定期的にメールボックスをクリアすることをおすすめします。

■メールボックスをクリアするには

ご注意

- メールボックスをクリアすると、サーバー上の受信トレイにあるメールがすべて削除されます。普段お使いの E メールアドレスと同じアドレスを指定しているような場合は、必要な未読メールが削除されないように注意してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［送信設定］ ▶ ［ネットワーク設定-E メール/I ファクス設定］の順に進む**

4 **［メールボックスのクリア］にある［クリア］をクリックする**

5 **メッセージを確認し、［OK］をクリックする**

➠ メールボックスからメールが削除されます。

便利な機能

- いつも同じ設定でスキャンしたい **機能の初期値を変更する(P. 180)**
- 複数のスキャン設定を組み合わせて登録し、必要なときに呼び出して使用したい **よく使う設定を登録する(P. 178)**

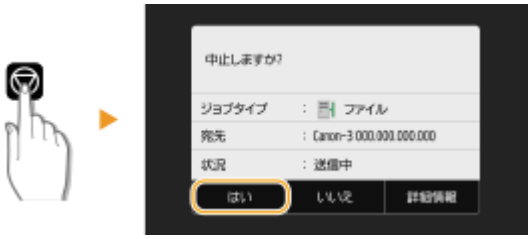
送信を中止する

23LX-05L

<スタート>を選んだ直後に送信を中止するときは、画面から<中止>を選ぶか、操作パネルの を押します。なお、送信状況を確認してから中止することもできます。

■送信中の画面で<中止>を選ぶ

■ で中止する



を押すと、文書の一覧画面が表示される場合

すでに原稿の読み込みは終了し、順番待ちで待機している状態です。中止したい文書を選択して<中止> ▶ <はい>の順に選びます。

■送信状況を確認してから中止する

<状況確認> ▶ <送信ジョブ> ▶ <送信状況>タブで文書を選択 ▶ <中止> ▶ <はい>

関連項目

- スキャンの基本操作(P. 290)
- スキャンの状況や履歴を確認する(P. 307)

スキャンの状況や履歴を確認する

23LX-05R

読み込んだ原稿を本機から直接送信したときの送信状況や履歴を確認できます。

ご注意

- <ジョブ履歴の表示>が< OFF >に設定されていると、送信履歴は確認できません。 **<ジョブ履歴の表示> (P. 539)**

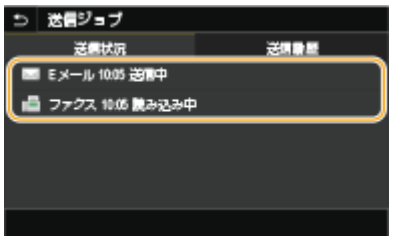
1 <状況確認>を選ぶ

2 <送信ジョブ>を選ぶ

3 送信状況または履歴を確認する

■送信状況を確認する

1 <送信状況>タブで、状況を確認したい文書を選ぶ



➠ 文書の詳細情報が表示されます。

- 文書の宛先が複数指定されている場合は宛先の件数が表示されます。複数指定の宛先を確認するときは<宛先>を選んでください。

■送信履歴を確認する

1 <送信履歴>タブで、履歴の内容を確認したい文書を選ぶ

- 正しく送信された文書には< OK >と表示されます。< NG >と表示されている場合は、送信を中止したか、エラーが発生したことを示しています。

➠ 文書の詳細情報が表示されます。

MEMO

＜ NG ＞のときに 3 桁の数字が表示されている場合

- 3 桁の数字はエラーコードを表しています。 **エラーコードごとの対処方法(P. 717)** を参照してください。

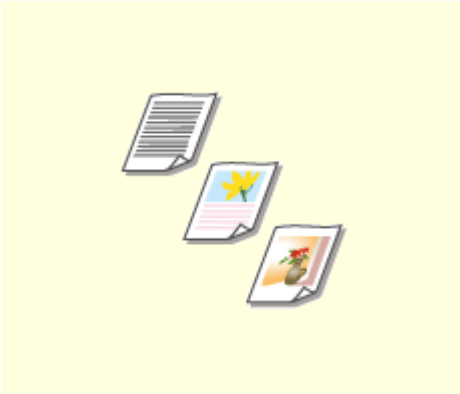
関連項目

スキャンの基本操作(P. 290)
送信を中止する(P. 306)
レポートやリストを印刷する(P. 662)

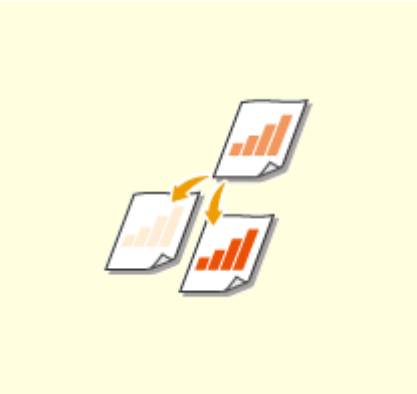
きれいにスキャンする

23LX-05S

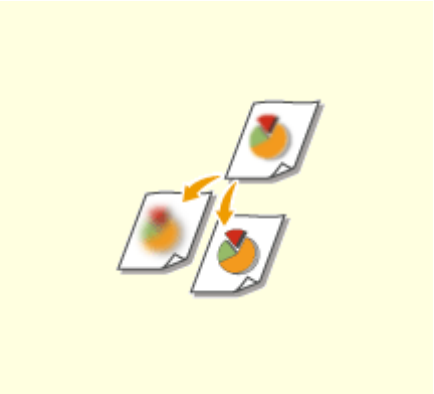
写真がたくさん掲載されているカタログ、鉛筆書きのレポートなどは、濃さや鮮やかさを調整してきれいな画質のファイルを作成することができます。



画質を調整する(P. 310)



濃度を調整する(P. 311)



鮮明にスキャンする（シャープネス）(P. 312)

サイズの異なる原稿をまとめてスキャンする（原稿サイズ混載）(P. 314)

画質を調整する

23LX-05U

文字だけしかない論文、図表が多用されている企画書、雑誌から切り抜かれた写真など、原稿の種類に合わせてスキャンの画質を選ぶことができます。

USB メモリーへの保存の場合

<スキャン> ▶ < USB メモリー> ▶ <原稿の種類> ▶ 原稿の種類を選択

E メール送信／I ファクス送信／サーバーなどへの保存の場合

<スキャン> ▶ < E メール>／< I ファクス>／<ファイル>で宛先を指定 ▶ <送信設定>タブで<原稿の種類>を選択 ▶ 原稿の種類を選択

関連項目

スキャンの基本操作(P. 290)
I ファクスを送信する(P. 254)

濃度を調整する

23LX-05W

原稿の文字や画像が薄い（濃い）場合に、濃度を調整できます。

USB メモリーへの保存の場合

<スキャン> ▶ < USB メモリー> ▶ <濃度> ▶ 濃度を調整 ▶ <確定>

E メール送信／I ファクス送信／サーバーなどへの保存の場合

<スキャン> ▶ < E メール>／< I ファクス>／<ファイル>で宛先を指定 ▶ <送信設定>タブで<濃度>を選択 ▶ 濃度を調整 ▶ <確定>

関連項目

- **スキャンの基本操作(P. 290)**
- **I ファクスを送信する(P. 254)**
- **鮮明にスキャンする（シャープネス）(P. 312)**

鮮明にスキャンする（シャープネス）

23LX-05X

原稿の画像のエッジ（周囲）をくっきりさせるように調整することができます。ぼやけた文字や線を鮮明にする場合はシャープネスを強くし、写真などの網点原稿をきれいにする場合は逆に弱くします。

USB メモリーへの保存の場合

<スキャン> ▶ < USB メモリー> ▶ <シャープネス> ▶ シャープネスを調整 ▶ <確定>

E メール送信／I ファクス送信／サーバーなどへの保存の場合

<スキャン> ▶ < E メール>／< I ファクス>／<ファイル>で宛先を指定 ▶ <送信設定>タブで<シャープネス>を選択 ▶ シャープネスを調整 ▶ <確定>

調整例：鉛筆で書かれた薄い文字をくっきりさせたいとき

調整例：雑誌の写真を見やすくしたいとき

関連項目

- スキャンの基本操作(P. 290)
- I ファクスを送信する(P. 254)
- 濃度を調整する(P. 311)

サイズの異なる原稿をまとめてスキャンする（原稿サイズ混載）

23LX-0J0

サイズの異なる原稿をフィーダーにセットして同時に読み込むことができます。原稿をセットしなおす手間を省くことができます。

ご注意

- 同時に読み込める原稿サイズの組み合わせには制限があります。適切ではない組み合わせで読み込むと、原稿の破損や紙づまりの原因になることがあります。 **おもな仕様(P. 754)**
- 紙の厚さや紙質が異なる原稿を同時に読み込まないようにしてください。原稿の破損や紙づまりの原因になることがあります。

MEMO

- 次の図のように、タテ方向の長さが同じ幅で、ヨコ方向の長さが異なるサイズの原稿を同時にコピー／読み込みすることができます。同じ幅の辺をそろえてフィーダーにセットしてください。

USB メモリーへの保存の場合

<スキャン> ▶ < USB メモリー> ▶ <原稿サイズ混載> ▶ < ON >

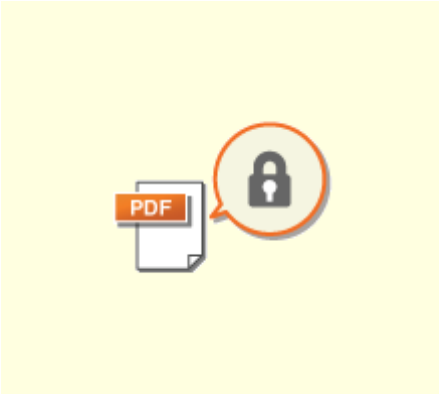
E メール送信／I ファクス送信／サーバーなどへの保存の場合

<スキャン> ▶ < E メール>／< I ファクス>／<ファイル>で宛先を指定 ▶ <送信設定>タブで<原稿サイズ混載>を選択 ▶ < ON >

スキャンの便利な機能

23LX-0FL

他人に改ざんされないようセキュアな PDF を作成したり、過去に指定した宛先に再び送信したりなど、便利な機能が搭載されています。



電子ファイルの安全性を高める(P. 316)

ファイルサイズと画質のバランスを調節する（データサイズ）(P. 319)

過去の設定を呼び出して送信／保存する（送信履歴）(P. 320)

E メールの設定をする(P. 323)

電子ファイルの安全性を高める

23LX-0FR

電子ファイルにはかんたんに閲覧できたり、痕跡を残さずに改ざんできたりというセキュリティー面での弱さがあります。重要な書類をスキャンするときは「暗号化する」、「機器署名を付ける」といった手段を使い安全性を高めることができます。

PDF ファイルを暗号化する(P. 316)
機器署名を付ける(P. 317)

MEMO

- 暗号化および機器署名を付けることができるのは、PDF ファイルのみです。
- 暗号化と機器署名の機能を併用することもできます。

PDF ファイルを暗号化する

原稿を読み込むときにパスワードを設定することで PDF ファイルを暗号化して、送信／保存することができます。パスワードが設定されているため、他の人に PDF ファイルを見られたり編集されたりするリスクを減らせます。

1 ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

2 スキャンの基本画面で、＜ USB メモリー＞、＜ E メール＞、または＜ファイル＞を選ぶ スキャンの基本画面について(P. 287)

- ＜ USB メモリー＞を選んだ場合は、手順 4 に進みます。

3 宛先を指定し、必要に応じて原稿の読み込み設定をする スキャンの基本操作(P. 290)

4 ＜ PDF 詳細設定＞に進む

■USB メモリーへの保存の場合

- ＜ファイル形式＞ ▶ ＜ PDF 詳細設定＞の順に選びます。

■E メール送信、または共有フォルダーや FTP サーバーへの保存の場合

- ＜送信設定＞タブで、＜ファイル形式＞ ▶ ＜ PDF 詳細設定＞の順に選びます。

5 PDF 形式を選ぶ

- PDF の形式ごとに設定を変更できます。

6 ＜暗号化＞を選ぶ

7 暗号化レベルを選ぶ

＜ Acrobat 7.0 以降 / 128 - bit AES ＞

Adobe Acrobat 7.0 以降で開くことができる 128 ビットで暗号化します。

＜ Acrobat 10.0 相当 / 256 - bit AES ＞

Adobe Acrobat 10.0 で開くことができる 256 ビットで暗号化します。

MEMO

- ＜ Acrobat 10.0 相当 / 256 - bit AES ＞は、互換バージョンが違う＜ Acrobat 9.0 相当 / 256 - bit AES ＞に切り替えることができます。 **＜暗号化 PDF 256-bit AES 設定＞(P. 484)**

8 暗号化パスワードを入力し、＜確定＞を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

9 パスワードを入力し、＜確定＞を選ぶ

機器署名を付ける

読み込んだ原稿を機器署名付きの PDF ファイルにします。機器署名とは、書類に捺印やサインしたりする行為と同じで、「どこで作成したファイルなのか」、「署名後に改ざんされたり偽造されたりしていないか」を確認することができます。PDF に機器署名を付けるには、あらかじめ機器署名用の鍵と証明書を生成しておく必要があります。 **機器署名用の鍵と証明書を生成する(P. 415)**

1 ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

2 スキャンの基本画面で、＜ USB メモリー＞、＜ E メール＞、または＜ファイル＞を選ぶ スキャンの基本画面について(P. 287)

- ＜ USB メモリー＞を選んだ場合は、手順 4 に進みます。

3 宛先を指定し、必要に応じて原稿の読み込み設定をする スキャンの基本操作(P. 290)

4 ＜PDF 詳細設定＞に進む

■USB メモリーへの保存の場合

- ＜ファイル形式＞ ▶ ＜PDF 詳細設定＞の順に選びます。

■E メール送信、または共有フォルダーや FTP サーバーへの保存の場合

- ＜送信設定＞タブで、＜ファイル形式＞ ▶ ＜PDF 詳細設定＞の順に選びます。

5 PDF 形式を選ぶ

- PDF の形式ごとに設定を変更できます。

6 ＜電子署名＞を選ぶ

7 ＜左上表示＞を選ぶ

ファイルサイズと画質のバランスを調節する（データサイズ）

23LX-060

読み込んだ原稿を JPEG 形式に変換するときの圧縮率を指定することができます。＜小：サイズ優先＞を選ぶと通常よりも圧縮率が高くデータサイズは小さくなる反面、画質が低くなります。一方、＜大：画質優先＞を選ぶと通常よりも圧縮率が低く高画質になる反面、データサイズが大きくなります。

USB メモリーへの保存の場合

＜スキャン＞ ▶ ＜ USB メモリー＞ ▶ ＜データサイズ＞ ▶ 設定を指定

E メール送信／サーバーなどへの保存の場合

＜スキャン＞ ▶ ＜ E メール＞／＜ファイル＞で宛先を指定 ▶ ＜送信設定＞タブで＜データサイズ＞を選択 ▶ 設定を指定

関連項目

スキャンの基本操作(P. 290)

過去の設定を呼び出して送信／保存する（送信履歴）

23LX-061

過去に指定した宛先をさかのぼって指定できます。そのときに使った濃度などのスキャン設定も同時に呼び出されます。

ご注意

- ＜履歴からの再送信を制限＞が＜ ON ＞に設定されていると、この機能を使うことはできません。 **履歴からの送信を制限する(P. 405)**
- 電源を切ったり＜新規宛先の制限＞を＜ ON ＞に設定したりすると過去に指定した宛先は消去されますので、この機能を使うことはできません。 **新規宛先の入力を制限する(P. 405)**

MEMO

- この機能を使って宛先を指定すると、指定済みの宛先はすべて消去されます。

1 **原稿をセットする** **原稿をセットする(P. 133)**

2 **ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 **認証送信のログイン(P. 132)**

3 **スキャンの基本画面で、＜ E メール＞、＜ I ファクス＞、または＜ファイル＞を選ぶ** **スキャンの基本画面について(P. 287)**

4 **＜宛先指定＞タブで、＜送信の履歴＞を選ぶ**

5 **宛先を選ぶ**

➠ 選んだ宛先とそのとき使ったスキャン設定が指定されます。設定内容を変更して送信することもできます。

■宛先から外す（E メール／I ファクス）

複数の宛先に送信した履歴の場合、送信をとりやめたい相手先を宛先から外すことができます。

1 ＜宛先確認＞を選ぶ

2 外したい宛先にチェックマークを付け、＜宛先から解除＞を選ぶ

MEMO

- グループにチェックマークを付けたときは、＜詳細情報＞ ▶ ＜宛先＞の順に選ぶと、グループ内に登録されている宛先を表示して確認できます。

3 ＜はい＞を選ぶ

6 ＜スタート＞を選ぶ

- ＜送信宛先の確認＞画面が表示されたときは、宛先が間違っていないかを確認してから＜スキャン開始＞を選んでください。

➠ 原稿の読み込みが開始されます。

- 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。 **送信を中止する(P. 306)**

■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

読み込みが完了すると、送信／保存が実行されます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

読み込みが完了したら、次の操作を行います（ファイル形式が JPEG の場合を除く）。

1 原稿が複数枚あるときは次の原稿をセットし、＜次の読込＞を選ぶ

- すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。
- 原稿が 1 枚のときは次の手順に進みます。

2 ＜送信開始＞を選ぶ

➠ 送信／保存が実行されます。

MEMO

＜ファイル認証＞画面または＜ SMTP 認証＞画面が表示されたときは

- ユーザー名とパスワードを入力し、＜確定＞を選びます。

関連項目

スキャンの基本操作(P. 290)
I ファクスを送信する(P. 254)

E メールの設定をする

23LX-062

読み込んだ原稿を E メールに添付して送信するときの、E メールの件名、本文、返信先、重要度を設定することができます。

1 原稿をセットする ▶原稿をセットする(P. 133)

2 ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ ▶ホーム画面(P. 120)

- ログイン画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード、および認証サーバーを設定します。 ▶認証送信のログイン(P. 132)

3 スキャンの基本画面で、＜ E メール＞を選ぶ ▶スキャンの基本画面について(P. 287)

4 宛先を指定し、必要に応じて読み込み設定をする ▶スキャンの基本操作(P. 290)

5 E メールの件名、本文、返信先、重要度を設定する

■件名／本文を設定する

1. ＜送信設定＞タブで、＜件名 / 本文＞を選ぶ
2. ＜件名＞を選ぶ
3. 件名を入力し、＜確定＞を選ぶ
   - 文字の入力方法については、 ▶文字を入力する(P. 129) を参照してください。
4. ＜本文＞を選ぶ
5. 本文を入力し、＜確定＞を選ぶ
6. ＜確定＞を選ぶ

■返信先を設定する

本機のメールアドレスと異なるアドレスをメールの返信先として相手に通知したい場合に設定します。返信先はアドレス帳に登録されている宛先の中から選んで指定します。アドレス帳に宛先を登録していない場合は、**宛先を登録する(P. 186)** を参照してください。

1 ＜送信設定＞タブで、＜返信先＞を選ぶ

2 ＜アドレス帳から指定＞を選ぶ

3 返信先にしたい宛先にチェックマークを付け、＜確定＞を選ぶ

■重要度を設定する

1 ＜送信設定＞タブで、＜重要度＞を選ぶ

2 重要度のレベルを選ぶ

6 ＜スタート＞を選ぶ

- ＜送信宛先の確認＞画面が表示されたときは、宛先が間違っていないかを確認してから＜スキャン開始＞を選んでください。

  ➡ 原稿の読み込みが開始されます。

  - 中止したいときは、＜中止＞ ▶ ＜はい＞の順に選びます。 **送信を中止する(P. 306)**

■手順 1 でフィーダーに原稿をセットした場合

読み込みが完了すると、E メールが送信されます。

■手順 1 で原稿台ガラスに原稿をセットした場合

読み込みが完了したら、次の操作を行います（ファイル形式を JPEG に設定した場合は除く）。

1 原稿が複数枚あるときは次の原稿をセットし、＜次の読込＞を選ぶ

   - すべての原稿の読み込みが完了するまで、この操作を繰り返します。
   - 原稿が 1 枚のときは次の手順に進みます。

2 ＜送信開始＞を選ぶ

   ➡ E メールが送信されます。

MEMO

＜ SMTP 認証＞画面が表示されたときは

- ユーザー名とパスワードを入力し、＜確定＞を選びます。

便利な機能

- いつも同じ設定でスキャンしたい **機能の初期値を変更する(P. 180)**

- 複数のスキャン設定を組み合わせて登録し、必要なときに呼び出して使用したい **よく使う設定を登録する(P. 178)**
- E メールの差出人名を指定したい **＜ユーザー略称の登録＞(P. 509)**

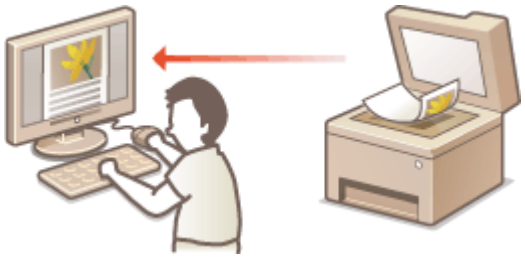
関連項目

スキャンの状況や履歴を確認する(P. 307)

パソコンを使ってスキャンする（リモートスキャン）

23LX-063

パソコンからの操作でスキャンする場合は、WG Scan Utility を使ったスキャンと、画像処理ソフトや文書作成ソフトなどのアプリケーションから操作するスキャンがあります。本機付属の ScanGear WG を使用すると、詳細な読み込み設定を行うことができます（**ScanGear WG を使う(P. 329)**）。



ご注意

- USB 接続で本機をお使いの場合は、スリープモードを解除してからスキャンしてください。**スリープモードにする(P. 184)**

WG Scan Utility でスキャンする

WG Scan Utility は、パソコンに文書や画像を取り込むための本機付属のアプリケーションです。読み込んだデータを指定したアプリケーションに転送して表示させたり、E メールソフトのメッセージに添付したりすることもできます。詳細については、WG Scan Utility の［操作説明］をクリックして、ヘルプを参照してください。

MEMO

- macOS をお使いの場合は、ドライバーやソフトウェアのマニュアルを参照してください（**ドライバー(P. 795)**）。

アプリケーションでスキャンする

画像処理ソフトや文書作成ソフトなどを操作して、直接アプリケーションに画像を取り込みます。スキャンのために別のアプリケーションを立ち上げる必要はありません。**アプリケーションから原稿を読み込む(P. 327)**

アプリケーションから原稿を読み込む

23LX-064

画像処理ソフトや文書作成ソフトなどのアプリケーションから操作して原稿を読み込みます。読み込んだ原稿は直接アプリケーションに取り込まれますので、すぐに編集／加工ができます。なお、以下の操作手順はアプリケーションにより異なる場合があります。

ご注意

- アプリケーションは TWAIN または WIA*に対応している必要があります。詳細は、お使いのアプリケーションの取扱説明書を参照してください。

*TWAIN はスキャナーなどの画像入力機器とパソコンを接続するための規格です。WIA は Windows に標準搭載されている機能です。

1 原稿をセットする 原稿をセットする(P. 133)

ご注意

- アプリケーションによっては、2 枚目以降の原稿が読み込めなかったり、原稿を読み終わったあとにエラーメッセージが表示されたりすることがあります。この場合は、原稿を 1 枚ずつセットしてスキャンしてください。
- ＜自動オンライン移行＞が＜ OFF ＞に設定されているときは、ホーム画面から＜スキャン＞ ▶ ＜リモートスキャナー＞の順に選び、本機をオンライン状態にしておく必要があります。 ＜自動オンライン移行＞(P. 483)

2 アプリケーションから、読み込みを開始するコマンドを選ぶ

- コマンドの選択方法はアプリケーションによって異なります。お使いのアプリケーションの取扱説明書を参照してください。

3 本機用のスキャナードライバーを選ぶ

- ScanGear WG または WIA を選びます。ScanGear WG を選ぶと、詳細な読み込み設定を行うことができます。

4 必要に応じて読み込みの設定をする

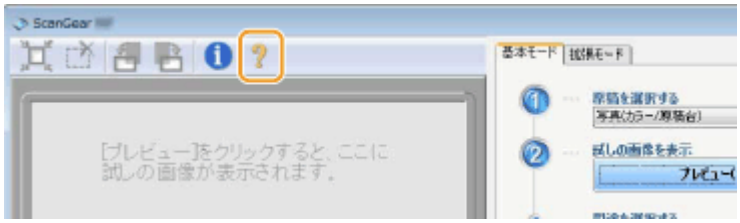
5 ［スキャン］をクリックする

➠ 原稿の読み込みが開始されます。

- 読み込みが完了すると、画像がアプリケーションに転送されます。

ScanGear WG の使いかた

- ScanGear WG 画面の ? をクリックして、ヘルプを参照してください。



関連項目

ScanGear WG を使う(P. 329)

ScanGear WG を使う

23LX-065

ScanGear WG は本機付属のスキャナードライバーです。ScanGear WG を使用することで、スキャンするときに詳細な読み込み設定を行うことができます。パソコンからスキャンするときの方法によって起動のしかたが異なります。

WG Scan Utility から起動する

WG Scan Utility からスキャンするときに［ScanGear］をクリックすると、ScanGear WG が起動します。詳細については、WG Scan Utility の［操作説明］をクリックして、ヘルプを参照してください。

MEMO

- macOS をお使いの場合は、ドライバーやソフトウェアのマニュアルを参照してください（**ドライバー (P. 795)**）。

アプリケーションから起動する

画像処理ソフトや文書作成ソフトなどのアプリケーションから操作してスキャンする場合は、スキャナードライバーを選ぶ際に ScanGear WG を選択してください。 **アプリケーションから原稿を読み込む(P. 327)**

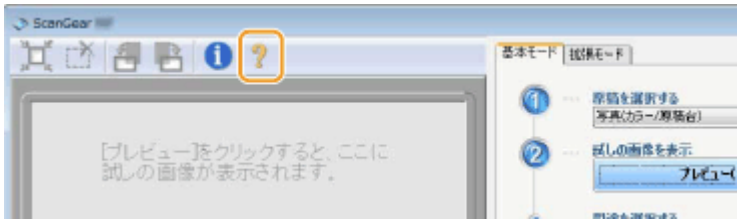
便利な機能

ScanGear WG でできること

- プレビュー（試し読み）で画像を確認してからスキャン
- 必要な部分だけを選んでスキャン
- 詳細な画質調整

ScanGear WG の使いかた

- ScanGear WG 画面の ? をクリックして、ヘルプを参照してください。



WSD を使う

23LX-0FS

「WSD（Web Services on Devices）」は、ネットワーク上にある機器を検索するための機能です。WSD を利用することで、パソコンからネットワーク上にある本機を自動的に認識し、本機にセットした原稿を読み込むことができます。これを「WSD スキャン」といいます。WSD スキャンをするには、あらかじめ準備が必要です。 **WSD スキャンの準備をする(P. 330)**

■WSD スキャンの準備をする

操作パネルの場合

1 **ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

2 **＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ TCP / IP 設定＞ ▶ ＜ WSD 設定＞を選ぶ**

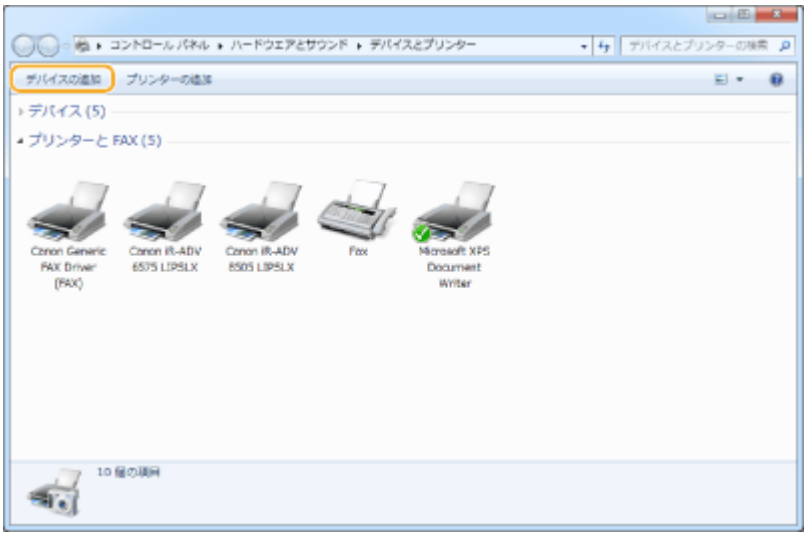
3 **＜ WSD スキャンを使用＞で＜ ON ＞を選んだあと、＜ PC スキャンを使用＞で＜ ON ＞の順に選ぶ**

4 **＜確定＞を選ぶ**

パソコンから

5 **［スタート］ ▶ ［デバイスとプリンター］をクリックする**

6 **［デバイスの追加］をクリックする**



7 本機を選び、［次へ］をクリックする

- 画面の指示に従って操作します。

MEMO

- 本機が表示されない場合は、ファイアウォールの設定に問題がある可能性があります。詳しくは、パソコンの取扱説明書を参照してください。

WSD を使って原稿を読み込む（WSD スキャン）

23LX-0FU

WSD を使って、パソコンから原稿を読み込む方法を説明します。

操作パネルから

1 **原稿をセットする** 原稿をセットする(P. 133)

2 **ホーム画面で、＜スキャン＞を選ぶ** ホーム画面(P. 120)

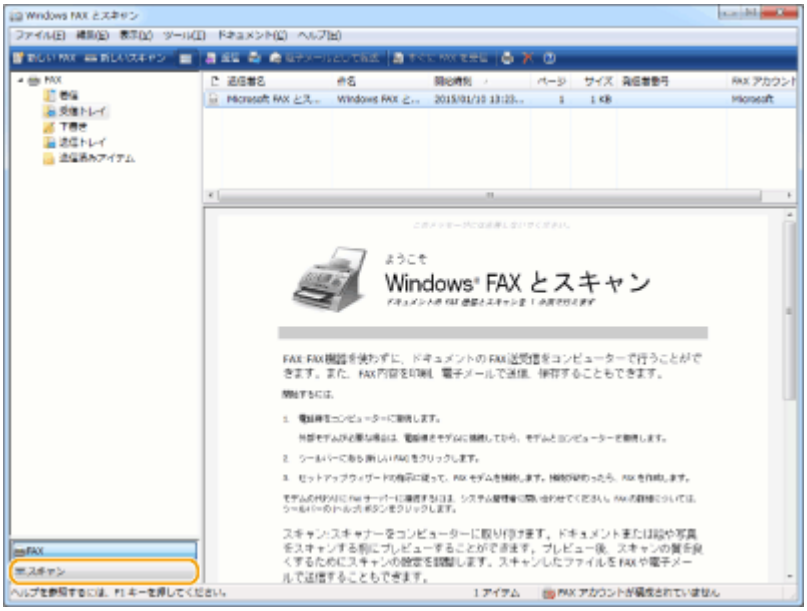
3 **＜リモートスキャナー＞を選ぶ**

➠ パソコンから原稿を読み込めるようになります。

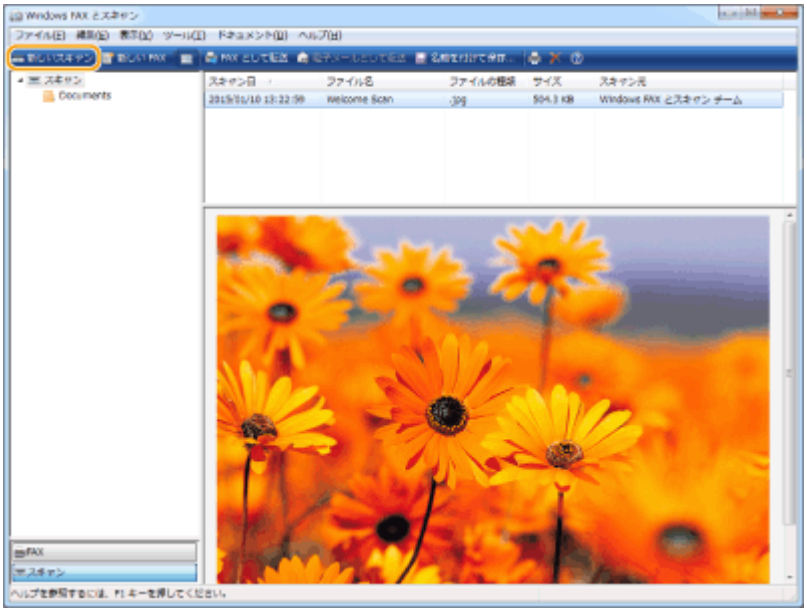
パソコンから

4 **［スタート］ ▸ ［すべてのプログラム］ ▸ ［Windows FAX とスキャン］をクリックする**

5 **［スキャン］をクリックする**



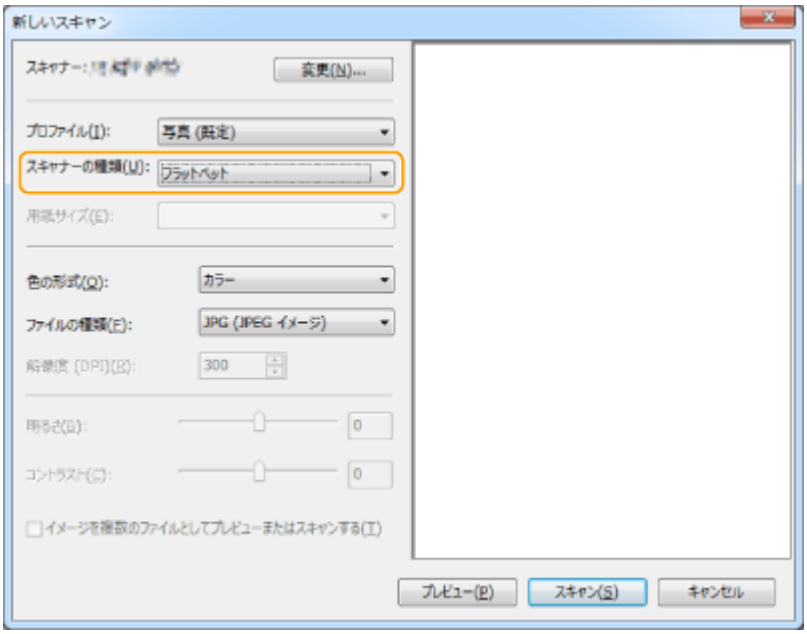
6 **［新しいスキャン］をクリックする**



- ［デバイスの選択］ダイアログボックスが表示された場合は、本機を選び［OK］をクリックします。

7 ［スキャナーの種類］ドロップダウンリストから、原稿をセットした場所を選ぶ

- 原稿を原稿台ガラスにセットしたときは［フラットベット］を、フィーダーにセットしたときは［フィーダー（片面スキャン）］を選びます。



8 必要に応じて読み込み設定をする

- ［プロファイル］ドロップダウンリストから原稿の種類を選ぶと、最適な画質に調整することができます。文字中心の原稿の場合は［ドキュメント］を選び、原稿中に写真しかない場合は［写真（既定）］を選びます。
- 読み込んだ原稿を保存するときのファイル形式は、［ファイルの種類］ドロップダウンリストから選びます。
- 設定が反映された状態の画像を確認するときは、［プレビュー］をクリックします。

9 ［スキャン］をクリックする

➠ 原稿の読み込みが始まります。

- 原稿の読み込みが終わると、読み込んだ原稿は［Windows FAX とスキャン］画面のファイルの一覧に表示され、［マイドキュメント］の［Scanned Documents］フォルダーに保存されます。

MEMO

よく使う読み込み設定を登録しておく

- いつも同じ設定で読み込む場合は、次の手順で設定内容を登録しておくと、スキャン時にかんたんに呼び出せて便利です。
  ［プロファイル］ドロップダウンリストから［プロファイルの追加］を選ぶ ▶ 登録したい読み込み設定をする ▶ ［プロファイル名］テキストボックスに名前を入力する ▶ ［プロファイルの保存］をクリックする

WSD スキャンした原稿をパソコンに送信する

- 読み込んだ原稿をネットワーク上にある WSD 対応パソコンに送信することもできます。この場合は、＜ PC ＞ ▶ 送信先のパソコンを選びます。送信先のパソコンでは、［Windows FAX とスキャン］画面やフォルダーが開き、読み込んだ原稿が表示されます。

モバイル機器と連携する

モバイル機器と連携する 336

モバイル機器と接続する 337

無線 LAN ルーターを介して接続する（LAN 接続） 338

ダイレクト接続する（アクセスポイントモード） 340

アプリを使って本機を活用する 343

デフォルト印刷サービスで印刷する（Android） 344

本機を遠隔管理する 345

モバイル機器と連携する

23LX-0FW

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器と本機を連携させることで、アプリを使って印刷などが手軽に行えます。また、モバイル機器から本機を遠隔操作し、印刷状況を確認したり、本機の設定を変更したりすることもできます。

モバイル機器と接続する(P. 337)
ダイレクト接続する（アクセスポイントモード）(P. 340)
アプリを使って本機を活用する(P. 343)
デフォルト印刷サービスで印刷する（Android）(P. 344)
本機を遠隔管理する(P. 345)

ご注意

- ご使用のモバイル機器によっては、正しく動作しないことがあります。

モバイル機器と接続する

23LX-067

モバイル機器と本機を接続する方法には、無線 LAN ルーターを介した方法と、本機とダイレクトに無線で通信する方法があります。通信環境やお使いの機器に合わせて接続方法を選んでください。モバイル機器と通信するには、＜モバイルポータル＞から行います（**ホーム画面(P. 120)**）。

■無線 LAN ルーターを介して接続する

パソコンと本機を接続するのと同じように、無線 LAN ルーターを介して、モバイル機器と本機を接続します。**無線 LAN ルーターを介して接続する（LAN 接続）(P. 338)**

■ダイレクト接続する

無線 LAN ルーターを介さずに、モバイル機器と本機を無線で直接接続します。無線 LAN 環境がなくても、すぐに本機と無線で接続することができます。**ダイレクト接続する（アクセスポイントモード）(P. 340)**

無線 LAN ルーターを介して接続する（LAN 接続）

23LX-068

本機が接続しているネットワークに無線 LAN ルーターがつながっていれば、パソコンと同様にモバイル機器と無線 LAN ルーターを介した通信が可能です。お使いの無線 LAN ルーターとモバイル機器の接続方法については、機器付属の取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。本機は、有線 LAN または無線 LAN でルーターに接続してください。 **ネットワーク環境を設定する(P. 15)**

MEMO

- ここでの手順を行うときは、IPv4 アドレスを使用してください。 **IPv4 アドレスを設定する(P. 33)**
- 以下の手順で、＜モバイルポータル＞を選んだときに＜ダイレクト接続＞画面が表示された場合は、＜ LAN 接続＞を選んでから操作を続けてください。
- Canon PRINT Business の対応 OS や詳しい設定方法、操作手順に関してはアプリのヘルプや、キヤノンホームページ（global.canon/gomp/）をご覧ください。

1. 手動で接続する

1 **ホーム画面で、＜モバイルポータル＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

2 **画面に表示された IP アドレスにモバイル機器から接続する**

2. QR コードで接続する

1 **ホーム画面で、＜モバイルポータル＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

2 **＜ QR コード＞を選ぶ**

3 **モバイル機器で Canon PRINT Business を起動する** **アプリを使って本機を活用する(P. 343)**

4 **画面に表示された QR コードをモバイル機器で読み取る**

QRコード

ダイレクト接続する（アクセスポイントモード）

23LX-069

無線 LAN ルーターのない環境でも、モバイル機器から無線で本機に直接接続できる「アクセスポイントモード」を使うことで、お手元のモバイル機器と本機を難しい設定なしに接続することができます。

ダイレクト接続（アクセスポイントモード）を準備する(P. 340)
ダイレクト接続する(P. 341)

ダイレクト接続（アクセスポイントモード）を準備する

次の順序でアクセスポイントモードを使った接続作業を行います。

1

本機のネットワーク設定を確認する

- IP アドレスを IPv4 で設定してください。 **IPv4 アドレスを設定する(P. 33)**

2

モバイル機器の準備をする

- モバイル機器を Wi-Fi に接続できるように設定してください。

3

本機の接続準備をする

- ＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ダイレクト接続設定＞ ▶ ＜ダイレクト接続を使用＞を＜ ON ＞に設定してください。

MEMO

自動切断の時間を設定する

- ダイレクト接続時に自動的に切断する時間を設定できます。 **＜ダイレクト接続の自動切断＞(P. 452)**

モバイル機器を複数台同時に接続したいときは

- 本機の SSID とネットワークキーを任意に設定してください。 **＜アクセスポイントモード設定＞(P. 452)**

Canon PRINT Business について

- Canon PRINT Business の対応 OS や詳しい設定方法、操作手順に関してはアプリのヘルプや、キヤノンホームページ（global.canon/gomp/）をご覧ください。

ダイレクト接続する

ご注意

- 本体とモバイル機器の接続完了までに時間がかかる場合があります。

■手動で接続する

1 ホーム画面で、＜モバイルポータル＞を選ぶ ▶ホーム画面(P. 120)

- すでに接続中のモバイル機器がある場合は、手順 3 に進みます。

2 ＜開始＞を選ぶ

3 画面に表示された SSID とネットワークキーの情報を使用してモバイル機器から Wi-Fi 設定を行う

4 目的の操作を終えたら、＜停止＞を選ぶ

■QR コードで接続する

1 ホーム画面で、＜モバイルポータル＞を選ぶ ▶ホーム画面(P. 120)

- すでに接続中のモバイル機器がある場合は、手順 3 に進みます。

2 ＜開始＞を選ぶ

3 ＜ QR コード＞を選ぶ

4 モバイル機器で Canon PRINT Business を起動する ▶アプリを使って本機を活用する(P. 343)

5 画面に表示された QR コードをモバイル機器で読み取る

6 目的の操作を終えたら、<停止>を選ぶ

便利な機能

- 接続されているモバイル機器を確認するには<ダイレクト接続>画面の<接続情報>を選んでください。

ご注意

- ダイレクト接続中、お使いのモバイル機器によってはインターネットに接続できないことがあります。
- SSID とネットワークキーを表示中に、モバイル機器から 5 分以内に無線接続を行わなかった場合、接続待機状態が終了します。
- ダイレクト接続で通信中、本機とモバイル機器とでデータの送受信がない状態が続くと、通信が終了する場合があります。
- ダイレクト接続中はスリープモードの節電効果が下がります。
- 本機が無線 LAN を使用している場合、ダイレクト接続時も無線 LAN ネットワークへの接続を維持している必要があります。本機が無線 LAN ネットワークに接続していないときや、接続処理中はダイレクト接続を開始できません。また、ダイレクト接続で通信中、本機の無線 LAN が切断されると、通信が終了する場合があります。
- 目的の操作が完了したら、必ず本機とモバイル機器の接続を終了してください。接続したままの状態にしておくと、スリープモードの節電効果が下がります。
- ダイレクト接続を利用する場合、モバイル機器側で IP アドレスを手動で設定しないでください。設定を行うと、ダイレクト接続利用後に通信が正しく行えなくなることがあります。

アプリを使って本機を活用する

23LX-06A

本機と接続したモバイル機器からアプリを使って印刷などを行います。キヤノンの専用アプリをはじめ、さまざまなアプリに対応しています。お使いの機器や用途、利用シーンなどに応じて使い分けてください。

■Canon PRINT Business を使う

iOS/Android 対応モバイル機器から印刷などをするアプリです。印刷するときは、本機での操作は不要です。対応 OS や詳しい設定方法、操作手順に関してはアプリのヘルプや、キヤノンホームページ（global.canon/gomp/）をご覧ください。

ご注意

- Canon PRINT Business は無料でダウンロードできますが、インターネットへの接続料金はお客様のご負担となります。

■Canon Print Service で印刷する

Android の印刷サブシステムをサポートしているアプリのメニューから簡単に印刷できます。対応 OS や詳しい設定方法、操作手順に関しては、キヤノンホームページ（global.canon）をご覧ください。

■Mopria®で印刷する

本機は Mopria®にも対応しています。Mopria®を使用すれば、メーカーや機種が異なっていても共通の操作や設定で Android 対応モバイル機器から印刷することができます。たとえば、複数のメーカーの Mopria®対応プリンターをお使いの場合や、外出先に Mopria®対応プリンターがあった場合などに、メーカーや機種ごとの専用アプリをインストールすることなく印刷できます。対応機種や動作環境の詳細は、http://www.mopria.org をご覧ください。

Mopria®の設定を確認する

リモート UI に管理者モードでログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［設定/登録］▶［ネットワーク設定］▶［Mopria 設定］▶［編集］▶［Mopria を使用する］にチェックマークが付いていることを確認▶［OK］

デフォルト印刷サービスで印刷する（Android）

23LX-0LC

お使いの Android 端末がデフォルト印刷サービスに対応している場合は、Android 端末からデフォルト印刷サービスで印刷できます。

デフォルト印刷サービスを使用して本機で印刷するためには、Mopria®の設定を有効にする必要があります。

Mopria®の設定を確認する

リモート UI に管理者モードでログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［設定/登録］▶［ネットワーク設定］▶［Mopria 設定］▶［編集］▶［Mopria を使用する］にチェックマークが付いていることを確認▶［OK］

MEMO

- お使いの Android 端末のデフォルト印刷サービスで、キヤノン製複合機／プリンターを使用するには、お使いの Android 端末で以下の設定をする必要があります。
  - デフォルト印刷サービスを有効にする
  - Mopria®を無効、またはインストールしていない状態にする
  - Canon Print Service を無効、またはインストールしていない状態にする

本機を遠隔管理する

23LX-06L

スマートフォンやタブレットのウェブブラウザーからリモート UI を使うことができます。本体状況の確認や、各種設定をモバイル機器から行うことができます。

対応ブラウザー

モバイル機器向けリモート UI の対応ブラウザーは、以下のとおりです。

Android OS の場合

- Chrome

iOS の場合

- Safari

モバイル機器からリモート UI を起動する

ウェブブラウザーに本機の IP アドレスを入力し、リモート UI を起動します。操作の前に、あらかじめ本機に設定されている IP アドレスを確認しておいてください（**ネットワークの設定を確認する(P. 39)**）。わからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 モバイル機器のウェブブラウザーを起動する

2 アドレス入力欄に「http://＜本機の IP アドレス＞/」と入力する

- IPv6 アドレスを使用している場合は、IP アドレスを [ ] で囲んで入力してください。
  入力例：http://[fe80::2e9e:fcff:fe4e:dbce]/

MEMO

- 「スマートフォン版」のリモート UI では、表示項目の一部を省略しています。すべての項目を確認したいときは、「PC 版」をご覧ください。

関連項目

パソコンから本機を管理する（リモート UI）(P. 416)

本機を管理する

本機を管理する 348

アクセス権限を設定する 350

システム管理部門 ID と暗証番号を設定する 351

部門別 ID 管理を行う 353

リモート UI の暗証番号を設定する 359

LDAP サーバーで認証を行う 361

ネットワークセキュリティーを設定する 365

ファイアウォールで通信制限する 367

IP アドレスでファイアウォールを設定する 368

MAC アドレスでファイアウォールを設定する 371

ポート番号を変更する 374

プロキシーを設定する 376

TLS 用の鍵と証明書を設定する 378

ネットワーク通信用の鍵と証明書を生成する 381

鍵と証明書署名要求（CSR）を生成する 384

ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する 387

IPSec の設定をする 389

IEEE 802.1X 認証の設定をする 396

機能を制限する 400

宛先操作／送信機能を制限する 402

アドレス帳の使用を制限する 403

指定できる宛先を制限する 405

ファクスの宛先操作／送信機能を制限する 407

パソコンからの印刷を制限する 409

USB の使用を制限する 410

HTTP 通信を無効にする 412

リモート UI を無効にする 413

文書のセキュリティーを高める 414

機器署名用の鍵と証明書を生成する 415

パソコンから本機を管理する（リモート UI） 416

リモート UI を起動する 417

状況や履歴を確認する 420

本機の設定を変更する 425

リモート UI から宛先を登録する 428

設定データをインポート／エクスポートする 432

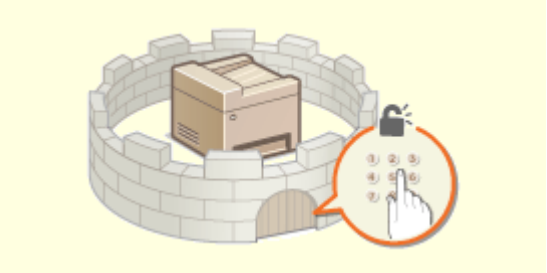
ファームウェアをアップデートする 435
設定を初期化する 437

本機を管理する

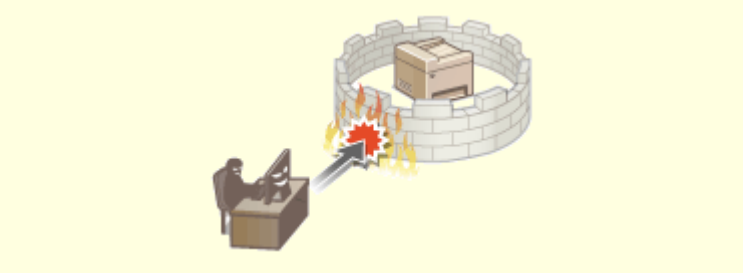
23LX-06R

個人情報の漏えいや外部からの不正使用など、本機を取り巻くさまざまなリスクを軽減するために、効果的・継続的な対策が必要になります。本機を安全にご利用いただくために、アクセス権限やセキュリティーなど、本機の重要な設定は管理者が統括して行ってください。

■基本的な管理体制を構築する



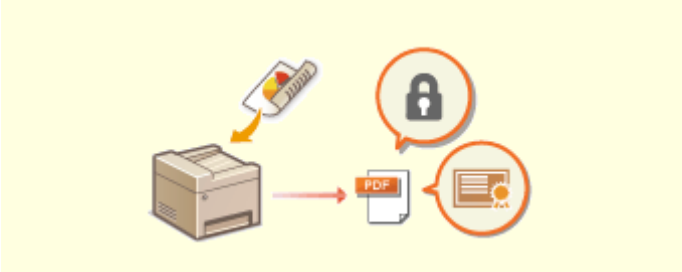
アクセス権限を設定する(P. 350)



ネットワークセキュリティーを設定する(P. 365)

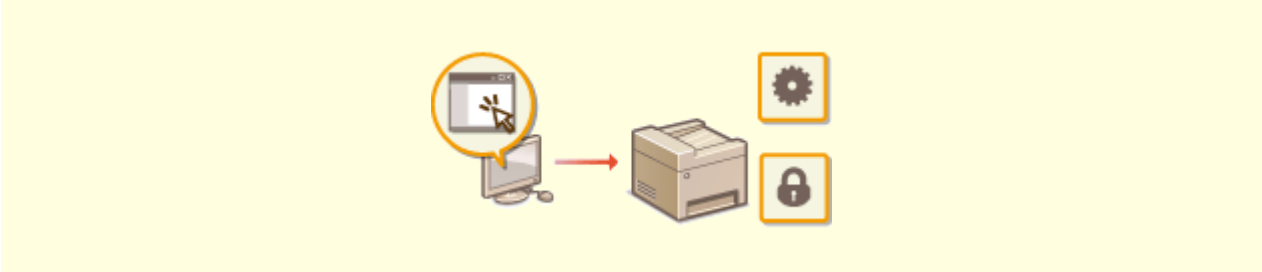
■不注意／誤操作／悪用などのリスクに対処する

機能を制限する(P. 400)



文書のセキュリティーを高める(P. 414)

■効率よく管理する



パソコンから本機を管理する（リモート UI）(P. 416)

■システム構成や設定を管理する

ファームウェアをアップデートする(P. 435)

設定を初期化する(P. 437)

アクセス権限を設定する

23LX-06S

アクセス権を持つユーザーだけが本機を利用できるようにして、第三者の不正使用を防ぎます。アクセス権は、システム管理者と一般ユーザー、リモート UI それぞれに設定します。アクセス権が設定されていると、印刷や設定変更をするときに、ID やパスワードの入力が必要になります。

システム管理者には「システム管理部門 ID」というフルアクセス権限を持つアカウントを設定します。「部門 ID」と呼ばれるアカウントを登録すると、一般ユーザーを管理することができます。部門 ID は本機を使うための暗証番号を設定できるほか、印刷したページ数を部門 ID ごとに把握することもできます。また、「リモート UI アクセス暗証番号」を設定することで、リモート UI の使用も制限することができます。

システム管理部門 ID

フルアクセス権限を持つアカウントです。システム管理部門 ID を設定すると、<ネットワーク>や<管理設定>など管理者権限が必要な設定項目にアクセスするにはシステム管理部門 ID によるログイン操作が必要になります。システム管理部門 ID を設定しないと、誰でも本機の設定を変更できるので、登録しておくことをおすすめします。システム管理部門 ID は 1 つしか登録できません。 **システム管理部門 ID と暗証番号を設定する(P. 351)**

一般ユーザーの部門 ID（部門別 ID 管理）

一般ユーザー用の部門 ID は複数設定することができ、ユーザー（またはグループ）ごとに使い分けることが可能です。部門 ID が有効なときに本機を操作しようとするとログイン画面が表示されますので、自分の部門 ID を使ってログイン操作します。印刷などの使用状況についても部門 ID 別に集計できますので管理の一助となります。 **部門別 ID 管理を行う(P. 353)**

リモート UI の暗証番号（ リモート UI アクセス暗証番号）

リモート UI を使うための暗証番号です。暗証番号を知っているユーザーだけがリモート UI にアクセスできるようになります。 **リモート UI の暗証番号を設定する(P. 359)**

送信機能の認証設定（認証送信）

LDAP サーバーが導入されている環境の場合、ファクスやスキャン機能で送信するときに LDAP サーバーで認証を行うように設定できます。 **LDAP サーバーで認証を行う(P. 361)**

システム管理部門 ID と暗証番号を設定する

23LX-06U

管理者専用のアカウントである「システム管理部門 ID」を設定します。システム管理部門 ID と暗証番号はどちらも「7654321」に設定されています。システム管理部門 ID を設定すると、ID と暗証番号を正しく入力したときだけ＜ネットワーク＞や＜管理設定＞など管理者権限が必要な項目を操作できるようになります。システム管理部門 ID の設定情報は本機のセキュリティー上、特に重要です。管理者だけがシステム管理部門 ID と暗証番号を知っているような体制にしてください。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜管理設定＞を選ぶ

MEMO

すでにシステム管理部門 ID を設定済みの場合

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 ログインする(P. 131)

3 ＜ユーザー管理＞ ▶ ＜システム管理者情報の設定＞の順に進む

4 ＜システム管理部門 ID と暗証番号＞を選ぶ

5 システム管理部門 ID と暗証番号を設定する

- ＜システム管理部門 ID ＞ ▶ ＜システム管理暗証番号＞の順に設定します。
- それぞれ数字を入力し、＜確定＞を選びます。
- 確認入力画面が表示されますので、再度暗証番号を入力してください。

MEMO

- 「00」や「0000000」など、0 だけの ID や暗証番号は登録できません。
- システム管理部門 ID や暗証番号の設定を解除したいときは、C で入力内容を消去し、空欄の状態で＜確定＞を選びます。

■システム管理者名を設定する

1 ＜システム管理者名＞を選ぶ

2 システム管理者名を入力し、＜確定＞を選ぶ

- 文字の入力方法については、 **文字を入力する(P. 129)** を参照してください。

ご注意

- 設定した暗証番号は忘れないようにしてください。暗証番号を忘れた場合は、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。

MEMO

リモート UI で設定するとき

- リモート UI に管理者モードでログインし、［設定/登録］▶［ユーザー管理］▶［システム管理者情報］▶［編集］の順にクリックして表示される画面で設定します。
- リモート UI から設定すると、操作パネルでの設定項目に加えてシステム管理者の連絡先やコメント、本機の設置場所などのさまざまな情報を入力できます。入力した情報は、リモート UI の［デバイス情報］ページで確認できます。 **管理者情報を確認する(P. 422)**

ログインするとき

- システム管理部門 ID が設定されているときに＜ネットワーク＞や＜管理設定＞など管理者権限が必要な項目を操作しようとすると、ログイン画面が表示されます。 **ログインする(P. 131)**
- リモート UI の管理者モードでログインするときにもシステム管理部門 ID と暗証番号の入力が必要になります。 **リモート UI を起動する(P. 417)**

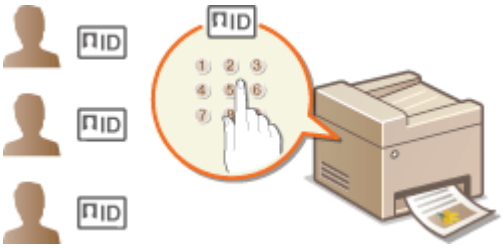
関連項目

アクセス権限を設定する(P. 350)
部門別 ID 管理を行う(P. 353)

部門別 ID 管理を行う

23LX-06W

ユーザー（またはグループ）ごとに複数の部門 ID を使い分けて本機の使用状態を管理することができます。部門別 ID 管理中に本機を操作しようとするとログイン画面が表示されますので、各ユーザーは自分の部門 ID を使ってログイン操作を行う必要があります。部門別 ID 管理を行うと、印刷などの使用状況が部門 ID 別に記録されます。部門別 ID 管理をするには、まず管理対象とする部門 ID をすべて登録し、そのあとに部門別 ID 管理を有効にします。パソコンからのジョブに対しても部門別 ID 管理を行いたいときは、このほかにパソコン側での設定も必要です。



部門 ID と暗証番号を登録／編集する(P. 353)
部門別 ID 管理を有効にする(P. 355)
パソコンからのジョブに対して部門別 ID 管理をする(P. 356)
部門 ID が不明な操作を遮断する(P. 357)

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

部門 ID と暗証番号を登録／編集する

部門 ID を登録し、暗証番号を設定します。管理の対象とする部門 ID をすべて登録してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 ［ユーザー管理］▸［部門別 ID 管理］の順に進む

4 部門 ID を登録／編集する

■部門 ID を登録する

1 ［新規部門の登録］をクリックする

2 必要な情報を入力する

[部門 ID]
登録する部門 ID を半角数字で入力します。

[暗証番号を設定する]
暗証番号を設定するときはチェックマークを付け、[暗証番号] と [確認入力] の両方に同じ半角数字を入力します。暗証番号を設定しないときは空欄のままにしてください。

[ファンクション制限]
登録する部門に対して、印刷ページ数や使用できる機能を制限できます。印刷ページ数を制限するには、対象の種類にチェックマークを付け、[面数] に制限するページ数を入力します。機能を制限するには、対象機能にチェックマークを付けます。

MEMO

- [スキャンを制限する] にチェックマークを付けると、USB メモリーへの保存、E メール送信、共有フォルダーや FTP サーバーへの保存が制限されます。パソコンへの文書の取り込みも別の方法で制限できますが、この場合は部門 ID ごとの制限はできません（**部門 ID が不明な操作を遮断する(P. 357)**）。

3 [OK] をクリックする

■登録した部門 ID の設定を編集する

1 編集する部門 ID のリンクをクリックする

2 必要に応じて設定を変更し、[OK] をクリックする

MEMO

部門 ID を削除するには

- 削除したい部門 ID の右側にある [削除] ▶ [OK] をクリックします。

MEMO

［部門 ID のカウント面数］について

- 今までに実行したジョブの総ページ数を部門 ID ごとに確認できます。
- カウントをゼロに戻したい場合は、［カウントクリア］▶［OK］の順にクリックします。全部門 ID のカウントを一斉にゼロに戻す場合は、［カウントオールクリア］▶［OK］の順にクリックします。

部門別 ID 管理を有効にする

必要な部門 ID を登録したら、部門別 ID 管理を有効にします。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［ユーザー管理］▶［部門別 ID 管理］の順に進む**

4 **［編集］をクリックする**

5 **［部門別 ID 管理をする］にチェックマークを付ける**

［部門別 ID 管理をする］
チェックマークを付けると部門別 ID 管理が有効になります。部門別 ID 管理をしないときはチェックマークを外してください。

MEMO

- ［ID 不定プリントジョブを許可する］／［ID 不定スキャンジョブを許可する］／［白黒コピージョブを許可する］については、**部門 ID が不明な操作を遮断する(P. 357)** を参照してください。

6 ［OK］をクリックする

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から部門別 ID 管理を有効／無効に切り替えることもできます。**＜部門別 ID 管理＞(P. 538)**

正しく設定できたとき

- 部門別 ID 管理中に本機を操作しようとすると、ログイン画面が表示されます。**ログインする(P. 131)**

パソコンからのジョブに対して部門別 ID 管理をする

パソコンからのジョブに対して部門別 ID 管理を行うには、あらかじめ各パソコンにインストールしたドライバーで部門 ID や暗証番号を設定する必要があります。

ご注意

- ここでの操作をするには、管理者のアカウントでパソコンにログオンしている必要があります。

1 プリンターフォルダーを開く **プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)**

2 本機のドライバーのアイコンを右クリックし、［プリンターのプロパティ］または［プロパティ］をクリックする

3 ［デバイスの設定］タブをクリックする

4 部門別 ID 管理機能を有効にする

■プリンタードライバー

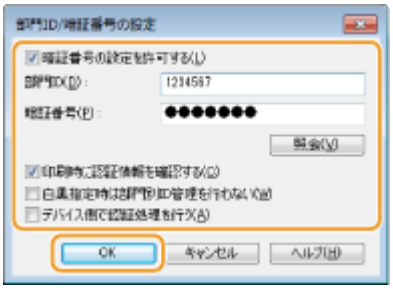
［ユーザー情報を設定する］にチェックマークを付け、［ユーザー管理機能］で［部門別 ID 管理］を選びます。

■ファクスドライバー

［ユーザー管理機能］で［部門別 ID 管理］を選びます。

5 右側にある［設定］をクリックする

6 必要な情報を入力し、[OK] をクリックする



[暗証番号の設定を許可する]
暗証番号を設定するときにチェックマークを付けます。

[部門 ID]
部門 ID を半角数字で入力します。

[暗証番号]
必要に応じて部門 ID に対応する暗証番号を半角数字で入力します。

[照会]
クリックすると、正しい ID と暗証番号が入力されているか確認できます。ただし、本機とパソコンを USB または WSD（Web Services on Devices）ポートで接続しているときは使用できません。

[印刷時に認証情報を確認する] ／ [ファクス送信時に認証情報を確認する]
チェックマークを付けると、パソコンからジョブを送信する際、毎回ポップアップ画面が表示されます。

[白黒指定時は部門別 ID 管理を行わない]
チェックマークを付けると、白黒印刷のデータは ID 不定ジョブとして送信されます。

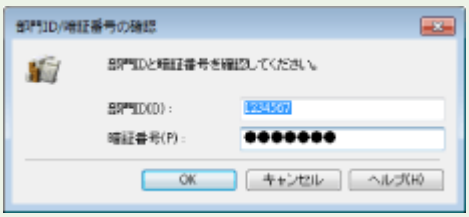
[デバイス側で認証処理を行う]
本機とパソコンを USB または WSD ポートで接続しているときにチェックマークを付けます。

7 [OK] をクリックする

MEMO

正しく設定できたとき

- 部門別 ID 管理中にパソコンからジョブを送信しようとすると、次のようなポップアップ画面が表示されます（[印刷時に認証情報を確認する] ／ [ファクス送信時に認証情報を確認する] にチェックマークが付いていないときは表示されません）。



部門 ID が不明な操作を遮断する

「パソコンからの印刷」、「パソコンからの PC ファクスの送信」、「パソコンへの文書の取り込み（スキャン）」、「白黒コピー」の機能は、部門別 ID 管理中でも ID や暗証番号を入力せずに操作できるよう、お買い上げ時に設定されています。ID や暗証番

号を入力しなければ使用できないようにしたい場合や、パソコンへの文書の取り込みは禁止したい場合は次の操作をしてください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする ▶リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする ▶リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［ユーザー管理］▶［部門別 ID 管理］の順に進む

4 ［編集］をクリックする

5 操作を遮断したい項目のチェックマークを外す

［ID 不定プリントジョブを許可する］
部門別 ID 管理の実施中にパソコンからジョブを送信する際には、正しい部門 ID や暗証番号を入力して送信する必要があります（▶**パソコンからのジョブに対して部門別 ID 管理をする(P. 356)**）。ただし、この項目にチェックマークが付いていると、部門 ID や暗証番号が入力されていなくてもジョブを実行します。正しい部門 ID や暗証番号が入力されていなければジョブを実行しないようにするときは、チェックマークを外します。

［ID 不定スキャンジョブを許可する］
チェックマークを付けておくと、いつでもパソコンに文書を取り込むことができます。チェックマークを外すと、部門別 ID 管理中はパソコンに文書を取り込むことができなくなります。パソコンへの文書の取り込みは部門 ID ごとの制限はできません。

［白黒コピージョブを許可する］
チェックマークを付けておくと、部門別 ID 管理中でも ID や暗証番号なしで白黒コピーだけはできます。ID と暗証番号の入力を必須にするときは、チェックマークを外します。

6 ［OK］をクリックする

関連項目

▶**アクセス権限を設定する(P. 350)**
▶**システム管理部門 ID と暗証番号を設定する(P. 351)**

リモート UI の暗証番号を設定する

23LX-06X

リモート UI にアクセスするための暗証番号を設定できます。すべてのユーザーが共通の暗証番号を使用します。

MEMO

- 部門別 ID 管理を実施しているときは、ここでの設定は必要ありません。 **部門別 ID 管理を行う(P. 353)**
- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、 **本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［ライセンス/その他］▶［リモート UI 設定］の順に進む

4 ［編集］をクリックする

5 ［リモート UI アクセス暗証番号を使用する］にチェックマークを付け、暗証番号を設定する

［リモート UI アクセス暗証番号を使用する］
チェックマークを付けると、リモート UI にアクセスするときに暗証番号の入力が必要になります。

［暗証番号を設定/変更する］
暗証番号を設定または変更するときはチェックマークを付け、［暗証番号］と［確認入力］の両方に同じ暗証番号を半角数字で入力します。

6 ［OK］をクリックする

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞からリモート UI アクセス暗証番号の設定を行うこともできます。 **＜リモート UI 設定＞(P. 541)**

＜管理設定＞を初期化したとき

- リモート UI アクセス暗証番号も初期化されます。初期化したあとは、暗証番号を設定しなおしてください。 **＜メニューの初期化＞(P. 544)**

関連項目

アクセス権限を設定する(P. 350)
システム管理部門 ID と暗証番号を設定する(P. 351)

LDAP サーバーで認証を行う

23LX-06Y

LDAP サーバーが導入されている環境の場合、送信機能を使うときに LDAP サーバーで認証を行うようにして、第三者の不正使用や情報漏えいを防ぐことができます。認証設定が有効になっていると、ファクスやスキャン機能を使うときに認証送信のログイン画面が表示され、LDAP サーバーとの認証が正しく行われないと操作を続行できません。ここでは、LDAP サーバーで認証を行うかどうかを設定します。認証に使用するサーバーの登録については、**LDAP サーバーを登録する(P. 65)** を参照してください。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［送信設定］▶［送信機能の認証設定］の順に進む

4 ［編集］をクリックする

5 ［送信操作開始時に認証画面を表示する］にチェックマークを付け、ログアウト時に確認画面を表示するかどうかを選ぶ

［送信操作開始時に認証画面を表示する］
ファクスやスキャン機能を使うときに認証送信のログイン画面を表示する（LDAP サーバーで認証を行う）ときはチェックマークを付けます。

［ログアウト時に確認画面を表示する］
ログアウトする際、認証送信と部門別 ID 管理の両方にログインしている場合に、どこまでログアウトするか選択する画面を表示するときはチェックマークを付けます。チェックマークを外すと、ログアウトする際に選択画面は表示されず、認証送信と部門別 ID 管理の両方からログアウトします。

6 E メール／I ファクス送信の設定をする

[E メール/I ファクス送信]

E メールや I ファクスの送信を許可するかどうかを設定します。

[許可しない]	E メール／I ファクス送信を制限します。スキャン機能の＜E メール＞と＜I ファクス＞は使用できなくなります。
[許可する]	E メール／I ファクス送信を制限しません。
[自分の宛先のみ許可する]	E メール／I ファクス送信するときの宛先を認証したユーザーの E メールアドレスのみに制限します。認証ユーザーの E メールアドレスは LDAP サーバーに登録している必要があります。

[認証方法]

[E メール/I ファクス送信] で [許可する] または [自分の宛先のみ許可する] を選んだときには、送信実行時に SMTP サーバーへの認証画面を表示するかどうかを設定できます。

[送信操作開始時のユーザー名を引き継いで認証画面を表示する]	認証送信のログイン画面で入力したユーザー名とパスワードを引き継いだ状態の認証画面を表示します。
[空の認証画面を表示する]	ユーザー名とパスワードが空欄状態の認証画面を表示します。
[機器固有の認証情報を使用して認証画面を表示しない]	送信実行時の認証画面は表示しません。[E メール/I ファクス設定]（**E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)**）で設定したユーザー名とパスワードを使用して SMTP サーバーへの認証を行います。

[認証ユーザーの宛先を送信元に指定する]

認証したユーザーの E メールアドレスを送信元に設定するときに、チェックマークを付けます。認証ユーザーの E メールアドレスは LDAP サーバーに登録している必要があります。チェックマークを外すと、[E メール/I ファクス設定] で設定している E メールアドレスが送信元に設定されます。

7 ファイル送信（共有フォルダーや FTP サーバーへの保存）の設定をする

[ファイル送信]
共有フォルダーや FTP サーバーへの保存を許可するかどうかを設定します。

[許可しない]	共有フォルダーや FTP サーバーへの保存を制限します。スキャン機能の＜ファイル＞は使用できなくなります。
[許可する]	共有フォルダーや FTP サーバーへの保存を制限しません。
[自分の宛先または指定したフォルダーのみ許可する]	共有フォルダーや FTP サーバーへ保存するときの保存先を特定のフォルダーのみに制限します。保存先は LDAP サーバーに登録しているフォルダー、または［送信先のフォルダーを指定する］で指定したフォルダーが使用されます。

■［ファイル送信］で［許可する］に設定したとき

[認証方法]
送信実行時にサーバーへの認証画面を表示するかどうかを設定できます。

[送信操作開始時の認証情報を引き継いで認証画面を表示する]	認証送信のログイン画面で入力したユーザー名とパスワードを引き継いだ状態の認証画面を表示します。
[空の認証画面を表示する]	ユーザー名とパスワードが空欄状態の認証画面を表示します。
[アドレス帳の認証情報を使用して認証画面を表示しない]	送信実行時の認証画面は表示しません。アドレス帳で設定したユーザー名とパスワードを使用してサーバーへの認証を行います。

■［ファイル送信］で［自分の宛先または指定したフォルダーのみ許可する］に設定したとき

[認証方法]
送信実行時にサーバーへの認証画面を表示するかどうかを設定できます。

[送信操作開始時の認証情報を引き継ぐ]	認証送信のログイン画面で入力したユーザー名とパスワードでサーバーに認証します。［認証画面を表示する］にチェックマークを付けると、送信実行時にこれらのユーザー名とパスワードを引き継いだ状態の認証画面を表示します。
[空の認証画面を表示する]	ユーザー名とパスワードが空欄状態の認証画面を表示します。

[送信先のフォルダーを指定する]
チェックマークを付けると、保存先フォルダーを指定できます。チェックマークを外したときは、LDAP サーバーに登録している認証ユーザー情報から保存先が設定されます。

［ホスト名］	共有フォルダーまたは FTP サーバーのホスト名を入力します。
［フォルダーへのパス］	ホスト名を除いた保存先フォルダーのパスを入力します。［ユーザー名を付加する］にチェックマークを付けたときは、LDAP サーバーに認証したときのユーザー名がパスに追加されます。

8 ファクス送信の設定をする

［ファクス送信］

ファクスの送信を許可するかどうかを設定します。［許可しない］に設定すると、ファクス機能は使用できなくなります。

9 ［OK］をクリックする

関連項目

LDAP サーバーを登録する(P. 65)

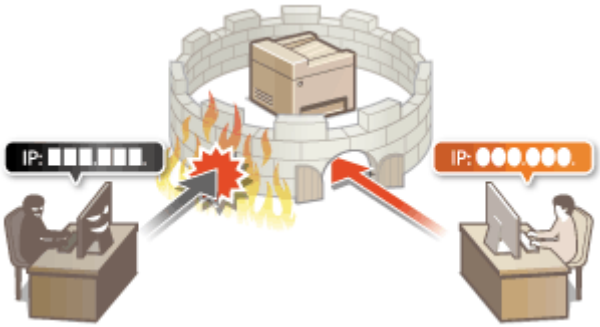
ネットワークセキュリティーを設定する

23LX-070

悪意のある第三者による通信内容の盗聴や改ざん、なりすまし...。これらは正規ユーザーに想定外の損失をもたらす恐れがあります。大切なデータや情報を守るため、本機にはネットワークのセキュリティーを高めるさまざまな対策が用意されています。

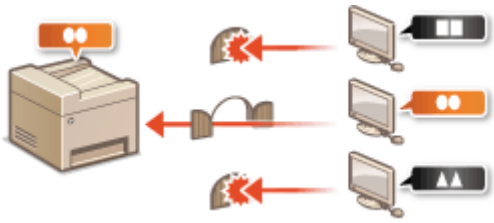
ファイアウォール設定

特定の IP アドレスや MAC アドレスを持つ機器との通信だけを許可することで、第三者の不正アクセス、ネットワークへの攻撃や侵入を遮断できます。 **ファイアウォールで通信制限する(P. 367)**



ポート番号の変更

外部機器と情報をやりとりするプロトコルには、通常、種類ごとに決まったポート番号が割り当てられています。ポート番号は通信機器間で同じ設定にする必要があるため、任意の番号に変更することで外部からの不正侵入の防止に役立てることができます。 **ポート番号を変更する(P. 374)**



プロキシー設定

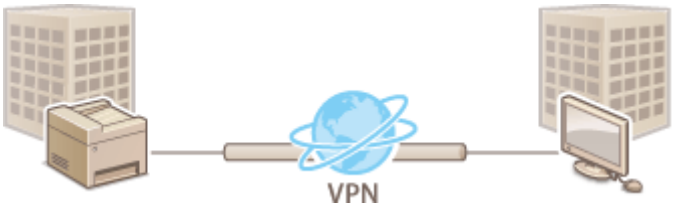
外部ネットワークとの通信時にプロキシーサーバーを経由して接続します。プロキシ―サーバーを使うとより安全にウェブサイトを閲覧することができるため、セキュリティーの向上が期待できます。 **プロキシーを設定する(P. 376)**

TLS 暗号化通信

ウェブブラウザーや電子メールクライアントなどでデータを暗号化してネットワーク上で送受信する方法です。TLS 暗号化を使えば、リモート UI でパソコンから本機にアクセスするときも安全に通信できるようになります。 **TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)**

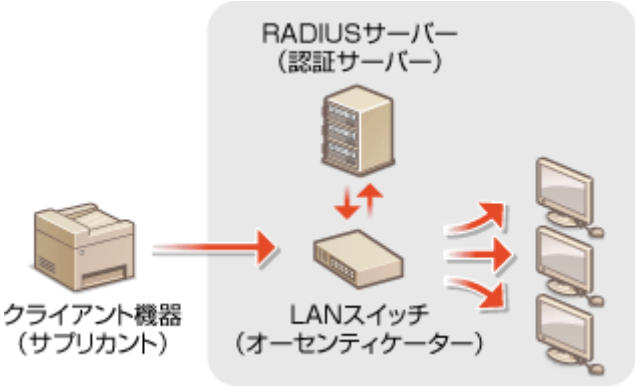
IPSec 通信

TLS 暗号化通信はウェブブラウザーや電子メールクライアントなど、特定のアプリケーションで暗号化する技術ですが、IPSec 通信は IP プロトコルのレベルで暗号化を行います。そのため、さらに汎用性の高いセキュリティーを実現できます。 **IPSec の設定をする(P. 389)**



IEEE 802.1X 認証

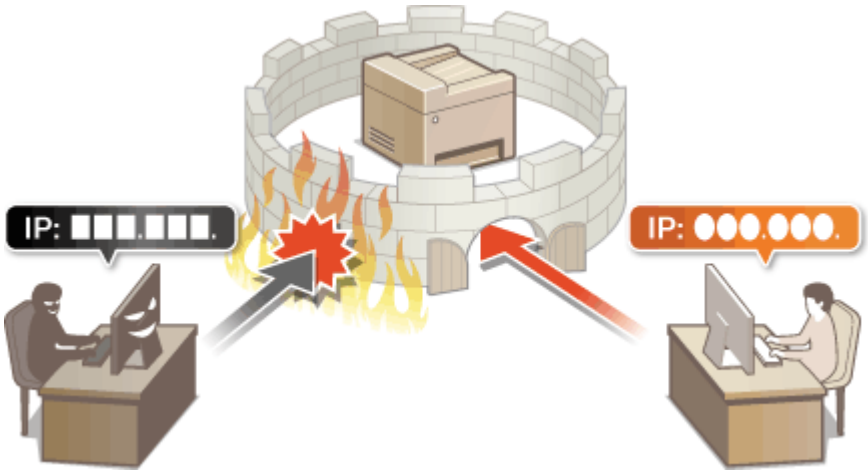
IEEE 802.1X を導入したネットワークに機器を接続して通信を始めようとすると、まずその機器が正しいユーザーであるかどうか確認されます。確認は RADIUS サーバーに問い合わせることで行われ、正しいユーザーであれば認証されます。認証が下りないかぎり LAN スイッチ（アクセスポイント）は機器からの通信要求を遮断します。このようなネットワークに本機はクライアントとして接続できます。 **IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)**



ファイアウォールで通信制限する

23LX-071

適切なセキュリティー対策を施さずにパソコンや通信機器をネットワークに接続すると、意図しない第三者から不正にアクセスされる恐れがあります。そこで、特定の IP アドレスや MAC アドレスを持つ機器だけに通信を許可するパケットフィルタリングを設定することで、そうしたリスクを低減させます。



IP アドレスでファイアウォールを設定する(P. 368)
MAC アドレスでファイアウォールを設定する(P. 371)

IP アドレスでファイアウォールを設定する

23LX-072

指定した IP アドレスを持つ機器との通信だけを許可し、それ以外の機器との通信を拒否します。逆に、特定の IP アドレスを持つ機器との通信だけを拒否し、それ以外の通信は許可することもできます。なお、IP アドレスは範囲を指定して設定することも可能です。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

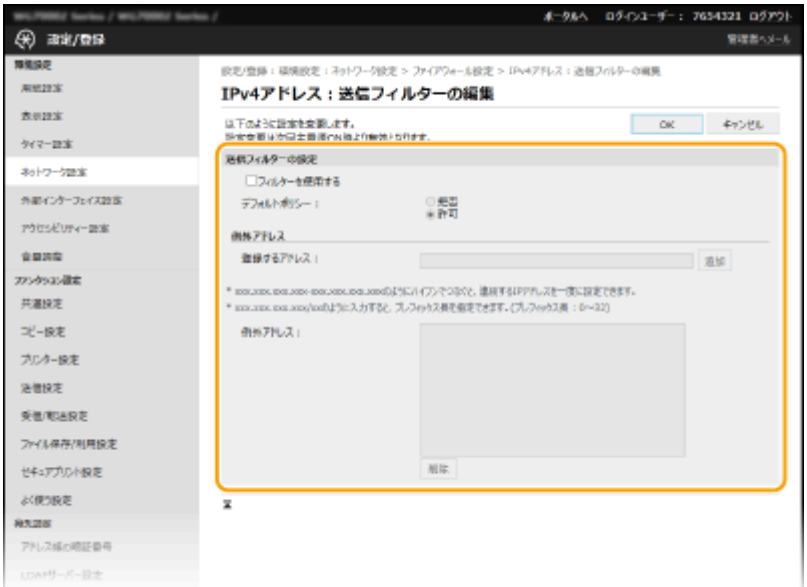
3 ［ネットワーク設定］▶［ファイアウォール設定］の順に進む

4 設定したい IP アドレスフィルターの［編集］をクリックする

- 指定する IP アドレスに応じたフィルターを選んでください。本機からパソコンへのデータ送信を制限するときは［送信フィルター］を、パソコンからのデータ受信を制限するときは［受信フィルター］を選びます。

5 フィルターを設定する

- まず前提条件として「本機との通信を許可するのか、拒否するのか」のデフォルトポリシーを選択し、次に例外とする通信機器を IP アドレスで指定します。



1 ［フィルターを使用する］にチェックマークを付け、［デフォルトポリシー］の［拒否］または［許可］をクリックする

[フィルターを使用する]
チェックマークを付けると通信制限が有効になります。通信制限をしないときはチェックマークを外してください。

[デフォルトポリシー]
前提条件として本機との通信を許可するのか拒否するのかを選択します。

[拒否]	[例外アドレス] に入力した IP アドレスを持つ機器とだけ通信（送信／受信）し、それ以外の IP アドレスを持つ機器との通信は制限します。
[許可]	[例外アドレス] に入力した IP アドレスを持つ機器との通信（送信／受信）を制限します。それ以外の IP アドレスを持つ機器とは通信可能です。

2 例外アドレスを設定する

- [登録するアドレス] に IP アドレス（またはその範囲）を入力し、[追加] をクリックします。

ご注意

入力内容をよくお確かめください

- IP アドレスを間違えて設定すると、リモート UI からアクセスできなくなることがあります。この場合は、操作パネルから＜ IPv4 アドレスフィルター＞または＜ IPv6 アドレスフィルター＞を＜ OFF ＞にしてください。
  ＜ IPv4 アドレスフィルター＞(P. 462)
  ＜ IPv6 アドレスフィルター＞(P. 462)

MEMO

IP アドレスの入力形式

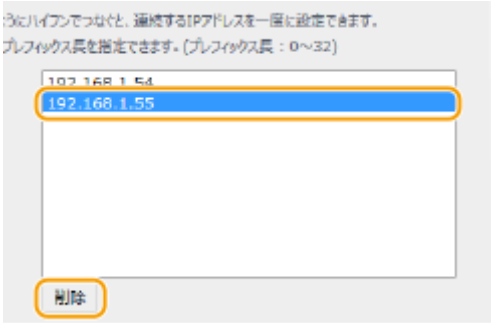
	入力方法	入力例
単一のアドレスを指定するとき	IPv4 の場合は、「.」（ピリオド）で数字を区切ります。	192.168.0.10
	IPv6 の場合は、「:」（コロン）で英数字を区切ります。	fe80::10
アドレスを範囲で指定するとき	「-」（ハイフン）でアドレスをつなぎます。	192.168.0.10-192.168.0.20
アドレスの範囲をプレフィックスで指定するとき	アドレス、「/」（スラッシュ）、プレフィックス長の順に入力します。	192.168.0.32/27 fe80::1234/64

送信フィルターで [拒否] を選んだとき

- マルチキャストおよびブロードキャストアドレスは制限対象外です。

設定した IP アドレスを削除するとき

- 削除する IP アドレスを選び、[削除] をクリックします。



3 ［OK］をクリックする

6 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から IP アドレスによる通信制限を有効／無効に切り替えることもできます。
  ＜ IPv4 アドレスフィルター＞(P. 462)
  ＜ IPv6 アドレスフィルター＞(P. 462)

関連項目

MAC アドレスでファイアウォールを設定する(P. 371)

MAC アドレスでファイアウォールを設定する

23LX-073

指定した MAC アドレスを持つ機器との通信だけを許可し、それ以外の機器との通信を拒否します。逆に、特定の MAC アドレスを持つ機器との通信だけを拒否し、それ以外は許可することもできます。

ご注意

- 本機を無線 LAN に接続している場合、この機能は使えません。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［ネットワーク設定］▶［ファイアウォール設定］の順に進む

4 設定したい MAC アドレスフィルターの［編集］をクリックする

- 本機からパソコンへのデータ送信を制限するときは［送信フィルター］を、パソコンからのデータ受信を制限するときは［受信フィルター］を選びます。

5 フィルターを設定する

- まず前提条件として「本機との通信を許可するのか、拒否するのか」のデフォルトポリシーを選択し、次に例外とする通信機器を MAC アドレスで指定します。

1 ［フィルターを使用する］にチェックマークを付け、［デフォルトポリシー］の［拒否］または［許可］をクリックする

［フィルターを使用する］
チェックマークを付けると通信制限が有効になります。通信制限をしないときはチェックマークを外してください。

［デフォルトポリシー］
前提条件として本機との通信を許可するのか拒否するのかを選択します。

［拒否］	［例外アドレス］に入力した MAC アドレスを持つ機器とだけ通信（送信／受信）し、それ以外の MAC アドレスを持つ機器との通信は制限します。
［許可］	［例外アドレス］に入力した MAC アドレスを持つ機器との通信（送信／受信）を制限します。それ以外の MAC アドレスを持つ機器とは通信可能です。

2 例外アドレスを設定する

- ［登録するアドレス］に MAC アドレスを入力し、［追加］をクリックします。
- アドレスは「-」（ハイフン）や「:」（コロン）で区切らずに入力してください。

ご注意

入力内容をよくお確かめください

- MAC アドレスを間違えて設定すると、リモート UI からアクセスできなくなることがあります。この場合は、操作パネルから＜ MAC アドレスフィルター＞を＜ OFF ＞にしてください。 **＜ MAC アドレスフィルター＞(P. 462)**

MEMO

送信フィルターで［拒否］を選んだとき

- マルチキャストおよびブロードキャストアドレスは制限対象外です。

設定した MAC アドレスを削除するとき

- 削除する MAC アドレスを選び、［削除］をクリックします。

3 ［OK］をクリックする

6 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から MAC アドレスによる通信制限を有効／無効に切り替えることもできます。 **＜MAC アドレスフィルター＞(P. 462)**

関連項目

IP アドレスでファイアウォールを設定する(P. 368)

ポート番号を変更する

23LX-074

ポートは外部機器と情報をやりとりするための出入口です。通常、おもなプロトコルには決まったポート番号を使用しますが、同じ番号が使われがちなので攻撃対象になりやすいという弱点があります。そのためネットワークで使用するポート番号を変更してセキュリティー向上を図るネットワーク管理者もいます。ポート番号はパソコンやサーバーなどの通信機器間で同じ設定にする必要があるため、変更があった場合はこれに合わせて本機側でも設定を変更します。

MEMO

- プロキシーサーバーのポート番号を変更するとき **プロキシーを設定する(P. 376)**
- LDAP サーバーのポート番号を変更するとき **LDAP サーバーを登録する(P. 65)**

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜環境設定＞ ▸ ＜ネットワーク＞の順に進む

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 ＜ TCP / IP 設定＞ ▸ ＜ポート番号設定＞の順に進む

4 ポート番号を変更するプロトコルを選ぶ

MEMO

各プロトコルの詳細について

- ＜ LPD ＞／＜ RAW ＞／＜ WSD マルチキャスト探索＞ **印刷プロトコルや Web サービスの設定をする(P. 42)**
- ＜ HTTP ＞ **HTTP 通信を無効にする(P. 412)**
- ＜ POP3 ＞／＜ SMTP ＞ **E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)**
- ＜ SNMP ＞ **SNMP で監視／制御する(P. 70)**
- ＜マルチキャスト探索＞ **デバイス管理システムから本機を監視する(P. 76)**
- ＜ FTP ＞ **FTP サーバーへの保存設定の流れ(P. 94)**

5 ポート番号を変更し、＜確定＞を選ぶ

6 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

関連項目

印刷ポートの設定をする(P. 45)

プロキシーを設定する

23LX-075

プロキシー（HTTP プロキシーサーバー）とは、おもにウェブサイトの閲覧などでネットワークの外にある機器との HTTP 通信を代行するパソコンやソフトウェアなどのことです。ネットワーク外部に直接通信するのではなく、プロキシーサーバーを中継して外部に接続します。プロキシーを設定することで、外部ネットワークとの通信管理がしやすくなるだけでなく、不正アクセスの遮断やウィルス対策の集約化など、セキュリティーを強化できます。プロキシーサーバーのアドレスやポート番号、認証情報などはあらかじめ確認しておいてください。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［ネットワーク設定］▶［プロキシー設定］の順に進む**

4 **［編集］をクリックする**

5 **［プロキシーを使用する］にチェックマークを付け、必要な情報を入力する**

［プロキシーを使用する］
チェックマークを付けると、本機が HTTP 通信するときは指定したプロキシーサーバーが使用されます。

［HTTP プロキシーサーバーのアドレス］
使用するプロキシーサーバーのアドレスを入力します。お使いの環境に応じて IP アドレスやホスト名などを設定してください。

［HTTP プロキシーサーバーのポート番号］
使用するプロキシーサーバーのポート番号を入力します。

[同一ドメインにもプロキシーを使用する]
チェックマークを付けると、同じドメインにある機器と通信するときにも指定したプロキシーサーバーが使用されます。

[プロキシー認証を使用する]
プロキシーサーバーの認証機能を使用するときはチェックマークを付け、[ユーザー名] に認証するユーザー名を半角英数字で入力します。

[パスワードを設定/変更する]
プロキシー認証を使用する場合にパスワードを設定または変更するときはチェックマークを付け、[パスワード] に新しく設定するパスワードを半角英数字で入力します。

6 [OK] をクリックする

TLS 用の鍵と証明書を設定する

23LX-076

リモート UI によるパソコンのウェブブラウザーとの通信を Transport Layer Security（TLS）を使って暗号化できます。TLS はネットワーク上で情報を暗号化して送受信するための仕組みです。リモート UI を使って IPSec 通信（事前共有鍵方式）の設定をしたり、IEEE 802.1X 認証（TTLS/PEAP）や SNMPv3 の設定をしたりするときは TLS を有効にする必要があります。リモート UI で TLS 暗号化通信を行うには、使用する「鍵と証明書」（サーバー証明書）を指定してから TLS を有効にします。使用する鍵と証明書はあらかじめ用意しておいてください。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［ネットワーク設定］▶［TLS 設定］の順に進む**

4 **［鍵と証明書］をクリックする**

5 **使用する鍵と証明書の右側にある［使用鍵登録］をクリックする**

MEMO

証明書の内容を確認するには

- ［鍵の名前］のリンクか証明書のアイコンをクリックすると、証明書の詳細情報確認や検証ができます。

6 **［ライセンス/その他］▶［リモート UI 設定］の順に進む**

7 ［編集］をクリックする

8 ［TLS を使用する］にチェックマークを付け、［OK］をクリックする

9 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から TLS 暗号化通信を有効／無効に切り替えることもできます。 **＜リモート UI 設定＞(P. 541)**

TLS を有効にしてリモート UI を起動したとき

- TLS 有効時にリモート UI を起動すると、セキュリティー証明書に関する警告メッセージが表示されることがあります。この場合はアドレス入力欄に入力した URL に間違いがないか確認してから、操作を続行してください。 **リモート UI を起動する(P. 417)**

TLS で E メール／I ファクス送受信を暗号化するには

- SMTP サーバーや POP3 サーバーが TLS に対応する場合、これらのサーバーとの通信に TLS を適用できます（ **E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)** ）。SMTP サーバーや POP3 サーバーについては、プロバイダーやネットワーク管理者にお問い合わせください。

TLS のバージョンを限定したいとき

- リモート UI の［TLS 設定］ページにある［使用可能なバージョンの指定］で上限／下限を指定します。

関連項目

ネットワーク通信用の鍵と証明書を生成する(P. 381)
鍵と証明書署名要求（CSR）を生成する(P. 384)
ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する(P. 387)
IPSec の設定をする(P. 389)
IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)
SNMP で監視／制御する(P. 70)
LDAP サーバーを登録する(P. 65)

ネットワーク通信用の鍵と証明書を生成する

23LX-077

Transport Layer Security（TLS）を使った暗号化通信に必要な鍵と証明書を生成できます。TLS は、リモート UI を使って本機にアクセスするときに使用できます。「ネットワーク通信用」に生成した鍵と証明書では自己署名証明書が使われます。

MEMO

- 認証局の署名が付いたサーバー証明書を使いたいときは、証明書の代わりに CSR を鍵といっしょに生成することができます。 **鍵と証明書署名要求（CSR）を生成する(P. 384)**
- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、 **本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［デバイス管理］▶［鍵と証明書設定］の順に進む**

4 **［鍵生成］をクリックする**

MEMO

登録されている鍵と証明書を削除するとき

- 削除したい鍵と証明書の右側にある［削除］▶［OK］をクリックします。
- 使用中の鍵と証明書には「TLS」や「IEEE 802.1X」などの使用目的が表示され、この状態では削除できません。目的の機能を解除するか、別の鍵と証明書に変更してから削除してください。

5 **［ネットワーク通信用］を選び、［OK］をクリックする**

6 **鍵と証明書の設定をする**

a ［鍵の設定］

［鍵の名前］
鍵に付ける名称を半角英数字で入力します。一覧表示されたときに探しやすい名称を付けてください。

［署名アルゴリズム］
プルダウンメニューから署名アルゴリズムを選びます。

［鍵のアルゴリズム］
鍵の生成アルゴリズムを［RSA］または［ECDSA］から選び、鍵長をプルダウンメニューから選びます。いずれの場合も鍵長の数値が大きいほど安全性が高まる一方、通信時の処理が遅くなります。

MEMO

- ［署名アルゴリズム］で［SHA384］または［SHA512］を選んだときは、［鍵のアルゴリズム］で［RSA］を選んだ場合の鍵長を［512 bit］に設定することはできません。

b ［証明書の設定］

［有効期限開始日(YYYY/MM/DD)］
証明書の有効期間の開始日を入力します。

［有効期限終了日(YYYY/MM/DD)］
証明書の有効期間の終了日を入力します。［有効期限開始日(YYYY/MM/DD)］より前に設定することはできません。

［国/地域名］
［国/地域名で選択］をクリックしてプルダウンメニューから国／地域名を選ぶか、［インターネット国コードで入力］をクリックして国コード（日本の場合は「JP」）を入力します。

［都道府県］／［市町村］
必要に応じて所在地を半角英数字で入力します。

［組織］／［組織単位］
必要に応じて組織名を半角英数字で入力します。

［共通名］
必要に応じて証明書の主体者の名称を半角英数字で入力します。「Common Name」や「CN」、「一般名」と呼ぶこともあります。

7 ［OK］をクリックする

- 鍵と証明書の生成には時間がかかることがあります。
- 生成した鍵と証明書は本機に自動的に登録されます。

関連項目

ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する(P. 387)
TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)
IPSec の設定をする(P. 389)

鍵と証明書署名要求（CSR）を生成する

23LX-078

本機で自己生成した証明書は認証局の署名がないため、通信相手によっては通信エラーとなってしまうことがあります。認証局の署名が付いた証明書を発行してもらうためには、証明書署名要求（CSR：Certificate Signing Request）のデータが必要で、CSR は管理者がリモート UI から生成することができます。証明書が発行されたら、CSR を生成した鍵に証明書を登録してください。

鍵と CSR を生成する(P. 384)
鍵に証明書を登録する(P. 386)

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

鍵と CSR を生成する

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［デバイス管理］▶［鍵と証明書設定］の順に進む**

4 **［鍵生成］をクリックする**

MEMO

登録されている鍵と証明書を削除するとき

- 削除したい鍵と証明書の右側にある［削除］▶［OK］をクリックします。
- 使用中の鍵と証明書には「TLS」や「IEEE 802.1X」などの使用目的が表示され、この状態では削除できません。目的の機能を解除するか、別の鍵と証明書に変更してから削除してください。

5 **［鍵と証明書署名要求(CSR)］を選び、［OK］をクリックする**

6 **鍵と CSR の設定をする**

a ［鍵の設定］

［鍵の名前］
鍵に付ける名称を半角英数字で入力します。一覧表示されたときに探しやすい名称を付けてください。

［署名アルゴリズム］
プルダウンメニューから署名アルゴリズムを選びます。

［鍵のアルゴリズム］
鍵の生成アルゴリズムを［RSA］または［ECDSA］から選び、鍵長をプルダウンメニューから選びます。いずれの場合も鍵長の数値が大きいほど安全性が高まる一方、通信時の処理が遅くなります。

MEMO

- ［署名アルゴリズム］で［SHA384］または［SHA512］を選んだときは、［鍵のアルゴリズム］で［RSA］を選んだ場合の鍵長を［512 bit］に設定することはできません。

b ［証明書署名要求(CSR)の設定］

［国/地域名］
［国/地域名で選択］をクリックしてプルダウンメニューから国／地域名を選ぶか、［インターネット国コードで入力］をクリックして国コード（日本の場合は「JP」）を入力します。

［都道府県］／［市町村］
必要に応じて所在地を半角英数字で入力します。

［組織］／［組織単位］
必要に応じて組織名を半角英数字で入力します。

［共通名］
必要に応じて証明書の主体者の名称を半角英数字で入力します。「Common Name」や「CN」、「一般名」と呼ぶこともあります。

7 ［OK］をクリックする

- 鍵と CSR の生成には時間がかかることがあります。

8 ［ファイルに保存］をクリックする

- ファイルを保存するダイアログボックスが表示されるので、保存先を選んで［保存］をクリックします。

  ➠ CSR のファイルがパソコンに保存されます。

9 保存したファイルを添付して認証局に申請する

鍵に証明書を登録する

CSR を生成した鍵は、CSR をもとに認証局から発行された証明書を登録するまで使うことができません。認証局から証明書が発行されたら、次の手順で登録します。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする ▶リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする ▶リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［デバイス管理］▶［鍵と証明書設定］の順に進む

4 証明書を登録する［鍵の名前］または［証明書］をクリックする

5 ［証明書の登録］をクリックする

6 ［参照］をクリックし、証明要求した証明書のファイルを指定したあと、［登録］をクリックする

関連項目

▶TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)
▶ネットワーク通信用の鍵と証明書を生成する(P. 381)
▶ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する(P. 387)
▶IPSec の設定をする(P. 389)

ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する

23LX-079

鍵と証明書や CA 証明書を発行機関から入手して使用することができます。入手した鍵と証明書ファイルおよび CA 証明書ファイルはリモート UI を使って本機にインストール／登録します。本機で使用できる鍵と証明書および CA 証明書の条件をあらかじめ確認しておいてください。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［デバイス管理］▶［鍵と証明書設定］または［CA 証明書設定］の順に進む

- 鍵と証明書をインストールするときは［鍵と証明書設定］を、CA 証明書をインストールするときは［CA 証明書設定］をクリックします。

4 ［鍵と証明書の登録］または［CA 証明書登録］をクリックする

MEMO

登録されている鍵と証明書や CA 証明書を削除するとき

- 削除したい鍵と証明書または CA 証明書の右側にある［削除］▶［OK］をクリックします。プリインストールされている CA 証明書は削除できません。
- 使用中の鍵と証明書には「TLS」や「IEEE 802.1X」などの使用目的が表示され、この状態では削除できません。目的の機能を解除するか、別の鍵と証明書に変更してから削除してください。

プリインストールされている CA 証明書を無効にするとき

- 無効にしたい CA 証明書の右側にある［無効］をクリックします。再度有効にしたいときは、［有効］をクリックしてください。

5 ［インストール］をクリックする

MEMO

鍵と証明書ファイルや CA 証明書ファイルを削除するには

- 削除したいファイルの右側にある［削除］▶［OK］をクリックします。

6 ［参照］をクリックし、インストールするファイルを指定したあと、［インストール開始］をクリックする

➠ パソコンから本機に鍵と証明書ファイルまたは CA 証明書ファイルがインストールされます。

7 鍵と証明書または CA 証明書を登録する

■鍵と証明書を登録する

1 登録したい鍵と証明書ファイルの右側にある［登録］をクリックする

2 鍵の名前とパスワードを入力する

［鍵の名前］

本機に登録するときの鍵の名称を半角英数字で入力します。一覧表示されたときに探しやすい名称を付けてください。

［パスワード］

登録するファイルに設定されている秘密鍵のパスワードを半角英数字で入力します。

3 ［OK］をクリックする

■CA 証明書を登録する

登録したい CA 証明書ファイルの右側にある［登録］をクリックします。

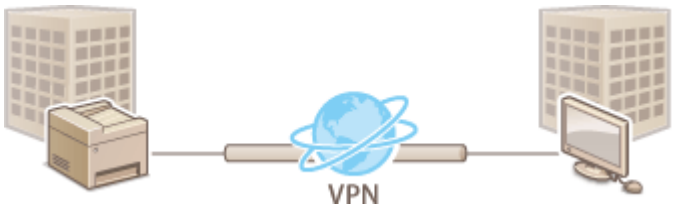
関連項目

- ネットワーク通信用の鍵と証明書を生成する(P. 381)
- TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)
- IPSec の設定をする(P. 389)
- IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

IPSec の設定をする

23LX-07A

IP Security Protocol（IPSec）はインターネットなどのネットワークで暗号化通信をするためのプロトコルです。TLS 暗号化通信がウェブブラウザーや電子メールクライアントなど、特定のアプリケーションで暗号化する技術であるのに対し、IPSec 通信は IP プロトコルのレベルで暗号化を行いますので、より汎用性の高いセキュリティーを実現できます。本機の IPSec はパケットの IP ヘッダーを除いた部分だけを暗号化するトランスポートモードに対応し、本機と同じ VPN（仮想プライベートネットワーク）を構成するパソコンと直接接続します。動作条件を確認し、あらかじめパソコン側の設定を済ませておいてください。



MEMO

IP アドレスフィルターと IPSec を併用するとき

- IP アドレスフィルターの設定が先に適用されます。 **IP アドレスでファイアウォールを設定する(P. 368)**

IPSec の設定をする

本機で IPSec を使った暗号化通信を行うには、セキュリティーポリシー（SP）を作成する必要があります。ポリシーはおもに次の内容で構成されます。複数のポリシーを作成した場合は、優先順位を設定します。

セレクター

どの IP パケットに IPSec 通信を適用するかを設定します。本機や通信相手側の IP アドレスだけでなく、ポート番号も指定できます。

IKE

鍵交換プロトコルとして使用する IKEv1 の設定をします。選択する認証方式によって必要な準備や設定方法が異なりますのでご注意ください。

[事前共有鍵方式]
本機と通信相手とで共有鍵と呼ばれる共通のキーワードを使用する認証方式です。あらかじめリモート UI の通信に TLS を使えるように設定しておいてください（ **TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)** ）。

[電子署名方式]
本機と通信相手側が電子署名を互いに送信／検証し合って相互認証を行います。使用する鍵と証明書を用意しておいてください（ **ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する(P. 387)** ）。

AH/ESP

IPSec 通信で使用する ESP と AH という 2 つのプロトコルの設定をします。AH と ESP は併用も可能です。PFS を使用すればセキュリティーをさらに強化できます。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、▶本機の設定を変更する(P. 425) を参照してください。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする ▶リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする ▶リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［ネットワーク設定］▶［IPSec 設定］の順に進む

4 ［編集］をクリックする

5 ［IPSec を使用する］にチェックマークを付け、［OK］をクリックする

- セキュリティーポリシーに該当するパケットだけを受信するようにしたいときは、［ポリシー外パケットの受信を許可する］のチェックマークを外します。

6 ［新規ポリシーの登録］をクリックする

7 ポリシーを設定する

1 ［ポリシー名］にポリシーを区別するための名称を半角英数字で入力する

2 ［ポリシーを有効にする］にチェックマークを付ける

8 セレクターの設定をする

[ローカルアドレス設定]

ポリシーを適用する本機の IP アドレスの種類を、次の中から選んでクリックします。

[全 IP アドレス]	すべての IP パケットに IPSec を適用します。
[自 IPv4 アドレス]	本機の IPv4 アドレスを使って送受信するすべての IP パケットに IPSec を適用します。
[自 IPv6 アドレス]	本機の IPv6 アドレスを使って送受信するすべての IP パケットに IPSec を適用します。

[リモートアドレス設定]

ポリシーを適用する通信相手側の IP アドレスの種類を、次の中から選んでクリックします。

[全 IP アドレス]	すべての IP パケットに IPSec を適用します。
[全 IPv4 アドレス]	通信相手側の IPv4 アドレスを使って送受信するすべての IP パケットに IPSec を適用します。
[全 IPv6 アドレス]	通信相手側の IPv6 アドレスを使って送受信するすべての IP パケットに IPSec を適用します。
[IPv4 手動指定]	IPSec を適用する IPv4 アドレスを単独または範囲で入力指定します。[手動指定アドレス] に IPv4 アドレス（またはその範囲）を入力してください。
[IPv6 手動指定]	IPSec を適用する IPv6 アドレスを単独または範囲で入力指定します。[手動指定アドレス] に IPv6 アドレス（またはその範囲）を入力してください。

[手動指定アドレス]

[リモートアドレス] で [IPv4 手動指定] または [IPv6 手動指定] を選んだときは、ポリシーを適用する IP アドレスを入力します。アドレスどうしを「-」（ハイフン）でつないで範囲を指定することもできます。

MEMO

IP アドレスの入力形式

	入力方法	入力例
単一のアドレスを指定するとき	IPv4 の場合は、「.」（ピリオド）で数字を区切ります。	192.168.0.10

	入力方法	入力例
	IPv6 の場合は、「:」（コロン）で英数字を区切ります。	fe80::10
アドレスを範囲で指定するとき	「-」（ハイフン）でアドレスをつなぎます。	192.168.0.10-192.168.0.20

[サブネット指定]
手動で IPv4 アドレスの範囲を指定する場合、サブネットマスクを使って範囲を設定することもできます。サブネットマスクは「.」（ピリオド）で数字を区切って入力します（入力例：「255.255.255.240」）。

[プレフィックス長]
手動で IPv6 アドレスの範囲を指定する場合、プレフィックスを使って範囲を設定することもできます。プレフィックス長を 0〜128 の範囲で入力してください。

[ローカルポート] ／ [リモートポート]
HTTP や WSD など、プロトコルごとに IPSec 通信をする／しないを判断するポリシーを作成したいときは、[単一指定] をクリックしてポリシーを適用するプロトコルのポート番号をローカル（本機側）／リモート（通信相手側）で入力します。

ご注意

IPSec が適用されないパケット

- ループバック／マルチキャスト／ブロードキャストアドレスを指定したパケット
- UDP ポート 500 番から送信される IKE パケット
- ICMPv6 の Neighbor Solicitation/Neighbor Advertisement パケット

9 IKE の設定をする

[IKE モード]
鍵交換プロトコルの動作モードです。本機は「メインモード」に対応しますが、「アグレッシブモード」には対応していません。

[認証方式]
本機の認証方法を［事前共有鍵方式］または［電子署名方式］から選んで設定します。［事前共有鍵方式］で設定する場合は、リモート UI 通信に対してあらかじめ TLS を有効にする必要があります。［電子署名方式］の場合は、使用する鍵と証明書を用意しておいてください。 **TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)**

[有効時間]
制御用通信路として使用する IKE SA（ISAKMP SA）の有効時間を分単位で入力します。

[認証] ／ [暗号] ／ [DH グループ]
鍵交換で使用するアルゴリズムをそれぞれプルダウンメニューで選びます。

[認証]	ハッシュアルゴリズムを選びます。
[暗号]	暗号化アルゴリズムを選びます。
[DH グループ]	鍵の強度を決定する Diffie-Hellman グループを選びます。

■事前共有鍵方式で認証する

1. [認証方式] で [事前共有鍵方式] をクリックし、[共有鍵の設定] をクリックする
2. 共有鍵として使用する文字列を半角英数字で入力し、[OK] をクリックする
3. [有効時間] と [認証] ／ [暗号] ／ [DH グループ] を設定する

■電子署名方式で認証する

1. [認証方式] で [電子署名方式] をクリックし、[鍵と証明書] をクリックする
2. 使用する鍵と証明書の右側にある [使用鍵登録] をクリックする

MEMO

証明書の内容を確認するには

- [鍵の名前] のリンクか証明書のアイコンをクリックすると、証明書の詳細情報確認や検証ができます。

3. [有効時間] と [認証] ／ [暗号] ／ [DH グループ] を設定する

10 IPSec 通信の設定をする

[PFS を使用する]
セッションキーに対して Perfect Forward Secrecy（PFS）を設定するときはチェックマークを付けます。PFS を使用するとより安全ですが、通信に負荷がかかります。通信相手の機器でも PFS が有効であることをあらかじめ確認しておいてください。

[時間で指定する] ／ [サイズで指定する]

データ用通信路として使用する IPSec SA の有効期間を設定します。必要に応じてどちらか片方または両方にチェックマークを付けます。両方にチェックマークを付けると、設定した値に先に達した方が適用されます。

[時間で指定する]	有効期間を分単位で入力します。

［サイズで指定する］	有効期間をメガバイト単位で入力します。

［アルゴリズム選択］

使用する IPSec ヘッダー（ESP および AH）とそのアルゴリズムに応じて、［ESP］／［ESP(AES-GCM)］／［AH(SHA1)］にチェックマークを付けます。AES-GCM は認証と暗号化の両方を行うアルゴリズムです。［ESP］を選ぶときは、［ESP 認証］および［ESP 暗号］のプルダウンメニューから認証および暗号化のアルゴリズムを選びます。

［ESP 認証］	ESP による認証を行うときは［SHA1］を、行わないときは［使用しない］を選びます。
［ESP 暗号］	ESP の暗号化アルゴリズムを選びます。アルゴリズムを特定したくないときは［NULL］を、ESP による暗号化を行わないときは［使用しない］を選んでください。

［接続モード］

IPSec の接続モードです。本機は IP ヘッダーを除いた部分だけを暗号化する「トランスポートモード」に対応しますが、IP パケット全体を暗号化する「トンネルモード」には対応していません。

11 ［OK］をクリックする

- 他のポリシーを登録するときは、手順 6 に戻ります。

12 ［登録されている IPSec ポリシー］に一覧表示されているポリシーの優先順位を設定する

- 送受信するパケットに IPSec 通信を適用するかどうかの判断は、上位のポリシーから優先的に行われます。［上げる］または［下げる］をクリックしてポリシーの位置を上下してください。

MEMO

ポリシーを編集するとき

- ［ポリシー名］のリンクをクリックして編集画面を表示します。

ポリシーを削除するとき

- 削除したいポリシーの右側にある［削除］▶［OK］をクリックします。

13 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から IPSec 通信を有効／無効に切り替えることもできます。 **＜ IPSec を使用＞(P. 458)**

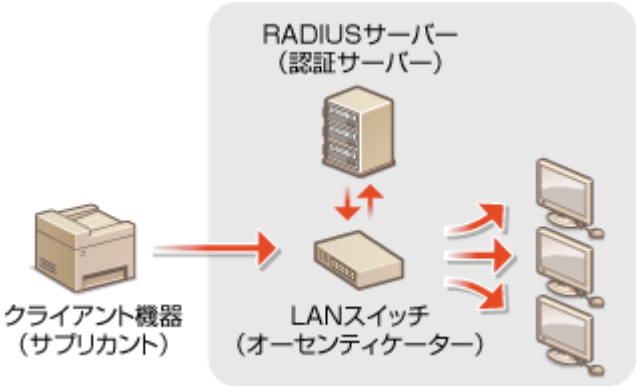
関連項目

TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)
IPSec ポリシーリスト(P. 665)

IEEE 802.1X 認証の設定をする

23LX-07C

IEEE 802.1X 認証を導入したネットワークにクライアントとして本機を接続し、セキュリティーを確保することができます。IEEE 802.1X ネットワークは、RADIUS サーバー（認証サーバー）、LAN スイッチ（オーセンティケーター）、クライアント機器（サプリカント）の 3 つの要素で構成されます。IEEE 802.1X ネットワーク上のクライアント機器が通信を始めようとすると、まずその機器が正しいユーザーであるかどうか確認されます。確認は RADIUS サーバーに問い合わせることで行われ、正しいユーザーであれば認証されます。認証が下りないかぎり LAN スイッチは機器からの通信要求を遮断します。



IEEE 802.1X の認証方式

認証サーバーに設定してある認証方式を次の中から選び、あらかじめ必要な鍵と証明書や CA 証明書を用意しておいてください（ **ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する(P. 387)** ）。

■TLS

本機と認証サーバーがそれぞれの証明書を使って互いに認証を行います。本機の認証には認証局発行の鍵と証明書が必要ですのであらかじめ用意しておいてください。一方、サーバーの認証にはプリインストールされた CA 証明書またはリモート UI からインストールした CA 証明書が使用されます。

■TTLS

本機の認証にユーザー名とパスワードを使用し、サーバー認証には CA 証明書を使用する認証方式です。内部プロトコルとして MSCHAPv2 または PAP を選択できます。PEAP との併用も可能です。あらかじめリモート UI 通信に対して TLS を設定しておいてください（ **TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)** ）。

■PEAP

必要な設定は併用できる TTLS とほぼ同じですが、内部プロトコルには MSCHAPv2 を使用します。あらかじめリモート UI 通信に対して TLS を設定しておいてください（ **TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)** ）。

MEMO

- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、 **本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［ネットワーク設定］▶［IEEE 802.1X 設定］の順に進む

4 ［編集］をクリックする

5 ［IEEE 802.1X を使用する］にチェックマークを付け、［ログイン名］を入力する

［IEEE 802.1X を使用する］
IEEE 802.1X 認証を使用するときはチェックマークを付けます。

［ログイン名］
ユーザーを識別するための名称（EAP Identity）を半角英数字で入力します。

6 使用する認証方式に応じて必要な設定をする

■TLS を設定する

1 ［TLS を使用する］にチェックマークを付け、［鍵と証明書］をクリックする

- TLS を使用する場合は、TTLS や PEAP を併用することはできません。

2 使用する鍵と証明書の右側にある［使用鍵登録］をクリックする

MEMO

証明書の内容を確認するには

- ［鍵の名前］のリンクか証明書のアイコンをクリックすると、証明書の詳細情報確認や検証ができます。

■TTLS/PEAP を設定する

1 ［TTLS を使用する］または［PEAP を使用する］にチェックマークを付ける

MEMO

TTLS を使用する場合の内部プロトコル

- MSCHAPv2 または PAP を選択できます。

2 ［ユーザー名/パスワード変更］をクリックする

- IEEE 802.1X 認証のログイン名とは違うユーザー名を設定するときは、［ユーザー名にログイン名を使用する］のチェックマークを外します。IEEE 802.1X 認証のログイン名と同じユーザー名にするときは、チェックマークを付けた状態にしてください。

3 ユーザー名やパスワードを設定する

［ユーザー名］
ユーザー名を半角英数字で入力します。

［パスワードを変更する］
パスワードを設定または変更するときはチェックマークを付け、［パスワード］と［確認入力］の両方に同じパスワードを半角英数字で入力します。

4 ［OK］をクリックする

7 ［OK］をクリックする

8 本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

操作パネルで設定するとき

- ホーム画面の＜メニュー＞から IEEE 802.1X 認証を有効／無効に切り替えることもできます。 **＜ IEEE 802.1X を使用＞(P. 461)**

関連項目

TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)

機能を制限する

23LX-07E

使用頻度が低い機能や悪用される恐れのある機能に対して使用条件を設定し、機能を制限することができます。また、機能自体を完全に使えなくすることもできます。

宛先操作／送信機能を制限する

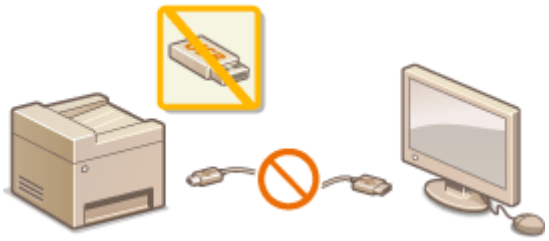
アドレス帳に暗証番号を設定して一般ユーザーが変更できないようにしたり、ファクス送信時に指定できる宛先を限定したりすることができます。また、ファクスを一斉に複数の宛先へ送信（同報送信）できないようにすることも可能です。 **宛先操作／送信機能を制限する(P. 402)**

パソコンからの印刷を制限する

パソコンからの印刷をセキュア文書だけに制限し、本機側で暗証番号を入力しなければ印刷できないようにすることができます。 **パソコンからの印刷を制限する(P. 409)**

USB の使用を制限する

USB 接続は手軽でかんたんに周辺機器と接続ができる反面、情報漏えいなどのセキュリティーリスクをはらんでいます。パソコンとの USB 接続を制限したり、USB メモリーへの保存を制限したりすることができます。 **USB の使用を制限する(P. 410)**



HTTP 通信を無効にする

USB 接続で本機をお使いの場合などネットワークを介した操作を行わないときは、HTTP ポートからの不正な侵入を防ぐために HTTP 通信を無効にすることができます。 **HTTP 通信を無効にする(P. 412)**

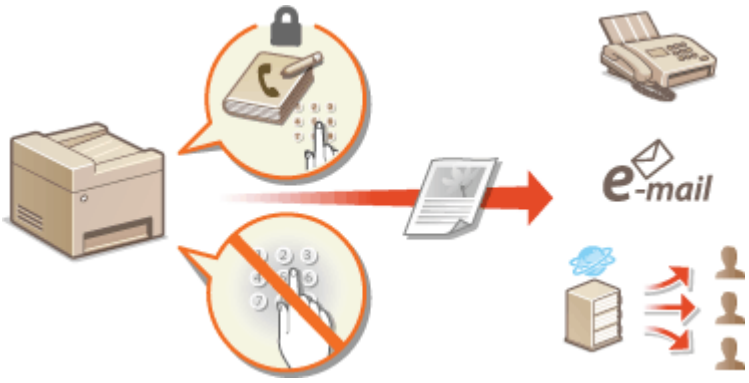
リモート UI を制限する

リモート UI を使用しない場合は、リモート UI を介した不正な遠隔操作を防ぐために機能を無効にすることができます。 **リモート UI を無効にする(P. 413)**

宛先操作／送信機能を制限する

23LX-07F

アドレス帳に暗証番号を設定して宛先を編集できないようにしたり、アドレス帳や LDAP サーバーに登録してある宛先しか選べなくしたりして情報漏えいを防ぐことができます。また、ファクス番号を 2 回入力しないと発信できないように設定して誤送信対策することも可能です。



アドレス帳の使用を制限する(P. 403)
指定できる宛先を制限する(P. 405)
ファクスの宛先操作／送信機能を制限する(P. 407)

アドレス帳の使用を制限する

23LX-07H

暗証番号を入力しないとアドレス帳に宛先を追加したり、宛先を編集したりできないようにできます。暗証番号を知っているユーザーしかアドレス帳を編集できなくなりますので、知らない宛先に無断で文書を送信されるというような危険性を少なくすることができます。

1 ホーム画面で、<メニュー>を選ぶ ホーム画面(P. 120)

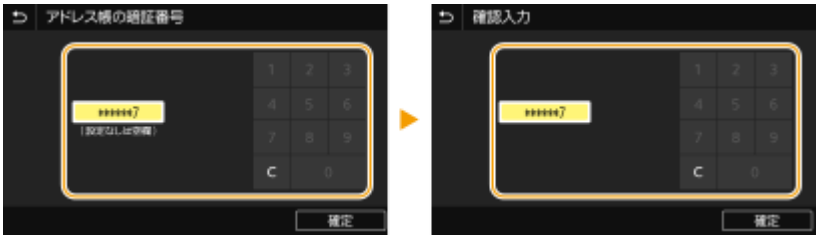
2 <宛先設定>を選ぶ

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 ログインする(P. 131)

3 <アドレス帳の暗証番号>を選ぶ

4 暗証番号を設定する

- 数字を入力し、<確定>を選びます。
- 確認入力画面が表示されますので、再度暗証番号を入力してください。



MEMO

- 「00」や「0000000」など、0 だけの暗証番号は登録できません。
- 暗証番号を解除するときは、 C で入力内容を消去し、空欄の状態で<確定>を選びます。

MEMO

アドレス帳の暗証番号に加えて次の設定をすると、セキュリティーをさらに高めることができます。

- 新規宛先追加を制限する 新規宛先の入力を制限する(P. 405)
- PC ファクスを使用できなくする パソコンからのファクス送信を制限する(P. 407)

関連項目

宛先を登録する(P. 186)
リモート UI から宛先を登録する(P. 428)

指定できる宛先を制限する

23LX-07J

指定できる宛先を、アドレス帳や LDAP サーバーに登録されている宛先などに限定することで誤送信や情報漏えいを防止します。また、アドレス帳の短縮番号を指定する場合に、確認画面を表示して誤送信を防ぐように設定できます。

新規宛先の入力を制限する(P. 405)
履歴からの送信を制限する(P. 405)
アドレス帳に登録した宛先を表示する(P. 405)
送信時に宛先を確認する(P. 406)

新規宛先の入力を制限する

ファクス文書やスキャン文書の送信時に指定できる宛先を「アドレス帳の宛先」、「以前使用した宛先」、「LDAP サーバーで検索できる宛先」の 3 つに限定します。この機能が有効になっていると、テンキーを使った宛先入力や、アドレス帳への新規宛先追加、登録済み宛先の編集はできなくなります。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <共通設定> ▶ <新規宛先の制限> ▶ < ON > ▶ 🏠

ご注意

- 本設定は PC ファクス送信には無効です。 **パソコンからのファクス送信を制限する(P. 407)**

履歴からの送信を制限する

送信履歴から宛先指定することを禁止します。禁止すると「ファクス送信」、「スキャンして E メール送信」、「スキャンして共有フォルダーや FTP サーバーに保存」の各機能で、履歴から宛先を選択できなくなります。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <共通設定> ▶ <履歴からの再送信を制限> ▶ < ON > ▶ 🏠

アドレス帳に登録した宛先を表示する

短縮番号で宛先指定する場合、どの番号に誰が登録されているかを知っている必要があり、うろ覚えで指定すると誤送信の恐れがあります。これを防ぐため、送信先確定前に、短縮番号の内容を画面に表示することができます。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <共通設定> ▶ <短縮ダイヤル送信の確認> ▶ < ON > ▶ 🏠

送信時に宛先を確認する

ファクスや E メール／I ファクス送信開始時に宛先を確認する画面を表示するように設定します。<同報送信時のみ>に設定すると、複数の宛先を指定したときのみ確認画面が表示されます。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <共通設定> ▶ <送信前の宛先確認> ▶ < ON >または<同報送信時のみ>を選択 ▶ 🏠

関連項目

I ファクスを送信する(P. 254)
E メール送信する／サーバーなどにファイルを保存する(P. 297)
過去の設定を呼び出して送信／保存する（送信履歴）(P. 320)
アドレス帳の使用を制限する(P. 403)
ファクスの宛先操作／送信機能を制限する(P. 407)

ファクスの宛先操作／送信機能を制限する

23LX-07K

ファクスの送信機能をさまざまな方法で制限し、第三者への情報漏えいや誤送信を防ぎます。

送信前にファクス番号を確認する(P. 407)
パソコンからのファクス送信を制限する(P. 407)
同報送信を制限する(P. 407)

送信前にファクス番号を確認する

宛先をテンキー入力してファクス送信する際、番号の再入力画面を表示して誤送信を防ぐように設定することができます。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <ファクス番号の確認入力> ▶ < ON > ▶ 🏠

パソコンからのファクス送信を制限する

パソコンからのファクス送信（PC ファクス）をできないようにします。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <ﾌｧｸｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰから送信許可> ▶ < OFF > ▶ 🏠

同報送信を制限する

ファクスを一斉に複数の宛先へ送信する機能（同報送信）を禁止します。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <同報送信の制限> ▶ < ON > ▶ 🏠

関連項目

ファクス送信の基本操作(P. 224)

過去の設定を呼び出して送信する（送信履歴）(P. 237)
パソコンからファクスを送信する（PC ファクス）(P. 250)
パソコンからのジョブに対して部門別 ID 管理をする(P. 356)
アドレス帳の使用を制限する(P. 403)
指定できる宛先を制限する(P. 405)

パソコンからの印刷を制限する

23LX-07L

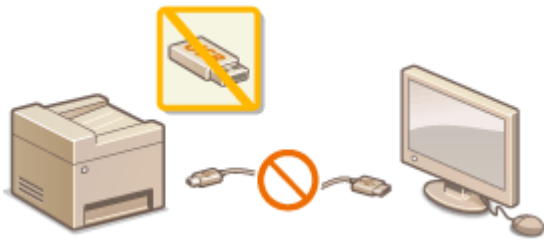
パソコンから印刷できる文書を、セキュアプリント（**暗証番号を入力して印刷する（セキュアプリント）(P. 272)**）の文書に限定することで情報漏えいのリスクを大幅に軽減できます。

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜セキュアプリント＞ ▶ ＜プリンタージョブの制限＞ ▶ ＜ON ＞ ▶ 本機を再起動

USB の使用を制限する

23LX-07R

USB 接続は、周辺機器とのデータ共有を手軽でかんたんなものにしますが、適切に管理されていない環境下では逆に情報漏えいの手段として悪用される恐れがあります。特に、USB メモリーの運用には注意が必要です。ここでは、本機の USB ポートを使った接続の制限や、USB メモリーの使用を禁止する方法を紹介します。



パソコンとの USB 接続を制限する(P. 410)
USB メモリーへの保存を制限する(P. 410)
USB メモリーからの印刷を制限する(P. 410)

パソコンとの USB 接続を制限する

本機の左側面にあるパソコン接続用の USB ポートを使えないようにします。パソコンとの USB 接続はできなくなりますが、右側面の USB ポートに USB メモリーを接続して使うことはできます。

<メニュー> ▶ <環境設定> ▶ <外部インターフェイス> ▶ < USB 設定> ▶ < USB デバイスとして使用>で< OFF >を選択 ▶ <確定> ▶ 本機を再起動

USB メモリーへの保存を制限する

スキャンした原稿を USB メモリーに保存できないようにします。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <ファイル保存 / 利用> ▶ <メモリーメディア設定> ▶ <スキャン機能を使用>で< OFF >を選択 ▶ <確定> ▶ 本機を再起動

USB メモリーからの印刷を制限する

USB メモリーからデータを読み出しできないようにします。USB メモリーにあるデータは印刷できません。

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <ファイル保存 / 利用> ▶ <メモリーメディア設定> ▶ <プリント機能を使用>で< OFF >を選択 ▶ <確定> ▶ 本機を再起動

関連項目

スキャンの基本操作(P. 290)
USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）(P. 276)

HTTP 通信を無効にする

23LX-07S

HTTP はリモート UI から本機を操作するときなどに使われます。ネットワークを使用せず USB 接続で本機をお使いの場合や、HTTP 通信を使用しない場合は、その機能を無効にすることで、悪意のある第三者が未使用ポートから本機に侵入する危険性を減らすことができます。

ご注意

- HTTP 通信を無効にすると、リモート UI の操作や WSD 印刷のネットワークを介した操作ができなくなります。

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ TCP / IP 設定＞ ▶ ＜ HTTP を使用＞ ▶ ＜ OFF ＞ ▶ ＜はい＞ ▶ 🏠

関連項目

- **パソコンから本機を管理する（リモート UI）(P. 416)**
- **ポート番号を変更する(P. 374)**
- **印刷プロトコルや Web サービスの設定をする(P. 42)**

リモート UI を無効にする

23LX-07U

リモート UI を使うとパソコンのウェブブラウザーから本機の設定を行うことができて便利ですが、そのためには本機とパソコンがネットワーク上で接続されていなければなりません。ネットワークを使わずに USB 接続で本機をお使いの場合はリモート UI を無効にすることがきます。また、リモート UI を使う必要がない場合も、機能を無効にすることでネットワークを介した不正な遠隔操作などのリスクを低減し、セキュリティー効果を高めることができます。

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜リモート UI 設定 / ファームウェア更新＞ ▶ ＜リモート UI 設定＞ ▶ ＜リモート UI 設定＞ ▶ ＜リモート UI を使用＞で＜ OFF ＞を選択 ▶ 本機を再起動

関連項目

パソコンから本機を管理する（リモート UI）(P. 416)
HTTP 通信を無効にする(P. 412)

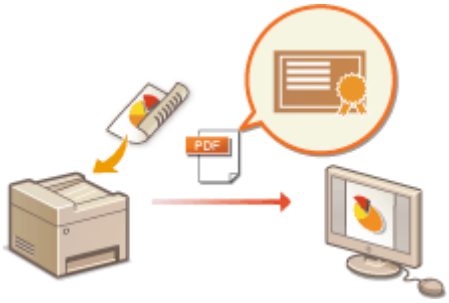
文書のセキュリティーを高める

23LX-0FX

本機には漏えいや改ざんを防ぐためのセキュリティー機能が用意されています。

機器署名

スキャン文書に鍵と証明書の仕組みを用いて署名し、文書が本機で作成されたものであることを受信者に対して証明します。受信者は「どの機器で作成されたか」、「文書が改ざんされていないか」を同時に確認することができます。機器署名を付加するには、あらかじめ機器署名に使用する鍵と証明書（機器証明書）を本機で生成しておく必要があります。 **機器署名用の鍵と証明書を生成する(P. 415)**



機器署名用の鍵と証明書を生成する

23LX-0FY

文書が本機で作成されたことを示す機器署名用の鍵と証明書を生成できます。PDF 形式のスキャン文書に機器署名を付加することができます。

ご注意

- 生成できる機器署名用の鍵と証明書は 1 つだけで、削除することはできません。

MEMO

- 機器署名用の鍵と証明書の有効期限は 5 年間です。有効期限を過ぎたら更新してください。
- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、**本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［デバイス管理］▶［鍵と証明書設定］の順に進む**

4 **［鍵生成］をクリックする**

5 **［機器署名］を選び、［OK］をクリックする**

➠ 機器署名用の鍵と証明書が生成されます。

■機器署名用の鍵と証明書を更新する

1. 機器署名用の鍵と証明書の右側にある［更新］をクリックする
2. ［OK］をクリックする

パソコンから本機を管理する（リモート UI）

23LX-07W

パソコンのウェブブラウザーを使って本機を遠隔操作し、待機中の文書を確認したり、本体状況を確認したりすることができます。本機の各種設定を行うことも可能です。ウェブブラウザーに本機の IP アドレスを入力すると「リモート UI」が起動しますので、これを使って遠隔操作します。デスクに居ながらにして本機を操作できますので大変便利です。

リモート UI でできること

- 状況や履歴を確認する(P. 420)
- 本機の設定を変更する(P. 425)
- リモート UI から宛先を登録する(P. 428)
- 設定データをインポート／エクスポートする(P. 432)

リモート UI の使いかた

- リモート UI を起動する(P. 417)

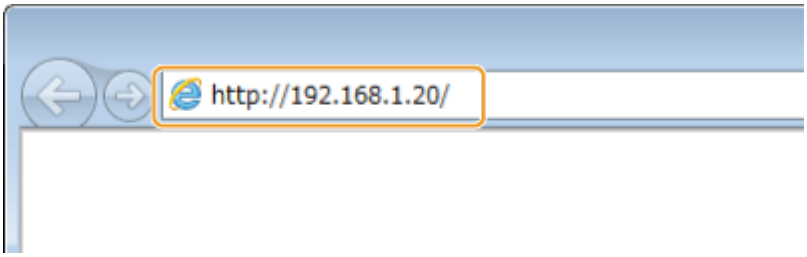
リモート UI を起動する

23LX-07X

遠隔操作は、ウェブブラウザーに本機の IP アドレスを入力し、リモート UI を起動させて行います。操作の前に、あらかじめ本機に設定されている IP アドレスを確認しておいてください（**ネットワークの設定を確認する(P. 39)**）。わからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 ウェブブラウザーを起動する

2 アドレス入力欄に「http://＜本機の IP アドレス＞/」と入力し、キーボードの［ENTER］を押す



- IPv6 アドレスを使用している場合は、IP アドレスを [ ] で囲み、次のような形式で入力してください：http://[fe80::2e9e:fcff:fe4e:dbce]/

MEMO

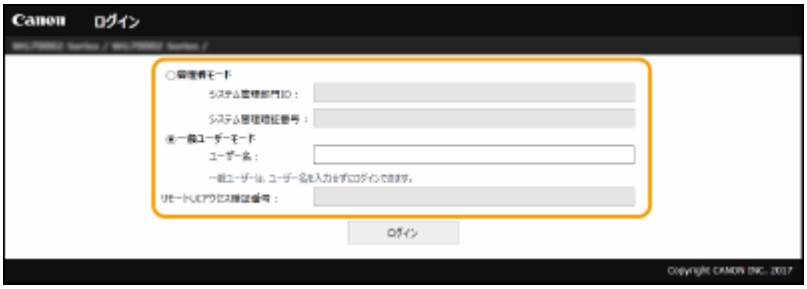
セキュリティーに関するメッセージが表示されたときは

- リモート UI の通信が暗号化されている場合（**TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)**）に、エラーメッセージが表示されることがあります。証明書や TLS の設定に問題がないときは、ウェブサイトの閲覧を続行してください。

3 リモート UI にログインする

■部門別 ID 管理が設定されていない場合

［管理者モード］または［一般ユーザーモード］を選び、必要に応じて［リモート UI アクセス暗証番号］を入力します。



［管理者モード］

リモート UI のすべての操作および設定ができます。システム管理部門 ID を設定している場合は、［システム管理部門 ID］と［システム管理暗証番号］を入力してください。**システム管理部門 ID と暗証番号を設定する(P. 351)**

［一般ユーザーモード］

印刷文書の確認、本機状態の確認、各種設定内容の確認ができます。待機中の印刷文書の確認や、待機をやめて印刷を中止したいときは、［ユーザー名］に文書のユーザー名を入力してください（文書のユーザー名には、パソコンのログオンユーザー名などが、印刷時に自動的に設定されています）。

［リモート UI アクセス暗証番号］
［リモート UI アクセス暗証番号］を設定している場合は、暗証番号を入力してください。 **リモート UI の暗証番号を設定する(P. 359)**

■部門別 ID 管理が設定されている場合

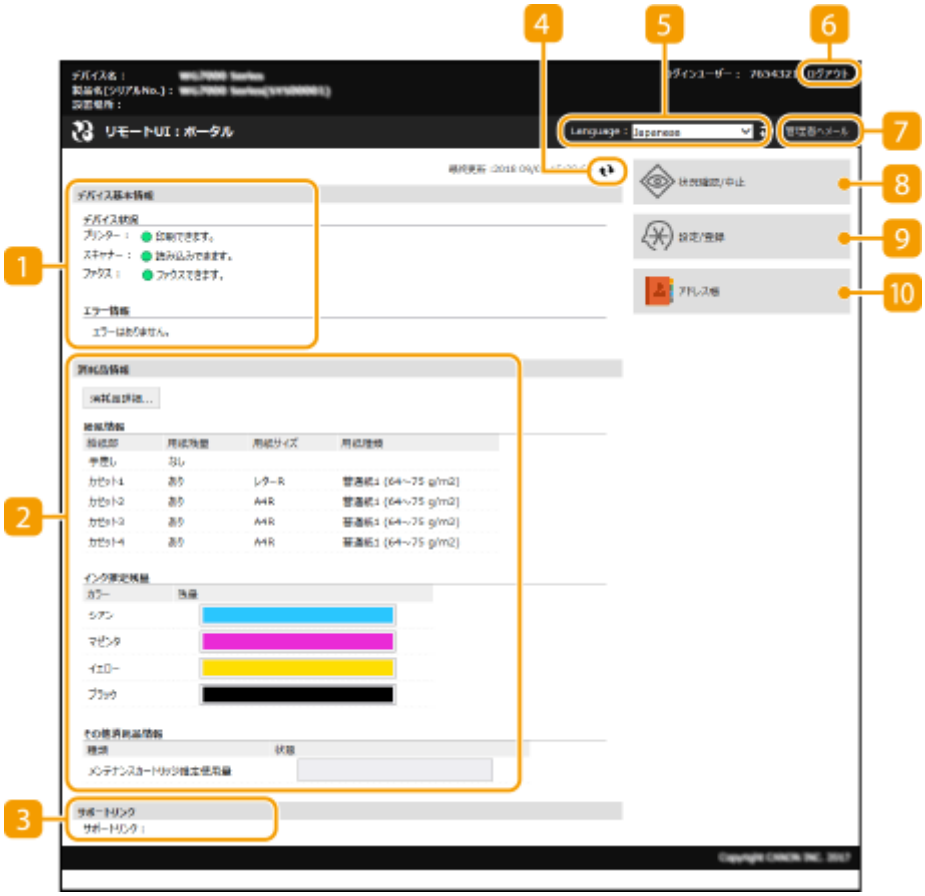
登録されている［部門 ID］と［暗証番号］を入力します。 **部門別 ID 管理を行う(P. 353)**

4 ［ログイン］をクリックする

➠ リモート UI のメイン画面（ポータルページ）が表示されます。 **リモート UI の画面について(P. 418)**

リモート UI の画面について

リモート UI にログインすると、次のポータルページが表示されます。このページに表示される項目と、基本的な使いかたについて説明します。



1 ［デバイス基本情報］

本機の現在の状況と、エラー情報が表示されます。エラーが発生している場合は、エラー情報ページへのリンクが表示されます。

2 ［消耗品情報］

用紙についての情報（残量やサイズなど）やインクの残量が表示されます。

3 ［サポートリンク］

［ライセンス/その他］の［サポートリンク］に設定されている本機のサポート情報へのリンクが表示されます。

4 更新アイコン

表示中のページを最新の情報に更新します。

5 ［Language］

リモート UI の表示言語を切り替えます。

6 ［ログアウト］

リモート UI をログアウトして、ログインページに戻ります。

7 ［管理者へメール］

［ユーザー管理］の［システム管理者情報］に設定されている管理者宛にメールを作成します。

8 ［状況確認/中止］

［状況確認/中止］ページが開きます。待機文書について、状況の確認、履歴の確認、処理の中止ができます。

9 ［設定/登録］

［設定/登録］ページが開きます。管理者モードでログインしているときは、設定内容を変更したり、設定データの保存／読み込みをしたりなどの操作ができます。 **本機の設定を変更する(P. 425)**

10 ［アドレス帳］

［アドレス帳］ページが開き、登録されている宛先が一覧表示されます。管理者モードでログインしているときは、アドレス帳の登録／編集ができます。 **リモート UI から宛先を登録する(P. 428)**

状況や履歴を確認する

23LX-07Y

- 印刷文書の状況を確認する(P. 420)
- 文書の履歴を確認する(P. 421)
- エラー情報を確認する(P. 421)
- 消耗品を確認する(P. 421)
- 最大印刷速度などを確認する(P. 422)
- 管理者情報を確認する(P. 422)
- プリントヘッドの状況を確認する(P. 423)
- 印刷ページ数を確認する(P. 423)

MEMO

- 文書のファイル名は途中までしか表示されないことがあります。また、印刷したアプリケーション名がファイル名に付加されることがあります。

印刷文書の状況を確認する

パソコンから印刷した文書の印刷状況（印刷中／印刷待機中）を確認できます。

リモート UI にログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［状況確認/中止］▶［ジョブ状況］

- ［中止］をクリックすると、印刷中／印刷待機中の文書を削除できます。

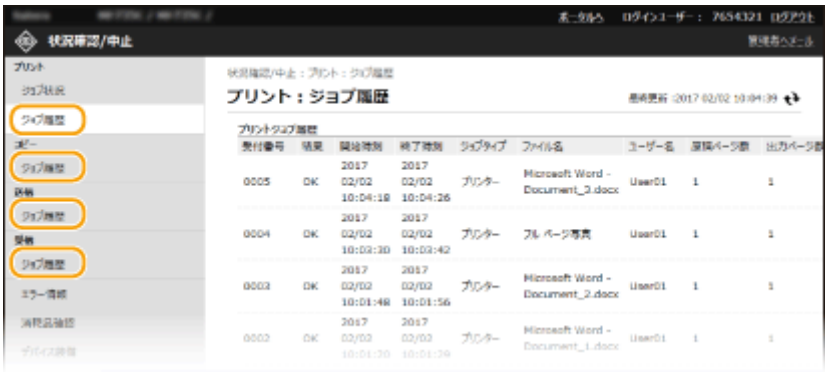
MEMO

- 部門別 ID 管理が設定されている場合、または管理者モードでログインした場合、部門 ID の設定に関係なく、すべての印刷文書の状況が表示されます。
- 一般ユーザーモードで、［ユーザー名］を入力してログインした場合、そのユーザーが印刷した文書だけが表示されます。
- 一時停止中の文書とセキュア文書で［受付番号］をクリックすると、文書の詳細情報が表示されます。ユーザー名や印刷枚数などの情報を確認できます。

文書の履歴を確認する

印刷、コピー、送信、受信の履歴が表示されます。

リモート UI にログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［状況確認/中止］▶［ジョブ履歴］



エラー情報を確認する

エラーが発生しているとき、ポータルページ（メイン画面）の［エラー情報］に表示されているメッセージをクリックすると、このページが表示されます。**リモート UI の画面について(P. 418)**

リモート UI にログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［状況確認/中止］▶［エラー情報］

消耗品を確認する

給紙部の用紙サイズや用紙種類、インクタンクの型番などが表示されます。ポータルページ（メイン画面）で、［消耗品詳細］をクリックしてもこのページを表示できます（**リモート UI の画面について(P. 418)**）。

リモート UI にログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［状況確認/中止］▶［消耗品確認］

最大印刷速度などを確認する

最大印刷速度や本機の装備についての情報が表示されます。

リモート UI にログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［状況確認/中止］▶［デバイス装備］

管理者情報を確認する

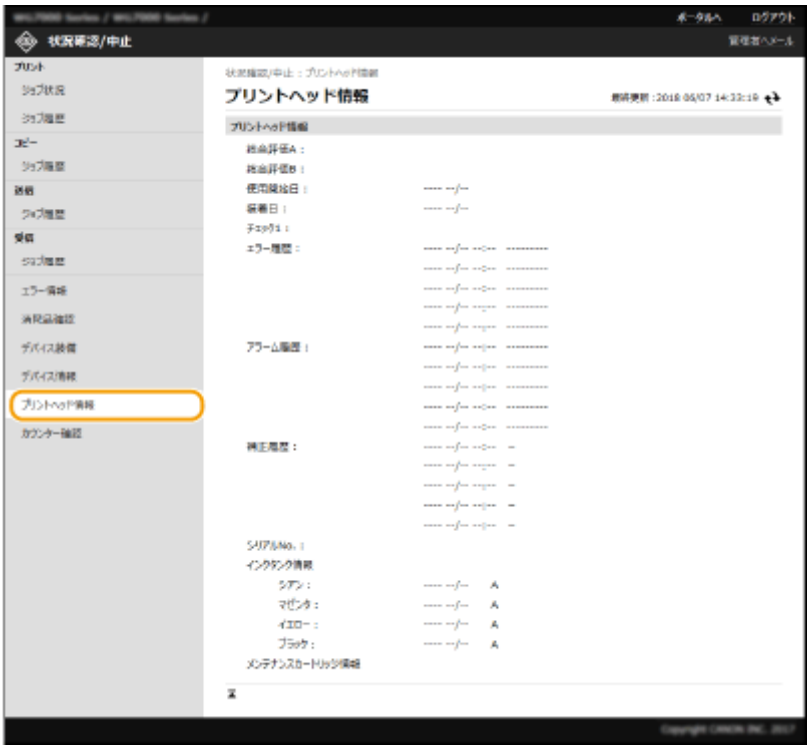
本体とシステム管理者についての情報が表示されます。ここに表示されているデバイス名やシステム管理者情報は、［ユーザー管理］の［システム管理者情報］や［デバイス管理］の［デバイス情報設定］で設定したものです。

リモート UI にログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［状況確認/中止］▶［デバイス情報］

プリントヘッドの状況を確認する

プリントヘッドの利用実績などを確認できます

リモート UI にログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［状況確認/中止］▶［プリントヘッド情報］



印刷ページ数を確認する

印刷、コピー、ファクス受信で、今までに印刷された文書の合計ページ数が表示されます。

リモート UI にログインする（**リモート UI を起動する(P. 417)**）▶［状況確認/中止］▶［カウンター確認］

関連項目

リモート UI の画面について(P. 418)

本機の設定を変更する

23LX-080

リモート UI を使って、パソコン側から本機のさまざまな設定を登録／変更できます。ほとんどの項目は本機の操作パネルで設定できますが、リモート UI でしか設定できない項目もあります。ここでは、リモート UI を使って本機の設定を変更する基本的な流れを説明します。

MEMO

- 一部の項目は、管理者モードでログインした場合にのみ変更できます。
- 設定項目によっては、ここで説明している手順と異なる操作が必要な場合があります。

1 **リモート UI を起動する** リモート UI を起動する(P. 417)

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** リモート UI の画面について(P. 418)

3 **画面左側のメニューから設定したい項目をクリックする**

4 **必要に応じてリンクをクリックし、目的のページを表示する**

5 ［編集］をクリックする

6 必要な項目を設定する

7 ［OK］をクリックする

8 必要に応じて本機を再起動する

- 電源を切り、10 秒待って再び電源を入れます。

MEMO

- 本機の再起動が必要かどうかは、編集画面内のメッセージを参考にしてください。

リモート UI から宛先を登録する

23LX-081

パソコンを使って本機のアドレス帳に宛先を登録したり、登録済み宛先の内容を編集したりすることができます。共有フォルダーや FTP サーバーの宛先はここで設定します。

MEMO

- 管理者モードでログインした場合にのみ、設定を変更できます。

1 リモート UI を起動する リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［アドレス帳］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

MEMO

暗証番号の入力ページが表示された場合は

- アドレス帳が暗証番号で保護されています。［暗証番号］を入力して、［OK］をクリックします。

3 ［短縮ダイヤル］をクリックする

- ［ベストメンバー］をクリックして、ベストメンバーを登録することもできます。 ベストメンバー(P. 186)

4 「未登録」と表示されている項目の［番号］、［種類］または［名称］をクリックする

MEMO

- 登録済みの［番号］、［種類］または［名称］をクリックすると、登録内容を編集できます。
- ［削除］をクリックすると、登録済みの宛先を削除できます。
- アドレス帳から宛先を削除すると、よく使う設定からも宛先が削除されます。 よく使う設定を登録する(P. 178)

5 登録する宛先の種類を選び、［OK］をクリックする

- 共有フォルダーや FTP サーバーの宛先を登録する場合は［ファイル］を選びます。

6 宛先を設定する

■ファクスの宛先を登録する場合

[名称]
宛先の名称を入力します。

[ファクス番号]
宛先のファクス番号を入力します。

[ECM 送信する]
チェックマークを付けると、送信中の画像にエラーが発生した場合、乱れた画像をそのまま送信しないようエラーチェックと修正を行います。

[送信スピード]
電話回線の状態が悪いときなど、送信が始まるまでに時間がかかる場合に、通信開始速度を下げて調整します。

[国際送信]
海外のファクス番号を登録する場合、通信状態に合わせて［国際送信(1)］～［国際送信(3)］の順に設定します。

MEMO

- ［ECM 送信する］および［送信スピード］は、操作パネルの＜ファクス設定＞（**＜送信＞(P. 508)**）からも設定できますが、アドレス帳に登録されている宛先は、アドレス帳での設定が有効になります。

■E メールや I ファクスの宛先を登録する場合

[名称]
宛先の名称を入力します。

[E メールアドレス] ／ [I ファクスアドレス]
宛先の E メールアドレスを入力します。

■共有フォルダーや FTP サーバーの宛先を登録する場合

[名称]
宛先の名称を入力します。

[プロトコル]
宛先のプロトコルを選びます。

[Windows(SMB)]	共有フォルダーの宛先を登録する場合に選びます。
[FTP]	FTP サーバーの宛先を登録する場合に選びます。

[ホスト名]

- 共有フォルダーの場合
  パソコンのコンピューター名または IP アドレスを入力します。共有フォルダーへのパスを含めて指定することもできます（入力例：「\\swan\share」または「\\192.168.2.100\share」）。
- FTP サーバーの場合
  FTP サーバーの IP アドレスを入力します（入力例：「192.168.2.100」）。

MEMO

DNS サーバーを使用しているとき

- コンピューター名や IP アドレスの代わりにホスト名（または FQDN）を入力することもできます（共有フォルダーの入力例：「\\swan.organization.company.com\share」）。

［フォルダーへのパス］
データを送信するフォルダーの場所を入力します。

- 共有フォルダーの場合
  区切り文字は「\」を使用して入力します。［ホスト名］で指定したパスに続く階層を指定します。
- FTP サーバーの場合
  区切り文字は「/」を使用して入力します。先頭に「/」を指定した場合は絶対パス、省略した場合はログインユーザーのカレントディレクトリーからの相対パスになります。

［ユーザー名］
共有フォルダーまたは FTP サーバーで設定しているユーザー名を入力します。

［パスワードを変更する］
共有フォルダーまたは FTP サーバーでパスワードを設定しているときは、チェックマークを付け、［パスワード］を入力します。

ご注意

パソコンとリモート UI の表示言語を合わせる

- ［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されないことや、参照できないことがあります。

7 ［OK］をクリックする

関連項目

リモート UI の画面について(P. 418)
設定データをインポート／エクスポートする(P. 432)
アドレス帳リスト(P. 664)

設定データをインポート／エクスポートする

23LX-082

アドレス帳のデータや本機の各種設定値を書き出して（エクスポート）、パソコンに保存できます。また、パソコンに保存したデータを読み込む（インポート）ことも可能です。本機からエクスポートしたデータは他機にもインポート可能ですので、アドレス帳の宛先などを複数のマシンにかんたんにコピーすることができます*。なお、この機能を使うためには管理者モードでログインしている必要があります。

*機種によっては、本機からエクスポートしたアドレス帳のデータをインポートできない場合があります。また、本機の各種設定値は同一機種間でのみインポート／エクスポートが可能です。

設定データをエクスポートする(P. 432)
設定データをインポートする(P. 433)

ご注意

インポートやエクスポートが完了するまでは電源を切らない

- 処理が完了するまで数分かかることがあります。処理中に電源を切ると、データが破損したり、本機が故障したりする恐れがあります。

インポート中やエクスポート中は本機の操作をしない

- インポートやエクスポートをする前に、本機が印刷などの処理中でないことを確認してください。

MEMO

- インポートやエクスポートができない設定項目については、 **設定メニュー一覧(P. 440)** を参照してください。
- 本機の操作パネルから USB メモリーを介して設定データのインポート／エクスポートをすることもできます。 **<インポート / エクスポート>(P. 543)**
- リモート UI から本機を設定するときの基本操作は、 **本機の設定を変更する(P. 425)** を参照してください。

設定データをエクスポートする

アドレス帳のデータや本機の各種設定値を書き出して（エクスポート）、パソコンに保存できます。大切な設定データは定期的にバックアップをしておくことをおすすめします。

1 **リモート UI を起動し、管理者モードでログインする** **リモート UI を起動する(P. 417)**

2 **ポータルページで、［設定/登録］をクリックする** **リモート UI の画面について(P. 418)**

3 **［データ管理］▶［エクスポート］の順に進む**

4 エクスポートする項目を選び、暗号化パスワードを設定する

[アドレス帳]
アドレス帳のデータをエクスポートするときは、チェックマークを付けます。

[アドレス帳の暗証番号]
アドレス帳に暗証番号が設定されているときは、アドレス帳の暗証番号を入力します。 **アドレス帳の使用を制限する(P. 403)**

[設定/登録]
本機の各種設定値をエクスポートするときは、チェックマークを付けます。

[暗号化パスワード]
エクスポートデータを暗号化するパスワードを半角英数字で入力します。同じパスワードを［確認入力］に入力してください。パスワードを設定しないと、データのエクスポートはできません。

MEMO

- パスワードはエクスポートしたデータをインポートする際に必要となります。 **設定データをインポートする(P. 433)**

5 ［エクスポート開始］をクリックする

6 画面の指示に従って、データを保存する場所を指定する

➠ 本機の設定値や登録内容のデータが保存されます。

設定データをインポートする

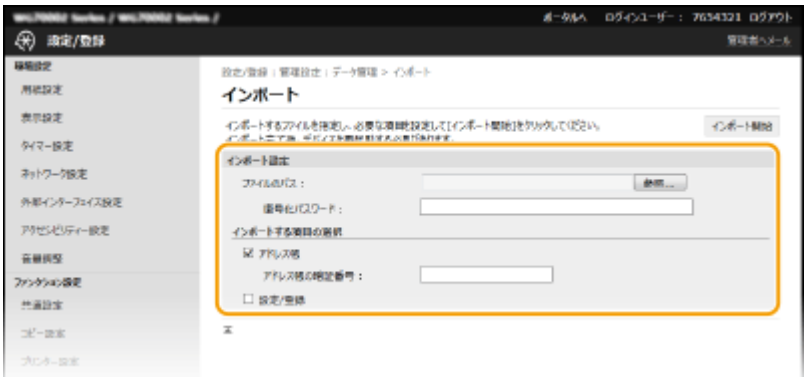
本機から書き出したデータを読み込みます（インポート）。同一機種間であれば、他機の各種設定値を本機で読み込むこともできます。また、本機にセキュリティーポリシーを適用する場合もここの手順でセキュリティーポリシーファイルを指定します。

1 リモート UI を起動し、管理者モードでログインする リモート UI を起動する(P. 417)

2 ポータルページで、［設定/登録］をクリックする リモート UI の画面について(P. 418)

3 ［データ管理］▶［インポート］の順に進む

4 ファイルの指定とパスワードの入力を行い、インポートする項目を選ぶ



［ファイルのパス］
［参照］をクリックしてファイルを選択します。

［復号化パスワード］
エクスポートしたときに設定したパスワードを入力します。

［アドレス帳］
アドレス帳のデータをインポートするときは、チェックマークを付けます。

ご注意

- アドレス帳のデータをインポートすると、本機に現在登録されているアドレス帳が上書きされます。

［アドレス帳の暗証番号］
アドレス帳に暗証番号が設定されているときは、アドレス帳の暗証番号を入力します。 **アドレス帳の使用を制限する(P. 403)**

［設定/登録］
本機の各種設定値をインポートするときは、チェックマークを付けます。

5 ［インポート開始］をクリックする

6 ［OK］をクリックする

➠ 選択した設定データが本機に読み込まれます。

7 ［OK］をクリックする

➠ 手順 4 で［設定/登録］にチェックマークを付けたときは、本機が自動的に再起動します。

ファームウェアをアップデートする

23LX-083

ファームウェアの更新は、本機の設置状況に応じて更新方法を選択します。本機からインターネット経由でファームウェアを確認して更新する方法と、ダウンロードしたファームウェアをパソコンから更新する方法があります。無線 LAN 接続でインターネットに接続できない環境の場合は、有線 LAN または USB で接続しなおしてパソコンから更新を行ってください。

本機の設置状況	更新方法
無線 LAN 接続	**インターネット経由で更新する(P. 435)**
有線 LAN 接続	**インターネット経由で更新する(P. 435)** **パソコンから更新する(P. 436)**
USB 接続	**パソコンから更新する(P. 436)**

ご注意

- IPv6 環境ではファームウェア更新を行えません。USB で接続しなおしてパソコンから更新を行ってください。

MEMO

ファームウェアのバージョンを確認するには

- 操作パネルからファームウェアのバージョンを確認できます。ファームウェアを更新したあとは、正しく更新されたことを確認してください。 **ファームウェアのバージョンを確認する(P. 436)**

インターネット経由で更新する

本機からキヤノンのサーバーにアクセスして最新のファームウェアに更新します。

1 **ホーム画面で、＜ファームウェア更新＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

➠ 最新のファームウェアが存在するかどうかが確認されます。

MEMO

- ＜お使いのファームウェアは最新です。＞が表示されたときは、ファームウェアを更新する必要はありません。

2 **利用許諾画面が表示されるので、＜同意する＞を選ぶ**

3 **＜ OK ＞を選ぶ**

➠ ファームウェアの更新が終わると、本機が自動的に再起動します。

ご注意

- 再起動が完了するまで本機の電源は切らないでください。

パソコンから更新する

キヤノンホームページから最新のファームウェアをダウンロードしたときは、ユーティリティーソフトウェア「User Support Tool」を使用してパソコンからファームウェアを更新します。パソコンからのファームウェアの更新方法はファームウェアに同梱されている「User Support Tool 操作ガイド」を参照してください。

本機を更新待機状態にするには

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜リモート UI 設定 / ファームウェア更新＞ ▶ ＜ファームウェア更新＞ ▶ ＜ PC 経由＞ ▶ ＜はい＞

ファームウェアのバージョンを確認する

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

2 ＜管理設定＞を選ぶ

- ログイン画面が表示されたら、ID と暗証番号を入力します。 **ログインする(P. 131)**

3 ＜リモート UI 設定 / ファームウェア更新＞ ▶ ＜ファームウェア更新＞の順に進む

4 ＜バージョン情報＞を選ぶ

➠ 現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

MEMO

ファームウェアのバージョンを確認する

- ＜状況確認＞ ▶ ＜デバイス情報＞ ▶ ＜バージョン情報＞で確認することもできます。

設定を初期化する

23LX-084

設定内容を初期化して、お買い上げ時の値に戻すことができます。

メニューを初期化する(P. 437)
鍵と証明書の設定を初期化する(P. 437)
アドレス帳を初期化する(P. 438)
すべてのデータ／設定を初期化する(P. 438)

メニューを初期化する

各種設定項目（**設定メニュー一覧(P. 440)**）の設定値を初期化して、お買い上げ時の値に戻すことができます。設定項目によっては初期化後に本機を再起動する必要があります。

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜データ管理＞ ▶ ＜メニューの初期化＞ ▶ 初期化する対象を選択 ▶ ＜はい＞ ▶ 🏠 ▶ 必要に応じて本機を再起動

MEMO

- ＜環境設定＞の＜ネットワーク＞だけをお買い上げ時の値に戻すことができます。
  ＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ネットワーク設定の初期化＞ ▶ ＜はい＞ ▶ 本機を再起動

鍵と証明書の設定を初期化する

鍵と証明書の設定と CA 証明書の設定を初期化して、お買い上げ時の値に戻すことができます。初期化すると、登録した鍵と証明書や CA 証明書（プリインストールされている鍵や CA 証明書は除く）が消去されます。

MEMO

- 初期化すると、鍵と証明書が必要な機能（TLS 暗号化通信や IPSec 通信の IKE など）が使えなくなります。これらの機能を使うには、もう一度鍵と証明書を設定してから機能を有効にしてください。

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜データ管理＞ ▶ ＜鍵と証明書の初期化＞ ▶ ＜はい＞ ▶ 🏠

アドレス帳を初期化する

アドレス帳の設定を初期化してお買い上げ時の値に戻すことができます。初期化すると登録されている宛先がすべて消去されます。

<メニュー> ▶ <管理設定> ▶ <データ管理> ▶ <アドレス帳の初期化> ▶ <はい> ▶ 🏠

すべてのデータ／設定を初期化する

履歴などを含めたデータや設定値をすべてお買い上げ時の状態に戻します。本機の交換や廃棄時に機密データが外部に流失するのを防ぐことができます。初期化が終了すると自動的に再起動します。

ご注意

- 初期化の前に、処理中や待機中の文書がないか確認してください。初期化を行うとこれらの文書は削除されます。
- 初期化したあとに本機を使用するには、すべての設定を最初からやりなおす必要があります。

<メニュー> ▶ <管理設定> ▶ <全データ / 設定の初期化> ▶ <はい> ▶ <はい>

関連項目

TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)
宛先を登録する(P. 186)
リモート UI から宛先を登録する(P. 428)

設定メニュー一覧

設定メニュー一覧 440
＜環境設定＞ 441
＜表示設定＞ 442
＜英語キーボードの配列＞ 445
＜タイマー / 電力設定＞ 446
＜ネットワーク＞ 450
＜外部インターフェイス＞ 464
＜アクセシビリティー＞ 465
＜調整 / メンテナンス＞ 466
＜画質調整＞ 467
＜メンテナンス＞ 475
＜ファンクション設定＞ 478
＜共通＞ 479
＜コピー＞ 486
＜プリンター＞ 489
＜送信＞ 508
＜受信 / 転送＞ 521
＜ファイル保存 / 利用＞ 528
＜セキュアプリント＞ 535
＜宛先設定＞ 536
＜管理設定＞ 537
＜ユーザー管理＞ 538
＜デバイス管理＞ 539
＜リモート UI 設定 / ファームウェア更新＞ 541
＜データ管理＞ 543
＜セキュリティー設定＞ 545

設定メニュー一覧

23LX-0H0

お客様の利用状況や環境に合わせて本機をカスタマイズしたいときに設定メニューを使用します。設定メニューは、ホーム画面で＜メニュー＞を選ぶと表示されます（ **ホーム画面(P. 120)** ）。設定メニューの各項目で何が設定できるのかを説明しています。

＜環境設定＞(P. 441)	ディスプレーの表示やネットワークの設定について説明しています。
＜調整 / メンテナンス＞(P. 466)	出力紙の画質調整や本機の清掃機能について説明しています。
＜ファンクション設定＞(P. 478)	機能ごとの設定について説明しています。
＜宛先設定＞(P. 536)	アドレス帳の設定について説明しています。
＜管理設定＞(P. 537)	ユーザーやハードウェアの情報管理、セキュリティー設定などについて説明しています。

便利な機能

- 現在の設定内容を印刷して確認することができます。 **設定内容のリストを印刷する(P. 664)**

＜環境設定＞

23LX-086

項目	説明
＜表示設定＞(P. 442)	ディスプレーの表示に関する設定について説明しています。
＜英語キーボードの配列＞(P. 445)	USB キーボードの設定について説明しています。
＜タイマー / 電力設定＞(P. 446)	節電までの時間／時刻表示などの設定について説明しています。
＜ネットワーク＞(P. 450)	ネットワークの設定について説明してします。
＜外部インターフェイス＞(P. 464)	USB 接続などの設定について説明しています。
＜アクセシビリティー＞(P. 465)	画面の色反転やメッセージの表示時間など、アクセシビリティーに配慮した設定ができます。

＜表示設定＞

23LX-087

ディスプレーの表示に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜起動 / 復帰後に表示する画面＞(P. 442)
＜ホーム画面のボタン表示設定＞(P. 442)
＜表示言語の切替＞(P. 443)
＜リモート UI 表示言語の切替＞(P. 443)
＜原稿読取部の清掃表示＞(P. 443)
＜ mm /インチ入力の切替＞(P. 444)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

＜起動 / 復帰後に表示する画面＞

電源を入れた直後やオートクリアからの復帰直後はホーム画面が表示されます（お買い上げ時の設定）。これを他の機能の画面に変更したいときに設定します。

＜ホーム＞
＜コピー＞
＜ファクス＞
＜スキャン＞
＜セキュアプリント＞
＜状況確認＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜表示設定＞ ▶ ＜起動 / 復帰後に表示する画面＞ ▶ 表示する画面を選択 ▶ 🏠

＜ホーム画面のボタン表示設定＞ *

ホーム画面のボタン表示に関する設定をします。ショートカットボタンとして表示させる設定の選択や、ボタンの表示順の変更、空白（スペース）の挿入や削除を行うことができます。 **ホーム画面をカスタマイズする(P. 175)**

・＜表示ボタンの選択＞
　＜コピーのよく使う設定＞
　＜ファクスのよく使う設定＞
　＜スキャンのよく使う設定＞

・＜表示順番の設定＞

＜表示言語の切替＞

操作パネルの画面やレポートに表示される言語を切り替えるときに設定します。

＜ English ＞
＜日本語＞
＜ Français ＞
＜ Español ＞
＜ Deutsch ＞
＜ Italiano ＞
＜中文(简体)＞
＜中文(繁體)＞
＜한국어＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜表示設定＞ ▶ ＜表示言語の切替＞ ▶ 言語を選択 ▶ ＜はい＞ ▶ 🏠

＜リモート UI 表示言語の切替＞

リモート UI の表示言語を切り替えるときに設定します。

＜ English ＞
＜ Japanese ＞
＜ French ＞
＜ Spanish ＞
＜ German ＞
＜ Italian ＞
＜ Chinese (Simplified)＞
＜ Chinese (Traditional)＞
＜ Korean ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜表示設定＞ ▶ ＜リモート UI 表示言語の切替＞ ▶ 言語を選択 ▶ 🏠

＜原稿読取部の清掃表示＞

フィーダーの原稿読み取りエリアで汚れを検出したときに、メッセージを表示するかどうかを設定します。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

<メニュー> ▶ <環境設定> ▶ <表示設定> ▶ <原稿読取部の清掃表示> ▶ < OFF >または< ON >を選択 ▶ 🏠

< mm /インチ入力の切替>

長さの単位を選びます。

< mm > <インチ>

<メニュー> ▶ <環境設定> ▶ <表示設定> ▶ < mm /インチ入力の切替> ▶ < mm >または<インチ>を選択 ▶ 🏠

＜英語キーボードの配列＞

23LX-088

本機に接続する USB キーボードの配列を設定します。

＜ USA 配列＞ ＜ UK 配列＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜英語キーボードの配列＞ ▶ ＜ USA 配列＞または＜ UK 配列＞を選択 ▶ 🏠

＜タイマー / 電力設定＞

23LX-089

時間や節電に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

- ＜現在日時の設定＞(P. 446)
- ＜日付 / 時刻設定＞(P. 446)
- ＜日付の形式＞(P. 447)
- ＜時刻の形式＞(P. 447)
- ＜オートクリア＞(P. 447)
- ＜オートクリア後の機能＞(P. 448)
- ＜オートスリープ＞(P. 448)
- ＜オートスリープ時刻の設定＞(P. 448)
- ＜スリープ復帰時刻の設定＞(P. 449)
- ＜インク品質保持＞(P. 449)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

＜現在日時の設定＞ *

現在の日時と時刻を設定します。 日付／時刻を設定する(P. 13)

ご注意

- ここでの設定を行う前に、まず次の＜タイムゾーン＞を設定してください。＜タイムゾーン＞をあとで設定すると、ここでの設定は自動的に変更されてしまいます。

＜日付 / 時刻設定＞

本機を設置する地域に合わせて日時の基準を設定します。

＜タイムゾーン＞

タイムゾーンを設定します。タイムゾーンを変更すると、それに合わせて＜現在日時の設定＞で設定した値も自動的に変更されます。 日付／時刻を設定する(P. 13)

<(UTC-12:00) 国際日付変更線 西側>～**<(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京>**～<(UTC+14:00) クリスマス島>

MEMO

UTC とは

- UTC とは世界各地の基準となる協定世界時のことで、日本は UTC との間に ＋ 9 時間の時差があります。インターネットを介した通信では、正しく設定することが前提となっています。

<日付の形式>

年月日の表示順序を設定します。

<年 月 / 日>
<月 / 日 / 年>
<日 / 月 年>

<メニュー> ▶ <環境設定> ▶ <タイマー / 電力設定> ▶ <日付の形式> ▶ 形式を選択 ▶ 🏠

<時刻の形式>

時刻の表示形式を設定します。

< 12 時間表示 (AM / PM)>
< 24 時間表示>

<メニュー> ▶ <環境設定> ▶ <タイマー / 電力設定> ▶ <時刻の形式> ▶ 形式を選択 ▶ 🏠

<オートクリア>

一定時間キー操作をしないと、その時点の設定は初期値に戻ります（オートクリア）。オートクリアされるまでの時間を指定します。なお、以下の場合にはオートクリアされません。

- メニュー画面が表示されているとき
- 文書の出力やファクスの送受信など、何らかの動きが進行中のとき
- 画面にエラーメッセージが表示され、エラーランプが点滅しているとき（ただし、エラーでも続行可能な機能の場合にはオートクリアされます）

・<オートクリア移行する>
< OFF >
< ON >

＜オートクリア移行時間＞

1～**2**～9（分）

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜タイマー / 電力設定＞ ▶ ＜オートクリア＞ ▶ ＜オートクリア移行する＞で＜ ON ＞を選択 ▶ ＜オートクリア移行時間＞に時間を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

MEMO

- オートクリア後にどの機能の画面を表示させるかは、次の＜オートクリア後の機能＞で設定できます。

＜オートクリア後の機能＞

オートクリア直後に表示される画面について設定します。＜復帰する＞に設定すると、＜起動 / 復帰後に表示する画面＞で設定した機能の画面が表示されます（ **＜起動 / 復帰後に表示する画面＞(P. 442)** ）。＜復帰しない＞に設定すると、オートクリア直前に使用していた機能の画面が表示されます。

＜復帰する＞
＜復帰しない＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜タイマー / 電力設定＞ ▶ ＜オートクリア後の機能＞ ▶ ＜復帰する＞または＜復帰しない＞を選択 ▶ 🏠

＜オートスリープ＞

キー操作もなく、ファクスの送受信などもない状態が一定時間続くと、自動的に節電状態（オートスリープ）になります。オートスリープになるまでの時間を指定します。なお、メニュー画面が表示されているときは、オートスリープになりません。お買い上げ時の設定でお使いになることをおすすめします。 **スリープモードにする(P. 184)**

5 ～ 120（分）

＜オートスリープ時刻の設定＞

自動的にスリープ状態にする時刻を設定できます。 **スリープモードにする(P. 184)**

・＜オートスリープ時刻を指定する＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
（0:00～23:59）

＜スリープ復帰時刻の設定＞

スリープ状態から復帰する時刻を設定します。 **スリープモードにする(P. 184)**

・＜スリープ復帰時刻を指定する＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
（0:00～23:59）

＜インク品質保持＞

インク品質保持の実行時刻を設定します。インク品質保持の実行時刻を OFF にすると、メンテナンスにより印字が中断される可能性が高くなります。お買い上げ時の設定でお使いになることをお勧めします。

・＜ｲﾝｸ品質保持実行時刻を指定する＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
（0:00～**7:30**～23:59）

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜タイマー / 電力設定＞ ▶ ＜インク品質保持＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 🏠

MEMO

- インク品質保持中は、印字が開始できるようになるまでに時間がかかります。そのため、オフィスなどでは就業前の時刻に設定しておくことで、待たずに印字を開始することができます。
- インク品質保持など、メンテナンスの実行時刻に主電源がオフの状態だった場合、次回起動時に自動的にメンテナンスが行われます。

＜ネットワーク＞

23LX-08A

ネットワークに関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜有線 / 無線 LAN 選択＞(P. 450)
＜無線 LAN 設定＞(P. 450)
＜ダイレクト接続設定＞(P. 452)
＜ TCP / IP 設定＞(P. 453)
＜ SNMP 設定＞(P. 459)
＜専用ポートを使用＞(P. 460)
＜専用ポートの認証方式＞(P. 460)
＜起動時の接続待機時間＞(P. 461)
＜ Ethernet ドライバー設定＞(P. 461)
＜ IEEE 802.1X を使用＞(P. 461)
＜ファイアウォール設定＞(P. 462)
＜デバイス設定値管理＞(P. 463)
＜ RMT - SW ＞(P. 463)
＜ネットワーク設定の初期化＞(P. 463)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

＜有線 / 無線 LAN 選択＞

無線 LAN から有線 LAN に切り替えるときに設定します。逆に有線 LAN から無線 LAN に切り替えるときは、この設定は必要ありません（次の＜無線 LAN 設定＞で切り替えできます）。 **有線 LAN か無線 LAN かを選択する(P. 17)**

＜有線 LAN ＞ ＜無線 LAN ＞

＜無線 LAN 設定＞

本機を無線 LAN に接続するための設定を行います。設定の確認や節電のための設定もできます。

＜ SSID 設定＞

SSID やネットワークキーなどの情報を操作パネルから手動入力して無線 LAN 接続を設定します。

＜アクセスポイント選択＞

本機と接続可能な無線 LAN ルーターが自動的に探索されますので、一覧から選びます。WEP キーや PSK などのネットワークキーは手動で入力します。 **無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)**

＜詳細入力＞

無線 LAN 接続の設定をすべて手動入力で行います。セキュリティーの設定などを詳しく指定したい場合や、他の方法で接続できない場合に選択します。 **すべて入力して設定する(P. 28)**

・＜セキュリティー設定＞
＜なし＞
＜ WEP ＞
＜オープンシステム＞
WEP キー 1～4
＜共有キー＞
WEP キー 1～4
＜ WPA / WPA2 - PSK ＞
＜自動＞
＜ AES - CCMP ＞

＜ WPS プッシュボタン方式＞

WPS 対応無線 LAN ルーターのボタンを使って無線 LAN 接続を自動設定します。 **WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式）(P. 21)**

＜ WPS PIN コード方式＞

WPS 対応無線 LAN ルーターに PIN コードを入力して無線 LAN 接続を設定します。 **WPS PIN コード方式で設定する(P. 23)**

＜ AOSS ＞

AOSS 対応無線 LAN ルーターのボタンを使って無線 LAN 接続を自動設定します。 **WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式）(P. 21)**

＜らくらく無線スタート＞

らくらく無線スタート対応無線 LAN ルーターのボタンを使って無線 LAN 接続を自動設定します。 **WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式）(P. 21)**

＜パワーセーブモード＞

無線 LAN ルーターが発する信号に合わせて本機を節電状態にするかどうかを設定します。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜無線 LAN 設定＞ ▶ メッセージを確認 ▶ ＜ OK ＞ ▶ ＜パワーセーブモード＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 🏠

＜接続情報＞*

現在の無線 LAN についての設定を確認します。 **ネットワークの設定を確認する(P. 39)**

＜ MAC アドレス＞
＜無線 LAN 状態＞
＜最新のエラー情報＞
＜チャンネル＞
＜ SSID 設定＞
＜セキュリティー設定＞
＜パワーセーブモード＞

＜ダイレクト接続設定＞

ダイレクト接続の機能を有効にすると、アクセスポイントや無線 LAN ルーターのない環境でも、モバイル機器から無線で直接本機に接続できます。 **ダイレクト接続する（アクセスポイントモード）(P. 340)**

＜ダイレクト接続を使用＞

ダイレクト接続をするかどうかを設定します。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜ダイレクト接続の自動切断＞

ダイレクト接続を開始してから自動的に切断する時間を設定します。

・＜自動切断する＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜自動切断時間＞
1 ～ 60（分）

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ダイレクト接続設定＞ ▶ ＜ダイレクト接続の自動切断＞ ▶ ＜自動切断する＞で＜ ON ＞を選び、時間を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜アクセスポイントモード設定＞

任意の SSID／ネットワークキーを設定します。モバイル機器を複数台同時にダイレクト接続したいときは、SSID およびネットワークキーを両方とも任意に設定する必要があります。

・＜任意の SSID を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ SSID ＞
・＜任意のネットワークキーを使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ネットワークキー＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ダイレクト接続設定＞ ▶ ＜アクセスポイントモード設定＞ ▶ 各項目で＜ ON ＞を選び、＜ SSID ＞／＜ネットワークキー＞を選択 ▶ SSID／ネットワークキーを入力 ▶ ＜確定＞ ▶ ＜確定＞ ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜ TCP / IP 設定＞

IP アドレスの設定など、本機を TCP/IP ネットワークで使用するための設定をします。

＜ IPv4 設定＞

IPv4 を使ったネットワークで本機を使用するための各種設定を行います。

＜ IP アドレス設定＞

TCP/IP ネットワークでパソコンやプリンターなどの通信機器を特定するための IP アドレスを設定します。また、設定した内容を確認することもできます。 **IPv4 アドレスを設定する(P. 33)**

- ＜自動取得設定＞
  ＜自動取得＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞
  ＜プロトコル選択＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ DHCP ＞
  ＜ Auto IP ＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜手動取得＞
  ＜ IP アドレス＞：0.0.0.0
  ＜サブネットマスク＞：0.0.0.0
  ＜ゲートウェイアドレス＞：0.0.0.0

- ＜設定確認＞

＜ DHCP オプション設定＞

DHCP が有効な場合に、DHCP オプション機能を使って DNS サーバーアドレスの取得やドメイン名の取得をするかどうかを設定します。 **DNS の設定をする(P. 57)**

- ＜ホスト名の取得＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜ DNS の動的更新＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜ DNSｻｰﾊﾞｰｱﾄﾞﾚｽの取得＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜ドメイン名の取得＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜ WINSｻｰﾊﾞｰｱﾄﾞﾚｽの取得＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜ SMTPｻｰﾊﾞｰｱﾄﾞﾚｽの取得＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜ POPｻｰﾊﾞｰｱﾄﾞﾚｽの取得＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

＜ PING コマンド＞

本機とパソコンがネットワーク上で接続されているかどうかを確認します。 **接続テストをする(P. 34)**

＜ IPv6 設定＞

IPv6 を導入したネットワークで本機を使用するための各種設定を行います。 **IPv6 アドレスを設定する(P. 36)**

＜ IPv6 を使用＞

IPv6 を使用するかどうかを設定します。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜ IPv6 設定確認＞

自動取得されるリンクローカルアドレスを確認できます。

＜ステートレスアドレス設定＞

ステートレスアドレスを使用するかどうかを設定します。また、設定した内容を確認することもできます。

- ＜ｽﾃｰﾄﾚｽｱﾄﾞﾚｽを使用＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜設定確認＞
  ＜確認アドレスの選択＞
  ＜ステートレスアドレス＞
  ＜プレフィックス長＞

＜ DHCPv6 設定＞

DHCPv6 から取得するステートフルアドレスを使用するかどうかを設定します。また、設定した内容を確認することもできます。

- ＜ DHCPv6 を使用＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

- ＜設定確認＞
  ＜ステートフルアドレス＞
  ＜プレフィックス長＞

＜DHCP オプション設定＞

DHCP が有効な場合に、DHCP オプション機能を使って DNS サーバーアドレスの取得やドメイン名の取得をするかどうかを設定します。 **DNS の設定をする(P. 57)**

- ＜DNSｻｰﾊﾞｰｱﾄﾞﾚｽの取得＞
  ＜OFF＞
  ＜ON＞

- ＜ドメイン名の取得＞
  ＜OFF＞
  ＜ON＞

＜DNS 設定＞

ホスト名を IP アドレスに変換する Domain Name System（DNS）の設定をします。 **DNS の設定をする(P. 57)**

＜IPv4 の DNS サーバーアドレス設定＞

IPv4 の DNS サーバーの IP アドレスを設定します。

＜プライマリー DNS サーバー＞：0.0.0.0
＜セカンダリー DNS サーバー＞：0.0.0.0

＜DNS のホスト名 / ドメイン名設定＞

DNS サーバーに登録する本機のホスト名と属しているドメイン名を IPv4 と IPv6 それぞれに設定します。

- ＜IPv4＞
  ＜ホスト名＞
  ＜ドメイン名＞

- ＜IPv6＞
  ＜IPv4 と同ﾎｽﾄ / ﾄﾞﾒｲﾝ使用＞
  ＜OFF＞
  ＜ホスト名＞
  ＜ドメイン名＞
  ＜ON＞

＜DNS の動的更新設定＞

DHCP 環境などで、ホスト名と IP アドレスの対応付けが変更されたときに自動更新するかどうかを IPv4 と IPv6 それぞれに設定します。

- ＜IPv4＞
  ＜DNS の動的更新＞
  ＜OFF＞
  ＜ON＞
  ＜DNS の動的更新間隔＞
  0 ～ **24** ～ 48（時間）

- ＜IPv6＞
  ＜DNS の動的更新＞
  ＜OFF＞

＜ ON ＞
＜手動アドレスの登録＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ｽﾃｰﾄﾌﾙｱﾄﾞﾚｽの登録＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ｽﾃｰﾄﾚｽｱﾄﾞﾚｽの登録＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ DNS の動的更新間隔＞
0 ～ **24** ～ 48（時間）

＜ mDNS 設定＞

IPv4 と IPv6 それぞれに、DNS サーバーがない環境で DNS の機能を使うための設定をします。

・＜ IPv4 ＞
＜ mDNS を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ mDNS 名＞

・＜ IPv6 ＞
＜ mDNS を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ IPv4 と同じ mDNS 名を使用＞
＜ OFF ＞
＜ mDNS 名＞
＜ ON ＞

＜ WINS 設定＞

ネットワークで NetBIOS と TCP/IP を併用しているときに、NetBIOS 名を IP アドレスに変換する Windows Internet Name Service（WINS）の設定をします。 **WINS の設定をする(P. 63)**

・＜ WINS による名前解決＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ WINS サーバーアドレス＞：0.0.0.0

＜ LPD 設定＞

ハードウェアや OS などのプラットフォームに依存しない印刷プロトコルである LPD を使用するかどうかを設定します。また、印刷データの受信が中断された場合に、印刷をキャンセルする受信タイムアウト時間も設定できます。 **印刷プロトコルや Web サービスの設定をする(P. 42)**

・＜ LPD 印刷を使用＞

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜受信タイムアウト＞

1 ～ **5** ～ 60（分）

＜ RAW 設定＞

Windows 独自の印刷データ形式である RAW を使用するかどうかを設定します。また、印刷データの受信が中断された場合に、印刷をキャンセルする受信タイムアウト時間も設定できます。 **印刷プロトコルや Web サービスの設定をする(P. 42)**

・＜ RAW 印刷を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜受信タイムアウト＞

1 ～ **5** ～ 60（分）

＜ WSD 設定＞

WSD プロトコルを使ってプリンターやスキャナーの自動検索や情報取得をするかどうかを設定します。 **印刷プロトコルや Web サービスの設定をする(P. 42)**

・＜ WSD 印刷を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜ WSD 参照を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜ WSD スキャンを使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜ PC スキャンを使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜マルチキャスト探索を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜ FTP の PASV モードを使用＞

FTP の PASV モードを使用するかどうかを設定します。PASV モードはファイアウォールを通過して FTP サーバーに接続するときに設定が必要です。 **FTP の PASV モードを設定する(P. 74)**

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜HTTP を使用＞

HTTP を使用するかどうかを設定します。HTTP はリモート UI や WSD 印刷などでパソコンやサーバーとの通信をするときに必要です。 **HTTP 通信を無効にする(P. 412)**

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜IPSec を使用＞ *

IPSec で構築した VPN（仮想プライベートネットワーク）を介してパソコンと暗号化通信を使用するかしないかを設定します。 **IPSec の設定をする(P. 389)**

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ TCP / IP 設定＞ ▶ ＜ IPSec を使用＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 本機を再起動

＜ポート番号設定＞

お使いの環境に応じて、各種プロトコルのポート番号を変更します。 **ポート番号を変更する(P. 374)**

・＜ LPD ＞
1～**515**～65535

・＜ RAW ＞
1～**9100**～65535

・＜ WSD マルチキャスト探索＞
1～**3702**～65535

・＜ HTTP ＞
1～**80**～65535

・＜マルチキャスト探索＞
1～**427**～65535

・＜ POP3 ＞
1～**110**～65535

・＜ SMTP ＞
1～**25**～65535

・＜ FTP ＞
1～**21**～65535

・＜ SNMP ＞
1～**161**～65535

＜ MTU サイズ＞

本機が送受信するパケットの最大サイズを設定します。 **送信パケットの最大サイズを変更する(P. 55)**

＜ 1300 ＞
＜ 1400 ＞
＜ 1500 ＞

＜ SNMP 設定＞

SNMP 対応ソフトウェアで本機を監視／制御するための設定をします。 **SNMP で監視／制御する(P. 70)**

＜ SNMPv1 設定＞

SNMPv1 を使用するかどうかを設定します。使用する場合は、所属するコミュニティー名および管理情報ベース（MIB）へのアクセス権限を設定します。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ SNMP 設定＞ ▶ ＜ SNMPv1 設定＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜ SNMPv3 設定＞

SNMPv3 を使用するかどうかを設定します。SNMPv3 を使用するときに適用される詳細な設定はリモート UI から行う必要があります。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ SNMP 設定＞ ▶ ＜ SNMPv3 設定＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜ﾎｽﾄからﾌﾟﾘﾝﾀｰ管理情報取得＞

SNMP 対応ソフトウェアがネットワークを介して本機のプリンター管理情報を監視できるようにするかどうかを設定します。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ SNMP 設定＞ ▶ ＜ﾎｽﾄからﾌﾟﾘﾝﾀｰ管理情報取得＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜ﾎｽﾄﾘｿｰｽMIB の RFC2790 準拠＞

SNMP 対応ソフトウェアから本機の状態を監視するときに、プロトコルの拡張仕様（RFC2790）に準拠するかどうかを設定します。

＜ OFF ＞ **＜ ON ＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ SNMP 設定＞ ▶ ＜ﾎｽﾄﾘｿｰｽMIB の RFC2790 準拠＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜専用ポートを使用＞

専用ポートを使用するかどうかを設定します。専用ポートは、ネットワーク接続時にパソコンからの印刷や WG Scan Utility を使ったスキャン、本機の設定／参照などをする際に使用します。

＜ OFF ＞ **＜ ON ＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜専用ポートを使用＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 本機を再起動

＜専用ポートの認証方式＞

専用ポートを使用するときの認証方式をセキュアな方式に限定するかどうかを設定します。＜モード 2 ＞に設定すると、認証情報はセキュアな方式のみに限定されます。

＜モード 1 ＞ ＜モード 2 ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜専用ポートの認証方式＞ ▶ ＜モード 1 ＞または＜モード 2 ＞を選択 ▶ 🏠

ご注意

- ＜モード 2 ＞に設定すると、デバイス管理ソフトウェアやドライバーなどから接続できなくなる場合があります。

＜起動時の接続待機時間＞

通信開始までの待ち時間を設定します。本機を接続したネットワーク環境に合わせて設定してください。 **ネットワーク接続時の待機時間を設定する(P. 56)**

0 ～ 300（秒）

＜ Ethernet ドライバー設定＞

有線 LAN の MAC アドレスを表示したり、Ethernet の通信方式（半二重／全二重）や種類（10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T）を設定したりします。

＜自動検出＞

通信方式と種類を自動検出するかどうかを設定します。 **Ethernet の設定をする(P. 53)**

・＜ OFF ＞
＜通信方式＞
＜半二重＞
＜全二重＞
＜ Ethernet の種類＞
＜ 10BASE - T ＞
＜ 100BASE - TX ＞
＜ 1000BASE - T ＞

・**＜ ON ＞**

MEMO

- ＜通信方式＞が＜半二重＞に設定されている場合、＜ 1000BASE - T ＞に設定することはできません。

＜ MAC アドレス＞

通信機器固有の番号である MAC アドレスを確認します。 **有線 LAN の MAC アドレスを確認する(P. 39)**

＜ IEEE 802.1X を使用＞ *

IEEE 802.1X 認証を使用するかどうかを設定します。 **IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)**

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ IEEE 802.1X を使用＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 本機を再起動

＜ファイアウォール設定＞

適切なセキュリティー対策を施さずにパソコンや通信機器をネットワークに接続すると、意図しない第三者から不正にアクセスされる恐れがあります。そこで、特定の IP アドレスや MAC アドレスを持つ機器だけに通信を許可するパケットフィルタリングを設定することで、そうしたリスクを低減させます。

＜ IPv4 アドレスフィルター＞

指定した IPv4 アドレスを持つ通信機器とのネットワークを介した送受信を許可または拒否します。 **IP アドレスでファイアウォールを設定する(P. 368)**

・＜送信フィルター＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜受信フィルター＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ファイアウォール設定＞ ▶ ＜ IPv4 アドレスフィルター＞ ▶ ＜送信フィルター＞または＜受信フィルター＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜ IPv6 アドレスフィルター＞

指定した IPv6 アドレスを持つ通信機器とのネットワークを介した送受信を許可または拒否します。 **IP アドレスでファイアウォールを設定する(P. 368)**

・＜送信フィルター＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜受信フィルター＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ファイアウォール設定＞ ▶ ＜ IPv6 アドレスフィルター＞ ▶ ＜送信フィルター＞または＜受信フィルター＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜ MAC アドレスフィルター＞

指定した MAC アドレスを持つ通信機器とのネットワークを介した送受信を許可または拒否します。 **MAC アドレスでファイアウォールを設定する(P. 371)**

・＜送信フィルター＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜受信フィルター＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ファイアウォール設定＞ ▶ ＜ MAC アドレスフィルター＞ ▶ ＜送信フィルター＞または＜受信フィルター＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜デバイス設定値管理＞

imageWARE Enterprise Management Console のプラグインを使って、本機のアドレス帳の宛先や各種設定値などのデータを管理するかどうかを設定します。imageWARE Enterprise Management Console についての詳細は、お近くのキヤノン販売店にお問い合わせください。 **プラグインとの通信を設定する(P. 78)**

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜ RMT - SW ＞

＜ OFF ＞に設定したままお使いください。サービス担当が遠隔から機器メンテナンスする場合に＜ ON ＞にしていただく場合があります。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク＞ ▶ ＜ RMT - SW ＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 本機を再起動

＜ネットワーク設定の初期化＞

ネットワーク設定をお買い上げ時の状態に戻します。 **＜メニューの初期化＞(P. 544)**

＜外部インターフェイス＞

23LX-08C

USB に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜ USB 設定＞

USB ポートや USB メモリーの使用を許可するかどうかを設定します。

＜ USB デバイスとして使用＞

パソコンと本機を接続する USB ポートを使用するかどうかを設定します。 **パソコンとの USB 接続を制限する (P. 410)**

＜ OFF ＞ **＜ ON ＞**

＜ USB 外部記憶ﾃﾞﾊﾞｲｽを使用＞

USB メモリーを使用するかどうかを設定します。

＜ OFF ＞ **＜ ON ＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜外部インターフェイス＞ ▶ ＜ USB 設定＞ ▶ ＜ USB 外部記憶ﾃﾞﾊﾞｲｽを使用＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜アクセシビリティー＞

23LX-08E

画面の色反転やメッセージの表示時間など、アクセシビリティーに関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜画面色反転＞(P. 465)
＜輝度調整＞(P. 465)
＜メッセージ表示時間＞(P. 465)

＜画面色反転＞

＜ ON ＞に設定すると、画面の明暗が反転して表示されます。＜輝度調整＞で明るさを調整しても表示が見づらいときに＜ ON ＞に設定してください。

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜アクセシビリティー＞ ▶ ＜画面色反転＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 🏠

＜輝度調整＞

設置場所に応じて、表示の明るさを調整します。

5 段階

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜アクセシビリティー＞ ▶ ＜輝度調整＞ ▶ 輝度を調整 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜メッセージ表示時間＞

2 種類のメッセージが交互に表示されるとき、何秒ごとに切り替わるかを設定します。

1 ～ **2** ～ 5（秒）

＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜アクセシビリティー＞ ▶ ＜メッセージ表示時間＞ ▶ 表示時間を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜調整 / メンテナンス＞

23LX-08F

項目	説明
＜画質調整＞(P. 467)	出力紙の画質調整について説明しています。
＜メンテナンス＞(P. 475)	本機の清掃機能について説明しています。

＜画質調整＞

23LX-08H

画質調整に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜カラー時の黒文字処理調整＞(P. 467)
＜色ムラ補正＞(P. 467)
＜用紙のこすれ改善＞(P. 469)
＜ヘッド位置調整＞(P. 469)
＜濃度/乾燥時間の調整＞(P. 469)
＜印刷後の用紙の反り調整＞(P. 471)
＜余白調整＞(P. 472)
＜排紙時の用紙のたわみ改善＞(P. 473)
＜メンテナンス間隔の調整＞　ファームウェア(Main Controller)バージョン：Ver.02.50 以降(P. 473)
＜白スジ補正＞　ファームウェア(Main Controller)バージョン：Ver.02.50 以降(P. 474)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- 「*1」：お使いの機種やオプション、他の設定項目によっては表示されません。

＜カラー時の黒文字処理調整＞

カラー原稿の黒文字を、白黒またはカラーのどちらと判定して印字するかの値を調整します。フィーダーと原稿台ガラスで、別々の値を設定できます。 **カラーコピーの文字色の再現性を調整する(P. 635)**

・＜フィーダー＞
7 段階

・＜原稿台＞
7 段階

＜色ムラ補正＞

印刷時の画質を維持、または向上、安定させるために、プリントヘッドのインク吐出量の調整を行います。 **色ムラを補正する(P. 637)**

＜スキャナーによる補正＞

印刷した用紙をスキャンして読み取り、色ムラの程度を自動的に判別して補正します。

＜用紙共通の補正＞

普通紙を使用して補正を行います。

＜用紙別の補正＞

用紙種類を選択して補正を行います。

＜普通紙 1 (64 ～ 75 g/m²)＞
＜普通紙 2 (76 ～ 90 g/m²)＞
＜普通紙 3 (91 ～ 105 g/m²)＞

<再生紙 1 (64 ～ 75 g/m²)>
<再生紙 2 (76 ～ 90 g/m²)>
<再生紙 3 (91 ～ 105 g/m²)>
<薄紙 2 (52 ～ 59 g/m²)>
<薄紙 1 (60 ～ 63 g/m²)>
<厚紙 1 (106 ～ 128 g/m²)>
<厚紙 2 (129 ～ 150 g/m²)>
<厚紙 3 (151 ～ 163 g/m²)>
<厚紙 4 (164 ～ 180 g/m²)>
<厚紙 5 (181 ～ 220 g/m²)>
<厚紙 6 (221 ～ 256 g/m²)>
<マットフォトペーパー>

<初期値に戻す>

色ムラ補正の補正値をお買い上げ時の値に戻します（初期化）。

<目視による補正>

出力したテストページを目視し、濃度の調整値を判断して補正します。補正には SRA3、A3、A4、11x17、12x18、LTR のいずれかの普通紙を使用します。

<微調整 (イエロー)>／<微調整 (マゼンタ)>／<微調整 (シアン)>／<微調整 (ブラック)>
<-7 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<-6 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<-5 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<-4 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<-3 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<-2 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<-1 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<±0 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<+1 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<+2 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<+3 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<+4 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<+5 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<+6 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<+7 >: -127 ～ **±0** ～ +127
<テストページの出力>
<初期値に戻す>
<前回の値に戻す>

a ＜微調整 (イエロー)＞／＜微調整 (マゼンタ)＞／＜微調整 (シアン)＞／＜微調整 (ブラック)＞

調整したい色を選択し、濃度値を調整します。

b ＜テストページの出力＞

目視で確認するためのテストページを出力します。

c ＜初期値に戻す＞

各色の調整値を初期状態に戻します。

d ＜前回の値に戻す＞

各色の調整値を前回までの値に戻します。

＜用紙のこすれ改善＞

プリントヘッドと用紙の間隔を広げることで、用紙のこすれを改善します。 **用紙のこすれを改善する(P. 646)**

- ＜片面印刷＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞
- ＜両面印刷＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞

＜ヘッド位置調整＞

プリントヘッドの位置を調整して、色にずれが発生するのを改善します。印刷には A4、A3、11x17、LTR のいずれかの普通紙を使用します。 **プリントヘッドの位置を調整する(P. 647)**

＜濃度/乾燥時間の調整＞

印刷が終わった用紙のインクで、用紙が汚れてしまう場合に、印刷の濃度や印刷したあとにインクが乾くまでの待ち時間を設定することで、改善できることがあります。 **濃度やインクが乾燥する時間を調整する(P. 650)**

＜給紙箇所共通の調整＞

すべての給紙口を一括で調整します。

＜初期設定＞
＜設定 1 ＞
＜設定 2 ＞
＜設定 3 ＞
＜カスタム＞
　＜印刷濃度＞:-10 ～ 0
　＜乾燥時間＞:0 ～ 10

＜給紙箇所別の調整＞

給紙口毎に調整します。

＜手差し＞
　＜初期設定＞
　＜設定 1 ＞
　＜設定 2 ＞
　＜設定 3 ＞
　＜カスタム＞
　　＜印刷濃度＞:-10 ～ 0
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10
＜カセット 1 ＞
　＜初期設定＞
　＜設定 1 ＞
　＜設定 2 ＞
　＜設定 3 ＞
　＜カスタム＞
　　＜印刷濃度＞:-10 ～ 0
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10
＜カセット 2 ＞
　＜初期設定＞
　＜設定 1 ＞
　＜設定 2 ＞
　＜設定 3 ＞
　＜カスタム＞
　　＜印刷濃度＞:-10 ～ 0
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10
＜カセット 3 ＞*1
　＜初期設定＞
　＜設定 1 ＞
　＜設定 2 ＞
　＜設定 3 ＞
　＜カスタム＞
　　＜印刷濃度＞:-10 ～ 0
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10
＜カセット 4 ＞*1
　＜初期設定＞
　＜設定 1 ＞
　＜設定 2 ＞
　＜設定 3 ＞
　＜カスタム＞
　　＜印刷濃度＞:-10 ～ 0
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10

＜印刷後の用紙の反り調整＞

用紙の反りを調整するレベルや乾燥時間を設定します。 **印刷後の用紙の反りを調整する(P. 652)**

＜給紙箇所共通の調整＞

＜初期設定＞
＜弱＞
＜強＞
＜カスタム＞
　＜調整レベル＞:1 ～ 4
　＜乾燥時間＞:0 ～ 10

＜給紙箇所別の調整＞

＜手差し＞
　＜初期設定＞
　＜弱＞
　＜強＞
　＜カスタム＞
　　＜調整レベル＞:1 ～ 4
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10
＜カセット 1 ＞
　＜初期設定＞
　＜弱＞
　＜強＞
　＜カスタム＞
　　＜調整レベル＞:1 ～ 4
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10
＜カセット 2 ＞
　＜初期設定＞
　＜弱＞
　＜強＞
　＜カスタム＞
　　＜調整レベル＞:1 ～ 4
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10
＜カセット 3 ＞*1
　＜初期設定＞
　＜弱＞
　＜強＞
　＜カスタム＞
　　＜調整レベル＞:1 ～ 4
　　＜乾燥時間＞:0 ～ 10
＜カセット 4 ＞*1

＜初期設定＞
＜弱＞
＜強＞
＜カスタム＞
＜調整レベル＞:1 ～ 4
＜乾燥時間＞:0 ～ 10

＜余白調整＞

印刷時の余白量の調整を給紙部ごとに行います。 **余白を調整する(P. 654)**

＜手差し＞
＜表面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0
＜裏面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0
＜カセット 1 ＞
＜表面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0
＜裏面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0
＜カセット 2 ＞
＜表面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0
＜裏面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0
＜カセット 3 ＞*1
＜表面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0
＜裏面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0
＜カセット 4 ＞*1
＜表面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0

＜裏面＞
＜先端余白＞:-2.0 ～ +2.0
＜左端余白＞:-5.0 ～ +5.0

＜排紙時の用紙のたわみ改善＞

用紙が排紙されたときの、用紙のたわみや変形を改善します。 **排紙時の用紙のたわみを改善する(P. 657)**

＜手差し＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜カセット 1 ＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜カセット 2 ＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜カセット 3 ＞*1
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜カセット 4 ＞*1
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メンテナンス間隔の調整＞　ファームウェア(Main Controller)バージョン：Ver.02.50 以降

プリントヘッドクリーニングを行って一旦改善しても、しばらくすると白いスジが入る場合に、メンテナンス間隔を調整します。
プリントヘッドクリーニングを行っていない場合は、まず最初にプリントヘッドクリーニングを行ってください。 **プリントヘッドをクリーニングする(P. 568)**
「1」、「2」の順に試してください。「2」は「1」より更に頻繁にメンテナンス動作が実施されます。「0」を選ぶと、初期値に戻すことができます。

＜手差し＞
0～2
＜カセット 1 ＞
0～2
＜カセット 2 ＞
0～2
＜カセット 3 ＞*1
0～2
＜カセット 4 ＞*1
0～2

＜白スジ補正＞　ファームウェア(Main Controller)バージョン：Ver.02.50 以降

プリントヘッドクリーニングを行っても、白いスジが改善しない場合に、白スジ補正を実行します。 **白スジを補正する(P. 658)**
プリントヘッドクリーニングを行っていない場合は、まず最初にプリントヘッドクリーニングを行ってください。 **プリントヘッドをクリーニングする(P. 568)**

＜メンテナンス＞

23LX-08J

本機の清掃機能について一覧で説明します。

- **＜ノズルチェックパターン印刷＞(P. 475)**
- **＜ヘッドクリーニング＞(P. 475)**
- **＜紙搬送部の清掃＞(P. 475)**
- **＜センサーの清掃＞(P. 476)**
- **＜フィーダークリーニング＞(P. 476)**
- **＜原稿読み取り部の清掃＞(P. 476)**
- **＜インクタンクの交換＞(P. 476)**
- **＜メンテナンスカートリッジの交換＞(P. 476)**
- **＜プリントヘッドの交換＞(P. 476)**
- **＜プリントヘッド診断＞(P. 476)**
- **＜前回の診断結果＞(P. 476)**
- **＜ ADF メンテナンスキットの交換＞(P. 477)**
- **＜部品交換後の初期化＞(P. 477)**
- **＜輸送の準備＞(P. 477)**
- **＜廃棄の準備＞(P. 477)**

＜ノズルチェックパターン印刷＞

ノズルチェックパターンを印刷してプリントヘッドのノズルからインクが正しく出ているかを確認します。用紙種類を選択して補正を行います（A4、A3、11x17、LTR）。 **ノズルの状態をチェックする(P. 632)**

＜普通紙 1 (64 ～ 75 g/m^2)＞
＜普通紙 2 (76 ～ 90 g/m^2)＞
＜普通紙 3 (91 ～ 105 g/m^2)＞
＜再生紙 1 (64 ～ 75 g/m^2)＞
＜再生紙 2 (76 ～ 90 g/m^2)＞
＜再生紙 3 (91 ～ 105 g/m^2)＞
＜薄紙 2 (52 ～ 59 g/m^2)＞
＜薄紙 1 (60 ～ 63 g/m^2)＞
＜厚紙 1 (106 ～ 128 g/m^2)＞
＜厚紙 2 (129 ～ 150 g/m^2)＞
＜厚紙 3 (151 ～ 163 g/m^2)＞
＜厚紙 4 (164 ～ 180 g/m^2)＞
＜厚紙 5 (181 ～ 220 g/m^2)＞
＜厚紙 6 (221 ～ 256 g/m^2)＞
＜マットフォトペーパー＞

＜ヘッドクリーニング＞

ヘッドクリーニングを行って、プリントヘッドを良好な状態にします。 **プリントヘッドをクリーニングする(P. 568)**

＜紙搬送部の清掃＞

搬送路部分のインク汚れに対してクリーニングを行います。 **搬送路を清掃する(P. 561)**

＜センサーの清掃＞

センサー部分のインク汚れに対してクリーニングを行います。 **センサー部を清掃する(P. 565)**

＜フィーダークリーニング＞

フィーダーのクリーニングを行ってフィーダーを良好な状態にします。 **フィーダーを清掃する(P. 555)**

＜原稿読み取り部の清掃＞

フィーダーのローラー部分の清掃を行います。 **フィーダーを清掃する(P. 555)**

＜インクタンクの交換＞

インクの残量がなくなったり、エラーメッセージが表示された際にインクタンクを交換します。 **インクタンクを交換する(P. 570)**

＜メンテナンスカートリッジの交換＞

メンテナンスカートリッジ使用量がいっぱいになった際に交換を行います。 **メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)**

＜プリントヘッドの交換＞

ヘッドクリーニングをしても印刷品質が改善されなかったり、エラーメッセージが表示された際にプリントヘッドを交換します。 **プリントヘッドを交換する(P. 578)**

＜プリントヘッド診断＞

手順に従って診断を行い、問題がある場合はクリーニングなどで改善します。 **プリントヘッドを診断する (P. 626)**

＜前回の診断結果＞

前回の診断結果を確認することができます。

＜メニュー＞ ▶ ＜調整/メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンス＞ ▶ ＜前回の診断結果＞ ▶ 前回の診断結果を確認する ▶ ＜閉じる＞ ▶ 🏠

＜ADF メンテナンスキットの交換＞

原稿給紙ローラーと原稿分離ローラーの交換を行います。 **ADF メンテナンスキットを交換する(P. 587)**

＜部品交換後の初期化＞

＜ADF メンテナンスキット＞

原稿給紙ローラーと原稿分離ローラーを交換したときに初期化を行います。 **ADF メンテナンスキットを交換する(P. 587)**

＜輸送の準備＞

本機を輸送する際の準備をします。 **本機を輸送する(P. 593)**

＜廃棄の準備＞

本機を廃棄する際の準備をします。 **本機を廃棄する(P. 618)**

＜ファンクション設定＞

23LX-08K

項目	説明
＜共通＞(P. 479)	各機能で共通の設定について説明しています。
＜コピー＞(P. 486)	コピーについての設定をします。
＜プリンター＞(P. 489)	プリンターについての設定をします。
＜送信＞(P. 508)	ファクスやスキャンの送信についての設定をします。
＜受信 / 転送＞(P. 521)	ファクス、E メール受信についての設定をします。
＜ファイル保存 / 利用＞(P. 528)	原稿を読み込みする場合と、保存ファイルを印刷する場合の設定をします。
＜セキュアプリント＞(P. 535)	セキュアプリントについての設定をします。

＜共通＞

23LX-0H1

各機能で共通の設定に関するすべての項目を一覧で説明します。

＜給紙動作＞(P. 479)
＜スキャン動作＞(P. 482)
＜ファイル生成＞(P. 484)
＜ファクス設定ナビ＞(P. 485)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- 「*1」：お使いの機種やオプション、他の設定項目によっては表示されません。
- 「*2」：インポート／エクスポートできません。

＜給紙動作＞

給紙動作に関する設定をします。

＜給紙箇所の自動選択＞

各給紙部を自動用紙選択の対象にするかどうかを設定します。＜ ON ＞にしておくと、文書サイズにあった用紙がセットされている給紙部を本機が自動的に選択します。また、用紙がなくなったときに、他の給紙部に同じ用紙がセットされていれば、自動的にそちらに切り替えて印刷されます。 **機能ごとに適切な給紙部を自動選択させる(P. 169)**

・＜コピー＞
＜手差し＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜カセット 1 ＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜カセット 2 ＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜カセット 3 ＞*1
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜カセット 4 ＞*1
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜プリンター＞

＜手差し＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 1 ＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 2 ＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 3 ＞[*1]

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 4 ＞[*1]

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜受信 / ファクス＞

＜手差し＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 1 ＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 2 ＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 3 ＞[*1]

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 4 ＞[*1]

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜その他＞

＜手差し＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 1 ＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜カセット 2 ＞

＜ OFF ＞

＜ON＞

＜カセット 3＞[*1]

＜OFF＞

＜ON＞

＜カセット 4＞[*1]

＜OFF＞

＜ON＞

＜給紙方法切替＞

ロゴマーク付きの用紙に印刷するときに設定します。通常、ロゴマーク付きの用紙を印刷するときは、片面印刷と両面印刷でセットする用紙のオモテ／ウラを変更しなければなりませんが、＜プリント面優先＞に設定すれば、片面印刷時のセット面を両面印刷と同じ（ロゴのある面をウラ）にセットするだけですみます。詳細については、 **ロゴなどが印刷された用紙をセットする(P. 154)** を参照してください。

・＜手差し＞
＜速度優先＞
＜プリント面優先＞

・＜カセット 1＞
＜速度優先＞
＜プリント面優先＞

・＜カセット 2＞
＜速度優先＞
＜プリント面優先＞

・＜カセット 3＞[*1]
＜速度優先＞
＜プリント面優先＞

・＜カセット 4＞[*1]
＜速度優先＞
＜プリント面優先＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜共通＞ ▶ ＜給紙動作＞ ▶ ＜給紙方法切替＞ ▶ 給紙部を選択 ▶ ＜速度優先＞または＜プリント面優先＞を選択 ▶ 🏠

a 給紙部の選択

設定変更の対象となる給紙部を選びます。

b ＜速度優先＞

ロゴマークなどが印刷されている用紙を使うときは、片面印刷と両面印刷でセットする用紙の面を変更する必要があります。

MEMO

- オモテ・ウラ面を考慮する必要のない用紙に印刷する場合は、＜速度優先＞に設定しておくことをおすすめします。

c ＜プリント面優先＞

片面印刷と両面印刷でセットする用紙の面を変更する必要がありません。

MEMO

- 両面印刷できないサイズや種類の用紙（**用紙について(P. 768)**）をセットしている給紙部に対して＜プリント面優先＞を設定しても無効となり、＜速度優先＞の動作となります。この場合、用紙は＜速度優先＞の向きでセットしてください（**ロゴなどが印刷された用紙をセットする(P. 154)**）。
- ＜プリント面優先＞に設定すると、片面印刷の速度が遅くなります。

＜スキャン動作＞

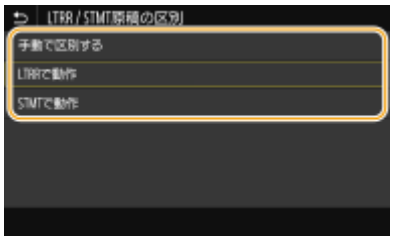
スキャン動作に関する設定をします。

＜ LTRR / STMT 原稿の区別＞

LTRR サイズ原稿、または STMT サイズ原稿を原稿台ガラスにセットして読み込むときに、原稿サイズを手動で区別させるか、強制的にどちらかのサイズで動作させるかを設定できます。

＜手動で区別する＞
＜ LTRR で動作＞
＜ STMT で動作＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜共通＞ ▶ ＜スキャン動作＞ ▶ ＜ LTRR / STMT 原稿の区別＞ ▶ ＜手動で区別する＞ ▶ ＜ LTRR で動作＞または＜ STMT で動作＞を選択 ▶ 🏠



＜手動で区別する＞
原稿台ガラスに LTRR または STMT サイズ原稿をセットすると、読み込み時に原稿サイズを指定する画面が表示されます。

＜ LTRR で動作＞
原稿台ガラスに LTRR または STMT サイズ原稿をセットすると、読み込み時に LTRR サイズで動作します。

＜ STMT で動作＞
原稿台ガラスに LTRR または STMT サイズ原稿をセットすると、読み込み時に STMT サイズで動作します。

＜自動オンライン移行＞

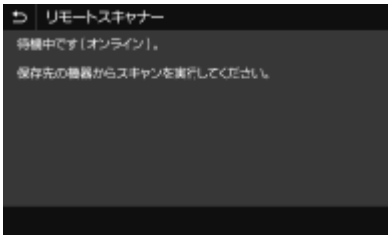
パソコンからの操作でスキャンする際に、操作パネルから操作しなくても自動的にオンライン（スキャンの待機状態）になるようにするかどうかを設定します。

＜ OFF ＞ **＜ ON ＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜共通＞ ▶ ＜スキャン動作＞ ▶ ＜自動オンライン移行＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 🏠

＜自動オフライン移行＞

以下の画面が表示されているときに（オンラインでスキャン待機中）一定時間スキャンが実行されないと、スキャン待機状態が解除されて自動的にオフラインとなります。オフラインになるまでの時間を設定できます。



・＜自動オフライン移行する＞ ＜ OFF ＞ **＜ ON ＞** ＜自動オフライン移行時間＞ 1 ～ **5** ～ 60（分）

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜共通＞ ▶ ＜スキャン動作＞ ▶ ＜自動オフライン移行＞ ▶ ＜自動オフライン移行する＞で＜ ON ＞を選択 ▶ ＜自動オフライン移行時間＞に時間を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜ファイル生成＞

ファイル生成に関する設定をします。

＜出力ファイルの画像設定＞

スキャンした原稿をデータに変換するときのガンマ値を設定できます。

＜ YCbCr 送信のガンマ値＞

読み込んだ原稿は、指定したファイル形式のデータに変換されますが、このとき適用するガンマ値を指定することができます。ファイルの閲覧時に使うディスプレーと同じガンマ値を指定すると、原稿に忠実な明るさでファイルを表示できます。

＜ γ1.0 ＞
＜ γ1.4 ＞
＜ γ1.8 ＞
＜ γ2.2 ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜共通＞ ▶ ＜ファイル生成＞ ▶ ＜出力ファイルの画像設定＞ ▶ ＜ YCbCr 送信のガンマ値＞ ▶ ガンマ値を選択 ▶ 🏠

MEMO

- ディスプレーのガンマ値については、ディスプレーに付属する取扱説明書を参照してください。

＜ OCR (文字認識) 設定＞

文字原稿を OCR（光学式文字認識）処理することによりパソコンでテキスト検索ができる「サーチャブル PDF」を作成する場合に、原稿の文字方向と並び方向を判断し、原稿の方向を検知するかどうかを設定します。

・＜原稿向き自動検知＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜共通＞ ▶ ＜ファイル生成＞ ▶ ＜ OCR (文字認識) 設定＞ ▶ ＜原稿向き自動検知＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜暗号化 PDF 256-bit AES 設定＞

暗号化 PDF を生成するとき、PDF の暗号化レベルを「128-bit」または「256-bit」に設定できますが、「256-bit」設定時の Acrobat との互換バージョンを変更することができます。

＜ Acrobat 9.0 相当＞
＜ Acrobat 10.0 相当＞

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <共通> ▶ <ファイル生成> ▶ <暗号化 PDF 256-bit AES 設定> ▶ < Acrobat 9.0 相当>または< Acrobat 10.0 相当>を選択 ▶ 🏠

<ファクス設定ナビ> *2

電話番号登録や受信モードの設定などの各種設定を画面の指示に従って進めることができます。 **ファクスの設定をする (P. 80)**

＜コピー＞

23LX-0H2

コピーに関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜デフォルト設定の変更 (コピー)＞(P. 486)
＜オートタテヨコ回転＞(P. 488)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- お使いの機種やオプション、他の設定項目によっては表示されません。

＜デフォルト設定の変更 (コピー)＞

コピーに関する設定の初期値を変更できます。ここで行った設定がコピー機能の基本設定値となります。 **機能の初期値を変更する(P. 180)**

・＜部数＞
1 ～ 999

・＜給紙段＞
＜自動＞
＜手差し＞
＜カセット 1 ＞
＜カセット 2 ＞
＜カセット 3 ＞*
＜カセット 4 ＞*

・＜カラー選択＞
＜自動（カラー/白黒）＞
＜フルカラー＞
＜白黒＞

・＜濃度＞
9 段階
＜背景調整＞
＜自動＞
＜調整＞
9 段階
＜色別調整＞
＜レッド＞：9 段階
＜グリーン＞：9 段階
＜ブルー＞：9 段階

・＜倍率＞
任意の倍率

＜ 100% 等倍＞

＜ 400% 最大＞

＜ 200% A5 -> A3 ＞
＜ 141% A4 -> A3 ＞
＜ 122% A4 -> B4 ＞
＜ 115% B5 -> A4 ＞
＜ 86% A4 -> B5 ＞
＜ 81% B4 -> A4 ＞
＜ 70% A3 -> A4 ＞
＜ 61% A3 -> B5 ＞
＜ 50% A3 -> A5 ＞

＜ 25% 最小＞

・＜見開き -> 2 ページ＞
＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜両面＞
＜ OFF ＞

＜片面 -> 両面＞

＜両面 -> 両面＞

＜両面 -> 片面＞

＜開き方設定＞

・＜ページ集約＞
＜ OFF ＞

＜ 2 in 1 ＞

＜ 4 in 1 ＞

＜レイアウト＞

・＜原稿の種類＞
＜文字 / 写真 / 地図＞

＜印刷写真＞

＜文字＞

・＜原稿サイズ混載＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

・＜仕上げ＞
＜ OFF ＞
＜ソート (1 部ごと) ＞
＜グループ (ページごと) ＞

・＜枠消し＞
＜ OFF ＞

＜原稿枠消し＞

＜ブック枠消し＞

・＜シャープネス＞
7 段階

＜オートタテヨコ回転＞

本設定を＜ ON ＞にしておくと、セットした原稿と手差しトレイや給紙カセットにセットされている用紙の向きが異なるときでも、用紙の方向に合わせて自動的に画像を 90 度回転してコピーします。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜コピー＞ ▶ ＜オートタテヨコ回転＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶

MEMO

- A4、B5、A5 サイズの原稿を A3、B4 の用紙に拡大コピーする場合は、＜ ON ＞に設定してもオートタテヨコ回転を行いません。
- 回転できる原稿サイズは、等倍の場合は A4 以下の定形サイズのみです。

＜プリンター＞

23LX-08S

プリンターに関する設定項目について説明します。

＜プリンター仕様設定＞(P. 489)
＜ページ記述言語選択 (プラグ & プレイ)＞(P. 506)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

設定の優先順位

- 同じ設定項目であれば、プリンタードライバーの設定が、操作パネルの設定よりも優先されます。操作パネルの設定は、UNIX などのプリンタードライバーが使えない OS から印刷するようなときに有効となります。

＜プリンター仕様設定＞

印刷やプリンター動作に関して設定します。

＜コピー部数＞

印刷部数を設定します。

1 ～ 999

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜コピー部数＞ ▶ 部数を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜両面＞

用紙の両面に印刷するかどうかを設定します。

＜片面＞ ＜両面＞

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <両面> ▶ <片面>または<両面>を選択 ▶ 🏠

<デフォルト用紙>

印刷する用紙のサイズと種類を設定します。 **用紙について(P. 768)**

A4/A3/A5/B4/B5/LTR/LGL/11x17 **普通紙1**～マットフォトペーパー

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <デフォルト用紙> ▶ 用紙サイズを選択 ▶ 用紙種類を選択 ▶ 🏠

<用紙サイズ置換>

A4 とレター、または A3 と 11x17 サイズの用紙を互いに代用して印刷するかどうかを設定します。<する>を選ぶと、指定した用紙がないときに代用の用紙に印刷されます。

<しない> <する>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <用紙サイズ置換> ▶ <しない>または<する>を選択 ▶ 🏠

MEMO

- 部数や片面／両面印刷などの印刷設定はアプリケーションやプリンタードライバーから行いますが、<用紙サイズ置換>は本体で設定してください。

<印字調整>

印刷の品質に関する設定を変更できます。

<インク節約モード>

インクを節約して印刷します。大量に印刷するときなど、レイアウトなどの仕上がりを事前に確認してから印刷したいときに設定します。

<しない> <する>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <印字調整> ▶ <インク節約モード> ▶ <しない>または<する>を選択 ▶ 🏠

<解像度>

印刷データを処理するときの解像度を設定します。

<スーパーファイン> **<ファイン>** < 300 dpi >

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <印字調整> ▶ <解像度> ▶ <スーパーファイン>または<ファイン>または< 300 dpi >を選択 ▶ 🏠

<スーパースムーズ>

スムージングを行い、文字のガタつきをおさえます。低解像度モードほど効果が高くなります。印刷解像度をスーパーファイン（1200 dpi）に設定している場合は無効になります。

<しない> **<する>**

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <印字調整> ▶ <スーパースムーズ> ▶ <しない>または<する>を選択 ▶ 🏠

<文字鮮鋭化>

背景が黒の白抜き文字や白線を鮮明に印刷します。

プリンタードライバーの［ページレイアウト］設定を［1 in 1(標準)］としている場合のみ、適用されます。

<しない> **<する>**

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <印字調整> ▶ <文字鮮鋭化> ▶ <しない>または<する>を選択 ▶ 🏠

<細線の濃度強調>

色の薄い細線や文字が見やすくなるように印刷します。グレーの線が途切れやすい場合に設定します。

<しない> **<する>**

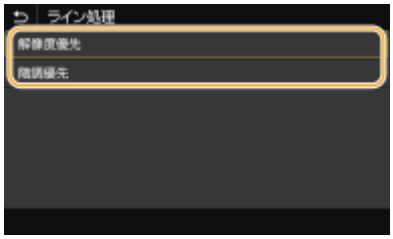
<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <印字調整> ▶ <細線の濃度強調> ▶ <しない>または<する>を選択 ▶ 🏠

<ライン処理>

線を再現するときの処理方法を設定します。

<解像度優先> <階調優先>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <印字調整> ▶ <ライン処理> ▶ <解像度優先>または<階調優先>を選択 ▶ 🏠



<解像度優先>
文字と同じ解像度で線を描画します。

<階調優先>
色と階調を保持するように線を描画します。

<太さ調整>

文字や細い線を太く印字するように設定します。

<しない> <する> 　<テキスト> 　<ライン> 　**<テキストとライン>**

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <印字調整> ▶ <太さ調整> ▶ <する> ▶ 対象を選択 ▶ 🏠

MEMO

- <する>に設定すると、印刷速度が遅くなったり、画質が変わったりする場合があります。
- 印刷するアプリケーションによっては、<する>に設定しても太く印字できないことがあります。

<レイアウト>

とじしろの余白や印字位置を設定できます。

<とじ方向>

印刷文書をホチキスなどでとじる場合、とじ位置を用紙の長辺と短辺のどちらにするのかを設定します。とじ位置の余白調整をする<とじしろ>と組み合わせて設定します。

<長辺とじ> <短辺とじ>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <レイアウト> ▶ <とじ方向> ▶ <長辺とじ>または<短辺とじ>を選択 ▶ 🏠

<長辺とじ>

用紙の長辺をとじたいときに設定します。

<短辺とじ>

用紙の短辺をとじたいときに設定します。

<とじしろ>

印刷データをずらすことで、<とじ方向>で設定した辺の余白幅を調整します。「00.0」に設定しているときは余白に変化はありません。

-50.0 ～ **0** ～ +50.0（mm）

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <レイアウト> ▶ <とじしろ> ▶ 設定値を入力 ▶ <確定> ▶ 🏠

a 設定値の入力

印刷データをずらす方向と幅を設定します。設定値が「+」の数値か「-」の数値かによって、余白を広げる辺が変わります。余白幅の調整は 0.5 mm 単位で設定することができます。 ▶おもな操作方法(P. 126)

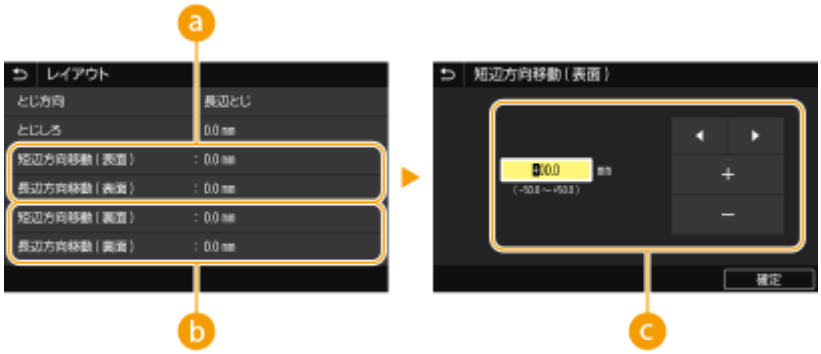
設定値	長辺とじ	短辺とじ
「＋」の数値に設定	用紙の左端	用紙の上端
「－」の数値に設定	用紙の右端	用紙の下端

＜短辺方向移動／長辺方向移動＞

給紙部にかかわらず、すべての印刷における印字位置を 0.5 mm 単位でずらすように設定できます。

-50.0 ～ **0** ～ +50.0（mm）

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜レイアウト＞ ▶ 調整したい方向と印刷面の組み合わせを選択 ▶ 設定値を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠



a ＜短辺方向移動（表面）＞／＜長辺方向移動（表面）＞

オモテ面の印字位置をずらします。

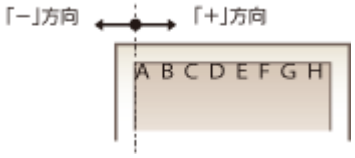
b ＜短辺方向移動 (裏面)＞／＜長辺方向移動 (裏面)＞

ウラ面の印字位置をずらします。

c 設定値の入力

＜短辺方向移動 (表面)＞／＜短辺方向移動 (裏面)＞の場合、用紙の左から右方向へずらすときは「＋」に設定します。＜長辺方向移動 (表面)＞／＜長辺方向移動 (裏面)＞の場合、用紙の上から下方向へずらすときは「＋」に設定します。反対の方向へずらすときは「－」に設定してください。 **おもな操作方法(P. 126)**

＜短辺方向移動 (表面)＞
＜短辺方向移動 (裏面)＞



＜長辺方向移動 (表面)＞
＜長辺方向移動 (裏面)＞

＜自動エラースキップ＞

印刷中にエラーが発生すると印刷は止まりますが、＜する＞に設定しておくとエラーが発生しても印刷を継続することができます。エラーの種類によっては自動的にスキップできない場合があります。通常は＜しない＞でお使いください。

＜しない＞ ＜する＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜自動エラースキップ＞ ▶ ＜しない＞または＜する＞を選択 ▶ 🏠

＜タイムアウト時間＞

印刷データの受信が一定時間中断された場合に、印刷をキャンセルするまでの時間を設定します。

5 ～ **15** ～ 300（秒）

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜タイムアウト時間＞ ▶ 時間を設定 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜プリンター動作モード＞

文書データが形式不明の場合に、本機が動作するモードを設定します。

＜自動＞ ＜ PDF ＞ ＜ XPS ＞

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <プリンター動作モード> ▶ モードを選択 ▶ 🏠

<カラーモード>

カラーで印刷するか、白黒で印刷するかを設定します。

<自動 (カラー / 白黒)> <白黒>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <カラーモード> ▶ <自動 (カラー / 白黒)>または<白黒>を選択 ▶ 🏠

<圧縮画像出力>

印刷中にメモリーが不足して画質が低下した場合の動作を設定します。

<出力する> <エラー表示する>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ <圧縮画像出力> ▶ <出力する>または<エラー表示する>を選択 ▶ 🏠

<出力する>
画質の低下程度に関係なく、印刷を継続します。

<エラー表示する>
画質が著しく低下すると、エラーメッセージを表示して印刷を中止します。

< LIPSLX 設定>

LIPS LX プリンタードライバーから印刷するときに有効となる設定を変更できます。

<マッチング方法>

色補正の処理方法を設定します。

<一般> <モニター色再現>

＜色差最小＞
＜ VIVID フォト＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ LIPSLX 設定＞ ▶ ＜マッチング方法＞ ▶ 項目を選択 ▶ 🏠

＜一般＞
写真や文書など一般書類の印刷に適した色味になるように処理されます。

＜モニター色再現＞
ビットマップイメージの印刷に適した色味になるように処理されます。本項目を設定すると、モニターに表示された色と近い色で出力されます。

＜色差最小＞
RGB データから CMYK データに変換する際の色の誤差を最小限にします。

＜ VIVID フォト＞
＜一般＞よりも濃く鮮やかな色味になるように処理されます。

＜グレー補償＞

色情報が「R ＝ G ＝ B」のブラックまたはグレーのデータを、BK（ブラック）のインク 1 色で印刷するように設定します。＜しない＞に設定すると、CMYK のインク 4 色で印刷されます。1 つの文書に対して画像の種類別に設定することができます。

・＜テキスト＞
＜しない＞
＜する＞

・＜グラフィックス＞
＜しない＞
＜する＞

・＜イメージ＞
＜しない＞
＜する＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ LIPSLX 設定＞ ▶ ＜グレー補償＞ ▶ 画像の種類を選択 ▶ ＜しない＞または＜する＞を選択 ▶ 🏠

＜白紙節約＞

印刷データの中に白紙ページがあるときに、そのページを排出しないようにするかどうかを設定します。

＜しない＞ **＜する＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ LIPSLX 設定＞ ▶ ＜白紙節約＞ ▶ ＜しない＞または＜する＞を選択 ▶ 🏠

＜ PDF 設定＞

PDF に関する設定を変更できます。

＜用紙サイズに拡大 / 縮小＞

用紙の印刷範囲に合わせて、拡大／縮小するかどうか設定をします。なお、原稿のタテヨコ比は固定されたまま拡大／縮小されます。

＜しない＞ ＜する＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ PDF 設定＞ ▶ ＜用紙サイズに拡大 / 縮小＞ ▶ ＜しない＞または＜する＞を選択 ▶ 🏠

＜印字領域拡大＞

印刷範囲を用紙サイズいっぱいに広げて印刷するかどうかを設定します。

＜しない＞ ＜する＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ PDF 設定＞ ▶ ＜印字領域拡大＞ ▶ ＜しない＞または＜する＞を選択 ▶ 🏠

MEMO

- ＜する＞に設定すると、原稿によっては用紙の端が一部欠けて印刷されたり、用紙が部分的に汚れたりすることがあります。

＜ページ集約＞

複数のページを縮小して、1 枚の用紙に左上から並べて印刷するかどうかを設定します。たとえば、＜ 4 in 1 ＞とは「1 枚の用紙に 4 ページを収める」という意味です。

＜ OFF ＞ ＜ 2 in 1 ＞

＜4 in 1＞ ＜6 in 1＞ ＜8 in 1＞ ＜9 in 1＞ ＜16 in 1＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜PDF 設定＞ ▶ ＜ページ集約＞ ▶ 集約するページ数を選択 ▶ 🏠

＜注釈印刷＞

注釈を印刷するかどうかを設定します。＜自動＞に設定すると、PDF ファイルの注釈が印刷されます。

＜しない＞ **＜自動＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜PDF 設定＞ ▶ ＜注釈印刷＞ ▶ ＜しない＞または＜自動＞を選択 ▶ 🏠

＜テキストに純ブラックを使用＞

色情報が「R ＝ G ＝ B ＝ 0 %」、「C ＝ M ＝ Y ＝ 100 %」または「C ＝ M ＝ Y ＝ 0 %／K ＝ 100 %」の黒色の文字を、BK（ブラック）のインク 1 色で印刷するように設定します。＜しない＞に設定すると、＜出力プロファイル＞の設定に従って印刷されます。

＜しない＞ **＜する＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜PDF 設定＞ ▶ ＜テキストに純ブラックを使用＞ ▶ ＜しない＞または＜する＞を選択 ▶ 🏠

＜ RGB 入力プロファイル＞

RGB データに対して、使用中のモニターに合わせたプロファイルを選びます。

＜ sRGB ＞ ＜ Gamma 1.5 ＞ ＜ Gamma 1.8 ＞ ＜ Gamma 2.4 ＞ ＜なし＞

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ < PDF 設定> ▶ < RGB 入力プロファイル> ▶ プロファイルを選択 ▶ 🏠

< sRGB >
一般的な Windows コンピューターのモニターの業界標準画質に設定されます。sRGB 対応モニターをお使いの場合、表示される色に近い色味で印刷することができます。

< Gamma 1.5 >～< Gamma 2.4 >
データの最も明るい部分や暗い部分を損なわないように、印刷結果の明るさを調節します。設定値が大きいほど暗く印刷されます。

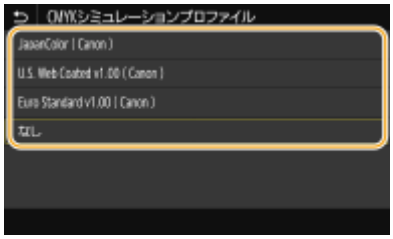
<なし>
RGB 入力プロファイルを適用せずに、RGB データから CMYK への色分解を行います。

< CMYKｼﾐｭﾚｰｼｮﾝﾌﾟﾛﾌｧｲﾙ>

CMYK のデータを印刷する際のシミュレーションターゲットを選びます。このシミュレーションに従って CMYK データをデバイス依存の CMYK カラーモデルに変換します。

< JapanColor (Canon)>
< U.S. Web Coated v1.00 (Canon)>
< Euro Standard v1.00 (Canon)>
<なし>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ < PDF 設定> ▶ < CMYKｼﾐｭﾚｰｼｮﾝﾌﾟﾛﾌｧｲﾙ> ▶ プロファイルを選択 ▶ 🏠



< JapanColor (Canon)>
JapanColor プロファイルを設定します。日本の印刷標準に近い色味で印刷します。

< U.S. Web Coated v1.00 (Canon)>
U.S. Web Coated プロファイルを設定します。米国の印刷標準に近い色味で印刷します。

< Euro Standard v1.00 (Canon)>
Euro Standard プロファイルを設定します。ヨーロッパの印刷標準に近い色味で印刷します。

＜なし＞
CMYK シミュレーションプロファイルを適用せずに、CMYK データがデバイス依存の CMYK カラーモデルを用いて印刷されます。

MEMO

- ＜なし＞に設定すると、データによっては暗い色の階調がつぶれることがあります。

＜ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙﾌﾟﾛﾌｧｲﾙを使用＞

グレーのデータを、本機のグレースケールプロファイルを使って CMYK のデータに変換するかどうかを設定します。

＜しない＞ ＜する＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ PDF 設定＞ ▶ ＜ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙﾌﾟﾛﾌｧｲﾙを使用＞ ▶ ＜しない＞または＜する＞を選択 ▶ 🏠

MEMO

- ＜する＞に設定しても、＜出力プロファイル＞や＜テキストに純ブラックを使用＞の設定によっては、BK（ブラック）のインク 1 色で印刷します。

＜出力プロファイル＞

印刷データに対して適切なプロファイルを選びます。1 つの文書に対して画像の種類別に設定することができます。

＜ Normal ＞ ＜ Photo ＞ ＜ TR Normal ＞ **＜ TR Photo ＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ PDF 設定＞ ▶ ＜出力プロファイル＞ ▶ プロファイルを選択 ▶ 🏠

＜ Normal ＞
モニターに表示された色に近い色味に調整して印刷します。

＜ Photo ＞
写真のような色味に調整して印刷します。

＜ TR Normal ＞
モニターに表示された色に近い色味に調整し、黒やグレーの部分を BK（ブラック）のインクだけを使って再現します。

＜ TR Photo ＞
写真のような色味に調整し、黒やグレーの部分を BK（ブラック）のインクだけを使って再現します。

MEMO

次のいずれかに設定されているときは、この項目の設定は無効となります。

- ＜ RGB 入力プロファイル＞が＜なし＞に設定されている
- ＜ CMYKｼﾐｭﾚｰｼｮﾝﾌﾟﾛﾌｧｲﾙ＞が＜なし＞に設定されている
- ＜ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙﾌﾟﾛﾌｧｲﾙを使用＞が＜しない＞に設定されている

＜マッチング方法＞

＜ RGB 入力プロファイル＞で色の調整を行うときに、どの要素を優先させるかを選びます。

＜色み優先＞ ＜鮮やかさ優先＞ ＜色差最小＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ PDF 設定＞ ▶ ＜マッチング方法＞ ▶ 項目を選択 ▶ 🏠

＜色み優先＞
写真やビットマップイメージの印刷に適した色味を提供します。

＜鮮やかさ優先＞
プレゼンテーション資料用のアートワークやグラフなどの印刷に適した色味を提供します。

＜色差最小＞
本機の色再現範囲内にある RGB カラー値をなるべく正確に再現したい場合に設定します。

MEMO

- ＜ RGB 入力プロファイル＞が＜なし＞に設定されているときは、この項目の設定は無効となります。

＜明るさ＞

画像全体の明るさを 5 %間隔で調整します。設定値が小さいほど明るくなり、大きいほど暗くなります。

85 ～ **100** ～ 115（%）

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ < PDF 設定> ▶ <明るさ> ▶ 明るさを調整 ▶ 🏠

<コンポジットオーバープリント>

オーバープリントが設定されている CMYK のデータを、コンポジット出力のままオーバープリントするかどうかを設定します。

<しない> <する>

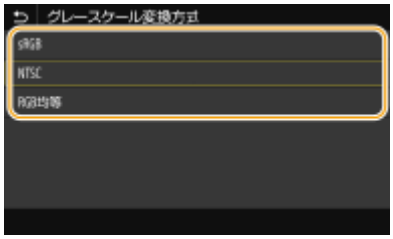
<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ < PDF 設定> ▶ <コンポジットオーバープリント> ▶ <しない>または<する>を選択 ▶ 🏠

<グレースケール変換方式>

カラーのデータをモノクロ印刷するときの方式を設定します。

< sRGB > **< NTSC >** < RGB 均等>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ < PDF 設定> ▶ <グレースケール変換方式> ▶ 変換方式を選択 ▶ 🏠



< sRGB >

色の違いを考慮した、なめらかな階調になるようにモノクロ印刷されます。

< NTSC >

テレビ映像（NTSC 方式）と同等の見た目になるようにモノクロ印刷されます。

< RGB 均等>

明るさのみを基準にし、RGB がすべて均等になるようにモノクロ印刷されます。

< XPS 設定>

XPS に関する設定を変更できます。

＜マッチング方法＞

色補正の処理方法を設定します。

＜一般＞
＜モニター色再現＞
＜色差最小＞
＜ VIVID フォト＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ XPS 設定＞ ▶ ＜マッチング方法＞ ▶ 項目を選択 ▶ 🏠

＜一般＞
写真や文書など一般書類の印刷に適した色味になるように処理されます。

＜モニター色再現＞
ビットマップイメージの印刷に適した色味になるように処理されます。本項目を設定すると、モニターに表示された色と近い色で出力されます。

＜色差最小＞
RGB データから CMYK データに変換する際の色の誤差を最小限にします。

＜ VIVID フォト＞
＜一般＞よりも濃く鮮やかな色味になるように処理されます。

＜グレー補償＞

色情報が「R ＝ G ＝ B」のブラックまたはグレーのデータを、BK（ブラック）のインク 1 色で印刷するように設定します。＜しない＞に設定すると、CMYK のインク 4 色で印刷されます。1 つの文書に対して画像の種類別に設定することができます。

・＜テキスト＞
＜しない＞
＜する＞

・＜グラフィックス＞
＜しない＞
＜する＞

・＜イメージ＞
＜しない＞
＜する＞

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ < XPS 設定> ▶ <グレー補償> ▶ 画像の種類を選択 ▶ <しない>または<する>を選択 ▶ 🏠

<グレースケール変換方式>

カラーのデータをモノクロ印刷するときの方式を設定します。

- <テキスト>
  < sRGB >
  < NTSC >
  < RGB 均等>
- <グラフィックス>
  < sRGB >
  < NTSC >
  < RGB 均等>
- <イメージ>
  < sRGB >
  < NTSC >
  < RGB 均等>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <プリンター> ▶ <プリンター仕様設定> ▶ < XPS 設定> ▶ <グレースケール変換方式> ▶ 画像の種類を選択 ▶ 変換方式を選択 ▶ 🏠

a 画像の種類

設定を変更する対象を選びます。<テキスト>は文字、<グラフィックス>は線や図形、<イメージ>は写真などの画像が対象となります。

b 変換方式

< sRGB >

色の違いを考慮した、なめらかな階調になるようにモノクロ印刷されます。

< NTSC >

テレビ映像（NTSC 方式）と同等の見た目になるようにモノクロ印刷されます。

＜ RGB 均等＞
明るさのみを基準にし、RGB がすべて均等になるようにモノクロ印刷されます。

＜白紙節約＞

印刷データの中に白紙ページがあるときに、そのページを排出しないようにするかどうかを設定します。

＜しない＞
＜する＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜プリンター仕様設定＞ ▶ ＜ XPS 設定＞ ▶ ＜白紙節約＞ ▶ ＜しない＞または＜する＞を選択 ▶ 🏠

＜ページ記述言語選択 (プラグ & プレイ)＞

プラグ＆プレイで本機にパソコンを接続したときに、本機がどのページ記述言語を使用する機器として検出されるかを設定します。

＜ネットワーク＞ *

ネットワーク上で本機を探索したときに本機がどのページ記述言語を使用する機器として検出されるかを選択します。

＜ FAX ＞
＜ LIPSLX ＞
＜ LIPSLX (V4)＞

＜ USB ＞

本機とパソコンを USB で接続したときに、本機がどのページ記述言語を使用する機器として検出されるかを選択します。

＜ LIPSLX ＞
＜ LIPSLX (V4)＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜プリンター＞ ▶ ＜ページ記述言語選択 (プラグ & プレイ)＞ ▶ ＜ネットワーク＞または＜ USB ＞を選択 ▶ ページ記述言語を選択 ▶ 本機を再起動

＜ FAX ＞
本機をファクス機として検出／接続します。

＜ LIPSLX ＞
本機を LIPS LX プリンターとして検出／接続します。

＜ LIPSLX (V4)＞
本機を XPS 対応の LIPS LX プリンターとして検出／接続します。

＜送信＞

23LX-0H3

ファクスやスキャンの送信に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜共通設定＞(P. 508)
＜スキャンして送信設定＞(P. 509)
＜ファクス設定＞(P. 516)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

＜共通設定＞

ファクスや E メール／I ファクス送信時の宛先制限や、誤送信を防ぐための確認方法を設定します。

＜新規宛先の制限＞

ファクスや E メール／I ファクス送信時に指定できる相手先を、アドレス帳に登録してある宛先に限定するかどうかを設定します。 **新規宛先の入力を制限する(P. 405)**

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞

＜履歴からの再送信を制限＞

送信履歴から宛先を指定できないようにするかどうかを設定します。 **履歴からの送信を制限する(P. 405)**

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞

＜短縮ダイヤル送信の確認＞

短縮ダイヤルで宛先を指定するときに、指定した短縮番号の内容を表示するかどうかを設定します。 **アドレス帳に登録した宛先を表示する(P. 405)**

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞

＜送信前の宛先確認＞

ファクスや E メール／I ファクス送信開始時に宛先を確認する画面を表示するかどうかを設定します。＜同報送信時のみ＞に設定すると、複数の宛先を指定したときのみ確認画面が表示されます。 **送信時に宛先を確認する(P. 406)**

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞ ＜同報送信時のみ＞

＜スキャンして送信設定＞

E メールや I ファクス送信時の設定を変更、登録できます。

＜ユーザー略称の登録＞

E メールおよび I ファクスの差出人名を登録します。登録した差出人名は本機の E メールアドレスとともに送信先に通知されます。差出人名を登録しないと、E メールアドレスだけが通知されます。

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜送信＞ ▶ ＜スキャンして送信設定＞ ▶ ＜ユーザー略称の登録＞ ▶ 差出人名を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜ E メール設定＞

E メール送信時のデフォルト設定を変更できます。

＜デフォルト設定の変更 (E メール)＞

E メール送信に関する設定の初期値を変更できます。ここで行った設定が原稿を読み込むときの基本設定値となります。 **機能の初期値を変更する(P. 180)**

・＜読取サイズ＞

＜自動＞

＜ A4 ＞

＜ A4R ＞

＜ A3 ＞

＜ A5 ＞

＜ A5R ＞

＜ B4 ＞

＜ B5 ＞

＜ B5R ＞

＜ 8K ＞

＜ 16K ＞

＜ 16KR ＞

＜ LTR ＞

＜ LTRR ＞

＜ LGL ＞

＜ STMT ＞

＜ STMTR ＞

＜ EXEC ＞

＜ EXECR ＞

＜ 11 x 17 ＞

＜ FOOLSCAP/FOLIO (215.9 x 330.2 mm)＞

＜ OFICIO (215.9 x 317.5 mm)＞

＜ LETTER (Government) (266.7 x 203.2 mm)＞
＜ LETTERR (Government) (203.2 x 266.7 mm)＞
＜ LETTER (Argentina) (280.0 x 220.0 mm)＞
＜ LETTERR (Argentina) (220.0 x 280.0 mm)＞
＜ LEGAL (Government) (203.2 x 330.2 mm)＞
＜ LEGAL (India) (215.0 x 345.0 mm)＞
＜ FOOLSCAP (Australia) (206.0 x 337.0 mm)＞
＜ OFICIO (Brazil) (216.0 x 355.0 mm)＞
＜ OFICIO (Mexico) (216.0 x 341.0 mm)＞
＜ OFICIO (Ecuador) (220.0 x 320.0 mm)＞
＜ OFICIO (Argentina) (220.0 x 340.0 mm)＞
＜ F4A (215.9 x 342.9 mm)＞
＜ 4 x 6 ＞
＜ 4 x 6R ＞
＜ 2L 判＞
＜ 2L 判 R ＞
＜六切＞
＜六切 R ＞
＜四切＞

・＜ファイル形式＞
＜ PDF ＞
＜ PDF (高圧縮)＞
＜ PDF (高圧縮 / OCR)＞
＜ PDF (OCR)＞
＜ PDF 詳細設定＞
＜ PDF ＞／＜ PDF (高圧縮)＞／＜ PDF (高圧縮 / OCR)＞／＜ PDF (OCR)＞
＜暗号化＞
＜なし＞
＜ Acrobat 7.0 以降 / 128-bit AES ＞
＜ Acrobat 9.0 相当 / 256-bit AES ＞
＜ Acrobat 10.0 相当 / 256-bit AES ＞
＜電子署名＞
＜なし＞
＜左上表示＞
＜ページごとに分割＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ JPEG ＞
＜ TIFF ＞
＜ TIFF 詳細設定＞
＜ページごとに分割＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜濃度＞
9 段階

・＜原稿の種類＞
＜文字＞

＜文字 / 写真＞

＜写真＞

・＜原稿サイズ混載＞
＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜両面原稿＞
＜ OFF ＞

＜左右開き＞

＜上下開き＞

・＜シャープネス＞
7 段階

・＜データサイズ＞
＜小：サイズ優先＞

＜標準＞

＜大：画質優先＞

・＜件名 / 本文＞
＜件名＞

＜本文＞

・＜返信先＞
＜なし＞

＜アドレス帳から指定＞

・＜重要度＞
＜低い＞

＜普通＞

＜高い＞

＜ I ファクス設定＞

I ファクスを使うための基本的な設定値を変更できます。

＜デフォルト設定の変更 (I ファクス)＞

I ファクス送信に関する設定の初期値を変更できます。ここで行った設定が原稿を読み込むときの基本設定値となります。 **機能の初期値を変更する(P. 180)**

・＜読取サイズ＞
＜自動＞
＜ A4 ＞
＜ A4R ＞
＜ A3 ＞
＜ A5 ＞
＜ A5R ＞
＜ B4 ＞
＜ B5 ＞
＜ B5R ＞
＜ 8K ＞
＜ 16K ＞
＜ 16KR ＞
＜ LTR ＞
＜ LTRR ＞
＜ LGL ＞
＜ STMT ＞
＜ STMTR ＞
＜ EXEC ＞
＜ EXECR ＞
＜ 11 x 17 ＞
＜ FOOLSCAP/FOLIO (215.9 x 330.2 mm)＞
＜ OFICIO (215.9 x 317.5 mm)＞
＜ LETTER (Government) (266.7 x 203.2 mm)＞
＜ LETTERR (Government) (203.2 x 266.7 mm)＞
＜ LETTER (Argentina) (280.0 x 220.0 mm)＞
＜ LETTERR (Argentina) (220.0 x 280.0 mm)＞
＜ LEGAL (Government) (203.2 x 330.2 mm)＞
＜ LEGAL (India) (215.0 x 345.0 mm)＞
＜ FOOLSCAP (Australia) (206.0 x 337.0 mm)＞
＜ OFICIO (Brazil) (216.0 x 355.0 mm)＞
＜ OFICIO (Mexico) (216.0 x 341.0 mm)＞
＜ OFICIO (Ecuador) (220.0 x 320.0 mm)＞
＜ OFICIO (Argentina) (220.0 x 340.0 mm)＞
＜ F4A (215.9 x 342.9 mm)＞
＜ 4 x 6 ＞
＜ 4 x 6R ＞
＜ 2L 判＞
＜ 2L 判 R ＞
＜六切＞
＜六切 R ＞
＜四切＞

・＜濃度＞
9 段階

・＜原稿の種類＞

＜文字＞

＜文字 / 写真＞

＜写真＞

・＜原稿サイズ混載＞
＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜両面原稿＞
＜ OFF ＞

＜左右開き＞

＜上下開き＞

・＜シャープネス＞
7 段階

・＜件名 / 本文＞
＜件名＞

＜本文＞

・＜返信先＞
＜なし＞

＜アドレス帳から指定＞

＜発信元記録＞

送信した日時や本機のメールアドレスなどの情報（発信元情報）を、文書の上部に付けて送信できます。これらの情報を見れば、いつ誰から送信されてきたかがわかります。

・＜発信元記録をつける＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜印字位置＞

＜画像の内側＞
＜画像の外側＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜送信＞ ▶ ＜スキャンして送信設定＞ ▶ ＜ I ファクス設定＞ ▶ ＜発信元記録＞ ▶ ＜発信元記録をつける＞で＜ ON ＞を選択 ▶ ＜印字位置＞ ▶ ＜画像の内側＞または＜画像の外側＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜ファイル設定＞

共有フォルダーおよび FTP サーバー保存時のデフォルト設定を変更できます。

＜デフォルト設定の変更 (ファイル)＞

共有フォルダーや FTP サーバーに保存する際の設定の初期値を変更できます。ここで行った設定が原稿を読み込むときの基本設定値となります。 **機能の初期値を変更する(P. 180)**

・＜読取サイズ＞
＜自動＞
＜ A4 ＞
＜ A4R ＞
＜ A3 ＞
＜ A5 ＞
＜ A5R ＞
＜ B4 ＞
＜ B5 ＞
＜ B5R ＞
＜ 8K ＞
＜ 16K ＞
＜ 16KR ＞
＜ LTR ＞
＜ LTRR ＞
＜ LGL ＞
＜ STMT ＞
＜ STMTR ＞
＜ EXEC ＞
＜ EXECR ＞
＜ 11 x 17 ＞
＜ FOOLSCAP/FOLIO (215.9 x 330.2 mm)＞
＜ OFICIO (215.9 x 317.5 mm)＞
＜ LETTER (Government) (266.7 x 203.2 mm)＞
＜ LETTERR (Government) (203.2 x 266.7 mm)＞
＜ LETTER (Argentina) (280.0 x 220.0 mm)＞
＜ LETTERR (Argentina) (220.0 x 280.0 mm)＞
＜ LEGAL (Government) (203.2 x 330.2 mm)＞
＜ LEGAL (India) (215.0 x 345.0 mm)＞
＜ FOOLSCAP (Australia) (206.0 x 337.0 mm)＞
＜ OFICIO (Brazil) (216.0 x 355.0 mm)＞
＜ OFICIO (Mexico) (216.0 x 341.0 mm)＞
＜ OFICIO (Ecuador) (220.0 x 320.0 mm)＞
＜ OFICIO (Argentina) (220.0 x 340.0 mm)＞
＜ F4A (215.9 x 342.9 mm)＞
＜ 4 x 6 ＞
＜ 4 x 6R ＞
＜ 2L 判＞
＜ 2L 判 R ＞
＜六切＞
＜六切 R ＞
＜四切＞

・＜ファイル形式＞
＜ PDF ＞
＜ PDF (高圧縮)＞
＜ PDF (高圧縮 / OCR)＞
＜ PDF (OCR)＞
＜ PDF 詳細設定＞
＜ PDF ＞ / ＜ PDF (高圧縮)＞ / ＜ PDF (高圧縮 / OCR)＞ / ＜ PDF (OCR)＞

＜暗号化＞

＜なし＞

＜ Acrobat 7.0 以降 / 128-bit AES ＞

＜ Acrobat 9.0 相当 / 256-bit AES ＞

＜ Acrobat 10.0 相当 / 256-bit AES ＞

＜電子署名＞

＜なし＞

＜左上表示＞

＜ページごとに分割＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜ JPEG ＞

＜ TIFF ＞

＜ TIFF 詳細設定＞

＜ページごとに分割＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜濃度＞
9 段階

・＜原稿の種類＞
＜文字＞

＜文字 / 写真＞

＜写真＞

・＜原稿サイズ混載＞
＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜両面原稿＞
＜ OFF ＞

＜左右開き＞

＜上下開き＞

・＜シャープネス＞
7 段階

・＜データサイズ＞
＜小：サイズ優先＞

＜標準＞

＜大：画質優先＞

＜ファクス設定＞

ファクスを使うための基本的な設定値を変更できます。

＜デフォルト設定の変更 (ファクス)＞

ファクス送信に関する設定の初期値を変更できます。ここで行った設定が原稿を読み込むときの基本設定値となります。 **機能の初期値を変更する(P. 180)**

・＜解像度＞
＜ 200 x 100 dpi (ノーマル)＞
＜ 200 x 200 dpi (ファイン)＞
＜ 200 x 200 dpi (フォト)＞
＜ 200 x 400 dpi (スーパーファイン)＞
＜ 400 x 400 dpi (ウルトラファイン)＞

・＜濃度＞
9 段階

・＜両面原稿＞
＜ OFF ＞
＜左右開き＞
＜上下開き＞

・＜シャープネス＞
7 段階

＜オフフックアラーム＞

電話機の受話器またはオプションのハンドセットが外れたままになっているときに警告音を鳴らすかどうかを設定します。警告音の音量も調整できます。

0 ～ 3

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜送信＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜オフフックアラーム＞ ▶ 警告音の音量を調整 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜ ECM 送信＞

ECM とは Error Correction Mode（エラー訂正モード）の略で、送信中の画像にエラーが発生しても、乱れた画像をそのまま送信しないようエラーチェックと修正を行います。受信時のエラーを軽減したい場合は **＜ ECM 受信＞ (P. 523)** を参照してください。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ < ECM 送信> ▶ < ON > ▶ 🏠

MEMO

- 送信側と受信側でエラーチェックを行いながら通信するため、本機だけでなく相手機側でも ECM 機能が有効になっている必要があります。
- ECM 送信時でも、電話回線の状態によってはエラーが発生することがあります。
- エラーチェックと修正を行いながら通信するため、通常よりも通信時間がかかることがあります。

<ポーズ時間セット>

たとえば、「0 →ポーズ→電話番号」の順番で登録されている番号に電話をかけると、0 がダイヤルされてから数秒経過したのち電話番号がダイヤルされます。海外にファクスを送信する場合は「国際アクセス番号→国番号→エリア番号→ファクス番号」という順番で宛先を指定しますが、ポーズを入れずこのままダイヤルすると番号が正しく認識されないことがあります。この場合は、国際アクセス番号やファクス番号のあとにポーズを入れます。ポーズを入れてもなお正しく認識されないときはポーズの時間を変更してください。ポーズの入力方法については、**ファクス送信の基本操作(P. 224)** の手順 4 を参照してください。

1 ～ **2** ～ 15（秒）

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <ポーズ時間セット> ▶ ポーズ時間を設定 ▶ <確定> ▶ 🏠

<自動リダイヤル設定>

相手が話し中などで文書を送信できなかった場合、数分後に再度ダイヤルし（リダイヤル）、送信を試みる機能です。リダイヤルする回数やリダイヤルするまでの時間間隔を設定できます。

・<自動リダイヤルを使用>
< OFF >
< ON >
<リダイヤル回数>
1 ～ **2** ～ 15（回）
<リダイヤル間隔>
2 ～ 99（分）
<送信エラー時リダイヤル>
< OFF >
< ON >

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <自動リダイヤル設定> ▶ <自動リダイヤルを使用>で< ON >を選択 ▶ 各設定項目を指定 ▶ <確定> ▶ 🏠

<リダイヤル回数>
リダイヤルする回数を設定します。回数を指定し、<確定>を選びます。

<リダイヤル間隔>
リダイヤルするまでの時間の間隔を設定します。間隔を指定し、<確定>を選びます。

<送信エラー時リダイヤル>
< ON >に設定すると、送信エラーが発生したときにリダイヤルします。

<送信前のﾀﾞｲﾔﾙﾄｰﾝ確認>

ファクスを送信するときに発信音を確認してからダイヤルするかどうかを設定します。

< OFF >
< ON >

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <送信> ▶ <ファクス設定> ▶ <送信前のﾀﾞｲﾔﾙﾄｰﾝ確認> ▶ < ON > ▶ 🏠

<回線設定>

ファクス番号やユーザー略称、回線種類を設定します。

<ユーザー電話番号の登録>

本機のファクス番号を登録します。 **▶ファクス番号とユーザー略称を登録する(P. 82)**

<ユーザー略称の登録>

会社名や個人名を登録します（ **▶ファクス番号とユーザー略称を登録する(P. 82)** ）。登録した名称は発信元情報として送信先に通知されます（ **▶<発信元記録>(P. 520)** ）。

<回線種類の選択>

お使いになる電話回線の種類を設定します。 **▶電話回線に接続する(P. 84)**

・<回線種類の選択 (手動)> <ダイヤル 20 PPS > <ダイヤル 10 PPS > **<プッシュ>**

＜回転送信＞

A4 横にセットした原稿を、自動的に 90 度回転して送信するかしないかを設定します。

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜送信＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜回転送信＞ ▶ ＜ ON ＞または＜ OFF>を選択 ▶ 🏠

＜送信スタートスピード＞

電話回線の状態が悪いときなど、送信が始まるまでに時間がかかる場合に、通信開始速度を下げて調整します。

＜ 33600 bps ＞
＜ 14400 bps ＞
＜ 9600 bps ＞
＜ 7200 bps ＞
＜ 4800 bps ＞
＜ 2400 bps ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜送信＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜送信スタートスピード＞ ▶ 通信開始速度を選択 ▶ 🏠

＜送信文書アーカイブ＞ *

送信時に指定した宛先とは別に、ファクス送信した文書をあらかじめ指定した保管先に送信するかどうかを設定します。 **送信原稿の控えを保存する(P. 242)**

• ＜送信文書アーカイブを使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜アーカイブアドレス＞

＜ファクス番号の確認入力＞

ファクスの宛先をテンキーで入力する際に、確認のため再入力を促すかどうかを設定します。 **送信前にファクス番号を確認する(P. 407)**

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜ﾌｧｸｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰから送信許可＞

パソコンからファクス送信（PC ファクス送信）できるようにするかどうかを設定します。 **パソコンからのファクス送信を制限する(P. 407)**

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

＜同報送信の制限＞

複数の宛先へファクス送信する機能（同報送信）を制限するかどうかを設定します。 **同報送信を制限する(P. 407)**

＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜発信元記録＞

本機のファクス番号や名称などの情報（発信元情報）を、文書の上部に付けて送信できます。これらの情報を見れば、誰から送信されてきたかがわかります。

・＜発信元記録をつける＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜印字位置＞
＜画像の内側＞
＜画像の外側＞
＜電話番号マーク＞
＜ FAX ＞
＜ TEL ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜送信＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜発信元記録＞ ▶ ＜発信元記録をつける＞で＜ ON ＞を選択 ▶ 各設定項目を指定 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜印字位置＞
発信元情報を付ける位置を指定します。送信する文書の画像の内側に付ける場合は＜画像の内側＞、外側に付ける場合は＜画像の外側＞を選びます。

＜電話番号マーク＞
本機に登録したファクス番号（ **ファクス番号とユーザー略称を登録する(P. 82)** ）の前に「FAX」または「TEL」のマークを付けることができます。相手先に通知される番号が電話番号であることを知らせたい場合は、＜ TEL ＞を選びます。

＜受信 / 転送＞

23LX-0H4

ファクス、E メール受信に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜共通設定＞(P. 521)
＜I ファクス設定＞(P. 521)
＜ファクス設定＞(P. 522)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

＜共通設定＞

ファクスのメモリー受信に関する設定をします。

＜受信トレイ設定＞

＜ファクスメモリー受信設定＞

受信したファクス文書をすぐに印刷しないでメモリーにいったん保存するかどうかを設定します。保存された文書は、設定を＜ OFF ＞にすればいつでも好きなときに印刷できます。 **受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信）(P. 244)**

・＜メモリー受信を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜レポートプリント＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜メモリー受信時刻設定＞
＜ﾒﾓﾘｰ受信時刻を指定する＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜メモリー受信開始時刻＞
＜メモリー受信終了時刻＞

＜I ファクス設定＞

I ファクスの受信文書の印刷に関する設定をします。

＜両面記録＞

受信した文書を用紙の両面に印刷できます。

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜ I ファクス設定＞ ▶ ＜両面記録＞ ▶ ＜ ON ＞ ▶ 🏠

＜受信プリントサイズ＞

印刷する用紙サイズを指定します。

＜ A4 ＞ ＜ A3 ＞ ＜ B4 ＞ ＜ 8K ＞ ＜ 16K ＞ ＜ LTR ＞ ＜ LGL ＞ ＜ 11 x 17 ＞ ＜ FOOLSCAP/FOLIO (215.9 x 330.2 mm)＞ ＜ OFICIO (215.9 x 317.5 mm)＞ ＜ LETTER (Government) (266.7 x 203.2 mm)＞ ＜ LETTER (Argentina) (280.0 x 220.0 mm)＞ ＜ LEGAL (Government) (203.2 x 330.2 mm)＞ ＜ LEGAL (India) (215.0 x 345.0 mm)＞ ＜ FOOLSCAP (Australia) (206.0 x 337.0 mm)＞ ＜ OFICIO (Brazil) (216.0 x 355.0 mm)＞ ＜ OFICIO (Mexico) (216.0 x 341.0 mm)＞ ＜ OFICIO (Ecuador) (220.0 x 320.0 mm)＞ ＜ OFICIO (Argentina) (220.0 x 340.0 mm)＞ ＜ F4A (215.9 x 342.9 mm)＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜ I ファクス設定＞ ▶ ＜受信プリントサイズ＞ ▶ 用紙サイズを選択 ▶ 🏠

＜ファクス設定＞

ファクスの受信や転送に関する設定をします。

＜両面記録＞

受信した文書を用紙の両面に印刷できます。

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <受信 / 転送> ▶ <ファクス設定> ▶ <両面記録> ▶ < ON > ▶ 🏠

<用紙カセット選択>

受信文書と同じサイズの用紙がないとき、どのようにプリントするかを設定できます。

<スイッチ A >
< OFF >
< ON >
<スイッチ B >
< OFF >
< ON >
<スイッチ C >
< OFF >
< ON >
<スイッチ D >
< OFF >
< ON >

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <受信 / 転送> ▶ <ファクス設定> ▶ <用紙カセット選択>を選んで、各設定項目を指定 ▶ <確定> ▶ 🏠

< ECM 受信>

ECM とは Error Correction Mode（エラー訂正モード）の略で、受信中の画像にエラーが発生しても、乱れた画像をそのまま受信しないようエラーチェックと修正を行います。送信時のエラーを軽減したい場合は **< ECM 送信> (P. 516)** を参照してください。

< OFF >
< ON >

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <受信 / 転送> ▶ <ファクス設定> ▶ < ECM 受信> ▶ < ON > ▶ 🏠

MEMO

- 送信側と受信側でエラーチェックを行いながら通信するため、本機だけでなく相手機側でも ECM 機能が有効になっている必要があります。

- ECM 受信時でも、電話回線の状態によってはエラーが発生することがあります。
- エラーチェックと修正を行いながら通信するため、通常よりも通信時間がかかることがあります。

＜着信呼出＞

ファクスの受信モードが＜自動受信＞または＜ FAX / TEL 切替＞のときに使える機能で、ファクスの着信時に呼び出し音を鳴らして通知させることができます。呼び出し音の回数は変更できます。また、呼び出し音を鳴らさないようにすることもできます。

・＜着信呼出を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
1 ～ **2** ～ 99（回）

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜着信呼出＞ ▶ ＜着信呼出を使用＞で＜ ON ＞を選択 ▶ ＜呼出回数＞に回数を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

MEMO

- ＜ ON ＞に設定したときは、本機に電話機またはオプションのハンドセットを接続しておく必要があります。
- ＜ OFF ＞に設定すると、スリープモードにはなりません。

＜リモート受信＞

本機に接続した電話機からの操作だけで、ファクスを受信できます（リモート受信）。呼び出し音が鳴って受話器を取り、相手がファクスだったら、ファクス受信用の ID 番号をダイヤルするだけで受信できます。わざわざ本機まで足を運ぶことなく、離れた場所から受信操作できます。リモート受信の使いかたについては、**電話機のダイヤル操作でファクスを受信する（リモート受信）(P. 235)** を参照してください。

・＜リモート受信を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜リモート受信 ID ＞
00 ～ **25** ～ 99

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜リモート受信＞ ▶ ＜リモート受信を使用＞で＜ ON ＞を選択 ▶ ＜リモート受信 ID ＞に ID 番号を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜自動受信切替＞

ファクスの受信モードが＜手動受信＞のとき着信があると呼び出し音が鳴りますが、そのあと一定時間経過すると自動受信に切り替わるように設定することができます。呼び出し音に気付かず受話器を取れなかった場合でも、相手がファクスであれば逃さず受信できます。

・＜自動受信切替を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜呼出秒数＞
1 ～ **15** ～ 99（秒）

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜自動受信切替＞ ▶ ＜自動受信切替を使用＞で＜ ON ＞を選択 ▶ ＜呼出秒数＞に秒数を入力 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜受信スタートスピード＞

電話回線の状態が悪いときなど、受信が始まるまでに時間がかかる場合に、通信開始速度を下げて調整します。

＜ 33600 bps ＞
＜ 14400 bps ＞
＜ 9600 bps ＞
＜ 7200 bps ＞
＜ 4800 bps ＞
＜ 2400 bps ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜受信スタートスピード＞ ▶ 通信開始速度を選択 ▶ 🏠

＜画像縮小＞

受信した文書の画像を、セットしてある用紙のサイズに合わせて自動的に縮小したり、あらかじめ指定した倍率で縮小したりすることができます。

・＜画像縮小＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜縮小率＞
＜自動＞
＜ 97 %＞
＜ 95 %＞
＜ 90 %＞
＜ 75 %＞
＜縮小方向＞

＜縦横＞

＜縦のみ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜画像縮小＞ ▶ ＜画像縮小＞で＜ ON ＞を選択 ▶ 各設定項目を指定 ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜縮小率＞
＜自動＞を選ぶとセットされている用紙サイズから縮小率を自動的に計算して画像を縮小します。＜ 97 %＞、＜ 95 %＞、＜ 90 %＞、＜ 75 %＞を選ぶと受信する文書の画像はすべて指定した倍率で縮小されます。

＜縮小方向＞
＜縦横＞を選ぶと画像を縦と横の双方向に縮小します。＜縦のみ＞を選ぶと画像を縦方向にだけ縮小します。

＜受信情報記録＞

受信日時やページ番号などの情報を、受信した文書の下部に付けて印刷できます。

＜つけない＞
＜つける＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜受信 / 転送＞ ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜受信情報記録＞ ▶ ＜つける＞ ▶ 🏠

＜転送設定＞

ファクスの転送時に使用する機能を設定します。

＜転送機能設定＞ *

受信したすべてのファクス文書をあらかじめ指定した宛先に転送するかどうかを設定します。転送先はファクス番号だけでなく、E メールアドレスやパソコンの共有フォルダーなども指定できます。 **受信した文書を自動転送する(P. 246)**

- ＜転送機能を使用＞
  ＜ OFF ＞
  ＜ ON ＞
  ＜転送先＞

＜画像をプリント＞

転送文書を印刷するかどうかを設定します。エラー時のみ印刷することもできます。 **転送文書を印刷する(P. 246)**

＜ OFF ＞ **＜ ON ＞** ＜エラー時のみ＞

＜画像をメモリーに保存＞

エラー終了した転送文書をメモリーに残すかどうかを設定します。あとから必要に応じて再送信したり、印刷したりできます。 **転送に失敗した文書を印刷／再送信／削除する(P. 246)**

＜保存しない＞ ＜エラー時のみ＞

＜ファイル保存 / 利用＞

23LX-0H5

スキャンした文書を USB メモリーに保存する場合や、保存ファイルを印刷する場合の設定に関するすべての項目を一覧で説明します。

＜共通設定＞(P. 528)
＜メモリーメディア設定＞(P. 534)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- お使いの機種やオプション、他の設定項目によっては表示されません。

＜共通設定＞

ファイル保存やメモリーメディアプリントの初期値を設定します。

＜スキャンして保存設定＞

スキャンした文書を USB メモリーやファイルに保存するときの設定をします。

＜ USB メモリー設定＞

USB メモリーに保存するときの設定を変更、登録できます。

＜デフォルト設定の変更 (USB メモリー)＞

USB メモリーに保存する際の設定の初期値を変更できます。ここで行った設定が原稿を読み込むときの基本設定値となります。 **機能の初期値を変更する(P. 180)**

・＜読取サイズ＞
＜自動＞
＜ A4 ＞
＜ A4R ＞
＜ A3 ＞
＜ A5 ＞
＜ A5R ＞
＜ B4 ＞
＜ B5 ＞
＜ B5R ＞
＜ 8K ＞
＜ 16K ＞
＜ 16KR ＞
＜ LTR ＞
＜ LTRR ＞
＜ LGL ＞
＜ STMT ＞
＜ STMTR ＞
＜ EXEC ＞
＜ EXECR ＞

＜ 11 x 17 ＞
＜ FOOLSCAP/FOLIO (215.9 x 330.2 mm)＞
＜ OFICIO (215.9 x 317.5 mm)＞
＜ LETTER (Government) (266.7 x 203.2 mm)＞
＜ LETTERR (Government) (203.2 x 266.7 mm)＞
＜ LETTER (Argentina) (280.0 x 220.0 mm)＞
＜ LETTERR (Argentina) (220.0 x 280.0 mm)＞
＜ LEGAL (Government) (203.2 x 330.2 mm)＞
＜ LEGAL (India) (215.0 x 345.0 mm)＞
＜ FOOLSCAP (Australia) (206.0 x 337.0 mm)＞
＜ OFICIO (Brazil) (216.0 x 355.0 mm)＞
＜ OFICIO (Mexico) (216.0 x 341.0 mm)＞
＜ OFICIO (Ecuador) (220.0 x 320.0 mm)＞
＜ OFICIO (Argentina) (220.0 x 340.0 mm)＞
＜ F4A (215.9 x 342.9 mm)＞
＜ 4 x 6 ＞
＜ 4 x 6R ＞
＜ 2L 判＞
＜ 2L 判 R ＞
＜六切＞
＜六切 R ＞
＜四切＞

・＜ファイル形式＞
＜ PDF ＞
＜ PDF (高圧縮)＞
＜ PDF (高圧縮 / OCR)＞
＜ PDF (OCR)＞
＜ PDF 詳細設定＞
＜ PDF ＞ / ＜ PDF (高圧縮)＞ / ＜ PDF (高圧縮 / OCR)＞ / ＜ PDF (OCR)＞
＜暗号化＞
＜なし＞
＜ Acrobat 7.0 以降 / 128-bit AES ＞
＜ Acrobat 9.0 相当 / 256-bit AES ＞
＜ Acrobat 10.0 相当 / 256-bit AES ＞
＜電子署名＞
＜なし＞
＜左上表示＞
＜ページごとに分割＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ JPEG ＞
＜ TIFF ＞
＜ TIFF 詳細設定＞
＜ページごとに分割＞

＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜濃度＞
9 段階

・＜原稿の種類＞
＜文字＞

＜文字 / 写真＞

＜写真＞

・＜原稿サイズ混載＞
＜ OFF ＞

＜ ON ＞

・＜両面原稿＞
＜ OFF ＞

＜左右開き＞

＜上下開き＞

・＜シャープネス＞
7 段階

・＜データサイズ＞
＜小：サイズ優先＞

＜標準＞

＜大：画質優先＞

＜保存ファイルの利用設定＞

USB メモリーのファイルを印刷するときの設定や表示方法を変更できます。

＜デフォルト設定の変更 (メモリーメディアプリント)＞

メモリーメディアプリントに関する設定の初期値を変更できます。ここで行った設定がメモリーメディアプリント機能の基本設定値となります。 **機能の初期値を変更する(P. 180)**

・＜用紙＞
＜手差し＞

＜カセット 1 ＞

＜カセット 2 ＞

＜カセット 3 ＞*
＜カセット 4 ＞*

・＜部数＞
1 ～ 999

・＜両面＞
＜ OFF ＞

＜左右開き＞

＜上下開き＞

・＜ JPEG / TIFF 詳細設定＞
＜明るさ＞

5 段階

＜ページ集約＞

＜ OFF ＞

＜ 2 in 1 ＞

＜ 4 in 1 ＞

＜原稿の種類＞

＜写真を優先＞
＜文字を優先＞

・＜ PDF 詳細設定＞
＜明るさ＞

7 段階

＜ページ集約＞

＜ OFF ＞

＜ 2 in 1 ＞

＜ 4 in 1 ＞

＜ 6 in 1 ＞

＜ 8 in 1 ＞

＜ 9 in 1 ＞

＜ 16 in 1 ＞

＜印刷範囲＞

＜全ページ＞

＜ページ指定＞

＜用紙サイズに拡大 / 縮小＞

＜しない＞

＜する＞

＜印字領域拡大＞

＜しない＞

＜する＞

＜注釈印刷＞

＜しない＞

＜自動＞

＜その他の設定＞

＜テキストに純ブラックを使用＞

＜しない＞

＜する＞

＜ RGB 入力プロファイル＞

＜ sRGB ＞

＜ Gamma 1.5 ＞

＜ Gamma 1.8 ＞

＜ Gamma 2.4 ＞

＜なし＞

＜ CMYKｼﾐｭﾚｰｼｮﾝﾌﾟﾛﾌｧｲﾙ＞

＜ JapanColor (Canon)＞

＜ U.S. Web Coated v1.00 (Canon)＞

＜ Euro Standard v1.00 (Canon)＞

＜なし＞

＜ｸﾞﾚｰｽｹｰﾙﾌﾟﾛﾌｧｲﾙを使用＞

＜しない＞

＜する＞

＜出力プロファイル＞

＜ Normal ＞

＜ Photo ＞

＜ TR Normal ＞

＜ TR Photo ＞

＜マッチング方法＞

＜色み優先＞

＜鮮やかさ優先＞

＜色差最小＞

＜コンポジットオーバープリント＞

＜しない＞

＜する＞

＜グレースケール変換方式＞

＜ sRGB ＞

＜ NTSC ＞

＜ RGB 均等＞

＜印字調整＞

＜インク節約モード＞

＜しない＞

＜する＞

＜解像度＞

＜スーパーファイン＞

＜ファイン＞

＜ 300 dpi ＞

＜スーパースムーズ＞

＜しない＞

＜する＞

＜文字鮮鋭化＞

＜しない＞

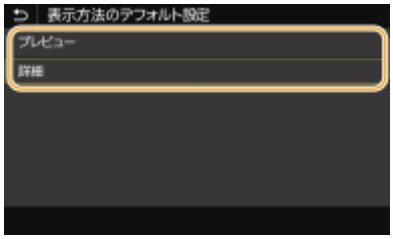
＜する＞
＜細線の濃度強調＞
＜しない＞
＜する＞
＜ライン処理＞
＜解像度優先＞
＜階調優先＞
＜太さ調整＞
＜しない＞
＜する＞

＜表示方法のデフォルト設定＞

USB メモリーのファイル表示方法をプレビュー表示、詳細表示から選択します。

＜プレビュー＞
＜詳細＞

＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜ファイル保存 / 利用＞ ▶ ＜共通設定＞ ▶ ＜保存ファイルの利用設定＞ ▶ ＜表示方法のデフォルト設定＞ ▶ 表示方法を選択 ▶



＜プレビュー＞
プレビュー画像が表示されます。

＜詳細＞
ファイル名と日付の一覧が表示されます。

＜ﾌｧｲﾙｿｰﾄのﾃﾞﾌｫﾙﾄ設定＞

USB メモリーのファイル表示をファイル名順にするか、日付順にするかを選択します。

＜名称昇順＞
＜名称降順＞
＜日付 / 時刻昇順＞
＜日付 / 時刻降順＞

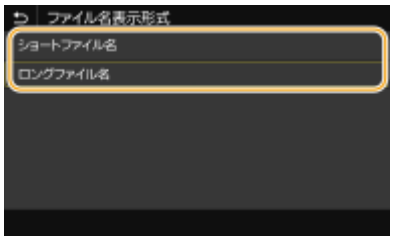
＜メニュー＞ ▶ ＜ファンクション設定＞ ▶ ＜ファイル保存 / 利用＞ ▶ ＜共通設定＞ ▶ ＜保存ファイルの利用設定＞ ▶ ＜ﾌｧｲﾙｿｰﾄのﾃﾞﾌｫﾙﾄ設定＞ ▶ ファイルの表示順序を選択 ▶

<ファイル名表示形式>

USB メモリーのファイル名を省略表示するか、そのまま表示するかを選択します。

<ショートファイル名>
<ロングファイル名>

<メニュー> ▶ <ファンクション設定> ▶ <ファイル保存 / 利用> ▶ <共通設定> ▶ <保存ファイルの利用設定> ▶ <ファイル名表示形式> ▶ <ショートファイル名>または<ロングファイル名>を選択 ▶ 🏠



<ショートファイル名>

半角換算で 8 文字以内に収まるように、ファイル名の後半を省略して表示します。類似の名前を持つファイルを区別するために、「～1」、「～2」といった数字がファイル名の末尾に表示されます。

<ロングファイル名>

半角換算で 20 文字まで省略せずに表示します。

MEMO

- 上記のファイル名の文字数には、「.jpg」などの拡張子は含まれません。

<メモリーメディア設定>

USB メモリーの機能を使用するかどうかを設定します。

<スキャン機能を使用>

スキャンした原稿を USB メモリーに保存できるようにするかどうかを設定します。 **USB メモリーへの保存を制限する(P. 410)**

< OFF >
< ON >

<プリント機能を使用>

本機に接続した USB メモリー内のデータを印刷できるようにするかどうかを設定します。 **USB メモリーからの印刷を制限する(P. 410)**

< OFF >
< ON >

＜セキュアプリント＞

23LX-08Y

セキュアプリントを使用するかどうかを設定します。 **セキュアプリントをする(P. 273)**

・＜セキュアプリントを使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜プリンタージョブの制限＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜セキュアプリント消去時間＞
10 ～ **30** ～ 240（分）

＜宛先設定＞

23LX-090

アドレス帳に関する設定項目を説明します。

＜アドレス帳の暗証番号＞

アドレス帳に暗証番号を設定し、暗証番号を入力しないと新規宛先の追加や登録済み宛先の編集ができないようにします。 **アドレス帳の使用を制限する(P. 403)**

＜管理設定＞

23LX-0H6

項目	説明
＜ユーザー管理＞(P. 538)	本機のユーザーを管理するための設定を行うことができます。
＜デバイス管理＞(P. 539)	ハードウェアと動作に関する情報や、機能を使う際に必要なデータを管理できます。
＜リモート UI 設定 / ファームウェア更新＞(P. 541)	リモート UI や本機で使用できるソフトウェアに関する設定などを行うことができます。
＜データ管理＞(P. 543)	本機の設定情報などのデータを活用するための設定や、データの初期化を行うことができます。
＜セキュリティー設定＞(P. 545)	認証機能、パスワード、暗号に関する設定を行うことができます。
＜全データ / 設定の初期化＞	履歴などを含めたデータや設定値をすべてお買い上げ時の状態に戻します。 **すべてのデータ／設定を初期化する(P. 438)**

＜ユーザー管理＞

23LX-092

本機のユーザー管理に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜システム管理者情報の設定＞(P. 538)
＜部門別 ID 管理＞(P. 538)

＜システム管理者情報の設定＞

＜ネットワーク＞や＜管理設定＞などへアクセスするためには ID や暗証番号の入力が必要となるように設定できます。ID は＜システム管理部門 ID ＞、暗証番号は＜システム管理暗証番号＞です。管理者の名前も登録できます。 **システム管理部門 ID と暗証番号を設定する(P. 351)**

＜システム管理部門 ID と暗証番号＞

管理者専用のシステム管理部門 ID とその暗証番号をそれぞれ数字で入力します。

＜システム管理部門 ID ＞ ＜システム管理暗証番号＞

＜システム管理者名＞

管理者の名前を入力します。

＜部門別 ID 管理＞

部門 ID ごとに本機の操作権限を設定したり使用状況を統計確認したりする機能（部門別 ID 管理）を使用するかしないかを設定します。 **部門別 ID 管理を行う(P. 353)**

＜ OFF ＞ ＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜ユーザー管理＞ ▶ ＜部門別 ID 管理＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 🏠

＜デバイス管理＞

23LX-093

ハードウェアと動作に関する情報や、機能を使う際に必要なデータ管理に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜デバイス情報の設定＞(P. 539)
＜ジョブ履歴の表示＞(P. 539)
＜ Canon PRINT Business でスキャン＞(P. 539)
＜稼働音低減モード＞(P. 540)

＜デバイス情報の設定＞

本機を識別するための名前や設置場所をそれぞれ入力します。たとえば、デバイス名には「ｹｲﾘﾌﾞ1ｺﾞｳ」、設置場所には「1ﾄｳ2ｶｲﾆｼｶﾞﾜ」というように入力します。

＜デバイス名＞ ＜設置場所＞

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜デバイス管理＞ ▶ ＜デバイス情報の設定＞ ▶ ＜デバイス名＞または＜設置場所＞を選択 ▶ デバイス名または設置場所を入力（ **文字を入力する(P. 129)** ） ▶ ＜確定＞ ▶ 🏠

＜ジョブ履歴の表示＞

コピー、印刷、ファクス送受信の履歴をディスプレーや通信管理レポートに表示するかどうかを設定します。

＜ OFF ＞ **＜ ON ＞**

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜デバイス管理＞ ▶ ＜ジョブ履歴の表示＞ ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ 本機を再起動

＜ Canon PRINT Business でスキャン＞

モバイル端末から Canon PRINT Business というアプリを利用してスキャン操作を可能にするかどうかを設定します。

＜ OFF ＞ **＜ ON ＞**

<メニュー> ▶ <管理設定> ▶ <デバイス管理> ▶ < Canon PRINT Business でスキャン> ▶ < OFF >または< ON >を選択 ▶ 本機を再起動

<稼働音低減モード>

本機の動作音が気になるときに、動作音をおさえることができます。

MEMO

- < ON >に設定すると、用紙種類によっては印刷速度と濃度が変わる場合があります。

< OFF > < ON >

<メニュー> ▶ <管理設定> ▶ <デバイス管理> ▶ <稼働音低減モード> ▶ < OFF >または< ON >を選択 ▶ 🏠

＜リモート UI 設定 / ファームウェア更新＞

23LX-094

本機で使用できるソフトウェアに関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜リモート UI 設定＞(P. 541)
＜ファームウェア更新＞(P. 542)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

＜リモート UI 設定＞ *

リモート UI を使うための設定をします。リモート UI を使うとウェブブラウザーから本機の設定ができます。

＜リモート UI 設定＞

リモート UI を使うかどうかを設定します（**リモート UI を無効にする(P. 413)**）。リモート UI を使うときは、TLS による暗号化通信を使用するかどうかも設定できます（**TLS 用の鍵と証明書を設定する(P. 378)**）。

・＜リモート UI を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ TLS を使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜リモート UI 設定 / ファームウェア更新＞ ▶ ＜リモート UI 設定＞ ▶ ＜リモート UI 設定＞ ▶ ＜リモート UI を使用＞で＜ ON ＞を選択 ▶ ＜ TLS を使用＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

＜アクセス制限＞

リモート UI へアクセスするためには暗証番号の入力が必要となるように設定できます。暗証番号を 7 桁以内の数字で設定します。すべてのユーザーが共通の暗証番号を使用します。 **リモート UI の暗証番号を設定する(P. 359)**

＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜リモート UI アクセス暗証番号＞

<メニュー> ▶ <管理設定> ▶ <リモート UI 設定 / ファームウェア更新> ▶ <リモート UI 設定> ▶ <アクセス制限> ▶ < ON > ▶ 暗証番号を入力 ▶ <確定> ▶ 暗証番号（確認入力） ▶ <確定> ▶ 🏠

<ファームウェア更新> *

ファームウェアを更新する際に、お使いの環境に合わせて選んでください。 **ファームウェアをアップデートする(P. 435)**

< PC 経由>
<インターネット経由>
<バージョン情報>

＜データ管理＞

23LX-095

本機の設定情報などのデータを活用するための設定や、データを初期化するための項目を一覧で説明します。

＜インポート / エクスポート＞(P. 543)
＜鍵と証明書の初期化＞(P. 544)
＜アドレス帳の初期化＞(P. 544)
＜メニューの初期化＞(P. 544)
＜本体情報の送信設定＞(P. 544)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

＜インポート / エクスポート＞ *

アドレス帳のデータや本機の各種設定値を USB メモリー経由でインポートやエクスポートすることができます。

＜インポート＞ ＜エクスポート＞

インポート

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜データ管理＞ ▶ ＜インポート / エクスポート＞ ▶ ＜インポート＞ ▶ ＜はい＞ ▶ パスワードを入力 ▶ ＜確定＞

エクスポート

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜データ管理＞ ▶ ＜インポート / エクスポート＞ ▶ ＜エクスポート＞ ▶ パスワードを入力 ▶ ＜確定＞ ▶ パスワード（確認入力） ▶ ＜確定＞

MEMO

＜アドレス帳の暗証番号＞画面が表示されたときは

- アドレス帳に暗証番号が設定されている場合は、インポート／エクスポート中に＜アドレス帳の暗証番号＞画面が表示されます。アドレス帳の暗証番号を入力し、＜確定＞を選んでください。＜スキップ＞を選ぶと、アドレス帳のデータはインポート／エクスポートされません。

インポートを実行したとき

- インポートが完了すると本機が自動的に再起動します。

＜鍵と証明書の初期化＞ *

［鍵と証明書設定］と［CA 証明書設定］をお買い上げ時の状態に戻します。 **鍵と証明書の設定を初期化する(P. 437)**

＜アドレス帳の初期化＞ *

アドレス帳の設定を消去し、お買い上げ時の状態に戻します。 **アドレス帳を初期化する(P. 438)**

＜メニューの初期化＞ *

メニューの設定値をお買い上げ時の値に戻します（初期化）。全設定値を一度に初期化したり、設定項目別に初期化したりできます。 **メニューを初期化する(P. 437)**

＜環境設定＞ ＜調整 / メンテナンス＞ ＜ファンクション設定＞ ＜宛先設定＞ ＜管理設定＞ ＜上記すべて＞

＜本体情報の送信設定＞

本製品の使用状況をキヤノンのサーバーに送信するかを選びます。

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜データ管理＞ ▶ ＜本体情報の送信設定＞ ▶ ＜次へ＞ ▶ ＜同意する＞ または＜同意しない＞ ▶ 🏠

＜セキュリティー設定＞

23LX-096

認証機能や暗号に関するすべての設定項目を一覧で説明します。

＜認証 / パスワード設定＞(P. 545)
＜暗号設定＞(P. 546)

MEMO

項目にアスタリスク（*）が付いているとき

- インポート／エクスポートできません。

＜認証 / パスワード設定＞ *

認証機能のセキュリティーを強化します。

＜認証機能の設定＞

ユーザー認証のセキュリティー機能を設定します。

＜ロックアウト設定＞

ユーザー認証に失敗した場合、失敗したユーザーに対して一時的にログインできない状態（ロックアウト）にするかどうかを設定します。＜ ON ＞に設定したときは、何回連続で失敗したらロックアウトするかどうかと、ロックアウトしてから再びログインできる状態になるまでの時間を設定します。

・＜ロックアウトを使用＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜ロックアウトのしきい値＞
1 ～ 10（回）
＜ロックアウト時間＞
1 ～ 60（分）

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜セキュリティー設定＞ ▶ ＜認証 / パスワード設定＞ ▶ ＜認証機能の設定＞ ▶ ＜ロックアウト設定＞ ▶ ＜ロックアウトを使用＞で＜ ON ＞を選択 ▶ 各設定項目を指定 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

ご注意

- 部門 ID でのログインには適用されません。

＜暗号設定＞ *

弱い暗号や、弱い暗号を用いた鍵と証明書を使用できないように設定します。

・＜弱い暗号の使用を禁止＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞
＜弱い暗号の鍵/証明書禁止＞
＜ OFF ＞
＜ ON ＞

＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜セキュリティー設定＞ ▶ ＜暗号設定＞ ▶ ＜弱い暗号の使用を禁止＞で＜ ON ＞を選択 ▶ ＜弱い暗号の鍵/証明書禁止＞で＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶ 本機を再起動

メンテナンス

メンテナンス 549
日常のお手入れ 551
本体外部を清掃する 552
原稿台ガラスを清掃する 553
フィーダーを清掃する 555
本体内部を清掃する 560
搬送路を清掃する 561
センサー部を清掃する 565
プリントヘッドをクリーニングする 568
インクタンクを交換する 570
メンテナンスカートリッジを交換する 574
プリントヘッドを交換する 578
ADF メンテナンスキットを交換する 587
残量や使用状況を確認する 591
本機を輸送する 593
キャスターを用いて水平な状態を維持したまま移動する場合 595
輸送中に傾く可能性がある場合（輸送後に 6 か月以上長期保管しないとき） 597
輸送中に傾く可能性がある場合（輸送後に 6 か月以上長期保管するとき） 606
本機を再設置する 615
本機を廃棄する 618
印刷品質を調整する 624
プリントヘッドを診断する 626
ノズルの状態をチェックする 632
カラーコピーの文字色の再現性を調整する 635
色ムラを補正する 637
すべての用紙の色ムラを補正する 638
用紙別に色ムラを補正する 641
目視による補正 644
用紙のこすれを改善する 646
プリントヘッドの位置を調整する 647
濃度やインクが乾燥する時間を調整する 650
印刷後の用紙の反りを調整する 652
余白を調整する 654
排紙時の用紙のたわみを改善する 657

白スジを補正する 658
印刷ページ数を確認する 661
レポートやリストを印刷する 662
保守サービスについて 666
消耗品 667

メンテナンス

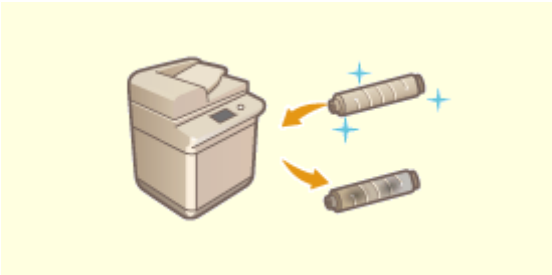
23LX-097

本体のお手入れや印刷品質の調整など、本機の保守・管理について説明しています。また、キヤノンの保守サービス、無償保証についてもご紹介しています。

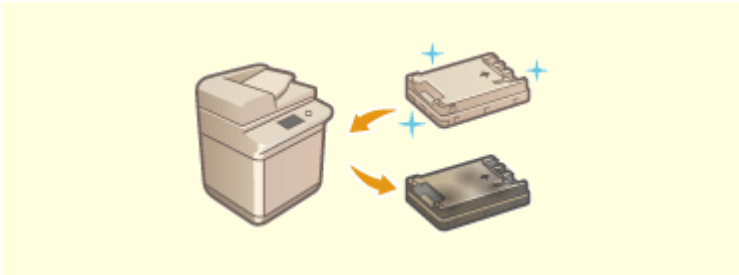
■基本的なお手入れ

日常のお手入れ(P. 551)

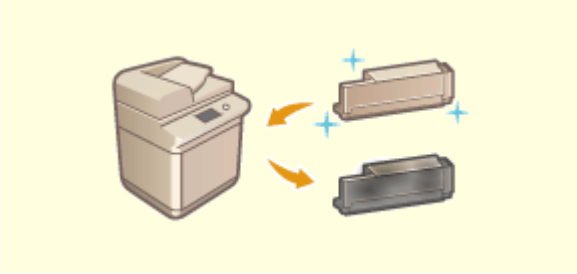
■消耗品／交換部品を交換する



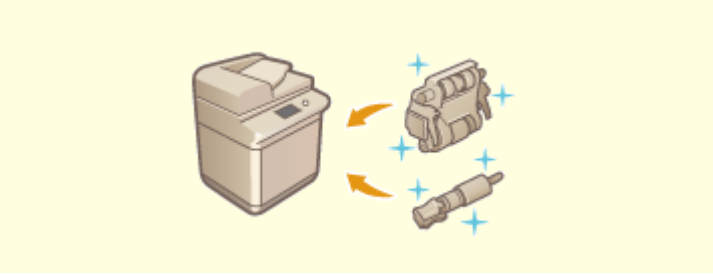
インクタンクを交換する(P. 570)



メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)

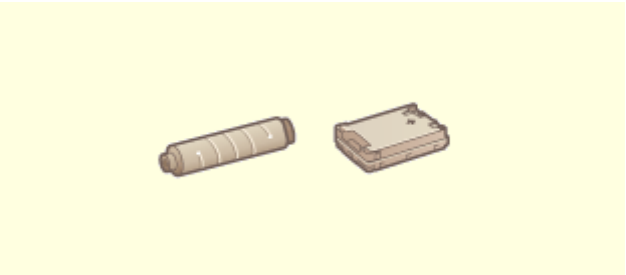


プリントヘッドを交換する(P. 578)



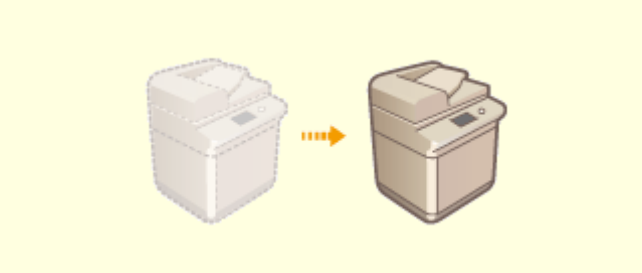
ADF メンテナンスキットを交換する(P. 587)

残量や使用状況を確認する(P. 591)

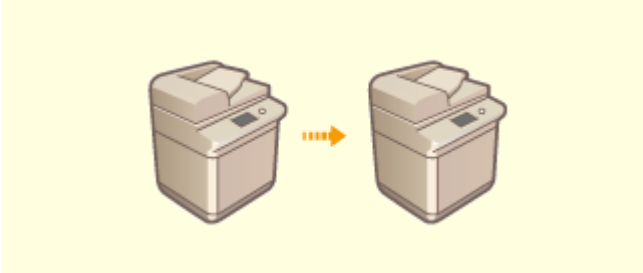


消耗品(P. 667)

■本機を調整・管理する



本機を輸送する(P. 593)



本機を再設置する(P. 615)

本機を廃棄する(P. 618)

印刷品質を調整する(P. 624)

印刷ページ数を確認する(P. 661)

レポートやリストを印刷する(P. 662)

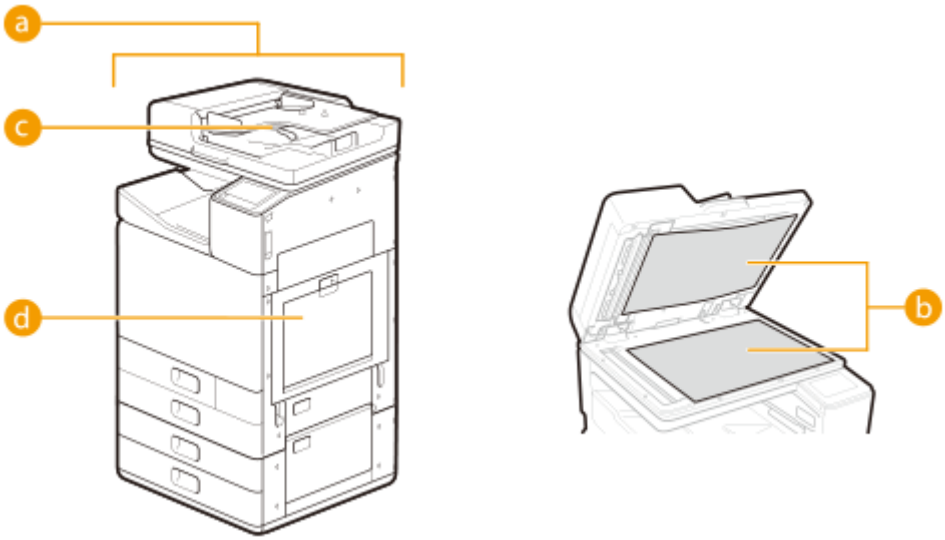
■その他

保守サービスについて(P. 666)

日常のお手入れ

23LX-0H7

印刷品質の低下を防ぎ、快適で安全にお使いいただくために、本機を定期的に清掃してください。



a 本体外部 **本体外部を清掃する(P. 552)**

b 原稿台ガラスとフィーダーの裏面 **原稿台ガラスを清掃する(P. 553)**

c フィーダー **フィーダーを清掃する(P. 555)**

d 本体内部 **本体内部を清掃する(P. 560)**

本体外部を清掃する

23LX-099

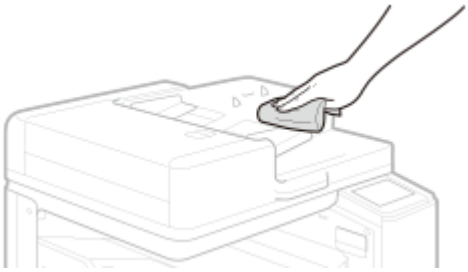
本体の表面を定期的に拭いて、きれいな状態を保ってください。

1 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く ▶電源を切る(P. 115)

- 電源を切ると、待機中の印刷データは消去されます。メモリーに受信した文書、待機中の送信文書、送受信後に自動的に印刷されるレポートなどは消えずに保持されます。

2 本体表面を拭く

- 乾いた柔らかい布で拭いてください。
- 汚れが落ちないときは、水または薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布をかたく絞って拭きます。水分が完全に乾いてから次の手順に進んでください。



3 電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れる ▶電源を入れる(P. 114)

原稿台ガラスを清掃する

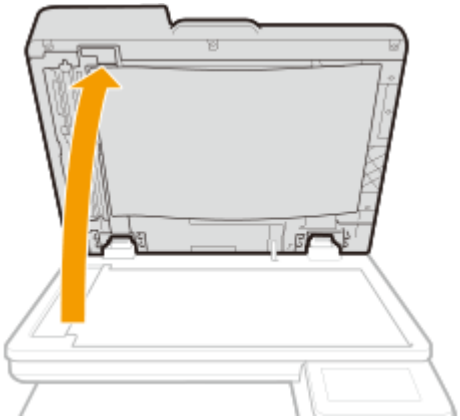
23LX-0H8

原稿台ガラスが汚れると、原稿がきれいに読み込めなかったり、原稿のサイズを正しく検知できない場合があります。

1 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く 電源を切る(P. 115)

- 電源を切ると、待機中の印刷データは消去されます。メモリーに受信した文書、待機中の送信文書、送受信後に自動的に印刷されるレポートなどは消えずに保持されます。

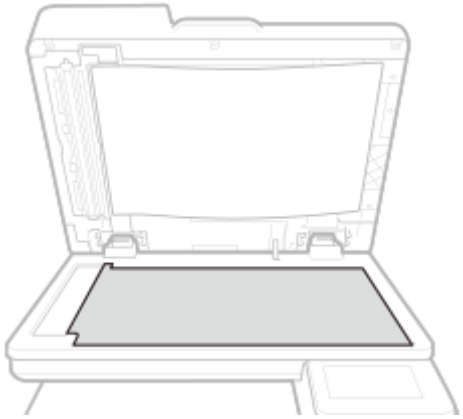
2 フィーダーを開ける



3 原稿台ガラスとフィーダーの裏面を拭く

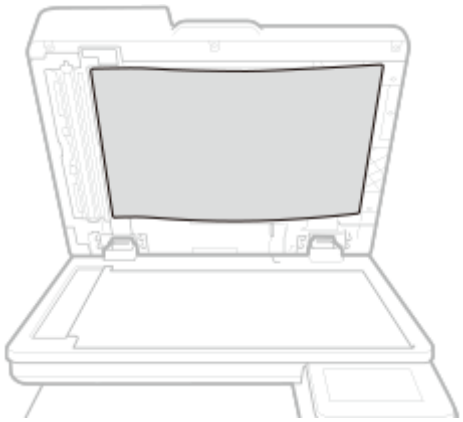
1 原稿台ガラスを拭く

- 原稿台ガラスは、付属のガラス清掃シートを使って拭きます。汚れが落ちないときは、水を含ませてかたく絞った布で拭き、そのあと乾いた柔らかい布で拭きます。



2 フィーダーの裏面を拭く

- 水を含ませてかたく絞った布で拭き、そのあと乾いた柔らかい布で拭きます。



4 **水分が完全に乾くまで待つ**

5 **フィーダーをゆっくり閉じる**

6 **電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れる** ▶電源を入れる(P. 114)

フィーダーを清掃する

23LX-09C

フィーダー内部のローラーやフィーダー原稿読み取りエリアに鉛筆の粉やホコリなどが付いていると、原稿や印刷された用紙に汚れが付くことがあります。このような場合や、ひんぱんに原稿がつまる場合は、フィーダーを清掃してください。それでも症状が改善されないときは、フィーダーの自動クリーニングを行ってください。

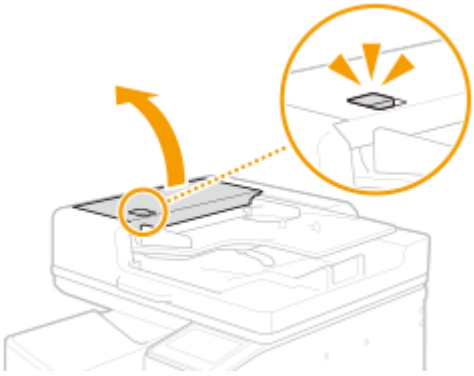
給紙ローラーの清掃(P. 555)
フィーダーの清掃(P. 556)
フィーダーの自動クリーニング(P. 558)

給紙ローラーの清掃

1 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く 電源を切る(P. 115)

- 電源を切ると、待機中の印刷データは消去されます。メモリーに受信した文書、待機中の送信文書、送受信後に自動的に印刷されるレポートなどは消えずに保持されます。

2 レバーを引いてフィーダーカバーを開ける

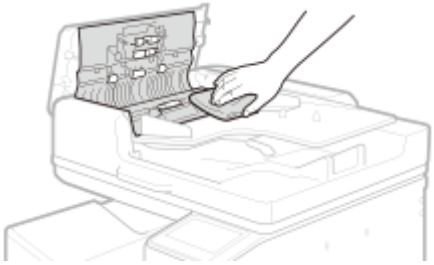


3 フィーダーカバー内にあるローラーを拭く

- 水を含ませてかたく絞った布で拭き、そのあと乾いた柔らかい布で拭きます。

ご注意

- ローラーは回しながら清掃してください。
- ローラー周辺の汚れがひどい場合は清掃してください。清掃の際は、水を含ませてかたく絞った布で拭き、そのあと乾いた柔らかい布で拭きます。



4 **フィーダーカバーを閉じる**

フィーダーの清掃

フィーダーを清掃する際は、画面にも簡易的な交換手順が表示されます。以下の手順と併せてご確認ください。

MEMO

- 付属のガラス清掃シートで拭いてください。
- 汚れが落ちないときは、水を含ませてかたく絞った布で拭きます。そのあと乾いた柔らかい布で拭き、水分を完全に乾かしてください。

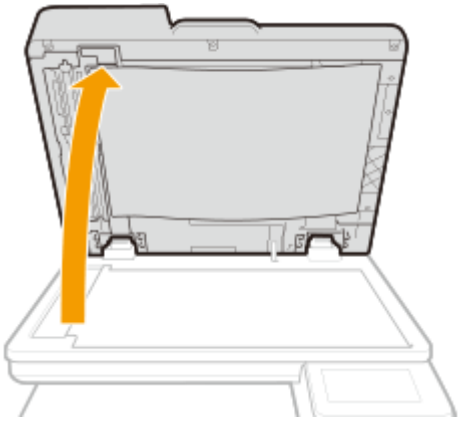
1 **ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ** ホーム画面(P. 120)

2 **＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜メンテナンス＞の順に進む**

3 **＜原稿読み取り部の清掃＞を選ぶ**

4 **付属のガラス清掃シートを取り出す**

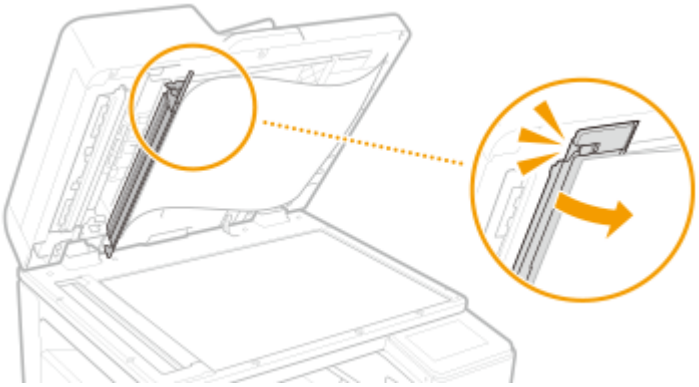
5 **フィーダーを開ける**



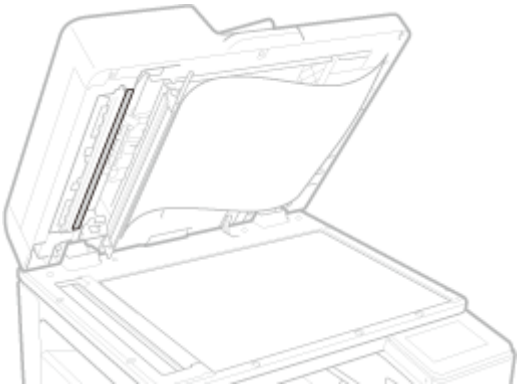
6 原稿台ガラス側の原稿読み取りエリア（細長いガラス部）を拭く

7 フィーダー側の原稿読み取りエリア（細長いガラス部）を拭く

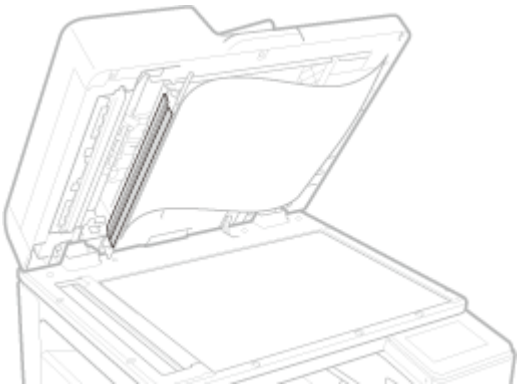
8 原稿読み取り部カバーを開く



9 原稿読み取りエリア（細長いガラス部）を拭く



10 **原稿読み取りエリア（細長いガラス部）の対向面を拭く**

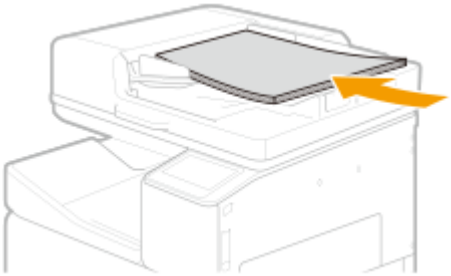


11 **原稿読み取り部カバーを閉じる**

12 **フィーダーをゆっくり閉じる**

フィーダーの自動クリーニング

フィーダーの自動クリーニングは、フィーダーにセットした用紙を使って行います。A4 またはレターサイズの普通紙 10 枚をあらかじめフィーダーにセットしておいてください。 **原稿をセットする(P. 133)**



1 **ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ** **ホーム画面(P. 120)**

2 **＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜メンテナンス＞の順に進む**

3 ＜フィーダークリーニング＞を選ぶ

4 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜開始＞を選ぶ

➠ クリーニングが開始されます。クリーニングが終了したことを知らせるメッセージが表示されたら、を押してホーム画面に戻ります。

本体内部を清掃する

23LX-0H9

印刷した用紙にスジが付くときや画像の一部が不均一に抜けるとき、または本体内部の紙づまり処理をしてもエラー画面が表示される場合に、本体内部を清掃します。

プリントヘッドをクリーニングする(P. 568)
搬送路を清掃する(P. 561)
センサー部を清掃する(P. 565)

搬送路を清掃する

23LX-0J4

搬送路を清掃する際は、画面にも簡易的な清掃手順が表示されます。以下の手順と併せてご確認ください。

ご注意

- 内部の機構を保護するために、清掃するときは必ず次の手順に従ってください。
- 拍車がある箇所は拭かないでください。
- 拍車には触らないでください。

1 ホーム画面で、<メニュー>を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 <調整 / メンテナンス> ▸ <メンテナンス>の順に進む

3 <紙搬送部の清掃>を選ぶ

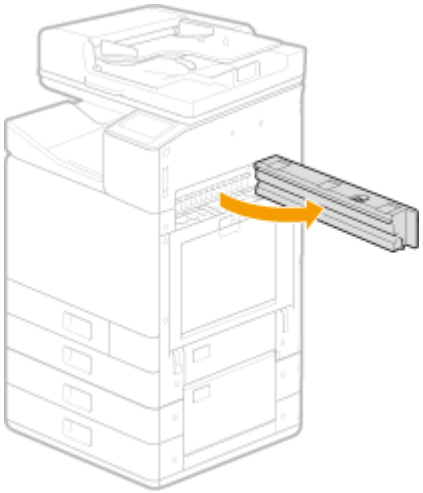
4 注意事項を確認して、<次へ>を選ぶ

5 <解除>を選ぶ

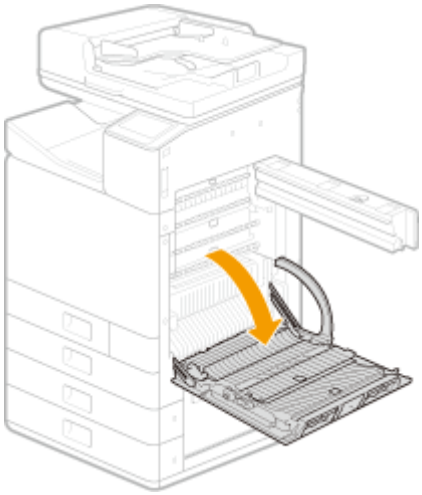
➠ 本体右カバーのロックが解除されます。

6 搬送ユニットカバーを開ける

1 搬送ユニットカバー 1 を開ける

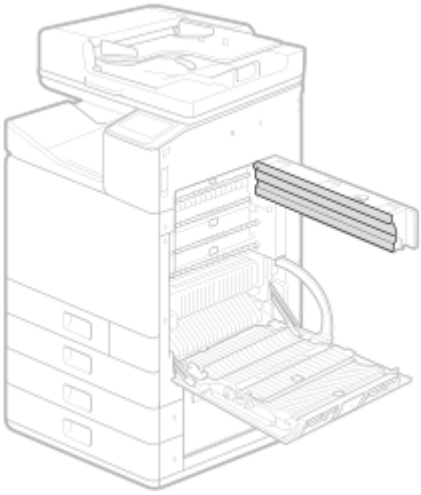


2 搬送ユニットカバー 2 を開ける



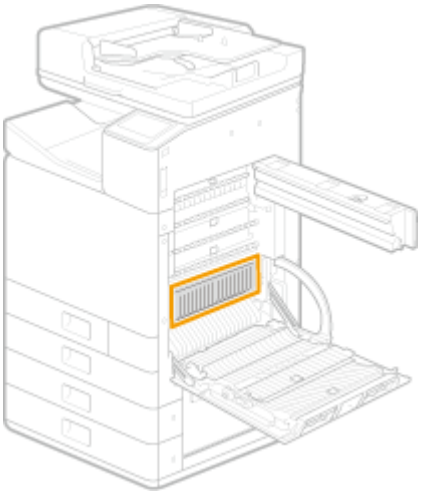
7 搬送ユニットカバー 1 の内側を拭く

- 水を含ませてかたく絞った布で拭き、そのあと乾いた柔らかい布で拭きます。
- 縦方向に拭いてください。
- 搬送ユニットカバーの外側を軽く支えながら、拭いてください。

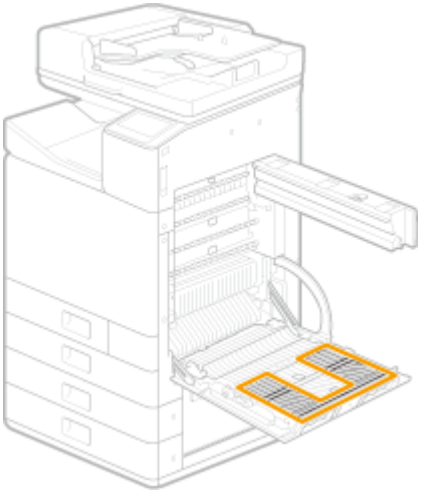


8 本体の内部を拭く

- 縦方向に拭いてください。



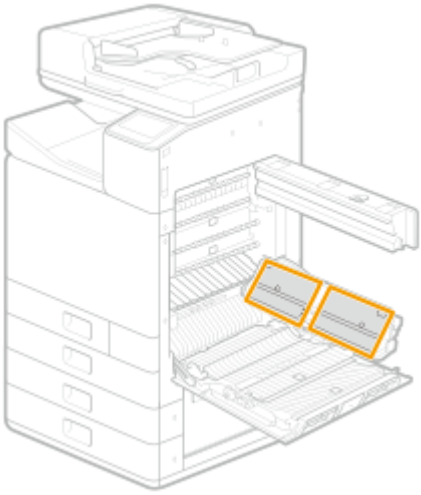
9 搬送ユニットカバー 2 の内側を拭く



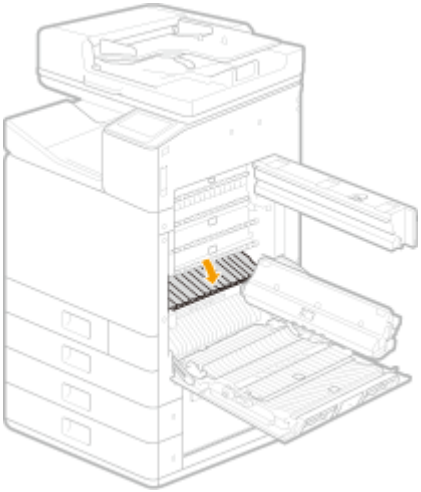
10 搬送ガイドボックスを開ける

11 搬送ガイドボックスを拭く

- 縦方向に拭いてください。
- 搬送ガイドボックスの外側を軽く支えながら、拭いてください。

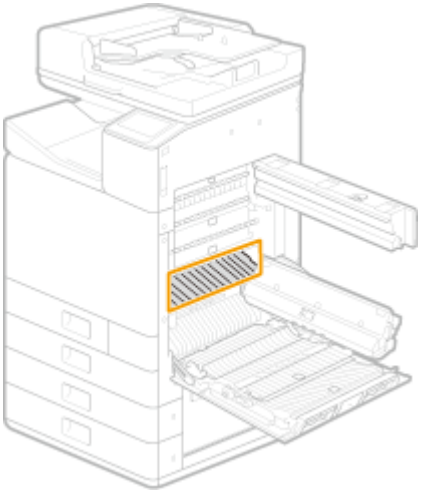


12 プラテンを下げる



13 プラテンを拭く

- プラテンには紙粉がたまりやすいため、プラテンは奥から手前に向けて拭き、紙粉が本体内部に入らないようにしてください。
- リブの線に沿って 2〜3 回拭いて、白い紙粉やインク汚れを落としてください。



ご注意

- プラテンの奥にあるローラーは傷つけないように注意してください。

14 搬送ガイドボックスを閉める

- 搬送ガイドボックスを閉めると、連動してプラテンが上がります。

15 搬送ユニットカバー 1 を閉める

16 搬送ユニットカバー 2 を閉める

センサー部を清掃する

23LX-0J5

センサー部を清掃する際は、画面にも簡易的な清掃手順が表示されます。以下の手順と併せてご確認ください。

ご注意

- 内部の機構を保護するために、清掃するときは必ず次の手順に従ってください。
- 拍車がある箇所は拭かないでください。
- 拍車には触らないでください。
- センサー部は専用の清掃ブラシで拭いてください。

1 **ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ** ホーム画面(P. 120)

2 **＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜メンテナンス＞の順に進む**

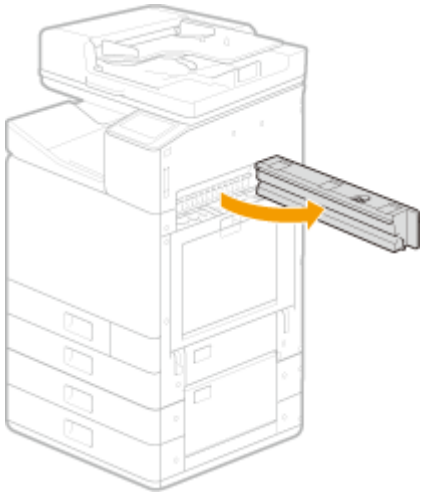
3 **＜センサーの清掃＞を選ぶ**

4 **注意事項を確認して、＜次へ＞を選ぶ**

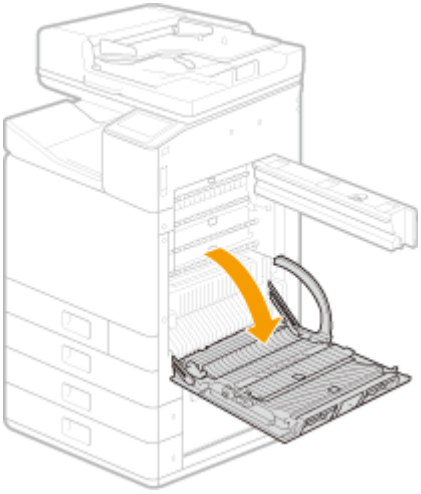
5 **＜解除＞を選ぶ**

➠ 本体右カバーのロックが解除されます。

6 **搬送ユニットカバー 1 を開ける**

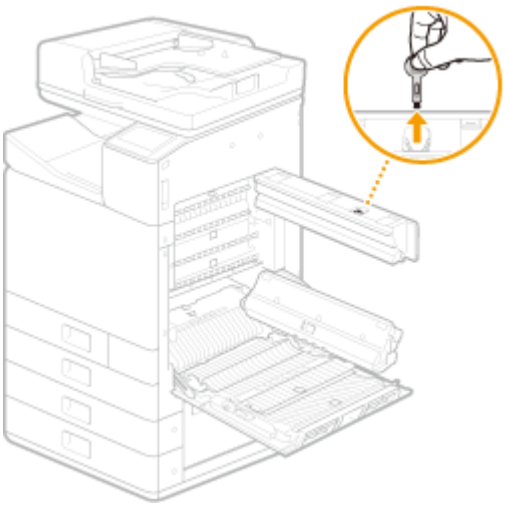


7 搬送ユニットカバー 2 を開ける



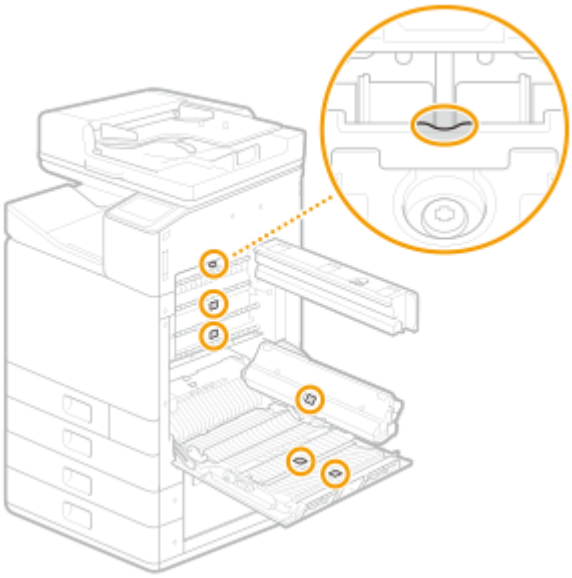
8 搬送ガイドボックスを開ける

9 清掃ブラシを取り出す



10 センサー部（6 箇所）を拭く

- 清掃ブラシで拭きます。
- 拭き終わったあとは、清掃ブラシは元の位置に収納します。



11 搬送ガイドボックスを閉める

12 搬送ユニットカバー 1 を閉める

13 搬送ユニットカバー 2 を閉める

プリントヘッドをクリーニングする

23LX-0J2

プリントヘッドをクリーニングすると、ノズルのつまりが解消され、プリントヘッドが良好な状態になります。

MEMO

- クリーニングにはインクとメンテナンスカートリッジを消費します。あらかじめ残量を確認し、残量が少なくなっている場合は、準備することをおすすめします。 **残量や使用状況を確認する(P. 591)**

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜メンテナンス＞の順に進む

3 ＜ヘッドクリーニング＞を選ぶ

4 ＜開始＞を選ぶ

- プリントヘッドのクリーニングが始まります。クリーニングは約 2 分かかります。

5 ＜はい＞を選ぶ

➠ ノズルチェックパターンが印刷されます。

6 印刷されたノズルチェックパターンを確認し、＜ A ＞または＜ B ＞を選ぶ

- ＜Ａ＞を選んだ場合は、手順 8 に進んでください。
- ＜Ｂ＞を選んだ場合は、手順 7 に進んでください。

7 画面に表示されている内容を確認し、＜はい＞を選ぶ

- プリントヘッドのクリーニングが始まります。クリーニングは約 6 ～ 25 分かかります。

MEMO

- 印刷されたノズルチェックパターンが＜Ａ＞に近くなるまで、画面の指示に従って手順 5～7 を繰り返します。

8 ＜閉じる＞を選ぶ

- を押してホーム画面に戻ります。

インクタンクを交換する

23LX-09H

インク残量が少なくなったり、なくなったりすると、インクタンクの準備や交換をお知らせするメッセージが表示されます。メッセージに従って、新しいインクタンクの準備や交換を行ってください。

メッセージが表示されたときは(P. 570)
インクタンクの交換手順(P. 571)

MEMO

- インクタンクの型番については、 **消耗品(P. 667)** を参照してください。
- 現在のインクの残量を確認することができます。 **インク残量を確認する(P. 591)**

メッセージが表示されたときは

＜新しいﾀﾝｸをご用意ください。＞

インクタンク内のインク残量が少なくなりました。この時点ではインクタンクを交換する必要はありませんが、いつでも交換できるように新しいインクタンクを準備してください。

＜ｲﾝｸﾀﾝｸ交換をお勧めします。＞

インクタンク内のインクがなくなりました。本体内に少しインクが残っていますが、まもなく印刷できない状態になります。大量に印刷するときは、交換することをおすすめします。 **インクタンクの交換手順(P. 571)**

＜インクタンク交換＞

インクタンク内にも本体内にもインクがなくなり、印刷できない状態になりました。画面の指示に従い、インクタンクを交換してください。 **インクタンクの交換手順(P. 571)**

インクタンクの交換手順

インクタンクの交換の際は、画面にも簡易的な交換手順が表示されます。以下の手順と併せてご確認ください。

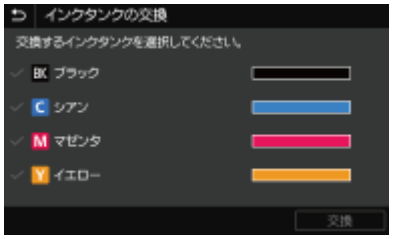
1 メッセージを確認する

■＜ｲﾝｸﾀﾝｸを交換してください＞と表示されたとき

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

2 ＜調整 / メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンス＞ ▶ ＜インクタンクの交換＞を選ぶ

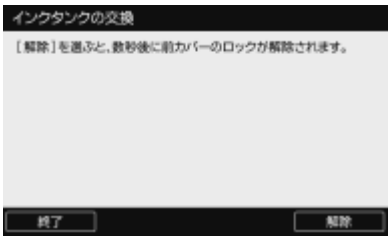
3 交換するインクの色を選択し、＜交換＞を選ぶ



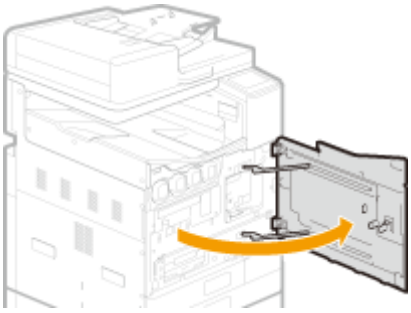
■＜インクタンク交換＞と表示されたとき

1 ＜次へ＞を選ぶ

2 ＜解除＞を選ぶ

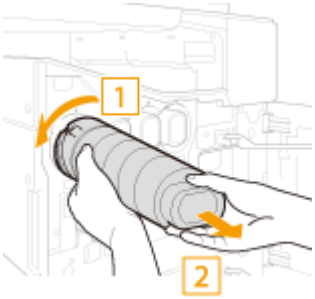


3 ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける

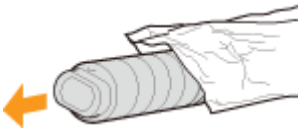


4 インクタンクを引き出す

- 反時計回りに回して、まっすぐ引き出します。



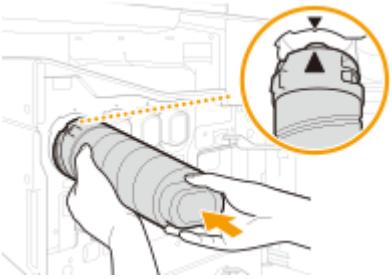
5 新しいインクタンクを取り出す



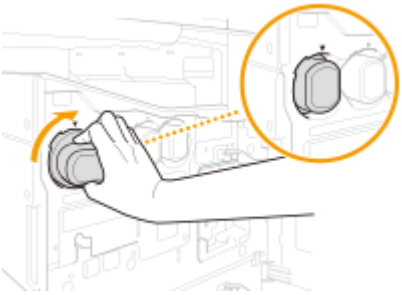
6 新しいインクタンクを取り付ける

- 取り付ける前に、交換するインクタンクの色と本体差し込み口に表示されている色が、同じであることを確認してください。

1 本体の ▼ マークとインクタンクの ▲ マークを合わせて、インクタンクを奥に突き当たるまで押し込む



2 時計回りにカチッと音がするまで回す



7 前カバーを閉める

MEMO

- キヤノンでは、資源の再利用のために、使用済みのインクタンクの回収を推進しています。
  回収窓口につきましては、下記のキヤノンのホームページ上で確認いただけます。
  キヤノンサポートページ：canon.jp/support
  事情により、回収窓口にお持ちになれない場合は、使用済みのインクタンクをビニール袋などに入れ、地域の条例に従い処分してください。

関連項目

消耗品(P. 667)

メンテナンスカートリッジを交換する

23LX-0HC

メンテナンスカートリッジの空き容量が少なくなったり、なくなったりすると、メンテナンスカートリッジの準備や交換をお知らせするメッセージが表示されます。メッセージに従って、新しいメンテナンスカートリッジの準備や交換を行ってください。

メッセージが表示されたとき(P. 574)
メンテナンスカートリッジの交換手順(P. 575)

MEMO

- メンテナンスカートリッジとは、ヘッドクリーニングなどのメンテナンスで使用したインクを吸収するための容器です。
- メンテナンスカートリッジの型番については、**消耗品(P. 667)** を参照してください。
- 現在のメンテナンスカートリッジの使用量を確認することができます。**メンテナンスカートリッジの使用量を確認する(P. 591)**
- メンテナンスカートリッジが満杯でなくても、エラーなどによって交換が必要になる場合があります。

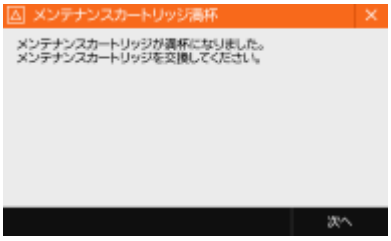
メッセージが表示されたとき

■＜ﾒﾝﾃﾅﾝｽｶｰﾄﾘｯｼﾞが満杯に近づいています。＞

メンテナンスカートリッジの空き容量が少なくなりました。まもなく印刷できない状態になるので、いつでも交換できるように新しいメンテナンスカートリッジを準備してください。**メンテナンスカートリッジの交換手順(P. 575)**

■＜メンテナンスカートリッジ満杯＞

メンテナンスカートリッジの空き容量がなくなり、印刷できない状態になりました。画面の指示に従い、メンテナンスカートリッジを交換してください。**メンテナンスカートリッジの交換手順(P. 575)**



メンテナンスカートリッジの交換手順

メンテナンスカートリッジの交換の際は、画面にも簡易的な交換手順が表示されます。以下の手順と併せてご確認ください。

1 メッセージを確認する

■＜ﾒﾝﾃﾅﾝｽｶｰﾄﾘｯｼﾞが満杯に近づいています。＞と表示されたとき

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

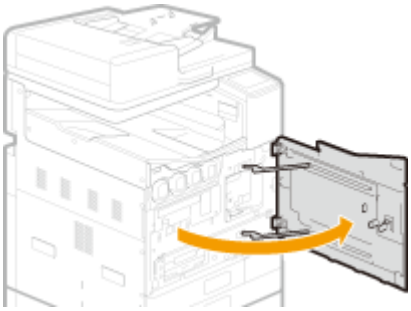
2 ＜調整 / メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンスカートリッジの交換＞を選ぶ

■＜メンテナンスカートリッジ満杯＞と表示されたとき

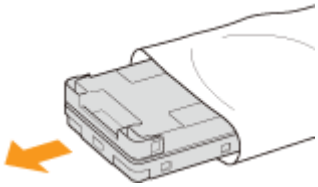
1 ＜次へ＞を選ぶ

2 ＜解除＞を選ぶ

3 ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける

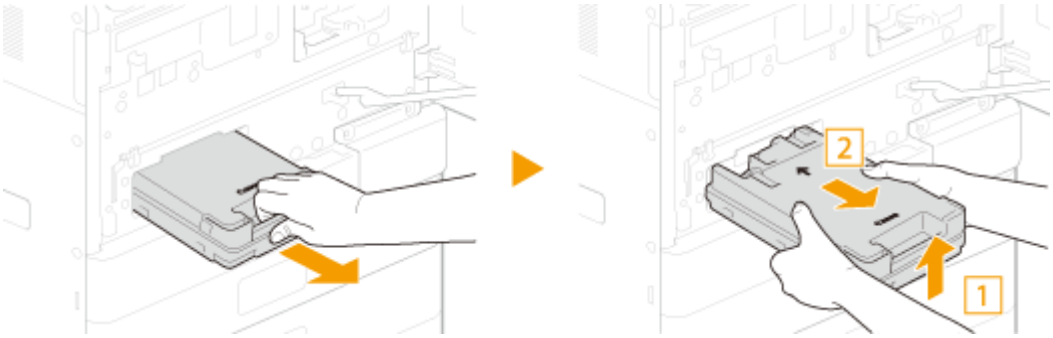


4 新しいメンテナンスカートリッジを取り出す



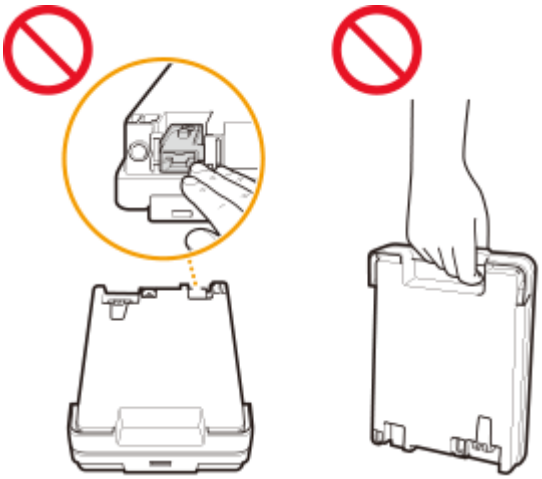
5 メンテナンスカートリッジを取り出す

- メンテナンスカートリッジを途中までいったん止まるまで引き出したら、メンテナンスカートリッジの左右を両手で持ち、軽く持ち上げて取り出します。



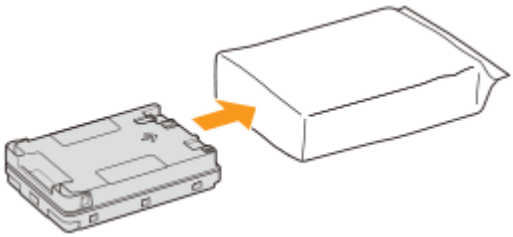
ご注意

- メンテナンスカートリッジの差し込み口には触れないでください。
- 使用済みのメンテナンスカートリッジは重くなっています。必ず、しっかり持って水平に保ちながら取り出してください。インクを含んだメンテナンスカートリッジを落としたり傾けたまま放置すると、インクが漏れて周辺が汚れる場合があります。

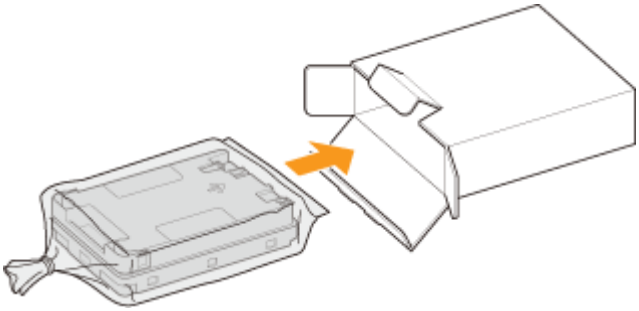


6 使用済みのメンテナンスカートリッジを水平に保ったまま、付属の収納袋に入れる

- 収納袋の口をしっかり閉じて、インクがこぼれないようにしてください。

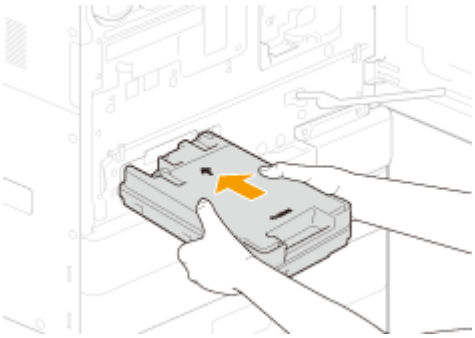


7 新しいメンテナンスカートリッジが入っていた箱に、使用済みのメンテナンスカートリッジを入れる



8 新しいメンテナンスカートリッジを取り付ける

- Canon のロゴを手前側にして、メンテナンスカートリッジをカチッと音がするまで奥までしっかりと押し込んでください。



9 前カバーを閉める

- <処理中です>のメッセージが消えたら、メンテナンスカートリッジの交換は完了です。

プリントヘッドを交換する

23LX-0J1

ディスプレーにプリントヘッドの交換を指示するエラーメッセージが表示された場合などにプリントヘッドを交換してください。プリントヘッドの交換の際に必要なインクタンク、メンテナンスカートリッジのおおよその個数をディスプレーで確認することもできます（**残量や使用状況を確認する(P. 591)**）。

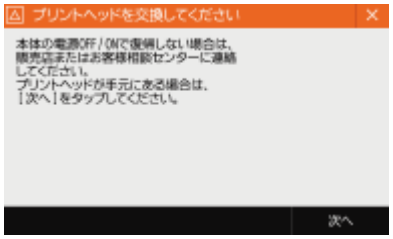
メッセージが表示されたときは(P. 578)
プリントヘッドの交換手順 (P. 578)

ご注意

- プリントヘッドを交換する場合には、インクタンクとメンテナンスカートリッジの交換が必要なときがあります。画面の指示に従って交換してください。
- プリントヘッドの交換には、約 90 分〜120 分程度かかります。
- プリントヘッドの交換の途中で、本体の電源を切らないでください。途中で電源を切った場合、インクタンク・メンテナンスカートリッジが追加で必要になる場合があります。

メッセージが表示されたときは

プリントヘッドが原因で、印刷できない状態になりました。メッセージの内容を確認してください。その後、画面を閉じてください。**プリントヘッドの交換手順 (P. 578)**



- メッセージから交換を続けることもできます。<次へ>を押してから手順 6 へ進んでください。ただし、消耗品の必要な数が分からないため、各色のインクタンクを 1 つずつ、メンテナンスカートリッジを 1 つ用意してください。

プリントヘッドの交換手順

プリントヘッドの交換の際は、画面上でも操作を行います。以下の手順と併せてご確認ください。

ご注意

- インクの残量が少ない場合は、新しいインクタンクを準備してください。
- メンテナンスカートリッジが満杯に近づいている場合は、新しいメンテナンスカートリッジを準備してください。

1 必要なインクタンクとメンテナンスカートリッジの数を確認する

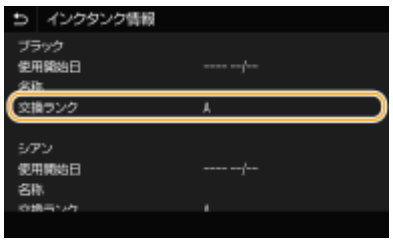
- インクタンクとメンテナンスカートリッジの必要数に関する情報は、<プリントヘッド情報>の<交換ランク>で確認できます。

1 <状況確認>を選ぶ

2 <デバイス情報>を選ぶ

3 <プリントヘッド情報>を選ぶ

4 <インクタンク情報>を選ぶ



- 交換ランクごとに必要な数が異なります。交換ランクと必要数の対応は、消耗品交換一覧表（PDF）を参照してください。

2 必要な数のインクタンクとメンテナンスカートリッジを準備する

- <プリントヘッド情報>が確認できない場合は、各色のインクタンクを 1 つずつ、メンテナンスカートリッジを 1 つ用意してください。

3 プリントヘッドの交換を開始する

- メニューからプリントヘッドの交換を開始します。

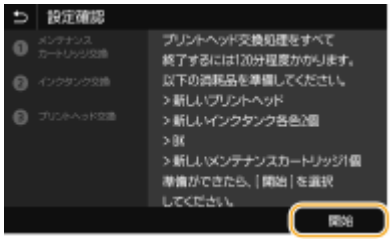
1 <メニュー>を選ぶ

2 <調整/メンテナンス>を選ぶ

3 <メンテナンス>を選ぶ

4 <プリントヘッドの交換>を選ぶ

5 <開始>を選ぶ

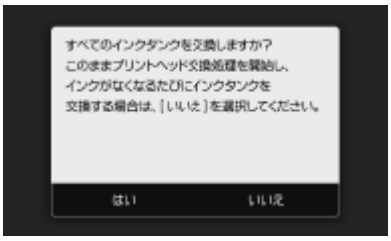


ご注意

- プリントヘッドの交換を開始したら、途中で中止することはできません。準備ができていない場合は、プリントヘッドの交換を開始しないでください。

- メンテナンスカートリッジの空き容量とインクの残量の確認が開始され、それぞれの残量に応じた交換手順が表示されます。
- 必要な消耗品の数が画面に表示されることがあります。この数はプリントヘッドの交換時に必要な最大数となります。手順 1 で確認した数を用意してください。

4 インクタンクを交換するタイミングを選ぶ



- インクタンクの交換が必要な場合、交換するタイミングを選択する画面が表示されます。
- 必要なインクタンクをあらかじめまとめて交換する場合は、<はい>を押します。すべてのインクタンクを一度に交換するため、交換に必要な時間が短くなります。
- インクの残量がなくなったときに必要なインクタンクを交換する場合は、 <いいえ>を押します。それぞれのインクが完全になくなってから交換するため、インクを無駄なく使用できます。

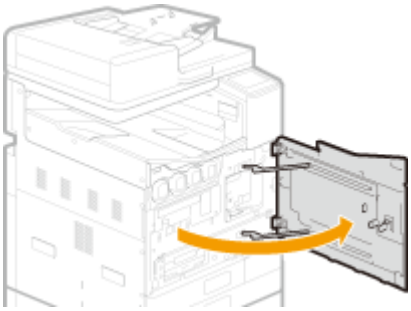
5 <解除>を選ぶ

本体前カバーを開ける前に、プリントヘッドの交換のための準備が実行されます。準備中にインクタンクやメンテナンスカートリッジの交換が必要になった場合、交換する指示が表示されます。

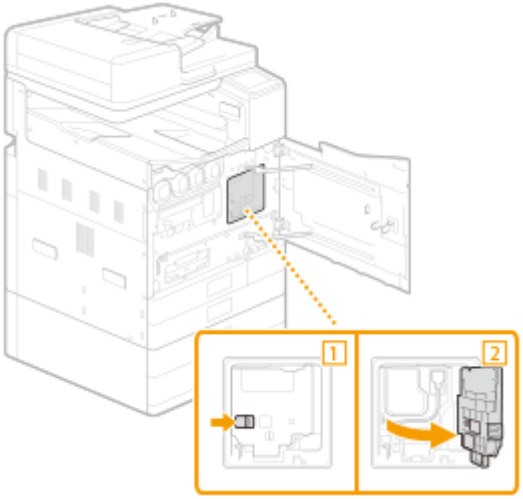
ご注意

- <解除>を選ぶと、プリントヘッドを交換するための内部処理が実行されます。実行中は前カバーを開けることができません。ロックが解除されるまで約 20 分間お待ちください。

6 <前カバーを開ける>が表示されたら、前カバーを開ける

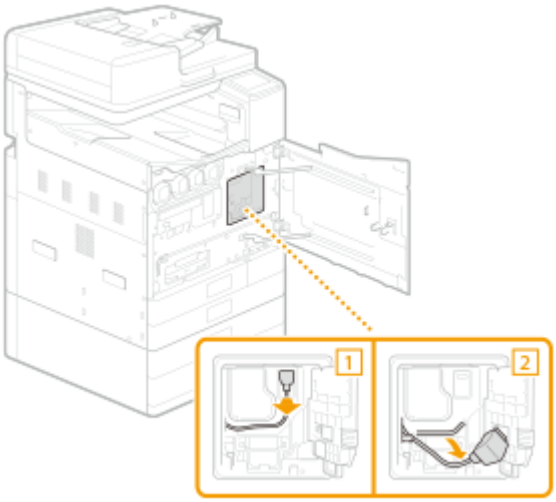


7 プリントヘッド収納部カバーを開ける

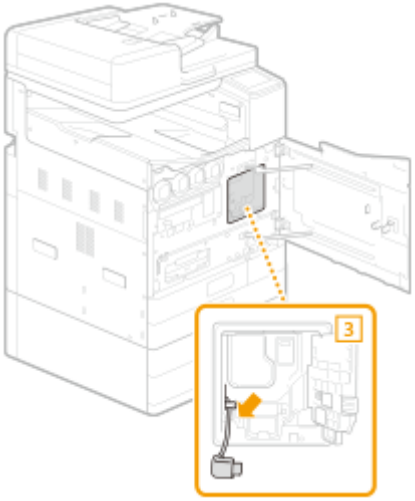


8 プリントヘッドを取り出す

1 プリントヘッドからプリントヘッド接続ケーブルのコネクタを抜き、ケーブルガイドからプリントヘッド接続ケーブルを取り外す



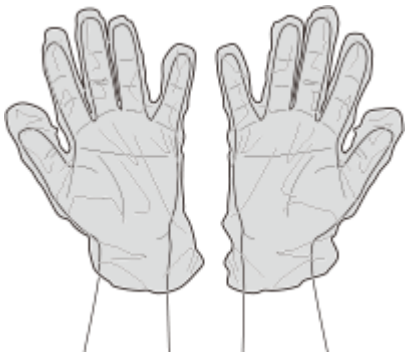
2 プリントヘッド接続ケーブルをケーブルフックに固定する



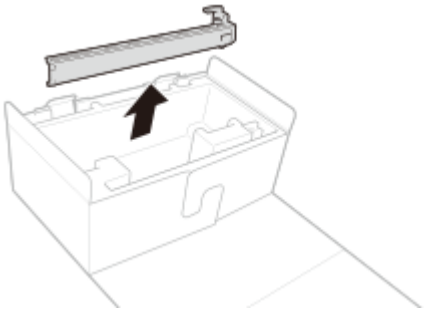
3 使用済みのプリントヘッドを入れるための収納袋を広げる

4 汚れ防止用手袋を装着する

- 使用済みのプリントヘッドを取り出す際に手が汚れることがありますので、新しいプリントヘッドに同梱されている手袋を装着してください。

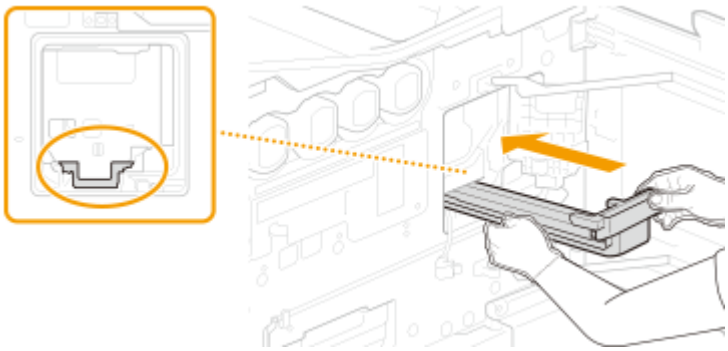


5 プリントヘッド廃棄用キャップを取り出す



6 新しいプリントヘッドに同梱されているプリントヘッド廃棄用キャップを奥に突き当たるまで差し込む

➠ プリントヘッド廃棄用キャップがプリントヘッドに装着されます。

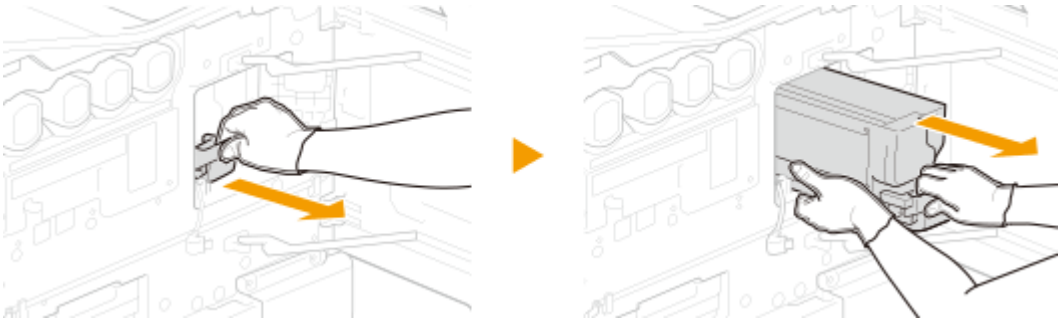


7 プリントヘッド廃棄用キャップを途中まで引き出したら、プリントヘッドの下部を両手で持ち、プリントヘッドを取り出す

- プリントヘッドも一緒に引き出されます。プリントヘッド廃棄用キャップだけが引き出されてしまう場合はもう一度奥に突き当たるまでしっかり差し込んでください。

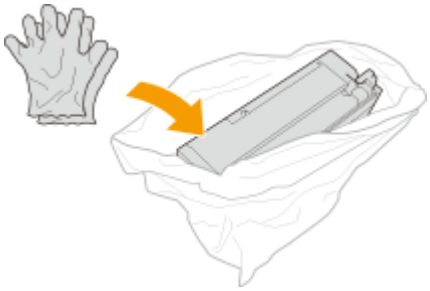
ご注意

- 使用済みのプリントヘッドは重くなっています。本体から取り出す際は、両手でしっかり持ってください。落としてしまった場合、その衝撃でインクが飛び散ることがあります。



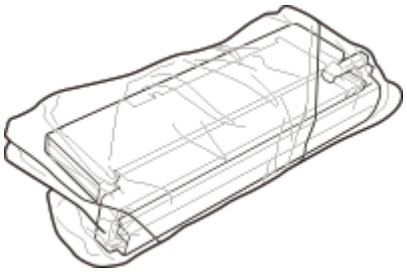
8 使用済みのプリントヘッドを収納袋に入れたあと、汚れ防止用手袋を外して、収納袋に入れる

- 使用済みのプリントヘッドがインクで汚れている場合があります。手袋を外したあとは、触れないようにしてください。



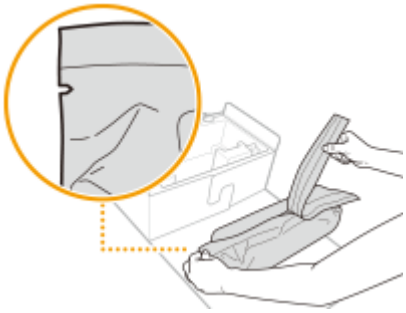
9 袋の余った部分をプリントヘッドに巻きつける

- インクが漏れないように、袋をしっかり閉じてください。

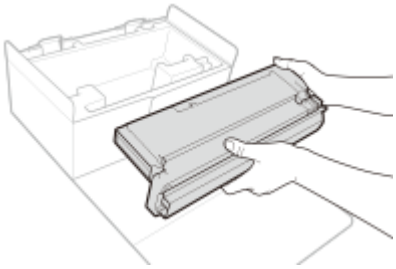


10 新しいプリントヘッドを箱から取り出し、切り口からアルミ袋を開封する

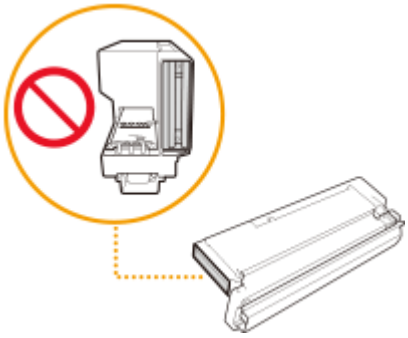
- プリントヘッドが落下すると、破損することがあります。プリントヘッドを箱から取り出すときは、床の上など低いところで行ってください。



11 両手でプリントヘッドを持ち、アルミ袋から取り出す

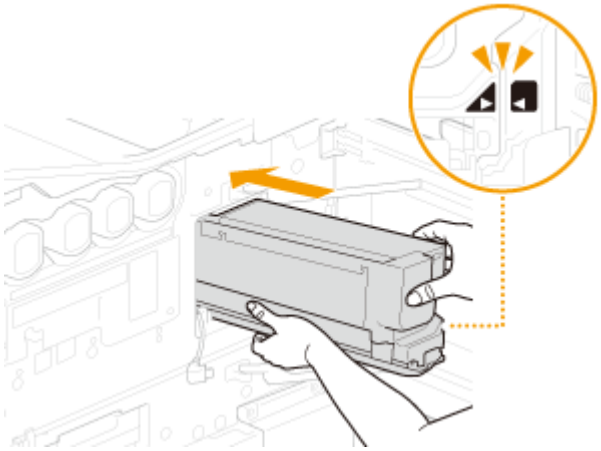


- 新しいプリントヘッドには保護カバーがついています。装着の際に必要な部品ですので外さないでください。
- 差し込み口には、絶対に触れないでください。プリントヘッドの故障の原因になります。



9 プリントヘッドを取り付ける

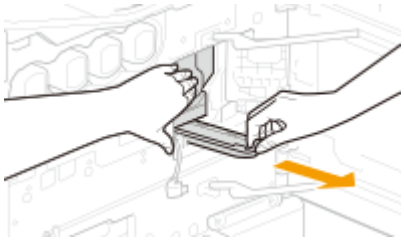
1 新しいプリントヘッドを奥まで押し込む



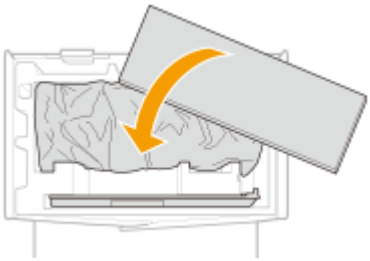
- プリントヘッドの ◢ マークと本体の ◢ マークの面がそろうまで押し込んでください。
- プリントヘッドを奥まで押し込んで装着してください。プリントヘッド保護カバーが手前にずれます。

2 プリントヘッド保護カバーを引き抜く

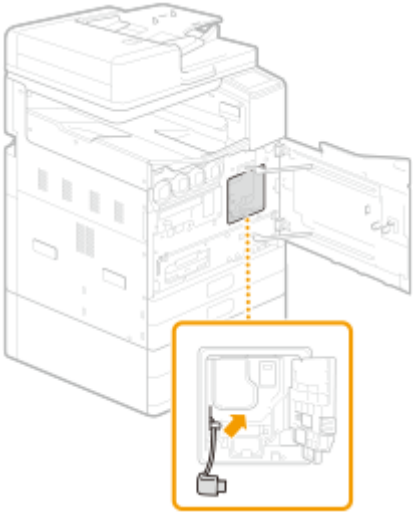
- プリントヘッドを手で押さえながら、プリントヘッド保護カバーを抜いてください。プリントヘッドを押さえていないと、いっしょに抜けてしまうことがあります。



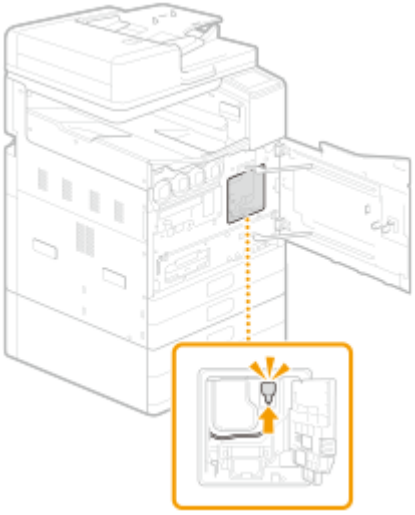
3 使用済みのプリントヘッドとプリントヘッド保護カバーを箱に入れて、緩衝材を被せる



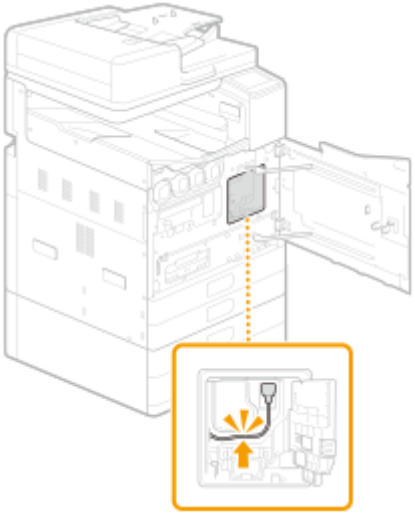
4 プリントヘッド接続ケーブルをケーブルフックから取り外す



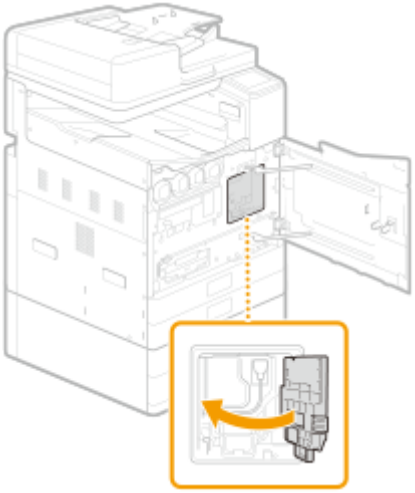
5 プリントヘッド接続ケーブルのコネクタを新しいプリントヘッドに取り付ける



6 プリントヘッド接続ケーブルをケーブルガイドに押し込む



10 プリントヘッド収納部カバーを閉める



11 前カバーを閉める

- インクの充填が開始されます。充填は約 40〜70 分かかります。充填中は電源を切らないでください。
- インクの充填中にインクタンクやメンテナンスカートリッジの交換が必要になった場合、交換する指示が表示されます。
- ＜終了しました。＞が表示されたら、プリントヘッドの交換は完了です。

ADF メンテナンスキットを交換する

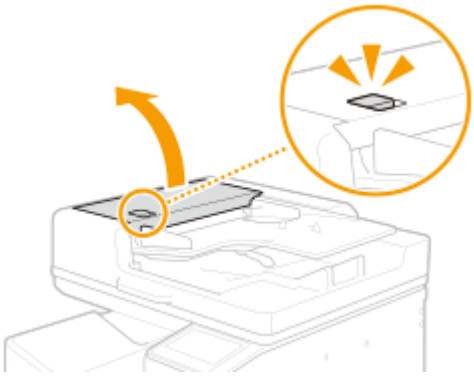
23LX-0KL

原稿給紙ローラーと原稿分離ローラーの 2 つのローラーを交換します。ローラーを交換する際は、画面にも簡易的な交換手順が表示されます。以下の手順と併せてご確認ください。

MEMO

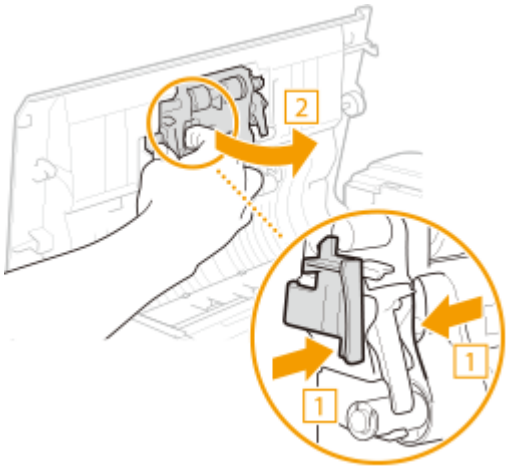
- 以下の操作で、簡易的な交換手順を確認できます。
  ＜メニュー＞ ▶ ＜調整 / メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンス＞ ▶ ＜ ADF メンテナンスキットの交換＞

1 レバーを引いてフィーダーカバーを開ける



2 原稿給紙ローラーを交換する

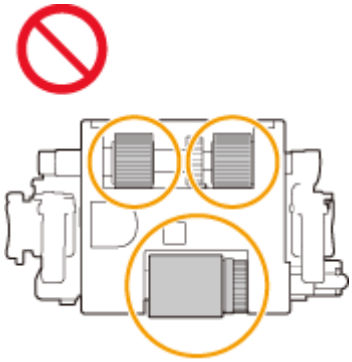
1 原稿給紙ローラーを取り外す



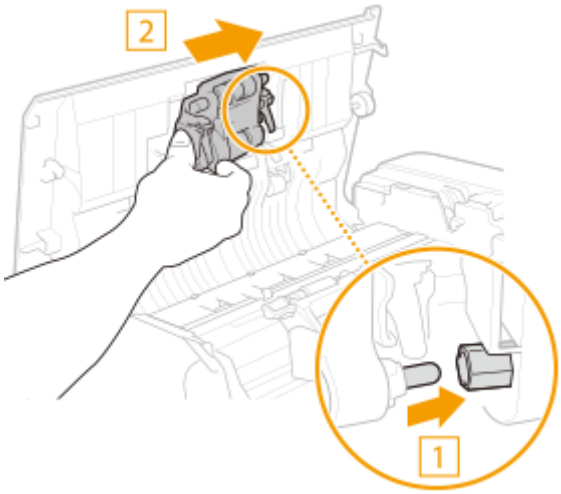
2 新しい原稿給紙ローラーを箱から取り出す

ご注意

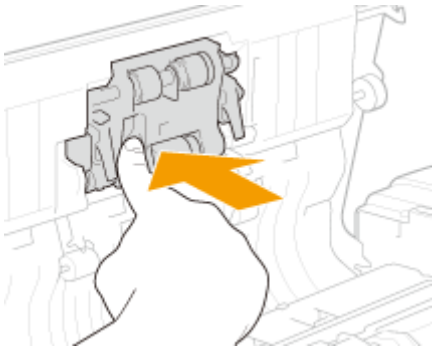
- ローラー部分は手で触れないでください。



3 原稿給紙ローラーを取り付ける

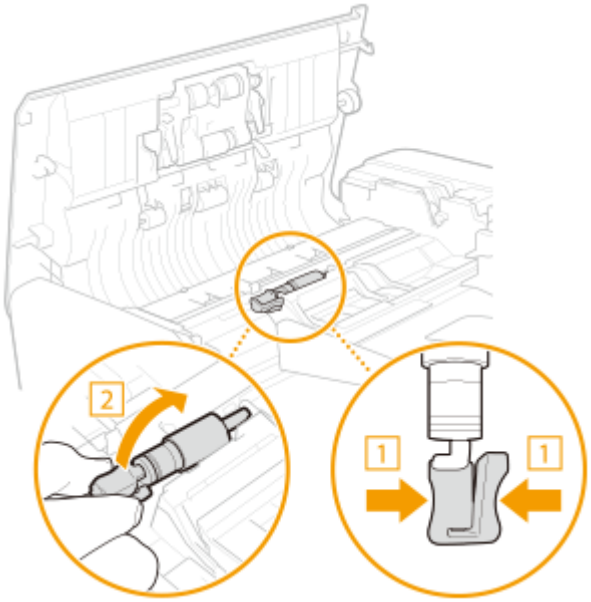


4 原稿給紙ローラーを押し込む



3 原稿分離ローラーを交換する

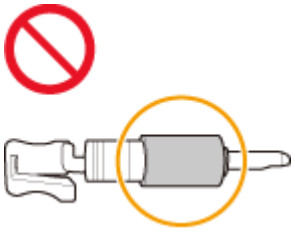
1 原稿分離ローラーを取り外す



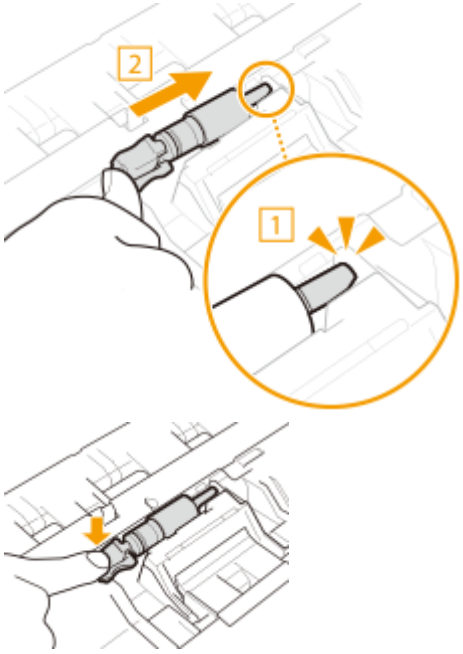
2 新しい原稿分離ローラーを箱から取り出す

ご注意

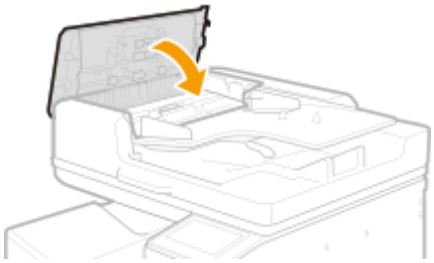
- ローラー部分は手で触れないでください。



3 原稿分離ローラーを取り付ける



4 フィーダーカバーを閉める



4 ホーム画面で、<メニュー>を選ぶ ホーム画面(P. 120)

5 <調整 / メンテナンス> ▸ <メンテナンス> ▸ <部品交換後の初期化>を選ぶ

6 < ADF メンテナンスキット>を選ぶ

7 <はい>を選ぶ

➠ 初期化が開始されます。初期化が終了したことを知らせるメッセージが表示されたら、を押してホーム画面に戻ります。

残量や使用状況を確認する

23LX-0HE

インク推定残量、メンテナンスカートリッジ推定使用量、プリントヘッドの使用状況は以下の手順で確認できます。

インク残量を確認する(P. 591)
メンテナンスカートリッジの使用量を確認する(P. 591)
プリントヘッドの使用状況を確認する(P. 591)

インク残量を確認する

特に、大量印刷の前などインク消費が増えるときは、新しいインクタンクを準備する必要があるかどうか判断するために、インク残量を確認するようにしてください。インクの残量は、リモート UI から確認することもできます。 **リモート UI の画面について(P. 418)**

MEMO

- 印刷中にインクがなくなると、印刷が一時停止します。この場合は、画面の指示に従ってインクタンクを交換すると、印刷が再開されます。

＜状況確認＞ ▶ ＜デバイス情報＞ ▶ ＜消耗品情報＞ ▶ インクの残量を確認 ▶ 🏠

メンテナンスカートリッジの使用量を確認する

特に、大量印刷の前などインク消費が増えるときは、新しいメンテナンスカートリッジを準備する必要があるかどうか判断するために、使用量を確認するようにしてください。メンテナンスカートリッジの使用量は、リモート UI から確認することもできます。 **リモート UI の画面について(P. 418)**

＜状況確認＞ ▶ ＜デバイス情報＞ ▶ ＜消耗品情報＞ ▶ メンテナンスカートリッジの使用量を確認 ▶ 🏠

プリントヘッドの使用状況を確認する

プリントヘッドの使用状況を確認することができます。インクタンクとメンテナンスカートリッジの交換ランクもここで確認できます。プリントヘッドの使用状況は、リモート UI から確認することもできます。 **リモート UI の画面について(P. 418)**

＜状況確認＞ ▶ ＜デバイス情報＞ ▶ ＜プリントヘッド情報＞ ▶ プリントヘッドの使用状況を確認 ▶

関連項目

インクタンクを交換する(P. 570)
メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)
プリントヘッドを交換する(P. 578)
消耗品(P. 667)

本機を輸送する

23LX-09K

本機は重量物です。けがなどの事故を未然に防いだり、内部の機構を保護したりするために、輸送するときは必ず次の手順に従ってください。

ご注意

本機を貸し出し・修理依頼・譲渡するときのご注意

- 本製品を傾けたり、立てたり、逆さにした状態にすると、インクが漏れる可能性があります。そのため、輸送を行う場合は、インク漏れを防ぐために、プリンター内部のインクおよびインクタンク内のインクの一部をメンテナンスカートリッジに排出する必要があります。
  排出されるインクを溜めるために必要な空き容量がメンテナンスカートリッジに残っていない場合、新しいメンテナンスカートリッジへの交換が必要になります。
  輸送の処理中にインクタンクやメンテナンスカートリッジが必要になった場合は、随時交換する必要があります。
  使用済みの消耗品を入れるビニール袋をあらかじめ用意してください。
  メンテナンスカートリッジの交換ができないと、当該輸送の準備ができなくなりますので、事前にメンテナンスカートリッジを用意しておくことをお勧めします。
  なお、当該輸送の準備のために取り外したメンテナンスカートリッジは、通常の印刷時においては、まだ使用可能な空き容量が残っている場合があります。
  その場合には、再装着して使用することができます。
  また、輸送には、側面のカバーなどを固定するためのテープが必要です。あらかじめ用意してください。
  当該輸送の準備を行った後に本製品をご使用になる場合は、プリンターを印刷可能な状態に設定するために、インクを消費します。これに伴い、メンテナンスカートリッジも使用されます。
- インク残量不明エラー発生時は、＜輸送の準備＞のメニューは実行できません。

■キャスターを使用して水平な状態を維持したまま移動可能な場合

オプションの 2 段カセットペディスタルを装着していると、以下のような場合はキャスターを使用して移動できます。

キャスターを用いて水平な状態を維持したまま移動する場合(P. 595)

移動例	事例
屋内同一階層での移動	キャスターによる移動（傾き角度：5 度以下）
屋内他階層への移動	エレベーターを利用してのキャスターによる移動（傾き角度：5 度以下）

■移動中に傾く可能性がある場合

本体を傾けたり、乗り物を使用して輸送する場合は、メニューから＜輸送の準備＞を実行します。

輸送中に傾く可能性がある場合（輸送後に 6 か月以上長期保管しないとき）(P. 597)
輸送中に傾く可能性がある場合（輸送後に 6 か月以上長期保管するとき）(P. 606)

移動例	事例
屋内他階層への移動	階段などを使用して本体を傾けての移動（傾き角度：40 度以下）

屋外への移動	乗り物による輸送（傾き角度：40 度以下）

2 段カセットペディスタルを装着していないときは、本体を傾けて移動する場合と同様の方法で移動します。

キャスターを用いて水平な状態を維持したまま移動する場合

23LX-0KU

本体を水平な状態に維持したまま移動する場合は、オプションの２段カセットペディスタルのキャスターを使用して、移動します。

1 用紙を取り出す

- 給紙カセットと手差しトレイからすべての用紙を取り出してください。

2 電源を切る ▶電源を切る(P. 115)

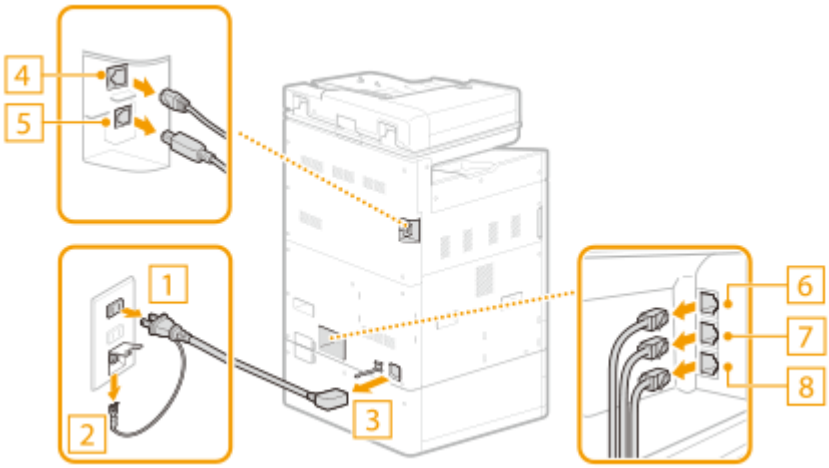
3 接続されているケーブルやコードをイラストの番号順に抜く

- LAN ケーブル（4）～電話コード（8）の有無は接続環境によって異なります。
- オプションのハンドセットを取り付けている場合は、ハンドセットを置き台から取り外してください。

1 電源プラグ
2 アース線
3 電源コード

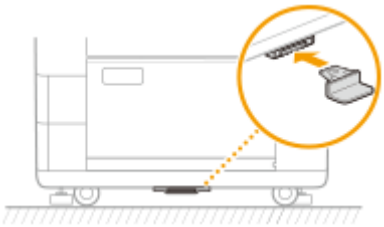
電源コードクランプの固定を外して、電源コードを取り外します。

4 LAN ケーブル
5 USB ケーブル
6 ハンドセット
7 外付け電話機
8 電話コード

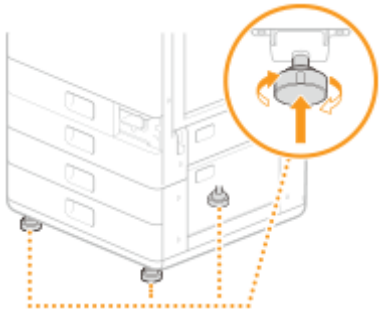


4 転倒防止部品を 2 段カセットペディスタル右側面から取り外す

- 転倒防止部品は、輸送したあとにも必要になりますので、捨てずに保管してください。



5 カセットペディスタル底面にある位置固定アジャスターを矢印の方向に回して上げる



6 本体を移動する

本機の輸送を終えて、再度使用するときは、上記と逆の手順で設置してください。

関連項目

本機を再設置する(P. 615)

輸送中に傾く可能性がある場合（輸送後に 6 か月以上長期保管しないとき）

23LX-0KW

本体を輸送した後、6 か月以内に使用する場合と 6 か月以上使用せずに保管する場合では、輸送方法が異なります。6 か月以内に使用する場合は、以下の操作で輸送してください。

ご注意

- 移動中の傾き角度は 40 度以下となるように注意してください。

1 必要なインクタンクとメンテナンスカートリッジの数を確認して、準備する

インクタンクとメンテナンスカートリッジ必要数に関する情報が、＜プリントヘッド情報＞の＜交換ランク＞で確認できます。

＜状況確認＞ ▶ ＜デバイス情報＞ ▶ ＜プリントヘッド情報＞ ▶ ＜インクタンク情報＞

輸送後の再設置の際にも、交換ランクに応じた消耗品が必要となります。確認したプリントヘッド情報のレポートを印刷してください。 **プリントヘッドの使用状況のレポートを印刷する(P. 665)**

- 交換ランクごとに必要な数が異なります。交換ランクと必要数の対応は、消耗品交換一覧表（PDF）を参照してください。

2 プリントヘッド固定部材の有無を確認する

1. ホーム画面で＜メニュー＞ ▶ ＜調整 / メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンスカートリッジの交換＞を選ぶ
2. ＜解除＞を選んで、画面が変わったら、前カバーを開ける
3. プリントヘッド固定部材があることを確認する
4. 前カバーを閉める

ご注意

- プリントヘッド固定部材がない場合は、販売店またはお客様相談センターに連絡して、プリントヘッド固定部材を入手してください。固定部材がない状態で輸送を実施すると、故障の原因となります。

3 用紙を取り出す

- 給紙カセットと手差しトレイからすべての用紙を取り出してください。

4 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

5 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜メンテナンス＞の順に進む

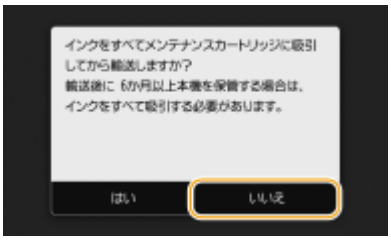
6 ＜輸送の準備＞を選ぶ

ご注意

インク残量不明エラー発生時は、＜輸送の準備＞のメニューは実行できません。

7 ＜システム管理部門 ID ＞と＜暗証番号＞を入力して、＜ログイン＞を選ぶ

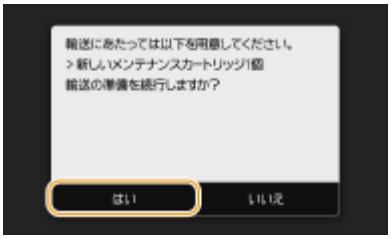
8 メッセージを確認し、＜いいえ＞を選ぶ



9 メッセージを確認し、＜はい＞を選ぶ

ご注意

輸送の準備を開始したら、途中で中止することはできません。準備ができていない場合は、輸送の準備を開始しないでください。

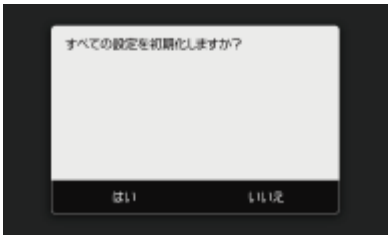


10 プリントヘッド固定部材の有無を確認する画面が表示されるので、＜いいえ＞を選ぶ

- 輸送の準備が開始されます。輸送の準備には 15〜20 分かかります。

11 設定を初期化を選択する画面で、＜はい＞または＜いいえ＞を選ぶ

- ＜はい＞を選ぶと、履歴などを含めたデータや設定値がすべてお買い上げ時の状態に戻ります。本機の使用者が変わるときなどに、選択してください。



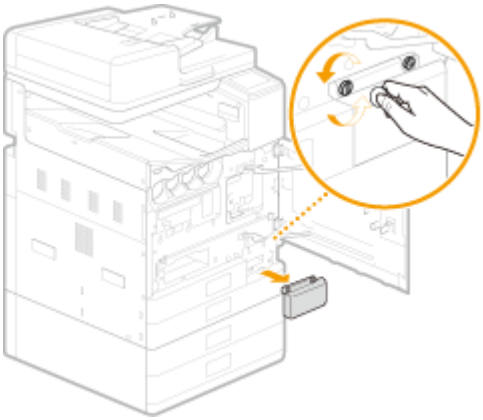
12 ＜解除＞を選ぶ

13 ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける

14 メンテナンスカートリッジを取り外す ▶メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)

- 取り外したメンテナンスカートリッジはビニール袋に入れ、インクがこぼれないようにしっかり結んでください。

15 グリップカバーを取り外す



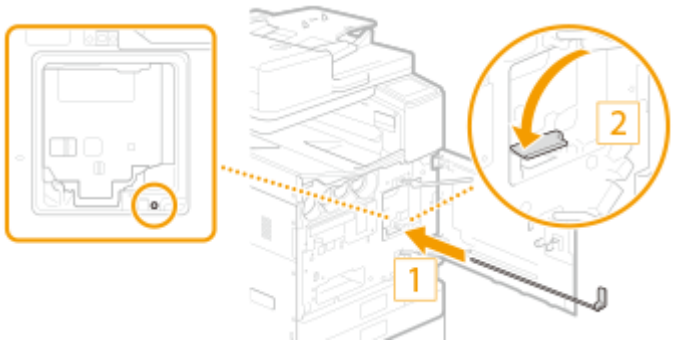
16 前カバーを閉める

17 ＜解除＞を選ぶ

18 ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける

19 プリントヘッド固定部材を取り付ける

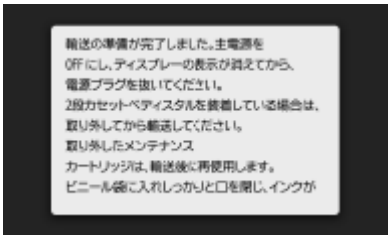
- 本体内部に保管しているプリントヘッド固定部材（▶**本体内部(P. 106)**）を取り出し、挿入口に差し込んでください。



- 突き当たるまで差し込んだらレバーを左側に倒してください。

20 前カバーを閉める

21 電源を切る 電源を切る(P. 115)



22 接続されているケーブルやコードをイラストの番号順に抜く

- LAN ケーブル（4）～電話コード（8）の有無は接続環境によって異なります。
- オプションのハンドセットを取り付けている場合は、ハンドセットを置き台から取り外してください。

1 電源プラグ

2 アース線

3 電源コード

電源コードクランプの固定を外して、電源コードを取り外します。

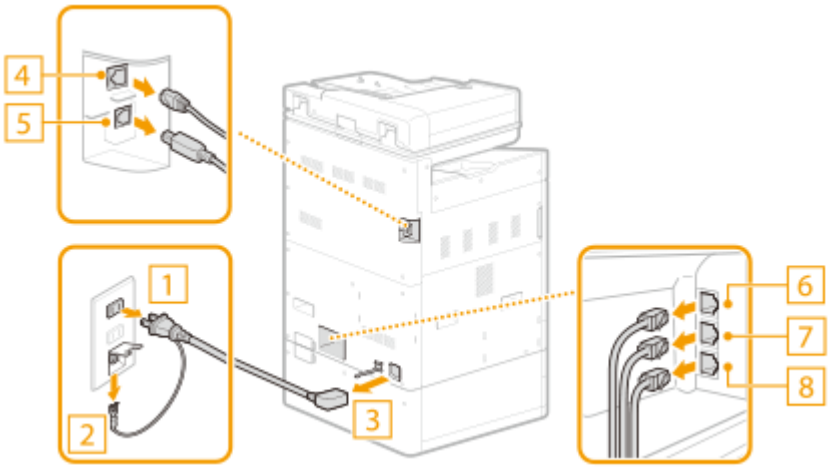
4 LAN ケーブル

5 USB ケーブル

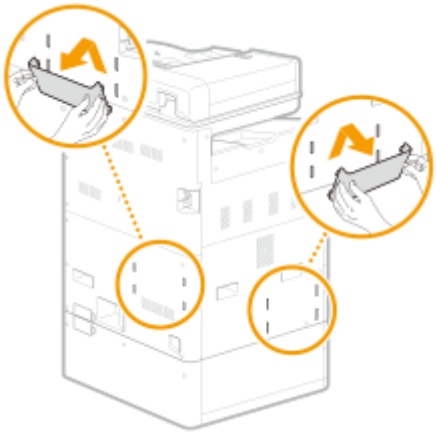
6 ハンドセット

7 外付け電話機

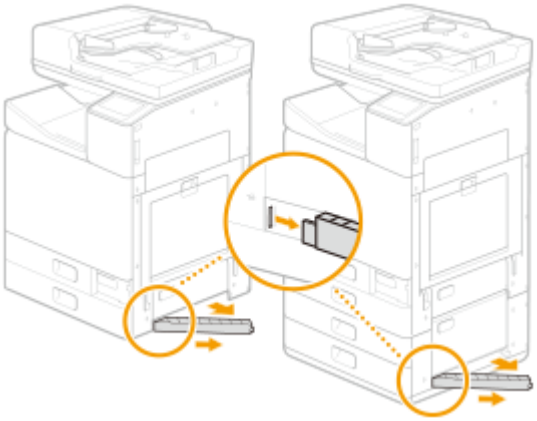
8 電話コード



23 ブックホルダーを取り外す



24 カセット保護カバーを取り外す

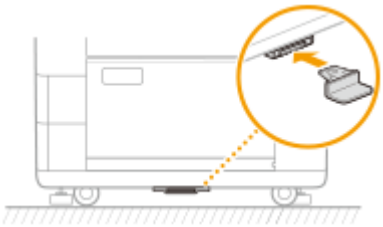


■オプションの２段カセットペディスタルを装着している場合

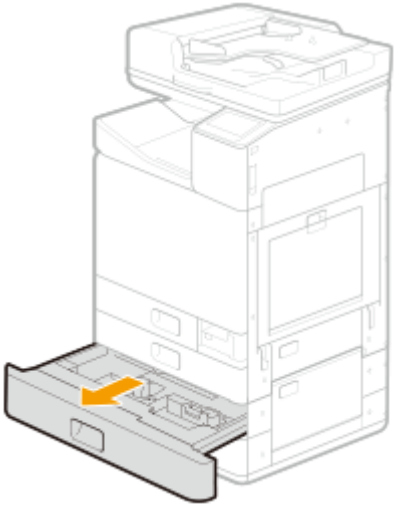
本機は重量物（**基本仕様／コピー機能(P. 755)**）です。運搬用グリップをつかんで、必ず４人で本体を持ち上げてください。

1 転倒防止部品を２段カセットペディスタル右側面から取り外す

- 転倒防止部品は、輸送したあとにも必要になりますので、捨てずに保管してください。

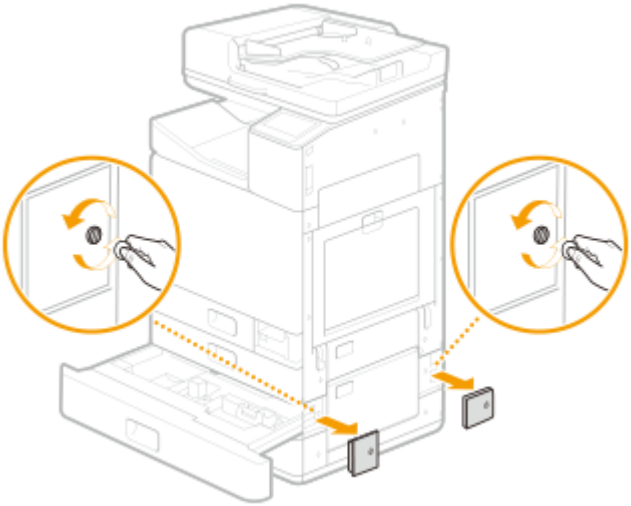


2 給紙カセット３を少し引き出す

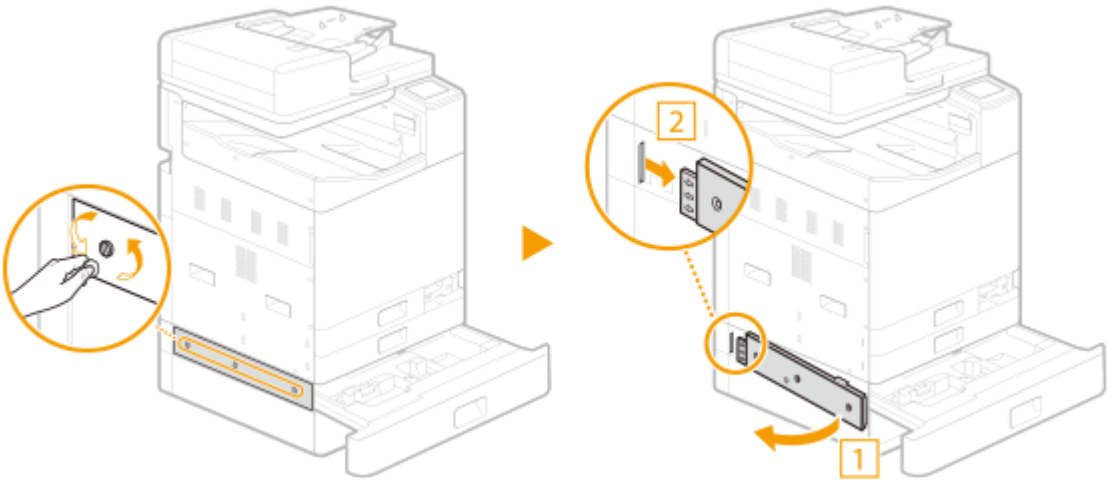


3 本体と２段カセットペディスタルを固定しているネジを回してペディスタル保護カバーを外す

本体右側



本体左側



4 給紙カセット３を閉める

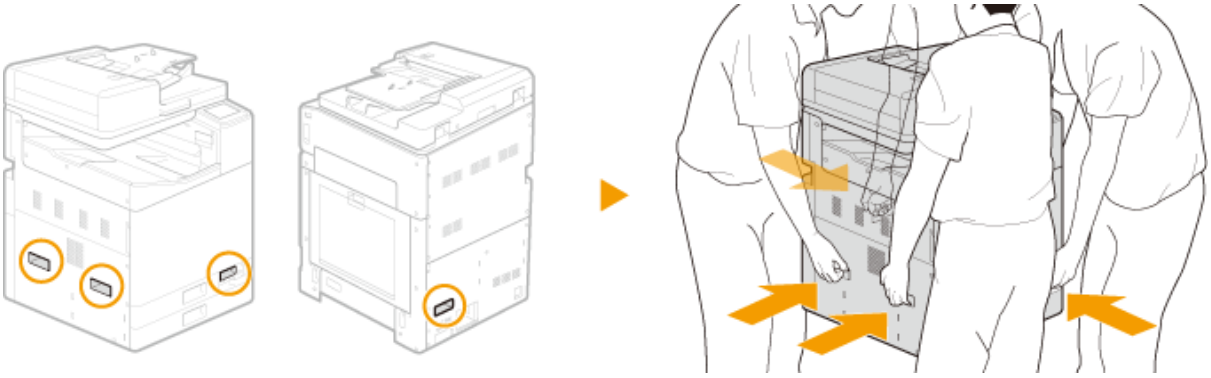
5 本体と２段カセットペディスタルの接続ケーブルカバーを取り外し、カセットペディスタル接続ケーブルを外す

6 運搬用グリップをつかんで本体を外す

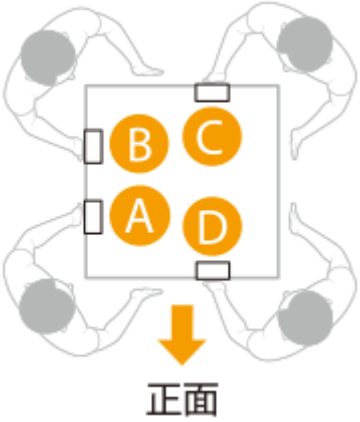
ご注意

運搬するときは

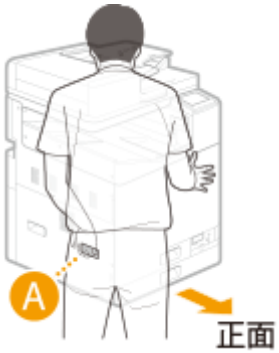
- 持ち運ぶときは、必ず 4 人で 4 か所の運搬用グリップを持ち、腰などを痛めないように注意してください。運搬用グリップ位置や持ち方は下図を参照してください。
- フィーダーや給紙カセットなどの部分は絶対に持たないでください。落としてけがの原因になることがあります。
- 本体底面は持たないでください。また、設置する際は指をはさまないよう注意してください。
- グリップ位置



- 持ち方
  - 本体の角に立ち、それぞれ A ～ D の運搬用グリップを持つ



  - 左手でグリップ A を持ち、右手で支える



- 右手でグリップ B を持ち、左手で支える

- 右手でグリップ C を持ち、左手で支える

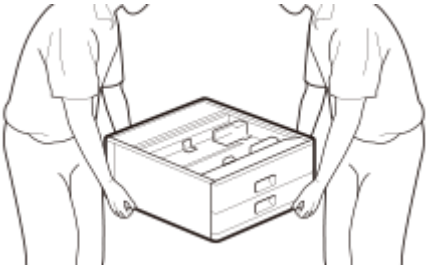
- 左手でグリップ D を持ち、右手で支える

25 本体を梱包する

- 下図のように、本体右側面の 3 か所を、H の文字の形にテープで止めてください。

26 オプションの 2 段カセットペディスタルを梱包する

- 持ち運ぶときは、必ず 2 人以上で持ち、腰などを痛めないように注意してください。持ち方は下図を参照してください。



関連項目

本機を再設置する(P. 615)

輸送中に傾く可能性がある場合（輸送後に 6 か月以上長期保管するとき）

23LX-0KX

本体を輸送した後、6 か月以内に使用する場合と 6 か月以上使用せずに保管する場合では、輸送方法が異なります。6 か月以上保管する場合は、以下の操作で輸送してください。

ご注意

- 移動中の傾き角度は 40 度以下となるように注意してください。

1 必要なインクタンクとメンテナンスカートリッジの数を確認して、準備する

インクタンクとメンテナンスカートリッジ必要数に関する情報が、<プリントヘッド情報>の<交換ランク>で確認できます。

<状況確認> ▶ <デバイス情報> ▶ <プリントヘッド情報> ▶ <インクタンク情報>

輸送後の再設置の際にも、交換ランクに応じた消耗品が必要となります。確認したプリントヘッド情報のレポートを印刷してください。 **プリントヘッドの使用状況のレポートを印刷する(P. 665)**

- 交換ランクごとに必要な数が異なります。交換ランクと必要数の対応は、消耗品交換一覧表（PDF）を参照してください。

2 プリントヘッド固定部材の有無を確認する

1. ホーム画面で<メニュー> ▶ <調整 / メンテナンス> ▶ <メンテナンス> ▶ <メンテナンスカートリッジの交換>を選ぶ
2. <解除>を選んで、画面が変わったら、前カバーを開ける
3. プリントヘッド固定部材があることを確認する
4. 前カバーを閉める

ご注意

- プリントヘッド固定部材がない場合は、販売店またはお客様相談センターに連絡して、プリントヘッド固定部材を入手してください。固定部材がない状態で輸送を実施すると、故障の原因となります。

3 用紙を取り出す

- 給紙カセットと手差しトレイからすべての用紙を取り出してください。

4 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

5 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜メンテナンス＞の順に進む

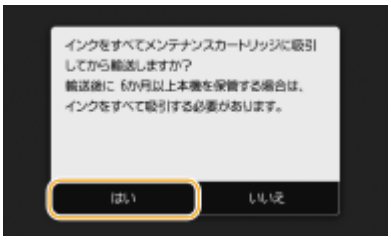
6 ＜輸送の準備＞を選ぶ

ご注意

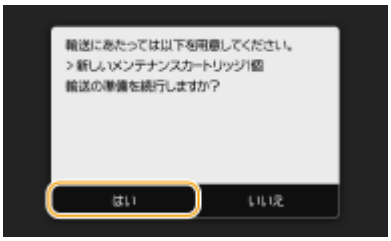
インク残量不明エラー発生時は、＜輸送の準備＞のメニューは実行できません

7 ＜システム管理部門 ID ＞と＜暗証番号＞を入力して、＜ログイン＞を選ぶ

8 メッセージを確認し、＜はい＞を選ぶ



9 メッセージを確認し、＜はい＞を選ぶ



ご注意

輸送の準備を開始したら、途中で中止することはできません。準備ができていない場合は、輸送の準備を開始しないでください。

10 インクタンクを取り外す

1 ＜解除＞を選ぶ

➠ 前カバーのロックが解除されます。

2 前カバーを開ける

3 インクタンクを取り外す ▶インクタンクを交換する(P. 570)

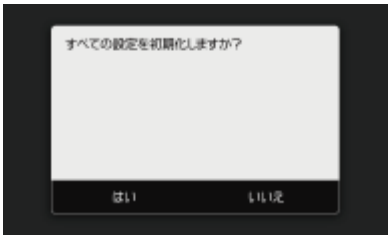
4 前カバーを閉める

11 プリントヘッド固定部材の有無を確認する画面が表示されるので、＜いいえ＞を選ぶ

- インクの吸引が開始されます。インクの吸引には最大 50 分かかります。

12 設定を初期化を選択する画面で、＜はい＞または＜いいえ＞を選ぶ

- ＜はい＞を選ぶと、履歴などを含めたデータや設定値がすべてお買い上げ時の状態に戻ります。本機の使用者が変わるときなどに、選択してください。



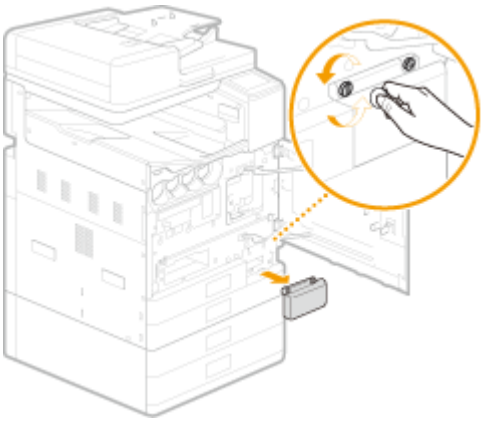
13 ＜解除＞を選ぶ

14 ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける

15 メンテナンスカートリッジを取り外す ▶メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)

- 取り外したメンテナンスカートリッジはビニール袋に入れ、インクがこぼれないようにしっかり結んでください。

16 グリップカバーを取り外す



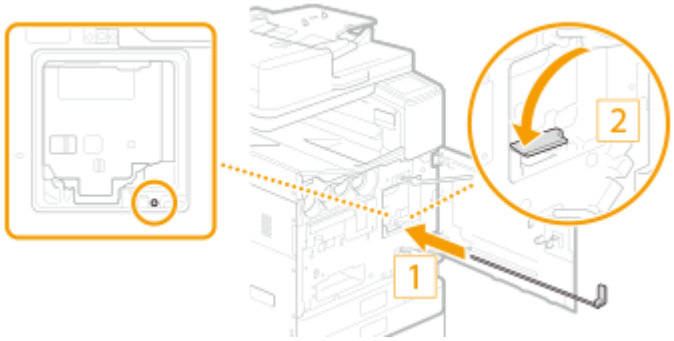
17 前カバーを閉める

18 ＜解除＞を選ぶ

19 ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける

20 プリントヘッド固定部材を取り付ける

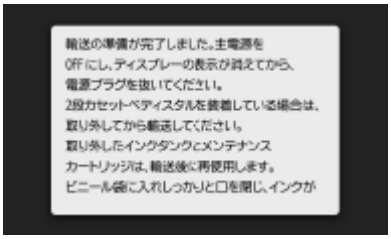
- 本体内部に保管しているプリントヘッド固定部材（▶本体内部(P. 106)）を取り出し、挿入口に差し込んでください。



- 突き当たるまで差し込んだらレバーを左側に倒してください。

21 前カバーを閉める

22 電源を切る ▶電源を切る(P. 115)



23 接続されているケーブルやコードをイラストの番号順に抜く

- LAN ケーブル（4）～電話コード（8）の有無は接続環境によって異なります。
- オプションのハンドセットを取り付けている場合は、ハンドセットを置き台から取り外してください。

1 電源プラグ

2 アース線

3 電源コード

電源コードクランプの固定を外して、電源コードを取り外します。

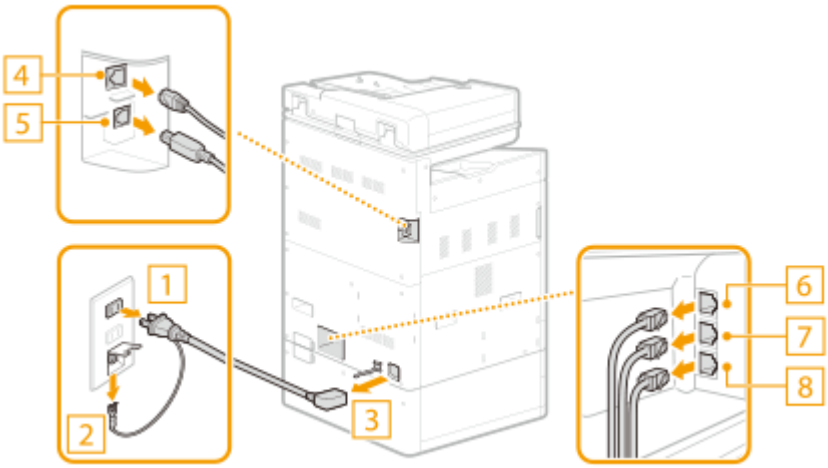
4 LAN ケーブル

5 USB ケーブル

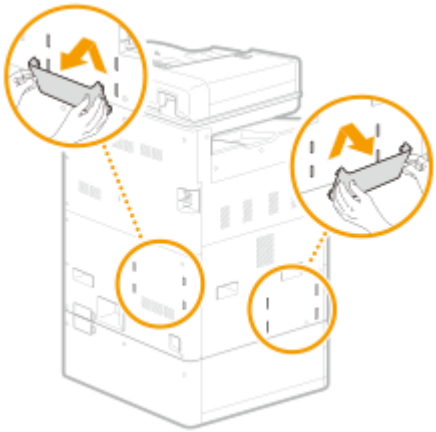
6 ハンドセット

7 外付け電話機

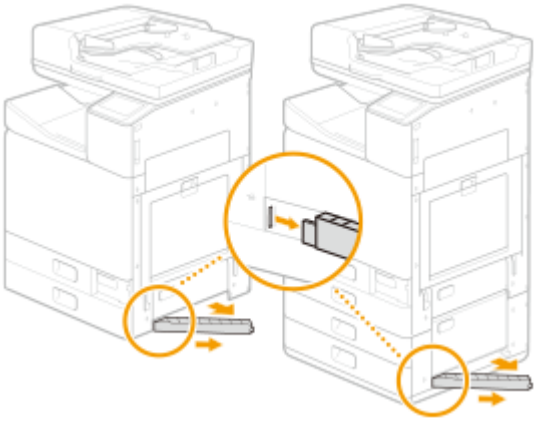
8 電話コード



24 ブックホルダーを取り外す



25 カセット保護カバーを取り外す

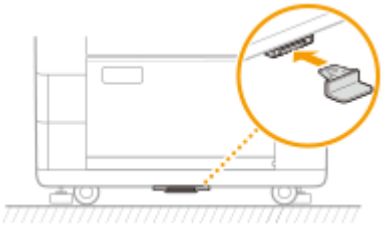


■オプションの２段カセットペディスタルを装着している場合

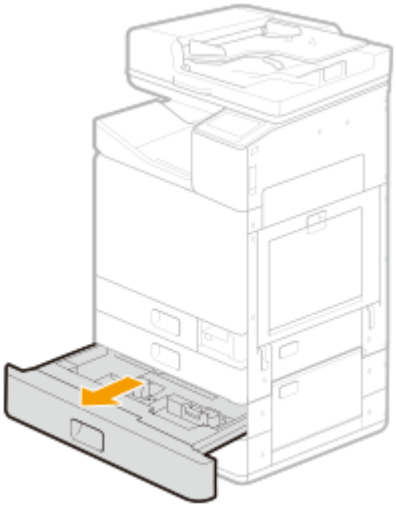
本機は重量物（▶**基本仕様／コピー機能(P. 755)**）です。運搬用グリップをつかんで、必ず４人で本体を持ち上げてください。

1 転倒防止部品を２段カセットペディスタル右側面から取り外す

- 転倒防止部品は、輸送したあとにも必要になりますので、捨てずに保管してください。

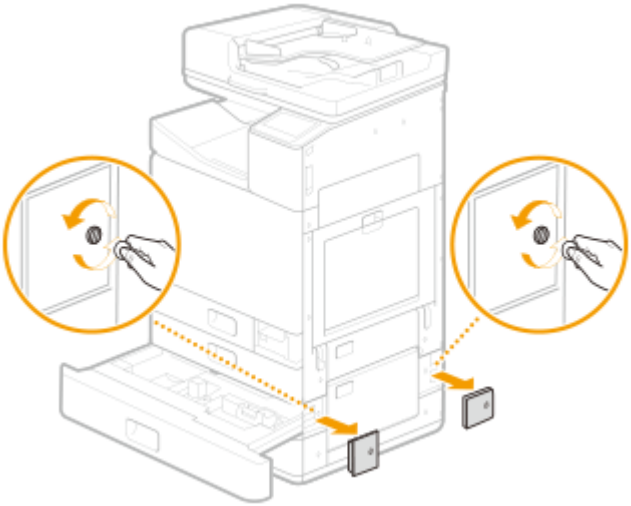


2 給紙カセット３を少し引き出す

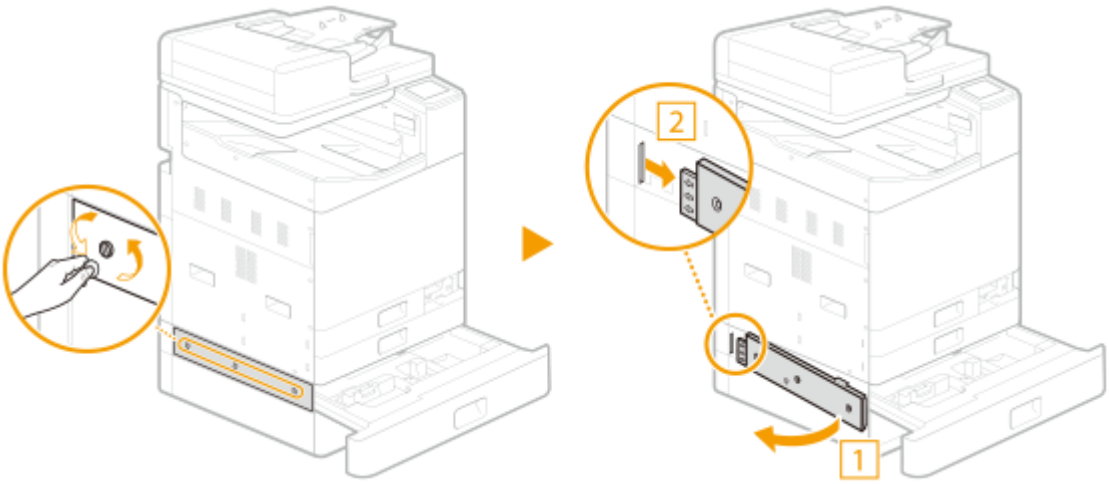


3 本体と２段カセットペディスタルを固定しているネジを回してペディスタル保護カバーを外す

本体右側



本体左側



4 給紙カセット 3 を閉める

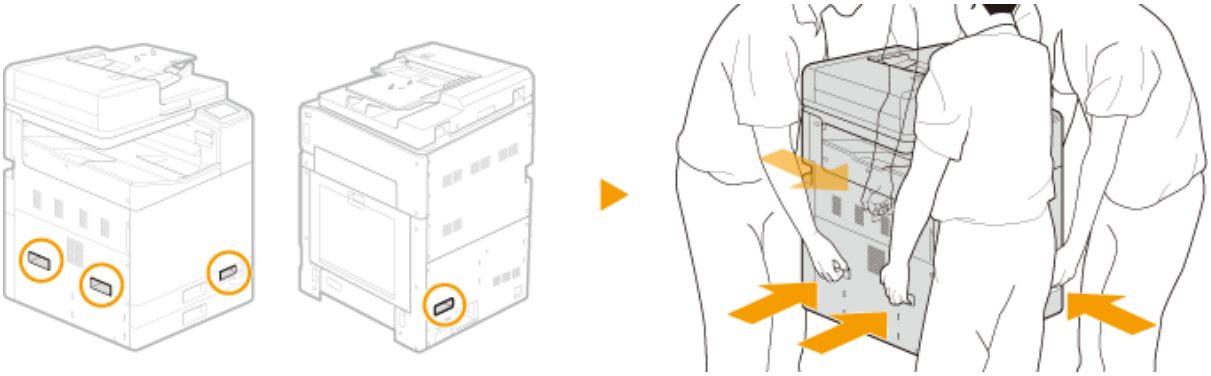
5 本体と 2 段カセットペディスタルの接続ケーブルカバーを取り外し、カセットペディスタル接続ケーブルを外す

6 運搬用グリップをつかんで本体を外す

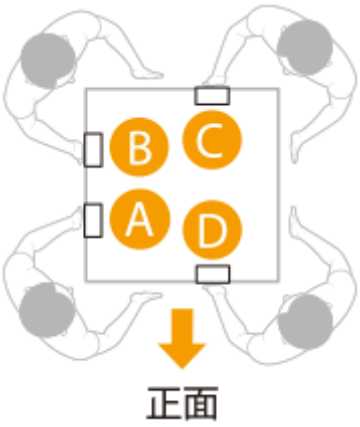
ご注意

運搬するときは

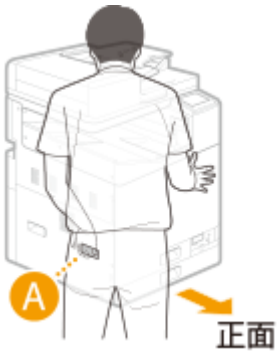
- 持ち運ぶときは、必ず 4 人で 4 か所の運搬用グリップを持ち、腰などを痛めないように注意してください。運搬用グリップ位置や持ち方は下図を参照してください。
- フィーダーや給紙カセットなどの部分は絶対に持たないでください。落としてけがの原因になることがあります。
- 本体底面は持たないでください。また、設置する際は指をはさまないよう注意してください。
- グリップ位置



- 持ち方
  - 本体の角に立ち、それぞれ Ⓐ ～ Ⓓ の運搬用グリップを持つ



- 左手でグリップ A を持ち、右手で支える



- 右手でグリップ B を持ち、左手で支える

- 右手でグリップ C を持ち、左手で支える

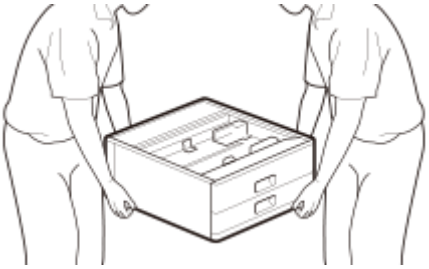
- 左手でグリップ D を持ち、右手で支える

26 本体を梱包する

- 下図のように、本体右側面の 3 か所を、H の文字の形にテープで止めてください。

27 オプションの 2 段カセットペディスタルを梱包する

- 持ち運ぶときは、必ず 2 人以上で持ち、腰などを痛めないように注意してください。持ち方は下図を参照してください。



関連項目

本機を再設置する(P. 615)

本機を再設置する

23LX-0KR

本機を設置したい場所に移動したあとに、「設置・基本操作マニュアル」を参照して設置および設定を行ってください。そのあとに、以下の手順を行って本機を使用できる状態にします。

ご注意

- 本体の輸送時に確認した交換ランクに応じた数量の消耗品が必要となります。輸送の際に印刷したレポートを参照してください。

1 電源を入れる 電源を入れる(P. 114)

➠ 再設置メニューが表示されます。

2 ＜プリンターの再設置＞を選ぶ

3 画面に表示されている内容を確認し、＜はい＞を選ぶ

➠ 処理が開始されます。

ご注意

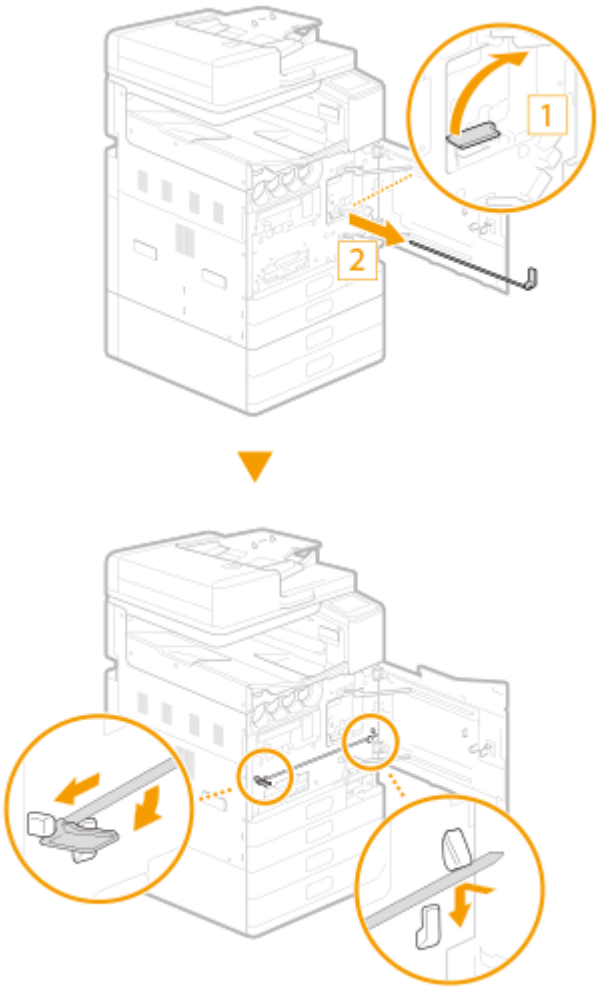
- 再設置を開始したら、途中で中止することはできません。準備ができていない場合は、再設置を開始しないでください。

MEMO

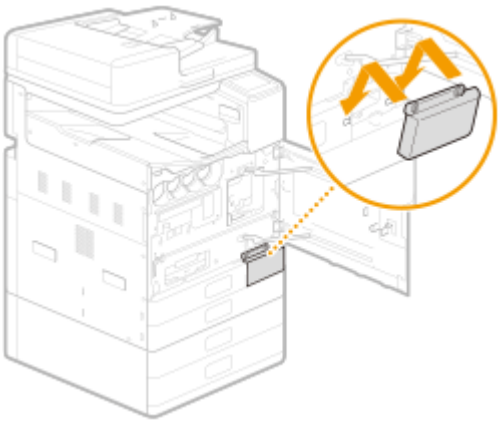
- 輸送の際に設定の初期化をした場合は、時刻などいくつかの追加の設定を行います。

4 プリントヘッド固定部材を取り外し、グリップカバーを装着する

1. ＜解除＞を選ぶ
2. ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける
3. プリントヘッド固定部材を引き抜く
   - 引き抜いたプリントヘッド固定部材を格納します。



4 グリップカバーを取り付ける



5 前カバーを閉める

5 ＜解除＞を選ぶ

6 ＜前カバーを開ける＞が表示されたら、前カバーを開ける

7 インクタンクを取り付ける インクタンクを交換する(P. 570)

- 輸送のためインクタンクを取り外した場合は、再設置時にインクタンクの取り付けが必要となります。

8 メンテナンスカートリッジを取り付ける メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)

9 前カバーを閉める

➠ ＜処理中です。電源を切らないでください。＞というメッセージが消えたあとにホーム画面が表示されたら、再設置は完了です。

ご注意

- 前カバーを閉めるとインクの充填が行われます。インクの充填には、初めて設置したときと同様の時間(40～70 分)かかります。
- インクの充填中に消耗品が不足した場合には、消耗品の交換が必要となります。

本機を廃棄する

23LX-0HF

本機は重量物です。けがなどの事故を未然に防ぐためにも、廃棄するときは必ず次の手順に従ってください。

ご注意

本機を廃棄するときのご注意

- 本機に個人情報を登録したり、各種パスワードなどのセキュリティー情報を設定したときは、それらの情報が本機内に残っている可能性があります。
  本機を貸したり修理などで一時的に手放すときや、譲渡または廃棄するときは、情報の漏えいを避けるため、以下の作業を行ってください。
  ＜メニュー＞ ▶ ＜管理設定＞ ▶ ＜全データ / 設定の初期化＞ ▶ ＜はい＞ ▶ ＜はい＞
- 廃棄処理を実行したあとは、本機は使用できなくなります。
- 本機を廃却する場合は各自治体の法令に従い処分してください。また、適切な廃却処理を行わずに本機を傾けたり横倒しにしたりすると、内部のインクが漏れ出す可能性があります。
- 使用済みの消耗品を入れるビニール袋をあらかじめ用意してください。
- インク残量不明エラー発生時は、＜廃棄の準備＞のメニューは実行できません。

1 用紙を取り出す

- 給紙カセットと手差しトレイからすべての用紙を取り出してください。

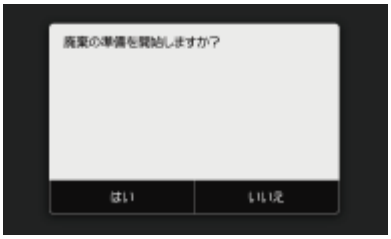
2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

3 ＜調整 / メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンス＞の順に進む

4 ＜廃棄の準備＞を選ぶ

5 ＜システム管理部門 ID ＞と＜暗証番号＞を入力して、＜ログイン＞を選ぶ

6 ＜はい＞を選ぶ



ご注意

- メッセージが表示されている間は、電源を切らないでください。

7 メッセージを確認して、<はい>を選ぶ

8 <解除>を選ぶ

9 <前カバーを開ける>が表示されたら、前カバーを開ける

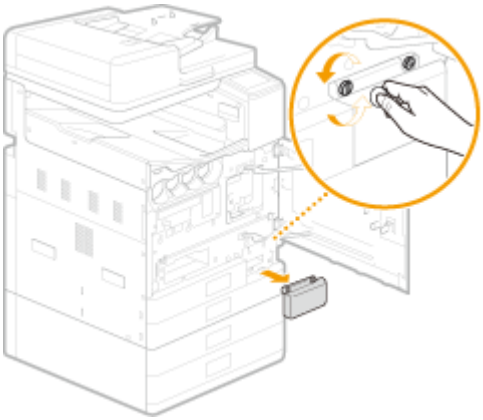
10 インクタンクを取り外す ▶インクタンクを交換する(P. 570)

- 取り外したインクタンクはビニール袋に入れ、インクがこぼれないようにしっかり結んでください。

11 メンテナンスカートリッジを取り外す ▶メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)

- 取り外したメンテナンスカートリッジはビニール袋に入れ、インクがこぼれないようにしっかり結んでください。

12 グリップカバーを取り外す



13 前カバーを閉める

14 電源を切る ▶電源を切る(P. 115)

15 接続されているケーブルやコードをイラストの番号順に抜く

- LAN ケーブル（4）～電話コード（8）の有無は接続環境によって異なります。
- オプションのハンドセットを取り付けている場合は、ハンドセットを置き台から取り外してください。

1 電源プラグ

2 アース線

3 電源コード

電源コードクランプの固定を外して、電源コードを取り外します。

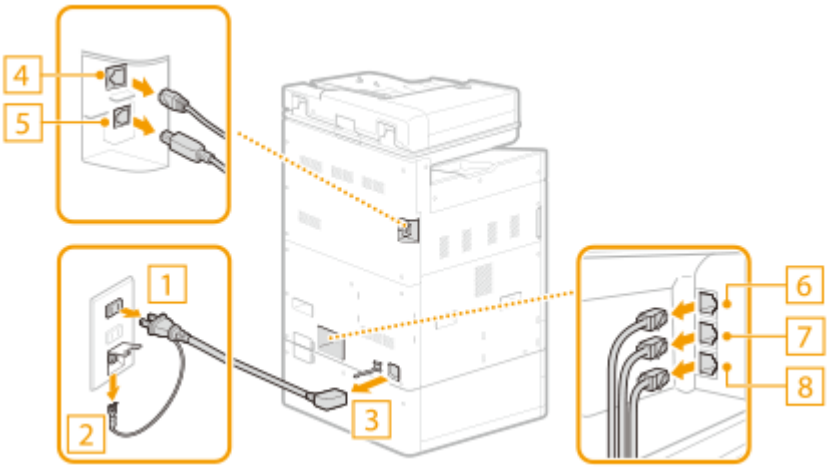
4 LAN ケーブル

5 USB ケーブル

6 ハンドセット

7 外付け電話機

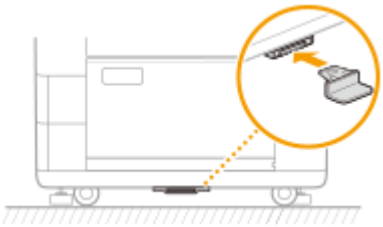
8 電話コード



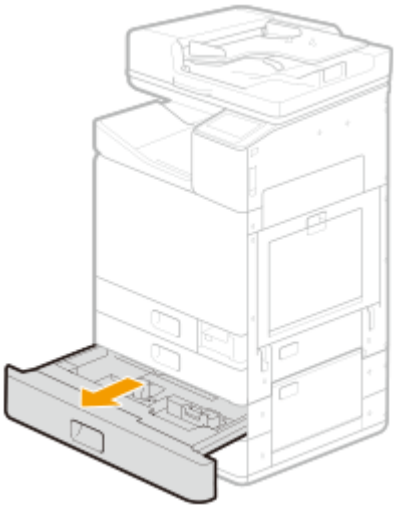
■オプションの２段カセットペディスタルを装着している場合

本機は重量物（▶**基本仕様／コピー機能(P. 755)**）です。運搬用グリップをつかんで、必ず４人で本体を持ち上げてください。

1 転倒防止部品を２段カセットペディスタル右側面から取り外す

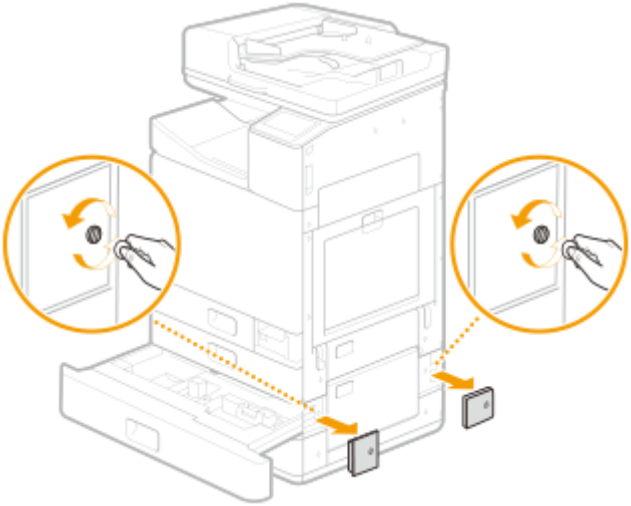


2 給紙カセット３を少し引き出す

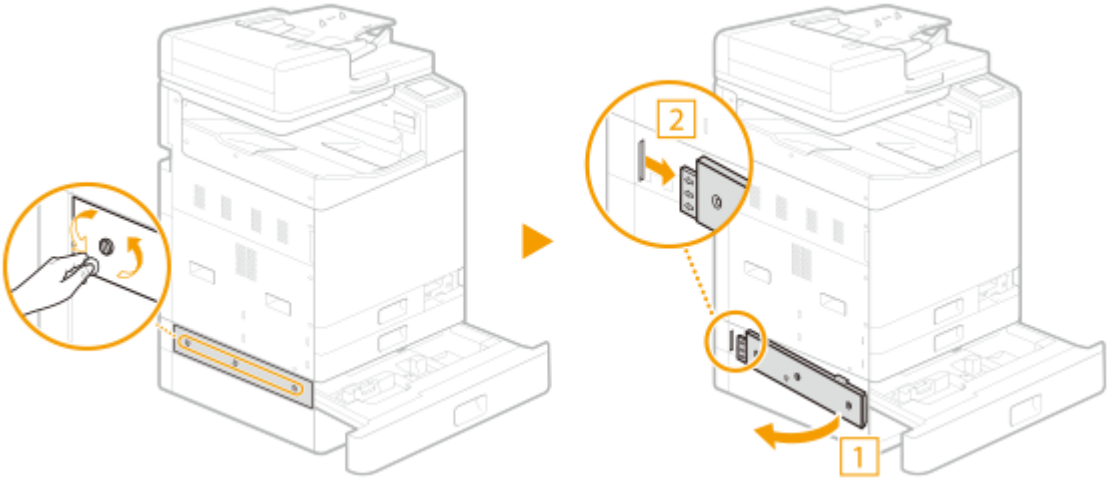


3 本体と２段カセットペディスタルを固定しているネジを回してペディスタル保護カバーを外す

本体右側



本体左側



4 給紙カセット 3 を閉める

5 本体と 2 段カセットペディスタルの接続ケーブルカバーを取り外し、カセットペディスタル接続ケーブルを外す

- カセットペディスタル接続ケーブルを外したあとは、本体と 2 段カセットペディスタルの接続ケーブルカバーを取り付けてください。

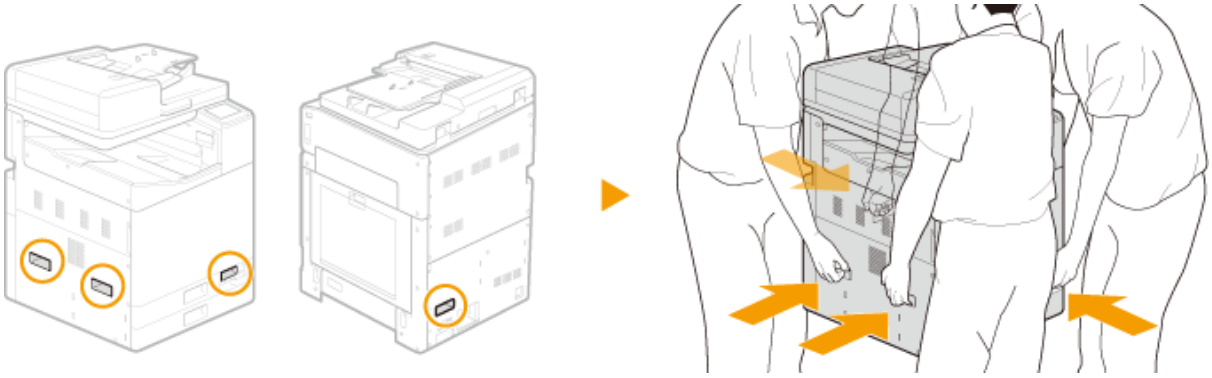
6 運搬用グリップをつかんで本体を外す

ご注意

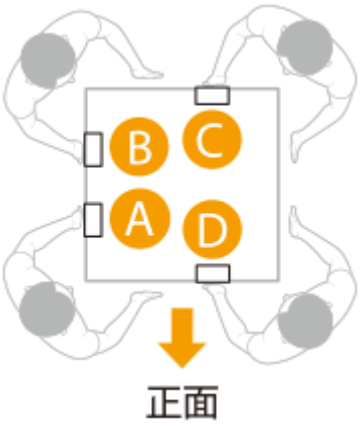
運搬するときは

- 持ち運ぶときは、必ず 4 人で 4 か所の運搬用グリップを持ち、腰などを痛めないように注意してください。運搬用グリップ位置や持ち方は下図を参照してください。

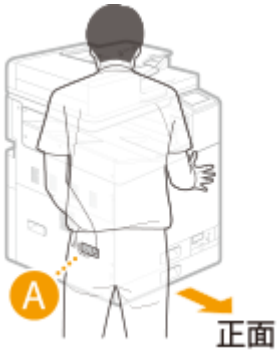
- フィーダーや給紙カセットなどの部分は絶対に持たないでください。落としてけがの原因になることがあります。
- 本体底面は持たないでください。
- グリップ位置



- 持ち方
  - 本体の角に立ち、それぞれ A ～ D の運搬用グリップを持つ



  - 左手でグリップ A を持ち、右手で支える



  - 右手でグリップ B を持ち、左手で支える

- 右手でグリップ C を持ち、左手で支える

- 左手でグリップ D を持ち、右手で支える

印刷品質を調整する

23LX-09L

画質や再現性などが低下したり、色ずれが生じたりするなど、納得のいく印刷結果が得られない場合、下記の各種補正を試してみてください。

診断する(P. 624)
調整する(P. 624)

診断する

■プリントヘッド診断

ヘッド診断、ムラ診断、色ずれ診断を行い、問題があれば解決します。 **プリントヘッドを診断する (P. 626)**

調整する

■ノズルチェックパターン印刷

印刷がかすれたり、色味が違うスジが入る場合、プリントヘッドのノズルの状態をチェックします。 **ノズルの状態をチェックする(P. 632)**

■カラー時の黒文字処理調整

カラーコピーで黒い文字や黒っぽい色の文字が思いどおりにコピーできなかった場合に、コピー結果が原稿により近くなるように調整します。 **カラーコピーの文字色の再現性を調整する(P. 635)**

■色ムラ補正

印刷物の濃度ムラが均一になるよう調整します。 **色ムラを補正する(P. 637)**

■用紙のこすれ改善

印刷物がインクで汚れてしまうときは、プリントヘッドが用紙にこすれている可能性があります。このような場合に用紙のこすれ改善をお試しください。 **用紙のこすれを改善する(P. 646)**

■ヘッド位置調整

色のずれなどを改善するために、プリントヘッド位置を調整します。 **プリントヘッドの位置を調整する(P. 647)**

■濃度/乾燥時間の調整

印刷が終わった用紙の裏面が、次に排紙される用紙のインクで汚れてしまう場合に、印刷濃度や乾燥時間を調整します。 **濃度やインクが乾燥する時間を調整する(P. 650)**

■印刷後の用紙の反り調整

排紙された用紙が反っていることで排紙トレイ上の用紙が乱れてしまう場合に、用紙の反りを調整します。 **印刷後の用紙の反りを調整する(P. 652)**

■余白調整

かたよって印刷されたり、印刷範囲からはみ出てしまったりする場合に、余白を調整します。 **余白を調整する(P. 654)**

■排紙トレイの積載性を改善

用紙が排紙されたときに、用紙がたわんだり曲がったりすることで排紙トレイ上の用紙が乱れてしまう場合に、排紙トレイの積載性を改善します。 **排紙時の用紙のたわみを改善する(P. 657)**

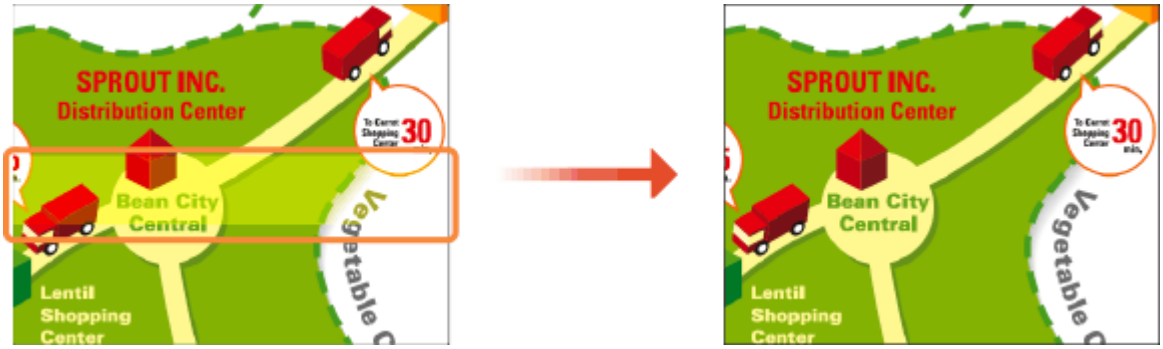
プリントヘッドを診断する

23LX-0JC

ヘッド診断、ムラ診断、色ずれ診断を行い、問題があれば解決します。診断には 40 分ほどかかることがあります。

ヘッド診断

色ムラ診断



色ずれ診断

以下の用紙を用意してください。
普通紙（再生紙も使用可）

- サイズ：A3、11x17、LTR、A4 サイズのいずれか
  A3 または 11x17 をおすすめします。
- 枚数：5 枚
  5 枚すべては使わないことがあります。
- 表裏ともに白いきれいな用紙

MEMO

- 画像の診断と調整にはインクを消費します。また、インクの一部をメンテナンスカートリッジに排出します。あらかじめインクタンクとメンテナンスカートリッジの残量を確認し、残量が少なくなっている場合は、準備することをおすすめします。 **残量や使用状況を確認する(P. 591)**

1 給紙カセットまたは手差しトレイに用紙をセットする

- 用紙の設定も行ってください。 用紙をセットする(P. 137)

2 ホーム画面で、<メニュー>を選ぶ ホーム画面(P. 120)

3 <調整 / メンテナンス> ▶ <メンテナンス>の順に進む

4 <プリントヘッド診断>を選ぶ

5 画面に表示されている内容を確認し、<診断開始>を選ぶ

➠「ヘッド診断→ムラ診断→色ずれ診断」の順番で診断が行われます。

6 ヘッド診断を開始する

1 画面に表示されている内容を確認し、<診断開始>を選ぶ

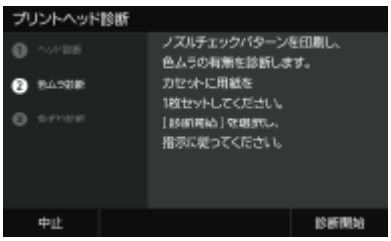
➠ ヘッド診断が開始されます。

2 クリーニングを促すメッセージが表示されたときは、<はい>を選ぶ

➠ クリーニングが終わったら、色ムラ診断に進みます。

- <いいえ> ▶ <はい>を選ぶと、ヘッド診断、色ムラ診断、色ずれ診断が終了し、診断結果が表示されます。

7 色ムラ診断を開始する



1 画面に表示されている内容を確認し、<診断開始>を選ぶ

- <中止> ▶ <はい>を選ぶと診断が終了し、診断結果が表示されます。

2 画面で、使用できる用紙を確認する

3 使用できる用紙が 5 枚セットされていることを確認して、＜次へ＞を選ぶ

4 ＜開始＞を選ぶ

➡ ノズルチェックパターンが印刷されます。

5 印刷されたチェックパターンを確認し、＜ A ＞または＜ B ＞を選ぶ

- ＜ A ＞を選んだ場合は、手順 6 に進んでください。
- ＜ B ＞を選んだ場合は、手順 7 に進んでください。

MEMO

- チェックパターンは次の色ずれ診断でも使用しますので、捨てないでください。

6 ＜閉じる＞を選ぶ

➡ 色ムラ診断を終了し、色ずれ診断に進みます。

7 画面に表示されている内容を確認し、＜はい＞を選ぶ

➡ 色ムラ補正が開始されます。

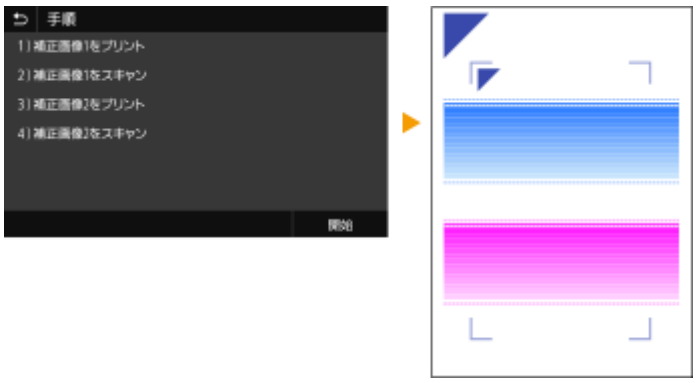
- ＜いいえ＞を選ぶと、色ムラ補正を実行せずに、色ずれ診断に進みます。

8 画面で、使用できる用紙を確認する

9 使用できる用紙が 4 枚（2 枚以上）セットされていることを確認して、＜次へ＞を選ぶ

10 作業の流れを確認し、＜開始＞を選ぶ

➡ 1 枚目の調整用画像が印刷されます。

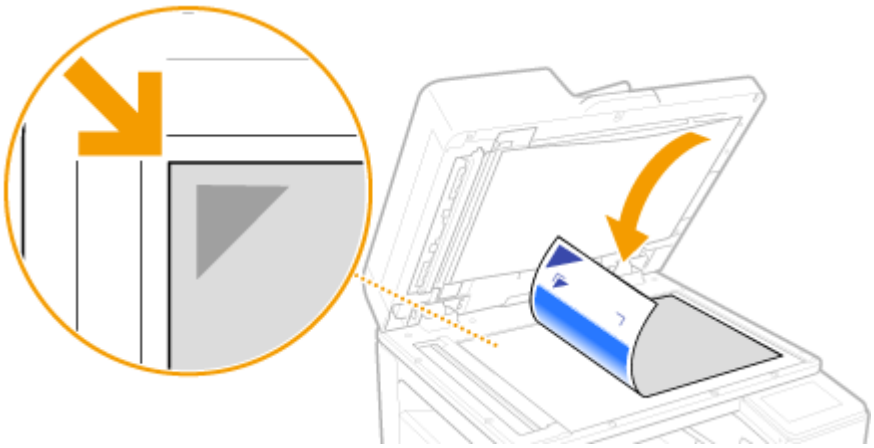


- 約 2 分間お待ちください

11 印刷中の画面が消えたら、フィーダーを開ける

12 1 枚目の調整用画像を原稿台ガラスにセットする

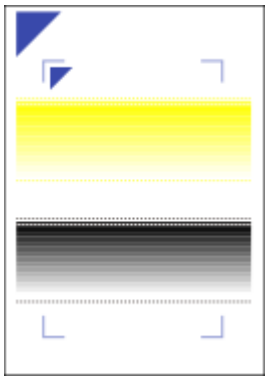
- 調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



13 フィーダーをゆっくり閉じる

14 ＜読込開始＞を選ぶ

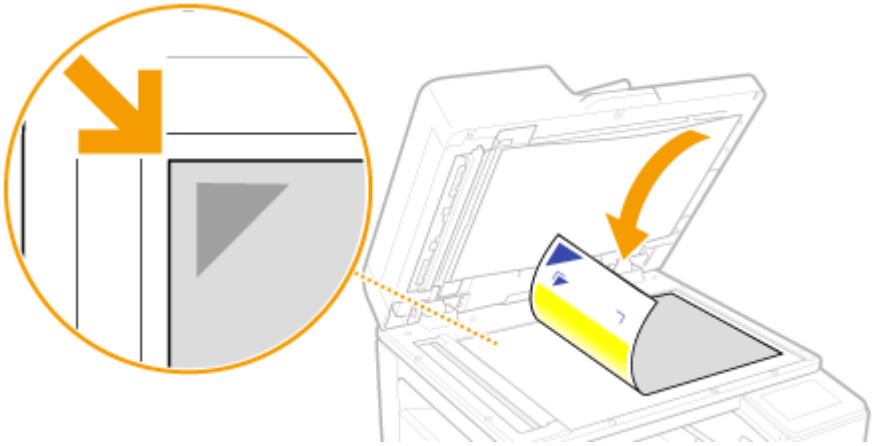
➠ セットした調整用画像がスキャンされたあと、2 枚目の調整用画像が印刷されます。



- 約 2 分間お待ちください。

15 フィーダーを開けて 1 枚目を取り除き、2 枚目を原稿台ガラスにセットする

- 1 枚目の調整用画像と同様に、調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



16 フィーダーをゆっくり閉じる

17 ＜読込開始＞を選ぶ

➠ セットした調整用画像がスキャンされて、色ムラ補正が実行されます。

18 フィーダーを開けて 2 枚目の調整用画像を取り除く

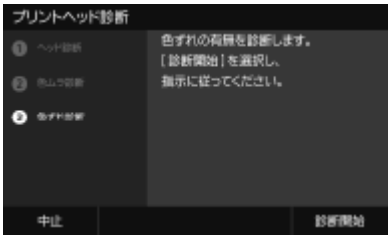
MEMO

- 3 枚目の調整用画像が印刷された場合は、手順 15 以降の操作を繰り返してください。

19 フィーダーをゆっくり閉じる

➡ 色ムラ診断が終了し、色ずれ診断に進みます。

8 色ずれ診断を開始する



1 画面に表示されている内容を確認し、<診断開始>を選ぶ

- <中止> ▶ <はい>を選ぶと診断が終了し、診断結果が表示されます。

2 色ムラ診断で印刷されたノズルチェックパターンを確認し、< A >または< B >を選ぶ

- < A >を選んだ場合は、手順 3 に進んでください。
- < B >を選んだ場合は、手順 4 に進んでください。

3 <閉じる>を選ぶ

➡ 色ずれ診断が終了し、診断結果が表示されます。

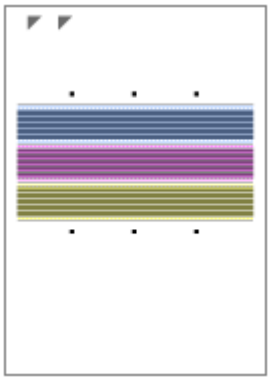
4 画面に表示されている内容を確認し、<はい>を選ぶ

- <いいえ>を選ぶと、色ずれ補正を実行せずに色ずれ診断が終了し、診断結果が表示されます。

5 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、<次へ>を選ぶ

6 作業の流れを確認し、<開始>を選ぶ

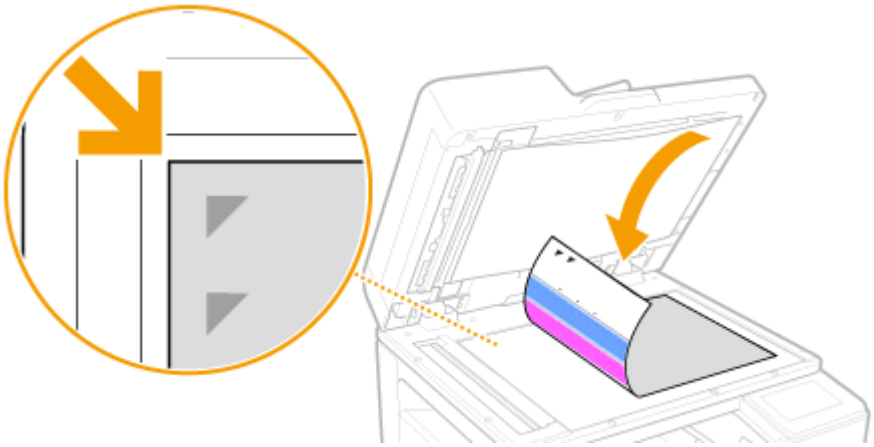
➡ 調整用画像が印刷されます。



7 印刷中の画面が消えたら、フィーダーを開ける

8 調整用画像を原稿台ガラスにセットする

- 調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



9 フィーダーをゆっくり閉じる

10 ＜読込開始＞を選ぶ

➠ セットした調整用画像がスキャンされ、色ずれ補正が実行されます。

11 フィーダーを開けて調整用画像を取り除く

12 フィーダーをゆっくり閉じる

9 診断結果を確認し、＜閉じる＞を選ぶ

10 ＜閉じる＞を選ぶ

ノズルの状態をチェックする

23LX-0J6

ノズルチェックパターンを印刷すると、プリントヘッドの目詰まりや色ずれを確認することができます。
以下の用紙を用意してください。

- ノズルチェックパターン用：
  スジやムラを確認したい用紙（薄紙、普通紙、厚紙、再生紙、マットフォトペーパーのいずれか）
  サイズ：A3、11x17、LTR、A4 サイズのいずれか
  枚数：5 枚以上
- ヘッド位置調整用：
  普通紙（再生紙も使用可）
  サイズ：A3、11x17、LTR、A4 サイズのいずれか
  枚数：1 枚
- A3 または 11x17 をおすすめします。

1 「ノズルチェックパターン用」および「ヘッド位置調整用」用紙をそれぞれ別の給紙カセットまたは手差しトレイにセットする

- 用紙の設定も行ってください。 **用紙をセットする(P. 137)**

2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

3 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜メンテナンス＞の順に進む

4 ＜ノズルチェックパターン印刷＞を選ぶ

5 用紙の種類を選ぶ

6 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜ OK ＞を選ぶ

7 ＜開始＞を選ぶ

➠ ノズルチェックパターンが印刷されます。

8 色ムラをチェックする

- 印刷されたノズルチェックパターンを確認し、＜ A ＞または＜ B ＞を選びます。

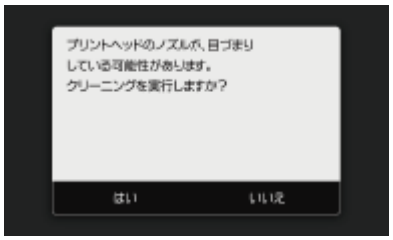
■＜ A ＞を選んだ場合

＜閉じる＞を選びます。

■＜ B ＞を選んだ場合

プリントヘッドのノズルがつまっている可能性があります。プリントヘッドのクリーニングを行います。

1 画面に表示されている内容を確認し、＜はい＞を選ぶ



- ＜いいえ＞を選ぶと、プリントヘッドのクリーニングを行いません。プリントヘッドのクリーニングは、あとで行うこともできます。

2 プリントヘッドのクリーニングを行う **プリントヘッドをクリーニングする(P. 568)**

9 色ずれをチェックする

- 印刷されたノズルチェックパターンを確認し、＜ A ＞または＜ B ＞を選びます。

■＜ A ＞を選んだ場合

＜閉じる＞を選びます。

■＜ B ＞を選んだ場合

プリントヘッドの位置を調整して、色ずれ補正を行います。

1 画面に表示されている内容を確認し、＜はい＞を選ぶ

- ＜いいえ＞を選ぶと、色ずれ補正を行いません。色ずれ補正は、あとで行うこともできます。

2 色ずれを補正する **プリントヘッドの位置を調整する(P. 647)**

カラーコピーの文字色の再現性を調整する

23LX-09U

カラーコピーで黒い文字や黒っぽい色の文字が思いどおりにコピーできなかった場合に、コピー結果が原稿により近くなるように調整できます。

MEMO

- この機能は、コピー設定で＜原稿の種類＞を＜文字 / 写真 / 地図＞または＜文字＞に設定してカラーコピーした場合に適用されます。 **原稿の種類に合わせてコピーする(P. 209)**

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞の順に進む

3 ＜カラー時の黒文字処理調整＞を選ぶ

4 判定値を調整する

- フィーダーからの読み込みと原稿台ガラスからの読み込みのそれぞれに対して設定できます。

＜色文字判定優先＞

黒い文字や黒に近い色の文字を原稿に忠実な色味でコピーします。

＜黒文字判定優先＞

黒い文字をくっきり読みやすくコピーします。

5 <確定>を選ぶ

色ムラを補正する

23LX-09R

印刷物に濃度ムラが発生したときは、次の操作で均一になるよう調整してください。色ムラ補正には、任意の用紙のみに対して自動で補正する「用紙別の補正」、すべての用紙に対して自動で補正する「用紙共通の補正」、印刷状態を目視で確認して手動で補正値を調整する「目視による補正」の 3 種類があります。

すべての用紙の色ムラを補正する(P. 638)
用紙別に色ムラを補正する(P. 641)
目視による補正(P. 644)

MEMO

- インク残量が少ないときは、補正を行っても完全には改善されないことがあります。あらかじめ残量を確認し、残量が少なくなっている場合は、インクタンクを準備することをおすすめします。 **残量や使用状況を確認する(P. 591)**
- 色ムラ補正を行うと、印刷濃度が薄くなることがあります。
- 色ムラ補正を行う前に、ノズルチェックパターンを出力して、印刷物に色味が違うスジが入っていないかどうか確認することをおすすめします。 **ノズルの状態をチェックする(P. 632)**

すべての用紙の色ムラを補正する

23LX-0KY

すべての用紙に対して、自動で色ムラ補正を行います。「用紙別の補正」で行った色ムラ補正の補正情報は、すべて変更されます。
補正操作は「調整用画像を出力し、それを読み込む」という作業を 2 回繰り返します。
以下の用紙を用意してください。
普通紙（再生紙も使用可）

- サイズ：A3、11x17、LTR、A4 サイズのいずれか
  A3 または 11x17 をおすすめします。
- 枚数：2 枚

1 給紙カセットまたは手差しトレイに用紙をセットする

- 用紙の設定も行ってください。 用紙をセットする(P. 137)

2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

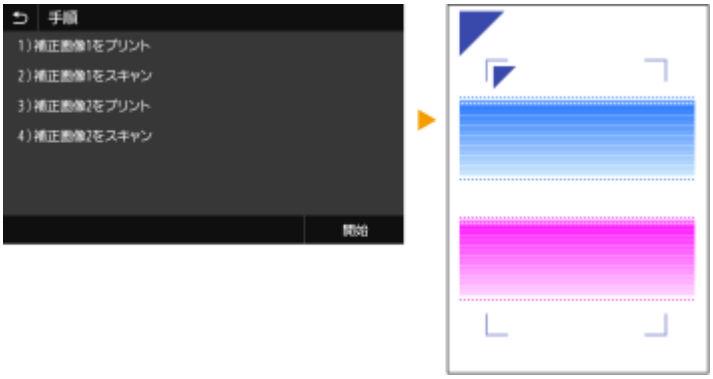
3 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞ ▸ ＜色ムラ補正＞ ▸ ＜スキャナーによる補正＞の順に進む

4 ＜用紙共通の補正＞を選ぶ

5 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜次へ＞を選ぶ

6 作業の流れを確認し、＜開始＞を選ぶ

➠ 1 枚目の調整用画像が印刷されます。

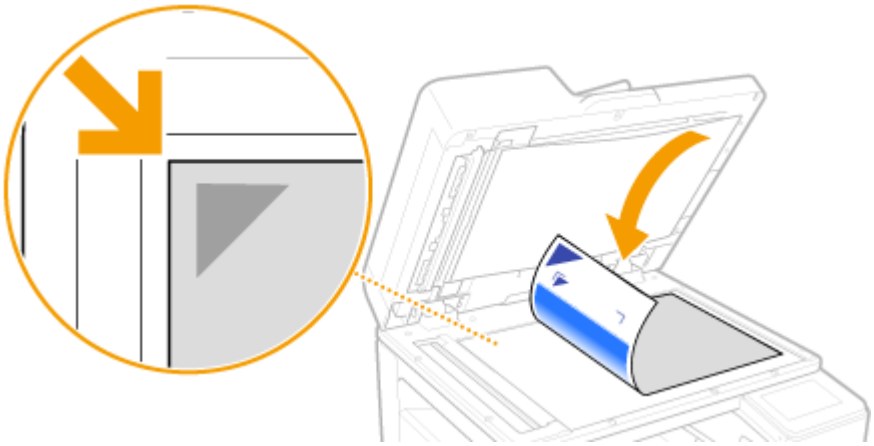


7 ＜処理中です。電源を切らないでください。＞の画面が表示されたら、次の動作に移るまで約 2 分間待つ

8 ＜1枚目の調整用パターンを、図のようにセットし、スキャンしてください。＞の画面が表示されたら、フィーダーを開ける

9 1枚目の調整用画像を原稿台ガラスにセットする

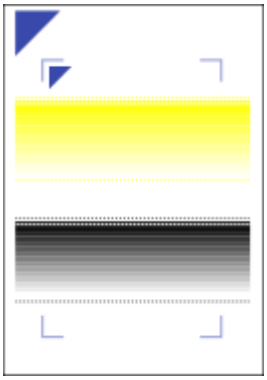
- 調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



10 フィーダーをゆっくり閉じる

11 ＜読込開始＞を選ぶ

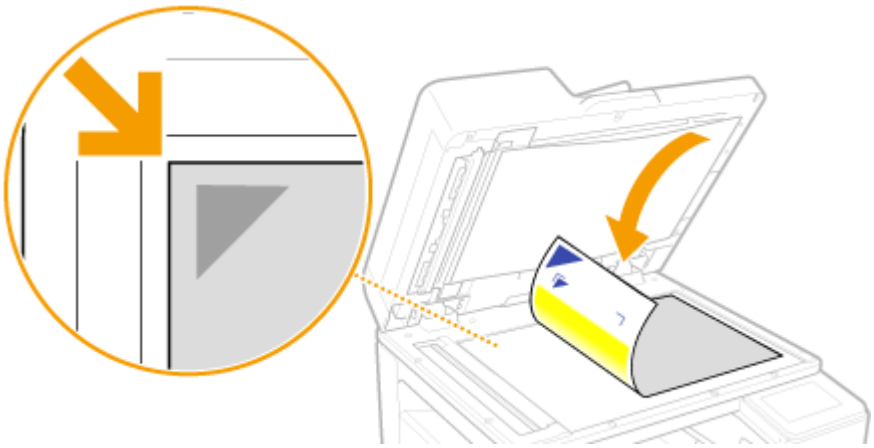
➠ セットした調整用画像がスキャンされたあと、2枚目の調整用画像が印刷されます。



12 ＜処理中です。電源を切らないでください。＞の画面が表示されたら、次の動作に移るまで約2分間待つ

13 ＜2枚目の調整用パターンを、図のようにセットし、スキャンしてください。＞の画面が表示されたら、フィーダーを開けて1枚目を取り除き、2枚目を原稿台ガラスにセットする

- 1枚目の調整用画像と同様に、調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



14 フィーダーをゆっくり閉じる

15 ＜読込開始＞を選ぶ

➠ セットした調整用画像がスキャンされ、補正が実行されます。

16 補正が終了したことを知らせるメッセージが表示されたら、フィーダーを開けて 2 枚目の調整用画像を取り除く

17 フィーダーをゆっくり閉じる

MEMO

＜補正できませんでした。＞が表示されたとき

- 手順 5 で表示された用紙を給紙部にセットしていますか？
- 調整用画像が印刷されている面は下向きで、◤マークを左上隅にして原稿台ガラスにセットしていますか？
- 印刷物がよごれていませんか？

色ムラが改善されないとき

- ノズルチェックパターンを出力して、印刷物に色味が違うスジが入っていないかどうか確認してください（**ノズルの状態をチェックする(P. 632)**）。そのあと、再度用紙共通の補正を行ってください。

補正した値を初期値に戻す

- ＜スキャナーによる補正＞画面で＜初期値に戻す＞を選びます。

用紙別に色ムラを補正する

23LX-0L0

用紙ごとに最適な色ムラ補正を実施します。
以下の用紙を用意してください。

- 本補正を実施して改善したい用紙（薄紙、 普通紙、厚紙、再生紙、ﾏｯﾄﾌｫﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ のいずれか）
  A3 または 11x17 をおすすめします。
- サイズ： A3、11x17、LTR、A4 サイズのいずれか
- 枚数：2 枚

MEMO

- スキャン時や印刷時は用紙別の補正はできません。

1 給紙カセットまたは手差しトレイに用紙をセットする

- 用紙の設定も行ってください。 用紙をセットする(P. 137)

2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

3 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞ ▸ ＜色ムラ補正＞ ▸ ＜スキャナーによる補正＞の順に進む

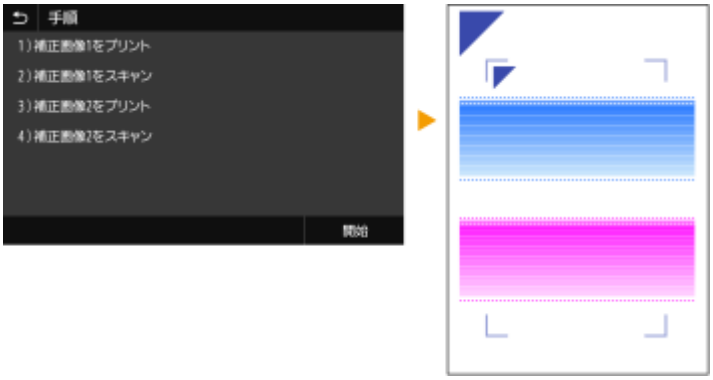
4 ＜用紙別の補正＞を選ぶ

5 用紙の種類を選ぶ

6 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜ OK ＞を選ぶ

7 作業の流れを確認し、＜開始＞を選ぶ

➠ 1 枚目の調整用画像が印刷されます。

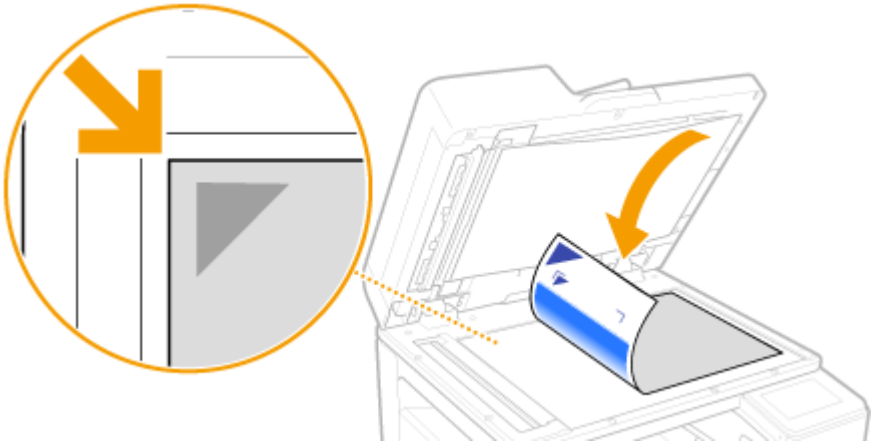


8 ＜処理中です。電源を切らないでください。＞の画面が表示されたら、次の動作に移るまで約 2 分間待つ

9 ＜ 1 枚目の調整用パターンを、図のようにセットし、スキャンしてください。＞の画面が表示されたら、フィーダーを開ける

10 1 枚目の調整用画像を原稿台ガラスにセットする

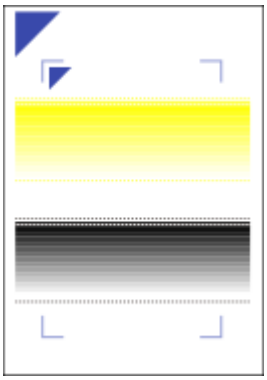
- 調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



11 フィーダーをゆっくり閉じる

12 ＜読込開始＞を選ぶ

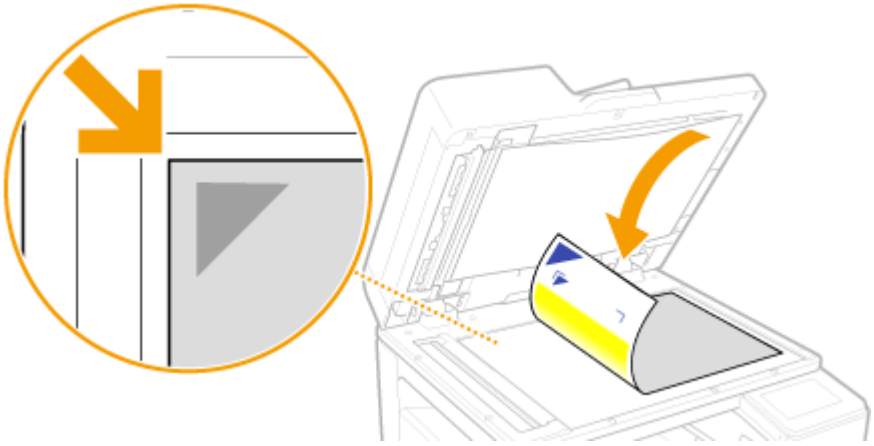
➠ セットした調整用画像がスキャンされたあと、2 枚目の調整用画像が印刷されます。



13 ＜処理中です。電源を切らないでください。＞の画面が表示されたら、次の動作に移るまで約 2 分間待つ

14 ＜ 2 枚目の調整用パターンを、図のようにセットし、スキャンしてください。＞の画面が表示されたら、フィーダーを開けて 1 枚目を取り除き、2 枚目を原稿台ガラスにセットする

- 1 枚目の調整用画像と同様に、調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



15 フィーダーをゆっくり閉じる

16 ＜読込開始＞を選ぶ

➠ セットした調整用画像がスキャンされ、補正が実行されます。

17 補正が終了したことを知らせるメッセージが表示されたら、フィーダーを開けて 2 枚目の調整用画像を取り除く

18 フィーダーをゆっくり閉じる

MEMO

＜補正できませんでした。＞が表示されたとき

- 手順 5 で表示された用紙を給紙部にセットしていますか？
- 調整用画像が印刷されている面は下向きで、◤マークを左上隅にして原稿台ガラスにセットしていますか？
- 印刷物がよごれていませんか？

色ムラが改善されないとき

- ノズルチェックパターンを出力して、印刷物に色味が違うスジが入っていないかどうか確認してください（**ノズルの状態をチェックする(P. 632)**）。そのあと、再度用紙共通の補正を行ってください。

補正した値を初期値に戻す

- ＜スキャナーによる補正＞画面で＜初期値に戻す＞を選びます。

目視による補正

23LX-0L1

出力したテストページを目視し、各色（CMYK）の調整値を判断して補正します。
以下の用紙を用意してください。

- 普通紙（再生紙も使用可）
- サイズ： 320x450 mm、305x457 mm、A3、11x17、LTR、A4 サイズのいずれか
  320x450 mm、305x457 mm、A3、11x17 のいずれかをおすすめします。
- 枚数：2 枚

1 給紙カセットまたは手差しトレイに用紙をセットする

- 用紙の設定も行ってください。 **用紙をセットする(P. 137)**

2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

3 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞ ▸ ＜色ムラ補正＞ ▸ ＜目視による補正＞の順に進む

4 ＜テストページの出力＞を選ぶ

5 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜スタート＞を選ぶ

➠ テストページが出力されます。

6 テストページを目視し、色ムラの有無を確認する

MEMO

マークの範囲について

- テストページに使用する用紙のサイズによって、各色のマークが-6～+6 から-4～+4 の範囲ブロックで出力されます。

7 微調整したい色を選ぶ

8 調整したい範囲（a）を選び、値を入力したあとに＜確定＞を選ぶ

- 手順 5 で目視で判断した結果に従って、各色の範囲ブロックすべてに、-127〜+127 までの値を入力します。
- 色を濃くしたい場合にはプラスの値、色を薄くしたい場合にはマイナスの値を入力します。

9 ＜確定＞を選ぶ

10 ＜テストページの出力＞ ▸ ＜スタート＞を選ぶ

➠ 補正された状態のテストページが出力されます。

11 テストページを確認して問題なければ＜確定＞を選ぶ

MEMO

補正した値を初期値に戻す

- ＜目視による補正＞画面で＜初期値に戻す＞を選びます。

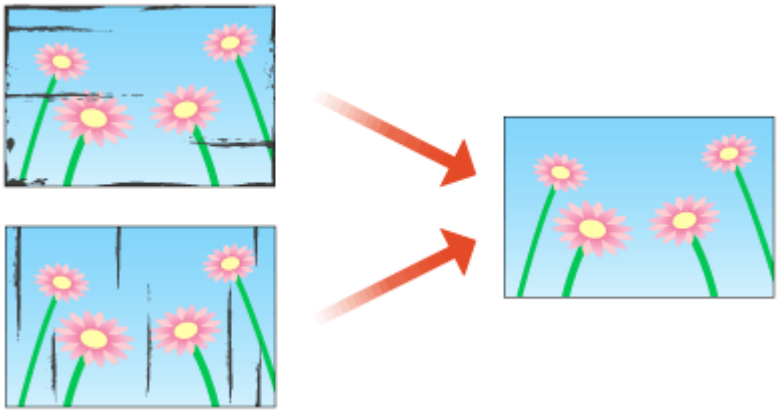
前回補正した値に戻す

- ＜目視による補正＞画面で＜前回の値に戻す＞を選びます。

用紙のこすれを改善する

23LX-09S

用紙の印刷面がインクで汚れてしまう場合は、<用紙のこすれ改善>を行ってください。用紙とプリントヘッドの間隔が広がり、用紙のこすれが改善されることがあります。片面印刷と両面印刷のそれぞれに設定できます。



1 **ホーム画面で、<メニュー>を選ぶ** ホーム画面(P. 120)

2 **<調整 / メンテナンス> ▸ <画質調整>の順に進む**

3 **<用紙のこすれ改善>を選ぶ**

4 **<片面印刷>または<両面印刷>を選ぶ**

5 **< ON >または< OFF >を選ぶ**

プリントヘッドの位置を調整する

23LX-0J8

色のずれなどを改善するために、プリントヘッド位置を調整します。

以下の用紙を用意してください。

- 普通紙（再生紙も使用可）
- サイズ： A3、11x17、LTR、A4 サイズのいずれか
  A3 または 11x17 をおすすめします。
- 枚数：1 枚
- 表裏ともに白いきれいな用紙

1 給紙カセットまたは手差しトレイに用紙をセットする

- 用紙の設定も行ってください。 **用紙をセットする(P. 137)**

2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

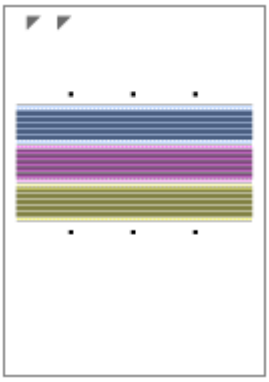
3 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞の順に進む

4 ＜ヘッド位置調整＞を選ぶ

5 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜次へ＞を選ぶ

6 作業の流れを確認し、＜開始＞を選ぶ

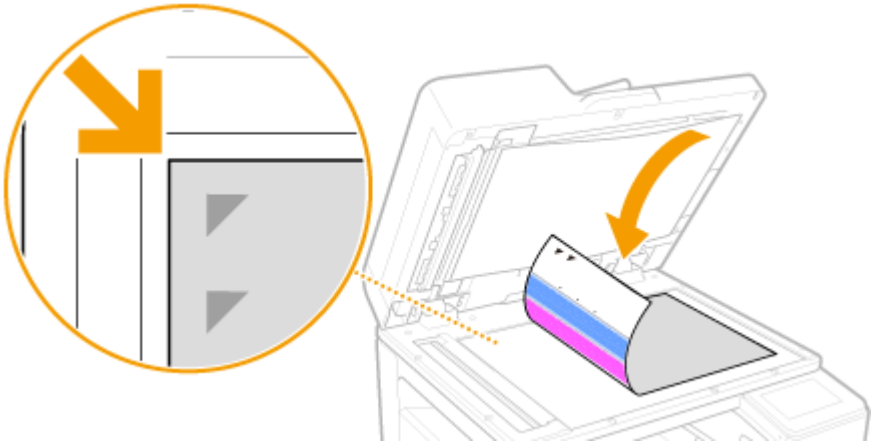
➠ 調整用画像が印刷されます。



7 印刷中の画面が消えたら、フィーダーを開ける

8 調整用画像を原稿台ガラスにセットする

- 調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



9 フィーダーをゆっくり閉じる

10 ＜読込開始＞を選ぶ

➠ セットした調整用画像がスキャンされたあと、プリントヘッドのノズルの位置が調整されます。

11 補正が終了したことを知らせるメッセージが表示されたら、フィーダーを開けて調整用画像を取り除く

12 フィーダーをゆっくり閉じる

MEMO

＜補正できませんでした。＞が表示されたとき

- 手順 5 で表示された用紙を給紙部にセットしていますか？

- 調整用画像が印刷されている面は下向きで、◤マークを左上隅にして原稿台ガラスにセットしていますか？

濃度やインクが乾燥する時間を調整する

23LX-0J9

印刷が終わった用紙のインクで用紙が汚れてしまう場合に、印刷の濃度や印刷したあとにインクが乾くまでの待ち時間を設定することで、改善できることがあります。
また、横目紙などのコシの弱い紙で両面印刷の紙づまりが発生する場合に、印刷の濃度や印刷したあとにインクが乾くまでの待ち時間を設定することで、改善できることがあります。

MEMO

- ＜初期設定＞から変更すると、印刷速度が遅くなる場合があります。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞の順に進む

3 ＜濃度 / 乾燥時間調整＞を選ぶ

4 ＜給紙箇所共通の調整＞または＜給紙箇所別の調整＞を選ぶ

- すべての給紙部に対して一括して設定する場合は＜給紙箇所共通の調整＞を選び、手順 6 に進みます。
- 手差しトレイや給紙カセットごとに設定する場合は＜給紙箇所別の調整＞を選び、手順 5 に進みます。

5 設定したい給紙部を選ぶ

6 設定値を選ぶ

印刷面の汚れを改善する場合

- ＜設定１＞＜設定２＞＜設定３＞の順に試してください。
- ＜設定１＞＜設定２＞＜設定３＞を試しても改善しない場合は、＜カスタム＞で濃度と乾燥時間をそれぞれ設定してください。

紙づまりを改善する場合

- ＜カスタム＞で印刷濃度 0、乾燥時間 10 を設定してください。
- それでも改善しない場合は、＜カスタム＞で印刷濃度-10、乾燥時間 10 を設定してください。

＜初期設定＞

初期設定に戻します。

＜設定 1 ＞＜設定 2 ＞＜設定 3 ＞
あらかじめ用意された設定値です。これを選択することで簡単に設定値を変えることができます。

＜カスタム＞
濃度と乾燥時間を任意に設定することができます。

1 ＜カスタム＞を選ぶ

2 ＜印刷濃度＞および＜乾燥時間＞に任意の数値を入力したあと、＜確定＞を選ぶ

7 ＜確定＞を選ぶ

印刷後の用紙の反りを調整する

23LX-0JA

排紙された用紙の反りを調整するレベルや乾燥時間を設定します。用紙の反りによって、排紙トレイ上の用紙が乱れてしまう場合には、調整レベルや乾燥時間を大きく設定してください。

MEMO

- ＜初期設定＞から変更すると、印刷速度が遅くなる場合があります。

1 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

2 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞の順に進む

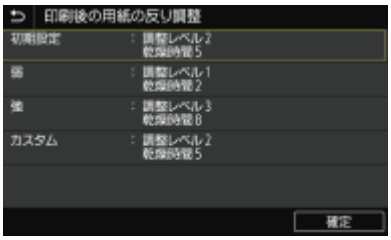
3 ＜印刷後の用紙の反り調整＞を選ぶ

4 ＜給紙箇所共通の調整＞または＜給紙箇所別の調整＞を選ぶ

- すべての給紙部に対して一括して設定する場合は＜給紙箇所共通の調整＞を選び、手順 6 に進みます。
- 手差しトレイや給紙カセットごとに設定する場合は＜給紙箇所別の調整＞を選び、手順 5 に進みます。

5 設定したい給紙部を選ぶ

6 設定値を選ぶ



＜初期設定＞
初期設定に戻します。

＜弱＞
用紙の反りを改善する場合に設定します。

＜強＞
用紙の反りにより排紙トレイ上の用紙が乱れる場合に設定します。

＜カスタム＞
＜弱＞＜強＞を試しても改善しない場合は、調整レベルと乾燥時間をそれぞれ設定してください。

1 ＜カスタム＞を選ぶ

2 ＜調整レベル＞および＜乾燥時間＞に設定値を入力したあと、＜確定＞を選ぶ

7 ＜確定＞を選ぶ

余白を調整する

23LX-09W

かたよって印刷されたり、印刷範囲からはみ出てしまったりする場合、余白の調整を行ってください。余白は給紙部ごとに調整することができます。調整量は 0.1 mm 単位に指定できます。

1 余白を調整するパターン(ノズルチェックパターン)を印刷する

1 余白調整を行わない給紙部のカセットを少し引き出した状態にするか、または、余白調整を行いたい給紙部のみ用紙をセットする

MEMO

- 使用する用紙で調整することをおすすめします。
- 平らな場所で用紙の端をそろえてからセットしてください。
- 用紙サイズの指標を目安にし、用紙ガイドを用紙の左右端と後端に合わせて下さい。
- 用紙ガイドを用紙に強く突き当てすぎないようにしてください。うまく給紙されない場合があります。
  用紙の基本的なセット方法(P. 139)

2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

3 ＜調整/ メンテナンス＞ ▶ ＜メンテナンス＞の順に進む

4 ＜ノズルチェックパターン印刷＞を選ぶ

5 用紙の種類を選ぶ

6 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜ OK ＞を選ぶ

7 ＜開始＞を選ぶ

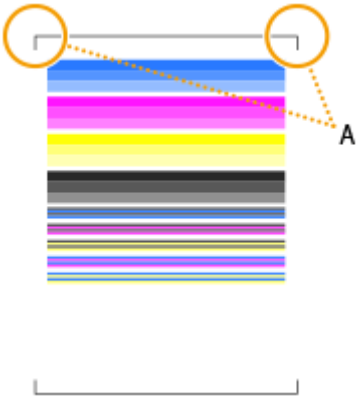
➠ チェックパターンが印刷されます。

8 次の画面では＜ A ＞を選択した後、＜閉じる＞を選択する

2 余白調整値を確認し余白調整する

- 調整が必要な方向と距離を確認する

余白の調整は、方向を「＋」または「－」、距離を「mm」で指定します。＜先端余白＞の場合、用紙の上から下方向へずらすときは「＋」に設定します。＜左端余白＞の場合、用紙の左から右方向へずらすときは「＋」に設定します。反対の方向へずらすときは「－」に設定してください。

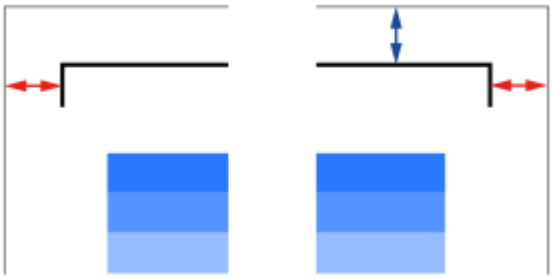


A:印刷パターンの先端

MEMO

mm ではなく inch で指定したい場合は、以下の設定を行ってください。
＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜表示設定＞ ▶ ＜ mm /インチ入力の切替＞ ▶ ＜ mm ＞または＜インチ＞を選択 ▶ 🏠

1 印刷パターンの先端付近に配置されているチェックパターンの黒枠が下記のように印刷されるよう調整値を確認する
左右余白（赤矢印の長さ）が同じになる調整値を確認してください。
先端余白（青矢印の長さ）が約 4 mm になる調整値を確認してください。

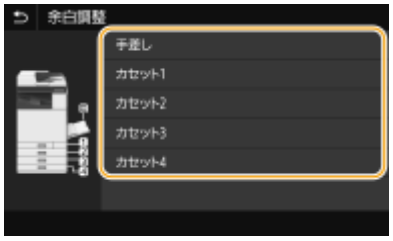


2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ **ホーム画面(P. 120)**

3 ＜調整/ メンテナンス＞ ▶ ＜画質調整＞の順に進む

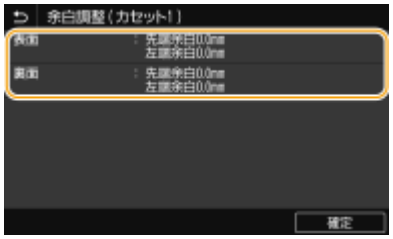
4 ＜余白調整＞を選ぶ

5 給紙部を選ぶ

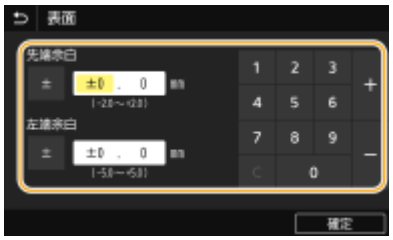


6 調整したい印刷面を選ぶ

- 片面印刷をする場合は、＜表面＞を選びます。
- 両面印刷をする場合は、＜表面＞と＜裏面＞を選びます。



7 調整する数値を設定し、＜確定＞を選ぶ



8 ＜確定＞を選ぶ

すべての印刷の位置を調整する

- 操作パネルの設定メニューにある＜ファンクション設定＞で、給紙部にかかわらず、すべての印刷における印字位置を調整することができます。タテ方向／ヨコ方向ともに -50.0 ～ +50.0 mm の範囲で、0.5 mm 単位で調整可能です。 **＜短辺方向移動／長辺方向移動＞(P. 494)**

3 余白調整が正しく行われたか確認する場合は、再度ノズルチェックパターンを印刷する

- 手順 1 を実施して、チェックパターンの黒枠が左右均等に印刷され、先端余白が約 4 mm であることを確認してください。

排紙時の用紙のたわみを改善する

23LX-0KS

用紙が排紙されたときに用紙がたわんだり曲がったりしてしまう場合は、＜排紙時の用紙のたわみ改善＞を行ってください。給紙口毎に設定できます。

MEMO

- ＜ ON ＞に設定すると、用紙種類によっては印刷速度と濃度が変わる場合があります。

1 **ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ** ホーム画面(P. 120)

2 **＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞の順に進む**

3 **＜排紙時の用紙のたわみ改善＞を選ぶ**

4 **設定したい給紙部を選ぶ**

5 **＜ ON ＞または＜ OFF ＞を選ぶ**

白スジを補正する

23LX-0LE

ファームウェア（Main Controller）バージョン：Ver.02.50 以降で利用可能です。 **ファームウェアのバージョンを確認する(P. 436)**
プリントヘッドクリーニングを行っても、白スジが改善しない場合に実行します。
プリントヘッドクリーニングを行っていない場合は、まず最初にプリントヘッドクリーニングを行ってください。 **プリントヘッドをクリーニングする(P. 568)**

以下の用紙を用意してください。

- 普通紙（再生紙も使用可）
- サイズ： A3、11x17、LTR、A4 サイズのいずれか
  A3 または 11x17 をおすすめします。
- 枚数：1 枚
- 表裏ともに白いきれいな用紙

1 給紙カセットまたは手差しトレイに用紙をセットする

- 用紙の設定も行ってください。 **用紙をセットする(P. 137)**

2 ホーム画面で、＜メニュー＞を選ぶ ホーム画面(P. 120)

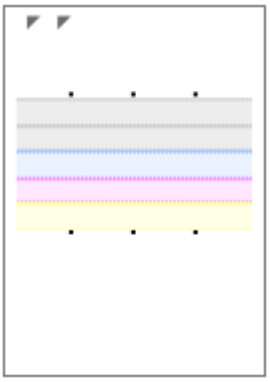
3 ＜調整 / メンテナンス＞ ▸ ＜画質調整＞の順に進む

4 ＜白スジ補正＞を選ぶ

5 画面に表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜次へ＞を選ぶ

6 作業の流れを確認し、＜開始＞を選ぶ

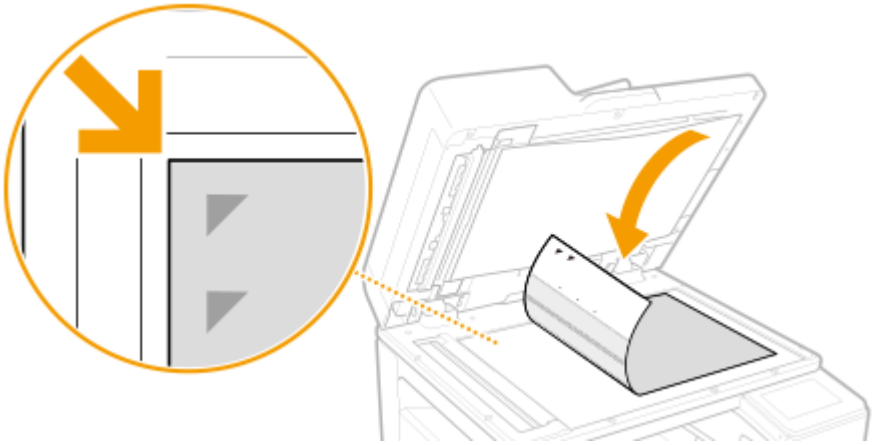
➠ 調整用画像が印刷されます。



7 印刷中の画面が消えたら、フィーダーを開ける

8 調整用画像を原稿台ガラスにセットする

- 調整用画像が印刷されている面を下にして、◤マークが左上隅になるようにセットします。



9 フィーダーをゆっくり閉じる

10 ＜読込開始＞を選ぶ

➠ セットした調整用画像がスキャンされたあと、白スジが補正されます。

11 補正が終了したことを知らせるメッセージが表示されたら、フィーダーを開けて調整用画像を取り除く

12 フィーダーをゆっくり閉じる

MEMO

＜補正できませんでした。＞が表示されたとき

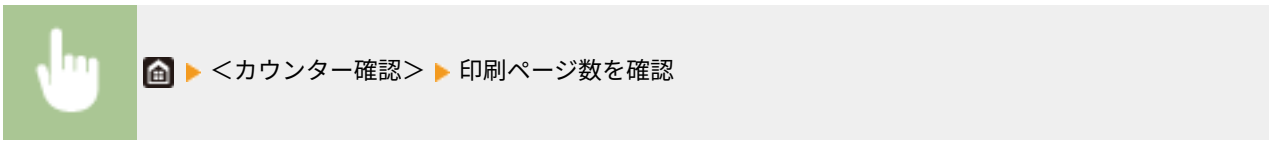
- 手順 5 で表示された用紙を給紙部にセットしていますか？

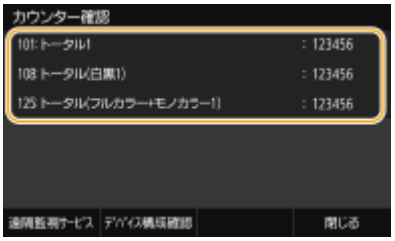
- 調整用画像が印刷されている面は下向きで、◤マークを左上隅にして原稿台ガラスにセットしていますか？

印刷ページ数を確認する

23LX-09X

これまでに行った印刷の総ページ数を白黒・カラー別に確認できます。コピーや印刷だけでなく、受信したファクス、レポート、リストについても印刷枚数にカウントされます。





＜ 101: トータル 1 ＞
コピーおよび印刷の総ページ数を表示します。

＜ 108: トータル(白黒 1)＞
白黒コピーおよび白黒印刷の総ページ数を表示します。

＜ 125: トータル(フルカラー+モノカラー 1)＞
カラー印刷の総ページ数を表示します。

レポートやリストを印刷する

23LX-0HH

部門ごとの使用状況や本機の設定項目の設定内容などをレポートやリストとして印刷して確認することができます。

部門ごとの使用状況のレポートを印刷する(P. 662)
通信結果のレポートを設定する(P. 662)
設定内容のリストを印刷する(P. 664)
プリントヘッドの使用状況のレポートを印刷する(P. 665)

部門ごとの使用状況のレポートを印刷する

部門別 ID 管理レポート

部門別 ID 管理が設定されている場合は、本機の使用状況を部門ごとにレポートで確認できます。どの部門が何枚印刷したのかなどを確認して管理に役立てることができます。

<メニュー> ▶ <レポート出力> ▶ <リストプリント> ▶ <部門別 ID 管理レポート> ▶ 表示されている用紙がセットされていることを確認し、<スタート>を選択 ▶ 🏠

通信結果のレポートを設定する

E メール、ファクス、I ファクス、共有フォルダー、FTP サーバーなどへ送受信結果や保存結果のレポートを印刷することができます。レポートは自動的に印刷されるものや、エラーが起きたときのみ印刷されるものがあります。

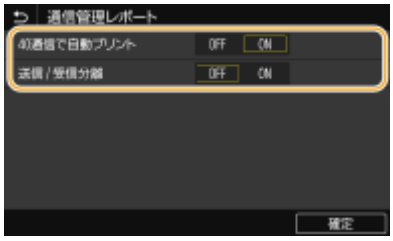
MEMO

- 印刷されたリストの項目「通信結果」に「NG」がある場合は、並んで表示されている「#」で始まる 3 桁の番号よりエラーの内容を調べることができます。 **エラーコードごとの対処方法(P. 717)**
- E メール／I ファクス送信時は、指定した宛先への通信結果ではなく、メールサーバーへの通信結果が印刷されます。

通信管理レポート

ファクスや E メールなどの送信／受信の全結果をレポートで確認できます。レポートは 40 通信が終了した時点で自動的に印刷されます。また、随時、手動で印刷することもできます。

<メニュー> ▶ <レポート出力> ▶ <仕様設定> ▶ <通信管理レポート> ▶ レポートの設定を指定 ▶ <確定> ▶ 🏠



＜40 通信で自動プリント＞
40 通信が終了した時点で通信管理レポートを自動的に印刷する場合は＜ ON ＞を選びます。通信管理レポートを印刷しない場合は＜ OFF ＞を選びます。

＜送信 / 受信分離＞
送信結果と受信結果を分けて印刷することができます。分けて印刷する場合は＜ ON ＞、1 つにまとめて印刷する場合は＜ OFF ＞を選びます。

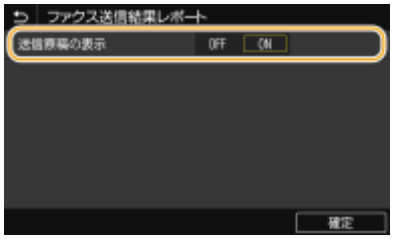
■ 手動で印刷する

＜メニュー＞ ▶ ＜レポート出力＞ ▶ ＜リストプリント＞ ▶ ＜通信管理レポート＞ ▶ 表示されている用紙がセットされていることを確認し、＜スタート＞を選択 ▶

ファクス送信結果レポート

ファクス送信したときの通信結果をレポートで確認できます。レポートは 1 回の通信が終了するごとに自動的に印刷されますが、送信エラーが発生したときだけ印刷されるようにも設定できます。

＜メニュー＞ ▶ ＜レポート出力＞ ▶ ＜仕様設定＞ ▶ ＜ファクス送信結果レポート＞ ▶ ＜ ON ＞または＜エラー時のみ＞を選択 ▶ ＜ OFF ＞または＜ ON ＞を選択 ▶ ＜確定＞ ▶



＜送信原稿の表示＞
＜ ON ＞に設定すると、送信結果レポートに送信文書の一部を表示することができます。

E メール／I ファクス／ファイル送信結果レポート

E メール／I ファクスを送信したときや、共有フォルダーや FTP サーバーへ文書を保存したときの通信結果をレポートで確認できます。レポートは 1 回の通信が終了するごとに自動的に印刷されますが、送信エラーが発生したときだけ印刷されるようにも設定できます。

<メニュー> ▶ <レポート出力> ▶ <仕様設定> ▶ < E メール / I ファクス / ファイル送信結果レポート> ▶ < ON >または<エラー時のみ>を選択 ▶ 🏠

MEMO

通信結果について

- E メール／I ファクス送信時や共有フォルダー／FTP に保存時にエラーになった場合は、送信結果レポートにはエラーコードが表示されません。エラーコードを確認するには通信管理レポートを印刷してください（**通信管理レポート(P. 662)**）。

受信結果レポート

ファクスや I ファクスを受信したときの通信結果をレポートで確認できます。レポートは 1 回の通信が終了するごとに自動的に印刷されますが、受信エラーが発生したときだけ印刷されるようにも設定できます。

<メニュー> ▶ <レポート出力> ▶ <仕様設定> ▶ <受信結果レポート> ▶ < ON >または<エラー時のみ>を選択 ▶ 🏠

設定内容のリストを印刷する

本機に登録した情報や設定内容をリストにして印刷することができます。

アドレス帳リスト

アドレス帳に登録されている宛先の内容をリストで確認できます。登録内容は短縮ダイヤル、ベストメンバー、グループダイヤルごとに確認できます。

<メニュー> ▶ <レポート出力> ▶ <リストプリント> ▶ <アドレス帳リスト> ▶ 印刷する対象を選択 ▶ 表示されている用紙がセットされていることを確認し、<スタート>を選択 ▶ 🏠

ユーザーデータリスト／システム管理者データリスト

本機の設定項目（**設定メニュー一覧(P. 440)**）とその内容をリストで確認できます。リストにはファームウェアのバージョン、登録されている用紙のサイズと種類、送信結果レポート、通信管理レポート、受信結果レポートの出力設定なども印刷されます。

<メニュー> ▶ <レポート出力> ▶ <リストプリント> ▶ <ユーザーデータリスト>または<システム管理者データリスト> ▶ 表示されている用紙がセットされていることを確認し、<スタート>を選択 ▶ 🏠

MEMO

- ユーザーデータリストには、ネットワーク設定や管理設定など一部の内容は印刷されません。これらを含むすべての設定内容を確認したい場合は、システム管理者データリストを印刷してください。

IPSec ポリシーリスト

本機に登録されている IPSec 設定のポリシー名と設定内容の一覧を確認できます。

<メニュー> ▶ <レポート出力> ▶ <リストプリント> ▶ < IPSec ポリシーリスト> ▶ 表示されている用紙がセットされていることを確認し、<スタート>を選択 ▶ 🏠

プリントヘッドの使用状況のレポートを印刷する

ヘッド情報レポート

プリントヘッドの状態や利用実績のレポートを印刷することができます。

<メニュー> ▶ <レポート出力> ▶ <リストプリント> ▶ <プリントヘッド情報レポート> ▶ 表示されている用紙がセットされていることを確認し、<スタート>を選択 ▶ 🏠

保守サービスについて

23LX-0A0

保守サービスや無償保証について

ご愛用いただく製品向けに、別途保守サービスをご用意しています。詳細は、販売店またはお客様相談センターにお問い合わせください。
また、本商品には無償保証期間はございません。

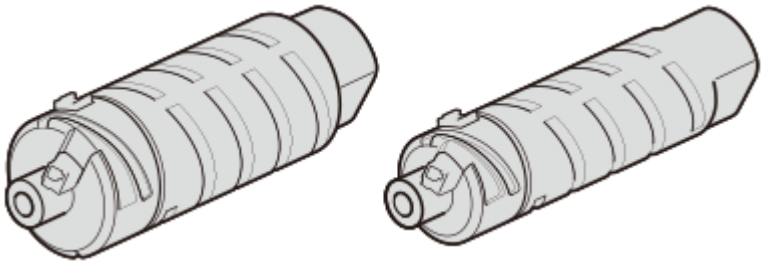
消耗品

23LX-0A5

MEMO

- 消耗品のお取り扱いおよび保管に関しては、本製品に同梱されている「設置・基本操作マニュアル」の注意事項をお守りください。
- 本機の設置環境や印刷する用紙サイズ、原稿の種類によって、記載の寿命より早く交換が必要になる場合があります。

■インクタンク



交換用のインクタンク

最適な印刷品位のため、交換用インクタンクは、キヤノン純正インクタンクのご使用をおすすめします。インクタンクの型番は設置・基本操作マニュアルで確認してください。

装着されているインクタンクの型番は以下の手順でも確認できます。

<状況確認> ▶ <デバイス情報> ▶ <消耗品情報> ▶ <型番確認> ▶ 型番を確認 ▶ 🏠

ご注意

インクタンクについてのご注意

- インクタンクに穴を開けるなどの改造や分解をすると、インクが漏れ、プリンターの故障の原因となることがあります。改造・分解はお勧めしません。
- インクの詰め替えなどによる非純正インクのご使用は、印刷品質の低下やプリントヘッドの故障の原因となることがあります。安全上問題はありませんが、まれに、純正品にないインク成分によるとみられるプリントヘッド部分の発熱・発煙事例*も報告されています。キヤノン純正インクのご使用をお勧めします。*
- 非純正インクタンクまたは非純正インクのご使用に起因する不具合への対応については、保守契約期間内または保証期間内であっても有償となります。*
- 非純正インクタンクまたは非純正インクを使用した製品の修理においては、保守契約の有無や有償修理・無償修理を問わず、追加の特殊点検等のための、特別料金をいただく場合があります。*

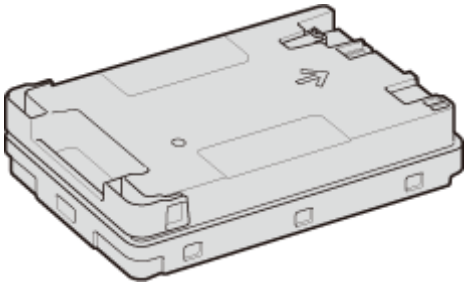
- インクタンクの交換は速やかに行い、インクタンクを取り外した状態で放置しないでください。
- 交換用インクタンクは新品のものを装着してください。インクを消耗しているものを装着すると、ノズルがつまる原因になります。また、インクタンクの交換時期を正しくお知らせできません。

* すべての非純正インクについて上記事例が報告されているものではありません。

MEMO

- インクタンクを交換するとき **インクタンクを交換する(P. 570)**

■メンテナンスカートリッジ



- メンテナンスカートリッジ MC50

よくあるご質問

よくあるご質問 670
はじめに確認してください 672
設定のトラブル 673
コピー／印刷（プリント）のトラブル 677
ファクス／電話のトラブル 680
正しく印刷できない 682
きれいに印刷できない 683
用紙がしわになったり、カールしたりする 693
用紙が正しく送られない 695
メッセージや#で始まる番号（エラーコード）が表示される 697
メッセージごとの対処方法 698
エラーコードごとの対処方法 717
紙がつまったら 726
フィーダーに原稿がつまった 728
本体内部に用紙がつまった 731
給紙部に用紙がつまった 736
トラブルが解決しないときは 740

よくあるご質問

23LX-0A6

トラブルが発生した場合は、お問い合わせいただく前に、まず本章で対処方法を確認してください。

■はじめに確認してください

本機の動作がおかしいときや、故障かな？と思ったときなどの対処方法について説明します。 **▶はじめに確認してください(P. 672)**

■正しく印刷できない

きれいに印刷できないときや、用紙にしわやカールが発生したときの対処方法について説明します。 **▶正しく印刷できない(P. 682)**

■メッセージや#で始まる番号（エラーコード）が表示される

ディスプレーにメッセージやエラーコード（3 桁の数字）が表示された場合の対処方法について説明します。 **▶メッセージや#で始まる番号（エラーコード）が表示される(P. 697)**

■紙がつまったら

用紙がつまったときの対処方法について説明します。 **▶紙がつまったら(P. 726)**

■トラブルが解決しないときは

トラブルが解決しないときのお問い合わせ先についてご紹介しています。 **トラブルが解決しないときは(P. 740)**

はじめに確認してください

23LX-0A7

本機をご使用中にトラブルが発生した場合、お問い合わせの前にこの項目をチェックしてください。それでもなお、トラブルが解消されない場合は、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。

次の項目をチェックしてください

電源は入っていますか？／電源コードは接続されていますか？

- 電源が入っていても本機に反応がない場合、一度電源を切り、電源コードが正しく接続されているか確認して、再度電源を入れてください。電源コードの接続については、「設置・基本操作マニュアル」を参照してください。 **マニュアルの種類と内容(P. 775)**

電話コード、LAN ケーブル、USB ケーブルは正しく接続されていますか？

- 正しく接続されているか確認してください。また、電話コードの接続口と、その他ケーブルの接続口を間違えないようにご注意ください。
  電話回線に接続する(P. 84)
  各部の名称とはたらき(P. 100)

スリープモードになっていませんか？

- 一定時間何も操作をしないと、省エネのために自動的に節電状態（スリープモード）になり、操作ができなくなります。スリープモードを解除するには を押してください。

ディスプレーにメッセージが表示されていませんか？

- トラブルが発生するとメッセージが表示されます。 **メッセージごとの対処方法(P. 698)**

チェックしても解決しないときは

トラブルの状況に合った項目を選んでください。

設定のトラブル(P. 673)
コピー／印刷（プリント）のトラブル(P. 677)
ファクス／電話のトラブル(P. 680)

設定のトラブル

23LX-0HJ

あわせて **はじめに確認してください(P. 672)** をご覧ください。

無線 LAN／有線 LAN 接続のトラブル(P. 673)
USB 接続のトラブル(P. 676)
プリントサーバー経由のトラブル(P. 676)

無線 LAN／有線 LAN 接続のトラブル

無線 LAN と有線 LAN を同時に接続できない。

- 無線 LAN と有線 LAN を同時に接続することはできません。USB と無線 LAN、USB と有線 LAN はそれぞれ同時にお使いいただけます。

リモート UI が表示されない。

- ＜ HTTP を使用＞や＜リモート UI を使用＞の設定が＜ ON ＞になっていますか？
  HTTP 通信を無効にする(P. 412)
  リモート UI を無効にする(P. 413)
- 無線 LAN で接続している場合、ホーム画面に Wi-Fi アイコンが表示されていて、IP アドレスが正しく設定されているかを確認してからリモート UI を起動しなおしてください。
  ホーム画面(P. 120)
  ネットワークの設定を確認する(P. 39)
- 有線 LAN で接続している場合、ケーブルが正しく接続され、IP アドレスが正しく設定されているかを確認してからリモート UI を起動しなおしてください。
  有線 LAN に接続する(P. 18)
  ネットワークの設定を確認する(P. 39)
- プロキシーサーバーをお使いではありませんか？その場合は、ウェブブラウザーのプロキシーサーバーの設定で、［例外］（プロキシーを使用しないアドレス）に本機の IP アドレスを追加してください。
- ファイアウォールでパソコンの通信が制限されていませんか？間違えて設定してしまったためにリモート UI が表示されなくなったときは、操作パネルから＜ IPv4 アドレスフィルター＞、＜ IPv6 アドレスフィルター＞、または＜ MAC アドレスフィルター＞を＜ OFF ＞にしてください。
  ファイアウォールで通信制限する(P. 367)
  ＜ IPv4 アドレスフィルター＞(P. 462)
  ＜ IPv6 アドレスフィルター＞(P. 462)
  ＜ MAC アドレスフィルター＞(P. 462)

ネットワークにつながらない。

- IP アドレスの設定に失敗している可能性があります。再度 IP アドレスを設定しなおしてください。
  IP アドレスを設定する(P. 32)
- 無線 LAN で接続する場合は、本機がネットワークに接続できる状態か、確認してください。
  無線 LAN に接続できないときは(P. 674)

設定された IP アドレスがわからない。 ネットワークの設定を確認する(P. 39)

有線 LAN から無線 LAN へ、無線 LAN から有線 LAN への変更ができない。

- 有線 LAN、無線 LAN を変更するときに本機の操作パネルからも切り替え操作を行いましたか？これを行わないと本機は接続方法を変更できません。
  有線 LAN か無線 LAN かを選択する(P. 17)

接続したい無線 LAN ルーターの SSID やネットワークキーがわからない。

- 無線 LAN ルーター本体、箱または取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。
  SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)

アクセスポイント一覧に、接続したい無線 LAN ルーターの SSID が表示されない。

- 本体や取扱説明書からメモした無線 LAN ルーターの SSID が間違っていないか確認してください。
  SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)
- 無線 LAN ルーターの SSID が公開されていない（ステルス機能*を使用している）場合は、無線 LAN ルーターで SSID が公開されるように設定してください。

  * 無線 LAN ルーターの SSID を他の機器が自動検出できないようにする機能です。

- 本機がネットワークに接続できる状態か、確認してください。
  無線 LAN に接続できないときは(P. 674)

意図しない接続先に自動的にダイヤルアップする（ネットワークにダイヤルアップルーターが接続されている場合）。

- ダイヤルアップルーターでブロードキャストを通す必要がない場合は、ダイヤルアップルーターの設定はブロードキャストを通さない設定にしてください。ダイヤルアップルーターでブロードキャストを通す必要がある場合は、設定が正しいかどうか確認してください。
- DNS サーバーが外部のネットワークにある場合は、本機が接続されているネットワーク上の機器に接続する場合でも、接続先はホスト名ではなく、IP アドレスを使用して設定してください。
- 本機が接続されているネットワーク上に DNS サーバーがあり、DNS サーバーに外部のネットワークに接続されている機器の情報が登録されている場合は、その設定が正しいかどうか確認してください。

無線 LAN に接続できないときは

1

パソコンの状態を確認する

- パソコンと無線 LAN ルーターの設定は完了していますか？
- 無線 LAN ルーターのケーブル類（電源ケーブルや LAN ケーブルなど）が抜けていませんか？
- 無線 LAN ルーターの電源が入っていますか？

上記を確認しても解決しない場合：

- 各機器の電源をいったん切り、再度入れなおしてください。
- 少し時間をおいて、再度ネットワークに接続できるか確認してください。

2

本機の電源が入っているか確認する

- 電源が入っているときは、いったん切ってから、再度入れなおしてください。

3

本機と無線 LAN ルーターの設置場所を確認する

- 本機と無線 LAN ルーターの距離が離れすぎていませんか？
- 本機と無線 LAN ルーターの間に壁などの障害物がありませんか？
- 近くに電子レンジやデジタルコードレス電話機などの電波を発生する機器がありませんか？

4

以下の設定をしなおす

WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式）(P. 21)
WPS PIN コード方式で設定する(P. 23)
無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)
すべて入力して設定する(P. 28)

MEMO

手動入力での設定が必要な場合

無線 LAN ルーターが次のように設定されているときは、手動入力で設定してください（**すべて入力して設定する (P. 28)**）。

- ANY 拒否*がオンになっている
- 自動生成した WEP キー（16 進数）が設定されている
- ステルス機能がオンになっている

* 接続しようとしている機器が SSID を「ANY」または「空白」に設定している場合、無線 LAN ルーターが接続を拒否する機能です。

無線 LAN ルーター側の設定変更が必要な場合

無線 LAN ルーターが次のように設定されているときは、ルーター側の設定を変更してください。

- MAC アドレスフィルタリングが設定されている
- IEEE 802.11n のみで通信している状態で、WEP を選択しているか、WPA/WPA2 の暗号化方式を TKIP に設定している

USB 接続のトラブル

通信できない。

- USB ケーブルを交換してください。USB ケーブルが長い場合は短いものに変更してください。
- USB ハブを使用しているときは、本機とパソコンを USB ケーブルで直接接続するようにしてください。

プリントサーバー経由のトラブル

接続するプリントサーバーが見つからない。

- プリントサーバーとパソコンが正しく接続されていますか？
- プリントサーバーは起動されていますか？
- プリントサーバーに接続する権限はありますか？不明な場合は、サーバーの管理者にお問い合わせください。
- ［ネットワーク探索］は有効になっていますか？
  ［ネットワーク探索］を有効にする(P. 782)

共有プリンターに接続できない。

- ネットワーク上でプリントサーバー内のプリンターは表示されますか？表示されない場合は、ネットワークやサーバーの管理者にお問い合わせください。
  プリントサーバー内の共有プリンターの表示方法(P. 783)

コピー／印刷（プリント）のトラブル

23LX-0A9

あわせて **はじめに確認してください(P. 672)** をご覧ください。

きれいにコピー／印刷できない。または用紙にしわやカールが発生する。 **正しく印刷できない(P. 682)**

印刷できない。

- Windows のテストページは印刷できますか？印刷できるときは、本機やプリンタードライバーに問題はありません。アプリケーションの印刷設定を確認してください。
  Windows のテストページの印刷方法(P. 784)

テストページが印刷されないときは、お使いの環境に応じた項目をチェックしてください。

■ 無線 LAN 接続の場合

- 無線 LAN の接続状態（電波強度）を確認してください。
  ネットワークの設定を確認する(P. 39)

MEMO

- 接続状態が悪いときは、次のことを試してください。
  - 無線 LAN ルーターのチャンネルを変更してください。複数の無線 LAN ルーターがある場合は、チャンネルの間隔を 5 チャンネル以上離してください。
  - 無線 LAN ルーターの電波出力を変更できる場合は、出力を上げてください。

- パソコンが無線 LAN 接続の場合に、本機とパソコンが接続している無線 LAN ルーターの SSID は同じですか？異なるときは本機の無線 LAN 接続の設定をやりなおしてください。
  ネットワークの設定を確認する(P. 39)
  パソコンが接続している SSID を確認する(P. 789)
  無線 LAN に接続する(P. 19)

MEMO

無線 LAN 接続の設定をやりなおすとき

- 接続する無線 LAN ルーターはパソコンが接続している SSID と同じものを選んでください。

- 使用するポートは正しく選択されていますか？使用するポートがないときは、ポートを作成してください。
  プリンターポートの確認方法(P. 787)
  印刷ポートの設定をする(P. 45)
- ファイアウォールでパソコンの通信が制限されていませんか？間違えて設定してしまったために本機にアクセスできなくなったときは、操作パネルから＜ IPv4 アドレスフィルター＞または＜ IPv6 アドレスフィルター＞を＜ OFF ＞にしてください。
  ファイアウォールで通信制限する(P. 367)
  ＜ IPv4 アドレスフィルター＞(P. 462)
  ＜ IPv6 アドレスフィルター＞(P. 462)
- セキュリティーソフトウェアなどの常駐ソフトウェアを無効にしてください。

- プリンタードライバーをインストールしなおしてください。
  ドライバーをインストールする(P. 79)
- ネットワーク上の他のパソコンから印刷できますか？他のパソコンからも印刷できない場合は、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。

■ 有線 LAN 接続の場合

- 使用するポートは正しく選択されていますか？使用するポートがないときは、ポートを作成してください。
  プリンターポートの確認方法(P. 787)
  印刷ポートの設定をする(P. 45)
- ファイアウォールでパソコンの通信が制限されていませんか？間違えて設定してしまったために本機にアクセスできなくなったときは、操作パネルから＜ IPv4 アドレスフィルター＞、＜ IPv6 アドレスフィルター＞、または＜ MAC アドレスフィルター＞を＜ OFF ＞にしてください。
  ファイアウォールで通信制限する(P. 367)
  ＜ IPv4 アドレスフィルター＞(P. 462)
  ＜ IPv6 アドレスフィルター＞(P. 462)
  ＜ MAC アドレスフィルター＞(P. 462)
- セキュリティーソフトウェアなどの常駐ソフトウェアを無効にしてください。
- プリンタードライバーをインストールしなおしてください。
  ドライバーをインストールする(P. 79)
- ネットワーク上の他のパソコンから印刷できますか？他のパソコンからも印刷できない場合は、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。

■ USB 接続の場合

- 使用するポートは正しく選択されていますか？使用するポートがないときやわからないときは、プリンタードライバーをインストールしなおしてください。インストールしなおすと自動的に正しいポートが作成されます。
  プリンターポートの確認方法(P. 787)
  ドライバーをインストールする(P. 79)
- 双方向通信は有効になっていますか？双方向通信を有効にしたときは、パソコンと本機を再起動してください。
  双方向通信の確認方法(P. 788)
- セキュリティーソフトウェアなどの常駐ソフトウェアを無効にしてください。
- パソコンの他の USB ポートに接続してください。
- 他のパソコンに USB 接続して印刷できますか？他のパソコンからも印刷できない場合は、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。

■ プリントサーバー経由の場合

- プリントサーバーから印刷できますか？プリントサーバーから印刷できるときは、プリントサーバーとお使いのパソコンの接続を確認してください。
  プリントサーバー経由のトラブル(P. 676)
- セキュリティーソフトウェアなどの常駐ソフトウェアを無効にしてください。
- プリンタードライバーをインストールしなおしてください。
  ドライバーをインストールする(P. 79)
- 他のパソコンからプリントサーバーを介して印刷できますか？他のパソコンからも印刷できない場合は、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。

- エラーが起きていませんか？ジョブ履歴を確認してください。
  コピー状況や履歴を確認する(P. 206)
  印刷状況や履歴を確認する(P. 269)
- コピーはできますか？コピーできるときは本機に問題はありません。コピーができないときはノズルチェックパターンは印刷してみてください。
  ノズルの状態をチェックする(P. 632)

印刷が遅く感じる。*

- セキュアプリント機能を使用していない場合、機能を＜ OFF ＞にすることをおすすめします。
  セキュア文書の保存時間を変更する(P. 275)
- 印刷される画像によって、印字速度が遅くなる場合があります。また、「濃度/乾燥時間の調整」「印刷後の用紙の反り調整」の設定を見なおすことで印刷速度が変わる場合があります。

* メモリー残量が少なくなると動作が遅くなることがあります。ただし、これはパソコンなどでも起こる現象で異常ではありません。

- 印刷解像度を「スーパーファイン(1200 dpi)」にすると印字速度が遅くなります。
- 給紙部により印刷速度が変わる場合があります。高速印刷の際は上段の給紙部を使用することをおすすめします。
- 用紙種類の設定が厚紙６、ラベル紙、はがき、封筒、写真用紙（マット）の場合、普通紙より印刷速度が低下します。
- 手差しトレイを使って、482.7 mm 以上の(19 inch を超える)ユーザー設定サイズで印刷する場合、印刷速度が低下します。
- 使用環境（温度・湿度）より、印刷速度が遅くなる場合があります。
- 連続印刷時に、印刷動作が休止または遅くなる場合があります。

印刷を開始するまでに時間がかかる。

- 紙ジャム等のエラー処理後、復帰処理のため時間がかかることがあります。そのまましばらくお待ちください。
- 印字中に自動メンテナンス処理が発生した場合、時間がかかることがあります。そのまましばらくお待ちください。また、動作中に電源を切らないことをおすすめします。動作中に、強制的に電源を切った場合（コンセントから抜くなど）、次回電源 ON 時の復帰処理時間が長くなります。
- 電源 ON 直後の印刷では、時間がかかることがあります。そのまましばらくお待ちください。
- 印刷解像度を「スーパーファイン(1200 dpi)」にすると時間がかかることがあります。デフォルト設定値に戻すと改善する場合があります。

ファクス／電話のトラブル

23LX-0AA

あわせて **はじめに確認してください(P. 672)** をご覧ください。

送信のトラブル(P. 680)
受信のトラブル(P. 681)

送信のトラブル

ファクスが送信できない。

- 外付け電話機を使用中ではありませんか？通話が終了するまでお待ちください。
- エラーが発生していませんか？通信管理レポートをプリントして確認してください。
  通信管理レポート(P. 662)
- 電話回線は正しく設定されていますか？
  電話回線に接続する(P. 84)
- 海外へ送信する場合、ポーズを挿入してください。
  ファクス送信の基本操作(P. 224)

履歴から宛先を指定してファクス送信ができない。

- 本機の電源を切りませんでしたか？この場合、保存されていた履歴は削除されます。
- ＜新規宛先の制限＞を＜ ON ＞に設定しませんでしたか？この場合、＜ ON ＞にする以前の履歴は削除されます。
- ＜履歴からの再送信を制限＞を＜ ON ＞に設定しませんでしたか？この場合、履歴から宛先を指定できません。

光回線（ひかり電話）環境でファクスが送信できない。

- 本機は NTT のアナログ回線規格に準拠しており、光回線や IP 電話回線などを利用した場合、接続環境や接続機器によっては正しく動作しないこともあります。この場合は、光回線や IP 電話の事業者にお問い合わせください。

きれいにファクス送信できない。

- 原稿台ガラスまたはフィーダーを清掃してください。清掃しても改善されない場合は、受信側のファクスに問題がある可能性があります。
  原稿台ガラスを清掃する(P. 553)
フィーダーを清掃する(P. 555)

受信のトラブル

きれいに受信できない。または用紙にしわやカールが発生する。 正しく印刷できない(P. 682)

電話とファクスが自動的に切り替わらない。

- 受信モードが＜ FAX / TEL 切替＞または＜留守 TEL 接続＞に設定されていることを確認してください。
  受信モードを設定する(P. 83)
- メモリー残量が少なくなっている可能性があります。メモリー内に蓄積されているデータを印刷または削除してください。
  メモリー内の文書を確認／転送／削除する(P. 245)
  メモリー内の文書を印刷する(P. 244)

ファクスを自動受信できない。

- 受信モードが＜ FAX / TEL 切替＞、＜自動受信＞、＜留守 TEL 接続＞のいずれかに設定されていることを確認してください。
  受信モードを設定する(P. 83)
- メモリー残量が少なくなっている可能性があります。メモリー内に蓄積されているデータを印刷または削除してください。
  メモリー内の文書を確認／転送／削除する(P. 245)
  メモリー内の文書を印刷する(P. 244)

光回線（ひかり電話）環境でファクスが受信できない。

- 本機は NTT のアナログ回線規格に準拠しており、光回線や IP 電話回線などを利用した場合、接続環境や接続機器によっては正しく動作しないこともあります。この場合は、光回線や IP 電話の事業者にお問い合わせください。

正しく印刷できない

23LX-0AC

きれいに印刷できないとき、または用紙にしわやカールが発生したときは、こちらの対処方法をお試しください。それでもなお、改善されない場合は、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。

きれいに印刷できない(P. 683)
用紙がしわになったり、カールしたりする(P. 693)
用紙が正しく送られない(P. 695)

きれいに印刷できない

23LX-0AE

本体内部の汚れが印刷結果に影響する場合があります。まず、本体のお手入れを行ってください。 **日常のお手入れ(P. 551)**

印刷がかすれる／違う色になる／白いすじ（線）が入る(P. 683)
色ムラや色すじがある(P. 684)
色ずれがある(P. 684)
コピーがきれいに印刷できない(P. 685)
カラーコピーで黒い文字や黒っぽい色の文字が思いどおりにコピーできない(P. 685)
用紙の端が汚れる(P. 686)
印刷面が汚れる(P. 686)
原稿に汚れが付く(P. 687)
用紙の裏面が汚れる(P. 687)
印刷が終わった用紙の裏面が、次に排紙される用紙のインクで汚れてしまう(P. 688)
裏写りする(P. 688)
ページの一部が印刷されない(P. 689)
意図した面に印刷されない(P. 689)
思った通りのサイズで印刷されない(P. 689)
両面印刷で裏表の向きが合わない(P. 690)
罫線が欠けるまたは印刷されない(P. 690)
モノクロで印刷される(P. 691)
かたよって印刷されたり、印刷範囲からはみ出てしまったりする(P. 691)

印刷がかすれる／違う色になる／白いすじ（線）が入る

用紙や印刷品質を確認しましたか？

- 本機の操作パネルまたはプリンタードライバーの設定が、使いたい用紙サイズや種類、印刷品質と合っているか確認してください。
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)
  プリントする(P. 263)
  ドライバー(P. 795)

プリントヘッドの目詰まりを確認しましたか？

- ノズルチェックパターンを印刷し、必要に応じてプリントヘッドのクリーニングなどを行ってください。
  プリントヘッドをクリーニングする(P. 568)
- プリントヘッドクリーニングを実行して一旦改善しても、しばらくすると白いスジが入る場合は、メンテナンス間隔を調整してください。
  ＜メンテナンス間隔の調整＞　ファームウェア(Main Controller)バージョン：Ver.02.50 以降(P. 473)
- プリントヘッドクリーニングを行っても、白いスジが改善しない場合は、白スジ補正を実行してください。
  ＜白スジ補正＞　ファームウェア(Main Controller)バージョン：Ver.02.50 以降(P. 474)

色ムラ補正（用紙共通の補正）は行いましたか？

- 色ムラ補正（用紙共通の補正）を行ってください。
  色ムラを補正する(P. 637)
  すべての用紙の色ムラを補正する(P. 638)

色ムラ補正（用紙別の補正）は行いましたか？

- 以上の手順を実施しても改善されない場合は、色ムラ補正（用紙別の補正）を行ってください。
  色ムラを補正する(P. 637)
  用紙別に色ムラを補正する(P. 641)

Q 色ムラや色すじがある

A

用紙や印刷品質を確認しましたか？

- 本機の操作パネルまたはプリンタードライバーの設定が、使いたい用紙サイズや種類、印刷品質と合っているか確認してください。
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)
  プリントする(P. 263)
  ドライバー(P. 795)

プリントヘッドの診断を行いましたか？

- プリントヘッドの診断を行ってください。
  プリントヘッドを診断する (P. 626)

色ムラ補正（用紙別の補正）は行いましたか？

- 以上の手順を実施しても改善されない場合は、色ムラ補正（用紙別の補正）を行ってください。
  色ムラを補正する(P. 637)
  用紙別に色ムラを補正する(P. 641)

Q 色ずれがある

A

用紙や印刷品質を確認しましたか？

- 本機の操作パネルまたはプリンタードライバーの設定が、使いたい用紙サイズや種類、印刷品質と合っているか確認してください。
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

プリントする(P. 263)
ドライバー(P. 795)

プリントヘッドの位置調整を行いましたか？

- 色のずれなどを改善するために、プリントヘッド位置を調整してください。
プリントヘッドの位置を調整する(P. 647)

Q コピーがきれいに印刷できない

A

原稿が原稿台ガラスに正しくセットされていますか？

- 原稿は読み込む面を下にしてセットしてください。
原稿をセットする(P. 133)

本機で印刷したものをコピーしていませんか？

- 本機から印刷したものを原稿としてコピーする場合、元の写真や文書によっては、きれいに印刷されないことがあります。
本機から直接印刷するか、パソコンから印刷ができる場合はパソコンから印刷しなおしてください。
プリントする(P. 263)

原稿読み取りエリアが汚れていませんか？

- 原稿読み取りエリアを清掃してください。
原稿台ガラスを清掃する(P. 553)
フィーダーを清掃する(P. 555)

Q カラーコピーで黒い文字や黒っぽい色の文字が思いどおりにコピーできない

A

カラーコピーの文字色の調整を行いましたか？

- カラーコピーで黒い文字や黒っぽい色の文字が思いどおりにコピーできないときには文字色の調整を行ってください。
カラーコピーの文字色の再現性を調整する(P. 635)

Q

用紙の端が汚れる

A

適切な用紙を使用していますか？

- 使用できる用紙を確認して、適切な用紙に交換してください。また、用紙サイズと種類を正しく設定してください。
  用紙について(P. 768)
  用紙をセットする(P. 137)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

用紙にしわやカールがありませんか？

- しわやカールのない適切な用紙に交換してください。
  用紙をセットする(P. 137)

仕様範囲外の厚い用紙や、インクを吸収するとカールしたり波打ちが起こりやすい用紙を使用していませんか？

- 使用できる用紙を確認して、適切な用紙に交換してください。また、用紙サイズと種類を正しく設定してください。
  用紙について(P. 768)
  用紙をセットする(P. 137)

用紙搬送路が汚れていませんか？

- 用紙搬送路を清掃してください。
  搬送路を清掃する(P. 561)

Q

印刷面が汚れる

A

用紙や印刷品質を確認しましたか？

- 本機の操作パネルまたはプリンタードライバーの設定が、使いたい用紙サイズや種類、印刷品質と合っているか確認してください。
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)
  プリントする(P. 263)
  ドライバー(P. 795)

用紙にしわやカールがありませんか？

- しわやカールのない適切な用紙に交換してください。
  用紙をセットする(P. 137)

用紙がこすれていませんか？

- 用紙とプリントヘッドの間隔を広げてください。
  用紙のこすれを改善する(P. 646)

原稿読み取りエリアが汚れていませんか？

- 原稿読み取りエリアを清掃してください。
  原稿台ガラスを清掃する(P. 553)
  フィーダーを清掃する(P. 555)

本製品内部が汚れていませんか？

- 本体内部を清掃してください。
  本体内部を清掃する(P. 560)

インク乾燥待ち時間は適切ですか？

- インク乾燥待ち時間を長く設定してみてください。
  濃度やインクが乾燥する時間を調整する(P. 650)

乾きにくい用紙を使用していませんか？

- 使用できる用紙を確認して、適切な用紙に交換してください。
  用紙について(P. 768)
  用紙をセットする(P. 137)
- 印刷の濃度を下げて印刷してみてください。
  ＜濃度/乾燥時間の調整＞(P. 469)

Q 原稿に汚れが付く

A

原稿読み取りエリアが汚れていませんか？

- 原稿読み取りエリアを清掃してください。
  原稿台ガラスを清掃する(P. 553)
  フィーダーを清掃する(P. 555)

Q 用紙の裏面が汚れる

A

印刷データのサイズよりも小さい紙をセットしていませんか？

- 印刷データのサイズとセットしている用紙サイズが合っているか確認してください。
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

用紙や印刷品質を確認しましたか？

- 本機の操作パネルまたはプリンタードライバーの設定が、使いたい用紙サイズや種類、印刷品質と合っているか確認してください。
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)
  プリントする(P. 263)
  ドライバー(P. 795)

直前に小さなサイズの用紙を印刷していませんか？

- 小さなサイズの用紙を印刷するときに、インクが搬送路、センサー部に付着することがあります。搬送路、センサー部を清掃してください。
  搬送路を清掃する(P. 561)
  センサー部を清掃する(P. 565)

Q 印刷が終わった用紙の裏面が、次に排紙される用紙のインクで汚れてしまう

A

濃度やインクが乾燥する時間を調整しましたか？

- 印刷が終わった用紙の裏面が、次に排紙される用紙のインクで汚れてしまう場合に、印刷濃度や乾燥時間を調整すると、改善されることがあります。
  濃度やインクが乾燥する時間を調整する(P. 650)

Q 裏写りする

A

背景の濃度は適切ですか？

- 原稿が裏写りしている場合は、背景濃度を調整するときれいに印刷することができます
  コピーの基本操作(P. 199)
  ファクス送信の基本操作(P. 224)
  濃度を調整する(P. 311)

Q

ページの一部が印刷されない

余白なしで、用紙いっぱいのデータを印刷していませんか？

- プリンタードライバーで余白なしに設定すると、この現象が起こることがあります。
  本機で印刷できる範囲は、用紙の周囲 4 mm（封筒の上下は 10 mm）を除いた部分です。
  印刷する文書の周囲に余白を確保してください。
  ［仕上げ］タブ ▶ ［処理オプション］ ▶ ［印字領域を広げて印刷］ ▶ ［しない］
  ドライバー(P. 795)

用紙ガイドを用紙にぴったり合わせていますか？

- ガイドの合わせかたがゆるすぎたり、きつすぎたりすると、文書の一部が欠けて印刷されることがあります。
  用紙をセットする(P. 137)

用紙サイズを確認しましたか？

- 本機の操作パネルまたはプリンタードライバーの設定が、使いたい用紙サイズと合っているか確認してください。

意図した面に印刷されない

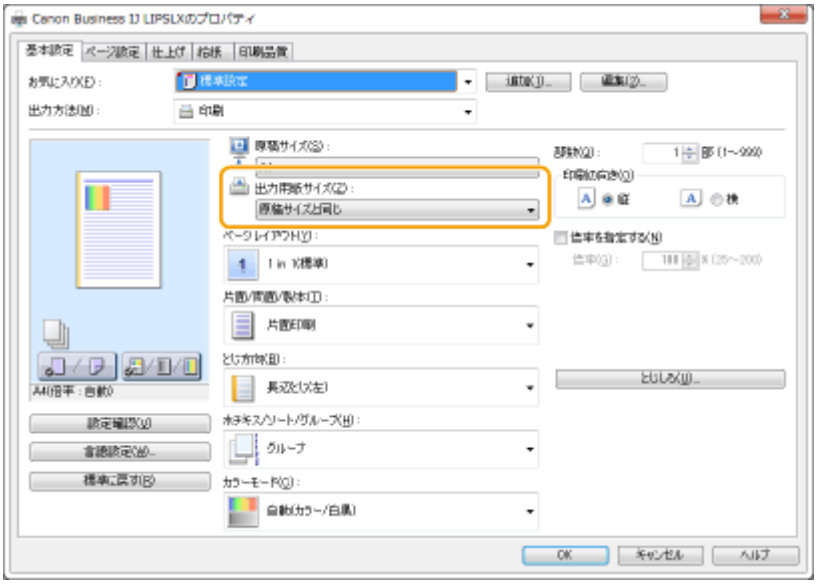
用紙が逆向きにセットされていませんか？

- セットされている用紙の向きや表裏を確認してください。逆になっている場合は、セットしなおしてください。
  用紙をセットする(P. 137)

思った通りのサイズで印刷されない

原稿サイズとセットされている用紙のサイズが違っていませんか？

- セットされている用紙を、印刷したいサイズの用紙と交換してください。
- プリンタードライバーの［出力用紙サイズ］を、印刷する用紙サイズに合わせてください。



ドライバー(P. 795)

Q 両面印刷で裏表の向きが合わない

A

両面印刷の設定は正しいですか？

- 次の手順で印刷設定を確認してください。
  1 アプリケーションの印刷設定画面で、原稿の向きを選ぶ
  2 ドライバーの［基本設定］画面で、手順 1 と同じ向きに［印刷の向き］を設定する
  3 プリントイメージを見ながら、［ページレイアウト］ ▶ ［配置順］ ▶ ［片面/両面/製本］ ▶ ［とじ方向］の順に設定する
  ドライバー(P. 795)

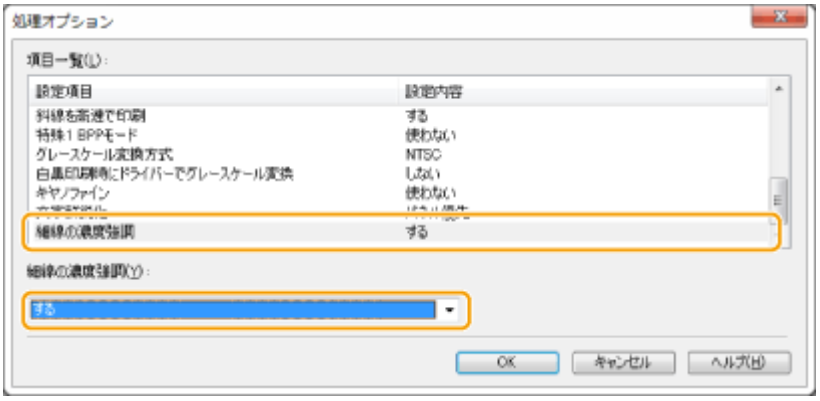
Q 罫線が欠けるまたは印刷されない

A

ページレイアウト：［N in 1］を指定していますか？

［とじしろ］でとじしろの幅を設定していますか？

- 細い罫線が印刷されない場合があります。罫線を太くしてみてください。
- プリンタードライバーから以下設定を変更してみてください。
  ［印刷品質］タブ ▶ ［処理オプション］ ▶ ［細線の濃度強調］ ▶ ［する］を選択
  ［印刷品質］タブ ▶ ［処理オプション］ ▶ ［文字鮮鋭化］ ▶ ［しない］を選択



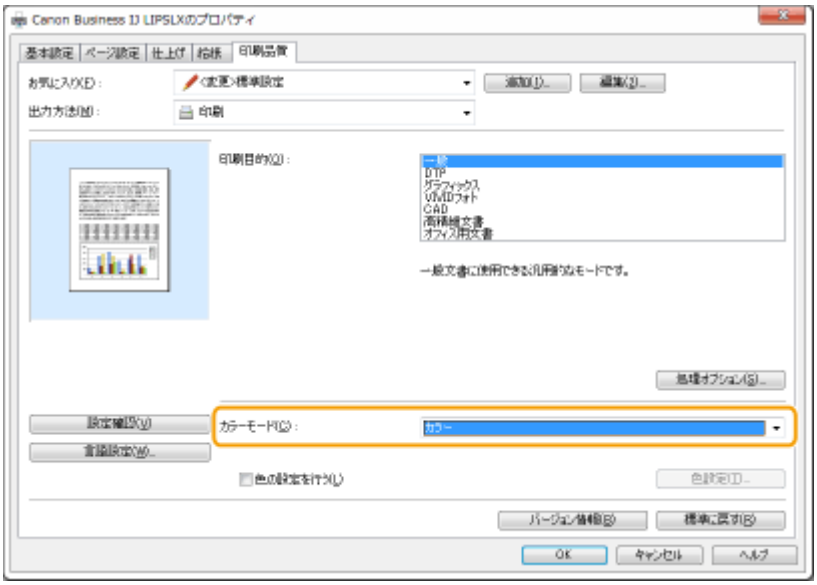
ドライバー(P. 795)

Q モノクロで印刷される

A

Windows 用プリンタードライバーの［カラーモード］が［白黒］に設定されていませんか？

- プリンタードライバーで［カラーモード］を［カラー］に設定してください。



ドライバー(P. 795)

Q かたよって印刷されたり、印刷範囲からはみ出てしまったりする

A

余白の調整は行いましたか？

- かたよって印刷されたり、印刷範囲からはみ出てしまったりする場合、余白の調整を行ってください。

余白を調整する(P. 654)

用紙がしわになったり、カールしたりする

23LX-0AF

しわになる(P. 693)
カールする(P. 693)
インクがにじむ(P. 694)

しわになる

用紙は正しくセットされていますか？

- 用紙を積載制限マークの下に通していなかったり、斜めにセットしたりするとしわになることがあります。
  用紙をセットする(P. 137)

湿った用紙を使用していませんか？

- 適切な用紙に交換してください。
  用紙について(P. 768)
  用紙をセットする(P. 137)

適切な用紙を使用していますか？

- 使用できる用紙を確認して、適切な用紙に交換してください。
  用紙について(P. 768)
  用紙をセットする(P. 137)

カールする

適切な用紙を使用していますか？

- 使用できる用紙を確認して、適切な用紙に交換してください。また、用紙サイズと種類を正しく設定してください。
- 文書を印刷する面（用紙のオモテとウラ）を逆にして、用紙をセットしなおしてください。
  お使いの用紙によっては、まれに症状が悪化することがあります。そのような場合は元の印刷面に戻してください。
  用紙について(P. 768)
  用紙をセットする(P. 137)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

Q インクがにじむ

A

用紙や印刷品質を確認しましたか？

- 印刷の濃度を高く設定している場合は、濃度の設定を下げてもう一度印刷してみてください
  濃度やインクが乾燥する時間を調整する(P. 650)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

写真を印刷するとき、写真専用紙を使用していますか？

- 適切な用紙に交換してください。
  原稿の種類に合わせてコピーする(P. 209)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

湿った用紙を使用していませんか？

- 適切な用紙に交換してください。
  用紙をセットする(P. 137)

用紙が正しく送られない

23LX-0AH

斜めに印刷される(P. 695)
用紙が給紙されない／用紙が重なって送られる(P. 695)
ひんぱんに原稿がつまる（コピー）(P. 695)

斜めに印刷される

用紙ガイドを用紙にぴったり合わせていますか？

- ガイドの合わせかたがゆるすぎたり、きつすぎたりすると、斜めに印刷されます。
  用紙をセットする(P. 137)

用紙が給紙されない／用紙が重なって送られる

用紙を適切にセットしていますか？

- 用紙をよくさばき、紙が貼り付かないようにしてください。
- 用紙が正しくセットされているか確認してください。
  用紙をセットする(P. 137)
- セットした用紙の枚数や、使用している用紙が適切か確認してください。
  用紙について(P. 768)
  用紙をセットする(P. 137)
- 異なるサイズや異なる種類の用紙をいっしょにセットしていないか確認してください。
  用紙をセットする(P. 137)

ひんぱんに原稿がつまる（コピー）

給紙ローラー・フィーダーが汚れていませんか？

- 給紙ローラー・フィーダーを清掃してください。それでも症状が改善されないときは、フィーダーの自動クリーニングを行ってください。
  フィーダーを清掃する(P. 555)

メッセージや#で始まる番号（エラーコード）が表示される

23LX-0AJ

本機のディスプレーにメッセージが表示されたり、「#」で始まる番号（エラーコード）が表示されたりしたときは、次の参照先から対処方法を確認してください。

メッセージごとの対処方法(P. 698)
エラーコードごとの対処方法(P. 717)

メッセージごとの対処方法

23LX-0HK

印刷処理で異常が発生したときや、メモリー容量がいっぱいになったときなど、操作に支障が生じた場合は画面にメッセージが表示されます。メッセージの詳細については以下をご覧ください。

英数字(P. 698)
あ～お(P. 699)
か～こ(P. 701)
さ～そ(P. 703)
た～と(P. 706)
な～の(P. 706)
は～ほ(P. 708)
ま～も(P. 711)
や～よ(P. 715)
ら～ろ(P. 716)

英数字

2 段カセットペディスタルのサイドカバーオープン

2 段カセットペディスタルのサイドカバーが開いている。

- ２段カセットペディスタルのサイドカバーを閉めてください。
  本体前面(P. 101)

AOSS 接続できませんでした。しばらく待ってから再度設定してください。

何らかのエラーが発生し、AOSS での接続が失敗した。

- しばらく待ってから、再度設定を行ってください。それでも接続できない場合は、無線 LAN ルーターが AOSS に対応しているか確認してください。また、他の接続方式（WPS／らくらく無線スタート）に対応している可能性もあります。

AOSS に対応している場合

ネットワークに接続できる状態か、確認してください。
設定のトラブル(P. 673)

AOSS に対応していない場合

他の接続方式で設定してください。
無線 LAN に接続する(P. 19)

PC が制限されています。

部門別 ID 管理で操作パネルからスキャンができないように設定されている。

- リモート UI の管理者モードで、該当する部門 ID の編集画面を表示し、［ID 不定スキャンジョブを許可する］にチェックマークを付けてください。
  部門別 ID 管理を行う(P. 353)

USB メモリーが制限されています。

読み込んだ原稿が USB メモリーに保存できないように設定されている。

- ＜スキャン機能を使用＞を＜ ON ＞に設定してください。
  USB メモリーへの保存を制限する(P. 410)

WEP キーが正しく設定されていません。WEP 設定を確認してください。

接続したい無線 LAN ルーターのネットワークキー（WEP キー）が正しく設定されていない。

- 無線 LAN ルーターのネットワークキー（WEP キー）を確認し、設定しなおしてください。
  SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)
  無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)
  すべて入力して設定する(P. 28)

本機の認証方式が＜共有キー＞で設定されているのに、無線 LAN ルーター側は「オープン（Open System）」で設定されている。

- アクセスポイント選択方式で接続するか、手動入力方式で WEP の認証方式を＜オープンシステム＞に変更して接続しなおしてください。
  無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)
  すべて入力して設定する(P. 28)
- 無線 LAN ルーターで WEP の認証方式を「共有（Shared Key）」に変更したあと、接続しなおしてください。変更方法については、お使いの機器の取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。

WPS 接続できませんでした。しばらく待ってから再度設定してください。

WPS で自動設定を試みたが、何らかのエラーが発生して接続に失敗した。

- しばらく待ってから、再度設定を行ってください。それでも接続できない場合は、無線 LAN ルーターが WPS に対応しているか確認してください。また、他の接続方式（AOSS／らくらく無線スタート）に対応している可能性もあります。

WPS に対応している場合

ネットワークに接続できる状態か、確認してください。
設定のトラブル(P. 673)

WPS に対応していない場合

他の接続方式で設定してください。
無線 LAN に接続する(P. 19)

あ～お

アクセスポイントが見つかりません。

WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定を試みたが、所定の時間内に無線 LAN ルーターを検出できなかった。

- 制限時間に注意して接続しなおしてください。
  WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式）(P. 21)
  WPS PIN コード方式で設定する(P. 23)

接続方式の選択を間違えた。

- 正しい方式を選択して接続しなおしてください。

WPS／AOSS／らくらく無線スタートで自動設定する（プッシュボタン方式）(P. 21)

無線 LAN ルーターの SSID やネットワークキーを手動で入力したが、入力内容に間違いがある。

- SSID やネットワークキーを正しく入力しなおしてください。
  無線 LAN に接続する(P. 19)
  すべて入力して設定する(P. 28)

ネットワーク側の設定に問題があり、無線 LAN ルーターを検出できなかった。

- ネットワークに接続できる状態か、確認してください。
  設定のトラブル(P. 673)
- 解決しない場合は、無線 LAN ルーターのセキュリティー設定を確認してください。

アクセスポイントの接続数が最大に達しているため接続できませんでした。

すでに最大接続数に達した無線 LAN ルーターに接続しようとした。

- 無線 LAN ルーターに接続している機器（クライアント）の数を減らしてください。最大接続数については、お使いの無線 LAN ルーターの取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。

インク残量不明
インク残量が不明です

インクの残量を正しく検知できない。

- ＜キャンセル＞を選択してインクタンクを交換するか、＜使用する＞を選択してインク残量検知機能を無効化してください（履歴に残します）。インク切れの状態で印刷を続けたことが原因の故障、またはインクの補充が原因の故障については、責任を負えない場合があります。
  インクタンクを交換する(P. 570)

インクタンク交換
インクタンクが認識できません。インクタンクを交換してください。

インクタンクが認識できない。

- 正しいインクタンクに交換してください。
  インクタンクを交換する(P. 570)

インクタンク交換
下記のインクがなくなりました。新しいインクタンクに交換してください。

インクがなくなった。

- 新しいインクタンクに交換してください。
  インクタンクを交換する(P. 570)

インクタンク制御エラー
インクタンクが認識できません。インクタンクを交換してください。

インクタンクが認識できない。

- インクタンクを交換してください。
  インクタンクを交換する(P. 570)

インクタンク装着位置エラー

インクタンクが認識できません。インクタンクを交換してください。

インクタンクが認識できない。

- インクタンクを正しく装着してください。
  インクタンクを交換する(P. 570)

インクタンク認識エラー
インクタンクが認識できません。インクタンクを交換してください。

インクタンクが認識できない。

- 正しいインクタンクに交換してください。
  インクタンクを交換する(P. 570)

インクタンク未装着
インクタンクが装着されていません。インクタンクを装着してください。

インクタンクが装着されていない。

- インクタンクを装着してください。
  インクタンクを交換する(P. 570)

オープンシステム認証ができませんでした。WEP 設定を確認してください。

本機の認証方式は＜オープンシステム＞に設定されているが、無線 LAN ルーターの認証方式が「共有（Shared Key）」に設定されている。

- 手動入力方式で WEP の認証方式を＜共有キー＞に変更して接続しなおしてください。
  すべて入力して設定する(P. 28)

無線 LAN ルーターで MAC アドレスフィルターが設定されているため、本機の MAC アドレスが拒否されている。

- 無線 LAN ルーターの MAC アドレス設定を変更し、本機とパソコンの両方について許可する設定にしてください。設定方法については、お使いの無線 LAN ルーターの取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。本機の MAC アドレスは、＜メニュー＞ ▶ ＜環境設定＞ ▶ ＜ネットワーク設定＞ ▶ ＜無線 LAN 設定＞ ▶ ＜接続情報＞で確認できます。
  有線 LAN の MAC アドレスを確認する(P. 39)

オンフック中はグループ宛先を指定できません。

＜オンフック＞を選んだあとに宛先としてグループダイヤルを指定した。

- ＜オンフック＞を選ぶとグループダイヤルの宛先は指定できません。＜オンフック＞を選ばずに宛先を指定してファクス送信してください。

か～こ

カセットのサイドカバーオープン

標準カセットのサイドカバーが開いている。

- 標準カセットのサイドカバーを閉めてください。
  本体前面(P. 101)

カラーコピーが制限されています。白黒コピーのみできます。

部門別 ID 管理でカラーコピーができないように設定されている。

- カラーコピーをしたい場合は、カラーコピーが制限されていない部門 ID でログインしてください。部門 ID と暗証番号については、管理者にお問い合わせください。
  部門別 ID 管理を行う(P. 353)

カラープリントが制限されています。白黒プリントのみできます。

部門別 ID 管理でカラー印刷ができないように設定されている。

- カラーで印刷したい場合は、カラープリントが制限されていない部門 ID でログインしてください。部門 ID と暗証番号については、管理者にお問い合わせください。
  部門別 ID 管理を行う(P. 353)

給紙ｻｲｽﾞと設定ｻｲｽﾞが不一致

操作パネルで設定した用紙サイズ設定と、実際にセットしている用紙サイズが合っていない。

- ＜用紙設定＞に設定されている用紙サイズと、実際にセットされている用紙サイズを合わせてください。

すでにセットされている用紙を使う場合

＜用紙設定＞の設定内容を、セットされている用紙のサイズに合わせて変更してください。
用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

MEMO

- パソコンから印刷するときは、プリンタードライバーの用紙サイズが実際の用紙のサイズと合っているかどうかも確認してください。

設定を変えずに用紙をセットしなおす場合

＜用紙設定＞で設定されているサイズの用紙をセットしてください。
用紙をセットする(P. 137)

- 給紙カセットの用紙ガイドが、正しい位置にセットされているか確認してください。
  用紙をセットする(P. 137)

共有キー認証ができませんでした。WEP 設定を確認してください。

接続したい無線 LAN ルーターのネットワークキー（WEP キー）が正しく設定されていない。

- 無線 LAN ルーターのネットワークキー（WEP キー）を確認し、設定しなおしてください。
  SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)
  すべて入力して設定する(P. 28)
- アクセスポイント選択方式で接続するか、手動入力方式で WEP の認証方式を＜オープンシステム＞に変更して接続しなおしてください。
  無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)
  すべて入力して設定する(P. 28)

本機の認証方式は＜共有キー＞に設定されているが、無線 LAN ルーターの認証方式が「オープン（Open System）」に設定されている。

- 無線 LAN ルーターで WEP の認証方式を「共有（Shared Key）」に変更したあと、接続しなおしてください。変更方法については、お使いの機器の取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。

グループに登録されている宛先は宛先の種類を変更できません。

選んだ宛先がグループダイヤルに登録されているため、編集できなかった。

- グループダイヤルに登録されている宛先の種類を変更するには、一度グループダイヤルから宛先を削除し、種類を変更してからグループダイヤルに登録をやりなおしてください。

この設定は使用できません。指定された設定の宛先が送信制限されています。

選択した＜よく使う設定＞に登録されている宛先が、ログインしたユーザーには送信できないように設定されている。

- ログインするユーザーの、送信制限の設定を変更してください。
部門別 ID 管理を行う(P. 353)

コピーが制限されています。

部門別 ID 管理でコピーができないように設定されている。

- コピーが制限されていない部門 ID でログインしてください。部門 ID と暗証番号については、管理者にお問い合わせください。
部門別 ID 管理を行う(P. 353)

さ～そ

受信データのプリントエラー
カートリッジ寿命、用紙なし、カバーオープンなどの原因により受信したデータをプリントできません。
エラー状態を確認してください。

何らかの原因で受信文書が印刷できない。

- 次のいずれかに該当しないか確認してください。また、原因や対処が表示されている場合は、その内容を確認してください。
  - カバーが開いている
  - 用紙がセットされていない
  - 用紙や原稿がつまっている
  - インクタンクやメンテナンスカートリッジが交換時期に達している
  - 何らかの異常が発生している

受信データをプリントできません。

何らかの原因で受信文書が印刷できない。

- 次のいずれかに該当しないか確認してください。また、原因や対処が表示されている場合は、その内容を確認してください。
  - カバーが開いている

- 用紙がセットされていない
- 用紙や原稿がつまっている
- 何らかの異常が発生している

使用できない用紙サイズ/種類の組み合わせです。

手差しトレイの用紙設定がセットされた用紙と異なっている。

- 用紙設定は＜用紙設定＞から、給紙情報を確認してください。異なっている場合はセットされた用紙のサイズや種類と用紙設定を合わせてください。用紙設定は＜用紙設定＞から、手差しトレイにセットした用紙を設定できます。
  手差しトレイの用紙サイズと種類を設定する(P. 161)

使用できない用紙サイズ / 種類の組み合わせを検知しました。
カセット : XXXX
カセットのガイド位置とホーム画面の[用紙設定] を確認してください。

XXXX はカセットの給紙段（1〜4）が表示されます。

用紙カセットの用紙設定がセットされた用紙と異なっている。

- 用紙設定は＜用紙設定＞から、給紙情報を確認してください。異なっている場合はセットされた用紙のサイズや種類と用紙設定を合わせてください。用紙設定は＜用紙設定＞から、給紙カセットにセットした用紙を設定できます。
  給紙カセットの用紙サイズと種類を設定する(P. 158)

証明書の検証時にエラーが発生しました。

証明書の有効期限が切れているか、情報が正しくない。

- 正しい CA 証明書をインストールしてください。
  ネットワーク通信用の鍵と証明書を登録する(P. 387)
- 証明書の有効期限や DNS 設定のドメイン名などを確認してください。

白黒コピーが制限されています。カラーコピーのみできます。

部門別 ID 管理で白黒コピーができないように設定されている。

- 白黒コピーをしたい場合は、白黒コピーが制限されていない部門 ID でログインしてください。部門 ID と暗証番号については、管理者にお問い合わせください。
  部門別 ID 管理を行う(P. 353)

白黒プリントが制限されています。カラープリントのみできます。

部門別 ID 管理で白黒印刷ができないように設定されている。

- 白黒で印刷したい場合は、白黒プリントが制限されていない部門 ID でログインしてください。部門 ID と暗証番号については、管理者にお問い合わせください。
  部門別 ID 管理を行う(P. 353)

新規宛先の指定と登録が制限されています。

送信時の宛先指定がアドレス帳に限定されている。

- アドレス帳以外の方法で宛先指定するには＜新規宛先の制限＞を＜ OFF ＞にする必要があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。
  新規宛先の入力を制限する(P. 405)

診断できませんでした。

プリントヘッド診断中に問題が発生した。

- インク残量を確認し、なくなっていたら交換してください。
  インクタンクを交換する(P. 570)
- メンテナンスカートリッジの使用量を確認し、満杯になっていたら交換してください。
  メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)
- プリントヘッド診断で使用できる用紙がセットされているか確認してください。用紙がセットされていない場合は用紙をセットして、用紙サイズと種類を設定してください。
  （使用できる用紙サイズ：A3・11x17・LTR・A4 のいずれか、種類：普通紙（再生紙も使用可）、枚数：5 枚以上）
  用紙をセットする(P. 137)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)
- プリントヘッド診断中に印刷された調整用画像を正しく原稿台ガラスにセットしているか確認してください。
  プリントヘッドを診断する (P. 626)

スキャンが制限されています。

プリントヘッド診断中に問題が発生した。

- スキャンが制限されていない部門 ID でログインしてください。部門 ID と暗証番号については、管理者にお問い合わせください。
  部門別 ID 管理を行う(P. 353)

スライドガイドエラー

登録されているサイズと用紙ガイドの位置が一致していない。

- 用紙ガイドを調整するか、＜用紙設定＞で設定されているサイズの用紙をセットしてください。
  手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)

接続できませんでした。

何らかのエラーが発生し、アクセスポイントモードでの接続が失敗した。

- しばらく待ってから、再度設定を行ってください。それでも接続できない場合は、いったん電源を切って再起動してください。
  ダイレクト接続する（アクセスポイントモード）(P. 340)

接続できませんでした。PSK 設定を確認してください。

接続したい無線 LAN ルーターのネットワークキー（PSK）が正しく設定されていない。

- 無線 LAN ルーターのネットワークキー（PSK）を確認し、設定しなおしてください。
  SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)
  無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)
  すべて入力して設定する(P. 28)
- ネットワークキーを確認しても解決しない場合は、ネットワークに接続できる状態か、確認してください。
  設定のトラブル(P. 673)

センサーの感度が低下しています。
センサー感度エラー

用紙を検知するためのセンサーが汚れている可能性がある。

- センサーの清掃をお勧めします。
  センサー部を清掃する(P. 565)

た～と

ダイレクト接続が切断されました。

モバイル機器との接続が切断された。

- ダイレクト接続しなおしてください。
  ダイレクト接続する（アクセスポイントモード）(P. 340)

正しい認証情報を設定してください。

クライアント認証情報（鍵と証明書、ユーザー名とパスワード、および CA 証明書）が正しく設定されていない。

- 設定した認証方式および認証情報（鍵と証明書、ユーザー名とパスワード、および CA 証明書）を確認してください。
  IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

調整用パターンが読み取れませんでした。
調整用パターンを確認してから、もう一度スキャンしてください。

調整用パターンがが正しく読み取れなかった。

- 調整用パターンの置き方を確認してからもう一度スキャンしてください。
  プリントヘッドを診断する (P. 626)
  色ムラを補正する(P. 637)

通信先から応答がありませんでした。

ネットワークケーブルが抜けているか、スイッチで問題が発生している可能性がある。

- ネットワークケーブルおよびスイッチの状況を確認してください。

な～の

入力文字数が間違っているか不正な文字が入力されています。

無線 LAN ルーターのネットワークキー（WPA/WPA2-PSK または WEP キー）が正しく入力されていない。

- 無線 LAN ルーターのネットワークキー（WPA/WPA2-PSK または WEP キー）を確認し、設定しなおしてください。ネットワークキーの確認方法については、お使いの機器の取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。
  SSID やネットワークキーを確認する(P. 31)
  無線 LAN ルーターを選んで設定する(P. 25)
  すべて入力して設定する(P. 28)

認証サーバーの証明書が解析できません。

認証サーバーの証明書が不正またはプリンターがサポートしていない証明書フォーマットの可能性がある。

- 認証サーバーの証明書を確認してください。
  IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

認証サーバーの証明書が信頼できません。

認証サーバーの証明書に対応する CA 証明書がプリンターに登録されていない。

- 認証サーバーの証明書に対応する CA 証明書がプリンターに登録されているか確認してください。
  IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

認証サーバーの証明書は期限切れです。

RADIUS サーバーから送信されたサーバー証明書の有効期限が切れている。

- RADIUS サーバーのサーバー証明書の有効期限を確認してください。
  IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

認証に必要な情報を設定してください。

IEEE 802.1X の認証設定が正しく行われていない。

- リモート UI から IEEE 802.1X の設定を正しく行ってください。
  IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

認証に必要な情報をリモート UI から設定してください。

［IEEE 802.1X 設定］の設定内容に不備がある。

- ［ログイン名］が正しく設定されているか確認してください。
- ［TLS を使用する］、［TTLS を使用する］、［PEAP を使用する］の中の少なくとも 1 つにチェックマークが付いているか確認してください。
- TLS を使用する場合、「鍵と証明書」が登録されているか確認してください。
- TTLS または PEAP を使用する場合、ユーザー名とパスワードが正しく設定されているか確認してください。
  IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

認証パスワードを変更してください。

パスワードの有効期限が切れている。

- 新しいパスワードを設定してください。

認証方式の設定を確認してください。

本機で設定した認証方式と RADIUS サーバーで設定した認証方式が一致していない。

- 本機と RADIUS サーバーで設定されている認証方式が一致しているかを確認して、正しい認証方式を設定してください。
  IEEE 802.1X 認証の設定をする(P. 396)

ノズルがつまっています。

プリントヘッドに問題が発生した。

- 本体の電源 OFF / ON してください。本体の電源 OFF / ON で復帰しない場合は、販売店またはお客様相談センターに連絡してください。
- プリントヘッドが手元にある場合は、プリントヘッドを交換してください。
プリントヘッドを交換する(P. 578)

は～ほ

排紙トレイ上の異物を取り除いてください。

排紙トレイが動作できない。

- 排紙トレイ上の異物を取り除いてください。
本体前面(P. 101)

排紙トレイフル
排紙トレイの紙を取り除いてください。

排紙トレイの紙がいっぱいになった。

- 排紙トレイの紙を取り除いてください。
本体前面(P. 101)

搬送ガイドボックスオープン

搬送ガイドボックスが開いている。

- 搬送ガイドボックスを閉めてください。
本体内部(P. 106)

搬送ユニットカバーオープン

搬送ユニットカバー 1、2 が開いている。

- 搬送ユニットカバー 1、2 を閉めてください。
本体内部(P. 106)

ファクスが制限されています。

部門別 ID 管理でファクスができないように設定されている。

- ファクスが制限されていない部門 ID でログインしてください。部門 ID と暗証番号については、管理者にお問い合わせください。
部門別 ID 管理を行う(P. 353)

ファクスを受信できません。相手から正しくファクスが送信されているか確認してください。

35 秒以内に操作をしなかったためタイムアウトになった。

- 相手先に連絡してもう一度ファクスを送信してもらい、「ピー」という音を確認したらすぐに＜受信ｽﾀｰﾄ＞を選びます。

ファクスを受信する(P. 233)

フィーダーカバーオープン
フィーダーカバーを閉じます。

フィーダーカバーが開いている。

- フィーダーカバーを閉じてください。
  フィーダー(P. 107)

複数の宛先、またはグループ宛先は指定できません。

＜オンフック＞を選んだあとに複数の宛先またはグループダイヤルを指定した。

- ＜オンフック＞を選ぶと複数の宛先やグループダイヤルの宛先は指定できません。＜オンフック＞を選ばずに宛先を指定してファクス送信してください。

複数の宛先が指定されているため送信できません。

複数の宛先にファクス送信できないように設定されている。

- 複数の宛先を指定するには、＜同報送信の制限＞を＜ OFF ＞に設定する必要があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。
  同報送信を制限する(P. 407)

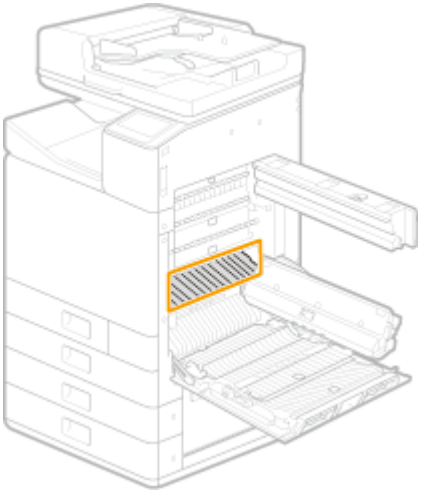
プラテンの清掃
プラテンを清掃してください。

プラテン部分に紙粉やインク汚れが発生している可能性がある。

- 画面の指示に従って、プラテンの清掃を行ってください。清掃方法については、以下を参照してください。

プラテンを清掃する

- 水を含ませてかたく絞った布で拭き、そのあと乾いた柔らかい布で拭きます。
- プラテンには紙粉がたまりやすいため、プラテンは奥から手前に向けて拭き、紙粉が本体内部に入らないようにしてください。
- リブの線に沿って 2〜3 回拭いて、白い紙粉やインク汚れを落としてください。



ご注意

- 拍車がある箇所は拭かないでください。
- 拍車には触らないでください。
- プラテンの奥にあるローラーは傷つけないように注意してください。

プリントが制限されています。

部門別 ID 管理で印刷ができないように設定されている。

- 印刷が制限されていない部門 ID でログインしてください。部門 ID と暗証番号については、管理者にお問い合わせください。
部門別 ID 管理を行う(P. 353)

ﾌﾟﾘﾝﾄﾍｯﾄﾞ異常が発生した可能性があります。

プリントヘッドに問題が発生した。

- 本体の電源 OFF / ON してください。本体の電源 OFF / ON で復帰しない場合は、販売店またはお客様相談センターに連絡してください。
- プリントヘッドが手元にある場合は、プリントヘッドを交換してください。
プリントヘッドを交換する(P. 578)

プリントヘッド交換
プリントヘッドを交換してください。

プリントヘッドに問題が発生した。

- 本体の電源 OFF / ON してください。本体の電源 OFF / ON で復帰しない場合は、販売店またはお客様相談センターに連絡してください。
- プリントヘッドが手元にある場合は、プリントヘッドを交換してください。
プリントヘッドを交換する(P. 578)

プリントヘッド収納部カバーオープンエラー
プリントヘッド収納部カバーを閉じます。前カバーを閉じます。

プリントヘッド収納部カバーが開いてる。

- プリントヘッド収納部カバーを閉じてください。
本体内部(P. 106)

プリントヘッド接続エラー
プリントヘッドと通信できません。接続を確認してください。

プリントヘッド接続エラーが発生したため、プリントヘッドと通信できない。

- プリントヘッドの接続を確認してください。
プリントヘッドを交換する(P. 578)

ホストから応答がありませんでした。

本機がネットワークに正しく接続されていない。

- 本機とネットワークの設定を再度確認し、接続しなおしてください。
ネットワーク環境を設定する(P. 15)

本機以外に装着したｶｰﾄﾘｯｼﾞ検知
本機以外のプリンターに装着したことがあるメンテナンスカートリッジは装着できません。
正しいメンテナンスカートリッジを装着してください。

本機以外の機種に装着された履歴のあるメンテナンスカートリッジが装着された。

- 本機以外のプリンターに装着したことがあるメンテナンスカートリッジは装着できません。正しいメンテナンスカートリッジを装着してください。
  メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)

本体紙づまり
用紙がつまりました。

用紙がつまった。

- 原稿給紙トレイ上の原稿を取り除き、フィーダーカバー内、排紙トレイに原稿がつまっているか確認してください。
  フィーダーに原稿がつまった(P. 728)

本体紙づまり
紙搬送部で用紙がつまりました。
[次へ] を選択し、画面の指示に従って用紙を取り除いてください。

紙搬送部で用紙がつまった。

- 画面の指示に従って用紙を取り除いてください。
  紙がつまったら(P. 726)

本体メモリー寿命近
本体メモリーが寿命に近づいています。

本体メモリーが寿命に近づいている。

- アドレス帳のデータや本機の各種設定値を書き出して（エクスポート）、パソコンに保存できます。大切な設定データのバックアップをすることをおすすめします。
  設定データをインポート／エクスポートする(P. 432)
- 寿命に達すると印刷できなくなります。販売店またはお客様相談センターへの早めのご連絡をお勧めします。
  トラブルが解決しないときは(P. 740)

ま～も

前カバーオープン
カバーを閉じます。

前カバーが開いている。

- カバーを閉じてください。
  本体前面(P. 101)

前カバーロックエラー

前カバーはロックされているため、開けることはできません。

前カバーロックエラーになった。

- 前カバーは通常ロックされています。無理に開けないでください。
  本体前面(P. 101)

マルチプレクサダイオード切り替えエラー

プリントヘッドに問題が発生した。

- 本体の電源 OFF / ON してください。本体の電源 OFF / ON で復帰しない場合は、販売店またはお客様相談センターに連絡してください。
- プリントヘッドが手元にある場合は、プリントヘッドを交換してください。
  プリントヘッドを交換する(P. 578)

＜見開き -> 2 ページ＞を設定時はフィーダーから原稿をスキャンできません。

フィーダーに原稿をセットしても読み込めない機能を使用している。

- フィーダーの原稿を原稿台ガラスにセットしなおしてください。

無線 LAN 通信できませんでした。主電源を OFF/ON した後、再度設定してください。

無線 LAN 接続の設定中に何らかのエラーが発生した。

- いったん電源を切って再起動し、設定しなおしてください。
- 再起動しても解決しない場合は、ネットワークに接続できる状態か、確認してください。
  設定のトラブル(P. 673)
- 無線 LAN の接続を確認しても解決しない場合は、無線 LAN ルーターのセキュリティー設定を確認してください。

無線機器からの接続を検知できませんでした。

所定の時間内にモバイル機器を検出できなかった。

- 制限時間に注意して接続しなおしてください。
  ダイレクト接続する（アクセスポイントモード）(P. 340)

メディアプリントが制限されています。

USB メモリーのファイルが印刷できないように設定されている。

- ＜メモリーメディア設定＞の＜プリント機能を使用＞を＜ ON ＞に設定してください。
  USB メモリーからの印刷を制限する(P. 410)

メモリーがいっぱいです。

メモリー容量が不足していたため、ファクスの送信やスキャンができなかった。

- 送信待ち、または印刷待ちの文書がある場合は、処理が終了するまでお待ちください。
- メモリーに保存されている受信文書が残っている場合は、印刷または削除してください。
  受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信）(P. 244)
- ページ数の多い原稿を送信する場合は、原稿を分割して送信してください。

- ファクスを送信する場合は、原稿を読み込むときの解像度を下げてください。
  ファクス送信の基本操作(P. 224)
- スキャンをする場合は、ファイル形式を容量の小さいものに変更してください。
  スキャンの基本操作(P. 290)

USB メモリーに原稿を書き込もうとしたが、容量不足で保存できなかった。

- USB メモリー内の不要なデータを削除して空き容量を確保するか、別の USB メモリーを接続してください。
  USB メモリーを差し込む(P. 103)

メモリーがいっぱいです。原稿の種類を再設定してください。

コピー中にメモリーがいっぱいになったため、原稿が読み込めなかった。

- ＜原稿の種類＞の設定を＜文字 / 写真 / 地図＞にしてコピーしてください。
  原稿の種類に合わせてコピーする(P. 209)

メモリーがいっぱいのため読み込みを中止します。プリントしますか?

メモリー容量が不足して原稿を読み込めなかった。

- 読み込まれたページまで印刷するか、ジョブをキャンセルするか選択してください。
- 原稿を分けてコピーしてください。

ソートしてコピーをするときに、すべてのページを読み込むことができなかった。

- 読み込まれたページまで印刷するか、ジョブをキャンセルするか選択してください。
- コピージョブの場合、原稿を分けてコピーするか、＜原稿の種類＞の設定を＜文字 / 写真 / 地図＞にしてコピーしてください。
  原稿の種類に合わせてコピーする(P. 209)

メモリーフル (エラースキップ) 。

エラーが発生したため印刷できなかったデータでメモリーがいっぱいになった。

- エラーが発生している文書の印刷を中止するか、印刷状況を確認する画面から＜エラースキップ＞を選んで印刷を実行してください。
  印刷を中止する(P. 266)

メモリーフル (セキュアプリント) 。

印刷していないセキュア文書でメモリーがいっぱいになった。

- メモリーに保存されているセキュア文書を印刷してください。
  セキュアプリントをする(P. 273)

ﾒﾝﾃﾅﾝｽｶｰﾄﾘｯｼﾞ EEPROMﾁｪｯｸｻﾑｴﾗｰ

メンテナンスカートリッジが認識できません。メンテナンスカートリッジを交換してください。

メンテナンスカートリッジが認識できない。

- メンテナンスカートリッジを交換してください。
  メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)

メンテナンスカートリッジ満杯

メンテナンスカートリッジが満杯になりました。メンテナンスカートリッジを交換してください。

メンテナンスカートリッジが満杯になった。

- メンテナンスカートリッジを交換してください。
- **メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)**

メンテナンスカートリッジ未装着
メンテナンスカートリッジが装着されていません。メンテナンスカートリッジを装着してください。

メンテナンスカートリッジが装着されていない。

- メンテナンスカートリッジを装着後、エラー解除キーを押してください。
  メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)

メンテナンスカートリッジエラー
メンテナンスカートリッジにエラーが発生しました。メンテナンスカートリッジを交換してください。

メンテナンスカートリッジにエラーが発生した。

- メンテナンスカートリッジを交換してください。
- **メンテナンスカートリッジを交換する(P. 574)**

ﾒﾝﾃﾅﾝｽｶｰﾄﾘｯｼﾞ が満杯に近づいています。

メンテナンスカートリッジ残量が少なくなっている。

- メンテナンスカートリッジを用意してください。
  消耗品(P. 667)

メンテナンスが必要です (101)

メンテナンスが必要になった。

- 印刷は継続できますが印刷品位が低下する場合があります。販売店またはお客様相談センターへの早めのご連絡をお勧めします。(101)
  トラブルが解決しないときは(P. 740)

メンテナンスが必要です (102)

メンテナンスが必要になった。

- 印刷は継続できますが印刷品位が低下する場合があります。販売店またはお客様相談センターへの早めのご連絡をお勧めします。(102)
  トラブルが解決しないときは(P. 740)

や～よ

用紙がつまりました。

紙がつまった。

- つまった用紙や原稿を取り除いて、もう一度印刷してください（印刷は、自動で再開される場合もあります）。
  紙がつまったら(P. 726)

用紙検知センサー汚れ

センサー部が汚れている。

- サイドカバーを開け、用紙が残っている場合は取り除いてください。
  用紙が残っていない場合は用紙検知センサーを清掃してください。
  センサー部を清掃する(P. 565)

用紙なし

給紙カセットまたは手差しトレイに用紙がセットされていない。

- 用紙をセットしてください。
  用紙をセットする(P. 137)

レポートやリストを印刷できる用紙がセットされていない。

- レポートやリストは、A4 またはレターサイズの普通紙／再生紙／色紙に印刷できます。印刷できる用紙をセットし、用紙サイズと種類を設定してください。
  用紙をセットする(P. 137)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

受信文書を印刷できる用紙がセットされていない。

- 受信文書の印刷ができる用紙をセットし、用紙サイズと種類を設定してください。
  用紙をセットする(P. 137)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

MEMO

- A4 またはレター以外のサイズの用紙に印刷した場合、画像が欠けたり、分割して印刷されることがあります。

用紙を補給してください。

給紙カセットまたは手差しトレイに用紙がセットされていない。

- 用紙をセットしてください。
  用紙をセットする(P. 137)

レポートやリストを印刷できる用紙がセットされていない。

- レポートやリストは、A4 またはレターサイズの普通紙／再生紙／色紙に印刷できます。印刷できる用紙をセットし、用紙サイズと種類を設定してください。
  用紙をセットする(P. 137)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)

受信文書を印刷できる用紙がセットされていない。

- 受信文書の印刷ができる用紙をセットし、用紙サイズと種類を設定してください。
  用紙をセットする(P. 137)
  用紙サイズと種類を設定する(P. 157)
  用紙について(P. 768)

MEMO

- A4 またはレター以外のサイズの用紙に印刷した場合、画像が欠けたり、分割して印刷されたりすることがあります。

ら～ろ

らくらく無線スタートでの接続ができませんでした。しばらく待ってから再度設定してください。

何らかのエラーが発生し、らくらく無線スタートでの接続が失敗した。

- しばらく待ってから、再度設定を行ってください。それでも接続できない場合は、無線 LAN ルーターがらくらく無線スタートに対応しているか確認してください。また、他の接続方式（WPS/AOSS）に対応している可能性もあります。

らくらく無線スタートに対応している場合

ネットワークに接続できる状態か、確認してください。
設定のトラブル(P. 673)

らくらく無線スタートに対応していない場合

他の接続方式で設定してください。
無線 LAN に接続する(P. 19)

リモートスキャナーが制限されています。

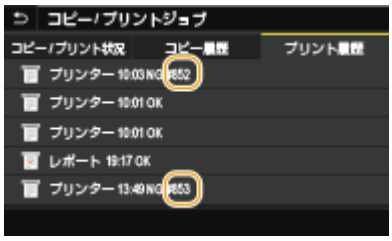
部門別 ID 管理でパソコンからの操作でスキャンができないように設定されている。

- リモート UI の管理者モードで、部門別 ID 管理の編集画面を表示し、［ID 不定スキャンジョブを許可する］にチェックマークを付けてください。
  部門別 ID 管理を行う(P. 353)

エラーコードごとの対処方法

23LX-0AL

印刷できなかったときやファクス／スキャンの送受信に失敗したときなど、何らかのエラーが起こると、そのエラーが 3 桁の数字（エラーコード）として、レポートやジョブ履歴の画面に表示されます。各エラーコードが表示された原因とその解決方法について、以下で確認してください。なお、エラーのレポートを出力する方法や記載情報については、**レポートやリストを印刷する(P. 662)** を参照してください。ジョブ履歴の画面については、**＜状況確認＞画面(P. 123)** を参照してください。



#001～#800

- **#001(P. 717)**
- **#003(P. 717)**
- **#005(P. 718)**
- **#012(P. 718)**
- **#018(P. 718)**
- **#022(P. 718)**
- **#037(P. 718)**
- **#099(P. 719)**
- **#401(P. 719)**
- **#406(P. 719)**
- **#701(P. 719)**
- **#751(P. 719)**
- **#752(P. 720)**
- **#753(P. 720)**
- **#755(P. 720)**
- **#766(P. 720)**

#801～#999

- **#801(P. 721)**
- **#802(P. 721)**
- **#804(P. 721)**
- **#806(P. 721)**
- **#808(P. 722)**
- **#810(P. 722)**
- **#812/813(P. 722)**
- **#818(P. 722)**
- **#819(P. 722)**
- **#820(P. 722)**
- **#822(P. 722)**
- **#827(P. 723)**
- **#829(P. 723)**
- **#839(P. 723)**
- **#841(P. 723)**
- **#844(P. 723)**
- **#846(P. 724)**
- **#852(P. 724)**
- **#853(P. 724)**
- **#861(P. 725)**
- **#862(P. 725)**
- **#863(P. 725)**
- **#995(P. 725)**

#001

フィーダーに原稿がつまっている。

- つまった原稿を取り除いてください。
  フィーダーに原稿がつまった(P. 728)

#003

データ量が大きく、ファクスの送受信ができなかった。

- 送信時： 解像度を下げて読み込んでください。
  ファクス送信の基本操作(P. 224)

- 受信時： 相手先に連絡し、原稿を分割して送信してもらうか、解像度を下げて送信してもらってください。

#005

制限時間内に応答がなかったためファクスが送信できなかった。

- 相手機の電源が入っていない場合や、通話中の場合はファクスを送信できないことがあります。相手に連絡し、対処してもらってください。また、海外送信時にこのエラーコードが表示される場合はポーズを使ってみてください。
  ファクス送信の基本操作(P. 224)

#012

相手機の記録紙がなくなったためファクスが送信できなかった。

- 用紙を補給してもらうよう相手先に連絡してください。

#018

通話中などで相手機から応答がなかったためファクスが送信できなかった。

- 相手機の電源が入っていない場合や、通話中の場合はファクスを送信できないことがあります。相手に連絡し、対処してもらってください。また、海外送信時にこのエラーコードが表示される場合はポーズを使ってみてください。
  ファクス送信の基本操作(P. 224)

#022

パソコンからのファクス送信ができないように設定されている。

- パソコンからファクス送信するには、＜ﾌｧｸｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰから送信許可＞を＜ ON ＞に設定する必要があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。
  パソコンからのファクス送信を制限する(P. 407)

指定した宛先がアドレス帳から削除されたためファクスを転送できなかった。

- 転送先をアドレス帳に登録しなおしてください。エラー終了した転送文書がメモリーに残っている場合は、再送信することができます。
  宛先を登録する(P. 186)
  転送に失敗した文書を印刷／再送信／削除する(P. 246)

#037

メモリー容量がいっぱいになっているためファクス送信できなかった。

- 待機中の文書がある場合は、処理が終了するまでお待ちください。
- メモリーに保存されている受信文書が残っている場合は、印刷または削除してください。
  受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信）(P. 244)
- ページ数の多い原稿を送信する場合は、原稿を分割して送信してください。
- ファクスを送信する場合は、原稿を読み込むときの解像度を下げてください。
  ファクス送信の基本操作(P. 224)

ファイルサイズが大きく、印刷できなかった。

- ファイルを最適化して容量を減らすか、ページを分割してから再度印刷してください。
- プリンタードライバーから印刷しなおすと正しく印刷できる場合があります。

#099

ジョブを中止する操作をした。

- ジョブを中止した場合はこのエラーコードが表示されますが、異常ではありません。必要に応じてもう一度操作してください。

#401

USB メモリーに原稿を書き込もうとしたが、容量不足で保存できなかった。

- USB メモリー内の不要なデータを削除して空き容量を確保するか、別の USB メモリーを接続してください。
  USB メモリーを差し込む(P. 103)

#406

USB メモリーに原稿を書き込もうとしたが、エラーのため保存できなかった。

- USB メモリーをいったん取り外し、もう一度接続してください。
  USB メモリーを差し込む(P. 103)
- 読み取り原稿の枚数を減らしてください。

#701

部門別 ID 管理を実施しているとき、部門 ID や暗証番号が正しく入力されなかったため認証に失敗した。

- 正しい部門 ID と暗証番号を入力してください。

ID 不定ジョブが無効に設定されているにもかかわらず、部門 ID を入力せずに操作を続けようとした。

- リモート UI の管理者モードで「部門 ID を入力しなくても操作ができる機能」（ID 不定ジョブ）を有効にしてから、操作しなおしてください。
  部門 ID が不明な操作を遮断する(P. 357)

#751

FTP サーバーが立ち上がっていない、またはネットワークが切れている。（送信先に接続できないときと、途中で断線したときがあります。）

- 送信先を確認してください。
- ネットワークの状態を確認してください。
  ネットワークの設定を確認する(P. 39)

IP アドレスが正しく設定されていない。

- ＜ TCP / IP 設定＞を確認してください。

IP アドレスを設定する(P. 32)

#752

SMTP/POP3 サーバー名の設定が間違っているため、E メール送信や I ファクス送受信ができなかった。

- SMTP/POP3 サーバー名を確認し、正しい設定に変更してください。
  E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)

ドメイン名の設定が間違っているため、E メール送信や I ファクス送受信ができなかった。

- ドメイン名を確認し、正しい設定に変更してください。
  DNS の設定をする(P. 57)

本機がネットワークに正しく接続されていないため、E メール送信や I ファクス送受信ができなかった。

- ネットワークに接続できる状態か、確認してください。
  設定のトラブル(P. 673)

#753

ネットワークケーブルが抜けているため、E メール送信や I ファクス送受信、または共有フォルダー／FTP サーバーへの保存ができなかった。

- ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。

#755

TCP/IP が正しく機能していないため、E メール／I ファクス送信や共有フォルダー／FTP サーバーへの保存ができなかった。

- ＜ TCP / IP 設定＞の設定を確認し、正しく設定してください。
  ＜ネットワーク＞(P. 450)

IP アドレスが設定されていない。

- IP アドレスを正しく設定してください。
  IP アドレスを設定する(P. 32)

通信開始までの待機時間を設定しているため、起動後すぐに通信できない。

- 電源を入れてもすぐには通信できません。＜起動時の接続待機時間＞で設定した時間が経過するまで待ってから送信しなおしてください。
  ネットワーク接続時の待機時間を設定する(P. 56)

#766

証明書の有効期限が切れている。

- 証明書を更新してください。または、有効期限が切れていない証明書を使用してください。
- ＜現在日時の設定＞を正しく設定してください。
  日付／時刻を設定する(P. 13)

#801

E メール／I ファクス送信時、SMTP サーバーとの間でタイムアウトエラーが発生した。

- SMTP がネットワークで正常に動作しているか確認してください。
- ネットワークに接続できる状態か、確認してください。
  設定のトラブル(P. 673)

SMTP サーバーからエラーが返ってきた。

- SMTP サーバーが正しく設定されているか確認してください。

宛先が正しく設定されていない。

- 宛先の設定を確認してください。

スキャンした文書を共有フォルダーへ送信しようとしたが、フォルダーエラーで送信できなかった。

- 共有フォルダーと、共有フォルダーのあるパソコンのいずれも正常に動作しているか確認してください。

共有フォルダーへの保存時に指定されたフォルダー名あるいはパスワードが間違っている。

- 宛先の設定を確認してください。

#802

SMTP/POP3/FTP サーバー名の設定を間違えている。

- SMTP/POP3/FTP サーバー名を正しく設定してください。
  E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)
  リモート UI から宛先を登録する(P. 428)

#804

共有フォルダー／FTP サーバーへのアクセス権がない。

- 送信ユーザー（宛先に登録したユーザー名）に対して、保存先フォルダーへの書き込み権限を与えてください。詳細については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

共有フォルダー／FTP サーバーへの保存時に指定されたフォルダー名が間違っている。

- 宛先の設定を確認してください。

#806

共有フォルダー／FTP サーバーへの保存時に指定するユーザー名またはパスワードが間違っていた。

- 共有フォルダーや FTP サーバーに登録されているユーザー名とパスワードと同じものをアドレス帳の宛先に登録してください。
  共有フォルダーへの保存設定の流れ(P. 93)
  リモート UI から宛先を登録する(P. 428)

E メール／I ファクス送信で指定したメールアドレスが間違っている。

- 正しいメールアドレスを指定して送信しなおしてください。アドレス帳の宛先を使った場合は、メールアドレスが正しいかどうか確認してください。
宛先を登録する(P. 186)

#808

FTP サーバーにおいて、エラーやタイムアウトが発生した。

- FTP サーバーの設定を確認してください。
リモート UI から宛先を登録する(P. 428)

#810

E メール送信時や I ファクス送受信時、POP3 サーバーからエラーが返ってきた。

- POP3 サーバーのアドレスが正しく設定されているか確認してください。
- お使いのメールサーバーやネットワークが正常に動作しているか確認してください。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

#812/813

POP3 サーバーで使用するログイン名またはパスワードの設定を間違えている。

- POP3 サーバーで使用するログイン名またはパスワードを正しく入力してください。

#818

受信したデータが印刷できないファイル形式だった。

- 相手先に連絡し、ファイル形式を変更して送信してもらってください。

#819

扱えないデータを受信した（MIME 情報が不正です）。

- 相手先に連絡し、設定を確認して、送信しなおしてもらいます。

#820

扱えないデータを受信した（BASE64 または uuencode が不正です）。

- 相手先に連絡し、設定を確認して、送信しなおしてもらいます。

#822

USB メモリーのファイルを印刷しようとしたが、未対応の形式であったため印刷できなかった。

- 対応しているファイル形式を確認して保存しなおしてください。
USB メモリーを差し込む(P. 103)

#827

扱えないデータを受信した（サポート外の MIME 情報があります）。

- 相手先に連絡し、設定を確認して、送信しなおしてもらいます。

#829

最大受信可能サイズを超えるデータを受信した。

- ファクス受信では、1,000 ページ目以降のデータを削除して、999 ページ目までを印刷またはメモリー受信します。1,000 ページ目以降のページは送信しなおしてもらってください。
- I ファクス受信では、E メールのサイズが 24 MB を超える場合は受信できません。E メールのサイズを 24 MB 以下にして送信しなおしてもらってください。

#839

SMTP 認証で使用するユーザー名とパスワードの設定を間違えている。

- ユーザー名とパスワードを正しく設定してください。
  E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)

#841

E メール／I ファクス送信で、メールサーバーと共通の暗号アルゴリズムが存在しない。

- ［SMTP で TLS を使用する］／［POP で TLS を使用する］のチェックマークを外してください。
  E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)
- メールサーバーの設定に、共通の暗号アルゴリズムを追加してください。

SMTP サーバーとの通信時に TLS サーバー証明書の検証エラーが発生した。

- リモート UI を使用して、SMTP サーバー側の TLS サーバー証明書を署名した CA 証明書が本機に登録されていることを確認してください。
- SMTP サーバー側の TLS サーバー証明書が正しいものであることを確認してください。
- TLS サーバー証明書が自己証明書ではないことを確認してください。

#844

POP before SMTP 送信時に、POP3 サーバーとの TLS 暗号化通信に失敗した。

- POP3 サーバーの TLS 暗号化通信設定を確認してください。
- ［POP で TLS を使用する］のチェックマークを外してください。解決しないときは、［送信前の POP 認証する］のチェックマークを外し、通信設定を POP before SMTP 以外の設定に切り替えてください。
  E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)

POP3 サーバーとの通信時に TLS サーバー証明書の検証エラーが発生した。

- リモート UI を使用して、POP3 サーバー側の TLS サーバー証明書を署名した CA 証明書が本機に登録されていることを確認してください。

- POP3 サーバー側の TLS サーバー証明書が正しいものであることを確認してください。
- TLS サーバー証明書が自己証明書ではないことを確認してください。

#846

POP 認証に失敗したため E メールや I ファクスが送信できなかった。

- 設定を確認して、操作をやりなおしてください。
E メール／I ファクスの通信設定をする(P. 89)

#852

使用中に何らかの原因で電源が切れた。

- 電源プラグがしっかりとコンセントに差し込まれているかどうか確認してください。

#853

処理できるデータ量を超えたため印刷できなかった。

- 大量ページの文書を印刷しようとしたときなどに発生します。一度に印刷するページを減らすか、印刷待機中や印刷中の文書がないときに印刷してください。それでも印刷できない場合は、文書データに不具合がないか確認してください。

パソコン側から印刷を中止した。

- 印刷データがパソコンから本機に送信されているときに操作を中止すると、このエラーコードが表示されますが、異常ではありません。必要に応じてもう一度印刷してください。

印刷せずに放置していたセキュア文書が削除された。

- セキュア文書は、一定時間内（お買い上げ時の設定では 30 分）に印刷しないとメモリーから削除されます。もう一度セキュア文書を送信し、時間内に印刷してください。
セキュアプリントをする(P. 273)

セキュアプリント禁止時に、セキュアプリントしようとした。

- ＜セキュアプリント＞が＜ OFF ＞に設定されているときはセキュアプリントできません。＜ ON ＞に設定して、もう一度操作してください。
セキュアプリントをする(P. 273)
- セキュアプリントを使わずに印刷してください。
印刷の基本操作(P. 264)

データが破損しているか、サポートされていないデータを印刷しようとした。

- データを確認して、印刷しなおしてください。
印刷の基本操作(P. 264)

パスワード保護された PDF ファイルを印刷できなかった。

- PDF ファイルのパスワードを正しく入力してください。
USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）(P. 276)

ユーザー設定用紙の用紙サイズ設定が本機の印刷可能範囲外で設定されている

- プリンタードライバーでユーザー設定用紙を指定した場合に、ユーザー設定用紙の用紙サイズ設定が本機の印刷可能範囲外で設定されている可能性があります。
  給紙カセット、手差しトレイ毎に設定可能範囲が異なりますので、適切なユーザー設定用紙の用紙サイズ設定を行ってください。
  用紙について(P. 768)

#861

本機用でないプリンタードライバーを使ったため、印刷できなかった。

- 本機用のプリンタードライバーを使って、もう一度印刷してください。
  印刷の基本操作(P. 264)

印刷しようとした文書データに何らかの不具合があり、印刷できなかった。

- 文書データに不具合がないか確認してください。

#862

本機がサポートしていない印刷設定であるため、印刷できなかった

- 解像度がスーパーファイン(1200 dpi)になっていませんか？ファイン(600 dpi)に変更してみてください。
- ユーザー設定用紙の用紙サイズ設定が印刷可能範囲を超えている可能性があります。用紙サイズ設定値を小さく変更するか、定型サイズを選択してみてください。
- 印刷設定を確認して、印刷しなおしてください。
  印刷の基本操作(P. 264)

#863

パソコンから印刷操作をしたがエラーが発生した。

- いったん電源を切り、10 秒待って再び電源を入れたあと、もう一度操作してください。

#995

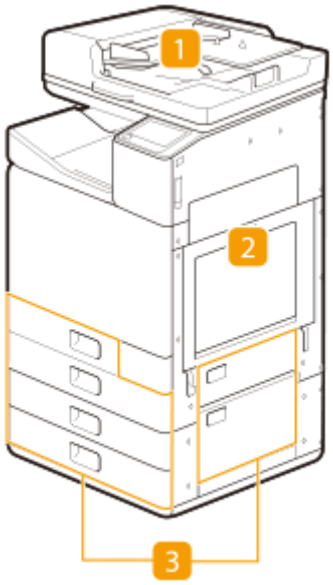
待機中の文書の送受信を中止した。

- 必要に応じてもう一度送受信しなおしてください。

紙がつまったら

23LX-0AR

紙がつまると、画面に<用紙がつまりました。>と表示され、<次へ>を選ぶと簡易的な対処方法が表示されます。画面を見ても対処方法がわからないときは、以下の参照先を確認し、つまった紙を取り除いてください。



1 フィーダー **フィーダーに原稿がつまった(P. 728)**

2 本体内部 **本体内部に用紙がつまった(P. 731)**

3 給紙カセット **給紙部に用紙がつまった(P. 736)**

ご注意

作業するときは電源を切らない

- 電源を切ると、印刷中のデータが消去されます。特にファクス受信中はご注意ください。

用紙が破れたとき

- 切れ端が残らないように、すべて取り除いてください。

紙づまりが繰り返し起こるとき

- 両面印刷で紙づまりが起きる場合、片面印刷にすると改善する場合があります。
- 横目紙などのコシの弱い紙を高濃度のパターンで両面印刷すると紙づまりが起こることがあります。
  その場合、濃度やインクが乾燥する時間を変更すると改善することがあります。 **濃度やインクが乾燥する時間を調整する(P. 650)**

つまった用紙を本体から無理に取り除かない

- 無理に取り除こうとすると、部品などを損傷する恐れがあります。どうしても取り除けない場合は、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。 **トラブルが解決しないときは(P. 740)**

MEMO

- 紙づまり位置を確認しても、実際には紙がつまっていないことがあります。そのような場合でも、画面の表示に従ってすべての位置を確認してください。
- 紙づまりをお知らせする画面は、紙づまりの処理がすべて終わるまで、繰り返し表示されます。
- 紙づまりをお知らせする画面で＜閉じる＞を選ぶと、すぐに紙づまりを処理しなくても操作や設定を継続できる場合があります。
- 画面に表示された紙づまり位置以外の用紙を取り除かないでください。別の箇所での紙づまりや成果物の落丁の原因となります。

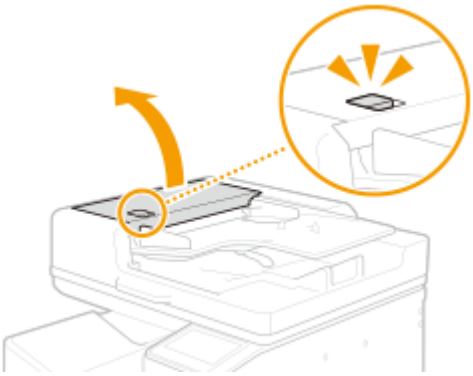
フィーダーに原稿がつまった

23LX-0HL

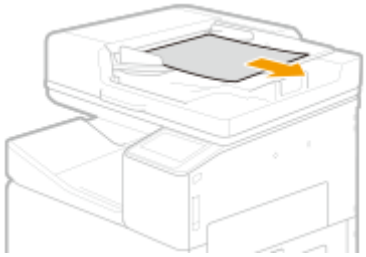
画面で紙づまり位置を確認し、次の手順に従って原稿を取り除いてください。

1 フィーダーカバー内に原稿がつまっているか確認する

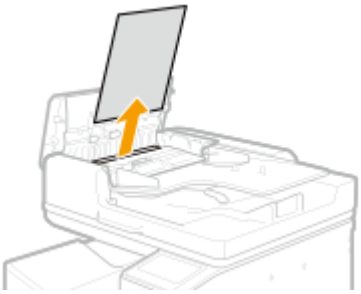
1 レバーを引いてフィーダーカバーを開く



2 原稿台に残った原稿を取り除く



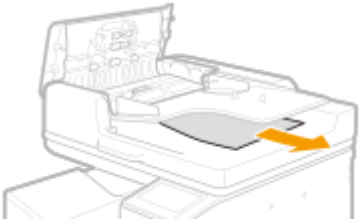
3 原稿がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜く



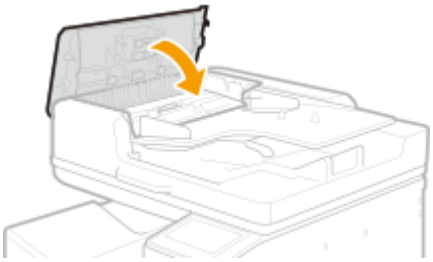
2 排紙トレイに原稿がつまっているか確認する

1 緑色の排紙用つまみを左に回す

2 原稿がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜く

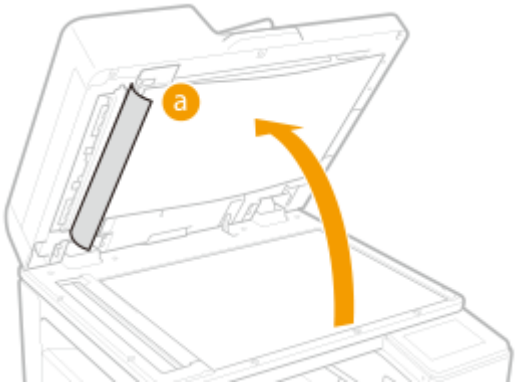


3 フィーダーカバーを閉める

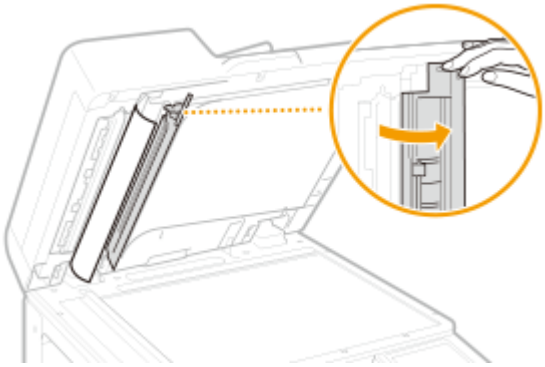


3 フィーダーを持ち上げ、原稿がつまっているか確認する

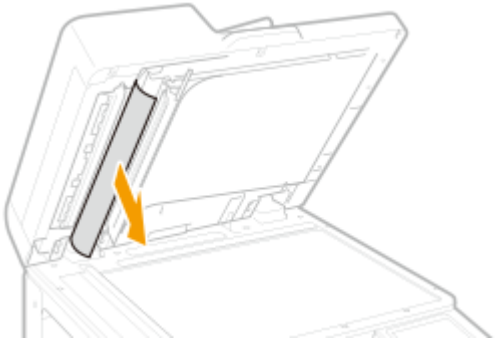
1 フィーダーを持ち上げ、a の位置を確認する



2 緑色のレバーを引き、原稿読み取り部カバーを開く



3 原稿がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜く



4 原稿読み取り部カバーを閉める

4 フィーダーを元に戻す

- 以降は画面の指示に従って、中断していた操作や紙づまりの処理を続けてください。

本体内部に用紙がつまった

23LX-0HR

画面で紙づまり位置を確認し、次の手順に従って用紙を取り除いてください。

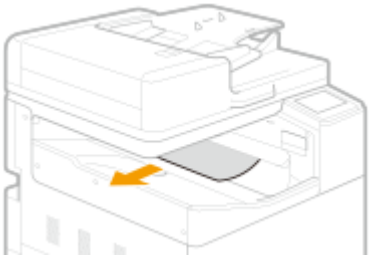
MEMO

作業の前にご確認ください

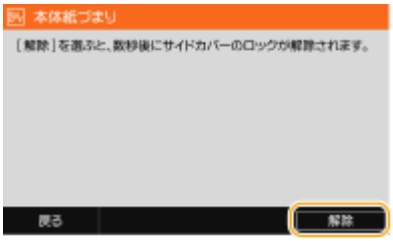
- 本機やオプション機器のカバーや給紙カセットが閉じていることを確認してから、紙づまりの処理を始めてください。

1 本体の排紙トレイに用紙がつまっているか確認する

- 用紙がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜きます。



2 本体の右カバーのロックを解除する

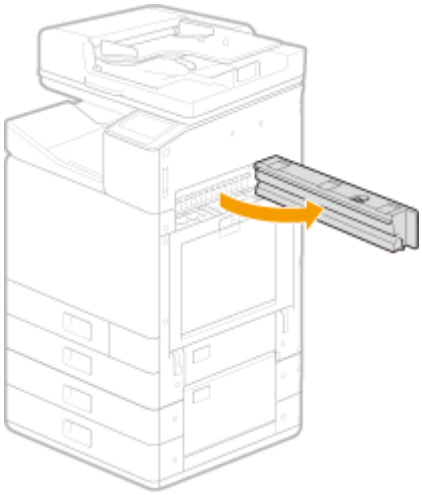


3 本体右カバー内に用紙がつまっているか確認する

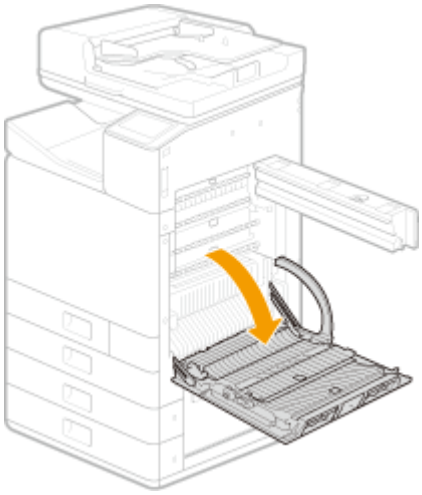
MEMO

- 紙づまり位置により画面の案内と異なる場合があります。画面の指示に従って用紙を取り除いてください。

1 搬送ユニットカバー 1 を開く

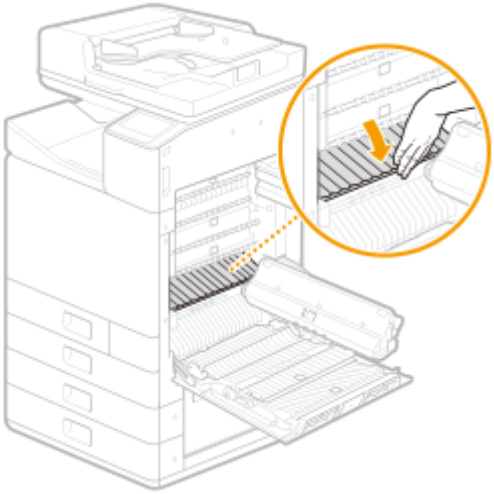


2 搬送ユニットカバー 2 を開く



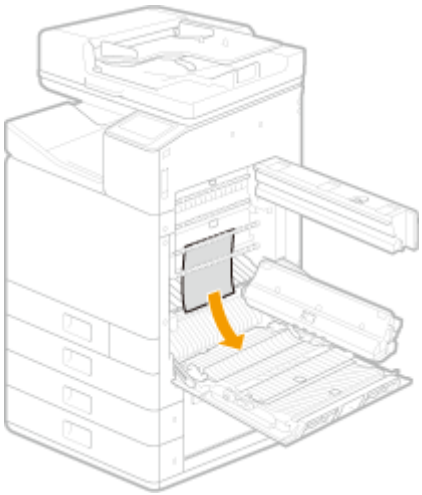
3 搬送ガイドボックスを開く

4 プラテンを開く

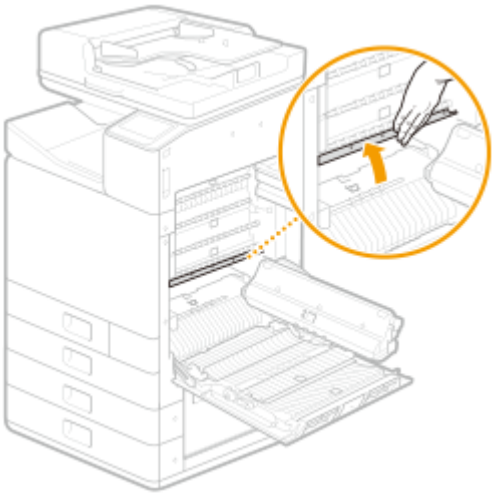


5 用紙がつまっているか確認する

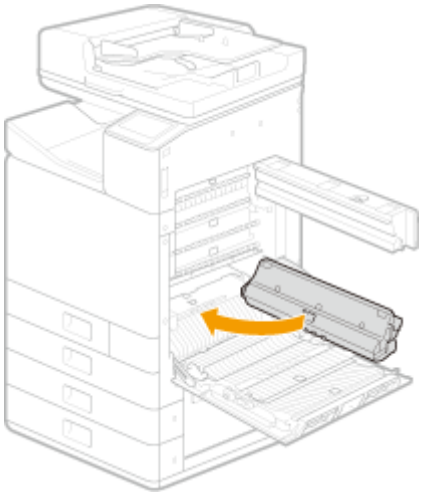
- 用紙がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜きます。



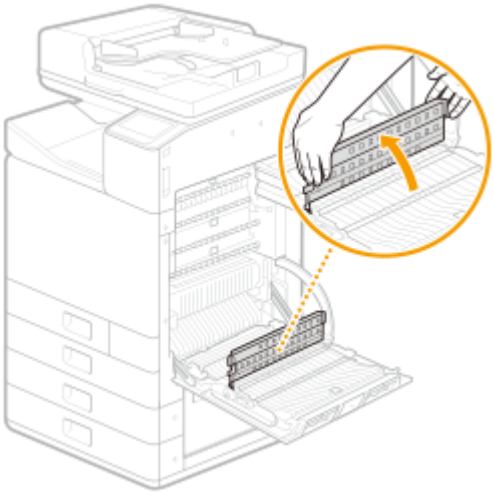
6 プラテンを閉じる



7 搬送ガイドボックスを閉じる

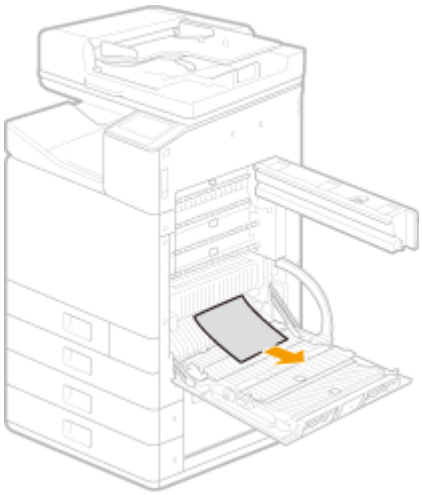


8 用紙反転ガイドを開く



9 用紙がつまっているか確認する

- 用紙がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜きます。



10 搬送ユニットカバー 1 を閉じる

11 搬送ユニットカバー 2 を閉じる

MEMO

- 手順どおりに紙づまり処理を行っても、エラーが解消されない場合はセンサー部の清掃を行ってください。 **センサー部を清掃する(P. 565)**

給紙部に用紙がつまった

23LX-0HS

画面で紙づまり位置を確認し、次の手順に従って用紙を取り除いてください。

手差しトレイに用紙がつまった(P. 736)
給紙カセット 1 の紙づまり対処方法(P. 737)
給紙カセット 2 の紙づまり対処方法(P. 737)
給紙カセット 3、4 の紙づまり対処方法（オプション）(P. 738)

MEMO

作業の前にご確認ください

- 本機やオプション機器のカバーや給紙カセットが閉じていることを確認してから、紙づまりの処理を始めてください。

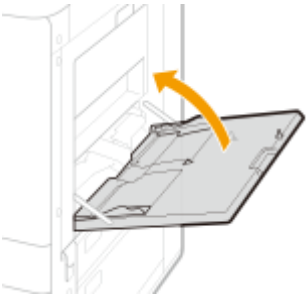
手差しトレイに用紙がつまった

1 手差しトレイに用紙がつまっているか確認する

1 手差しトレイ上の用紙を取り除く

2 つまっている用紙を取り除く

3 トレイを閉じる

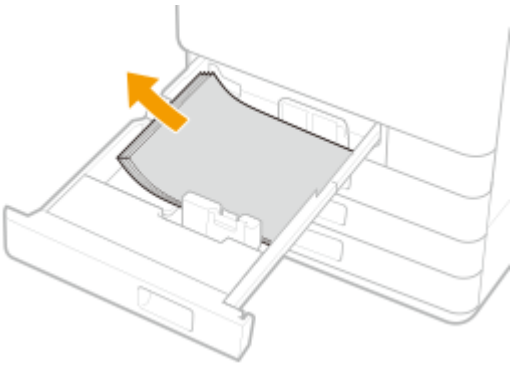


給紙カセット 1 の紙づまり対処方法

1 給紙カセット 1 内に用紙がつまっているか確認する

1 給紙カセット 1 を開く

2 用紙がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜く



3 給紙カセット 1 をカチッと音がするまで押し込んで閉じる

ご注意

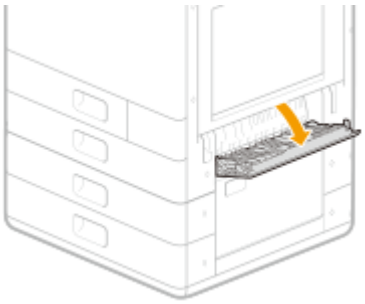
- 給紙カセットを本体に戻すときは、すき間に指をはさまないように注意してください。

- 以降は画面の指示に従って、中断していた操作や紙づまりの処理を続けてください。

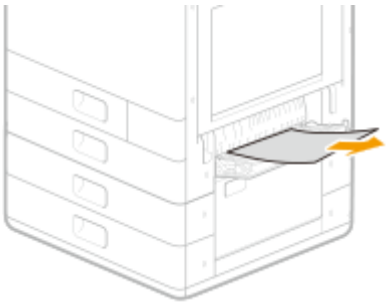
給紙カセット 2 の紙づまり対処方法

1 標準カセットのサイドカバー内に用紙がつまっているか確認する

1 標準カセットのサイドカバーを開く



2 用紙がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜く

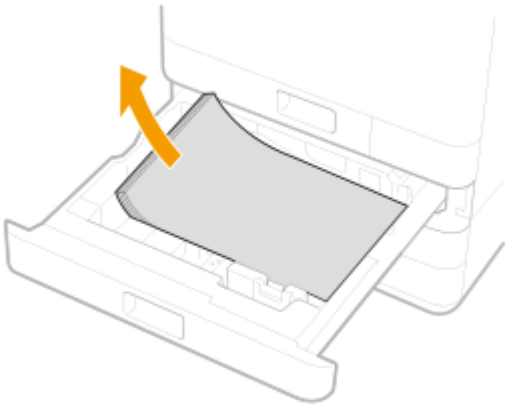


3 標準カセットのサイドカバーを、カチッと音がするまでゆっくり閉じる

2 給紙カセット 2 内に用紙がつまっているか確認する

1 給紙カセット 2 を開く

2 用紙がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜く



3 給紙カセット 2 をカチッと音がするまで押し込んで閉じる

ご注意

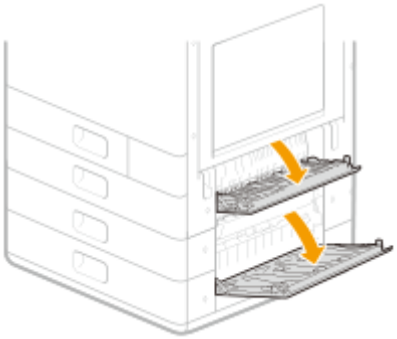
- 給紙カセットを本体に戻すときは、すき間に指をはさまないように注意してください。

- 以降は画面の指示に従って、中断していた操作や紙づまりの処理を続けてください。

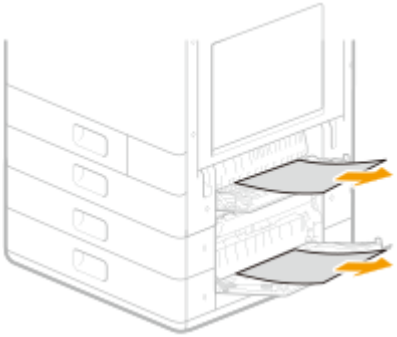
給紙カセット 3、4 の紙づまり対処方法（オプション）

1 2 段カセットペディスタルのサイドカバーに用紙がつまっているか確認する

1 2 段カセットペディスタルのサイドカバーを開く



2 用紙がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜く



3 2段カセットペディスタルのサイドカバーを、カチッと音がするまでゆっくり閉じる

2 給紙カセット 3、4 内に用紙がつまっているか確認する

1 給紙カセットを開く

2 用紙がつまっている場合は、矢印の方向にゆっくり引き抜く

3 給紙カセットをカチッと音がするまで押し込んで閉じる

ご注意

- 給紙カセットを本体に戻すときは、すき間に指をはさまないように注意してください。

- 以降は画面の指示に従って、中断していた操作や紙づまりの処理を続けてください。

トラブルが解決しないときは

23LX-0AX

トラブルが解決しないときは、お買い上げ販売店またはキヤノンホームページ(canon.jp)内のサポートページにてお問い合わせください。

ご注意

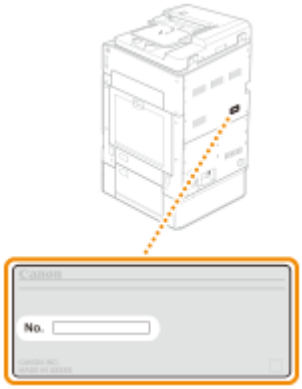
自力で分解修理しない

- ご自分で分解修理した場合、保証の対象外になることがあります。

■お問い合わせの際は

あらかじめ次の情報をお手元にご用意ください。

- 製品名（WG7350F/WG7350FM）
- 購入先の販売店
- トラブルの内容（具体的な操作内容とその結果など）
- シリアルナンバー（本体背面のラベルに記載）



MEMO

操作パネルでシリアルナンバーを確認する

- ＜状況確認＞ ▶ ＜デバイス情報＞ ▶ ＜シリアル No.＞で確認することもできます。

付録

付録 742

第三者のソフトウェアについて 744

活用術 745

節約してエコロジー 746

効率アップの使いこなし術 748

紙の文書をスッキリ電子化 750

まだあるこんな使い方 752

おもな仕様 754

基本仕様／コピー機能 755

両面同時自動原稿送り装置の仕様（標準装備） 758

2 段カセットペディスタル・CF10 の仕様（オプション） 759

LIPS LX プリンター機能の仕様（標準装備） 760

プルスキャン機能の仕様（標準装備） 761

プッシュスキャン機能の仕様（標準装備） 762

スーパー G3FAX 機能の仕様（標準装備） 764

インターネット FAX 送受信機能（標準装備） 766

無線 LAN の仕様（標準装備） 767

用紙について 768

オプションについて 773

オプション機器について 774

マニュアルの種類と内容 775

オンラインマニュアルの使いかた 776

オンラインマニュアルの画面構成 777

オンラインマニュアルの読みかた 781

Windows の基本操作 782

おことわり 791

付録

23LX-0AY

本機の仕様、オンラインマニュアルの使いかた、免責事項や著作権など、お客様に知っておいていただきたい情報を記載しています。必要に応じてお読みください。

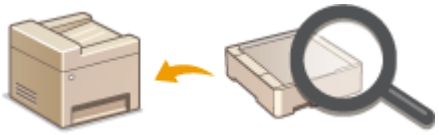
■仕様を調べる

本体、オプション機器の仕様、ネットワーク環境、プリント機能などに関する仕様を調べたいときにご覧ください。

おもな仕様(P. 754)

■オプションについて調べる

本機をさらに快適に使うためのオプションを調べたいときにご覧ください。



オプションについて(P. 773)

■本機のマニュアルについて調べる

本機の機能や操作方法を調べるための各種マニュアルや、オンラインマニュアル（本マニュアル）の使いかたを調べたいときにご覧ください。

マニュアルの種類と内容(P. 775)
オンラインマニュアルの使いかた(P. 776)

■その他

役立つ情報、免責、著作権などを知りたいときにご覧ください。

第三者のソフトウェアについて(P. 744)
活用術(P. 745)
Windows の基本操作(P. 782)
おことわり(P. 791)

第三者のソフトウェアについて

23LX-0C0

第三者のソフトウェアに関する情報を知りたいときは、次のアイコンをクリックしてください。

活用術

23LX-0C1

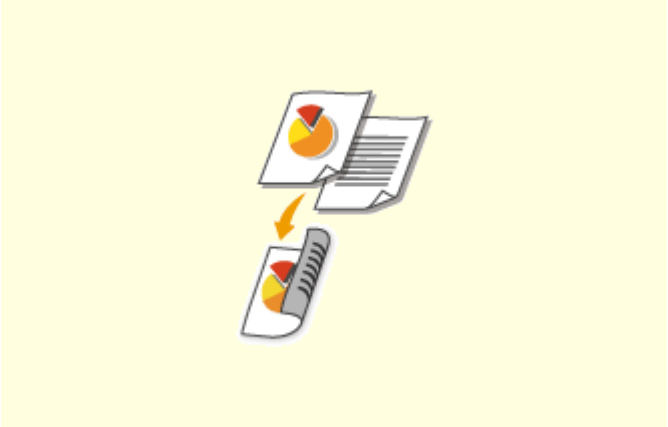
カテゴリー別に本機を活用するヒントをご紹介しています。用途やシーンに合わせて、便利で役に立つ活用術をお試しください。

節約してエコロジー(P. 746)
効率アップの使いこなし術(P. 748)
紙の文書をスッキリ電子化(P. 750)
まだあるこんな使い方(P. 752)

節約してエコロジー

23LX-0C2

用紙やインクの使用量を抑える、電力量を少なくする、などの節約法をご紹介します。



両面印刷で用紙枚数を半分に

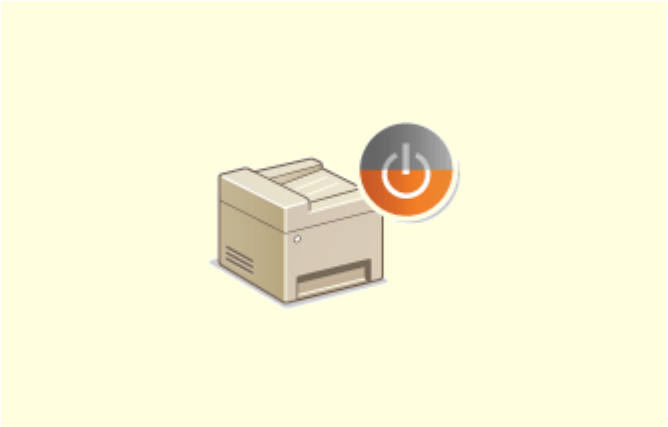
コピーだけでなく、パソコンからの印刷や受信ファクスにも両面機能が使えます。大量印刷はもちろん、数ページの少量印刷でも両面機能で積極的に用紙を節約してください。複数ページを 1 枚の用紙にまとめて印刷する集約印刷と組み合わせることも可能。最大 32 ページ分の文書が 1 枚にまとめられ大変エコロジーです。

コピーの基本操作(P. 199)
パソコンから印刷する(P. 264)
＜受信 / 転送＞(P. 521) ▶ ＜ファクス設定＞ ▶ ＜両面記録＞
＜受信 / 転送＞(P. 521) ▶ ＜ I ファクス設定＞ ▶ ＜両面記録＞

複数原稿を用紙 1 枚にまとめて印刷

オフィスに積み重ねられたファイルの山。探すのにも一苦労です。そんなときにはこの機能を使ってスッキリさせましょう。1 枚の用紙に複数の原稿をまとめて縮小印刷でき、資料のスリム化にはうってつけです。両面印刷とあわせて使えばさらに効果的！「整理整頓」と「用紙節約」を同時に実現できます。

原稿を 1 ページにまとめる（ページ集約）(P. 214)
パソコンから印刷する(P. 264)



節電モードでエコロジー

ペーパーレスファクス

操作時以外は徹底して消費電力を抑える「スリープモード」。一定時間使わないでいると、電源を切ることなく最低限の電力消費に抑えこみます。必要なときはスピーディーに立ち上がり、ストレスを感じさせません。また、操作パネルのボタンを使えばお好みのタイミングでこまめな節電も可能。見えないところでコストダウン＆省エネのお手伝いをします。

スリープモードにする(P. 184)

ファクスには必ず用紙が必要だと思っていませんか？ これまで無意識に印刷していたその用紙はもう必要ありません。パソコンで作った文書をそのままファクス送信。ペーパーレスで素早い対応が可能です。また、受信文書をいったんメモリーに保存し、必要なものだけを印刷すれば、ダイレクトメールなどで用紙をムダに消費する心配もありません。

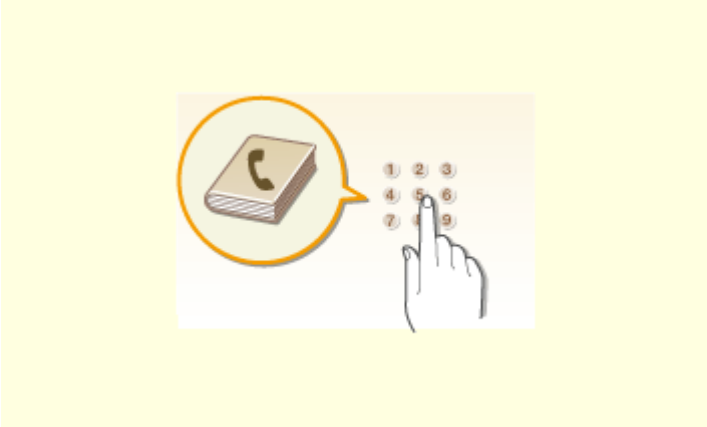
パソコンからファクスを送信する（PC ファクス）(P. 250)

受信した文書をいったん本機に保存する（メモリー受信）(P. 244)

効率アップの使いこなし術

23LX-0C3

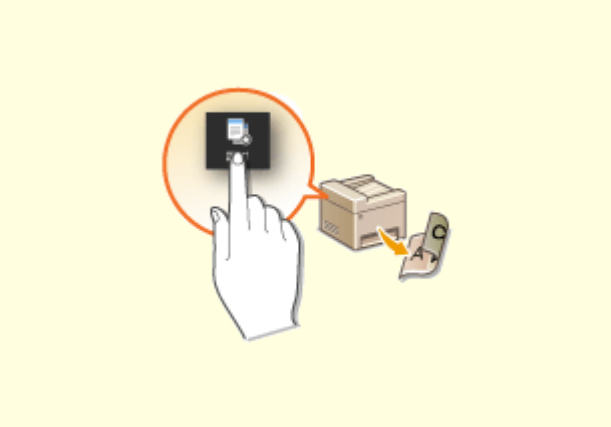
複雑な操作を簡単に。本機が効率アップのお手伝いをします。



アドレス帳を使ってカンタン送信

ファクスやＥメールを送るたびに宛先を入力するのは手間がかかる…。そんなときはアドレス帳を活用しましょう。宛先を登録しておけば、送信時にボタン１つで入力可能。よく送る宛先は＜ベストメンバー＞に登録しておくと、優先的に表示されるのでさらに便利です。アドレス帳はパソコンに保存してバックアップするだけでなく、他の機種で読み込んで共有することも可能です。

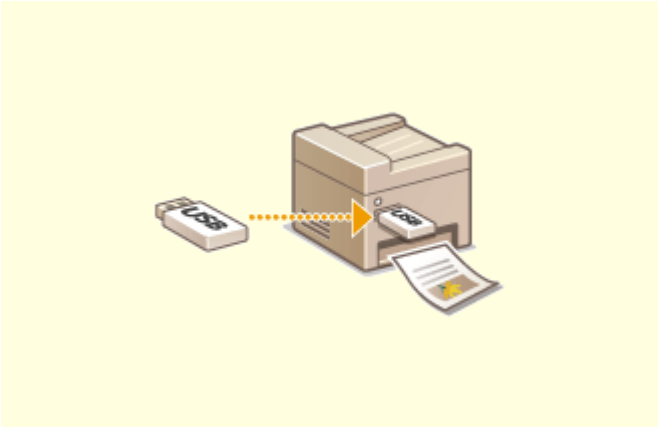
宛先を登録する(P. 186)
リモート UI から宛先を登録する(P. 428)
ファクス送信の基本操作(P. 224)
スキャンの基本操作(P. 290)
設定データをインポート／エクスポートする(P. 432)



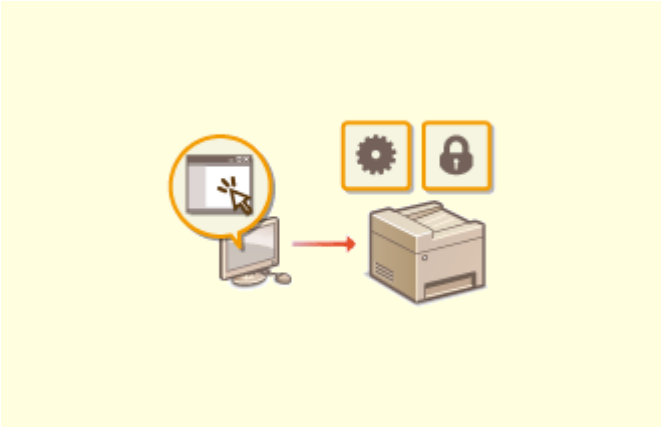
よく使う設定をワンタッチで

いつも両面でコピーする。いつも同じ読み込み形式／保存先でスキャンする。そんなよく使う設定は１つにまとめてショートカットボタンに登録しておきましょう。複雑な操作をワンタッチで設定できるので手間が省けます。

よく使う設定を登録する(P. 178)



USB メモリーを便利に使う



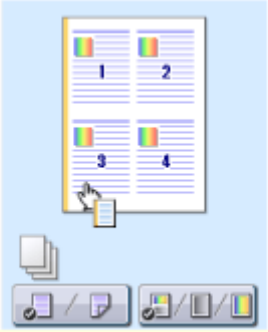
デスクにいながら本機を設定

USB メモリーを本機に差し込み、パソコンを介さず画像や PDF を直接印刷。JPEG などの画像は印刷前にディスプレーで確認できますので用紙をムダにすることもありません。また、手書きのメモなどをスキャンして USB メモリーに直接保存することも可能。持ち運びに大変便利です。

USB メモリーのファイルを印刷する（メモリーメディアプリント）(P. 276)
スキャンの基本操作(P. 290)

デスクのパソコンから本機を遠隔管理できます。用紙やインクの残量を確認できるだけでなく、文字入力の多いアドレス帳などの一括設定もキーボードを使ってラクラクこなせます。手間を省いて、時間を節約しましょう。

パソコンから本機を管理する（リモート UI）(P. 416)



直感的な操作ですばやく印刷設定

プリンタードライバーのプレビューイメージ上の直感的な操作で、ページレイアウト、とじ方向や片面・両面の切り替えなどが容易に設定できます。かんたんなクリック操作でイメージをつかみながら設定できるので便利です。

パソコンから印刷する(P. 264)

紙の文書をスッキリ電子化

23LX-0C4

文書を電子化すれば、パソコンでの編集はもちろん、E メールなどを使ってコストや時間を削減することができます。

手書きのメモをスキャンして E メール送信

ふと思いついたアイデア。すかさずメモしたものの、メモ自体の所在を忘れてしまった。そうならないためにも、アイデアはすぐにスキャンして E メールで携帯などに送信しましょう。操作はパソコン要らずのファクス感覚。自分宛てに送信すれば備忘録、仲間に送ればアイデアの共有に一役買います。

スキャンの基本操作(P. 290)

会議資料をスキャンしてスピーディーに共有

紙文書も電子化すればデータ共有しやすくなります。たとえば、社内会議で使う資料。スキャンしてパソコンの共有フォルダーに保存したら、その場所をメンバーに伝えるだけで OK。紙を配付する必要はありません。配付先が多く文書がかさばるほどに役立つ機能です。

スキャンの基本操作(P. 290)

気になる部分をスキャン

新聞や雑誌で気になる部分を、ハサミで切り取る感覚でそこだけスキャン。切り取り範囲はプレビュー画面で指定でき、出力サイズや画像調整も自由自在！編集ソフトを使わずにスピーディーに電子化できます。

ScanGear WG を使う(P. 329)

サーチャブル PDF でラクラク検索

文字検索可能な PDF、それが「サーチャブル PDF」です。文字と画像が混在した原稿をスキャンすると、文字部分が OCR によってテキストデータに。文字情報の検索はもちろん、必要な部分をコピーして Microsoft Office の Excel や Word にペーストすることができます。顧客データや住所録などを一からタイピングする必要もなくなります。

ご注意

- 新聞や雑誌など、他人の著作物を権利者に無断で複製などすることは、個人的または家庭内その他これに準ずる限られた範囲においての使用を目的とする場合を除き違法となります。
  また、人物の写真などを複製する場合には肖像権が問題となることがあります。

スキャンの基本操作(P. 290)
パソコンを使ってスキャンする（リモートスキャン）(P. 326)

作成中の文書に直接画像を追加

パソコンで作成中の文書に、スキャン画像を直接取り込むことができます。スキャンのために別のアプリケーションを起動する必要はありません。使用しているアプリケーションでさっとスキャンしてパッと取り込み。画像を取り込んだら、そのまま元の作業に戻れます。

アプリケーションから原稿を読み込む(P. 327)

まだあるこんな使い方

23LX-0C5

自宅、オフィス、外出先。さまざまなシーンで使える便利な機能がそろっています。

スマートフォン／タブレットを活用

タブレットを使って出張の移動時間に仕上げた企画書をすぐに印刷したい！スマートフォンに会議で配付された資料を取り込みたい！そんなときは、Canon PRINT Business を使うと便利です。また、無線 LAN ルーターのない環境でもモバイル機器から無線で直接本機に接続することもできます。
PC レス、迅速、簡単！スピード時代に相応しい機能が仕事や趣味をいっそう充実させます。
モバイル機器と連携する(P. 336)

マル秘文書を印刷する

個人情報や機密文書は他人に見られるのが心配です。秘匿性の高い文書はセキュアプリントを使いましょう。パソコン上で印刷データに暗証番号をかけて本機に印刷指示すると、データは本体メモリーにいったん蓄積されます。操作パネルで同じ暗証番号を入力しない限り印刷されません。忙しくて印刷物を取りに行くのをうっかり忘れてしまっても大丈夫です。
暗証番号を入力して印刷する（セキュアプリント）(P. 272)

無線 LAN でケーブルレス接続

外出先でもファクスを逃さずキャッチ

ケーブルを使わず無線でパソコンと接続できるので、オフィスはスッキリ。狭いスペースはもちろんのこと、洗練された見映えの店舗でも設置場所に困りません。むずかしそうな接続設定もボタン操作でかんたんに完了。初めての方でも心配ありません。

無線 LAN に接続する(P. 19)

自動転送機能を使って、外出先でも受信ファクスをパソコンや携帯で確認。訪問先のファクスにも転送可能です。出先でも移動中の車内でもタイミングを逃さず大切な情報をキャッチできます

受信した文書を自動転送する(P. 246)

おもな仕様

23LX-0C6

本製品が改良されて仕様が変更になったり、今後発売される製品によって内容が変更になったりすることがありますので、ご了承ください。本製品に関する情報は、キヤノンホームページ(canon.jp)を参照してください。

■本体に関する仕様について

基本仕様／コピー機能(P. 755)
両面同時自動原稿送り装置の仕様（標準装備）(P. 758)

■本体に装着するオプション機器の仕様について

2 段カセットペディスタル・CF10 の仕様（オプション）(P. 759)

■機能に関する仕様について

LIPS LX プリンター機能の仕様（標準装備）(P. 760)
プルスキャン機能の仕様（標準装備）(P. 761)
プッシュスキャン機能の仕様（標準装備）(P. 762)
スーパー G3FAX 機能の仕様（標準装備）(P. 764)
インターネット FAX 送受信機能（標準装備）(P. 766)
無線 LAN の仕様（標準装備）(P. 767)

基本仕様／コピー機能

23LX-0L2

名称	WG7350F / WG7350FM
形式	デスクトップ
プリント方式	ラインヘッド・インクジェット方式
インク	4 色顔料（C/M/Y/BK）
読み取り解像度	600 X 600 dpi
書き込み解像度	1200 X 1200 dpi
階調	256 階調
複写原稿	最大 A3 サイズまで（シート、ブック原稿）
複写サイズ *1	**用紙サイズ** A5、A4、A3*2、B5、B4*2、ユーザー定義サイズ（最大 330.2 mm x 711.2 mm*3）、はがき*4、往復はがき*4、封筒（角形 2 号*4、洋形 4 号*5、洋形 6 号*5、洋形長 3 号*5、長形 3 号*5、長形 4 号*6）、写真用紙*4（KG、2L 判、六切、四切、A4、A3） **画像欠け幅** 先端：4 mm、左右各：4 mm、後端：4 mm、用紙幅が 318.9 mm を超える場合、左右各 4 mm～9.65 mm **用紙坪量** カセット：52～220 g/m^2、手差し：60～256 g/m^2
ウォームアップタイム *7	**主電源立ち上げ時** 30 秒以下 **リカバリータイム** 8 秒
ファーストコピータイム（室温 20～30 度）	カラー・モノクロ共に 5.8 秒
連続複写速度*8	**A3** カラー・モノクロ共に 25 枚/分 **B4** カラー・モノクロ共に 25 枚/分

	A4 カラー・モノクロ共に 50 枚/分 **B5** カラー・モノクロ共に 50 枚/分
複写倍率	**定型** 1：1±0.5 %、1.15、1.22、1.41、2.00、4.00、0.86、0.81、0.70、0.61、0.50、0.25 **ズーム** 25～400 %（1 %刻み）
給紙方式／給紙容量 *9	**カセット** 640 枚×2 段＋ 640 枚×2 段 （2 段カセットペディスタル・CF10 装着時） **手差し** 60 枚
排紙トレイ最大積載枚数 *9	A3： 120 枚、 A4：250 枚
操作パネル	5 インチ LCD
自動両面印刷	対応
連続複写枚数	999 枚
電源	AC 100V、50/60 Hz
最大消費電力	約 300 W
標準消費電力量（TEC）	1.25 kWh
電源 OFF 時消費電力	約 0.1 W
大きさ（ADF を含む）	560 mm（W）× 590 mm（D）× 880 mm（H）*10
質量	約 82.1 kg *11
機械占有寸法（ADF を含む）	925 mm（W）× 1,208 mm （D）
メモリー容量	RAM：2 GB
付加機能	カラー選択（自動（カラー／白黒）、フルカラー、白黒）*12、倍率（定型変倍、倍率指定）、自動用紙選択、濃度（マニュアル）、背景調整（自動／マニュアル）、見開き→2 ページ、両面、ページ

	集約（2in1／4in1）、原稿の種類（文字／写真／地図、印刷写真、文字）、原稿サイズ混載（同幅のみ）、枠消し（原稿枠消し、ブック枠消し）、シャープネス、カラー調整（カラーバランス）、よく使う設定（4 個）、ID カードコピー

*1 用紙サイズ、用紙タイプにより対応する給紙カセットは異なります。

*2 カセット 1 は非対応

*3 手差しトレイ使用時。1 段目給紙カセットでは、90.0 x 190.0 mm〜216.0 x 297.0 mm、2 段目以降の給紙カセットでは、139.7 x 210.0 mm 〜 297.0 x 431.8 mm のユーザー設定サイズを使用可能です。

*4 手差しトレイのみ対応

*5 カセット 1／手差しトレイのみ対応

*6 カセット 1 のみ対応

*7 使用環境、使用条件によって変わることがあります。

*8 用紙の坪量・サイズ・種類・印字画像・給紙カセットなどにより異なります。

*9 64 g/m^2紙使用時

*10 オプションの 2 段カセットペディスタル・CF10 を装着時の高さは 1,133 mm です。

*11 プリントヘッドの質量を含み、インクタンクは含まれません。

*12 2 色カラー非対応

両面同時自動原稿送り装置の仕様（標準装備）

23LX-0L3

原稿送り装置の種類	自動両面原稿送り装置
原稿サイズ／種類	**サイズ** A3、B4、A4、B5、A5、B6 **原稿坪量** 50～128 g/m^2
原稿の収容可能枚数	100 枚（64 g/m2 紙使用時）
原稿読み取り速度 （A4 ヨコ）	**片面読取** カラー・モノクロ共に 40 ページ/分 **両面読取** カラー・モノクロ共に 65 ページ/分

2 段カセットペディスタル・CF10 の仕様（オプション）

23LX-0L4

WG7350FM には、2 段カセットペディスタル・CF10 が標準装備されています。

用紙サイズ	A5、A4、A3、B5、B4、ユーザー定義サイズ（最大 297 mm x 432 mm）
用紙坪量	52～220 g/m²
給紙容量／給紙段数	640 枚（64 g/m²） × 2 段
電源	本体より供給
大きさ／質量	560 mm（幅） × 590 mm（奥行） × 253 mm（高さ）、約 19 kg
本体接続時の占有寸法	560 mm（幅） × 590 mm（奥行） x 1,133 mm（高さ）

LIPS LX プリンター機能の仕様（標準装備）

23LX-0L5

プリントサイズ	コピー仕様に準ずる
連続プリント速度 *1	カラー・モノクロ共に 50 ppm （一般、600 dpi 時） カラー・モノクロ共に 80 ppm （オフィス文書、300 dpi 時）
解像度	**データ処理** 1200 dpi x 1200 dpi、600 dpi x 600 dpi、300 dpi x 300 dpi
ページ記述言語	LIPS LX
対応プロトコル	TCP/IP（LPD/Port9100/IPP/IPPS/WSD）
対応 OS	Windows®7 / Windows®8.1 / Windows®10 / Windows®Server2008 /Windows®Server2008 R2 / Windows®Server2012 / Windows®Server2012 R2 / Windows®Server2016 Mac OS X 10.8.5～10.11、macOS 10.12～10.13
内蔵フォント	なし
インターフェース	USB2.0High・Speed、Ethernet 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T（IEEE 802.3 準拠） IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n
画像欠け幅	定形サイズ：用紙の端から上下左右の余白は 5 mm、用紙幅が 320.9 mm を超える場合、左右各 5 mm～9.65 mm

*1 用紙の坪量・サイズ・種類・印字画像・給紙カセットなどにより異なります。

プルスキャン機能の仕様（標準装備）

23LX-0L6

形式	カラースキャナー
最大原稿読み取りサイズ	コピー仕様に準ずる
読み取り解像度	50、75、100、150、200、300、400、600 dpi（25～9600 dpi まで 1 dpi 単位の設定可能）
インターフェース	USB2.0High-Speed、Ethernet 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T（IEEE 802.3 準拠） IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n
対応プロトコル	TCP/IP
対応 OS	Windows®7 / Windows®8.1 / Windows®10、Mac OS X 10.8.5～10.11、macOS 10.12～10.13
ドライバー	TWAIN 準拠（Windows）　WIA 準拠
画像モード	カラー、白黒、グレイスケール

プッシュスキャン機能の仕様（標準装備）

23LX-0L7

形式	カラースキャナー
最大原稿読み取りサイズ	コピー仕様に準ずる
読み取り解像度（主走査×副走査）	204 x 196 dpi、300 x 300 dpi
原稿読み取り速度 （A4 ヨコ、300dpi）	カラー・モノクロ共に 40 枚/分
インターフェース	Ethernet 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T（IEEE 802.3 準拠） IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n
対応プロトコル	FTP（TCP/IP）、SMB（TCP/IP）、SMTP
対応 OS/ アプリケーション	**SMB** Windows®7 / Windows®8.1 / Windows®10 Windows®Server 2008 / Windows Server 2008 R2 SP1 / Windows®Server 2012 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2016 Mac OS X 10.10～10.11、macOS 10.12～10.13、Red Hat Linux 9 **FTP** Windows®Server 2008 SP2 / Windows®Server 2008 R2 SP1：Internet Information Services 7.5 Windows®7：Internet Information Services 7.5 Windows®Server 2012：Internet Information Services 8.0 Windows®8.1 / Windows®Server 2012 R2：Internet Information Services 8.5 / Windows®10、Mac OS X 10.10～10.11、macOS 10.12 / Solaris 10、Red Hat Linux 9 **SMTP** Microsoft Exchange Server 2007 SP3 / Microsoft Exchange Server 2010 / Microsoft Exchange Server 2013 Lotus Domino R7.0、Sendmail 8.14.4
出力フォーマット	**シングルページ** TIFF（MMR）/PDF/ JPEG **マルチページ** TIFF（MMR）/PDF
画像モード	文字、文字／写真、写真

付加機能	高圧縮 PDF 生成機能、暗号化 PDF 生成機能、サーチャブル PDF 生成機能（OCR）、機器署名 PDF 生成機能

スーパー G3FAX 機能の仕様（標準装備）

23LX-0L8

適用回線*1	一般加入電話回線（PSTN）、ファクシミリ通信網（PSTN）
走査線密度	**標準モード** 8 ドット / mm　×3.85 ライン / mm **ファインモード** 8 ドット / mm　×7.7 ライン / mm **スーパーファインモード** 8 ドット / mm　×15.4 ライン/ mm **ウルトラファインモード** 16 ドット / mm　×15.4 ライン / mm
通信速度	SuperG3：33.6 kbps、G3：14.4 kbps
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信モード	SuperG3、G3
送信原稿サイズ	A3、B4、A4、B5*2、A5*3
記録紙サイズ	A3、B4、A4、B5
電送時間	JBIG：約 2.6 秒
ファクスドライバー	**インターフェース** USB2.0High-Speed、Ethernet 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T（IEEE802.3 準拠） IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n **対応プロトコル** TCP/IP（LPD/Port9100/IPP/IPPS/WSD） **対応 OS** Windows®7 / Windows®8.1 / Windows®Server2008 / Windows®Server2008 R2 / Windows®Server2012 / Windows®Server2012 R2 / Windows®Server2016、Mac OS X 10.8.5～10.11、macOS 10.12～10.13
付加機能 *4	アドレス帳（ベストメンバー：19 件、短縮ダイヤル：281 件、グループダイヤル：199 件）、同報送信：310 件、通信予約：最大 10 ジョブ、用紙カセット自動選択、排紙トレイ設定、よく使う設定、送信機能：ユーザー略称、解像度、濃度、両面原稿、シャープネス、オフフックアラーム、ECM 送信、ポーズ時間セット、自動リダイヤル、送信前のダイヤルトーン確認、同報送信の制限、回転送信、発信元記録、ファクス送信結果レポート、ユーザー電話番号、回線種類の選択、送信スタートスピード、送信文書アーカイブ、FAX 番号入力時の確認入力、ファクスドライバーからの

	送信許可、受信機能：用紙カセット選択、ファクス転送設定、メモリー受信、受信結果レポート、両面記録、EMC 受信、着信呼出、リモート受信、自動受信切替、受信スタートスピード、画像縮小、受信情報記録、受信モード（自動受信、TEL/FAX 切替、手動受信、留守 TEL 接続）、オンフック

*1IP 電話にご加入のとき、IP 電話経由ではファクシミリ通信が正常に行えないことがあります。ファクシミリ通信は一般電話（加入電話／F ネット）回線経由でのご使用をおすすめします。

*2B5（ヨコ）は、B4 短尺として、B5（タテ）は、A4 として送信されます。

*3A4 として送信されます。

*4 ナンバーディスプレイ非対応。

インターネット FAX 送受信機能（標準装備）

23LX-0L9

通信プロトコル	**インターネット FAX** SMTP [*1]（送信）／POP3 [*2]（受信）
通信モード	Simple モード
通信可能用紙サイズ	A3、B4、A4、B5[*3]、A5[*4]
解像度	**モノクロ** 204 x 196 dpi
対応メールサーバーソフトウェア	**転送用** Microsoft Exchange Server 2007 SP3/Microsoft Exchange Server 2010/Microsoft Exchange Server 2013/Lotus Domino R7.0/Sendmail 8.14.4 **受信用** Microsoft Exchange Server 2007 SP3/Microsoft Exchange Server 2010/Microsoft Exchange Server 2013/Lotus Domino R7.0/Qpopper 4.0.19

[*1] SMTP 認証および、SMTP 送信時の暗号化（SSL）通信に対応しています。

[*2] APOP／POP before SMTP および、POP 受信時の暗号化（SSL）通信に対応しています。

[*3] B4 短尺として送信されます。

[*4] A4 として送信されます。

無線 LAN の仕様（標準装備）

23LX-0LA

準拠規格	IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n
伝送方式	IEEE 802.11b（変調方式：DS-SS） IEEE 802.11g（変調方式：OFDM 方式） IEEE 802.11n（変調方式：OFDM 方式）
周波数範囲	2.412～2.472GHz
セキュリティー（暗号方式）	**インフラストラクチャー・モード時** 128（104）／64（40）bit WEP WPA-PSK（TKIP/AES-CCMP） WPA2-PSK（TKIP/AES-CCMP） **アクセスポイント・モード時** WPA2-PSK（AES-CCMP）
設定方法	らくらく無線スタート、AOSS、WPS（Wi-Fi Protected Setup）、手動設定

用紙について

23LX-0C9

本機で使用できる用紙は以下のとおりです。

■使用可能な用紙サイズ

○：使用可能 ×：使用不可

用紙サイズ	給紙カセット 1	給紙カセット 2、3、4	手差しトレイ	自動両面印刷
13 x 19	×	×	○	×
SRA3 （320 x 450 mm）	×	×	○	×
305 × 457 mm	×	×	○	○
A3	×	○	○	○
B4	×	○	○	○
A4	○	○	○	○
B5	○	○	○	○
A5	○	○	○	○
レジャー （11 x 17）	×	○	○	○
リーガル （LGL）	×	○	○	○
レター （LTR）	○	○	○	○
ステートメント（STMT）	○	○	○	○
エグゼクティブ （EXEC）	○	○	○	○
8K	×	○	○	○
16K	○	○	○	○
4x6	×	×	○	×

用紙サイズ	給紙カセット 1	給紙カセット 2、3、4	手差しトレイ	自動両面印刷
2L 判	×	×	○	×
六切	×	×	○	×
四切	×	×	○	×
はがき	×	×	○	×
往復はがき	×	×	○	×
4 面はがき	×	×	○	×
ユーザー設定サイズ	○*1	○*2	○*3	○*4
洋形長 3 号	○	×	○	×
長形 3 号	○	×	○	×
長形 4 号	○	×	×	×
洋形 4 号	○	×	○	×
洋形 6 号	○	×	○	×
角形 2 号	×	×	○	×
No.10 （COM10）	○	×	○	×
Monarch	○	×	○	×
DL	○	×	○	×
ISO-C5	○	×	○	×

*1 90.0 x 190.0 mm ～ 216.0 x 297.0 mm までのユーザー設定サイズを使用できます。

*2 139.7 x 210.0 mm ～ 297.0 x 431.8 mm までのユーザー設定サイズを使用できます。

*3 98.0 x 148.0 mm ～ 330.2 x 711.2 mm までのユーザー設定サイズを使用できます。

*4 給紙カセット 1 では、148.0 × 210.0 mm ～ 216.0 × 297.0 mm の範囲で自動両面印刷が可能です。
給紙カセット 2、3、4 では、148.0 × 210.0 mm ～ 297.0 × 431.8 mm の範囲で自動両面印刷が可能です。
手差しトレイでは、148.0 × 210.0 mm ～ 304.8 × 457.2 mm の範囲で自動両面印刷が可能です。

■使用可能な用紙種類

本機は、非塩素用紙を使用できます。
横目紙の使用は推奨しません。縦目紙の使用をお勧めします。

◯：使用可能 ×：使用不可

用紙の種類		給紙カセット 1	給紙カセット 2、3、4	手差しトレイ
薄紙 2	52 ～ 59 g/m²	◯	◯	×
薄紙 1	60 ～ 63 g/m²	◯	◯	◯
普通紙 1	64 ～ 75 g/m²	◯	◯	◯
普通紙 2	76 ～ 90 g/m²	◯	◯	◯
普通紙 3	91 ～ 105 g/m²	◯	◯	◯
厚紙 1	106 ～ 128 g/m²	◯	◯	◯
厚紙 2	129 ～ 150 g/m²	◯	◯	◯
厚紙 3	151 ～ 163 g/m²	◯	◯	◯
厚紙 4	164 ～ 180 g/m²	◯	◯	◯
厚紙 5	181 ～ 220 g/m²	◯	◯	◯
厚紙 6	221 ～ 256 g/m²	×	×	◯
再生紙 1 *1	64 ～ 75 g/m²	◯	◯	◯
再生紙 2 *1	76 ～ 90 g/m²	◯	◯	◯
再生紙 3 *1	91 ～ 105 g/m²	◯	◯	◯
色紙	64 ～ 82 g/m²	◯	◯	◯
マット写真用紙（ﾏｯﾄﾌｫﾄﾍﾟｰﾊﾟｰ）	170 g/m²	×	×	◯
ラベル用紙	118 ～ 185 g/m²	×	×	◯
ボンド紙 *2	83 ～ 99 g/m²	◯	◯	◯

用紙の種類		給紙カセット 1	給紙カセット 2、3、4	手差しトレイ
はがき、往復はがき、4 面はがき *3	164 ～ 220 g/m²	×	×	○
封筒	75 ～ 105 g/m²	○	×	○

*1 古紙配合率 100 %の再生紙が使用できます。

*2LTR、EXEC サイズの用紙が使用できます。

*3 インクジェットはがき／インクジェット紙年賀はがき、郵便はがきが使用できます。インクジェット光沢はがき／写真用年賀はがきは使用できません。

■キヤノン純正紙

写真の印刷に適する用紙：

- マットフォトペーパー <MP-101>

年賀状や挨拶状の印刷に適する用紙：

- キヤノン写真はがき・マット <MH-101>
  用紙種類設定は、「はがき」を選択してください。

その他：

- 薬袋 A4M タイプ 4 方止め
- 薬袋 B5M タイプ 4 方止め
- 薬袋 A5M タイプ 4 方止め
  用紙種類設定は、「厚紙 5」を選択してください。

■コピー時に使用可能な用紙について

- 両面コピーするときは次の用紙を使用してください。

  用紙サイズ： 305 × 457 mm、A3、B4、A4、B5、A5、11 x 17、LGL、LTR、STMT、EXEC、8K、16K、ユーザー設定サイズ*1

  用紙の厚さ： 52 ～ 220 g/m²

  *1 ラベル紙、はがき、封筒には両面コピーできません。
  給紙カセット 1 では、148.0 × 210.0 mm ～ 216.0 × 297.0 mm の範囲で両面コピー可能です。
  給紙カセット 2、3、4 では、148.0 × 210.0 mm ～ 297.0 × 431.8 mm の範囲で両面コピー可能です。
  手差しトレイでは、148.0 × 210.0 mm ～ 304.8 × 457.2 mm の範囲で両面コピー可能です。

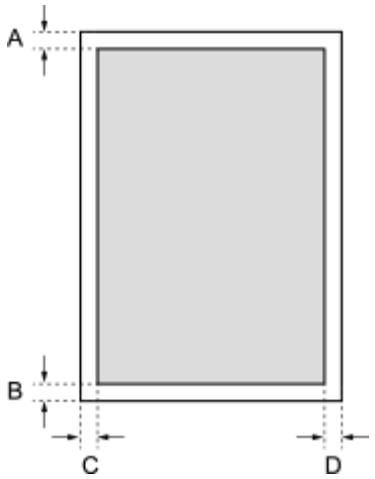
- ラベル用紙、はがき、封筒にコピーするときは、仕上げ機能を使用できません。
- ユーザー設定サイズは、182.0 × 257.0 mm ～ 297.0 × 431.8 mm の範囲で、仕上げ機能を使用できます。

■プリント時に使用可能な用紙について

- 用紙サイズや用紙種類によっては両面印刷できない場合があります。

■印刷範囲

グレーで示した部分が印刷範囲です。



A：4 mm
B：4 mm
C：4 mm
D：4 mm

封筒 洋形 4 号、6 号の場合：

A：4 mm
B：4 mm
C：8 mm
D：4 mm

はがきの場合：

A：4 mm
B：2 mm
C：4 mm
D：4 mm

オプションについて

23LX-0CR

本機にオプションを装着することで、より多くの機能が使えるようになります。

■どんなオプションがあるか知りたい

オプション機器について(P. 774)

■目的別にオプション機器を探したい

給紙カセットを追加したい

2段カセットペディスタル・CF10（給紙カセット 3、4）(P. 774)

ファクスを手動で送りたい、電話をかけたり受けたりしたい

ハンドセット・G2(P. 774)

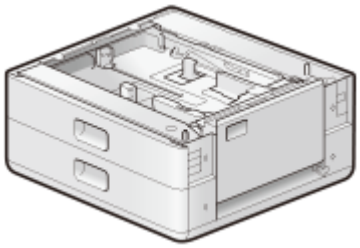
オプション機器について

23LX-0CS

本機の機能を十分にご活用いただくために、次のようなオプション機器を用意しています。オプション機器は、本機をお買い上げの販売店またはお近くのキヤノン販売店にてお買い求めください。

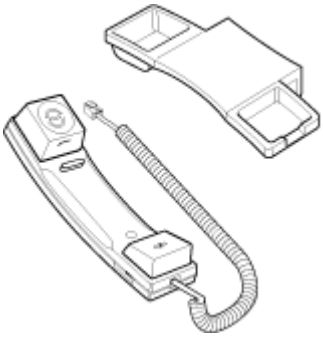
2段カセットペディスタル・CF10（給紙カセット 3、4）(P. 774)
ハンドセット・G2(P. 774)

2段カセットペディスタル・CF10（給紙カセット 3、4）



オプションの2段カセットペディスタルを取り付けると、本体標準の給紙カセットとは異なるサイズの用紙をセットできるので、用紙交換の手間を軽減できます。

ハンドセット・G2



本機に接続すると、通常の電話機と同じように電話をかけたり受けたりできるようになります。手動でファクス送受信するときにも使います。

ハンドセット・G2 の取り付け手順については、ハンドセット・G2 取付手順書（PDF）を参照してください。

マニュアルの種類と内容

23LX-0CU

本機では、次のマニュアルを提供しています。目的と用途に合わせてお使いください。

設置・基本操作マニュアル	はじめにこのマニュアルをお読みください。箱を開けて梱包材を取り外す作業から、本機を使用できる状態にするまでの設定を説明しています。
ネットワーク・遠隔監視サービス接続マニュアル	本機をネットワークに接続する方法や遠隔監視サービスについて説明しています。
オンラインマニュアル（本マニュアル）	ウェブブラウザーを使って閲覧するマニュアルで、本機のすべての機能を説明しています。使用目的から調べたり、キーワードを入力して目的のページを検索したりできます。 **オンラインマニュアルの使いかた(P. 776)**
ハンドセット・G2 取付手順書	オプションのハンドセット・G2 を取り付ける手順を説明しています。
２段カセットペディスタル CF10 設置手順書	オプションの２段カセットペディスタル CF10 の設置手順を説明しています。
消耗品交換一覧表	プリントヘッドの交換時と本機を輸送するときに必要な消耗品の数量を記載しています。

オンラインマニュアルの使いかた

23LX-0CW

オンラインマニュアルはパソコンやモバイル機器で見るマニュアルで、本機のすべての機能が掲載されています。使用目的から調べることもでき、キーワードを入力して目的のページをすばやく検索することもできます。ここでは、オンラインマニュアルの画面構成や読みかたについて説明します。また、オンラインマニュアルの表示を設定することもできます。

■オンラインマニュアルの画面構成

オンラインマニュアルを構成する画面や配置されているボタンなどの使いかたについて説明します。 **オンラインマニュアルの画面構成(P. 777)**

■オンラインマニュアルの読みかた

オンラインマニュアルで使われているマークの意味や、操作パネル上のキーやパソコン画面上のボタンをどのように表記しているかなど、オンラインマニュアルをお読みになるうえで知っておいていただきたいことがらについて説明します。 **オンラインマニュアルの読みかた(P. 781)**

■オンラインマニュアルの表示を設定する

オンラインマニュアルの文字サイズを変更したり、オンラインマニュアルを表示する機器に合わせた画面レイアウトに切り替えたりすることができます。

MEMO

- PDF 形式のマニュアルを見るとき、Adobe Reader が使用できない場合は、Vivid Document Imaging Technologies 社製の PDF Preview などをお使いください。

探したい内容を見つける

もくじから探す

- 画面左に配置されている「もくじ」から項目を選ぶことで目的のページを探します。

検索して探す

- 「印刷設定」、「インクタンク」のようなキーワードを入力して検索すると、それを含むページが候補として表示されますので、その中から目的のページを探します。「ネットワークに接続」のような文章をキーワードとすることもできます。また、複数のキーワードをスペース（空白）で区切る AND 検索にも対応しています。検索画面の内容や操作方法については、 **検索(P. 779)** を参照してください。

オンラインマニュアルの画面構成

23LX-0CX

オンラインマニュアルはいくつかの画面に分かれていて、それぞれ内容が異なります。

トップページ

オンラインマニュアルを起動すると最初に表示されるページです。

a ＋／－

＋をクリックすると、章の下にある項目もすべて表示されます。－をクリックすると元の表示に戻ります。

b ☰／🔍

クリックすると、もくじと検索の表示を切り替えることができます。もくじ表示中に☰、検索表示中に🔍を連続してクリックすると、表示／非表示が切り替わります。

c ⚙

文字サイズやレイアウトなど、オンラインマニュアルの表示方法を設定できます。

d ?

オンラインマニュアルの見かたや検索のしかたなどが記載されています。

e ＜／＞

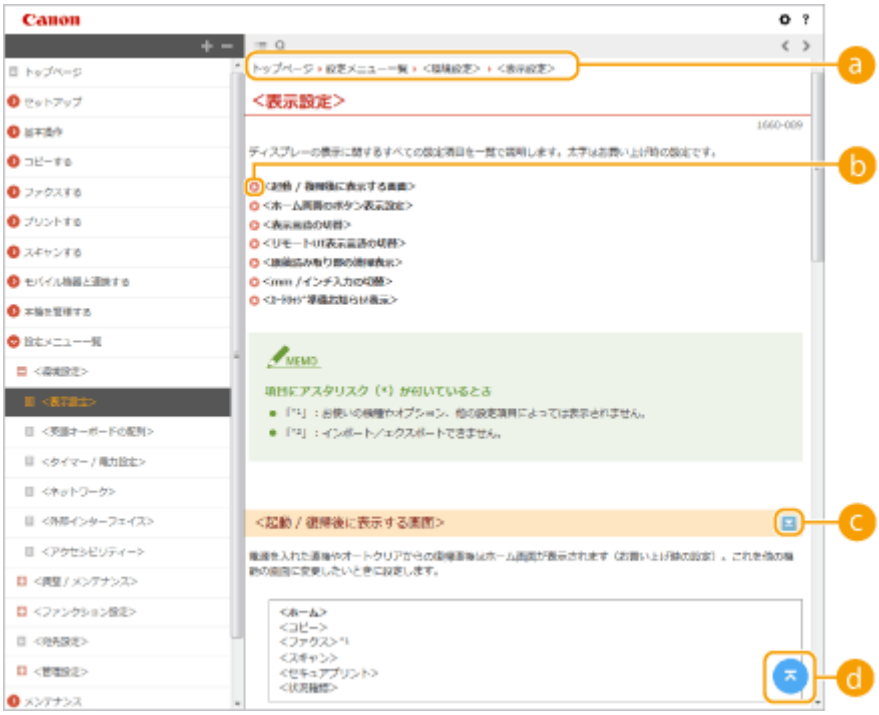
クリックすると、前後のページを表示します。

f ［おことわり］

本機の使用にあたり、注意していただきたいことが記載されています。

本文ページ

機能の使いかたや設定方法が説明されています。



a ナビゲーション

どの章のどの項目を見ているのかを確認することができます。

b

クリックすると、該当するページにジャンプします。元に戻るときはウェブブラウザーの［戻る］ボタンをクリックします。

MEMO

- クリックすると元のページが暗くなり、別の画面がポップアップで表示される場合があります。この画面から元のページに戻るときは、画面内の［閉じる］ボタンを押してください。

c ／

をクリックすると、隠れていた詳細説明が表示されます。 をクリックすると表示が閉じます。

d

現在表示しているページの先頭に戻ります。

検索

をクリックすると検索画面が表示されます。キーワード検索を利用して目的のページを探すときに使います。

a **［キーワードを入力］**

キーワードを入力して をクリックすると、検索結果が表示されます。複数のキーワードをスペース（空白）で区切ると、すべてのキーワードを含むページが検索できます。また、キーワードをダブルクォーテーションで囲むと完全に一致するページのみを検索できます。

b **検索結果**

指定したキーワードを含むすべてのページが表示されますので、この中から目的のページを探し、項目名をクリックします。

MEMO

- 指定したキーワードは、検索結果に太字で表示されます。

オンラインマニュアルの読みかた

23LX-0CY

オンラインマニュアルで使われるマークやボタン、画面などについて説明します。なお、警告事項や注意事項については、本製品に同梱されている「設置・基本操作マニュアル」の「安全にお使いいただくために」にも掲載されています。あわせてご確認ください。

マークについて

安全上のご注意、取り扱い上の制限／注意、知っておくと便利なこと、などにはマークがついています。

製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止することを示しています。指示内容をよく読み、禁止されている事項は絶対に行わないでください。

操作上、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。誤った操作によるトラブルや故障、物的損害を防ぐために、必ずお読みください。

操作の参考となることや補足説明が書かれています。

知っておくと便利な機能や、使いかたのヒントなどを記載しています。

キーについて

操作パネル上のキーやパソコン画面上のボタンなどを次のように表記しています。

種類	オンラインマニュアルでの表記例
操作パネル上のキー	
操作パネル上のディスプレー	＜タイマー / 電力設定＞ ＜用紙がつまりました。＞
パソコン画面上のボタンなど	［詳細設定］

パソコンの画面について

オンラインマニュアルで使われている画面は特に断りがないかぎり WG7350F のものを掲載しています。お使いの機種や OS によっては、掲載している画面内容と一部異なる場合があります。また、ドライバーやソフトウェアはバージョンアップによって画面内容が変更されている場合があります。

イラストについて

オンラインマニュアルで使われているイラストは、特に断りがないかぎり WG7350F にオプション製品２段カセットペディスタル・CF10 が装着されているものを掲載しています。

Windows の基本操作

23LX-0E1

- プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)
- ［ネットワーク探索］を有効にする(P. 782)
- プリントサーバー内の共有プリンターの表示方法(P. 783)
- ［ソフトウェア/マニュアル セットアップ］画面の表示方法(P. 784)
- Windows のテストページの印刷方法(P. 784)
- プロセッサバージョンの確認方法(P. 785)
- コンピューター名の確認方法(P. 786)
- プリンターポートの確認方法(P. 787)
- 双方向通信の確認方法(P. 788)
- パソコンが接続している SSID を確認する(P. 789)
- Windows ストアアプリから印刷やファクス送信をするときは(P. 790)

MEMO

- お使いのパソコンによっては操作が異なる場合があります。

■ プリンターフォルダーの表示方法

Windows 7/Server 2008 R2
［スタート］▶［デバイスとプリンター］を選びます。

Windows Server 2012
画面の左下隅を右クリック▶［コントロールパネル］▶［デバイスとプリンターの表示］を選びます。

Windows 8.1/Server 2012 R2
［スタート］を右クリック▶［コントロールパネル］▶［デバイスとプリンターの表示］を選びます。

Windows 10
［⊞］▶［Windows システム ツール］▶［コントロールパネル］▶［ハードウェアとサウンド］▶［デバイスとプリンター］を選びます。

Windows Server 2008
［スタート］▶［コントロールパネル］▶［プリンタ］をダブルクリックします。

Windows Server 2016
［⊞］を右クリック▶［コントロールパネル］▶［ハードウェア］▶［デバイスとプリンター］を選びます。

■［ネットワーク探索］を有効にする

ネットワーク上のパソコンを確認するときは、［ネットワーク探索］を有効に設定してください。

Windows 7/Server 2008 R2
［スタート］▶［コントロールパネル］▶［ネットワークの状態とタスクの表示］▶［共有の詳細設定の変更］▶［ネットワーク探索］で［ネットワーク探索を有効にする］に設定します。

Windows Server 2012

画面の左下隅を右クリック ▶［コントロールパネル］▶［ネットワークの状態とタスクの表示］▶［共有の詳細設定の変更］▶［ネットワーク探索］で［ネットワーク探索を有効にする］に設定します。

Windows 8.1/Server 2012 R2
［スタート］を右クリック ▶［コントロールパネル］▶［ネットワークの状態とタスクの表示］▶［共有の詳細設定の変更］▶［ネットワーク探索］で［ネットワーク探索を有効にする］に設定します。

Windows 10
［⊞］▶［Windows システム ツール］▶［コントロールパネル］▶［ネットワークの状態とタスクの表示］▶［共有の詳細設定の変更］▶［ネットワーク探索］で［ネットワーク探索を有効にする］に設定します。

Windows Server 2008
［スタート］▶［コントロールパネル］を選ぶ ▶［ネットワークと共有センター］をダブルクリック ▶［ネットワーク探索］で［ネットワーク探索を有効にする］に設定します。

Windows Server 2016
［⊞］を右クリック ▶［コントロールパネル］▶［ネットワークの状態とタスクの表示］▶［共有の詳細設定の変更］▶［ネットワーク探索］で［ネットワーク探索を有効にする］に設定します。

■プリントサーバー内の共有プリンターの表示方法

1 エクスプローラーを表示する

Windows 7/Server 2008
［スタート］▶［すべてのプログラム］または［プログラム］▶［アクセサリ］▶［エクスプローラ］を選びます。

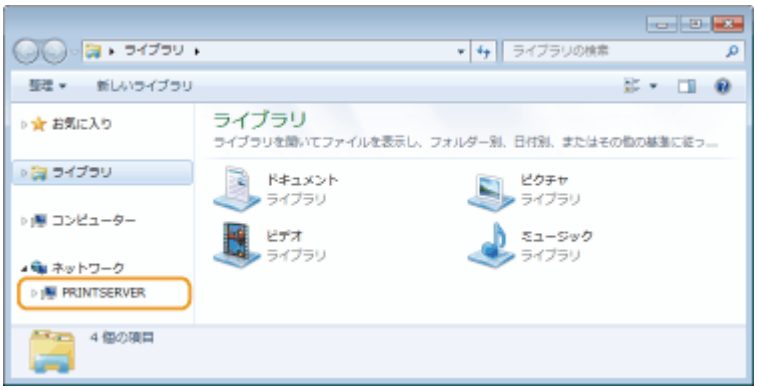
Windows Server 2012
画面の左下隅を右クリック ▶［エクスプローラー］を選びます。

Windows 8.1/Server 2012 R2
［スタート］を右クリック ▶［エクスプローラー］を選びます。

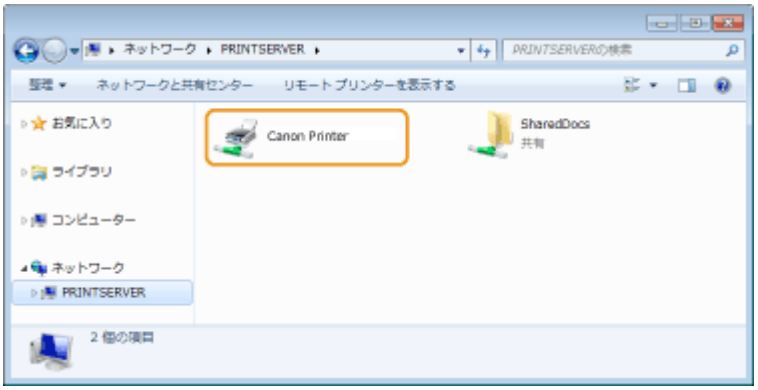
Windows 10/Server 2016
［⊞］を右クリック ▶［エクスプローラー］を選びます。

2 ［ネットワーク］または［マイネットワーク］からプリントサーバーを選ぶ

- ネットワーク上のパソコンを確認するには、ネットワーク探索を有効にしたり、ネットワーク上でパソコンを検索したりする必要がある場合があります。



➠ 共有プリンターが表示されます。



■［ソフトウェア/マニュアル セットアップ］画面の表示方法

CD-ROM をセットしても、［ソフトウェア/マニュアル セットアップ］画面が表示されないときは、次の操作を行ってください。ここでは CD-ROM ドライブ名を「D:」と表記しています。CD-ROM ドライブ名は、お使いのパソコンによって異なります。

Windows 7/Server 2008

［スタート］▶［プログラムとファイルの検索］または［検索の開始］に「D:\MInst.exe」と入力 ▶ キーボードの［ENTER］キーを押します。

Windows Server 2012

画面の左下隅を右クリック ▶［ファイル名を指定して実行］▶「D:\MInst.exe」と入力 ▶［OK］をクリックします。

Windows 8.1/Server 2012 R2

［スタート］を右クリック ▶［ファイル名を指定して実行］▶「D:\MInst.exe」と入力 ▶［OK］をクリックします。

Windows 10

検索ボックスに「D:\MInst.exe」と入力 ▶ 検索結果に表示された［D:\MInst.exe］をクリックします。

Windows Server 2016

［⊞］をクリック ▶「D:\MInst.exe」と入力 ▶ 検索結果に表示された［D:\MInst.exe］をクリックします。

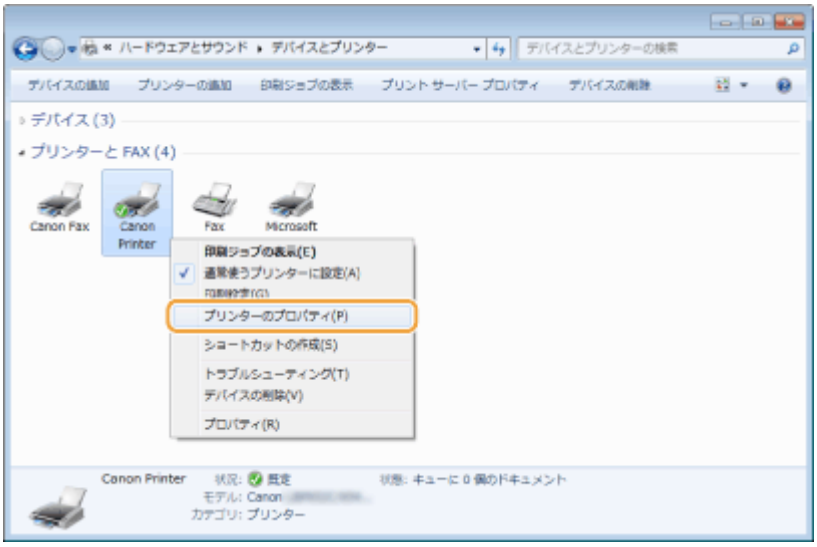
■Windows のテストページの印刷方法

Windows のテストページを印刷して、プリンタードライバーの動作を確認することができます。

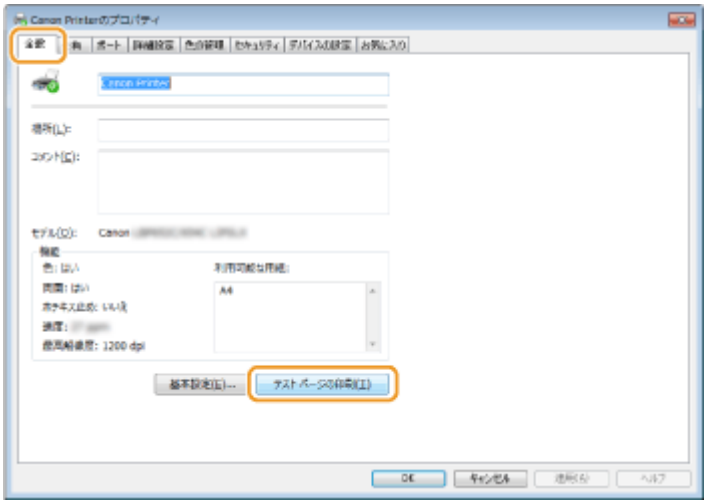
1 手差しトレイに、A4 サイズの用紙をセットする ▶手差しトレイに用紙をセットする(P. 142)

2 プリンターフォルダーを表示する ▶プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)

3 本機のプリンタードライバーのアイコンを右クリックし、［プリンターのプロパティ］または［プロパティ］をクリックする



4 ［全般］タブで［テストページの印刷］をクリックする



➠ テストページが印刷されます。

■ プロセッサバージョンの確認方法

お使いの Windows が、32 ビット版か 64 ビット版かわからない場合は、次の手順で確認することができます。

1 ［コントロールパネル］を表示する

Windows 7/Server 2008
［スタート］▶［コントロールパネル］を選びます。

Windows Server 2012
画面の左下隅を右クリック ▶［コントロールパネル］を選びます。

Windows 8.1/Server 2012 R2
［スタート］を右クリック ▶［コントロールパネル］を選びます。

Windows 10/Server 2016
手順 2 へ進んでください。

2 ［システム］を表示する

Windows 7/Server 2008 R2/Server 2012
［システムとメンテナンス］または［システムとセキュリティ］▶［システム］をクリックします。

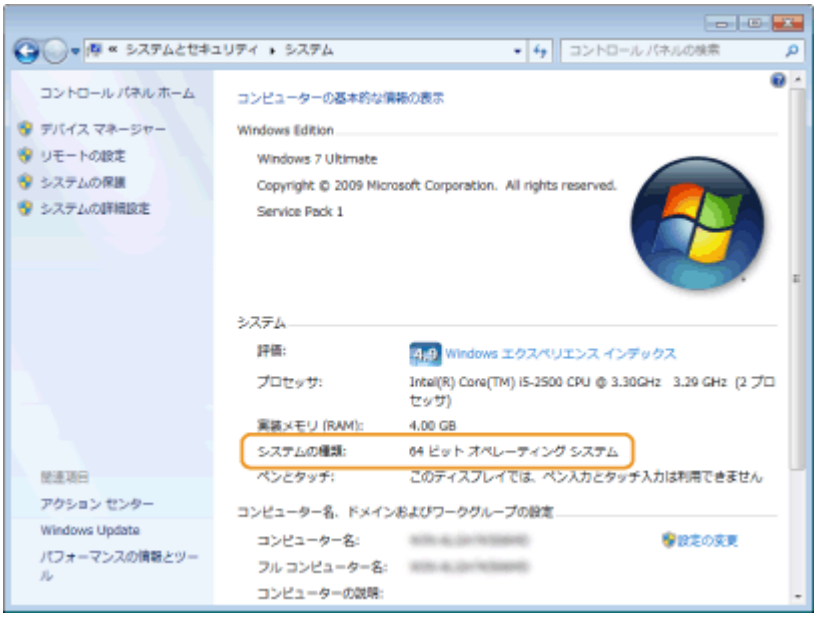
Windows 10/Server 2016
［⊞］▶［設定］▶［システム］▶［バージョン情報］を選びます。

Windows Server 2008
［システム］をダブルクリックします。

3 プロセッサバージョンを確認する

32 ビット版のとき
［32 ビットオペレーティングシステム］と表示されます。

64 ビット版のとき
［64 ビットオペレーティングシステム］と表示されます。



■コンピューター名の確認方法

1 ［コントロールパネル］を表示する

Windows 7/Server 2008
［スタート］▶［コントロールパネル］を選びます。

Windows Server 2012
画面の左下隅を右クリック▶［コントロールパネル］を選びます。

Windows 8.1/Server 2012 R2
［スタート］を右クリック▶［コントロールパネル］を選びます。

Windows 10
［⊞］をクリック▶［Windows システム ツール］▶［コントロールパネル］を選びます。

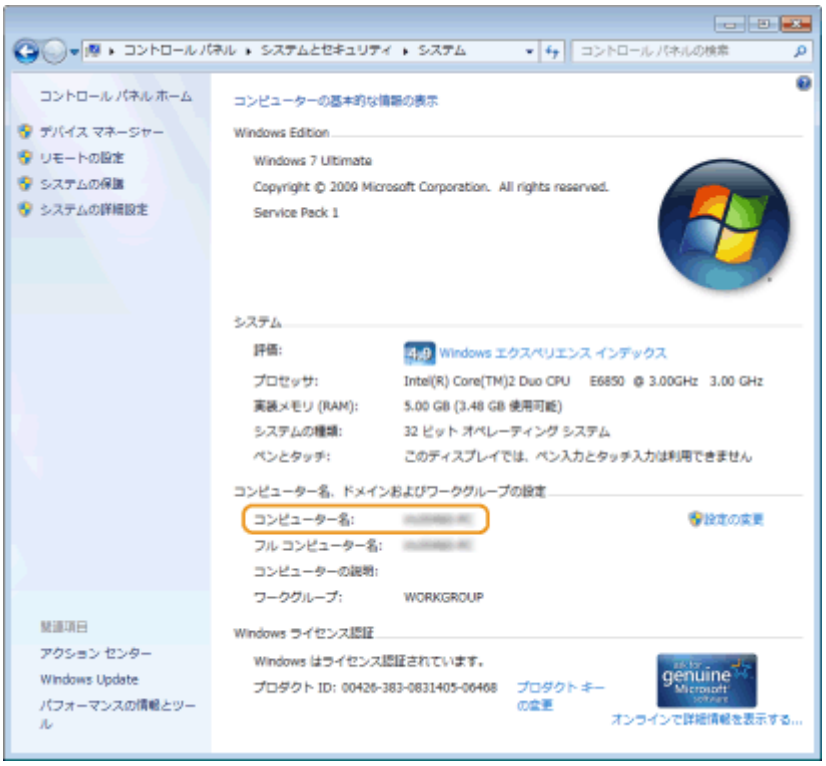
Windows Server 2016
［ ］を右クリック ▶［コントロールパネル］を選びます。

2 ［システム］を表示する

Windows 7/10/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2016
［システムとメンテナンス］または［システムとセキュリティ］▶［システム］をクリックします。

Windows Server 2008
［システム］をダブルクリックします。

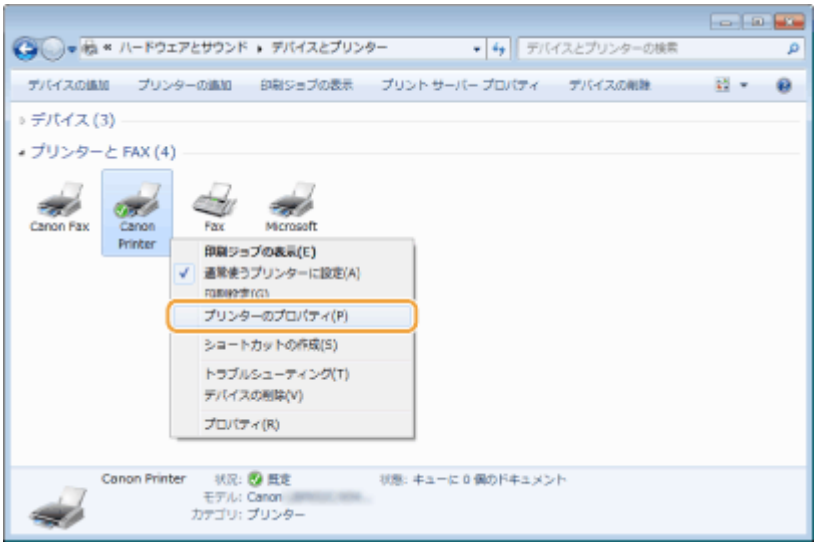
3 コンピューター名を確認する



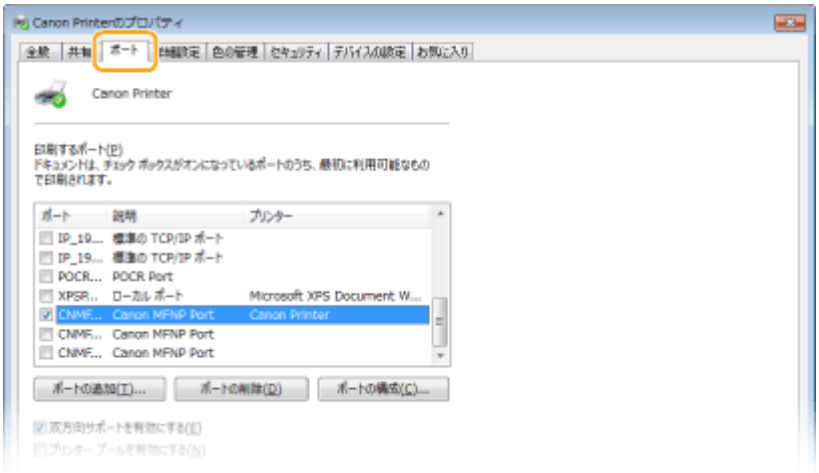
■プリンターポートの確認方法

1 プリンターフォルダーを開く ▶プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)

2 本機のプリンタードライバーのアイコンを右クリックし、［プリンターのプロパティ］または［プロパティ］をクリックする



3 ［ポート］タブでポートが正しく選択されていることを確認する



MEMO

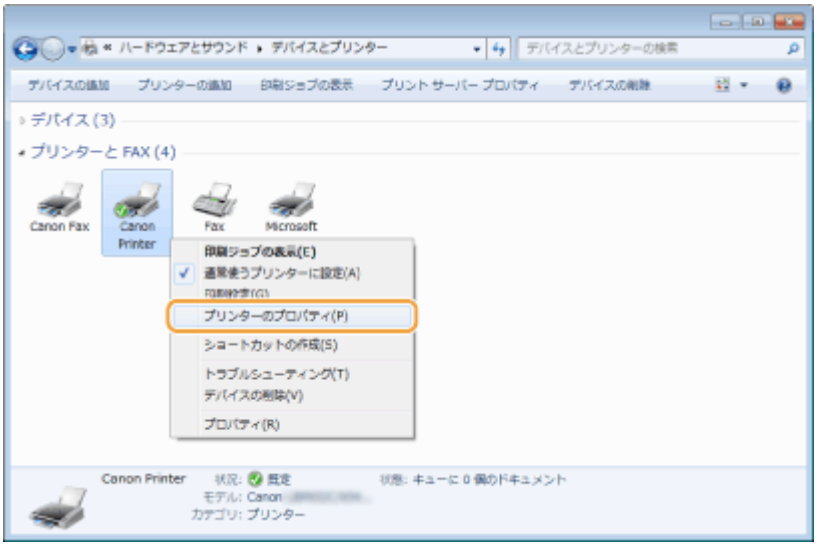
ネットワーク接続の場合に本機の IP アドレスを変更したとき

- 選択されているポートの［説明］が［Canon MFNP Port］の場合は、本機とパソコンが同一のサブネットにあれば接続は維持されますので、新しいポートを追加する必要はありません。［Standard TCP/IP Port］の場合は、新しいポートを追加する必要があります。 **印刷ポートの設定をする(P. 45)**

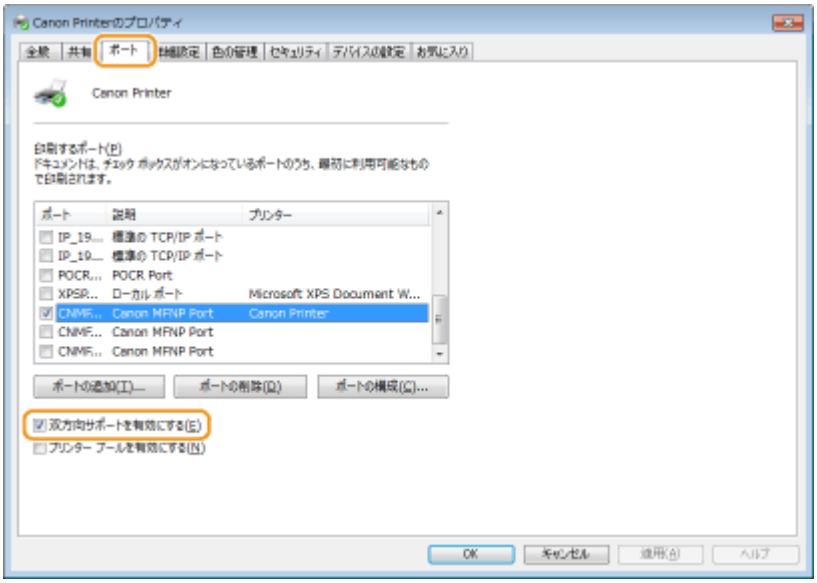
■双方向通信の確認方法

1 **プリンターフォルダーを表示する** **プリンターフォルダーの表示方法(P. 782)**

2 **本機のアイコンを右クリックし、［プリンターのプロパティ］または［プロパティ］をクリックする**



3 ［ポート］タブで［双方向サポートを有効にする］にチェックマークが付いていることを確認する



■パソコンが接続している SSID を確認する

パソコンが無線 LAN でネットワークに接続されている場合、タスクトレイに表示されている 、 、 、または を クリックすると、接続している無線 LAN ルーターの SSID が表示されます。

■Windows ストアアプリから印刷やファクス送信をするときは

Windows Server 2012

画面右側のチャームを表示 ▶ ［デバイス］ ▶ 本機のドライバー ▶ ［印刷］をタップまたはクリックします。

Windows 8.1/Server 2012 R2

画面右側のチャームを表示 ▶ ［デバイス］ ▶ ［印刷］ ▶ 本機のドライバー ▶ ［印刷］をタップまたはクリックします。

Windows 10

Windows ストアアプリの［印刷］ ▶ 本機のドライバー ▶ ［印刷］をタップまたはクリックします。

MEMO

- この方法で印刷またはファクス送信した場合は、使用できる機能は制限されます。
- 「印刷するには入力が必要です。デスクトップへ移動します。」というメッセージが表示されたときは、デスクトップに移動し、必要な操作を行ってください。メッセージは印刷時やファクス送信時などにユーザー名を確認するように設定している場合に表示されます。

おことわり

23LX-0E3

■IPv6 Ready Logo について

本製品搭載のプロトコルスタックは、IPv6 Forum が定める IPv6 Ready Logo Phase-2 を取得しています。

■免責事項

- 本書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- キヤノン株式会社は、ここに定める場合を除き、市場性、商品性、特定使用目的の適合性、または特許権の非侵害性に対する保証を含め、明示的または暗示的にかかわらず本書に関していかなる種類の保証を負うものではありません。キヤノン株式会社は、直接的、間接的、または結果的に生じたいかなる自然の損害、あるいは本書をご利用になったことにより生じたいかなる損害または費用についても、責任を負うものではありません。

■商標について

Adobe、Acrobat、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
Apple、Bonjour、iPad、iPhone、iPod touch、Mac、macOS、OS X および Safari は、Apple Inc.の商標です。
Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Word および Excel は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
iOS は、米国および他の国々で登録された Cisco の商標であり、ライセンスに基づいて使用しています。
Android は、Google Inc.の登録商標です。
「AOSS™」は株式会社バッファローの商標です。
らくらく無線スタートは NEC アクセステクニカ株式会社の登録商標です。
本製品には、Monotype Imaging, Inc.の認可のもと、Universal Font Scaling Technology または UFST®が含まれています。
UFST®は Monotype Imaging, Inc.の商標であり、米国特許商標庁の管轄で登録されているものです。
UFST: Copyright © 1989 - 1996, 1997, 2003, 2004, 2008, all rights reserved, by Monotype Imaging Inc.

Adobe、PostScript および PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ 社）の米国ならびに他の国における商標または商標登録です。

Copyright © 2007 -08 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

Protected by U.S. Patents 5,737,599; 5,781,785; 5,819,301; 5,929,866; 5,943,063; 6,073,148; 6,515,763; 6,639,593; 6,754,382; 7,046,403; 7,213,269; 7,242,415; Patents pending in the U.S. and other countries.

All instances of the name PostScript in the text are references to the PostScript language as defined by Adobe Systems Incorporated unless otherwise stated. The name PostScript also is used as a product trademark for Adobe Systems' implementation of the PostScript language interpreter.

Except as otherwise stated, any reference to a "PostScript printing device," "PostScript display device," or similar item refers to a printing device, display device or item (respectively) that contains PostScript technology created or licensed by Adobe Systems Incorporated and not to devices or items that purport to be merely compatible with the PostScript language.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, the PostScript logo, and PostScript 3 are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds. Microsoft and Windows are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

All other trademarks are the property of their respective owners.

PDF ロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ 社）の米国ならびに他の国における商標または商標登録です。

Copyright © 2008 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

Protected by U.S. Patents 6,185,684; 6,205,549; 7,213,269; 7,272,628; 7,278,168; Patents pending in the U.S. and other countries.

All instances of the name PostScript in the text are references to the PostScript language as defined by Adobe Systems Incorporated unless otherwise stated. The name PostScript also is used as a product trademark for Adobe Systems' implementation of the PostScript language interpreter.

Except as otherwise stated, any reference to a "PostScript printing device," "PostScript display device," or similar item refers to a printing device, display device or item (respectively) that contains PostScript technology created or licensed by Adobe Systems Incorporated and not to devices or items that purport to be merely compatible with the PostScript language.

Adobe, the Adobe logo, Adobe LiveCycle® Policy Server, PostScript, the PostScript Logo, and PostScript 3 are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

All other trademarks are the property of their respective owners.

その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

■著作権

本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。

ドライバー

ドライバー 795
Windows 796
macOS 797

ドライバー

23LX-0HW

プリンタードライバー、ファクスドライバー、スキャナードライバーのインストール手順や使い方について説明しているマニュアルを提供しています。ご使用の OS に合わせてリンクをクリックし、目的に応じてお使いください。

Windows(P. 796)
macOS(P. 797)

Windows

23LX-0HX

Windows 用のプリンタードライバー、ファクスドライバー、スキャナードライバーのインストール手順や使い方について説明しているマニュアルを提供しています。用途に合わせてリンクをクリックし、該当するマニュアルを参照してください。

プリンタードライバー(P. 796)
ファクスドライバー(P. 796)
スキャナードライバー(P. 796)

プリンタードライバー

■WG ドライバー

インストールガイド

■UFR II/LIPSLX プリンタードライバー

ユーザーズガイド

■UFRII/LIPSLX V4 プリンタードライバー

ユーザーズガイド

ファクスドライバー

ユーザーズガイド

スキャナードライバー

■ScanGear WG

ユーザーズガイド

■WG Scan Utility

ユーザーズガイド

macOS

23LX-0HY

macOS 用のプリンタードライバー、ファクスドライバー、スキャナードライバーのインストール手順や使い方について説明しているマニュアルを提供しています。用途に合わせてリンクをクリックし、該当するマニュアルを参照してください。

プリンタードライバー(P. 797)
ファクスドライバー(P. 797)
スキャナードライバー(P. 797)

プリンタードライバー

■ UFR II/UFRII LT/LIPSLX プリンタードライバー

ユーザーズガイド

ファクスドライバー

ユーザーズガイド

スキャナードライバー

■ ScanGear MF

ユーザーズガイド

This Font Software is licensed under the SIL Open Font License, Version 1.1.

This license is copied below, and is also available with a FAQ at: http://scripts.sil.org/OFL

SIL OPEN FONT LICENSE Version 1.1 - 26 February 2007

PREAMBLE
The goals of the Open Font License (OFL) are to stimulate worldwide development of collaborative font projects, to support the font creation efforts of academic and linguistic communities, and to provide a free and open framework in which fonts may be shared and improved in partnership with others.

The OFL allows the licensed fonts to be used, studied, modified and redistributed freely as long as they are not sold by themselves. The fonts, including any derivative works, can be bundled, embedded, redistributed and/or sold with any software provided that any reserved names are not used by derivative works. The fonts and derivatives, however, cannot be released under any other type of license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the fonts or their derivatives.

DEFINITIONS
"Font Software" refers to the set of files released by the Copyright Holder(s) under this license and clearly marked as such. This may include source files, build scripts and documentation.

"Reserved Font Name" refers to any names specified as such after the copyright statement(s).

"Original Version" refers to the collection of Font Software components as distributed by the Copyright Holder(s).

"Modified Version" refers to any derivative made by adding to, deleting, or substituting -- in part or in whole -- any of the components of the Original Version, by changing formats or by porting the Font Software to a new environment.

"Author" refers to any designer, engineer, programmer, technical writer or other person who contributed to the Font Software.

PERMISSION & CONDITIONS
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Font Software, to use, study, copy, merge, embed, modify, redistribute, and sell modified and unmodified copies of the Font Software, subject to the following conditions:

1) Neither the Font Software nor any of its individual components, in Original or Modified Versions, may be sold by itself.

2) Original or Modified Versions of the Font Software may be bundled, redistributed and/or sold with any software, provided that each copy contains the above copyright notice and this license. These can be included either as stand-alone text files, human-readable headers or in the appropriate machine-readable metadata fields within text or binary files as long as those fields can be easily viewed by the user.

3) No Modified Version of the Font Software may use the Reserved Font Name(s) unless explicit written permission is granted by the corresponding Copyright Holder. This restriction only applies to the primary font name as presented to the users.

4) The name(s) of the Copyright Holder(s) or the Author(s) of the Font Software shall not be used to promote, endorse or advertise any Modified Version, except to acknowledge the contribution(s) of the Copyright Holder(s) and the Author(s) or with their explicit written permission.

5) The Font Software, modified or unmodified, in part or in whole, must be distributed entirely under this license, and must not be distributed under any other license. The requirement for fonts to remain under this license does not apply to any document created using the Font Software.

TERMINATION
This license becomes null and void if any of the above conditions are not met.

DISCLAIMER
THE FONT SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF COPYRIGHT, PATENT, TRADEMARK, OR OTHER RIGHT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INDIRECT, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE FONT SOFTWARE OR FROM OTHER DEALINGS IN THE FONT SOFTWARE.

第三者のサービスについて

お客様が、本製品を通じて、第三者のサービスを利用する場合、以下の条件が適用されます。
お客様が「許諾ソフトウェア」を通じて、第三者のコンテンツ (テキスト、画像、映像、音声、ソフトウェアを含みますが、これらに限定されません。) にアクセスし、および / または第三者のコンテンツを取得する場合、かかるコンテンツの所有者または適用される法律によって明示的に許可される場合を除き、以下の行為が禁止されます。

- データ抽出、データベース作成などの方法でそのコンテンツの永続的なコピーを作成すること、およびキャッシュされたコピーをキャッシュ ヘッダーで許可された期間よりも長く保持すること。
- 複製、翻訳、変更、派生物の作成、販売、リース、貸与、伝達、配布、公開展示、または第三者へのサブライセンスを行うこと。
- 出典または所有者を偽ること。
- 著作権、商標、またはその他の財産権の表示を削除、隠ぺい、または変更すること、および作者の表示、法的通知、またはその他の素材の出所または出典についての表示を偽造または削除すること

別途固有のライセンス条件が用意されている第三者のソフトウェアについて

第三者のソフトウェアおよびライセンス条件につきましては、下記「ソフトウェア一覧表」および対応するライセンス全文をご参照ください。

「ソフトウェア一覧表」

ソフトウェア	ライセンス全文 (許諾条件) 参照先: ページ
Adobe PDF Scan Library	3
Adobe PostScript 3	6
expat	13
HarfBuzz 2012-07-30	14
libjingle	15
Lua	16
LuaSocket	17
MD4	18
Net-SNMP	19
OpenSSL	27

Adobe PDF Scan Library

Portions use software under the following terms:

This product contains either BSAFE and/or TIPEM software by RSA Security Inc.

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).
Copyright (c) 1998-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The end-user documentation included with the redistribution, if any, must include the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/)."

Alternately, this acknowledgment may appear in the software itself, if and wherever such third-party acknowledgments normally appear.

4. The names "Xerces" and "Apache Software Foundation" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact apache@apache.org.
5. Products derived from this software may not be called "Apache", nor may "Apache" appear in their name, without prior written permission of the Apache Software Foundation.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This software consists of voluntary contributions made by many individuals on behalf of the Apache Software Foundation and was originally based on software copyright (c) 1999, International Business Machines, Inc., http://www.ibm.com. For more information on the Apache Software Foundation, please see <http://www.apache.org/>.

March 27, 2003

Portions of this product are based on Modifications created from the Original Code known as the "Sablotron XSLT Processor". The Sablotron XSLT Processor is subject to the Mozilla Public License Version 1.1 (the "License"). You may obtain a copy of
the License at http://www.mozilla.org/MPL/

Software distributed under the License is distributed on an "AS IS" basis, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing rights and limitations under the License.

The Original Code is the Sablotron XSLT Processor.

The Initial Developer of the Original Code is Ginger Alliance Ltd. Portions created by Ginger Alliance are Copyright (C) 2000 Ginger Alliance Ltd. All Rights Reserved.

Pursuant to sections 3.2 and 3.6 of the License, the Modifications created by Adobe Systems Incorporated are available as Source Code. The Modifications may be downloaded via the Internet from:

http://partners.adobe.com/asn/tech/xml/sablotron/index.jsp

The Original Code may be downloaded via the Internet from:

https://sourceforge.net/projects/sablotron/

Portions Copyright (c) 1997-1999 Silicon Graphics Computer Systems, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. Silicon Graphics makes no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

The Loki Library

Portions Copyright (c) 2001 by Andrei Alexandrescu . This code accompanies the book: Alexandrescu, Andrei. "Modern C++ Design: Generic Programming and Design Patterns Applied".

Portions Copyright (c) 2001. Addison-Wesley. Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. The author or Addison-Wesley Longman make no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Updated Information/Additional Third Party Code Information available at http://www.adobe.com/go/thirdparty .

Adobe PostScript 3

Copyright 2007-2008 Adobe Systems Incorporated and its licensors. All rights reserved.

Portions include software under the following terms:

This product contains either BSAFE and/or TIPEM software by RSA Security Inc.

Portions of Pool.c_Copyright 1987 - NeXT, Inc., and portions of Graphics.c_Copyright 1988 NeXT, Inc. as an unpublished work. All Rights Reserved.

The Apache Software License, Version 1.1
This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).
Portions Copyright (c) 1998-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The end-user documentation included with the redistribution, if any, must include the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/)."

Alternately, this acknowledgment may appear in the software itself, if and wherever such third-party acknowledgments normally appear.
4. The names "Xerces" and "Apache Software Foundation" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact apache@apache.org.
5. Products derived from this software may not be called "Apache", nor may "Apache" appear in their name, without prior written permission of the Apache Software Foundation.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO,

PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This software consists of voluntary contributions made by many individuals on behalf of the Apache Software Foundation and was originally based on software copyright (c) 1999, International Business Machines, Inc., http://www.ibm.com. For more information on the Apache Software Foundation, please see <http://www.apache.org/>.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
Portions Copyright (c) 1990 The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions Copyright (c) 1985, 1986 The Regents of the University of California. All rights reserved.

This code is derived from software contributed to Berkeley by James A. Woods, derived from original work by Spencer Thomas and Joseph Orost.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials, and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by the University of California, Berkeley. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS'' AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTIBILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Portions Copyright (c) 1993 X Consortium

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS ORIMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY,FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THEX CONSORTIUM BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER INAN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR INCONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of the X Consortium shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization from the X Consortium.

NOTICE REGARDING SABLOTRON

March 27, 2003

Portions of this product are based on Modifications created from the Original Code known as the "Sablotron XSLT Processor". The Sablotron XSLT Processor is subject to the Mozilla Public License Version 1.1 (the "License"). You may obtain a copy of
the License at http://www.mozilla.org/MPL/

Software distributed under the License is distributed on an "AS IS" basis, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing rights and limitations under the License.

The Original Code is the Sablotron XSLT Processor.

The Initial Developer of the Original Code is Ginger Alliance Ltd. Portions created by Ginger Alliance are Copyright (C) 2000 Ginger Alliance Ltd. All Rights Reserved.

Pursuant to sections 3.2 and 3.6 of the License, the Modifications created by Adobe Systems Incorporated are available as Source Code. The Modifications may be downloaded via the Internet from:

http://partners.adobe.com/asn/tech/xml/sablotron/index.jsp

The Original Code may be downloaded via the Internet from:

https://sourceforge.net/projects/sablotron/

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
Portions Copyright (c) 1982, 1986, 1987, 1988, 1989, 1990, 1991, 1992, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote

products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions Copyright (c) 2001 by Andrei Alexandrescu. This code accompanies the book:
Alexandrescu, Andrei. "Modern C++ Design: Generic Programming and Design Patterns Applied". Copyright (c) 2001. Addison-Wesley.
Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. The author or Addison-Welsey Longman make no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Portions developed by the University of California, Berkeley.

Portions Copyright © 1991-2005 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in http://www.unicode.org/copyright.html.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear in all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,

EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners.

Adobe shall retain and reproduce, and require its Sublicensees to retain and reproduce JIM's following copyright notice within each copy of the licensed programs in any form, in whole or in part: "© 1981, 1990 JMI Consultants, Inc. All rights reserved."

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
Portions Copyright (c) 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.

This code is derived from software contributed to Berkeley by Chris Torek.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS

OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The Loki Library

Portions Copyright (c) 2001 by Andrei Alexandrescu // This code accompanies the book: Alexandrescu, Andrei. "Modern C++ Design: Generic Programming and Design Patterns Applied". Copyright (c) 2001. Addison-Wesley.

Permission to use, copy, modify, distribute and sell this software for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. The author or Addison-Wesley Longman make no representations about the suitability of this software for any purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty.

Updated Information/Additional Third Party Code Information available at http://www.adobe.com/go/thirdparty .

---

expat

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd
and Clark Cooper
Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

HarfBuzz 2012-07-30

Copyright (C) 2006 Behdad Esfahbod
Copyright (C) 1998-2004 David Turner and Werner Lemberg
Copyright (C) 2008 Nokia Corporation and/or its subsidiary(-ies)
Copyright (C) 2004,2007 Red Hat, Inc.

Permission is hereby granted, without written agreement and without license or royalty fees, to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose, provided that the above copyright notice and the following two paragraphs appear in all copies of this software.

IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE TO ANY PARTY FOR DIRECT, INDIRECT, SPECIAL, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE AND ITS DOCUMENTATION, EVEN IF THE COPYRIGHT HOLDER HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

THE COPYRIGHT HOLDER SPECIFICALLY DISCLAIMS ANY WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE SOFTWARE PROVIDED HEREUNDER IS ON AN "AS IS" BASIS, AND THE COPYRIGHT HOLDER HAS NO OBLIGATION TO PROVIDE MAINTENANCE, SUPPORT, UPDATES, ENHANCEMENTS, OR MODIFICATIONS.

libjingle

Copyright 2004--2007, Google Inc.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Lua

Copyright © 1994–2014 Lua.org, PUC-Rio.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

LuaSocket

LuaSocket 2.0.2 license
Copyright © 2004-2007 Diego Nehab

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

MD4

"RSA Data Security, Inc. MD4 Message-Digest Algorithm"

Net-SNMP

Various copyrights apply to this package, listed in various separate parts below. Please make sure that you read all the parts.

---- Part 1: CMU/UCD copyright notice: (BSD like) -----

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000
Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of CMU and The Regents of the University of California not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific written permission.

CMU AND THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA DISCLAIM ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL CMU OR THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

---- Part 2: Networks Associates Technology, Inc copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2001-2003, Networks Associates Technology, Inc
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of the Networks Associates Technology, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 3: Cambridge Broadband Ltd. copyright notice (BSD) -----

Portions of this code are copyright (c) 2001-2003, Cambridge Broadband Ltd.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* The name of Cambridge Broadband Ltd. may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 4: Sun Microsystems, Inc. copyright notice (BSD) -----

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Use is subject to license terms below.

This distribution may include materials developed by third parties.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo and Solaris are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice,

this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of the Sun Microsystems, Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 5: Sparta, Inc copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2003-2012, Sparta, Inc
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of Sparta, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 6: Cisco/BUPTNIC copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2004, Cisco, Inc and Information Network
Center of Beijing University of Posts and Telecommunications.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of Cisco, Inc, Beijing University of Posts and Telecommunications, nor the names of their contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS

IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 7: Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG, 2003
oss@fabasoft.com
Author: Bernhard Penz <bernhard.penz@fabasoft.com>

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* The name of Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG or any of its subsidiaries, brand or product names may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR

BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 8: Apple Inc. copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2007 Apple Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of Apple Inc. ("Apple") nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY APPLE AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL APPLE OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 9: ScienceLogic, LLC copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2009, ScienceLogic, LLC
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

* Neither the name of ScienceLogic, LLC nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

OpenSSL

OpenSSL License

```
/* ====================================================================
 * Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project.  All rights reserved.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:
 *
 * 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
 *    notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 *
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 *    notice, this list of conditions and the following disclaimer in
 *    the documentation and/or other materials provided with the
 *    distribution.
 *
 * 3. All advertising materials mentioning features or use of this
 *    software must display the following acknowledgment:
 *    "This product includes software developed by the OpenSSL Project
 *    for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
 *
 * 4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to
 *    endorse or promote products derived from this software without
 *    prior written permission. For written permission, please contact
 *    openssl-core@openssl.org.
 *
 * 5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL"
 *    nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written
 *    permission of the OpenSSL Project.
 *
 * 6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following
 *    acknowledgment:
 *    "This product includes software developed by the OpenSSL Project
 *    for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"
```

```
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY
 * EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
 * PURPOSE ARE DISCLAIMED.   IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
 * ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
 * SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
 * NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
 * LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
 * STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
 * ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
 * OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
 * ====================================================================
 *
 * This product includes cryptographic software written by Eric Young
 * (eay@cryptsoft.com).   This product includes software written by Tim
 * Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 *
 */

 Original SSLeay License
 -----------------------

/* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
 * All rights reserved.
 *
 * This package is an SSL implementation written
 * by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
 * The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.
 *
 * This library is free for commercial and non-commercial use as long as
 * the following conditions are aheared to.   The following conditions
 * apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA,
 * lhash, DES, etc., code; not just the SSL code.   The SSL documentation
 * included with this distribution is covered by the same copyright terms
 * except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 *
```

* Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in
* the code are not to be removed.
* If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution
* as the author of the parts of the library used.
* This can be in the form of a textual message at program startup or
* in documentation (online or textual) provided with the package.
*
* Redistribution and use in source and binary forms, with or without
* modification, are permitted provided that the following conditions
* are met:
* 1. Redistributions of source code must retain the copyright
* notice, this list of conditions and the following disclaimer.
* 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
* notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
* documentation and/or other materials provided with the distribution.
* 3. All advertising materials mentioning features or use of this software
* must display the following acknowledgement:
* "This product includes cryptographic software written by
* Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
* The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library
* being used are not cryptographic related :-).
* 4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
* the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
* "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"
*
* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND
* ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
* IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
* ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
* FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
* DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
* OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
* HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
* LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
* OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
* SUCH DAMAGE.
*
* The licence and distribution terms for any publically available version or

```
* derivative of this code cannot be changed.    i.e. this code cannot simply be
* copied and put under another distribution licence
* [including the GNU Public Licence.]
*/
```